茨城県教育財団文化財調査報告第140集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

木工台遺跡1

平成10年9月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

210.231
ki73
1
NK

茨城県教育財団文化財調査報告第140集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書 II

木工台(ぼっくだい)遺跡 1

平成10年9月

寄贈
歴史・人類学系
平成 年 月 日
00603040

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

上 木工台遺跡全景，下 第2号鍛冶工房跡

序

茨城県は，鹿行地域の総合的発展を目指して，東関東自動車道路の潮来～水戸間の延伸や，これを補完する国道や主要地方道等の幹線道路の整備を図っております。このため，この地域は，都市的開発の可能性が極めて高くなってきております。このような状況の中で，北浦複合団地整備推進事業が計画されたもので，その予定地内には木工台遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査事業についての委託契約を結び，平成８年10月から平成９年３月まで木工台遺跡の発掘調査を実施してまいりました。この調査によって貴重な遺構，遺物が検出され，北浦町の歴史を解明する上で多大の成果をあげることができました。

本書は，木工台遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育，文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県から多大なる御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，北浦町教育委員会，北浦町開発課をはじめ，関係各機関及び関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成10年９月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が，平成８年10月から平成９年３月まで発掘調査を実施した茨城県行方郡北浦町に所在する木工台遺跡の発掘調査報告書である。

なお，木工台遺跡の所在地は次のとおりである。

木工台遺跡　茨城県行方郡北浦町大字内宿字井戸作台1,508番地ほか

2　木工台遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		橋本　昌	平成７年４月～
副理事長		中島弘光	平成７年４月～
		齋藤佳郎	平成８年４月～平成10年３月
		川俣勝慶	平成10年４月～
常務理事		梅澤秀夫	平成８年４月～平成９年３月
		齋藤紀彦	平成９年４月～
事務局長		小林隆郎	平成８年４月～平成９年３月
		西村敏一	平成９年４月～
埋蔵文化財部長		沼田文夫	平成８年４月～
埋蔵文化財部長代理		河野佑司	平成６年４月～
企画管理課	課長	小幡弘明	平成８年４月～平成９年３月
	課長	河崎孝典	平成９年４月～平成10年３月
	課長	鈴木三郎	平成10年４月～
	課長代理	根本達夫	平成６年４月～
	課長代理	清水　薫	平成９年４月～平成10年３月(平成８年４月～平成９年３月係長)
	主任調査員	小高五十二	平成８年４月～平成10年３月
	主任調査員	池田晃一	平成10年４月～
	主事	川崎敦史	平成10年４月～
経理課	課長	河崎孝典	平成８年４月～平成９年３月
	課長	鈴木三郎	平成９年４月～平成10年３月
	課長	佐藤　健	平成10年４月～
	主査	田所多佳男	平成８年４月～
	課長代理	大高春夫	平成６年４月～平成９年３月
	課長代理	清水　薫	平成10年４月～
	主任	小池　孝	平成７年４月～平成10年３月
	主任	宮本　勉	平成９年４月～
	主任	木下光保	平成10年４月～
	主事	柳澤松雄	平成８年４月～平成９年３月
	主事	小西孝典	平成９年４月～平成10年３月

調査一課	課長(部長兼務)	沼田文夫	平成8年4月～
	調査第四班長	海老澤　稔	平成8年4月～平成9年3月
	主任調査員	黒澤秀雄	平成8年4月～平成9年3月調査
	主任調査員	茂木悦男	平成8年10月～平成9年3月調査
	主任調査員	平松孝志	平成8年4月～平成9年3月調査
	主任調査員	宮崎修士	平成8年10月～平成9年3月調査
整理課	課長	小泉光正	平成9年4月～平成10年3月
	課長	川井正一	平成10年4月～
	主任調査員	茂木悦男	平成9年7月～平成10年9月整理・執筆・編集

3　本書に使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　本書の作成に当たり，出土土器の編年について，財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社佐々木義則氏に御指導をいただいた。

5　木工台遺跡出土の鉄器及び鉄滓の金属学的分析については岩手県立博物館，パリノ・サーヴェイ株式会社に，炭化材分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。分析結果は付章として報告する。

6　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

7　遺跡の概略

ふりがな	きたうらふくごうだんち ぞうせいじぎょうちない まいぞうぶんかざい ちょうさほうこくしょ						
書名	北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書						
副書名	木工台遺跡1						
巻次	Ⅱ						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第140集						
編著者名	茂木悦男						
編集機関	財団法人　茨城県教育財団						
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL029(225)6587						
発行機関	財団法人　茨城県教育財団						
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL029(225)6587						
発行年月日	1998（平成10）年9月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ぼっくだい 木工台遺跡	いばらきけんなめかたぐんきたうらまち 茨城県行方郡北浦町 おおあざうちじくあざいどさくだい 大字内宿字井戸作台 ばんち 1,508番地ほか	08424 － 53	36度 06分 06秒	140度 30分 25秒	19961001～ 19970331	20,494㎡	北浦複合団地造成事業地内造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

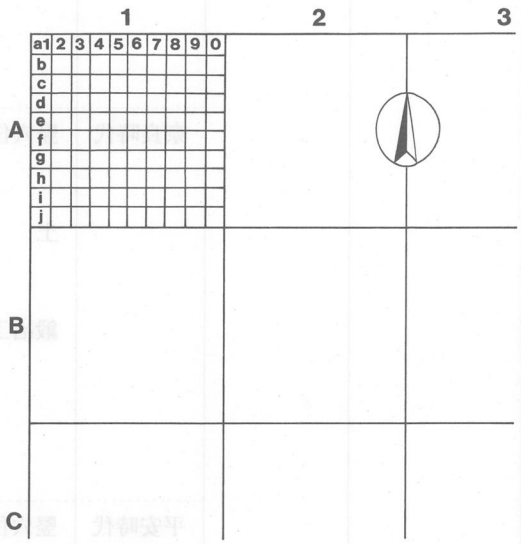
所収遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特　記　事　項
木工台遺跡	集　落　跡	古墳時代	竪穴住居跡　11軒 土　　坑　2基	土師器(坏・高坏・甕・壺) 須恵器(坏・坏蓋・甕) 土製品(土玉・紡錘車・支脚) 石製品(紡錘車・砥石) 鉄鎌・鉄滓	古墳時代から平安時代にかけての集落跡。鉄滓等が多量に出土し，かなり長期にわたって使われたであろう鍛冶工房跡も2軒検出されている。
		奈良時代	竪穴住居跡　45軒 土　　坑　2基 鍛冶工房跡　1基	土師器(坏・高坏・甕・壺) 須恵器(坏・坏蓋・甕) 土製品(土玉・管状土錘・支脚・紡錘車) 砥石 鉄製品(鎌・釘・鏃・刀子) 鉄滓 銅製品(帯金具)	
		平安時代	竪穴住居跡　44軒 土　　坑　6基 鍛冶工房跡　1基	土師器(坏・高坏・甕・壺・羽釜) 須恵器(坏・坏蓋・甕) 土製品(土玉・管状土錘・紡錘車・支脚・羽口) 石製品(紡錘車・砥石・金床石) 鉄製品(鎌，刀子・釘・鏃・鉄鋌・鑿)，鉄滓 銅製品(帯金具)，灰釉陶器	
		時期不明	竪穴住居跡　6軒 掘立柱建物跡　1棟 溝　30条 土　　坑　148基	土師器(坏・高坏・甕・壺)，須恵器(坏・坏蓋・甕) 砥石 鉄鎌，鉄滓	

凡　　例

1　遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し，木工台遺跡はＸ軸＝11,560m，Ｙ軸＝60,400mの交点を基準点とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，その組み合わせで「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに，小調査区も同様に北から南へａ，ｂ，ｃ…ｊ，西から東へ１，２，３…０と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠し，「A1a1区」，「B2b2区」のように呼称した。（第１図）



第１図　調査区呼称方法概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　　住居跡－ＳＩ　掘立柱建物跡－ＳＢ　堀・溝－ＳＤ　土坑－ＳＫ　その他－ＳＸ

遺物　　土器－Ｐ　土製品－ＤＰ　石器・石製品－Ｑ　金属製品－Ｍ　拓本土器－ＴＰ

土層　　撹乱－Ｋ

3　遺構及び遺物の実測図中の表示

＝焼土・赤彩　＝炉・竈　＝粘土　＝黒色処理

●＝土器　○＝土製品　□＝石器・石製品　△＝金属製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，以下のとおりである。

(1)　遺跡全体図は縮尺500分の１とし，各遺構の実測図は，60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は，原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3)　「主軸方向」は，炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　Ｎ－10°－Ｅ，Ｎ－10°－Ｗ）

なお，現存値は（　）で，推定値は〔　〕を付して示した。

(4)　土器の計測値は，Ａ－口径　Ｂ－器高　Ｃ－底径　Ｄ－高台（脚）径　Ｅ－高台（脚）高　Ｆ－つまみ径　Ｇ－つまみ高とし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は〔　〕を付して示した。

(5)　遺物観察表の備考の欄は，土器の残存率，実測（Ｐ）番号，出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目　　次

序
例　言
凡　例
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　木工台遺跡 …… 7
　第１節　遺跡の概要 …… 7
　第２節　基本層序 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 9
　　1　竪穴住居跡 …… 9
　　2　掘立柱建物跡 …… 318
　　3　溝 …… 320
　　4　土坑 …… 327
　　5　鍛冶工房跡 …… 346
　　6　遺構外出土遺物 …… 354
　第４節　まとめ …… 359
　付章 …… 363

挿　図　目　次

第１図　調査区呼称方法概念図
第２図　周辺遺跡分布図 …… 6
第３図　基本土層図 …… 7
第４図　木工台遺跡調査区設定図 …… 8
第５図　第１号住居跡実測図 …… 10
第６図　第１号住居跡出土遺物実測図 …… 11
第７図　第２号住居跡実測図 …… 13
第８図　第２号住居跡出土遺物実測図 …… 14
第９図　第３号住居跡実測図(1) …… 16
第10図　第３号住居跡実測図(2) …… 17
第11図　第３号住居跡出土遺物実測図 …… 18
第12図　第４号住居跡実測図 …… 19
第13図　第４号住居跡出土遺物実測図 …… 20
第14図　第５号住居跡実測図 …… 21
第15図　第５号住居跡出土遺物実測図 …… 23
第16図　第６号住居跡実測図 …… 25
第17図　第６号住居跡出土遺物実測図 …… 26
第18図　第７号住居跡実測図(1) …… 28
第19図　第７号住居跡実測図(2) …… 29
第20図　第７号住居跡出土遺物実測図(1) …… 30
第21図　第７号住居跡出土遺物実測図(2) …… 31
第22図　第８号住居跡実測図 …… 34

第23図　第８号住居跡出土遺物実測図 …… 36
第24図　第９号住居跡実測図(1) …… 38
第25図　第９号住居跡実測図(2) …… 39
第26図　第９号住居跡出土遺物実測図 …… 40
第27図　第10号住居跡・出土遺物実測図 …… 41
第28図　第11号住居跡実測図 …… 42
第29図　第11号住居跡出土遺物実測図 …… 42
第30図　第12号住居跡実測図 …… 44
第31図　第12号住居跡出土遺物実測図 …… 45
第32図　第13号住居跡実測図(1) …… 47
第33図　第13号住居跡実測図(2) …… 48
第34図　第13号住居跡出土遺物実測図 …… 49
第35図　第14号住居跡実測図 …… 52
第36図　第14号住居跡出土遺物実測図 …… 53
第37図　第15号住居跡実測図(1) …… 55
第38図　第15号住居跡実測図(2) …… 56
第39図　第15号住居跡出土遺物実測図 …… 57
第40図　第16号住居跡実測図 …… 59
第41図　第16号住居跡出土遺物実測図 …… 60
第42図　第17号住居跡実測図 …… 62
第43図　第17号住居跡出土遺物実測図 …… 63
第44図　第18号住居跡実測図 …… 65
第45図　第18号住居跡出土遺物実測図 …… 66
第46図　第19号住居跡実測図 …… 68
第47図　第19号住居跡出土遺物実測図 …… 69
第48図　第20号住居跡実測図 …… 71
第49図　第20号住居跡出土遺物実測図 …… 72
第50図　第21号住居跡実測図 …… 73
第51図　第21号住居跡出土遺物実測図(1) …… 74
第52図　第21号住居跡出土遺物実測図(2) …… 75
第53図　第22号住居跡実測図 …… 77
第54図　第22号住居跡出土遺物実測図 …… 78
第55図　第23号住居跡実測図 …… 80
第56図　第23号住居跡出土遺物実測図 …… 81
第57図　第24号住居跡実測図 …… 82
第58図　第24号住居跡出土遺物実測図 …… 84
第59図　第25号住居跡実測図 …… 85
第60図　第25号住居跡出土遺物実測図 …… 87
第61図　第26号住居跡実測図 …… 89
第62図　第26号住居跡出土遺物実測図 …… 90
第63図　第27号住居跡実測図 …… 92
第64図　第27号住居跡出土遺物実測図 …… 93
第65図　第28号住居跡実測図 …… 94
第66図　第28号住居跡出土遺物実測図 …… 95
第67図　第29号住居跡実測図 …… 96
第68図　第29号住居跡出土遺物実測図 …… 97
第69図　第30号住居跡実測図 …… 98
第70図　第30号住居跡出土遺物実測図 …… 99
第71図　第31号住居跡実測図 ……101
第72図　第31号住居跡出土遺物実測図 ……102
第73図　第32号住居跡実測図 ……103
第74図　第33号住居跡実測図 ……103
第75図　第34号住居跡実測図 ……105
第76図　第34号住居跡出土遺物実測図 ……106
第77図　第35号住居跡実測図 ……107
第78図　第35号住居跡出土遺物実測図 ……108
第79図　第36号住居跡実測図 ……110
第80図　第36号住居跡出土遺物実測図 ……111
第81図　第37号住居跡実測図 ……112
第82図　第37号住居跡出土遺物実測図 ……113
第83図　第38号住居跡実測図 ……115
第84図　第38号住居跡出土遺物実測図 ……116
第85図　第39号住居跡実測図 ……117
第86図　第39号住居跡出土遺物実測図 ……117
第87図　第40号住居跡実測図 ……118
第88図　第40号住居跡出土遺物実測図 ……119
第89図　第41号住居跡実測図(1) ……122
第90図　第41号住居跡実測図(2) ……123
第91図　第41号住居跡出土遺物実測図(1) ……124
第92図　第41号住居跡出土遺物実測図(2) ……125
第93図　第41号住居跡出土遺物実測図(3) ……126
第94図　第42号住居跡実測図 ……128
第95図　第42号住居跡出土遺物実測図 ……129
第96図　第43号住居跡実測図 ……130
第97図　第43号住居跡出土遺物実測図 ……131
第98図　第45号住居跡実測図 ……132
第99図　第45号住居跡出土遺物実測図 ……133
第100図　第46号住居跡実測図(1) ……134

第101図　第46号住居跡実測図(2) ……135
第102図　第46号住居跡出土遺物実測図 ……136
第103図　第47号住居跡実測図 ……138
第104図　第47号住居跡出土遺物実測図 ……140
第105図　第48号住居跡実測図 ……142
第106図　第48号住居跡出土遺物実測図 ……142
第107図　第49号住居跡実測図(1) ……144
第108図　第49号住居跡実測図(2) ……145
第109図　第49号住居跡出土遺物実測図(1) ……146
第110図　第49号住居跡出土遺物実測図(2) ……147
第111図　第50号住居跡実測図 ……148
第112図　第51・52号住居跡実測図 ……150
第113図　第52号住居跡出土遺物実測図 ……151
第114図　第53号住居跡実測図 ……152
第115図　第53号住居跡出土遺物実測図 ……153
第116図　第54・55号住居跡実測図(1) ……154
第117図　第54・55号住居跡実測図(2) ……155
第118図　第54号住居跡出土遺物実測図 ……157
第119図　第55号住居跡出土遺物実測図 ……159
第120図　第56号住居跡実測図 ……161
第121図　第56号住居跡出土遺物実測図 ……162
第122図　第57号住居跡実測図 ……163
第123図　第57号住居跡出土遺物実測図 ……165
第124図　第58号住居跡実測図 ……167
第125図　第58号住居跡出土遺物実測図 ……167
第126図　第59号住居跡実測図 ……169
第127図　第59号住居跡出土遺物実測図(1) ……171
第128図　第59号住居跡出土遺物実測図(2) ……172
第129図　第60号住居跡実測図 ……174
第130図　第60号住居跡出土遺物実測図 ……176
第131図　第61号住居跡実測図 ……177
第132図　第61号住居跡出土遺物実測図 ……178
第133図　第62号住居跡実測図 ……179
第134図　第62号住居跡出土遺物実測図 ……181
第135図　第63号住居跡実測図 ……182
第136図　第63号住居跡出土遺物実測図 ……183
第137図　第64号住居跡出土遺物実測図 ……184
第138図　第64号住居跡実測図 ……185
第139図　第65号住居跡実測図 ……186
第140図　第65号住居跡出土遺物実測図 ……187
第141図　第66号住居跡実測図 ……188
第142図　第66号住居跡出土遺物実測図 ……189
第143図　第67号住居跡実測図 ……191
第144図　第67号住居跡出土遺物実測図 ……192
第145図　第68号住居跡実測図 ……194
第146図　第68号住居跡出土遺物実測図 ……195
第147図　第69号住居跡実測図 ……197
第148図　第69号住居跡出土遺物実測図 ……197
第149図　第70号住居跡実測図 ……198
第150図　第70号住居跡出土遺物実測図 ……199
第151図　第71号住居跡実測図 ……201
第152図　第71号住居跡出土遺物実測図(1) ……202
第153図　第71号住居跡出土遺物実測図(2) ……203
第154図　第72号住居跡実測図 ……205
第155図　第72号住居跡出土遺物実測図 ……207
第156図　第73号住居跡実測図 ……208
第157図　第73号住居跡出土遺物実測図 ……209
第158図　第74号住居跡実測図 ……211
第159図　第74号住居跡出土遺物実測図 ……212
第160図　第75号住居跡実測図 ……213
第161図　第75号住居跡出土遺物実測図 ……214
第162図　第76号住居跡実測図 ……215
第163図　第76号住居跡出土遺物実測図 ……217
第164図　第77号住居跡実測図 ……219
第165図　第77号住居跡出土遺物実測図 ……221
第166図　第78号住居跡実測図(1) ……223
第167図　第78号住居跡実測図(2) ……224
第168図　第78号住居跡出土遺物実測図 ……225
第169図　第79号住居跡実測図 ……227
第170図　第79号住居跡出土遺物実測図 ……229
第171図　第80号住居跡実測図 ……231
第172図　第80号住居跡出土遺物実測図 ……232
第173図　第81号住居跡実測図 ……233
第174図　第81号住居跡出土遺物実測図 ……234
第175図　第82号住居跡実測図 ……235
第176図　第82号住居跡出土遺物実測図 ……237
第177図　第83号住居跡実測図 ……238
第178図　第83号住居跡出土遺物実測図 ……239

第179図　第84号住居跡実測図 ……241
第180図　第84号住居跡出土遺物実測図 ……242
第181図　第85号住居跡実測図 ……243
第182図　第85号住居跡出土遺物実測図 ……245
第183図　第86号住居跡実測図 ……247
第184図　第86号住居跡出土遺物実測図 ……248
第185図　第87号住居跡実測図 ……249
第186図　第87号住居跡出土遺物実測図(1) ……251
第187図　第87号住居跡出土遺物実測図(2) ……252
第188図　第88号住居跡実測図 ……254
第189図　第88号住居跡出土遺物実測図 ……255
第190図　第89号住居跡実測図 ……257
第191図　第89号住居跡出土遺物実測図 ……258
第192図　第90号住居跡実測図 ……259
第193図　第90号住居跡出土遺物実測図 ……259
第194図　第91号住居跡実測図 ……261
第195図　第91号住居跡出土遺物実測図 ……262
第196図　第92号住居跡実測図 ……265
第197図　第92号住居跡出土遺物実測図 ……267
第198図　第93号住居跡実測図 ……268
第199図　第93号住居跡出土遺物実測図 ……269
第200図　第94号住居跡実測図 ……269
第201図　第94号住居跡出土遺物実測図 ……270
第202図　第95号住居跡実測図(1) ……272
第203図　第95号住居跡実測図 ……273
第204図　第95号住居跡出土遺物実測図(1) ……274
第205図　第95号住居跡出土遺物実測図(2) ……275
第206図　第95号住居跡出土遺物実測図(3) ……276
第207図　第95号住居跡出土遺物実測図(4) ……277
第208図　第95号住居跡出土遺物実測図(5) ……278
第209図　第96号住居跡実測図 ……284
第210図　第96号住居跡出土遺物実測図 ……285
第211図　第97号住居跡実測図 ……286
第212図　第97号住居跡出土遺物実測図 ……287
第213図　第98号住居跡実測図 ……288
第214図　第98号住居跡出土遺物実測図 ……289
第215図　第99号住居跡実測図 ……290
第216図　第99号住居跡出土遺物実測図 ……291
第217図　第100号住居跡実測図(1) …… 292
第218図　第100号住居跡実測図(2) …… 293
第219図　第100号住居跡出土遺物実測図(1) …… 294
第220図　第100号住居跡出土遺物実測図(2) …… 295
第221図　第100号住居跡出土遺物実測図(3) …… 296
第222図　第101号住居跡実測図 …… 299
第223図　第101号住居跡出土遺物実測図 …… 301
第224図　第102号住居跡実測図 …… 303
第225図　第102号住居跡出土遺物実測図 …… 304
第226図　第103号住居跡実測図 …… 306
第227図　第103号住居跡出土遺物実測図 …… 307
第228図　第104号住居跡実測図 …… 309
第229図　第104号住居跡出土遺物実測図 …… 310
第230図　第105号住居跡実測図 …… 311
第231図　第105号住居跡出土遺物実測図 …… 311
第232図　第106号住居跡実測図 …… 313
第233図　第106号住居跡出土遺物実測図 …… 314
第234図　第107号住居跡実測図 …… 315
第235図　第107号住居跡出土遺物実測図 …… 315
第236図　第１号掘立柱建物跡実測図 ……319
第237図　第１号溝実測図 ……320
第238図　第4・5号溝実測図 ……321
第239図　第６号溝実測図 ……322
第240図　第９号溝・出土遺物実測図 ……322
第241図　第11号溝実測図 ……323
第242図　第14号溝実測図 ……323
第243図　第17・18号溝実測図 ……324
第244図　第24号溝実測図 ……324
第245図　第30号溝実測図 ……325
第246図　第31号溝・出土遺物実測図 ……325
第247図　第12号土坑・出土遺物実測図 ……327
第248図　第14号土坑・出土遺物実測図 ……328
第249図　第16号土坑・出土遺物実測図 ……329
第250図　第45号土坑・出土遺物実測図 ……330
第251図　第48号土坑・出土遺物実測図 ……331
第252図　第53号土坑・出土遺物実測図 ……332
第253図　第54号土坑実測図 ……333
第254図　第99号土坑・出土遺物実測図 ……334
第255図　第102号土坑・出土遺物実測図 …… 335
第256図　第132号土坑・出土遺物実測図 …… 335

第257図　第134号土坑・出土遺物実測図 …… 336
第258図　第135号土坑・出土遺物実測図 …… 337
第259図　第137号土坑・出土遺物実測図 …… 338
第260図　第140号土坑実測図 …… 338
第261図　第165号土坑実測図 …… 339
第262図　第166号土坑実測図 …… 340
第263図　第167号土坑実測図 …… 341
第264図　第168号土坑・出土遺物実測図 …… 342
第265図　第１号鍛冶工房跡実測図 ……347
第266図　第１号鍛冶工房跡鍛造剝片・粒状滓
出土分布図 ……348
第267図　第１号鍛冶工房跡
出土遺物実測図(1) ……350
第268図　第１号鍛冶工房跡
出土遺物実測図(2) ……351
第269図　第２号鍛冶工房跡実測図 ……353
第270図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図 ……353
第271図　遺構外出土遺物実測図(1) ……356
第272図　遺構外出土遺物実測図(2) ……357
付図　木工台遺跡全体図

表　目　次

表１　木工台遺跡周辺遺跡一覧表 …… 5
表２　木工台遺跡住居跡一覧表 ……316
表３　木工台遺跡溝一覧表 ……326
表４　木工台遺跡土坑一覧表 ……343
表５　鍛造剝片・粒状滓出土状況 ……348
表６　木工台遺跡鍛冶工房跡一覧表 ……354

写真図版目次

ＰＬ１　木工台遺跡遠景，北西部完掘状況
ＰＬ２　北西部遺構確認状況，第１号掘立柱建物跡遺構確認状況，東部完掘状況，中央部完掘状況，第１～３号住居跡，第１住居跡遺物出土状況
ＰＬ３　第３・８・９号住居跡遺物出土状況，第４・５号住居跡，第５～７号住居跡竈遺物出土状況，第６・14号住居跡，第７号住居跡，第８号住居跡
ＰＬ４　第９住居跡，第11・106号住居跡，第12号住居跡，第13号住居跡，第13号住居跡遺物出土状況，第14号住居跡，第14号住居跡竈遺物出土状況，第15・20・107号住居跡
ＰＬ５　第16号住居跡，第16号住居跡遺物出土状況，第17号住居跡，第18号住居跡，第19号住居跡，第20号住居跡，第21号住居跡，第21号住居跡遺物出土状況
ＰＬ６　第22号住居跡，第23号住居跡，第24号住居跡遺物出土状況，第25・27・28号住居跡，第27号住居跡竈遺物出土状況，第28号住居跡竈遺物出土状況，第26号住居跡・第163・164号土坑，第29号住居跡遺物出土状況
ＰＬ７　第30号住居跡，第31号住居跡，第32・48号住居跡，第33号住居跡，第34号住居跡，第34号住居跡竈遺物出土状況，第35号住居跡，第36号住居跡
ＰＬ８　第37号住居跡，第38号住居跡，第39号住居跡，第40号住居跡，第41号住居跡，第41号住居跡遺物出土状況，第42号住居跡，第42号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ９　第43号住居跡，第45号住居跡，第45号住居跡竈，第46号住居跡，第46号住居跡遺物出土状況，第47号住居跡，第47号住居跡遺物出土状況，第48号住居跡
ＰＬ10　第49号住居跡，第49号住居跡遺物出土状況，

第50号住居跡，第51号住居跡，第52号住居跡，第53号住居跡，第54号住居跡・第102号土坑，第54・55号住居跡

ＰＬ11　第56・85号住居跡，第56号住居跡竈遺物出土状況，第57号住居跡，第58・59・60号住居跡，第58号住居跡竈遺物出土状況，第59号住居跡竈Ｂ遺物出土状況，第61号住居跡，第62号住居跡

ＰＬ12　第63号住居跡，第64号住居跡遺物出土状況，第65号住居跡，第66号住居跡，第66号住居跡遺物出土状況，第67号住居跡，第67号住居跡竈土層断面，第68号住居跡

ＰＬ13　第69・70号住居跡，第69号住居跡竈遺物出土状況，第70号住居跡竈遺物出土状況，第71号住居跡，第71号住居跡遺物出土状況，第71号住居跡竈遺物出土状況，第72号住居跡，第72号住居跡遺物出土状況

ＰＬ14　第73号住居跡，第73号住居跡遺物出土状況，第74号住居跡遺物出土状況，第74号住居跡竈遺物出土状況，第75号住居跡，第76号住居跡，第77号住居跡，第77号住居跡竈

ＰＬ15　第78号住居跡，第78号住居跡遺物出土状況，第79号住居跡遺物出土状況，第79号住居跡竈遺物出土状況，第80号住居跡，第81号住居跡，第82号住居跡，第82号住居跡遺物出土状況

ＰＬ16　第83号住居跡，第83・84号住居跡，第86号住居跡，第87号住居跡，第87号住居跡遺物出土状況，第88号住居跡，第88号住居跡遺物出土状況，第89号住居跡

ＰＬ17　第90号住居跡遺物出土状況，第91号住居跡，第92号住居跡，第93号住居跡，第93号住居跡遺物出土状況，第94号住居跡，第95号住居跡，第95号住居跡遺物出土状況

ＰＬ18　第95号住居跡土玉出土状況，第96号住居跡，第97号住居跡，第98号住居跡，第99号住居跡，第100号住居跡，第101号住居跡，第102号住居跡

ＰＬ19　第103号住居跡，第103号住居跡遺物出土状況，第104号住居跡，第105号住居跡，第106号住居跡，第107号住居跡，第107号住居跡竈遺物出土状況，第１号掘立柱建物跡

ＰＬ20　第１・２・３号溝，第４・５・６・７・８号溝，第９号溝，第14号溝，第17・18号溝，第24号溝，第31号溝

ＰＬ21　第48号土坑遺物出土状況，第53号土坑遺物出土状況，第92・99号土坑遺物出土状況，第134号土坑遺物出土状況，第135号土坑遺物出土状況，第137・148号土坑，第140号土坑，第165号土坑

ＰＬ22　第１号鍛冶工房跡，第１号鍛冶工房跡遺物出土状況，第１号鍛冶工房跡炉，第２号鍛冶工房跡遺物出土状況，第２号鍛冶工房跡炉，第２号鍛冶工房跡炉遺物出土状況，

ＰＬ23　第１～３・５～７号住居跡出土遺物

ＰＬ24　第７～９・11・13・14号住居跡出土遺物

ＰＬ25　第14～19号住居跡出土遺物

ＰＬ26　第21・23・24号住居跡出土遺物

ＰＬ27　第24～26・28・30・31・35・36号住居跡出土遺物

ＰＬ28　第36～41号住居跡出土遺物

ＰＬ29　第46～48号住居跡出土遺物

ＰＬ30　第49・52・55・57～59号住居跡出土遺物

ＰＬ31　第60・62・63・66～68・70・71号住居跡出土遺物

ＰＬ32　第71～74・76～79号住居跡出土遺物

ＰＬ33　第82・85・87・88・91・92・95号住居跡出土遺物

ＰＬ34　第95・97・100・101・103・104号住居跡，第９号溝，第14号土坑出土遺物

ＰＬ35　第14・45・48号土坑，第１号鍛冶工房跡，遺構外出土土器

ＰＬ36　出土土製品（土玉）

ＰＬ37　出土土製品

ＰＬ38　出土土製品，石製品

ＰＬ39　出土石製品，鉄製品

ＰＬ40　出土鉄製品

ＰＬ41　出土金属製品

ＰＬ42　第１号鍛冶工房跡出土遺物

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

茨城県は，鹿行地域の総合的発展を目指して，東関東自動車道路の水戸～潮来間の延伸や，これを補完する国道や主要地方道路の整備を図っている。このため，この地域は，都市的開発の可能性が極めて高くなって来ている。このような状況の中で，北浦複合団地整備推進事業が計画された。

平成6年3月28日，茨城県は，茨城県教育委員会に対し，北浦複合団地整備推進事業予定地内の三和・内宿・成田及び長野江地区における埋蔵文化財の有無について照会した。茨城県教育委員会は，同年5月11・24日，6月23日に現地踏査，同年10月11～13日，平成7年1月24～26日に試掘調査を実施した。平成7年3月2日に茨城県教育委員会は，事業予定地内に，炭焼遺跡・三和貝塚・札場古墳群・成田古墳群・木工台遺跡・木工台古墳群・手配台遺跡及び内宿井戸作台城跡が所在することを，茨城県に回答した。

平成8年1月30日，茨城県と茨城県教育委員会は，成田古墳群（8,477㎡）・木工台遺跡（20,949㎡）の取り扱いについて，文化財保護の立場から慎重な協議を行った。同年2月5日，茨城県教育委員会は，茨城県に成田古墳群・木工台遺跡を現状保存をすることが困難であるため，記録保存の措置を講ずることとし，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成8年4月1日から成田古墳群，平成8年10月1日から木工台遺跡の発掘調査を実施することになった。

第2節　調査経過

木工台遺跡の発掘調査は，平成8年10月1日から平成9年3月31日までの6か月間で実施した。以下，調査経過についてその概要を記述する。

10月　遺跡東部に試掘トレンチを設定し，試掘調査を開始した。土師器や須恵器片等の遺物が出土した。

7日，遺跡西部より重機による表土除去を開始した。14日には遺構確認作業を開始し，竪穴住居跡，土坑，溝等を確認した。16日から，方眼杭打ち測量を実施した。

引き続き遺跡東部の重機による表土除去と，遺構確認作業を行った。その結果，住居跡106軒，土坑158基，溝30条を検出した。

28日から遺構調査を開始した。調査グループを2班に分け，1班は遺跡西部から東部へ，2班は遺跡東部から西部へと調査を進めることにした。遺構調査は住居跡，土坑から進めることにした。

11月　11日，第1号住居跡の遺物出土状況の写真撮影を行った。掘り込みが深く，掘り上げるのにかなりの時間を費やした。

26日，重機による表土除去を終了した。引き続き遺構確認作業と遺構調査を並行して行った。28日までに第1～12号，第51～63号までの住居跡，第1～17号，第101～116号までの土坑，第1～4号までの溝の調査を終了した。

鉄滓が多量に出土する地点があり，製鉄関連の遺構の可能性も考えられた。

12月　引き続き遺構調査を行った。第21・22号住居跡からは鉄滓のほか，釘と思われる鉄製品も出土した。

12日までに，第18～25号，第117～120号までの土坑，17日までに第13～25号，第64～75号までの住居跡の調査を終了した。

1月　5日から調査を再開した。14日，第36号住居跡の竈の完掘写真撮影を行った。遺存状態がよく，砂まじり粘土でしっかりと構築してあった。

30日までに，第26～37号，第76～85号までの住居跡，第26～32号，第121～132号までの土坑，第5～12号までの溝の調査を終了した。

2月　12日，「木工台遺跡出土土器の編年的位置づけ」について，ひたちなか市文化・スポーツ振興公社　佐々木義則氏を講師に招き班内研修会を実施した。

28日までに，第37～48号，第86～97号までの住居跡，第156～168号までの土坑，第13～30号までの溝，3基の製鉄関連と思われる遺構の調査を終了した。

3月　11日までに，第 98～107号までの住居跡の調査を終了した。12日，委託者に対しての報告会を実施した。13日，埋蔵文化財の啓蒙普及のため報道公開を行い，15日には，これまでの調査の成果をもとに現地説明会を開催した。多くの見学者が来跡した。18日，航空写真撮影を行った。

25日までに補足調査を完了し，安全対策を含め平成8年度予定の現地調査を終了した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

木工台遺跡は，茨城県行方郡北浦町大字内宿字井戸作台1,508番地ほかに所在している。

北浦町は，茨城県の南東部に位置し，北は鹿島郡鉾田町に，東は北浦をはさんで同郡大洋村に，南は行方郡麻生町に，西は同郡玉造町に隣接している。当町は，昭和30年に津澄村，要村及び武田村の3村が合併して北浦村となり，平成9年10月1日に現在の北浦町となった。行方郡の北部に位置する当町の総面積は約58.5㎢，東西約9㎞，南北約7.5㎞のやや東西に長い町域である。

北浦町の地形を概観すると，北浦湖岸近くまで延びている台地と湖岸沿いの低湿地，及び小河川によって形成される低地にほぼ分けられる。台地は玉造町方面から潮来町方面に延びる標高35～39mの行方台地で，緩やかな丘陵を形成しており，畑や山林等に利用されている。また，湖岸に面した台地の東側には支谷が樹枝状に入り組んでいる。台地の内陸部は，比較的広い台地を形成しているが，先端部分は細長く突出した舌状台地となっている。台地を開析しながら東流し，北浦に注ぐ武田川，山田川，蔵川の両岸に開ける低地や，湖西部の沿岸に帯状に巡る湖岸低地は，当町の水田地帯を形成している。

地質は，砂鉄質の中粒砂よりなる石崎層（見和層堆積以前の沖積層を総称），灰褐色のシルトからなる，見和下層（見和層は関東平野に広く分布する狭義の成田層に対比される），黄褐色の中粒砂からなる見和上層，灰色中粒～粗粒の砂からなる竜ヶ崎砂礫層，灰白色粘土層の茨城粘土層（県南では常総粘土層，千葉県の松戸粘土層，東京の板橋粘土層に対比される），関東ローム層（南関東の武蔵野ローム層，立川ローム層に対比され，一般に新期ローム層と言われている。また，宇都宮付近のローム層序と比較すると田原ローム層，宝木ローム層に対比される）の順で堆積している。

木工台遺跡は，北浦町の北東部，北浦に注ぐ武田川の左岸標高約31～35mの台地上に位置している。当遺跡の南側の沖積低地は，水田として利用されている。水田と台地との比高は，約15mである。調査前の現況は山林と畑地である。

参考文献

・大森昌衛・蜂須紀夫『茨城の地質をめぐって』1987年8月

・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　玉造』1984年11月

・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　磯浜・鉾田』1991年3月

第2節　歴史的環境

北浦町には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。当町は，北浦をはじめとした水利に恵まれており，霞ヶ浦と北浦に面した行方台地は，古代から人々の生活に絶好の舞台となってきた。ここでは，北浦町の主な遺跡について時代を追って述べることにする。

旧石器時代の遺跡として，古館(ふるたて)遺跡[1]〈42〉があり，珪質頁岩製の削器が出土している。

縄文時代になると県内各地に貝塚が形成されるようになり，当町内でも15か所[2]の貝塚が確認されている。貝塚をはじめ縄文時代の遺跡は，北浦に面する湖岸の台地上や武田川，山田川の両岸の台地上に多く見られる。

調査が実施された遺跡として，次のような遺跡がある。森戸貝塚とも呼ばれる鬼越貝塚は〈65〉は，清水潤三氏により，昭和29年７月に調査され，後期の遺跡であることが判明した。鶴ヶ居貝塚[3][4]〈35〉は旧北浦村教育委員会によって，昭和47年７月に調査され，中期から後期の遺跡であることが判明した。今山遺跡[5]〈38〉，六台遺跡[6]〈41〉，平遺跡[7]〈43〉は，山田地区遺跡発掘調査会により，昭和63年から平成元年にかけて調査され，中期の集落跡であることが判明した。今山遺跡からは中期のファイヤーピットも確認されている。六台遺跡からは，中期のフラスコ状土坑が７基確認されている。また，茨城県立歴史館の学術調査[8]によると，今山貝塚〈38〉は中期の貝塚，成田早川貝塚〈10〉は中期から後期の貝塚であることがわかった。この他には，出土遺物等により時期の判明している遺跡として，中期から後期にかけての遺跡として長野江貝塚〈５〉，両宿貝塚〈19〉後期の遺跡として，並松遺跡〈54〉，後期から晩期にかけての遺跡として戸呂井戸遺跡〈48〉，晩期の遺跡として，穴瀬貝塚〈６〉，大塚遺跡〈36〉等がある。平成８年に茨城県教育財団が調査した三和貝塚〈３〉は，中期の貝塚と考えられていたが，前期の貝塚であることが判明した。

弥生時代の遺跡としては，包蔵地が確認されており，武田川流域と山田川流域に分布している。武田川流域には両宿神明遺跡〈59〉，下山遺跡〈18〉，内宿遺跡〈16〉等が所在し，山田川流域には，御門山遺跡〈30〉，南高岡平遺跡〈66〉，関戸遺跡〈31〉，古屋平遺跡〈29〉，中山遺跡〈49〉等が所在している。

古墳時代の遺跡は，茨城県教育財団が平成８年に調査した集落跡の炭焼遺跡〈１〉，古墳群の札場古墳群〈２〉，成田古墳群〈４〉の他に，古墳群としては，大塚古墳群〈20〉，新堀古墳群〈23〉，ドンビン塚古墳群〈25〉，堂目木古墳群〈26〉，及び木工台古墳群〈11〉等がある。成田古墳群からは，壺鐙，杏葉，轡等多数の馬具が出土している。集落跡としては，昭和63年から平成元年に六台遺跡，古屋敷遺跡[9]〈40〉，平遺跡，今山遺跡，古館遺跡[10]，平成２年に風早遺跡[11]〈44〉等が調査され，古墳時代前期から後期にかけての遺構が確認されている。古屋敷遺跡からは円窓土器が出土している。

奈良・平安時代の遺跡としては，今回報告する木工台遺跡の他に，六台遺跡，古屋敷遺跡，平遺跡，今山遺跡，古館遺跡，平成３年に調査された菖蒲沢遺跡[12]〈55〉がある。六台遺跡からは青銅製の丸鞆が出土している。

鎌倉・室町時代になると城館跡が主になり，武田川流域には，武田氏が築いた神明城跡[13]〈14〉，木崎城跡[14]〈17〉，小貫館跡〈63〉，西館跡〈15〉及び内宿館跡〈13〉等が所在している。山田川流域左岸台地上には，山田氏が築いた山田城跡〈46〉，前館跡〈53〉，古館遺跡，古屋敷跡及び平遺跡等が所在している。同流域右岸台地上には，小幡氏が築いた小幡城跡〈64〉，古屋台館跡〈32〉，前原館跡〈33〉等が所在している。このうち，昭和62年に神明城跡，昭和63年から平成元年にかけて古館遺跡，古屋敷遺跡及び平遺跡，平成６年に木崎城跡が調査されている。

※文中の〈　〉内の番号は，表１，第２図中の該当番号と同じである。

〈註〉参考文献

(1) 山田地区遺跡発掘調査会『古館遺跡調査報告書』1990年３月

(2) 北浦村教育委員会『北浦村文化財地図』1986年８月

(3) 茨城県『茨城県史料　考古史料編　先土器・縄文時代』1979年３月

(4) 北浦村教育委員会『北浦村鶴ヶ居貝塚』1972年７月

(5) 山田地区遺跡発掘調査会『今山遺跡調査報告書』1990年３月

(6) 山田地区遺跡発掘調査会『六台遺跡調査報告書』1990年３月

(7) 山田地区遺跡発掘調査会『平遺跡調査報告書』1990年３月

(8) 茨城県歴史館『県内貝塚における動物遺存体の研究(3)』1981年３月

(9) 山田地区遺跡発掘調査会『古屋敷遺跡調査報告書』1990年３月

(10) 山田地区遺跡発掘調査会『古館遺跡調査報告書』1990年３月

(11) 山田地区遺跡発掘調査会「風早遺跡調査報告書」1990年３月

(12) 菖蒲沢遺跡調査会「菖蒲沢遺跡調査報告書」1991年11月

(13) 茨城県教育財団「主要地方道土浦・大洋線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書　神明城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第48集　1988年９月

(14) 茨城県教育財団「国道 354号国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　木崎城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 109集　1996年３月

表１　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降	番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降
1	木工台遺跡	1464				○	○		34	御門山古墳群	1486		○		○		
2	札場古墳群	1478				○			35	鶴ケ居貝塚	1435		○				
3	三和貝塚	1490		○					36	大塚遺跡	1419		○				
4	成田古墳群	1479				○			37	千両山古墳群	1418				○		
5	長野江貝塚	1492		○					38	今山貝塚(今山遺跡)	1437		○		○	○	
6	穴瀬貝塚	1461		○					39	中山古墳群	1424				○		
7	金上遺跡	1459		○					40	古屋敷（遺）跡	1428				○	○	○
8	道祖神遺跡	1462		○					41	六台貝塚(六台遺跡)	1436		○		○	○	
9	塚原古墳群	1412				○			42	古館（遺）跡	1426	○			○	○	○
10	成田早川貝塚	1463		○					43	平遺跡	1439		○		○	○	○
11	木工台古墳群	1481				○			44	風早遺跡					○		
12	炭焼遺跡					○	○		45	妙義台貝塚	1442		○				
13	内宿館跡	1487						○	46	山田城跡	1425						○
14	神明城跡	1429						○	47	新橋古墳群	1415				○		
15	西館跡	1433						○	48	戸呂井戸遺跡	1440		○				
16	内宿遺跡	1489						○	49	中山遺跡	1441			○	○		
17	木崎城跡	1430						○	50	京田古墳群	5168				○		
18	下山遺跡	1466		○	○	○			51	蛍入古墳群	5167				○		
19	両宿貝塚	1465		○					52	前館遺跡	1467				○		
20	大塚古墳群	1470				○			53	前館跡	1427						○
21	松並古墳群	1417				○			54	並松遺跡	1434		○				
22	権現山古墳群	1414				○			55	菖蒲沢遺跡			○		○	○	
23	新堀古墳群	1471				○			56	清水台古墳群	1420				○		
24	殿山古墳群	1469				○			57	台山古墳群	1422				○		
25	ドンビン塚古墳群	1482				○			58	北原古墳群	1416				○		
26	堂目木古墳群	1483				○			59	両宿神明遺跡	5174		○	○	○		
27	大峰古墳群	1484				○			60	塚原古墳群	1480				○		
28	地蔵後古墳群	1485				○			61	うなぎ塚古墳群	5166		○	○	○		
29	古屋平遺跡	1453		○	○	○			62	諏訪後古墳群	1421				○		
30	御門山遺跡	1454			○				63	小貫館跡	5173						○
31	関戸遺跡	1472		○	○	○			64	小幡城跡	1431						○
32	古屋台館跡	1432						○	65	鬼越貝塚	1444		○				
33	前原館跡	1488						○	66	南高岡平遺跡	5164		○	○	○		

第２図　木工台遺跡周辺遺跡分布図

第3章　木工台遺跡

第1節　遺跡の概要

木工台遺跡は，北浦町の北東部，行方台地東部の標高31～35mの台地縁辺部から南に伸びる舌状台地上に位置する。その東側には北浦が湖水を湛えている。調査区は平成8年度と平成9年度に分けられる。平成8年度は，東西約240m，南北約160m，面積約20,494㎡を調査した。現況は畑地である。遺跡の西側に支谷を挟んで内宿館跡，南側に武田川を挟んで内宿遺跡，木崎城跡がある。

今回の調査によって，古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡106軒，土坑158基，製鉄関連遺構2基，溝30条，掘立柱建物跡1棟を検出した。以上のことから，当遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落跡であることが判明した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に146箱出土した。遺物の大部分は古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器や須恵器で，住居跡の覆土及び床面から出土している。また，鉄製品のほか，羽口，鉄滓等が出土する遺構も検出している。

第2節　基本層序

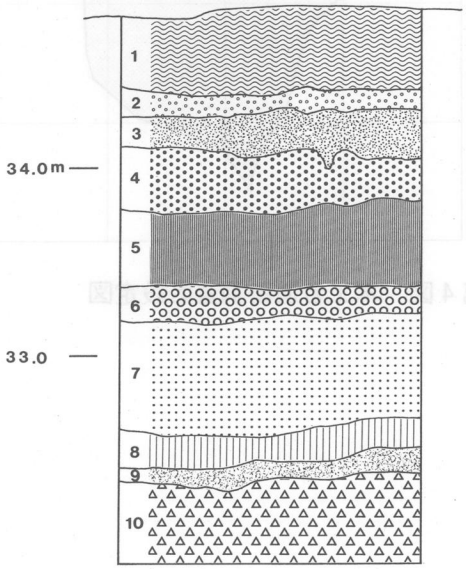
調査区北西部（B5f₄区）にテストピットを掘り，基本層序の観察を行った（第3図）。ソフトロームはなく，表土直下からロームはすべてハードロームである。

第1層は，耕作土。厚さ約50㎝で極暗褐色をしている。

第2層は，12～14㎝の暗褐色をしている。色調，上下の層序からみて武蔵野台地等でいう第1黒色帯に相当するものと考えられる。

第3層は，16～32㎝の褐色のローム層で，姶良Tn火山灰(AT)層を含む。

第4層は，20～34㎝の締まりある褐色のローム層で，上下の層序からみて武蔵野台地等でいう第2黒色帯に相当すると考えられる。



第3図　基本土層図

第5層は，38～56㎝のローム層で，褐色をしている。第4層より粘性が強く締まりもある。

第6層は，14～20㎝のローム層で，5層と同じく粘性・締まりとも強いが，5層より層が密である。

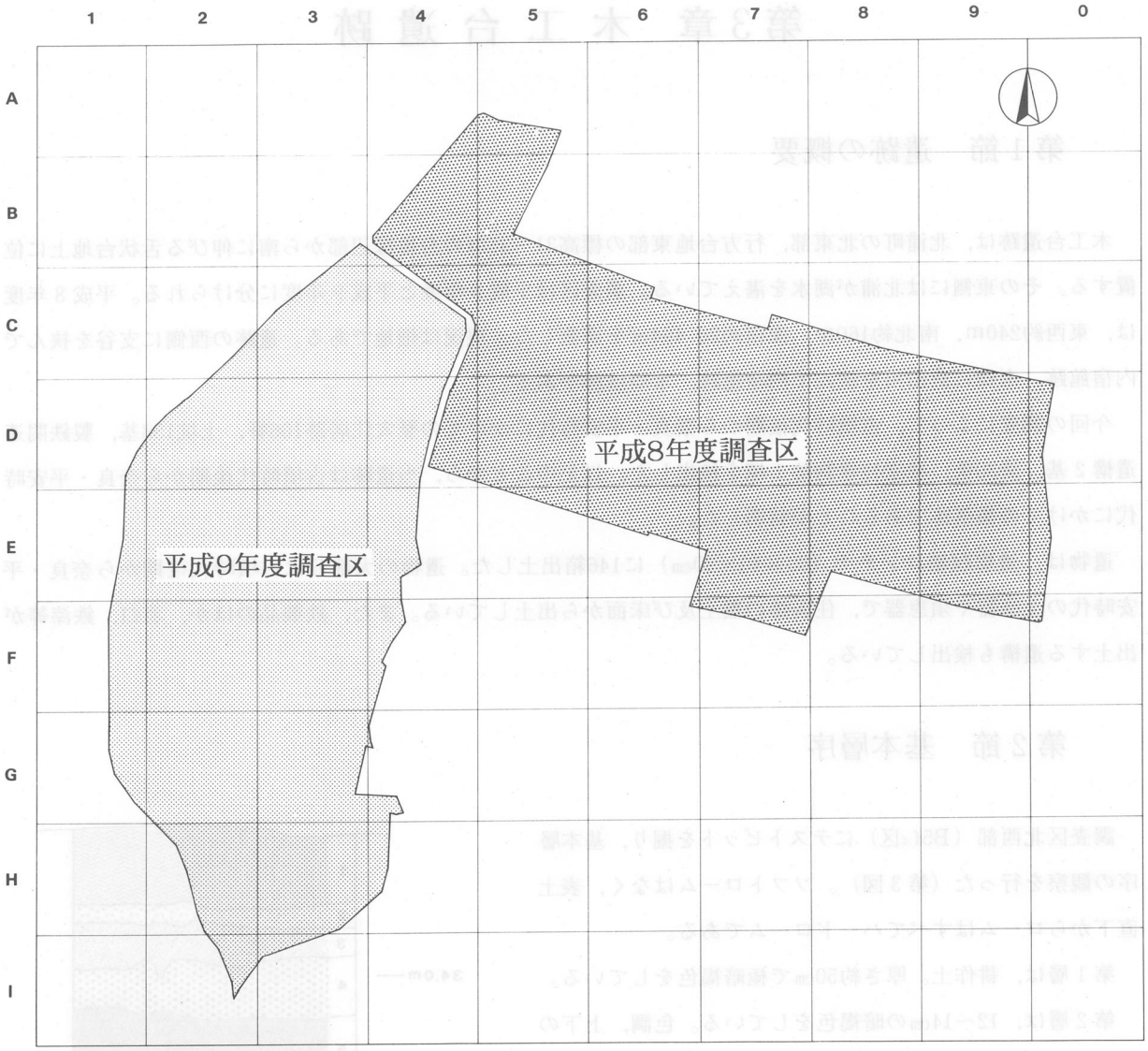
第7層は，56～62㎝のローム層で，暗褐色をしている。粘性・締まりとも強い。

第8層は，10～18㎝のローム層で，第7層と同じく，粘性・締まりとも強いが，第7層より層が粗い。

第9層は，10～14㎝のローム層で，締まりもあるが，特に粘性が強い。

第10層は，40～50㎝の灰褐色の粘土層で，黒色の火山灰粒子を含み，粘性もあるが，特に締まりが強い。

遺構は第2層上面で確認し，第3・4層を掘り込んで構築されている。



第４図　木工台遺跡調査区設定図

0　40m

第３節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

当遺跡の遺構は，古墳時代後期から奈良・平安時代に至るもので，調査区の全域から106軒検出した。以下，検出された住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

第１号住居跡（第５図）

位置　調査区の北西部，B4g3区。

重複関係　第１号溝，第２号溝，第３号溝が本跡を掘り込んでおり，本跡は各遺構より古い。

規模と平面形　長軸4.48m，短軸4.29mの方形である。

主軸方向　N－４°－E

壁　壁高は20～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅20cm，下幅８cm，深さ10cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径23～30cmの不整円形，深さ26～50cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径20cmの不整円形，深さ39cmの補助柱穴，P_6は径42cmの不整円形，深さ13cmの出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は，崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ120cm，最大幅130cmである。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，緩やかな傾斜で立ち上がる。

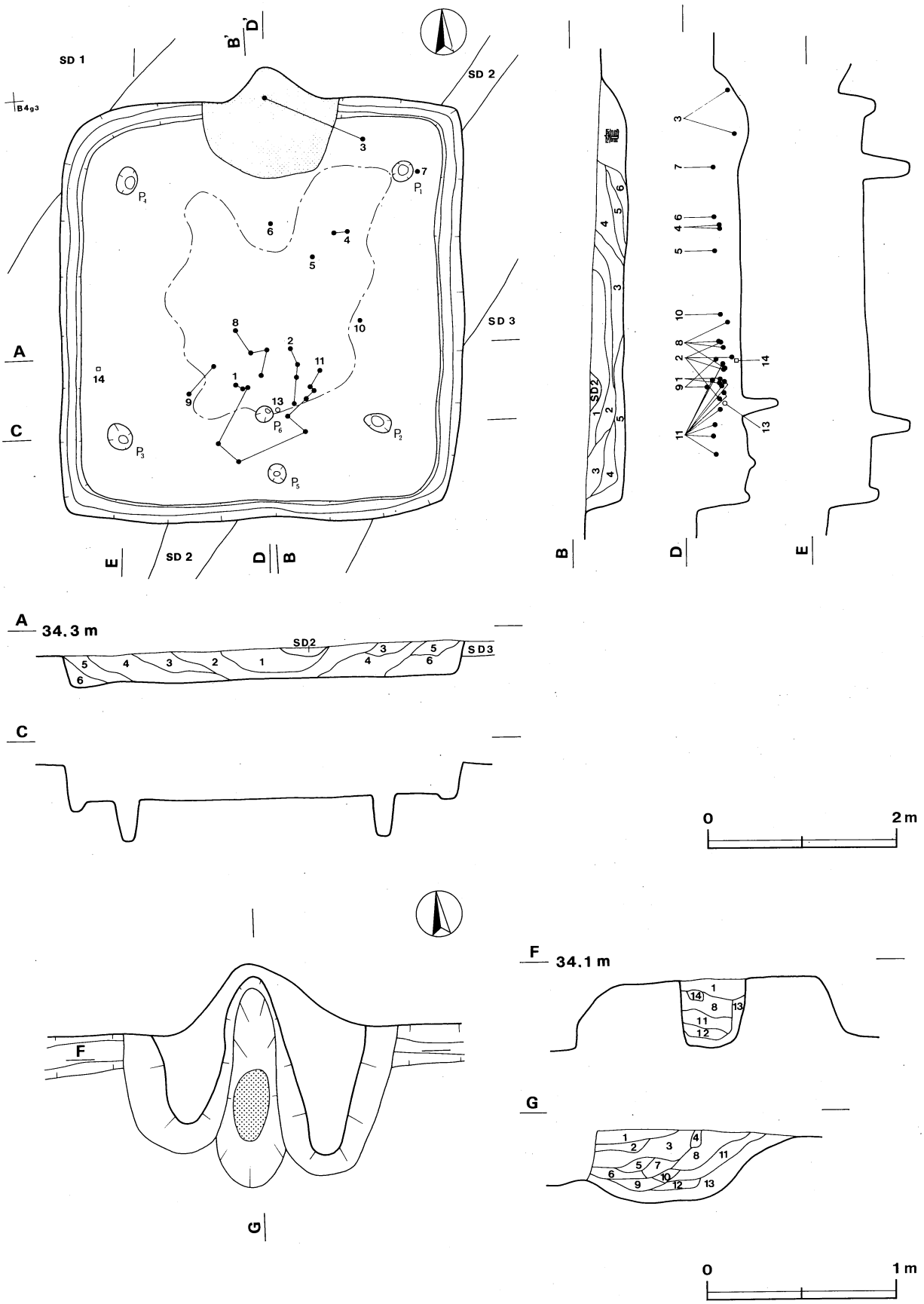
竈土層解説

1　黒 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
3　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
4　暗 褐 色　焼土大・中・小ブロック少量，焼土・ローム粒子・砂粒少量
5　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量，ローム中・小ブロック微量
7　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
8　暗赤褐色　砂粒多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・中・焼土粒子少量，炭化粒子少量
10　暗赤褐色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
11　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
12　暗 褐 色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，炭化粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・砂粒少量，焼土小ブロック微量
14　暗 褐 色　焼土小ブロック・砂粒少量，焼土・ローム粒子微量

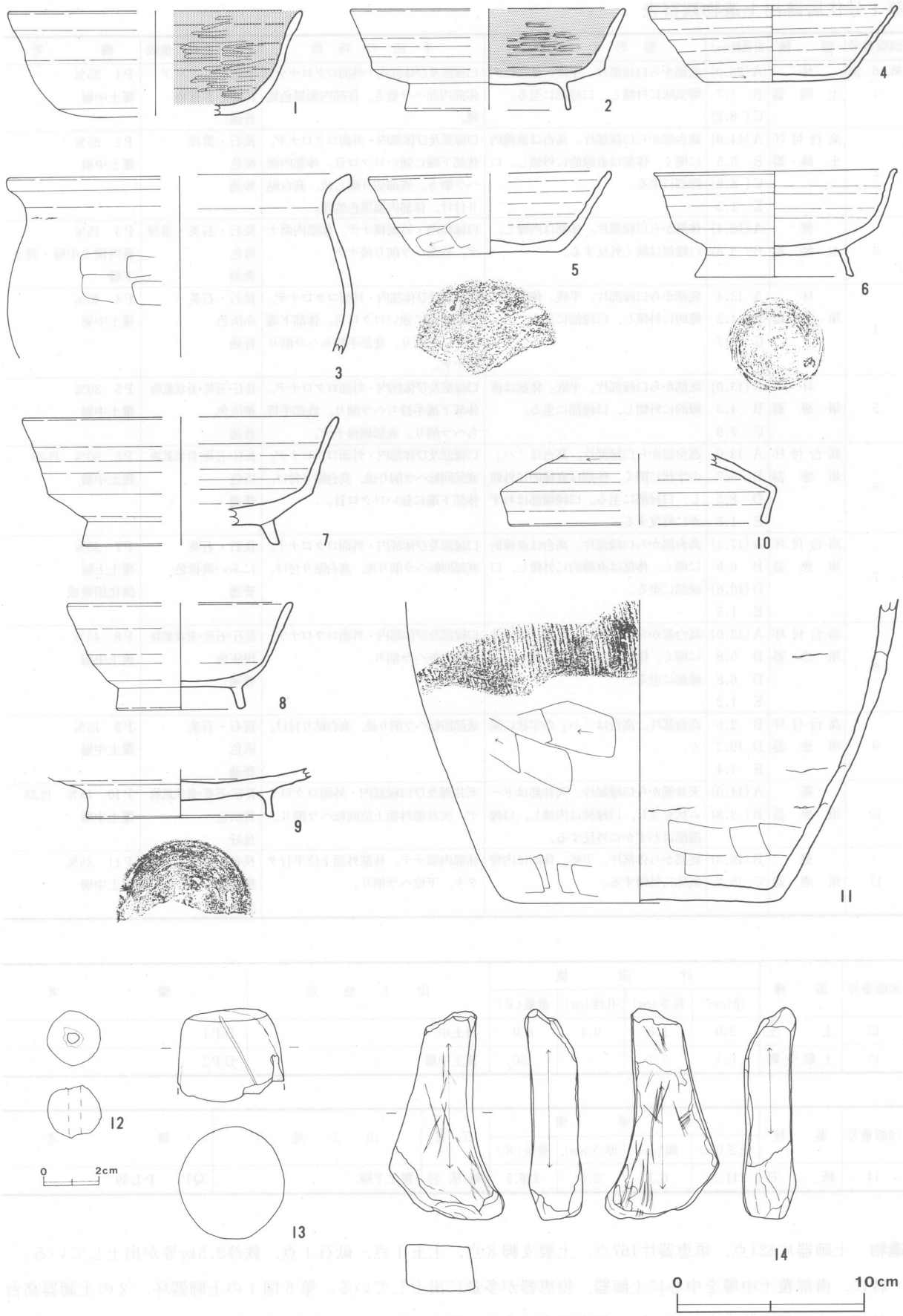
覆土　６層からなる。不自然な堆積の状況がみられ，また，各層ともロームブロックを含んでいることから人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中・小ブロック微量



第５図　第１号住居跡実測図



第６図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第６図 1	坏 土師器	A〔26.0〕 B 5.7 C〔8.2〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P1 35% 覆土中層
2	高台付坏 土師器	A〔14.8〕 B 5.5 C〔8.9〕 E 1.5	高台部から口縁部片。高台は直線的に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端に強いロクロ目。体部内面ヘラ磨き。底部切り離し後，高台貼り付け。体部内面黒色処理。	長石・雲母 橙色 普通	P2 35% 覆土中層
3	甕 土師器	A〔18.4〕 B(9.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P3 15% 竈内覆土中層・覆土下層
4	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 7.7	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	長石・石英 赤灰色 普通	P4 40% 覆土中層
5	坏 須恵器	A〔13.0〕 B 4.3 C 7.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石･石英･針状鉱物 黄灰色 普通	P5 30% 覆土中層
6	高台付坏 須恵器	A 13.0 B 5.7 D 8.5 E 1.5	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。体部下端に強いロクロ目。	長石･石英･針状鉱物 灰色 普通	P6 60% PL23 覆土中層
7	高台付坏 須恵器	A〔17.1〕 B 6.9 D〔10.6〕 E 1.3	高台部から口縁部片。高台は直線的に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P7 30% 覆土上層 酸化焔焼成
8	高台付坏 須恵器	A〔12.0〕 B 5.8 D 6.8 E 1.2	高台部から口縁部片。高台は直線的に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石･石英･針状鉱物 褐灰色 普通	P8 45% 覆土中層
9	高台付坏 須恵器	B 2.6 D 10.2 E 1.4	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P9 15% 覆土中層
10	蓋 須恵器	A〔14.0〕 B(3.8)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部は内傾し，口縁端部はわずかに外反する。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石･石英･針状鉱物 黄灰色 良好	P10 15% PL23 覆土中層
11	甕 須恵器	B(16.3) C 15.2	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ。体部外面上位平行タタキ，下位ヘラ削り。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P11 35% 覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	土玉	2.0	1.8	0.4	6.0	覆土中	DP1
13	土製支脚	6.1	5.1	－	150	覆土中層	DP2

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥石	11.3	6.1	2.6	226.5	凝灰岩	覆土下層	Q1 PL39

遺物　土師器片621点，須恵器片167点，土製支脚８点，土玉１点，砥石１点，鉄滓3.5kg等が出土している。特に，南部覆土中層を中心に土師器，須恵器が多量に出土している。第６図１の土師器坏，２の土師器高台付坏，８の須恵器高台付坏，11の須恵器甕は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。３の土師器甕は竈内の覆土中層と北東部の覆土下層から出土したものが接合した。４と５の須恵器坏，６の須恵器高台付坏は

北部の覆土中層から出土している。7の須恵器高台付坏はP_1付近の覆土上層から，9の須恵器高台付坏は南部の覆土中層から，10の須恵器蓋は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。12の土玉は覆土中から出土している。13の土製支脚はP_6付近の覆土中層から，14の砥石は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第2号住居跡（第7図）

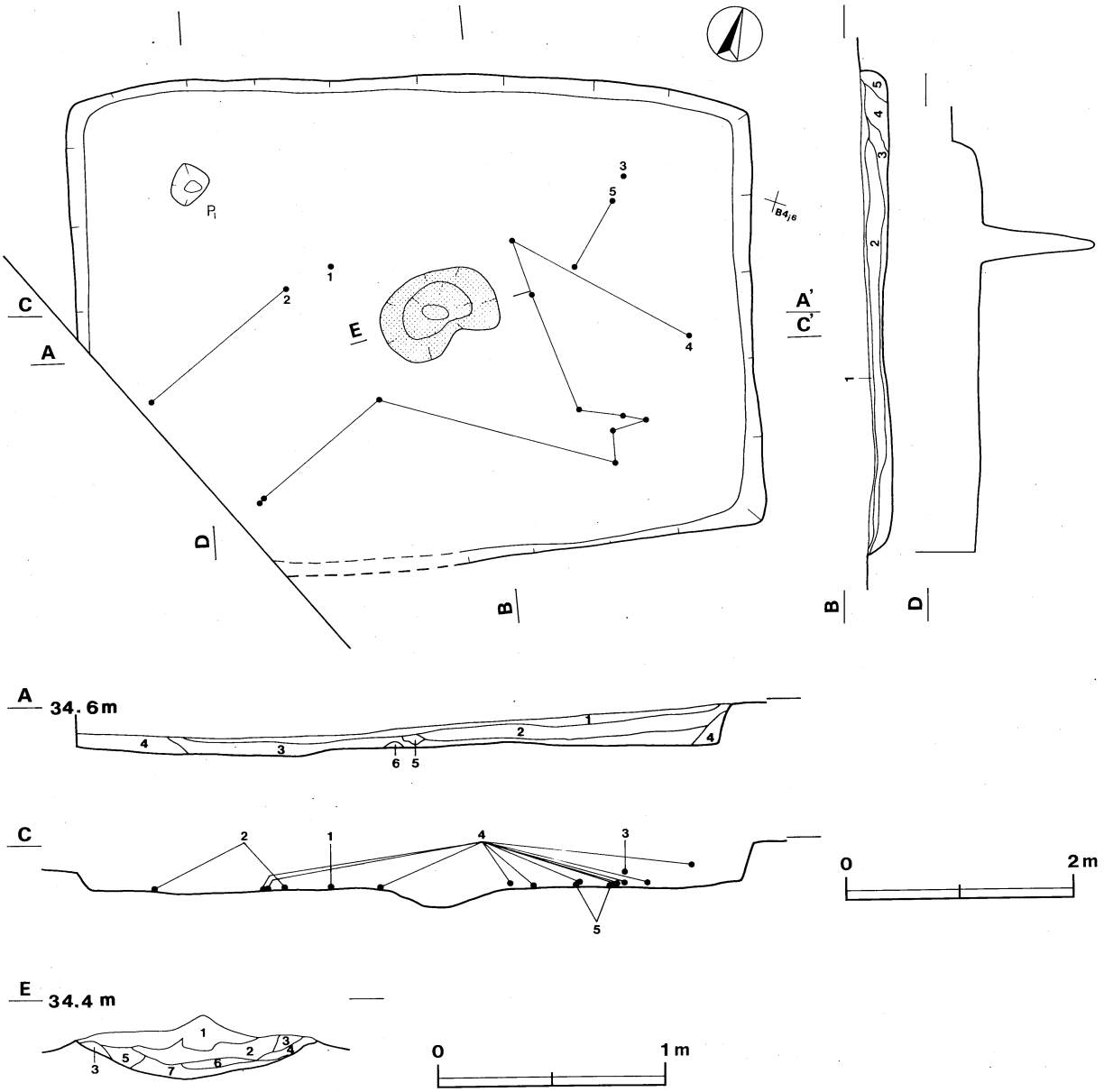
位置　調査区の北西部，B4j$_5$区。

規模と平面形　長軸5.98m，短軸4.33mの長方形である。

主軸方向　N－70°－E

壁　壁高は17～34cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかい。



第7図　第2号住居跡実測図

ピット　1か所（P_1）。P_1は径37cmの不整円形，深さ100cmで，柱穴と思われる。

炉　中央部からやや東よりに位置し，長径105cm，短径74cmの不整楕円形で，床面を15cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変している。

炉土層解説

1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　暗赤褐色　ローム・焼土粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

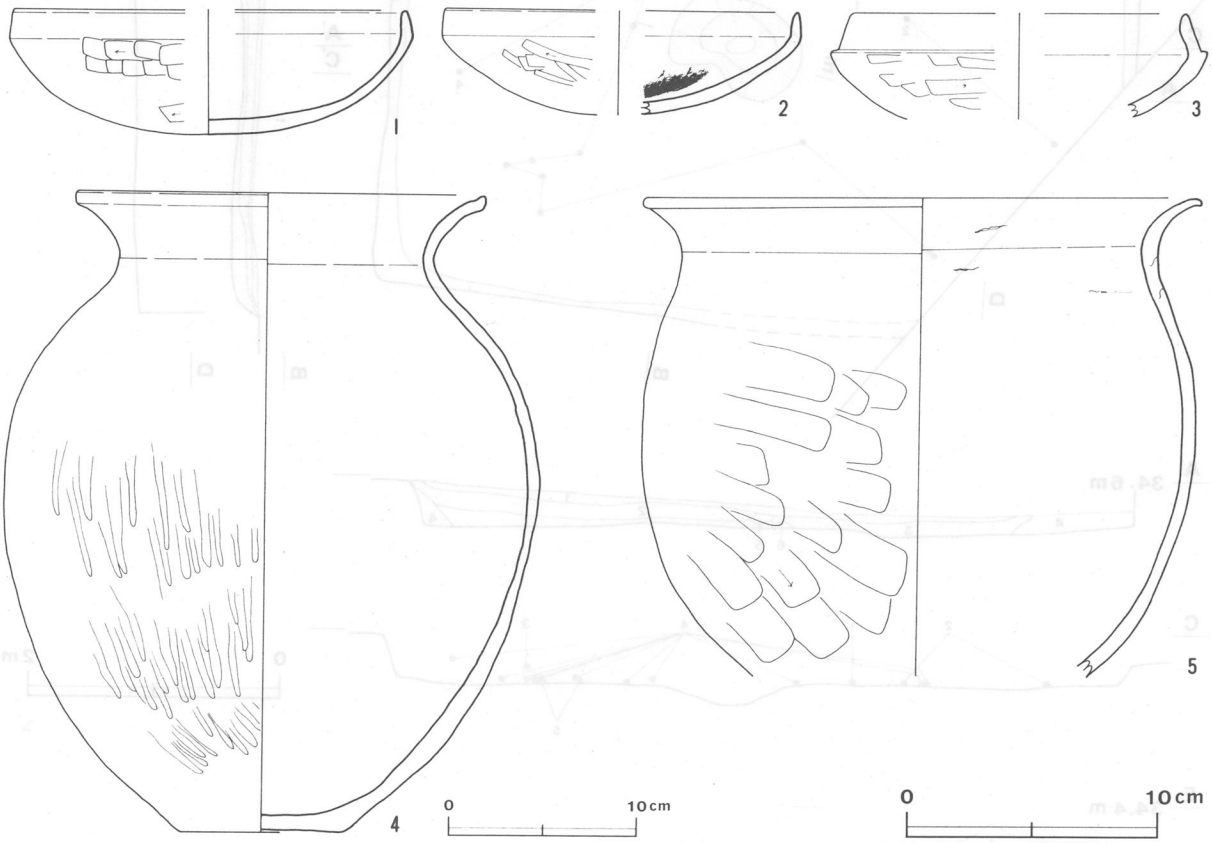
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム中・小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
6　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片369点，須恵器片26点等が出土している。第8図1の土師器坏は中央部の床面直上から，2の土師器坏は西部の覆土下層から，3の土師器坏は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。4の土師器甕は東部及び南部の覆土下層から出土したものが接合した。5の土師器甕は北東部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。竈がなく遺構中央部に炉跡が検出されたことから，工房跡等，住居以外の目的に使われた可能性が高いと推察される。



第8図　第2号住居跡出土遺物実測図

第２号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第８図 1	坏 土師器	A〔15.8〕 B　5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P12　40% 床面
2	坏 土師器	A〔14.2〕 B（4.1）	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P13　20% 覆土下層 底部内面にタール付着
3	坏 土師器	A〔13.3〕 B（4.2）	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P14　10%　PL23 覆土中層
4	甕 土師器	A 21.7 B 34.3 C　8.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P15　60%　PL23 床面 二次火熱痕
5	甕 土師器	A 22.0 B(18.7)	底部・体部一部欠損。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P16　85%　PL23 床面

第３号住居跡（第９・10図）

位置　調査区の北西部，B5j₂区。

重複関係　本跡の床上に，第８号住居跡が構築されており，第８号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.53m，短軸6.10mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は55～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅20cm，下幅10cm，深さ８cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

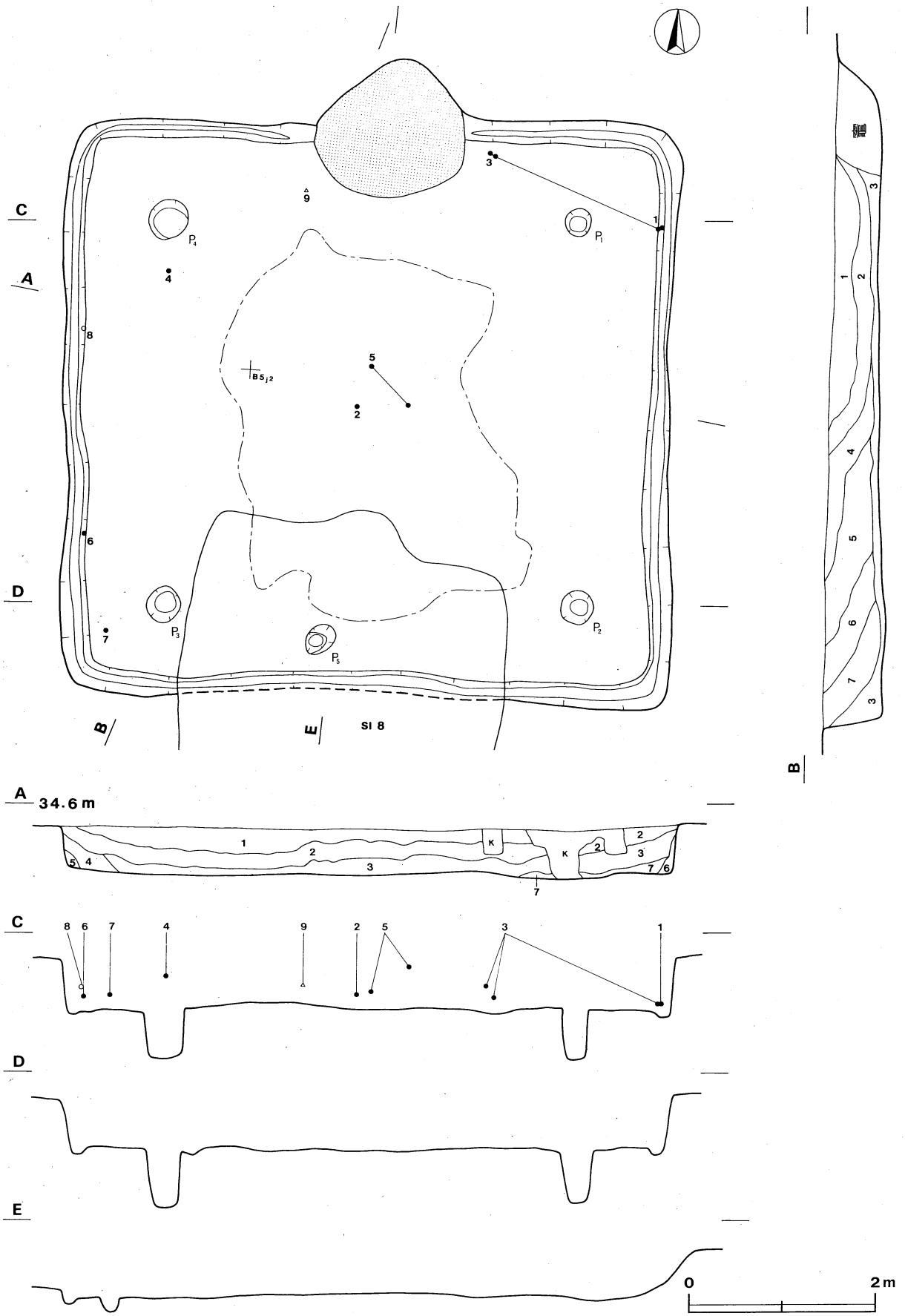
ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径20～40cmの不整円形，深さ53～61cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径37cm，短径28cmの不整楕円形，深さ24cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に70cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は，崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ150cm，最大幅160cmである。火床部は，浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は，中位に段を持ち，さらに外傾して立ち上がる。

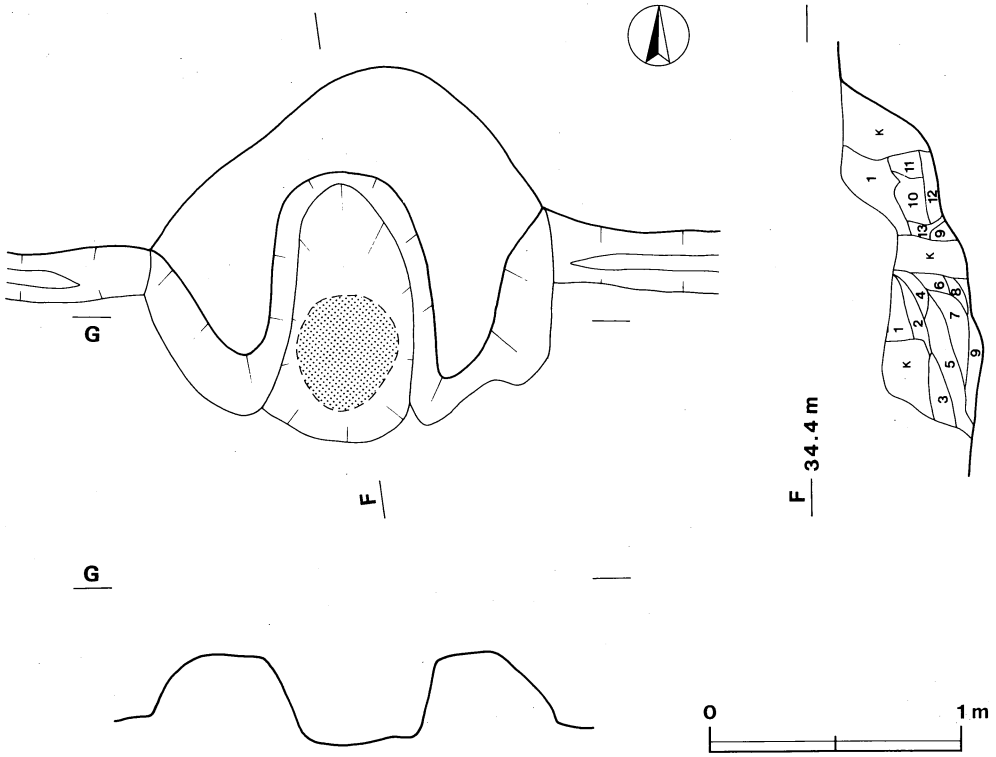
竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量
2　暗褐色　砂粒多量，炭化物少量，焼土中ブロック・焼土・ローム粒子微量
3　暗褐色　焼土・ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　砂粒少量，焼土中ブロック・焼土・ローム粒子微量
5　黒褐色　焼土・ローム粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　砂粒多量，焼土中ブロック・焼土・ローム粒子少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
10　暗赤褐色　焼土中ブロック・炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
11　暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土粒子微量
12　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
13　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量

覆土　７層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，粘土ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量



第９図　第３号住居跡実測図(1)



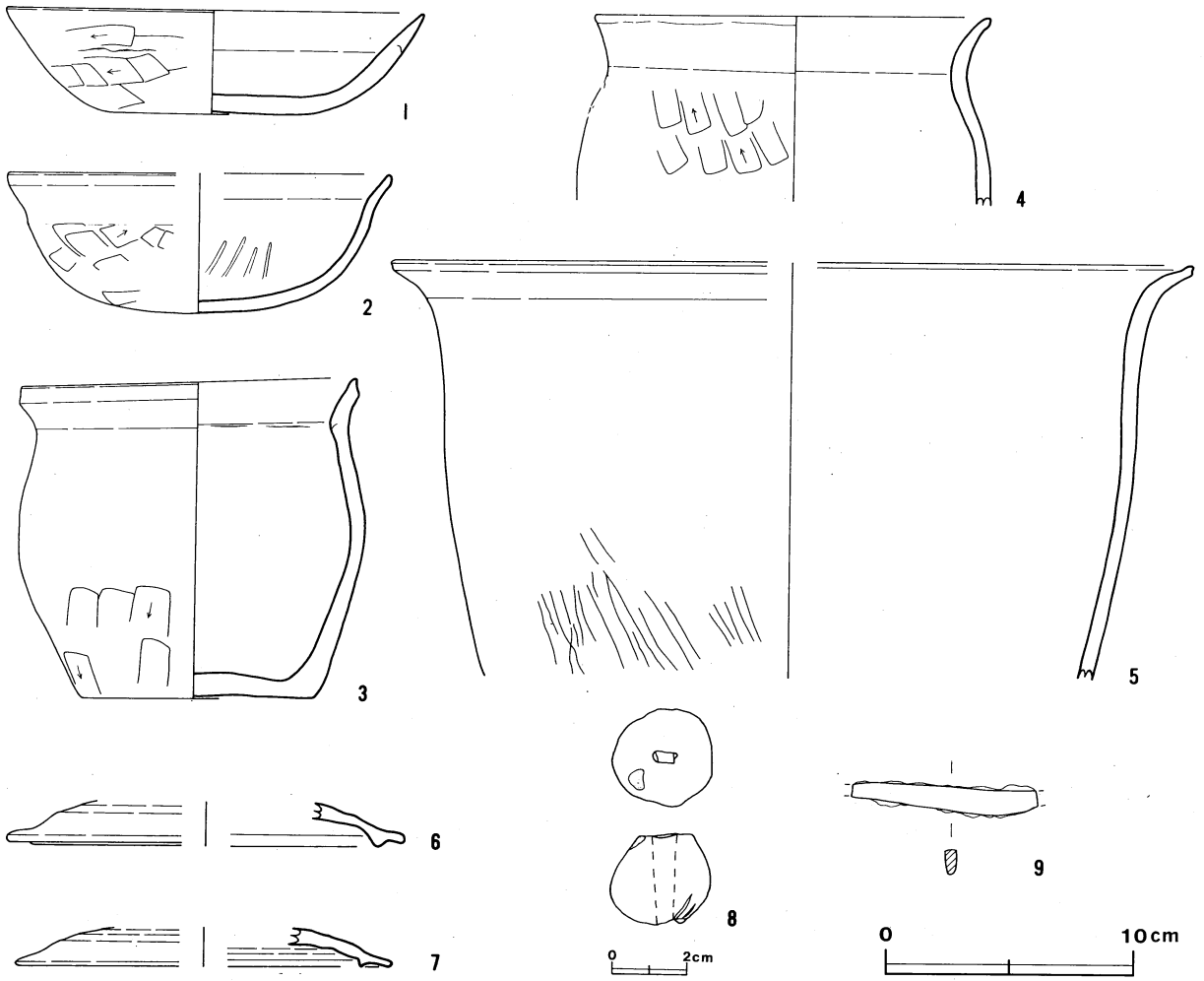
第10図　第３号住居跡実測図(2)

遺物　住居跡全体から，土師器を中心に多量に出土しているがほとんどが破片である。土師器片1,033点，須恵器片74点，土玉１点，刀子１点等が出土している。第11図１の土師器坏は北東部壁際の覆土下層から，２の土師器坏は中央部の覆土下層から，３の土師器甕は北東部の覆土下層から，４の土師器甕は北西部の覆土中層から，５の土師器甕は中央部の覆土上層と中層から出土したものが接合した。６の須恵器蓋は南西部壁際の覆土中層から，７の須恵器蓋は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。また，８の土玉は西壁際の覆土中層から，９の刀子は竈付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前葉と思われる。

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 11 図 1	坏 土師器	A 16.8 B 4.2 C 8.5	口縁部一部欠損。底部は丸みをおびた平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 良好	P17　90%　PL23 覆土下層
2	坏 土師器	A〔15.3〕 B 5.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。底部・体部内面に暗文。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P18　50% 覆土下層
3	甕 土師器	A 13.2 B 13.0 C 9.4	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア・パミス にぶい赤褐色 普通	P19　70% 覆土下層
4	甕 土師器	A 15.9 B (7.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P20　30% 覆土中層
5	甕 土師器	A〔32.4〕 B (16.8)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁部は，一部わずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位ナデ，中位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P21　10% 覆土中層



第11図　第３号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第11図 6	蓋 須恵器	A〔16.0〕 B(1.8)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し，外面にわずかな段を持つ。口縁部は水平方向に伸びる。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 外面　にぶい黄色 内面　黒色 普通	P22　10% 覆土中層
7	蓋 須恵器	A〔15.2〕 B(1.6)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P23　5% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土　玉	2.7	2.5	0.5	165	覆土中層	DP3　PL36

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	刀　子	(7.5)	1.0	0.5	(10.4)	覆土中層	M1　PL39

第４号住居跡（第12図）

位置　調査区の西部，D5e₂区。

重複関係　本跡は，第５号住居跡に掘り込まれていることから，第５号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸3.24m，短軸2.99mの方形である。

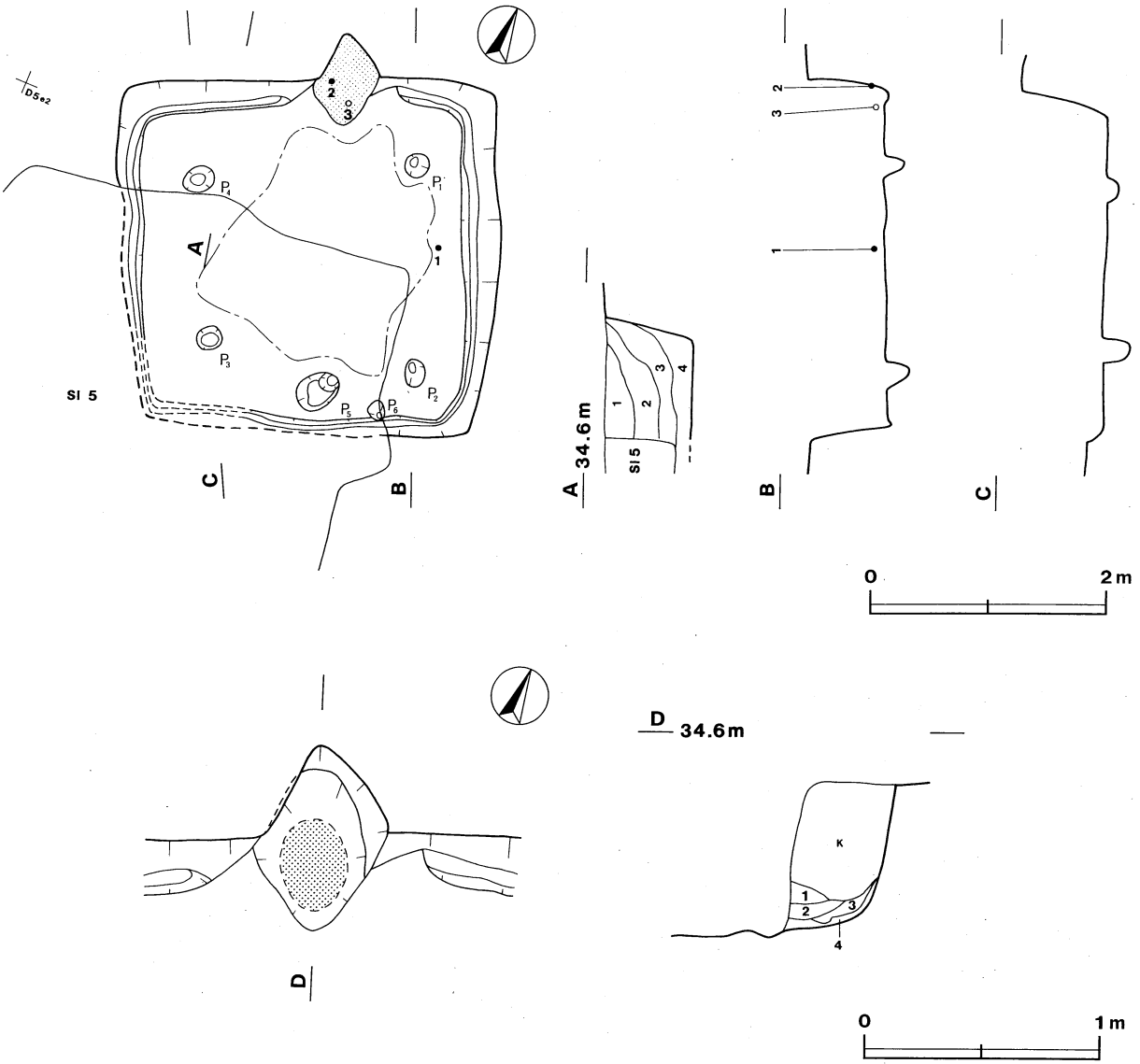
主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は65～67cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周するものと思われる。上幅11cm，下幅６cm，深さ４cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径18～28cmの不整円形，深さ14～25cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径40cm，短径29cmの不整楕円形，深さ23cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は長径17cm，短径14cmの不整楕円形，深さ43cmで性格は不明である。



第12図　第４号住居跡実測図

竈　北西壁中央部からやや北よりを壁外に40cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，煙道部だけが残っている。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

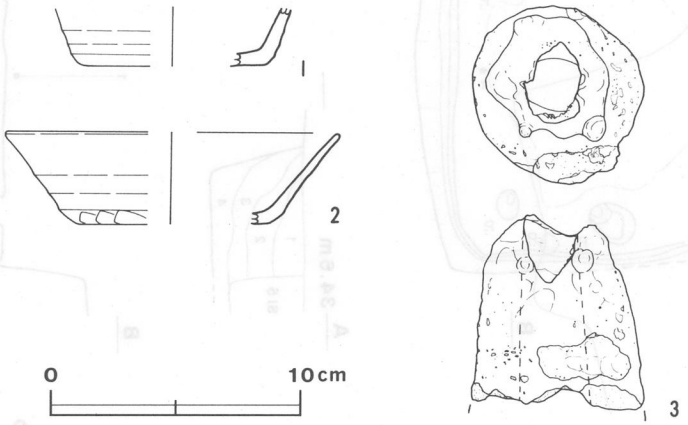
竈土層解説
1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　黒褐色　焼土・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物　土師器片50点，須恵器片16点，土製羽口1点，鉄滓等が出土している。第5号住居跡に掘り込まれているためか，他の遺構に比べて遺物は少ない。第13図1の須恵器坏は北東壁際の覆土下層から，2の須恵器坏は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。3の羽口は竈の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は第5号住居跡（9世紀中葉）に掘り込まれていることと，出土遺物等から奈良時代（8世紀末葉）と思われる。



第13図　第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	坏 須恵器	A〔2.4〕 B(7.0)	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰褐色 普通	P25 5% 覆土下層
2	坏 須恵器	A〔13.4〕 B 3.7 C〔7.8〕	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄色 普通	P24 10% 竈覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	羽口	(7.8)	(7.8)	2.9	(200)	竈覆土下層	DP4　PL37

第５号住居跡（第14図）

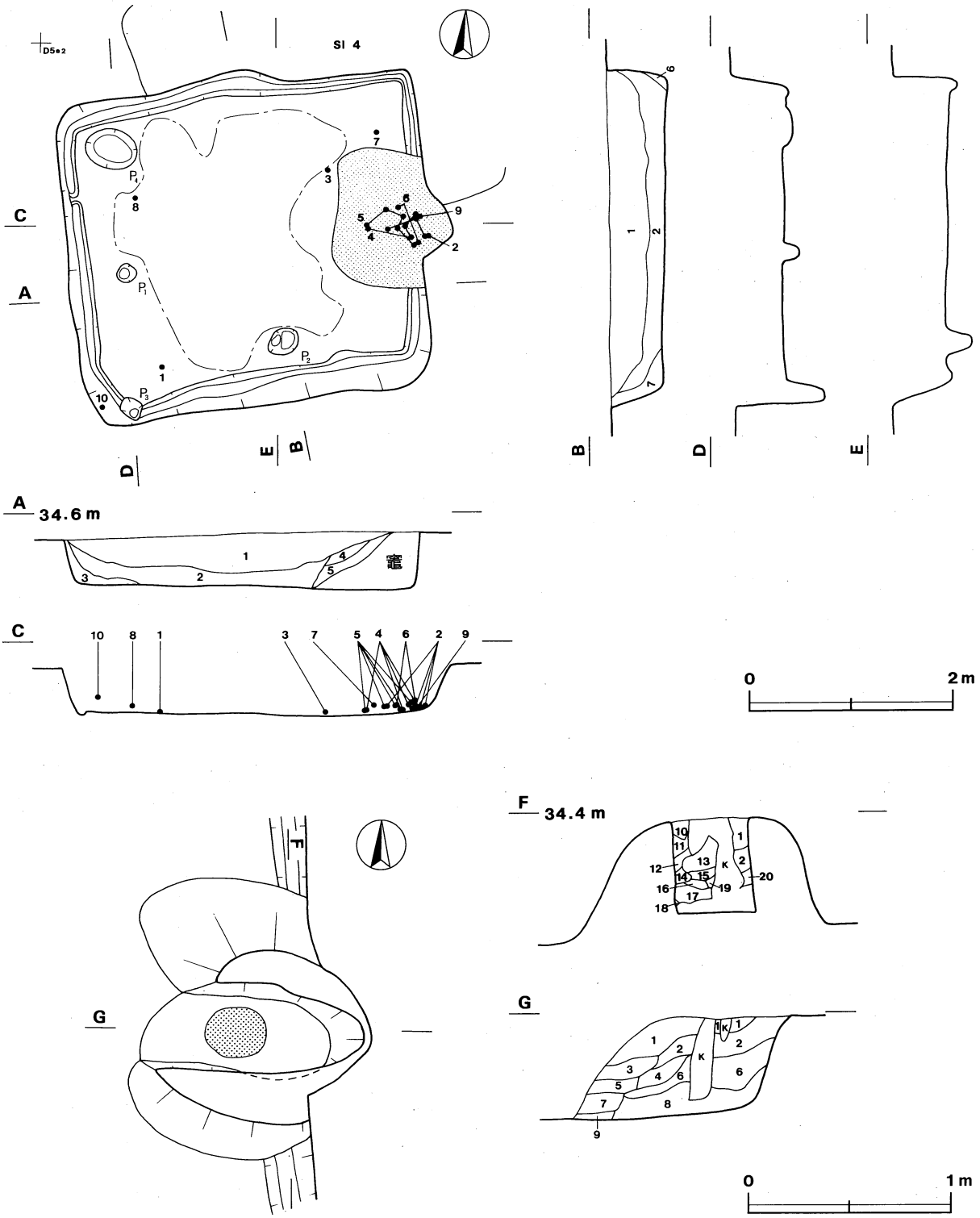
位置　調査区の西部，D5e2区。

重複関係　本跡は，第４号住居跡を掘り込んでいることから，第４号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.18mの方形である。

主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は47～49cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。



第14図　第５号住居跡実測図

壁溝　西壁下の一部を除いて全周する。上幅12cm，下幅９cm，深さ３cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1は径20cmの不整円形，深さ16cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_4は長径25～42cm，短径20cm～40cmの不整楕円形，深さ14～16cmで，性格は不明である。

竈　東壁ほぼ中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されいる。煙道の天井部が崩落しているのみで，竈の遺存はよい。規模は，焚口部から煙道部まで長さ115cm，最大幅140cmである。火床部はほぼ平らで，掘り窪められた形跡はない。煙道部は，壁外への突出が少なく，火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，粘土粒子少量，炭化物微量
6　褐　　色　粘土粒子多量，炭化物少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化物微量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，炭化物微量
9　黒　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
10　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
11　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化物少量
12　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化物少量
13　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物微量
14　黒　褐　色　粘土粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
15　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化物微量
16　黒　褐　色　粘土粒子中量，炭化物少量
17　極暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
19　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
20　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量

覆土　各層ともロームをかなり多く含んでおり，また不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

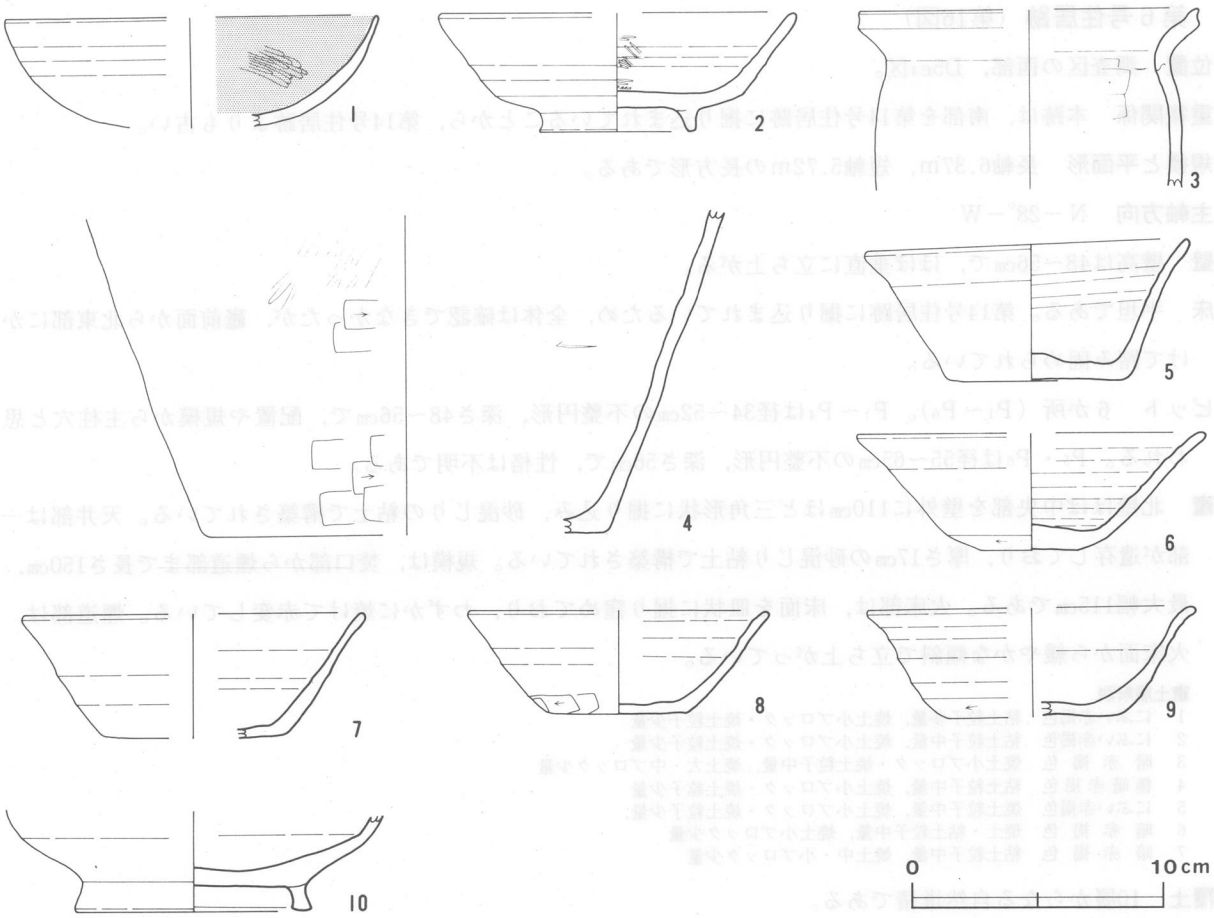
1　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量，炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片255点，須恵器片94点，鉄滓等が出土している。特に，竈内からの出土が多いのが特徴である。第15図１の土師器坏は南西コーナー部床面直上から，２の土師器高台付坏，４の土師器甕，５・６・９の須恵器坏は，それぞれ竈火床面直上及び覆土下層から出土している。３の土師器甕は竈前面の覆土下層から，７の須恵器坏は北東部の覆土下層から，８の須恵器坏は北西部の覆土下層から，10の須恵器高台付坏は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀中葉）と思われる。

第５号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第15図 1	坏 土師器	A〔14.8〕 B（4.4）	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P26　10% 床面
2	高台付坏 土師器	A〔14.2〕 B　4.8 D　6.2 E　0.9	高台部から口縁部片。高台は直線的に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。体部内面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P27　50% 竈火床面



第15図　第５号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第15図 3	甕 土師器	A〔13.6〕 B（7.2）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P28　5％ 覆土下層
4	甕 土師器	B〔12.8〕 C〔15.8〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P29　10％ 竈火床面
5	坏 須恵器	A　12.8 B　5.7 C　7.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り，底部周縁ナデ。	長石・石英・スコリア・パミス 灰色 普通	P30　60％　PL23 竈火床面
6	坏 須恵器	A〔13.8〕 B　4.7 C　4.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・パミス 灰白色 普通	P31　50％ 竈火床面
7	坏 須恵器	A〔13.5〕 B　5.0 C〔7.4〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り，底部周縁ナデ。	長石・石英・パミス 灰黄色 普通	P32　30％ 覆土下層
8	坏 須恵器	A〔12.0〕 B　4.1 C　5.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 灰白色 普通	P33　30％ 覆土下層
9	坏 須恵器	A〔13.0〕 B　4.4 C〔7.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P34　30％ 竈火床面
10	高台付坏 須恵器	B（3.8） D　9.4 E　1.1	高台部から体部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開き，端部は広がる。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P35　30％ 覆土中層

第６号住居跡（第16図）

位置　調査区の西部，D5e$_4$区。

重複関係　本跡は，南部を第14号住居跡に掘り込まれていることから，第14号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.37m，短軸5.72mの長方形である。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は48～56cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦である。第14号住居跡に掘り込まれているため，全体は確認できなかったが，竈前面から北東部にかけて踏み固められている。

ピット　６か所（P$_1$～P$_6$）。P$_1$～P$_4$は径34～52cmの不整円形，深さ48～56cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$・P$_6$は径55～65cmの不整円形，深さ56cmで，性格は不明である。

竈　北壁ほぼ中央部を壁外に110cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は一部が遺存しており，厚さ17cmの砂混じり粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで長さ150cm，最大幅115cmである。火床部は，床面を皿状に掘り窪めており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土大・中ブロック少量
4　極暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，
6　暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
7　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土中・小ブロック少量

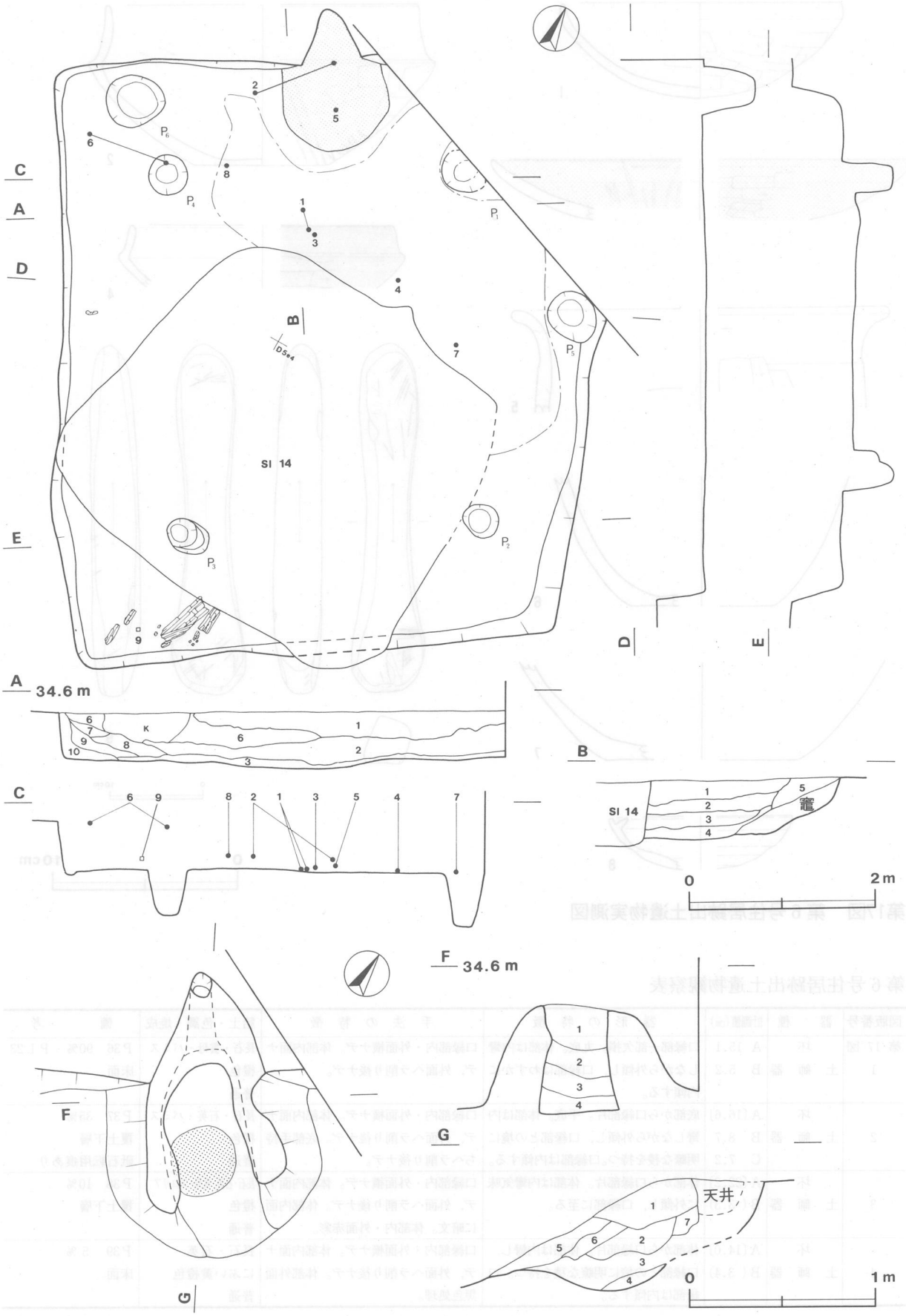
覆土　10層からなる自然堆積である。

土層解説

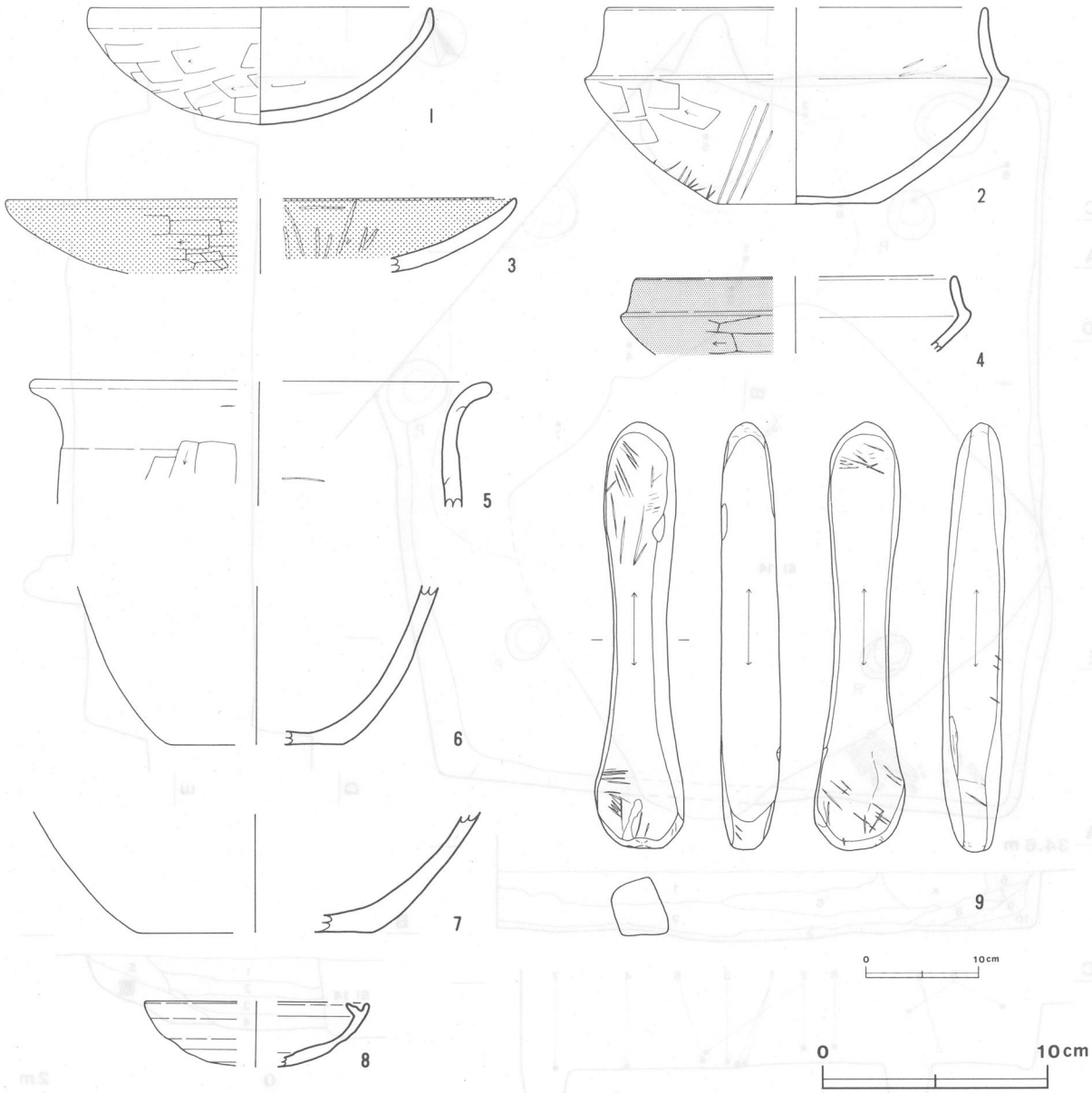
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片300点，須恵器片19点，砥石１点，炭化材等が出土している。中央部を第14号住居跡に掘り込まれているため，遺物は北部に集中して出土している。また，南東部コーナー付近から炭化材が出土している。第17図１の土師器坏は，竈前面の床面直上から出土している。２の土師器坏は，破片が竈内と竈西側の覆土下層から出土したものが接合したものである。３の土師器坏は竈前面の覆土下層から，４の土師器坏は中央部の床面直上から，５の土師器甕は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。６の土師器甕は西コーナー部の覆土上層から，７の土師器甕は東部の覆土下層から，８の須恵器坏は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。９の砥石は，南コーナー部覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（７世紀前半）と思われる。



第16図　第６号住居跡実測図



第17図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第17図 1	坏 土師器	A 15.1 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・パミス 橙色 普通	P36　90%　PL23 床面
2	坏 土師器	A〔16.6〕 B 8.7 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P37　35% 覆土下層 砥石転用痕あり
3	坏 土師器	A〔22.2〕 B（3.3）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に暗文。体部内・外面赤彩。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P38　10% 覆土下層
4	坏 土師器	A〔14.0〕 B（3.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部外面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P39　5% 床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第17図 5	甕 土師器	A〔20.4〕 B(5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P40　5％ 竈覆土下層
6	甕 土師器	A(7.0) B〔 7.8〕	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P42　10％ 覆土上層
7	甕 土師器	B(5.2) C〔10.4〕	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・パミス 明褐色 普通	P41　10％ 覆土下層
8	坏 須恵器	A〔 9.8〕 B(2.9)	底部から体部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は短く内傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母 灰色 良好	P43　20％ 覆土下層

図版番号	器　種	計測値					出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質		
9	砥石	37.9	8.0	5.1	2163.5	凝灰岩	覆土下層	Q2　PL38

第7号住居跡（第18・19図）

位置　調査区の北西部，C4d0区。

重複関係　本跡は，第10号住居跡を掘り込んでいることから，第10号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸（10.18）m，短軸（7.20）mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は66～72cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下すべてに回る。上幅30cm，下幅10cm，深さ6cmで，断面形は逆台形である。

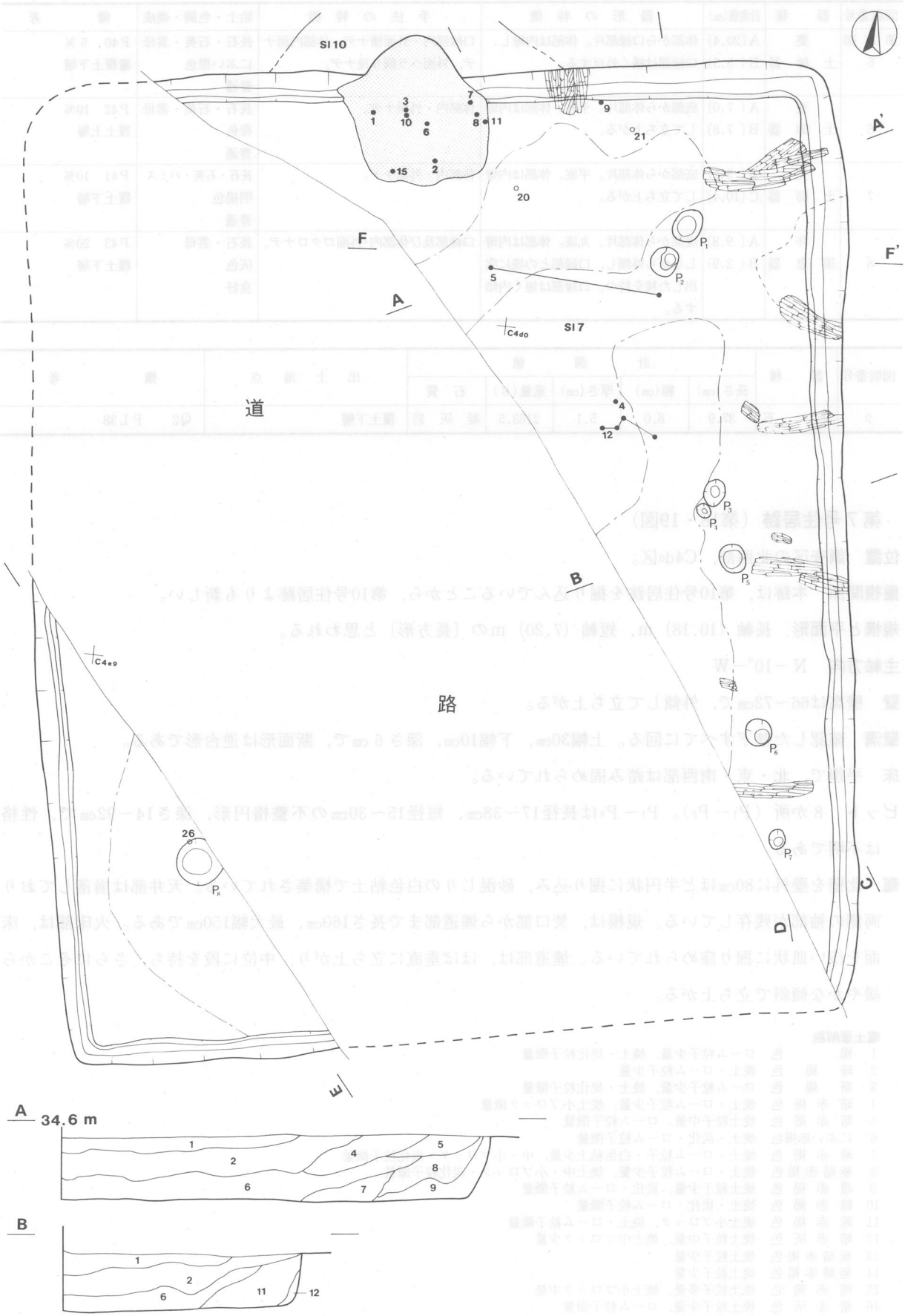
床　平坦で，北・東・南西部は踏み固められている。

ピット　8か所（P_1～P_8）。P_1～P_8は長径17～38cm，短径15～30cmの不整楕円形，深さ14～92cmで，性格は不明である。

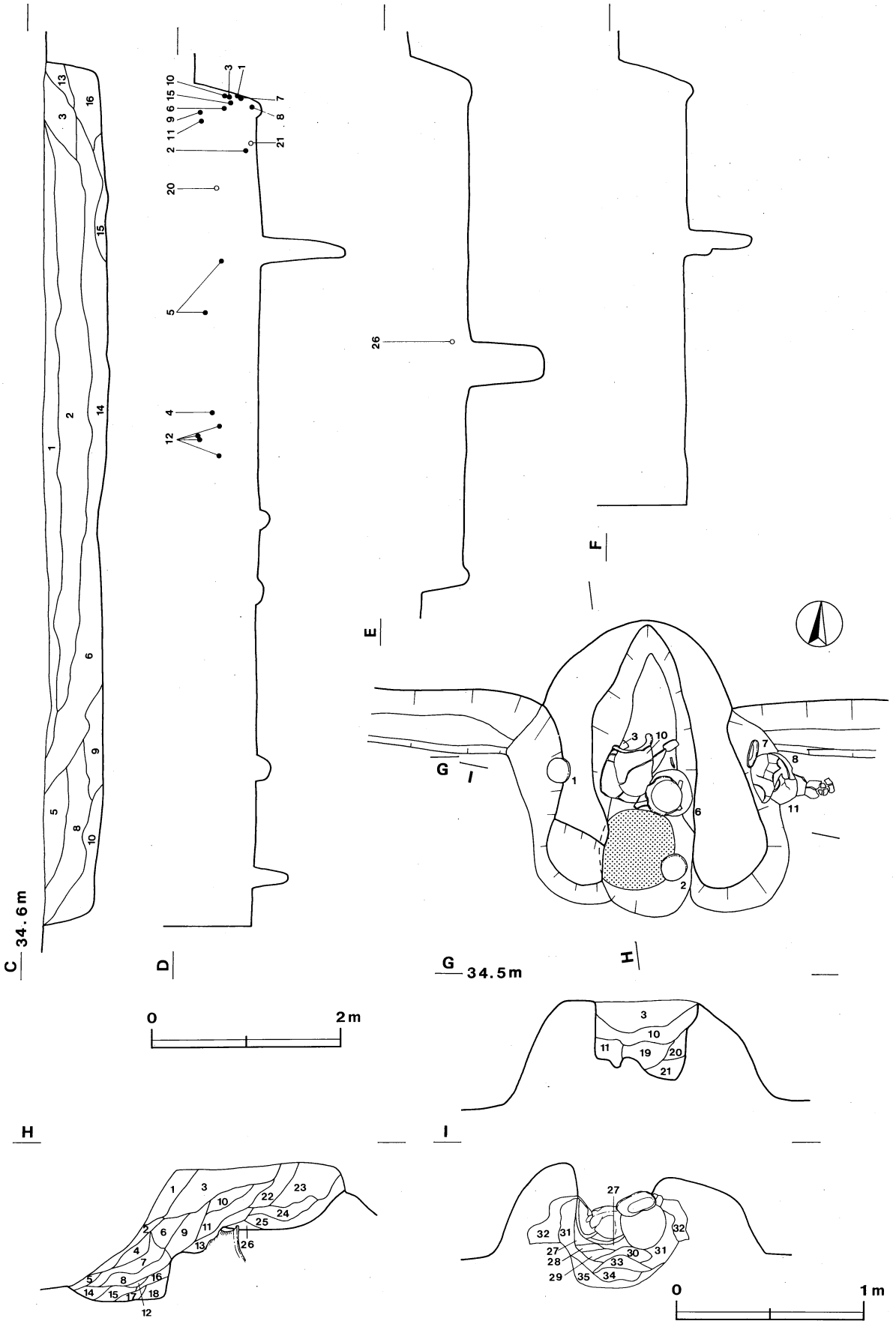
竈　北壁を壁外に80cmほど半円状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ160cm，最大幅150cmである。火床部は，床面を浅い皿状に掘り窪められている。煙道部は，ほぼ垂直に立ち上がり，中位に段を持ち，さらにそこから緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

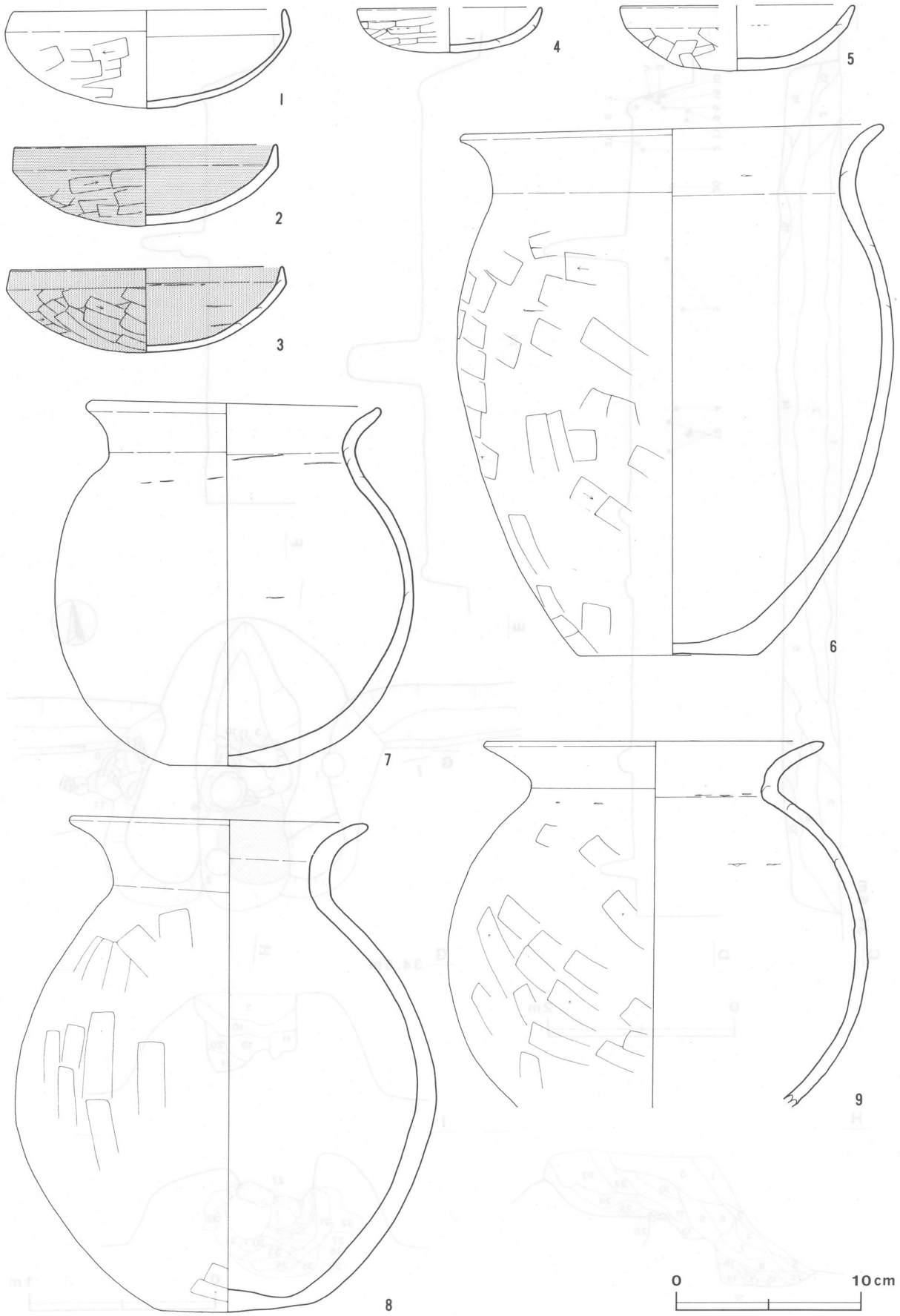
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
7　暗赤褐色　焼土・ローム粒子・白色粘土少量，中・小ブロック・炭化粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
10　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック，焼土・ローム粒子微量
12　暗赤灰色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
13　極暗赤褐色　焼土粒子少量
14　極暗赤褐色　焼土粒子少量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
16　暗赤灰色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
17　暗赤灰色　焼土粒子中量
18　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
19　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量



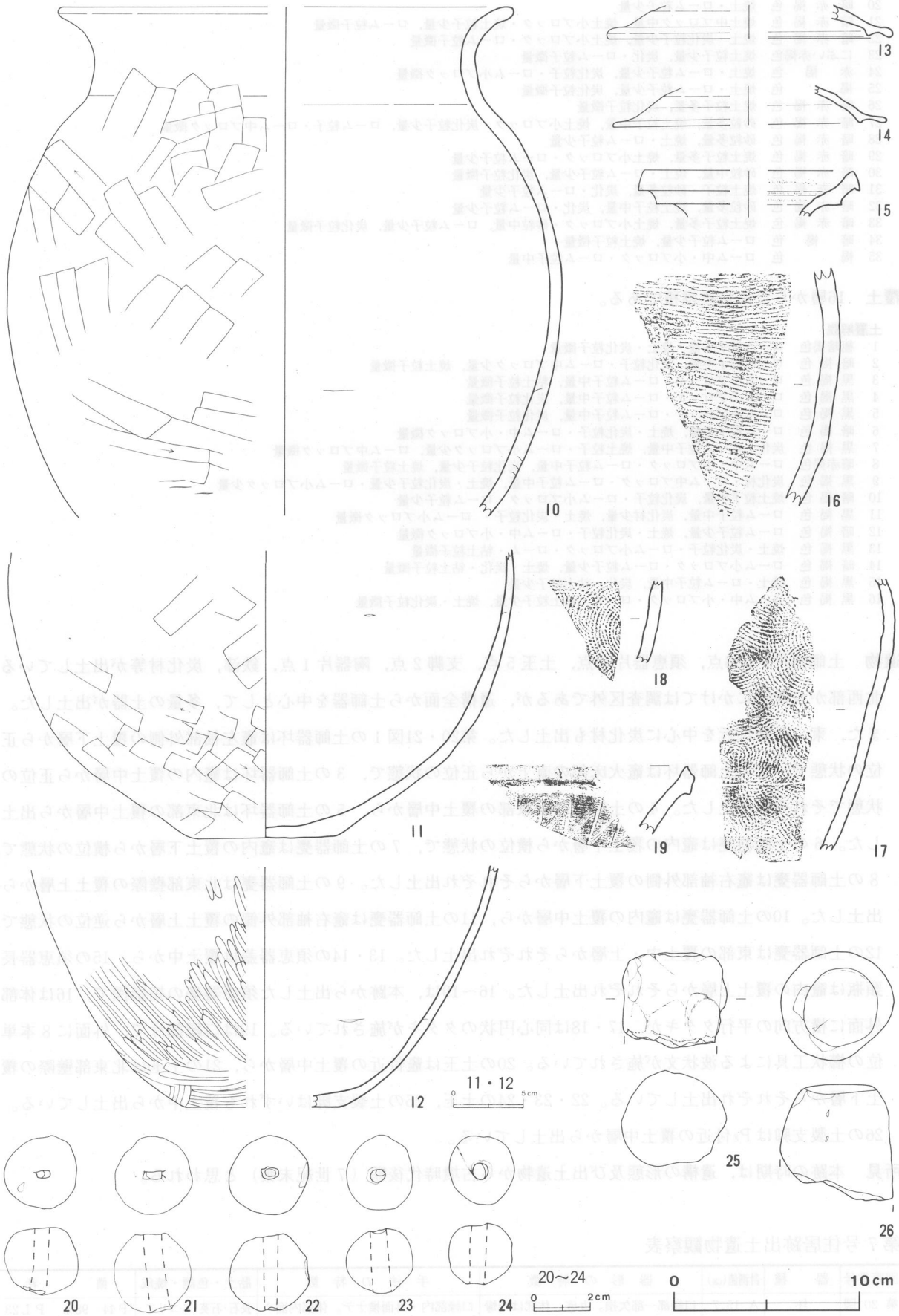
第18図　第７号住居跡実測図(1)



第19図　第７号住居跡実測図(2)



第20図　第７号住居跡出土遺物実測図(1)



第21図　第７号住居跡出土遺物実測図(2)

20　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量
21　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
22　暗 赤 褐 色　焼土・炭化粒子少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
23　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
24　赤　褐　色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
25　褐　　色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
26　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
27　暗 赤 褐 色　砂粒多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・ローム中ブロック微量
28　暗 赤 褐 色　砂粒多量，焼土・ローム粒子少量
29　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
30　暗 赤 褐 色　砂粒中量，焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
31　暗 赤 褐 色　焼土粒子・砂粒多量，炭化・ローム粒子少量
32　暗 赤 褐 色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化・ローム粒子少量
33　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
34　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
35　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

覆土　16層からなる自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量・焼土・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
7　黒 褐 色　炭化・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
8　暗赤褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　黒 褐 色　炭化材・ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量・ローム小ブロック少量
10　暗 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化材少量，焼土・炭化粒子・ ローム小ブロック微量
12　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
13　黒 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子微量
14　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化・粘土粒子微量
15　黒 褐 色　焼土・ローム粒子中量，炭化・粘土粒子少量
16　黒 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量

遺物　土師器片1,538点，須恵器片99点，土玉５点，支脚２点，陶器片１点，鉄滓，炭化材等が出土している。北西部から南部にかけては調査区外であるが，遺構全面から土師器を中心として，多量の土器が出土した。また，東・北壁付近を中心に炭化材も出土した。第20・21図１の土師器坏は竈左袖部外側の覆土下層から正位の状態で，２の土師器坏は竈火床部の直上から正位の状態で，３の土師器坏は竈内の覆土中層から正位の状態でそれぞれ出土した。４の土師器坏は東部の覆土中層から，５の土師器坏は北東部の覆土中層から出土した。６の土師器甕は竈内の覆土中層から横位の状態で，７の土師器甕は竈内の覆土下層から横位の状態で，８の土師器甕は竈右袖部外側の覆土下層からそれぞれ出土した。９の土師器甕は北東部壁際の覆土上層から出土した。10の土師器甕は竈内の覆土中層から，11の土師器甕は竈右袖部外側の覆土上層から逆位の状態で，12の土師器甕は東部の覆土中・上層からそれぞれ出土した。13・14の須恵器蓋は覆土中から，15の須恵器長頸瓶は竈内の覆土上層からそれぞれ出土した。16～19は，本跡から出土した須恵器甕の拓影図で，16は体部外面に横方向の平行タタキが，17・18は同心円状のタタキが施されている。19は口縁部片で，外面に８本単位の櫛状工具による波状文が施されている。20の土玉は竈付近の覆土中層から，21の土玉は北東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。22・23・24の土玉，25の土製支脚はいずれも覆土中から出土している。26の土製支脚はP_8付近の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（７世紀末葉）と思われる。

第７号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 20 図 1	坏 土師器	A 15.7 B 5.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し,口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石･石英･スコリア にぶい褐色 良好	P44 98% PL23 竈覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 2	坏 土師器	A 14.2 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し,口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	雲母・スコリア にぶい褐色 良好	P45 95% PL23 竈火床面
3	坏 土師器	A 14.8 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し,口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 良好	P46 90% PL23 竈覆土中層
4	坏 土師器	A〔10.0〕 B 2.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・針状鉱物 橙色 良好	P47 30% 覆土中層
5	坏 土師器	A〔12.6〕 B 3.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 良好	P48 30% 覆土中層
6	甕 土師器	A 22.5 B 28.7 C 9.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P49 95% PL23 竈覆土中層
7	甕 土師器	A 15.4 B 19.8 C 6.1	平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P50 90% PL23 竈覆土下層
8	甕 土師器	A 15.6 B 27.3 C 8.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面中位ヘラ削り。	長石・石英・スコリア・パミス 橙色 普通	P51 50% PL23 竈覆土下層
9	甕 土師器	A 18.1 B (19.7)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面中位ヘラ削り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P52 60% PL24 覆土上層
第21図 10	甕 土師器	A〔24.2〕 B (27.4)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し,口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 明黄褐色 普通	P53 30% PL24 竈覆土上層
11	甕 土師器	B (20.7) C 11.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ，外面中位から下位ヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P54 30% 覆土上層
12	甕 土師器	B (17.4) C〔11.2〕	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ，外面下位ヘラ磨き。底部ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P55 30% 覆土中・上層
13	蓋 須恵器	A〔15.2〕 B (1.8)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部は水平方向に伸び肥厚する。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P56 5% 覆土中
14	蓋 須恵器	A〔14.8〕 B (2.1)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し，外面にわずかな段を持つ。口縁部は水平方向に伸び，内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転ヘラ削り。	石英・雲母 灰白色 良好	P57 5% 覆土中
15	長頸瓶 須恵器	A〔11.4〕 B (2.5)	口縁部片。口縁部は外傾し，中位に稜を持つ。口縁端部は下方に垂下する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 灰白色 良好	P58 5% 竈覆土上層 内・外面に自然釉

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
20	土玉	2.6	2.4	0.5	16.0	覆土中層	DP5 PL36
21	土玉	2.8	2.8	0.7	21.2	覆土下層	DP6 PL36
22	土玉	2.8	2.7	0.5	19.7	覆土中	DP7 PL36
23	土玉	2.7	2.2	0.6	13.7	覆土中	DP8 PL36
24	土玉	2.4	2.2	0.5	11.3	覆土中	DP9 PL36
25	土製支脚	5.7	(5.1)	—	(131.3)	覆土中	DP10
26	土製支脚	(6.1)	(6.3)	—	(215.5)	覆土中層	DP134

第８号住居跡（第22図）

位置　調査区の北西部，B5j₂区。

重複関係　本跡は，第３号住居跡の上に床を構築しており，第３号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.67m，短軸3.48mの方形である。

主軸方向　N－５°－E

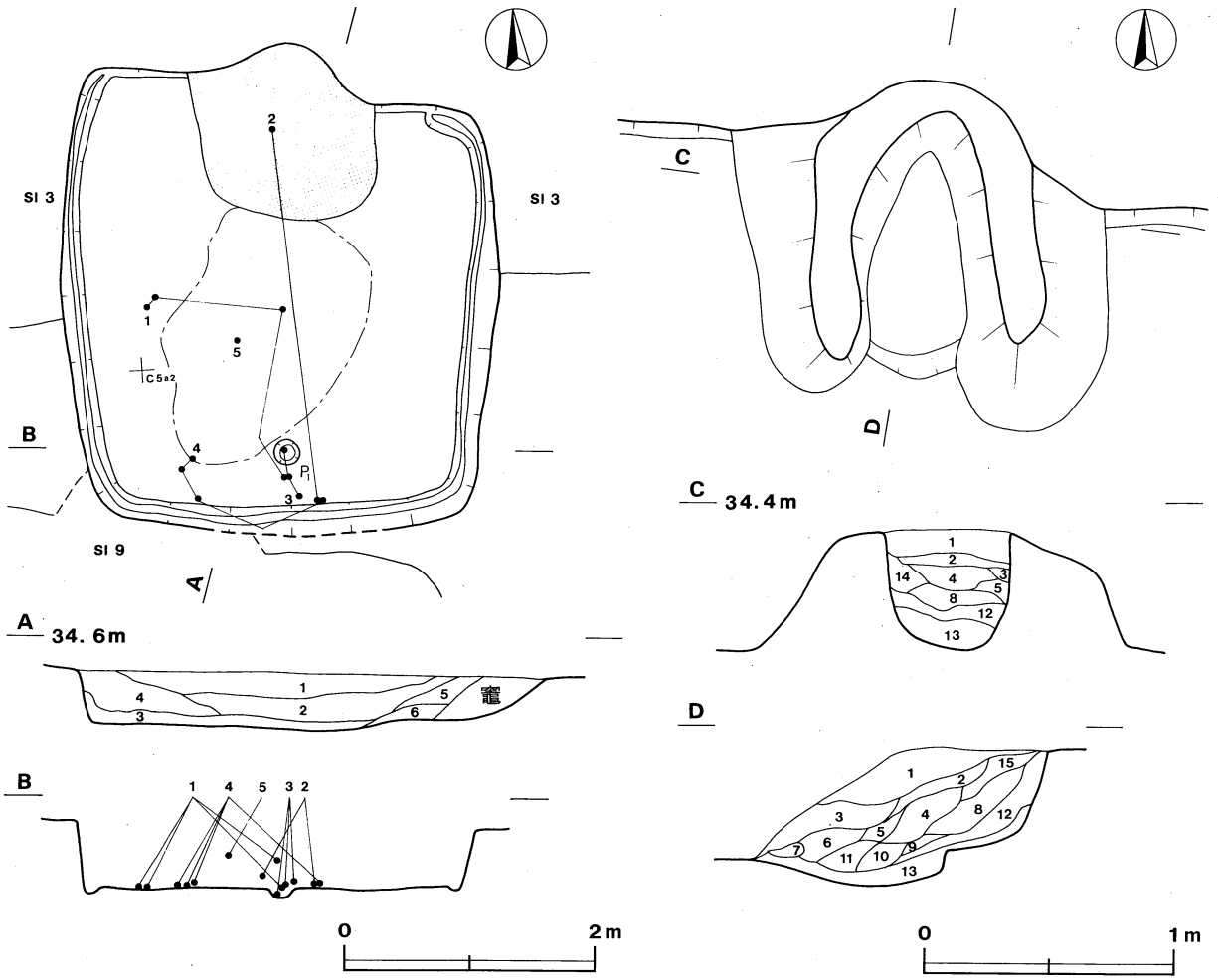
壁　壁高は46～53cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁の西側と東側の一部を除いた壁下で確認されている。上幅18cm，下幅５cm，深さ８cmで，断面形はU字形である。

床　竈前面から中央部にかけて，踏み固められている。

ピット　１か所（P_1）。P_1は径13～21cmの不整円形，深さ８cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　第３号住居跡の床上，本跡北壁中央部を壁外にわずかに掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ120cm，最大幅が150cmである。火床部は，床面を10cmほど掘り窪めている。煙道部は下位に段を持ち，徐々に角度を増して急に立ち上がっている。



第22図　第８号住居跡実測図

竈土層解説
1　暗 褐 色　砂粒多量，焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，焼土中・小ブロック・炭化物・炭化・ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土・ローム粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土・ローム粒子・砂粒少量
7　暗 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
10　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
11　暗 褐 色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化・ローム粒子少量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
13　暗 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
14　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
15　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　6層からなる自然堆積である。

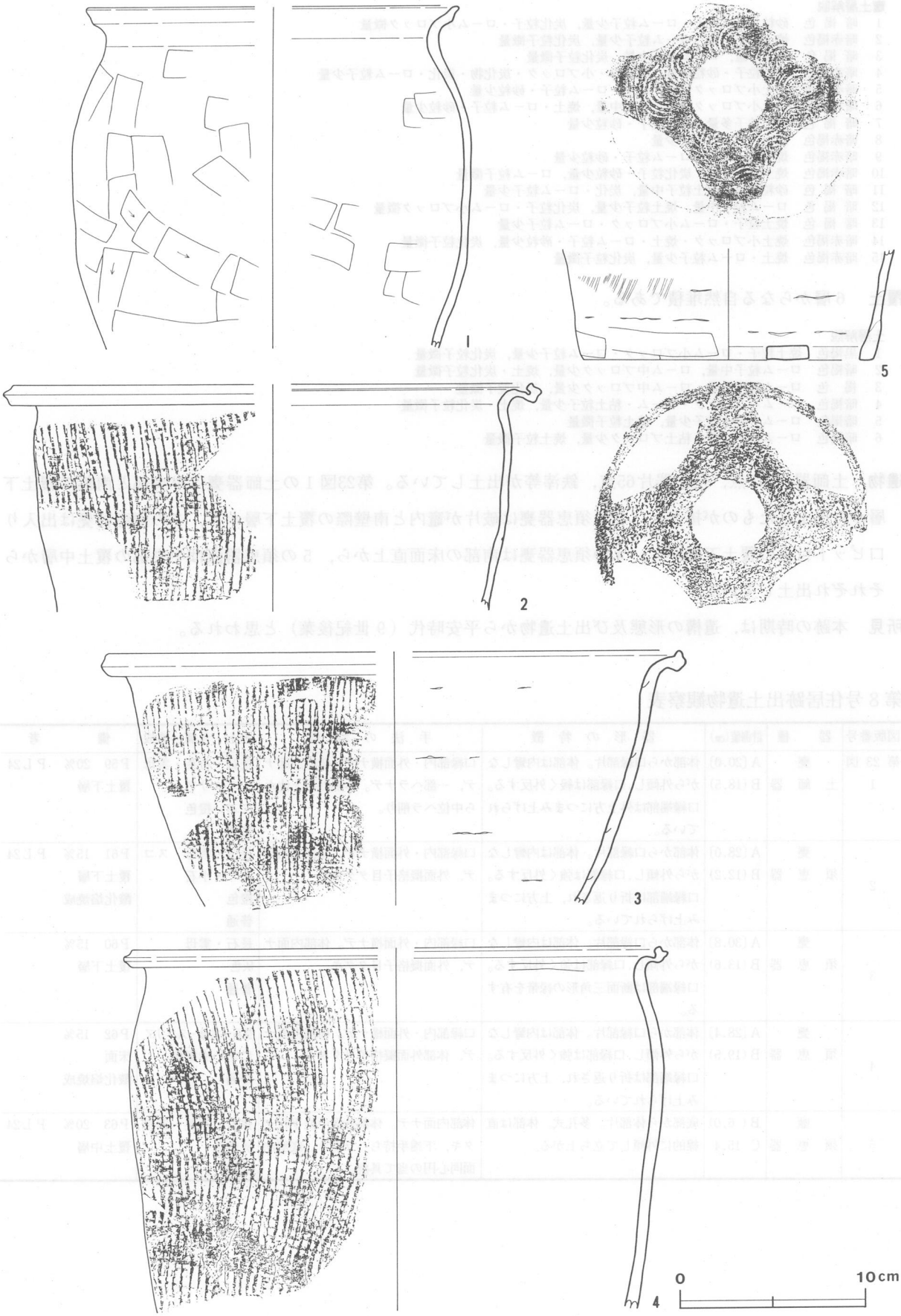
土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片517点，須恵器片65点，鉄滓等が出土している。第23図1の土師器甕は中央部と南部の覆土下層から出土したものが接合し，2の須恵器甕は破片が竈内と南壁際の覆土下層から，3の須恵器甕は出入り口ピット付近の覆土下層から，4の須恵器甕は南部の床面直上から，5の須恵器甑は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後葉）と思われる。

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第23図 1	甕 土師器	A〔20.0〕 B(18.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面上位から中位ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P59 20% PL24 覆土下層
2	甕 須恵器	A〔28.0〕 B(12.2)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は折り返され，上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面擬格子目タタキ。	長石・雲母・スコリア・小石 橙色 普通	P61 15% PL24 覆土下層 酸化焔焼成
3	甕 須恵器	A〔30.8〕 B(13.6)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を有する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面擬格子目タタキ。	長石・雲母 灰色 普通	P60 15% 覆土下層
4	甕 須恵器	A〔28.4〕 B(19.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は折り返され，上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，体部外面擬格子目タタキ。	長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P62 15% 床面 酸化焔焼成
5	甑 須恵器	B(6.0) C 15.4	底部から体部片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面中位平行タタキ，下端手持ちヘラ削り。底部内面同心円の当て具痕。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P63 20% PL24 覆土中層



第23図　第８号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡（第24・25図）

位置　調査区の北西部，C5b1区。

重複関係　本跡の上に第８号住居跡が構築されている。また，第12号土坑は本跡を掘り込んでいる。本跡は，両遺構よりも古い。

規模と平面形　長軸6.14m，短軸6.02mの方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は56～67cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅25cm，下幅13cm，深さ13cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径60～75cmの不整円形，深さ46～66cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径50cm，短径35cmの不整楕円形，深さ40cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部からやや東よりに付設され，砂混じりの粘土で構築されているが，第８号住居跡に北部を掘り込まれているため遺存状態は悪い。天井部は崩落し，両側の袖部が残存している。火床部は，床面を皿状に掘り窪められている。煙道部は，火床面から緩やかに立ち上がり，中位からはほぼ垂直に立ち上がる。

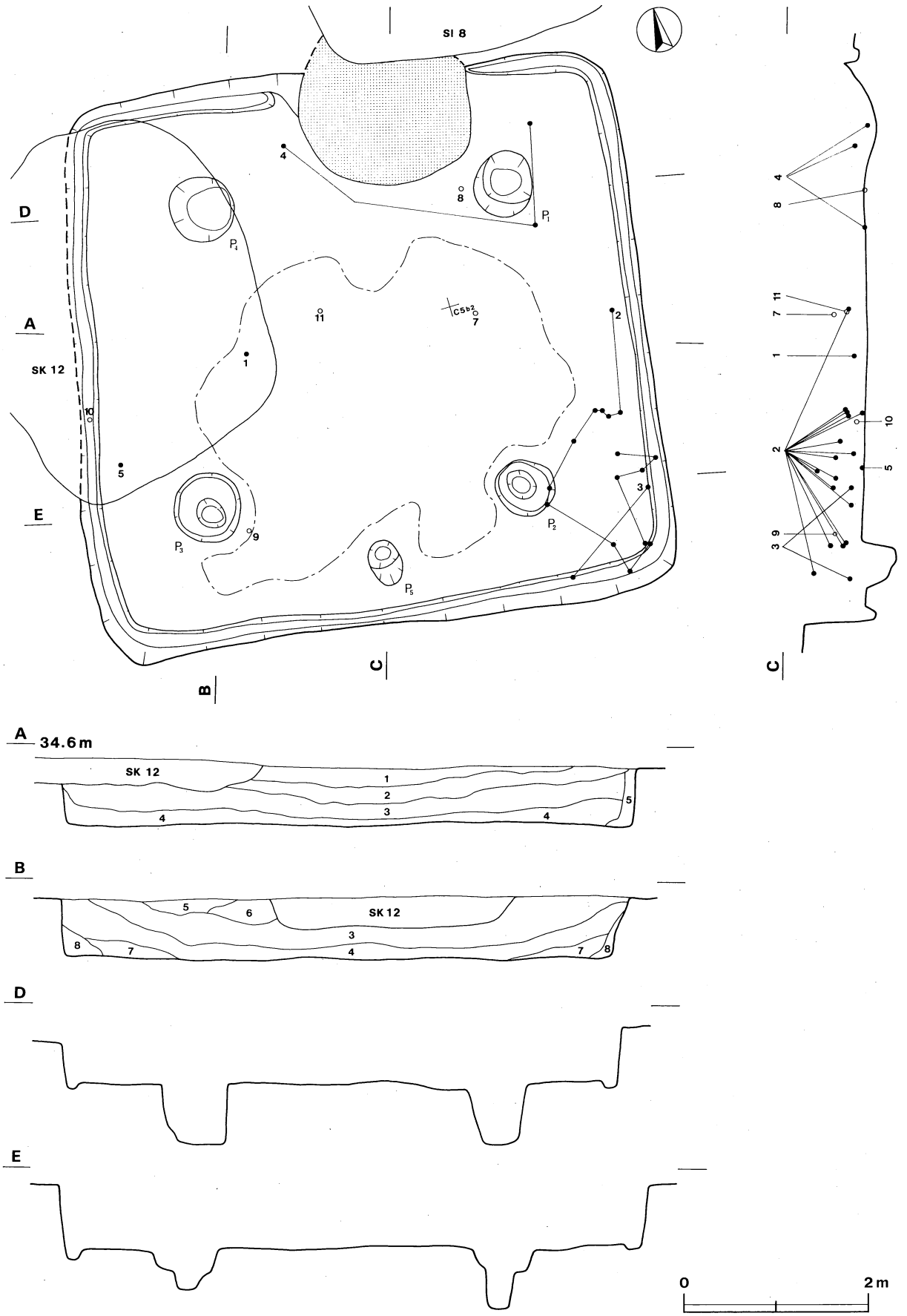
竈土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土中ブロック・ローム粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土・ローム粒子微量
6　褐色　焼土・ローム粒子微量
7　暗赤褐色　焼土・ローム粒子微量
8　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土・ローム粒子微量
9　暗赤褐色　焼土中ブロック少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
10　黒褐色　焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量，炭化・ローム粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
12　褐色　砂粒多量，ローム粒子微量
13　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
15　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
16　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
17　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
18　暗赤褐色　焼土・ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
19　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
20　暗赤褐色　砂粒少量，焼土中ブロック・焼土・焼土粒子微量
21　暗赤褐色　砂粒少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
22　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子少量，炭化材微量
23　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
24　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
25　暗赤褐色　砂粒多量，炭化粒子少量，焼土中・小ブロック微量
26　暗赤褐色　砂粒多量，焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
27　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
28　極暗赤褐色　炭化・ローム粒子少量
29　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
30　暗赤褐色　焼土・炭化粒子少量
31　暗赤褐色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子少量
32　極暗赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土・炭化粒子中量，ローム粒子少量
33　暗赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

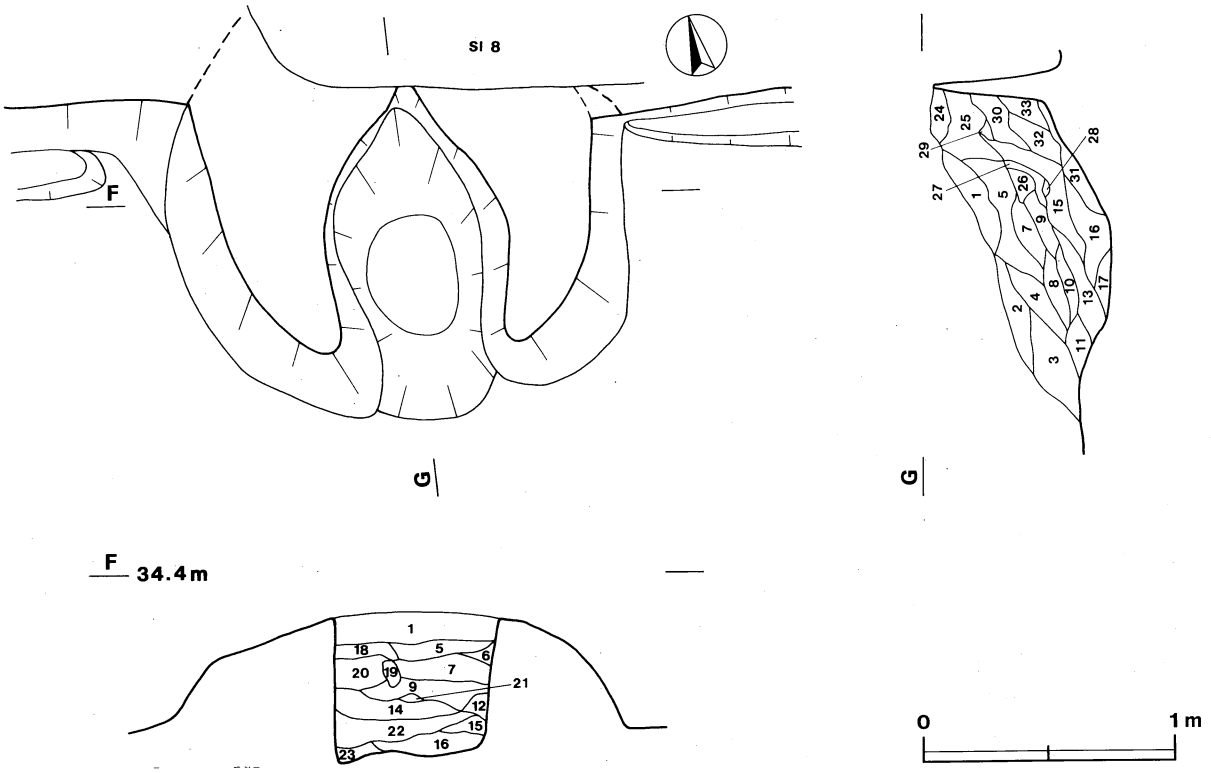
覆土　８層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
5　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
8　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量



第24図　第９号住居跡実測図(1)



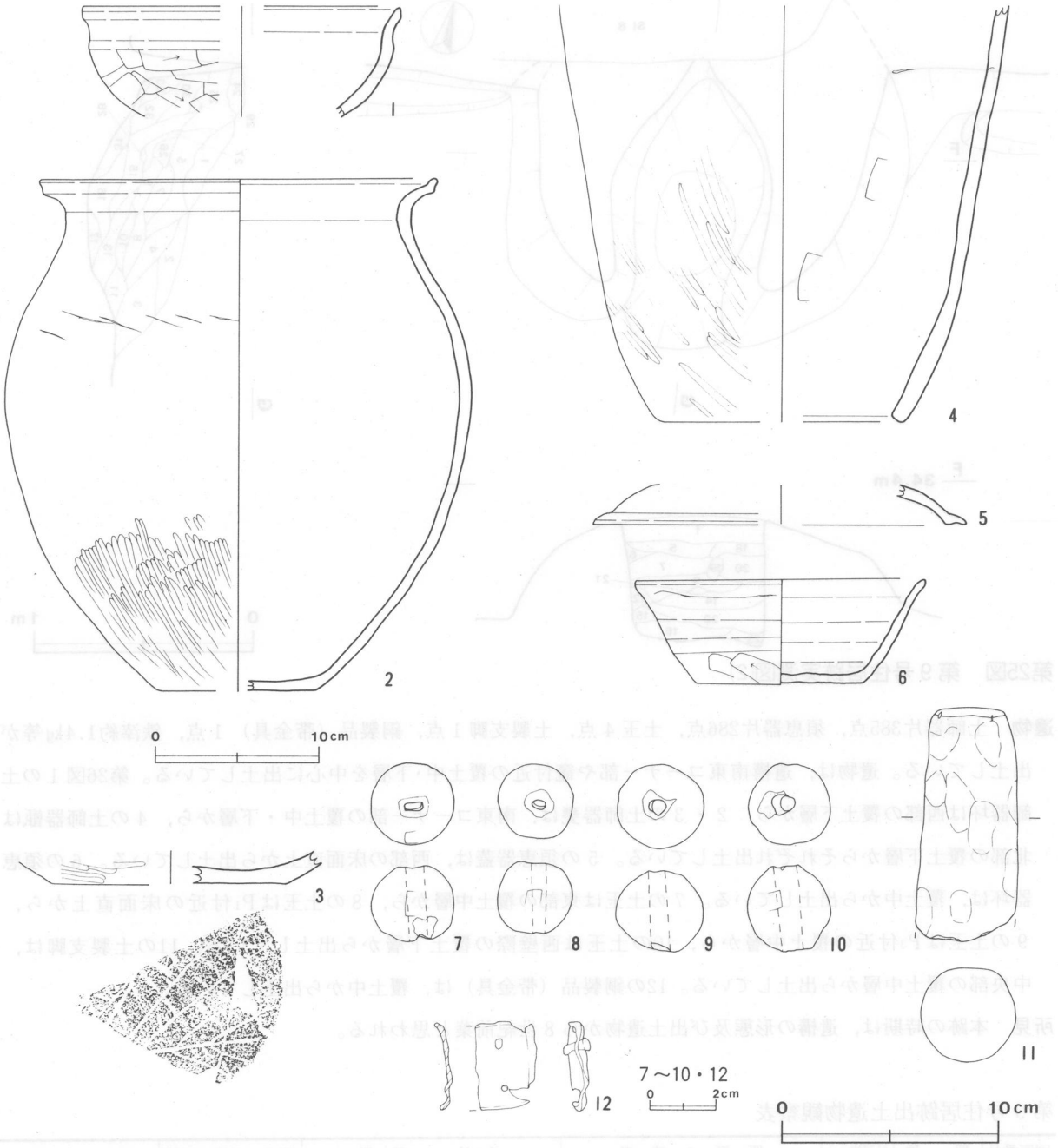
第25図　第９号住居跡実測図(2)

遺物　土師器片385点，須恵器片286点，土玉４点，土製支脚１点，銅製品（帯金具）１点，鉄滓約1.4kg等が出土している。遺物は，遺構南東コーナー部や竈付近の覆土中･下層を中心に出土している。第26図１の土師器坏は西部の覆土下層から，２・３の土師器甕は，南東コーナー部の覆土中・下層から，４の土師器甑は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。５の須恵器蓋は，西部の床面直上から出土している。６の須恵器坏は，覆土中から出土している。７の土玉は東部の覆土中層から，８の土玉はP_1付近の床面直上から，９の土玉はP_3付近の覆土中層から，10の土玉は西壁際の覆土下層から出土している。11の土製支脚は，中央部の覆土中層から出土している。12の銅製品（帯金具）は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前葉と思われる。

第９号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第26図 1	坏 土師器	A〔14.6〕 B(5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は外反する。体部内面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石･石英･スコリア･パミス にぶい橙色 普通	P65　20% 覆土下層
2	甕 土師器	A 24.0 B 31.3 C〔 9.7〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P66　30%　PL24 覆土中・下層
3	甕 土師器	B(1.6) C〔10.8〕	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部下位内面ナデ，外面ヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P67　5% 覆土中・下層
4	甑 土師器	B(19.2) C〔11.2〕	底部から体部片。無底式。体部下位は内彎気味に，上位は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ,一部ヘラ削り後ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き。	長石･石英･雲母･スコリア 橙色 普通	P68　30%　PL24 覆土下層



第26図　第９号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第26図 5	蓋 須恵器	A〔17.2〕 B（1.8）	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部は水平方向に伸び，内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P69　5％ 床面
6	坏 須恵器	A 13.3 B 4.9 C 7.7	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・雲母・パミス 灰黄褐色 普通	P64　60％ 覆土中

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第26図7	土　玉	2.6	2.4	0.6	15.4	覆土中層	DP11　PL36
8	土　玉	2.3	2.2	0.4	11.6	床面	DP12　PL36
9	土　玉	2.6	2.4	0.5	15.1	覆土中層	DP13　PL36
10	土　玉	2.6	2.6	0.6	15.1	覆土下層	DP14　PL36
11	土製支脚	4.7	(10.8)	—	(225.4)	覆土中層	DP15

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	帯金具	2.7	(1.9)	0.9	(1.2)	覆土中	M2　銅製品（鉈尾）　PL41

第10号住居跡（第27図）

位置　調査区の北西部，C4c9区。

重複関係　本跡は，第7号住居跡・第18号土坑に掘り込まれていることから，両遺構よりも古い。

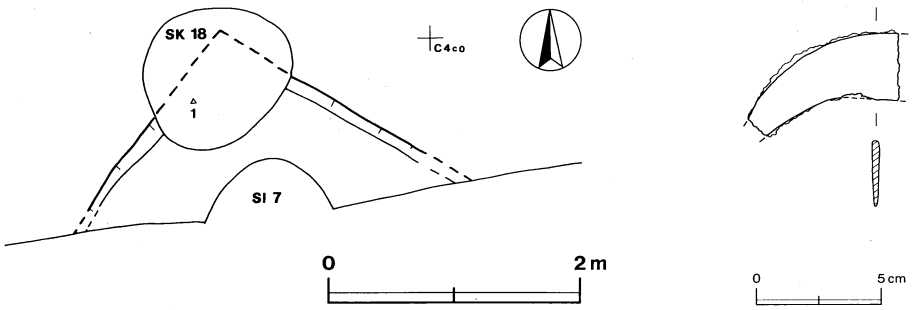
規模と平面形　長軸（1.20）m，短軸（0.85）mで，北部を第18号土坑に，南部を第7号住居跡に掘り込まれているため平面形は不明である。

主軸方向　不明である。

壁　外傾して立ち上がる。

遺物　須恵器片1点，鉄鎌1点が出土している。第27図1の鉄鎌は，北部コーナー部中層から出土している。

所見　本跡は，第7号住居跡・第18号土坑に掘り込まれ，出土遺物も少なく正確な時期は不明である。



第27図　第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第27図1	鉄　鎌	(6.0)	2.7	0.4	(13.6)	覆土中層	M3　PL40

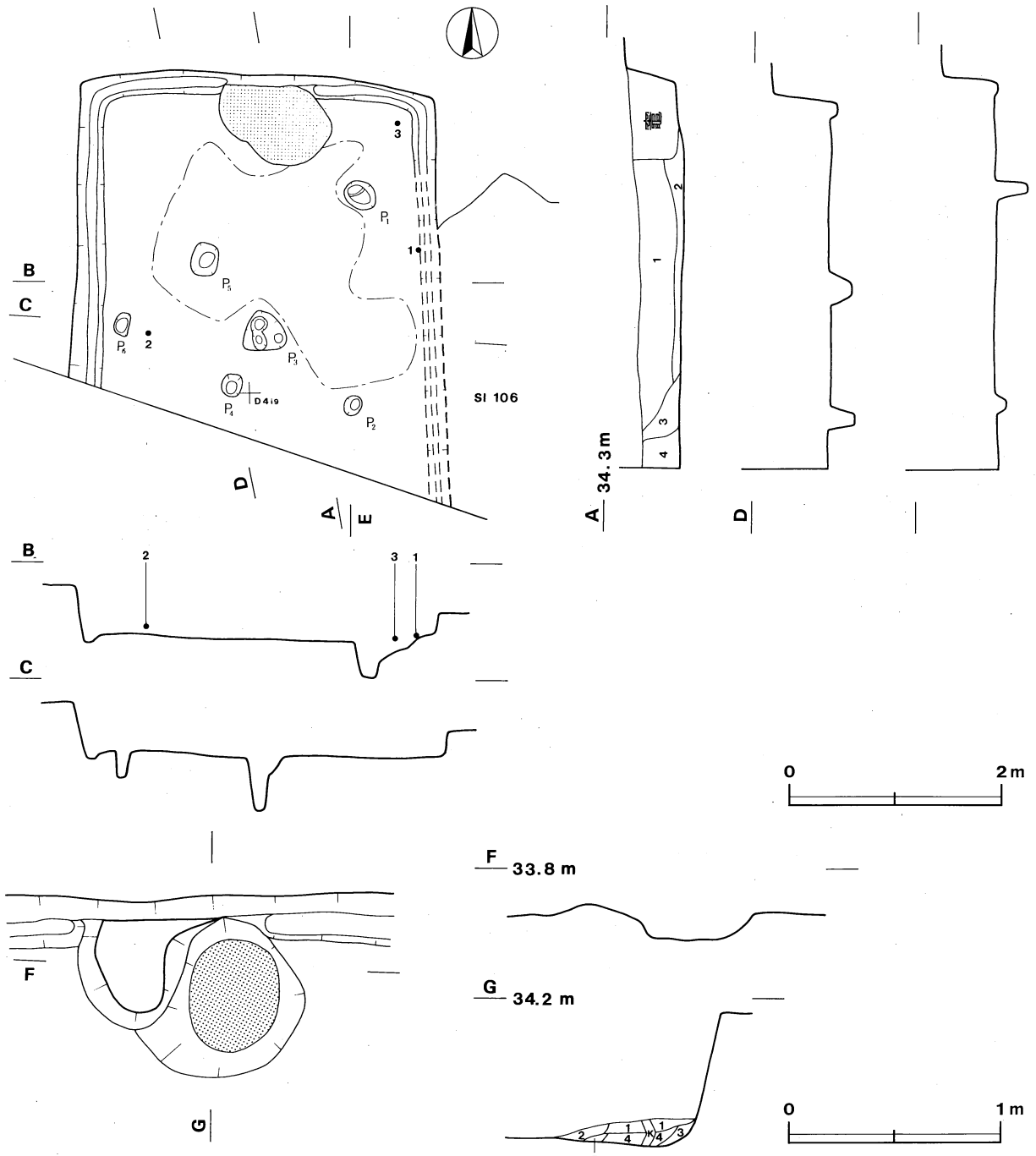
第11号住居跡（第28図）

位置　調査区の西部，D4h9区。

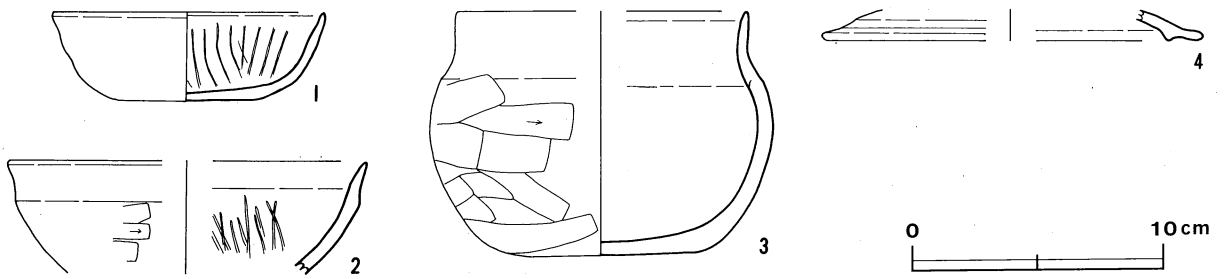
重複関係　本跡は，第106号住居跡の西部を掘り込んでいることから，第106号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸（3.86）m，短軸3.37mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向　N－3°－E



第28図　第11号住居跡実測図



第29図　第11号住居跡出土遺物実測図

壁　壁高は46～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した全ての壁下に回る。上幅26cm，下幅９cm，深さ10cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_6は長径21～38cm，短径14～38cmの不整楕円形，深さ10～50cmで性格は不明である。

竈　北壁ほぼ中央部に砂混じりの粘土で構築されているが，遺存状態は極めて悪い。右袖部は，遺存していない。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は，火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　にぶい赤褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　４層からなるが，第１層はロームブロックを多く含んでおり人為堆積と思われる。第１層以外は自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・粘土粒子少量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片225点，須恵器片11点のほか鉄滓等が出土している。第29図１の土師器坏は，東壁際の床面直上から，２の土師器坏は西部の覆土下層から，３の土師器小形甕は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。４の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前葉と思われる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	土師器 坏	A 10.8 B 4.5 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ削り。体部内面に暗文。	石英・雲母・スコリア 橙色 良好	P70　70%　PL24 床面
2	土師器 坏	A〔14.2〕 B（4.5）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，緩やかな稜を経て，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ,外面ヘラ削り。体部内面に暗文。	長石・石英・スコリア 橙色 良好	P71　10% 覆土下層
3	土師器 小形甕	A〔11.6〕 B 9.8 C 7.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，わずかな稜を経て，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・雲母・スコロア にぶい橙色 普通	P72　60% 覆土下層 二次火熱痕
4	須恵器 蓋	A〔15.2〕 B（1.3）	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部は水平方向に伸び，内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	石英・雲母 灰白色 普通	P74　5% 覆土中

第12号住居跡（第30図）

位置　調査区の北西部，B5j 4区。

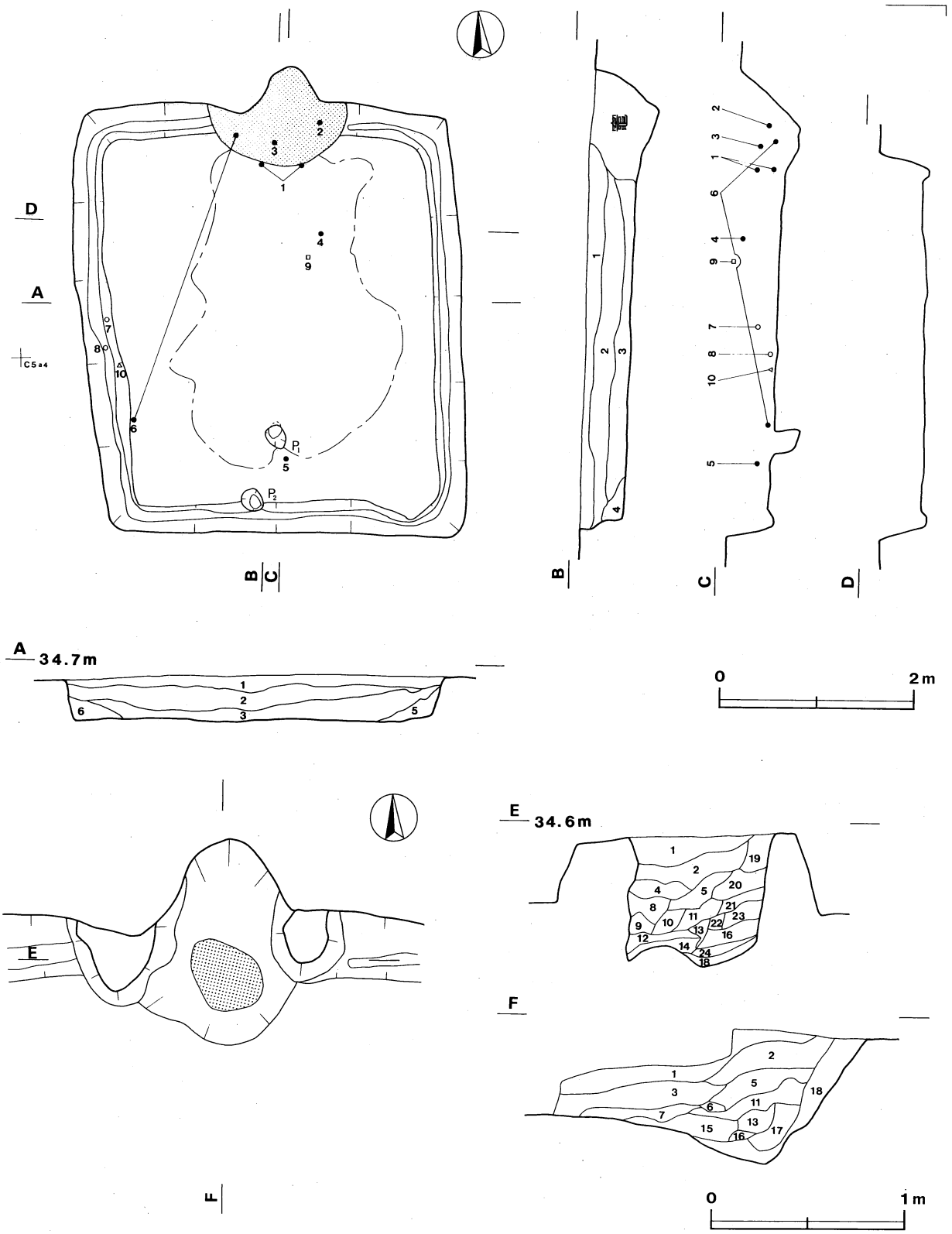
規模と平面形　長軸4.43m，短軸3.96mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は42～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅19cm，下幅８cm，深さ７cmで，断面形は逆台形である。

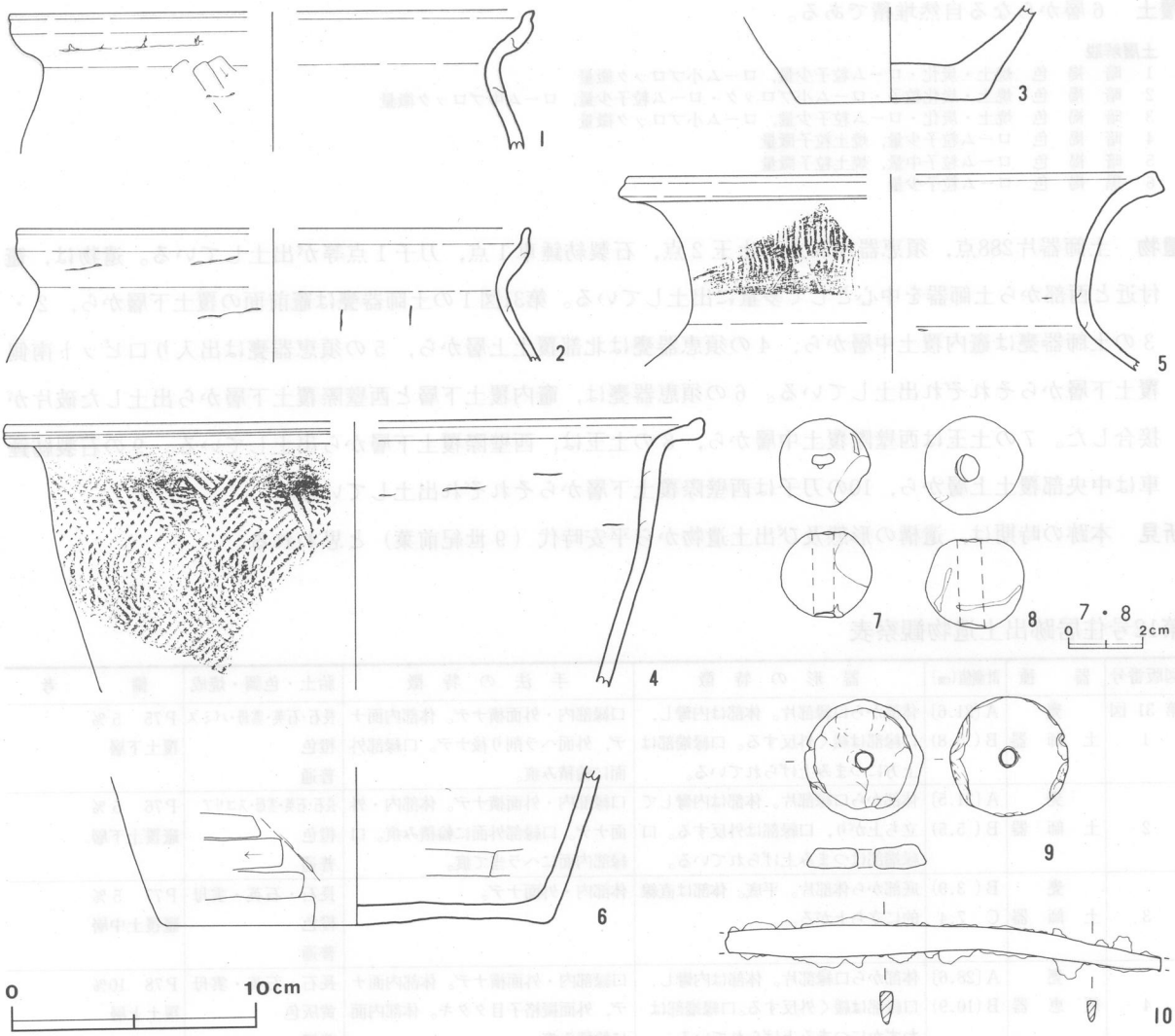
床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。



第30図　第12号住居跡実測図

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径25㎝，短径18㎝の不整楕円形，深さ約28㎝で，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径25㎝，短径20㎝の不整楕円形，深さ26㎝で，性格は不明である。

竈　北壁ほぼ中央部を，壁外に75㎝ほど掘り込み構築されているが，粘土等はあまり使われていない。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ210㎝，最大幅280㎝である。



第31図　第12号住居跡出土遺物実測図

火床部は床面を25cmほど掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
4　極暗褐色　粒多量，焼土・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
12　暗赤褐色　焼土・ローム粒子中量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
14　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
15　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
16　暗赤褐色　砂粒・焼土粒子多量，炭化粒子少量
17　暗赤褐色　砂粒・焼土粒子多量，炭化・ローム粒子少量
18　暗赤褐色　砂粒多量，焼土・ローム粒子中量
19　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
20　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化材・炭化粒子微量
21　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
22　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
23　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂粒少量
24　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片288点，須恵器片38点，土玉２点，石製紡錘車１点，刀子１点等が出土している。遺物は，竈付近と西部から土師器を中心として多量に出土している。第31図１の土師器甕は竈前面の覆土下層から，２・３の土師器甕は竈内覆土中層から，４の須恵器甕は北部覆土上層から，５の須恵器甕は出入り口ピット南側覆土下層からそれぞれ出土している。６の須恵器甕は，竈内覆土下層と西壁際覆土下層から出土した破片が接合した。７の土玉は西壁際覆土中層から，８の土玉は，西壁際覆土下層から出土している。９の石製紡錘車は中央部覆土上層から，10の刀子は西壁際覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	甕 土師器	A〔21.6〕 B（5.8）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。口縁部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母・パミス 橙色 普通	P75　5％ 覆土下層
2	甕 土師器	A〔21.5〕 B（5.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕。口縁部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P76　5％ 竈覆土下層
3	甕 土師器	B（3.9） C　7.4	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P77　5％ 竈覆土中層
4	甕 須恵器	A〔28.6〕 B（10.9）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面擬格子目タタキ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P78　10％ 覆土上層
5	甕 須恵器	A〔21.6〕 B（8.2）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上位に縦方向のタタキ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 不良	P79　5％ 覆土下層
6	甕 須恵器	B（6.5） C　15.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P80　10％ 覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.5	2.4	0.6	13.4	覆土中層	DP16　PL36
8	土玉	2.7	2.4	0.7	17.8	覆土下層	DP17　PL36

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
9	石製紡錘車	5.0	0.9	0.7	30.5	粘板岩	覆土上層	Q4　PL38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	刀子	(17.8)	1.3	0.6	(34.4)	覆土下層	M4

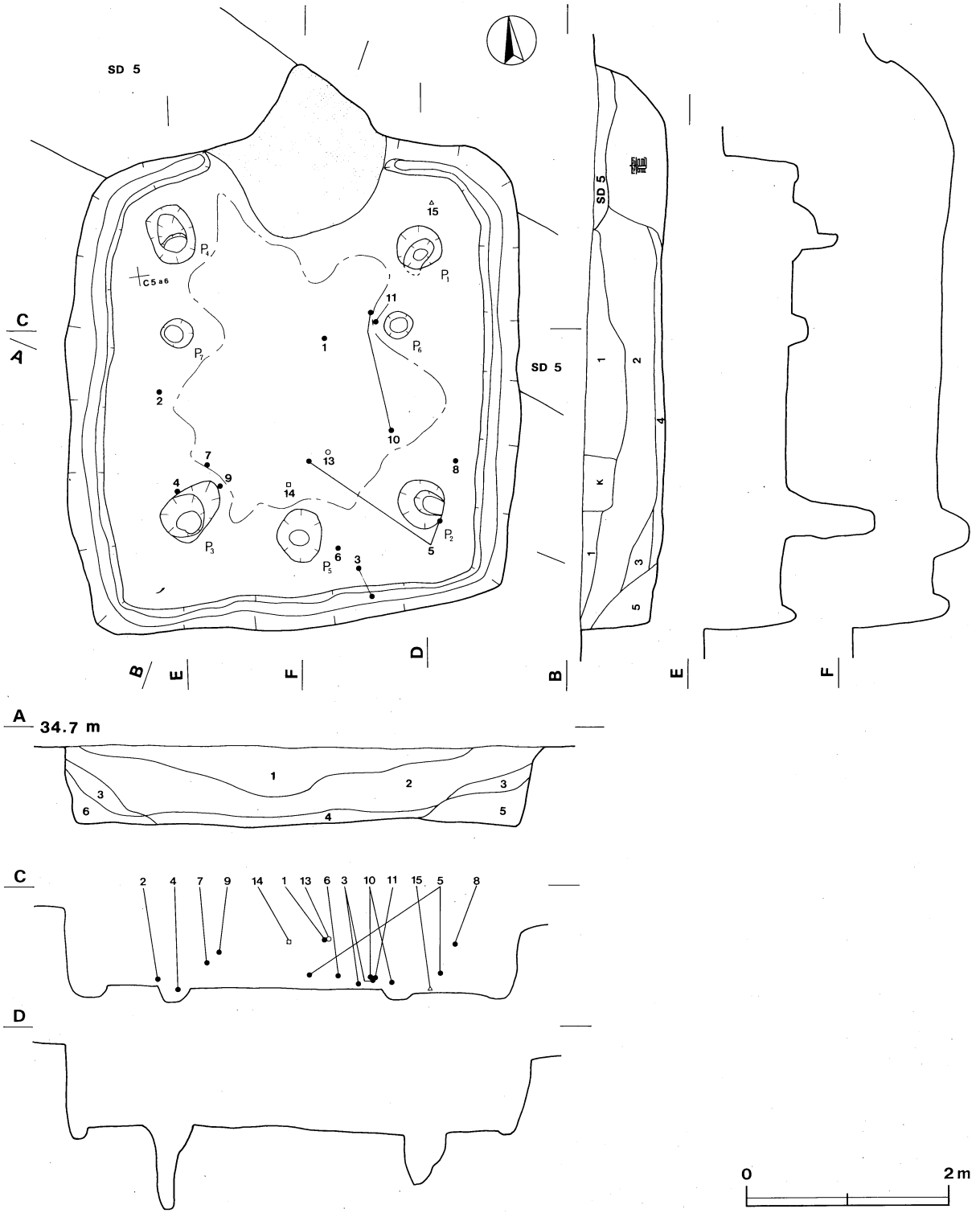
第13号住居跡（第32・33図）

位置　調査区の北西部，C5a6区。

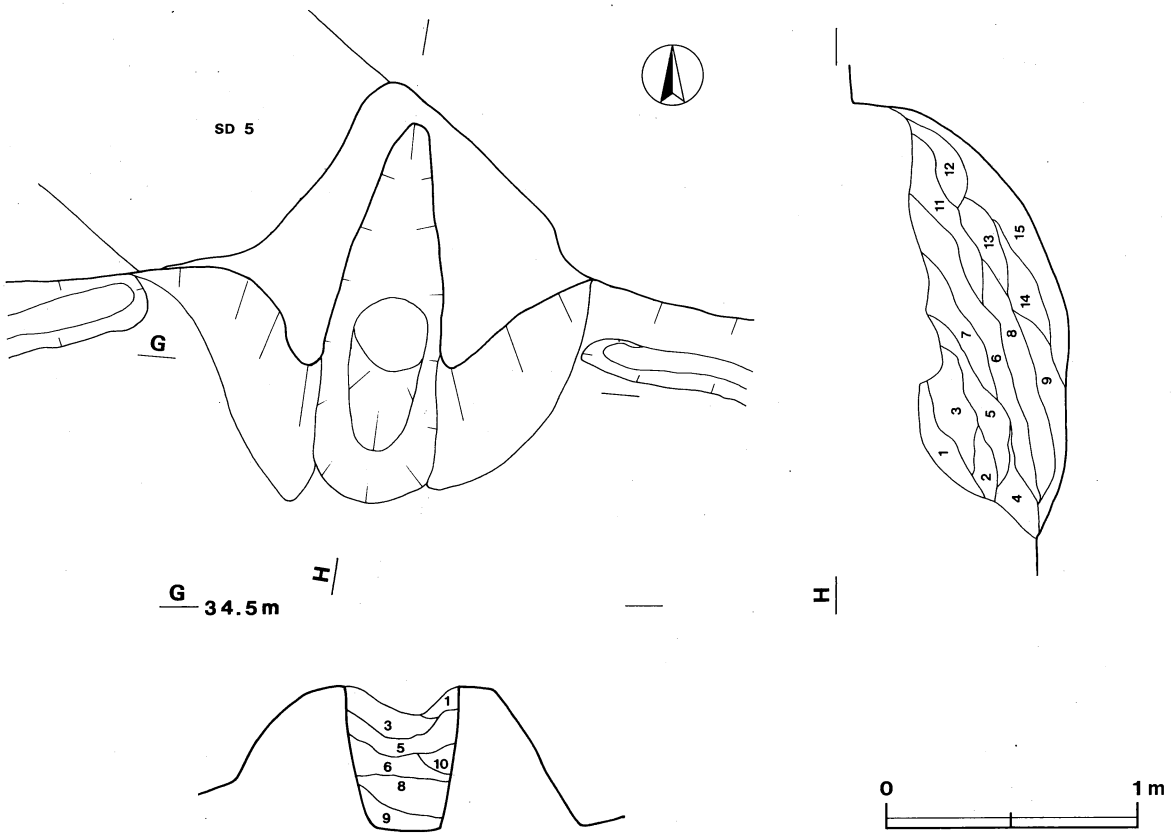
重複関係　本跡は，北部を第５号溝に掘り込まれていることから，第５号溝よりも古い。

規模と平面形　長軸4.78m，短軸4.50mの方形である。

主軸方向　N－8°－E



第32図　第13号住居跡実測図(1)



第33図　第13号住居跡実測図(2)

壁　壁高は76～80㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅36㎝，下幅11㎝，深さ16㎝で，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　7か所（P_1～P_7）。P_1・P_2は径44～49㎝の不整円形，深さ52～86㎝，P_3・P_4は長径58～66㎝，短径42～44㎝の不整楕円形，深さ48～90㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径54㎝,短径45㎝の不整楕円形，深さ30㎝で出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6・P_7は径27～32㎝，深さ10～20㎝の不整円形で配置や規模から補助柱穴と思われる。

竈　北壁中央部を，壁外に80㎝ほど三角形状に掘り込み構築されている。上部を第5号溝に掘り込まれているものの遺存状態はよい。しかし，当遺跡内の他の竈に比べて，粘土等はあまり使われていない。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ170㎝，最大幅170㎝である。火床部は，浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

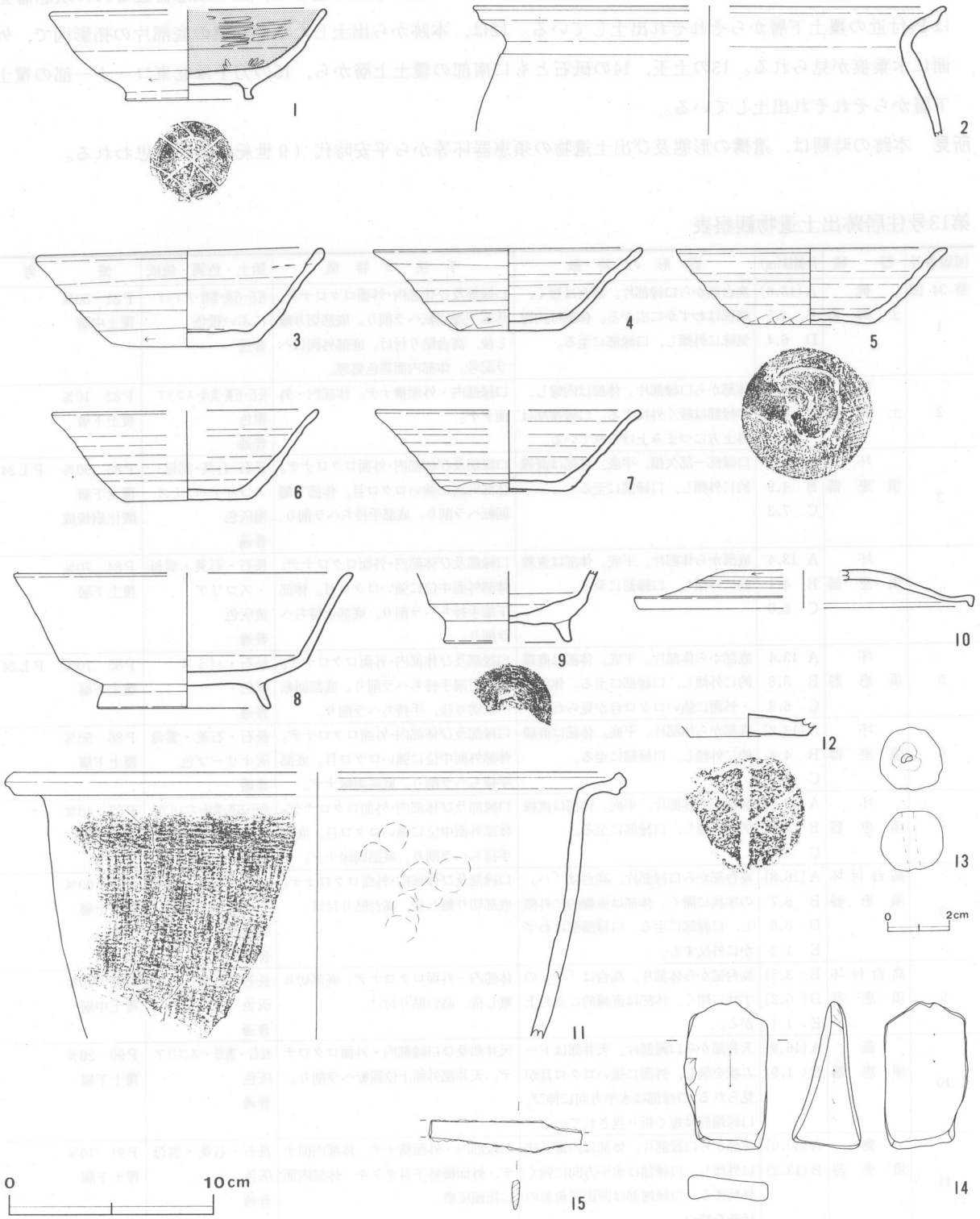
竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム粒子少量
8　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子少量
9　黒 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗 褐 色　焼土・ローム粒子・砂粒少量
11　黒 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子微量
12　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
13　暗 褐 色　焼土・ローム粒子微量
14　黒 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
5　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
6　暗 褐 色　炭化材・炭化・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量



第34図　第13号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片912点，須恵器片319点，土玉１点，砥石１点，刀子１点，鉄滓等が出土している。遺構全体から土師器・須恵器が多量に出土し，須恵器坏には完形品が比較的多い。第34図１の土師器椀は中央部の覆土中層から，２の土師器甕は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。３の須恵器坏は南壁際，４の須恵器坏はP_3の北部，５の須恵器坏は南東部，６の須恵器坏は南部のいずれも覆土下層から正位の状態で出土している。７の須恵器坏はP_3 の北部の覆土中層から，８の須恵器高台付坏は東壁付近の覆土上層から逆位の状態でそれぞれ出土している。９の須恵器高台付坏はP_3付近の覆土中層から，10の須恵器蓋と11の須恵器甕はP_6付近の覆土下層からそれぞれ出土している。12は，本跡から出土した土師器甕の底部片の拓影図で，外面に木葉痕が見られる。13の土玉，14の砥石ともに南部の覆土上層から，15の刀子は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物の須恵器坏等から平安時代（９世紀中葉）と思われる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第34図 1	椀 土師器	A〔13.6〕 B 4.5 D 6.4 E 0.4	高台部から口縁部片。高台は短く，端部はわずかに広がる。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し後，高台貼り付け。底部外面にヘラ記号。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P81 50% 覆土中層
2	甕 土師器	A〔23.2〕 B(6.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P82 10% 覆土下層
3	坏 須恵器	A 14.1 B 4.9 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 褐灰色 普通	P83 90% PL24 覆土下層 酸化焔焼成
4	坏 須恵器	A 13.4 B 4.1 C 5.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 黄灰色 普通	P84 70% 覆土下層
5	坏 須恵器	A 13.4 B 3.8 C 6.3	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。体部内・外面に強いロクロ目が見られる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	長石・パミス 灰色 普通	P85 70% PL24 覆土下層
6	坏 須恵器	A〔13.2〕 B 4.4 C 6.2	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P86 50% 覆土下層
7	坏 須恵器	A〔13.0〕 B 4.0 C 6.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P87 40% 覆土中層
8	高台付坏 須恵器	A〔16.8〕 B 6.7 D 8.6 E 1.2	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・パミス 灰黄色 普通	P88 60% 覆土上層
9	高台付坏 須恵器	B(3.5) D〔 6.2〕 E 1.1	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P89 40% 覆土中層
10	蓋 須恵器	A〔16.8〕 B(1.9)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，外面に強いロクロ目が見られる。口縁部は水平方向に伸び，口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 灰色 普通	P90 20% 覆土下層
11	甕 須恵器	A〔30.0〕 B(13.2)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は水平方向に強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面擬格子目タタキ。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P91 10% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値					出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第34図13	土　玉	2.2	1.9	－	0.4	9.4	覆土上層	DP18　PL36

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥　石	7.3	4.2	1.2	89.6	凝灰岩	覆土上層	Q5

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	刀　子	(7.6)	1.6	0.5	(11.5)	覆土下層	M5　PL39

第14号住居跡（第35図）

位置　調査区の西部，D5e$_4$区。

重複関係　本跡は，第6号住居跡を掘り込んでいることから，第6号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.71mの方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は65～74cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁の一部を除いた壁下を回っている。上幅26cm，下幅10cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径20～40cmの不整円形，深さ18～22cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は径27～30cmの不整円形，深さ46cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に20cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，左袖部も上部が遺存していない。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，最大幅120cmである。火床部は，床と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に立ち上がっている。

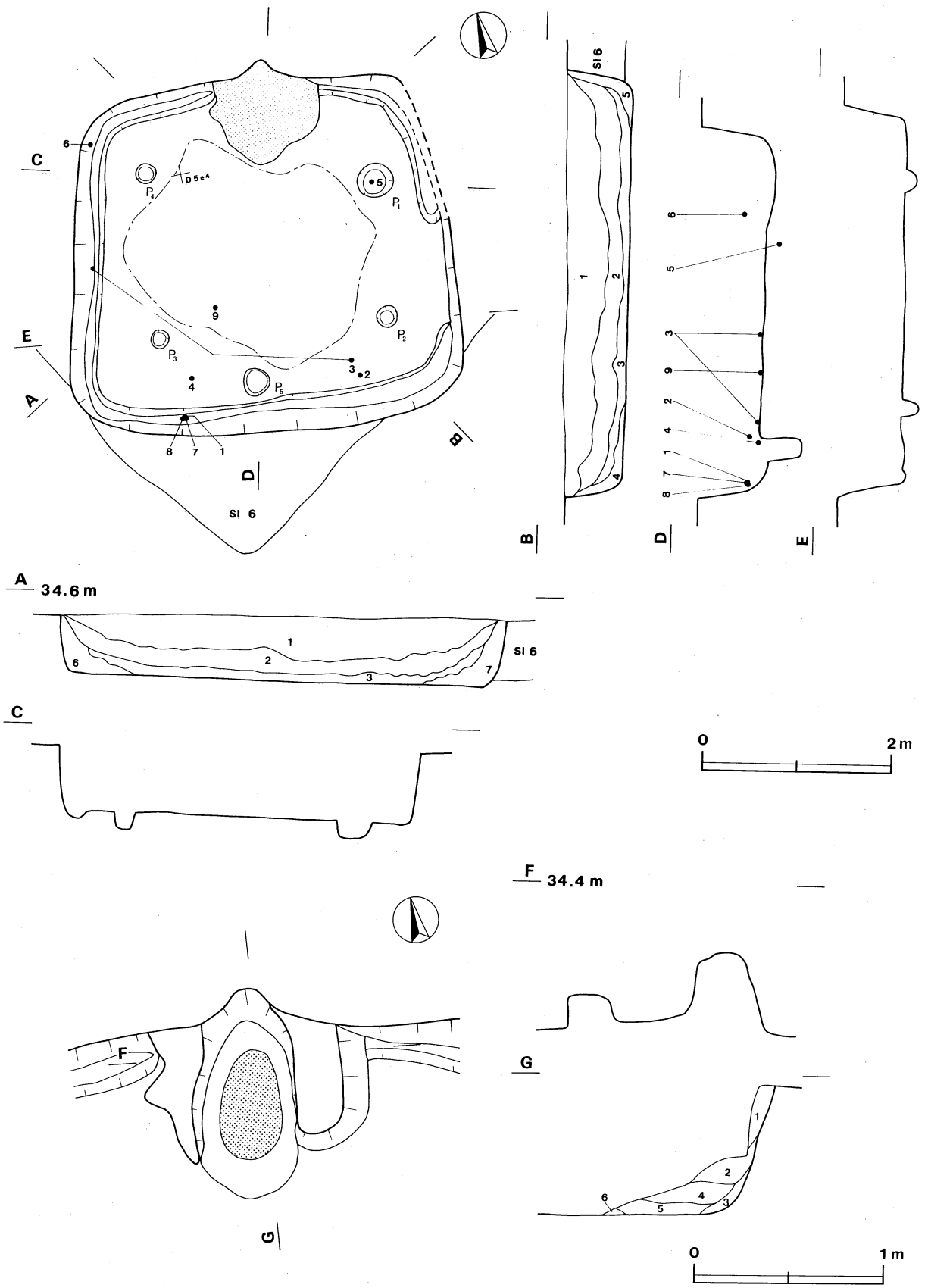
竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック少量，粘土粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，砂質粒子少量
4　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土大ブロック少量

覆土　7層からなる自然堆積である。

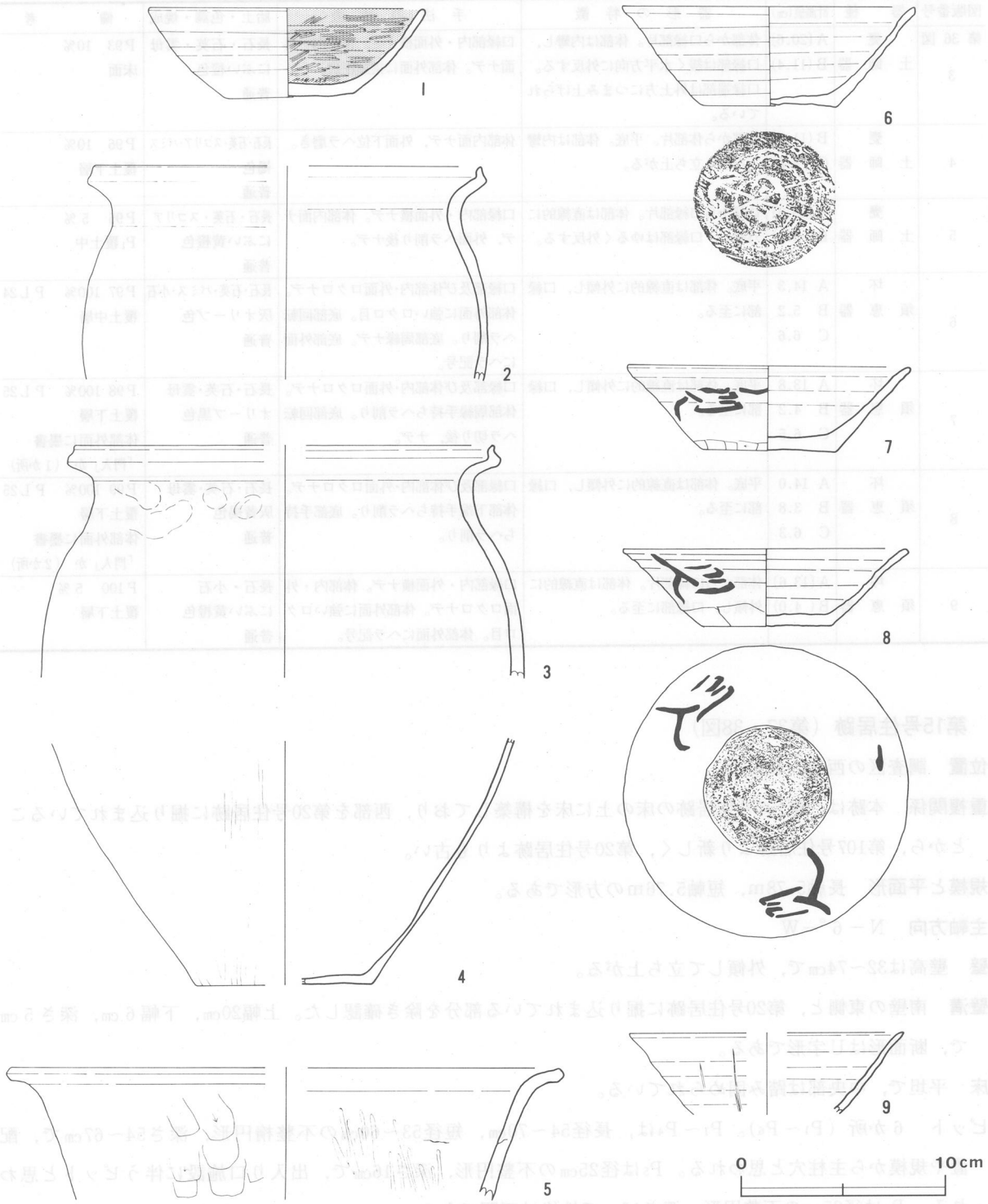
土層解説
1　暗褐色　焼土・炭化粒子少量，ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム中・小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片310点，須恵器片81点，羽口片4点等が出土している。第36図1の土師器坏，7の須恵器坏，8の須恵器坏は南壁際の覆土下層から正位の状態で3枚が重なって出土した。7・8は墨書土器である。9の須恵器坏は南西部の覆土下層から，3の土師器甕は，西壁際と南部のいずれも床面直上から出土したものが接合した。2の土師器甕は南東部の覆土下層から，4の土師器甕は南西部の覆土下層から，5の土師器甕はP$_1$内覆土中から出土している。6の須恵器坏は北西部コーナー壁際の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。



第35図　第14号住居跡実測図



第36図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第36図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.6 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部及び体部内面ヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。体部内面黒色処理。	石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P92　90%　PL24 覆土下層
2	甕 土師器	A〔18.8〕 B(10.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部はゆるく外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 明褐色 普通	P94　5% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第36図 3	甕 土師器	A〔20.6〕 B(11.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く水平方向に外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P93　10% 床面
4	甕 土師器	B(11.9) C〔 8.6〕	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ，外面下位ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア・パミス 褐色 普通	P96　10% 覆土下層
5	甕 土師器	A〔26.8〕 B(6.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部はゆるく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P95　5% P_1覆土中
6	坏 須恵器	A 14.3 B 5.2 C 6.6	平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。底部外面にヘラ記号。	長石・石英・パミス・小石 灰オリーブ色 普通	P97 100%　PL24 覆土中層
7	坏 須恵器	A 13.8 B 4.2 C 6.5	平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部周縁手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石・石英・雲母 オリーブ黒色 普通	P98 100%　PL25 覆土下層 体部外面に墨書 「門人」か（1か所）
8	坏 須恵器	A 14.0 B 3.8 C 6.3	平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P99 100%　PL25 覆土下層 体部外面に墨書 「門人」か（2か所）
9	坏 須恵器	A〔13.6〕 B(4.0)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部外面にヘラ記号。	長石・小石 にぶい黄橙色 普通	P100　5% 覆土下層

第15号住居跡（第37・38図）

位置　調査区の西部，D5h3区。

重複関係　本跡は，第107号住居跡の床の上に床を構築しており，西部を第20号住居跡に掘り込まれていることから，第107号住居跡より新しく，第20号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.78m，短軸5.76mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は32～74cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁の東側と，第20号住居跡に掘り込まれている部分を除き確認した。上幅20cm，下幅6cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

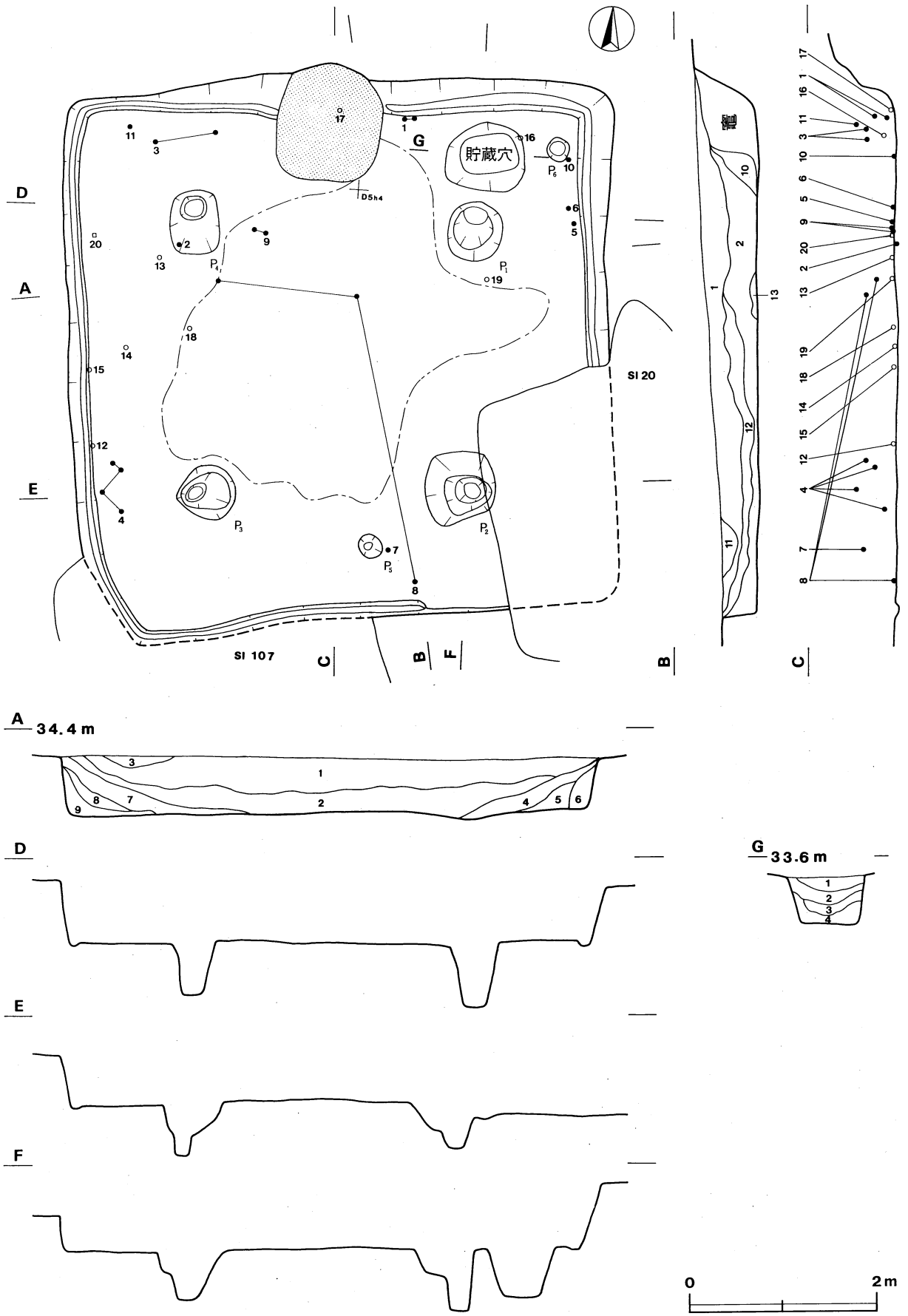
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，長径54～70cm，短径53～60cmの不整楕円形，深さ54～67cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径25cmの不整円形，深さ16cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は径25cmの不整円形，深さ16cmで性格は不明である。

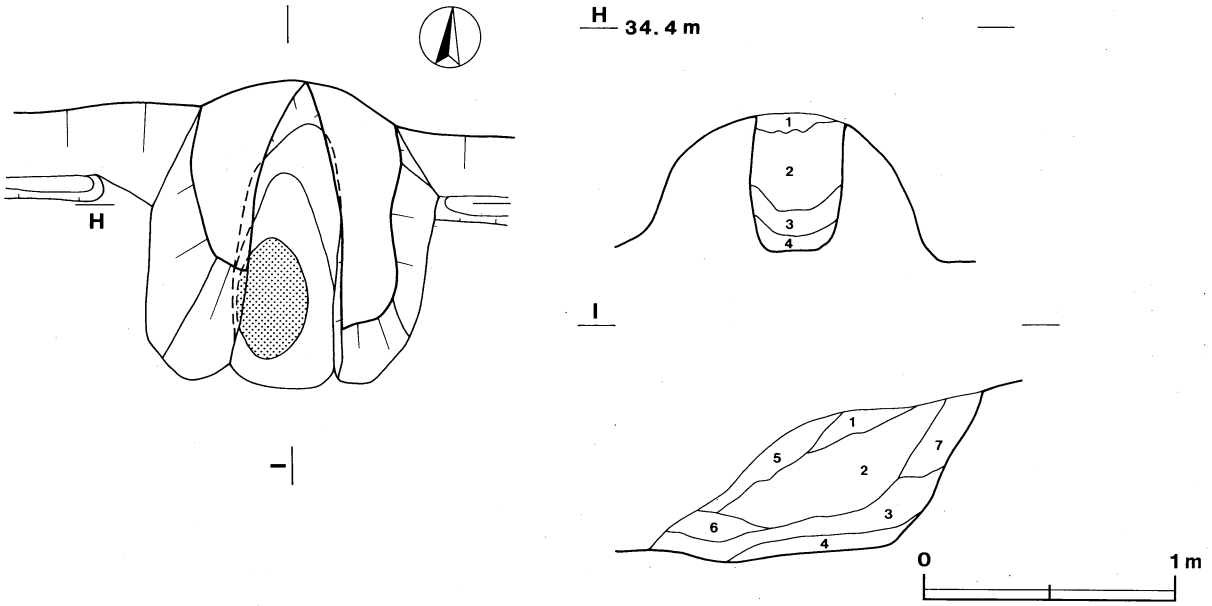
貯蔵穴　北東コーナーに付設され，長径85cm，短径74cmの不整楕円形で，深さは54cm，断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子中量

竈　北壁中央部に付設され，砂混じりの白色粘土で構築されている。袖部も，床面に砂混じりの貼り付けて構築している。火床部は，ほとんど掘り込まれていない。煙道部は，壁外への突出が少なく，壁の内側から穏やかに外傾して立ち上がる。



第37図　第15号住居跡実測図(1)



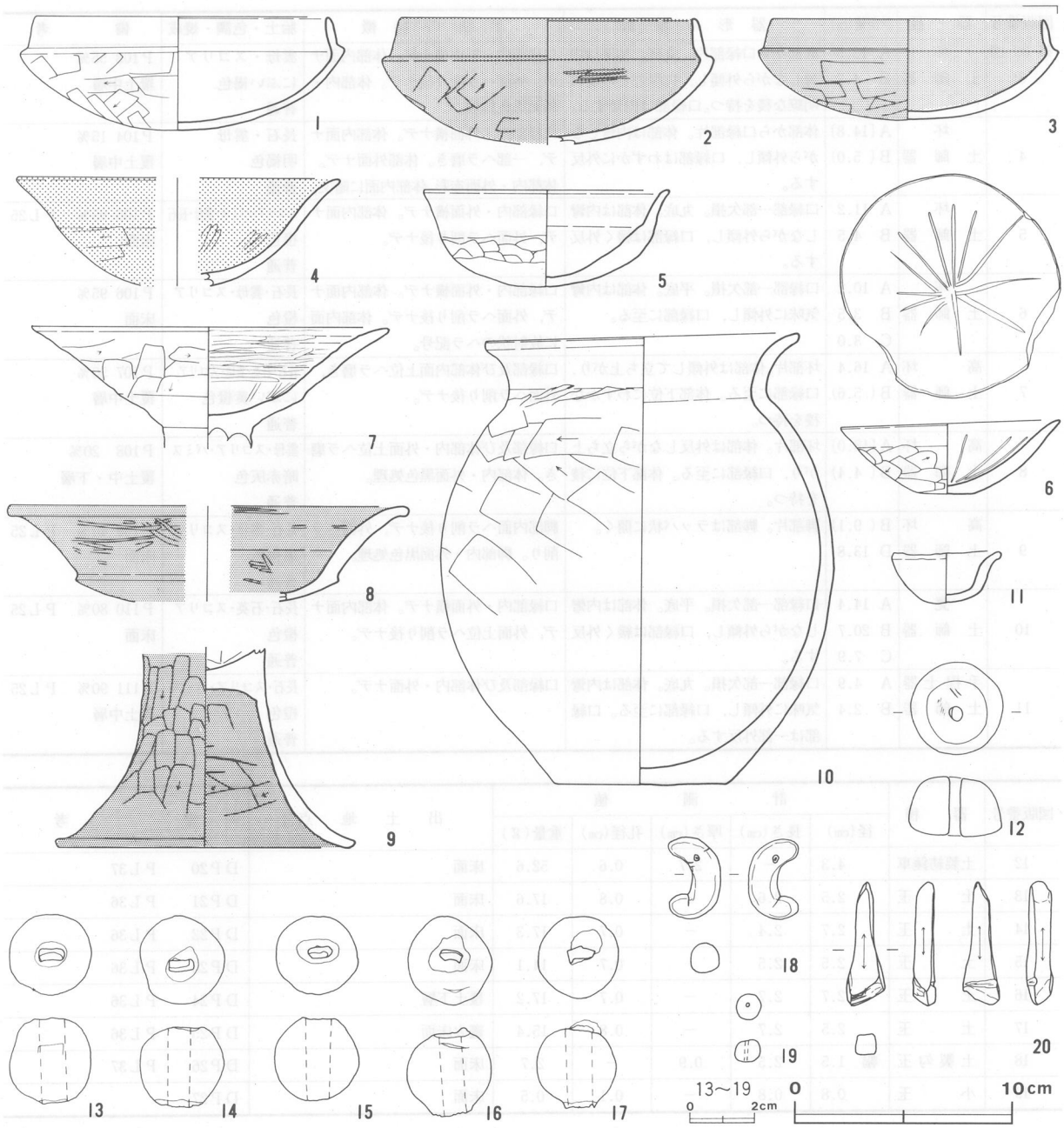
第38図　第15号住居跡実測図(2)

竈土層解説
1　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量
2　灰　褐　色　ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量
4　暗 赤 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
5　灰　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子中量
6　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　焼土・ローム粒子少量

覆土　13層からなるが，ロームブロックを多く含んでおり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　黒 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10　褐　色　ローム・粘土粒子中量，炭化粒子少量
11　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子・ローム小ブロック少量
12　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
13　黒 褐 色　ローム粒子少量

遺物　土師器片431点，須恵器片12点，土製紡錘車１点，土玉５点，土製勾玉１点，土製小玉１点，砥石１点が出土している。本跡は，須恵器に比べ土師器が多く出土しているのが特徴である。第39図１の土師器坏は北壁際の覆土下層から，２の土師器坏はP_4の覆土中から，３の土師器坏は北西部の覆土中層から，４の土師器坏は南西部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。５の土師器坏は東壁際の床面直上から，６の土師器坏は，同じく東壁際の床面直上から横位の状態で出土している。７の土師器高坏はP_5付近の覆土中層から，８の土師器高坏は中央部の覆土中層と南部の覆土下層から出土したものが接合した。９の土師器高坏の脚部は北西部の床面直上から正位の状態で，10の土師器甕はP_6東部の床面直上から横位の状態で，11の土師器手捏土器は北西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。12の土製紡錘車，13～15の土玉，18の土製勾玉は，西部の床面直上から出土している。16の土玉は貯蔵穴付近の覆土下層から，17の土玉は竈内の火床面直上から，19の土製小玉は東部の床面直上からそれぞれ出土している。20の砥石は，西壁際北部の床面直上から出土している。



第39図　第15号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第39図 1	坏 土師器	A 13.4 B 5.3	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・パミス 橙色 普通	P101 90%　PL25 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.5 B(5.9)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	石英・スコリア 黒褐色 普通	P102 65%　PL25 P_4覆土中

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第39図 3	坏 土師器	A 12.5 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P103 55% 覆土中層
4	坏 土師器	A〔14.8〕 B（5.0）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラ磨き。体部外面ナデ。体部内・外面赤彩。体部内面に暗文。	長石・雲母 明褐色 普通	P104 15% 覆土中層
5	坏 土師器	A 11.2 B 4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・パミス・雲母・長石 橙色 普通	P105 95%　PL25 床面
6	坏 土師器	A 10.2 B 3.5 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に放射状のヘラ記号。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P106 95% 床面
7	高坏 土師器	A 16.4 B（5.6）	坏部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。体部下位にわずかな稜を持つ。	口縁部及び体部内面上位ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P107 50% 覆土中層
8	高坏 土師器	A〔18.0〕 B（4.4）	坏部片。体部は外反しながら立ち上がり，口縁部に至る。体部下位に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面上位ヘラ磨き。体部内・外面黒色処理。	雲母・スコリア・パミス 暗赤灰色 普通	P108 20% 覆土中・下層
9	高坏 土師器	B（9.1） D 13.8	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り。脚部内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P109 40%　PL25 床面
10	甕 土師器	A 14.4 B 20.7 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上位ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P110 80%　PL25 床面
11	手捏土器 土師器	A 4.9 B 2.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。口縁部は一部外反する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・スコリア・パミス 橙色 普通	P111 90%　PL25 覆土中層

図版番号	器　種	計測値					出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	土製紡錘車	4.3	－	2.7	0.6	52.6	床面	DP20　PL37
13	土玉	2.5	2.6	－	0.8	17.6	床面	DP21　PL36
14	土玉	2.7	2.4	－	0.7	17.3	床面	DP22　PL36
15	土玉	2.5	2.5	－	0.7	14.1	床面	DP23　PL36
16	土玉	2.7	2.7	－	0.7	17.2	覆土下層	DP24　PL36
17	土玉	2.5	2.7	－	0.8	15.4	竈火床面	DP25　PL36
18	土製勾玉	幅 1.5	2.5	0.9	－	2.7	床面	DP26　PL37
19	小玉	0.8	0.8	－	0.1	0.5	床面	DP27

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
20	砥石	5.6	1.8	0.9	10.4	凝灰岩	床面	Q6　PL39

第16号住居跡（第40図）

位置　調査区の北西部，C5e₂区。

重複関係　本跡は，第22号土坑を掘り込んでおり，第22号土坑よりも新しい。

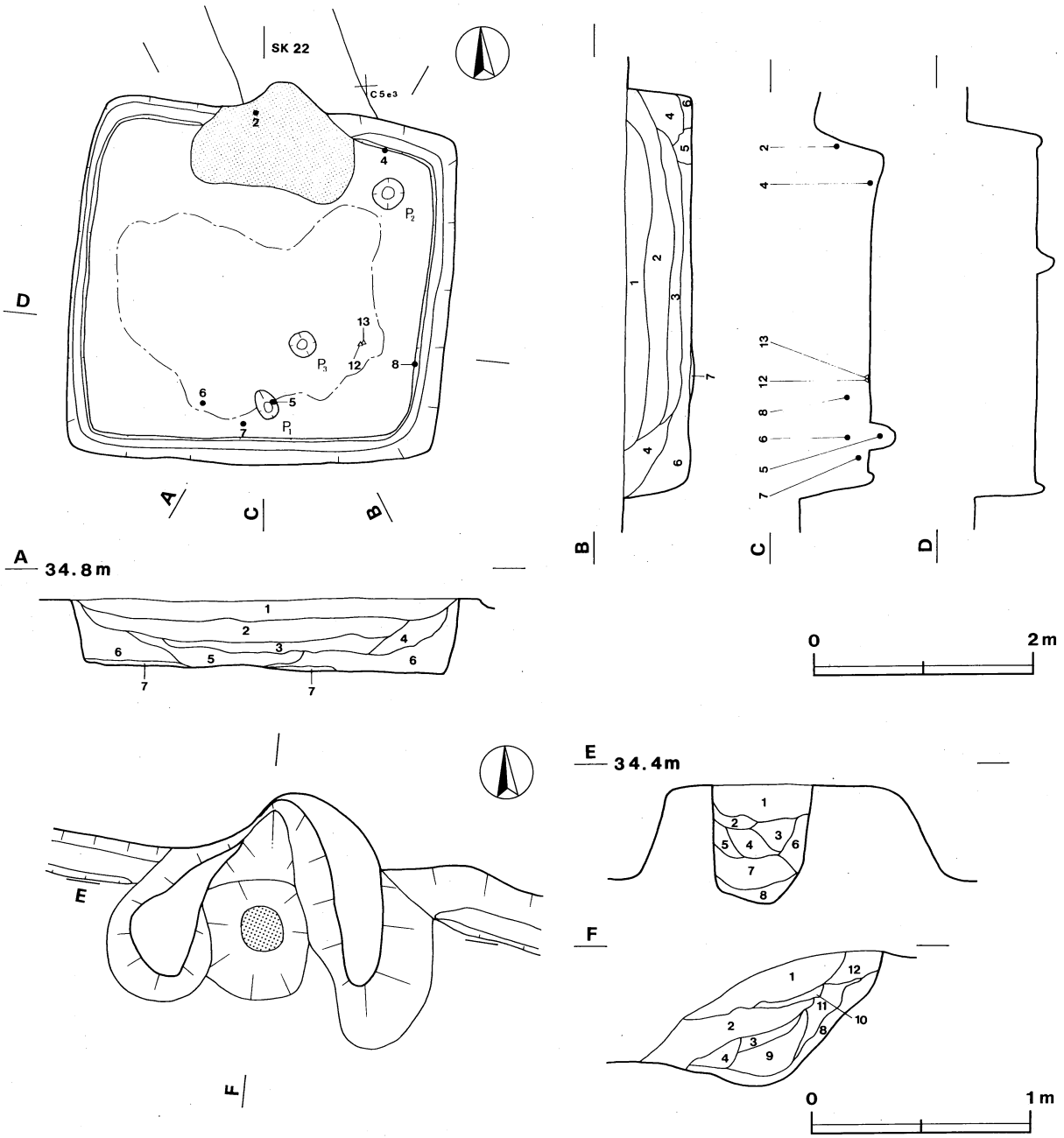
規模と平面形　長軸3.44m，短軸3.24mの方形である。

主軸方向　N－4°－E

壁　壁高は53～64cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅16cm～26cm，下幅4～10cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。



第40図　第16号住居跡実測図

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径28㎝，短径18㎝の不整楕円形，深さ26㎝で出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2・P_3は径22～26㎝の不整円形，深さ7～16㎝で性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に35㎝ほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ100㎝，最大幅120㎝である。火床部は，床面を10㎝ほど掘り窪めており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗 褐 色　砂粒多量，焼土・炭化粒子少量，ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　砂粒多量，焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　焼土・ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　砂粒多量，焼土粒子中量，焼土中・小ブロック・ローム粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量

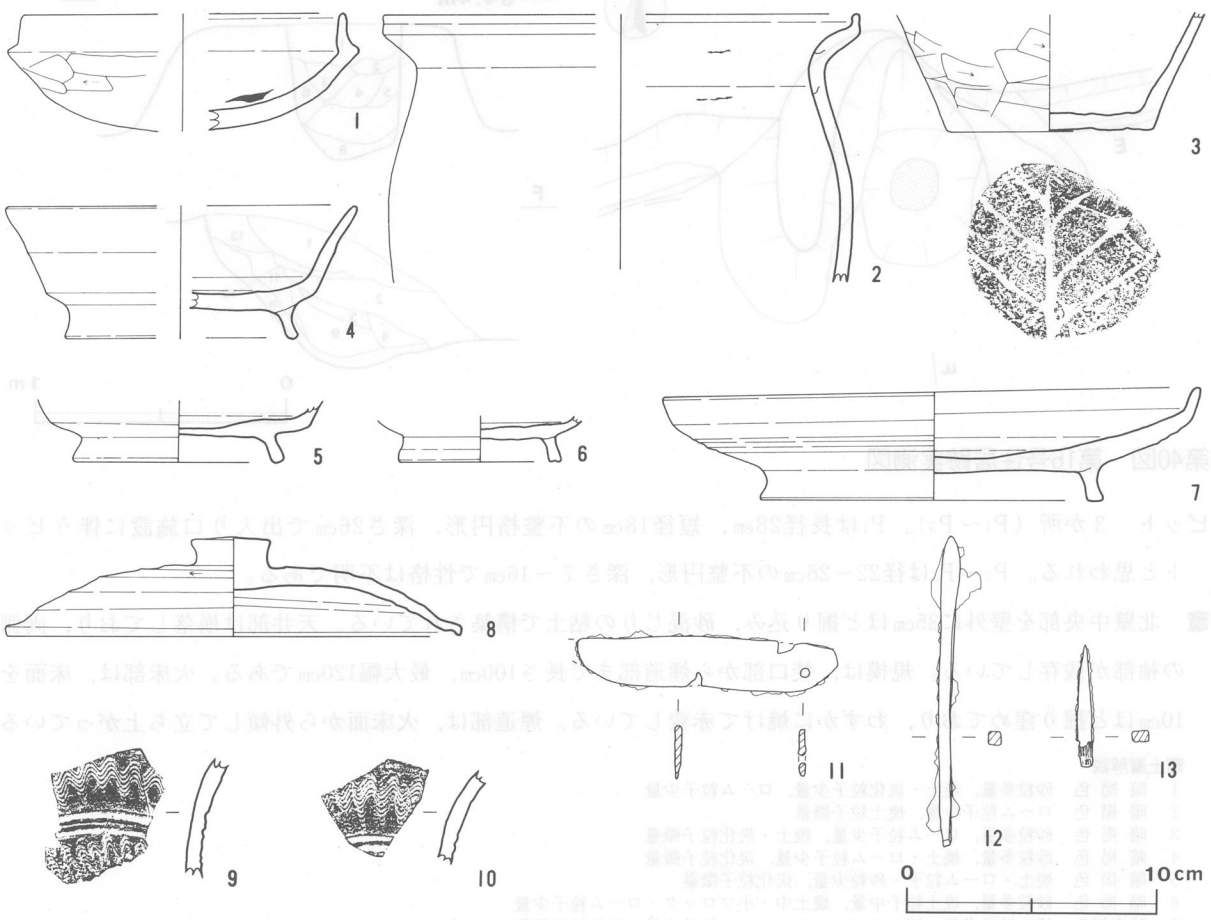
9　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム・炭化粒子少量
10　暗 褐 色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
11　暗赤褐色　砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
12　暗 褐 色　砂粒中量，炭化粒子少量，焼土・ローム粒子微量

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
7　黒 褐 色　炭化物多量・ローム粒子少量

遺物　土師器片475点，須恵器片136点が出土している。第41図1の土師器坏は北部，3の土師器甕は南部のそれぞれ覆土中から出土している。2の土師器甕は竈内の覆土中層から，4の須恵器高台付坏は北東部壁際の覆土下層から，5の須恵器高台付坏は出入り口ピット内の覆土中から，6の須恵器高台付坏は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。7の須恵器盤は南部の覆土下層から逆位の状態で，8の須恵器蓋は南東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。9と10は本跡から出土した須恵器甕の口縁部片の拓影図で，外面に5本単位の櫛状工具による波状文が施されている。11の手鎌は覆土中から，12・13の鉄鏃は南東部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第41図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	坏 土師器	A〔12.7〕 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・パミス・雲母 橙色 良好	P112 25% 覆土中 底部内面にタール付着
2	甕 土師器	A〔19.0〕 B(10.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P113 5% 竈覆土中層
3	甕 土師器	B(4.7) C 8.2	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P114 5% 覆土中
4	高台付坏 須恵器	A〔13.8〕 B 5.3 D〔9.2〕 E 1.4	高台部から口縁部片。高台は，外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P115 45% 覆土下層
5	高台付坏 須恵器	B(2.5) D 8.5 E 1.1	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	石英・長石・パミス 褐灰色 普通	P116 10% P_1覆土中
6	高台付坏 須恵器	B(1.8) D 6.6 E 1.0	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰白色 良好	P117 10% 覆土下層
7	盤 須恵器	A 21.4 B 4.6 D 13.6 E 1.2	口縁部一部欠損。高台は，外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P118 90% PL25 覆土下層
8	蓋 須恵器	A 18.0 B 4.1 F 3.1 G 1.3	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P119 50% PL25 覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	手鎌	(10.4)	2.0	0.2	(13.6)	覆土中	M6
12	鉄鏃	12.5	0.8	0.5	13.9	床面	M8
13	鉄鏃	(4.8)	0.65	0.5	(3.8)	床面	M9 PL40

第17号住居跡（第42図）

位置　調査区の北西部，C5f₂区。

規模と平面形　長軸3.47m，短軸3.27mの方形である。

主軸方向　N－21°－E

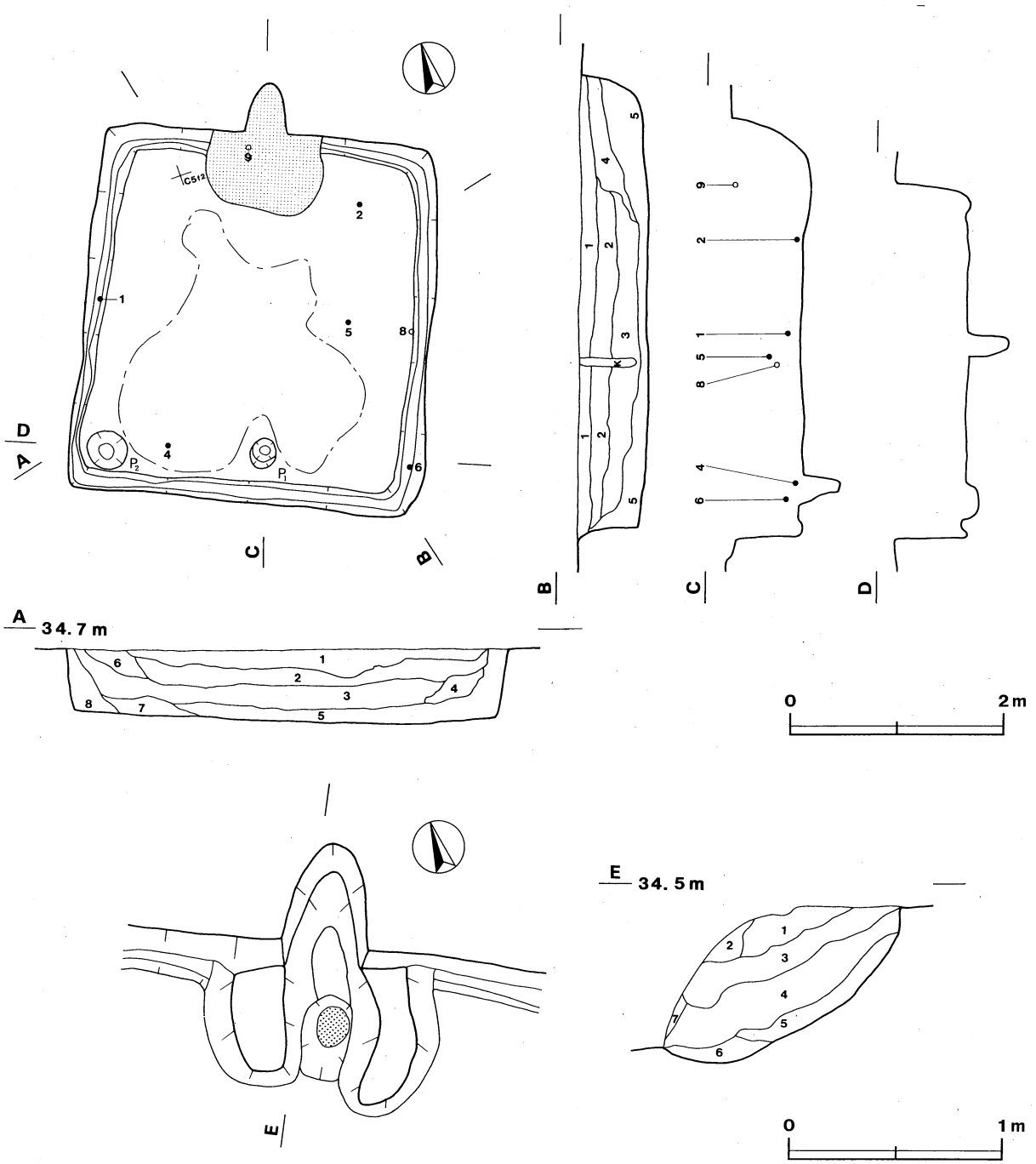
壁　壁高は58～67cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅21cm，下幅11cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部から南部が踏み固められている。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径27cm，短径24cmの不整楕円形，深さ39cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は径39cmの不整円形，深さ11cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に48cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ110cm，最大幅110cmである。火床部は，床面を浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第42図　第17号住居跡実測図

竈土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

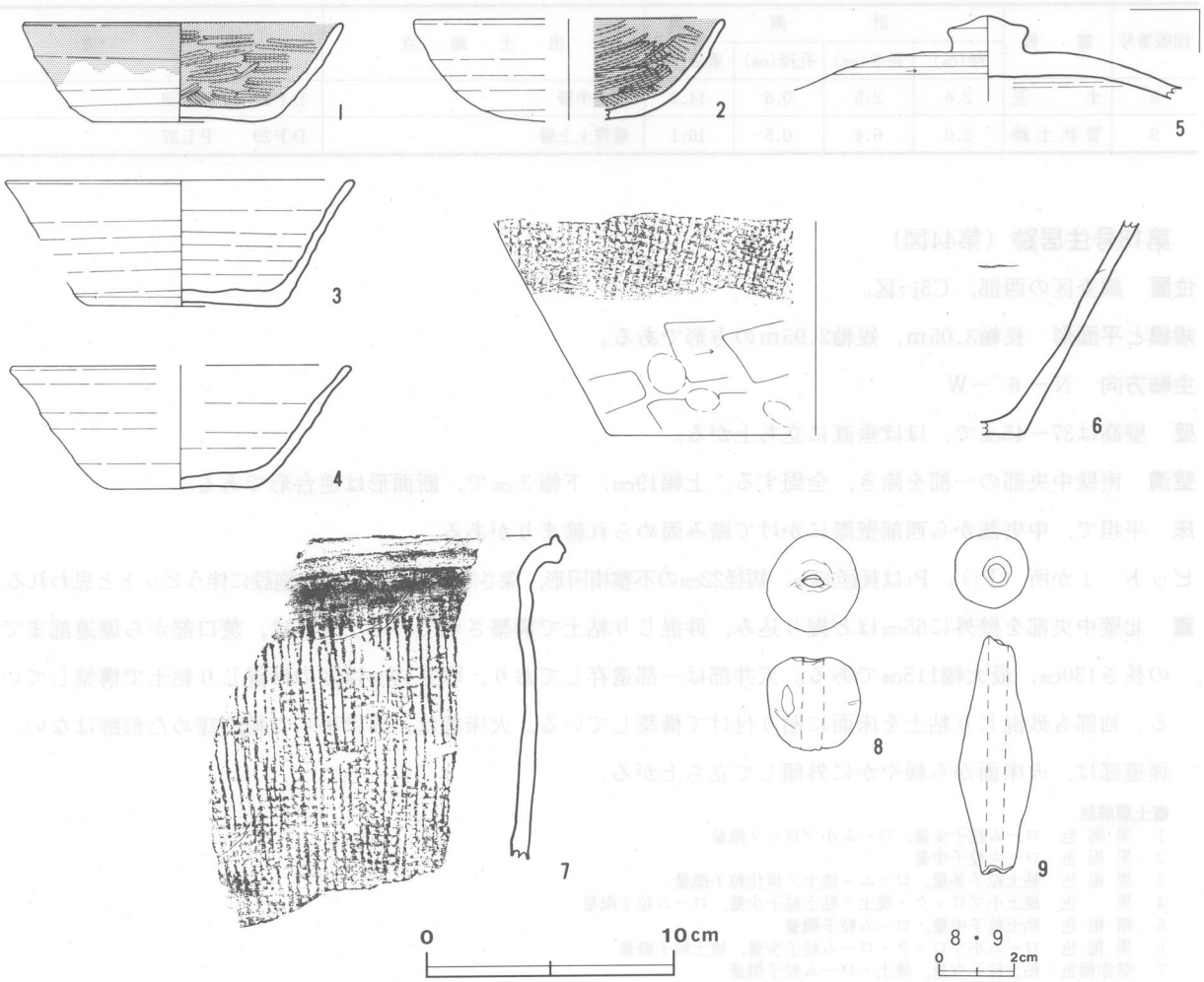
覆土　8層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　焼土・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
5　褐　　色　焼土中ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片380点，須恵器片108点，土玉１点，管状土錘１点，鉄滓等が出土している。第43図１の土師器坏は西壁壁溝の覆土下層から逆位の状態で，２の土師器坏は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。３の須恵器坏は北東部の覆土中から，４の須恵器坏は南西部の覆土下層から，５の須恵器蓋は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。６の須恵器甕は，南東コーナー部壁溝の覆土下層から出土している。７は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に擬格子目タタキが施されている。８の土玉は東壁際の覆土中層から，９の管状土錘は竈内の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀中葉）と思われる。



第43図　第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第43図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.0 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部・底部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい褐色 普通	P120 98% PL25 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第43図 2	坏 土師器	A〔12.6〕 B 4.1 C〔5.5〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部・底部内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り後ナデ。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 良好	P121 20% 覆土下層
3	坏 須恵器	A 14.1 B 5.2 C 7.8	体部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ，底部周縁ナデ。体部外面に強いロクロ目。	長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P122 70% 覆土中
4	坏 須恵器	A〔13.6〕 B 5.0 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P123 45% 覆土下層
5	蓋 須恵器	B(3.5) F 3.2 G 1.5	天井部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面中位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P124 40% 覆土中層
6	甕 須恵器	B(8.7) C〔16.6〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面中位擬格子目タタキ，下位手持ちヘラ削り。体部内面に輪積み痕。体部外面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P125 5% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.6	2.5	0.6	14.9	覆土中層	DP28　PL36
9	管状土錘	2.0	6.4	0.5	16.1	竈覆土上層	DP29　PL37

第18号住居跡（第44図）

位置　調査区の西部，C5j$_7$区。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は37～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南壁中央部の一部を除き，全周する。上幅19cm，下幅3cmで，断面形は逆台形である。

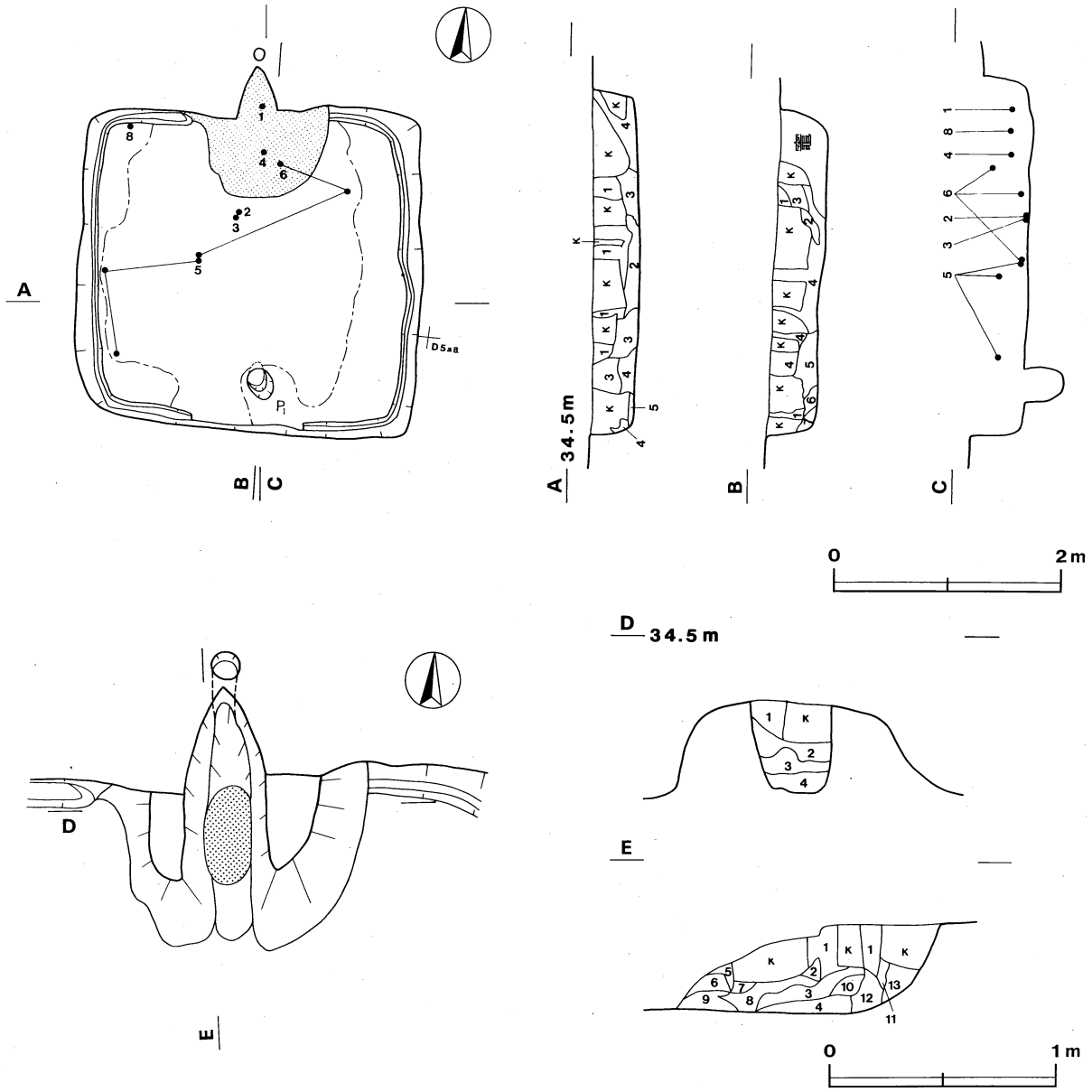
床　平坦で，中央部から西部壁際にかけて踏み固められ締まりがある。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径30cm，短径22cmの不整楕円形，深さ37cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に65cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ130cm，最大幅115cmである。天井部は一部遺存しており，厚さ10cmほどの砂混じり粘土で構築している。袖部も砂混じり粘土を床面に貼り付けて構築している。火床部は，ほぼ平らで掘り窪めた形跡はない。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子中量
3　黒褐色　粘土粒子多量，ローム・焼土・炭化粒子微量
4　黒　色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土・ローム粒子微量
8　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・ローム粒子微量
9　黒褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
10　褐　色　粘土粒子多量
11　褐　色　粘土粒子多量，焼土・炭化・ローム粒子微量
12　褐　色　粘土粒子多量，炭化材少量，炭化粒子微量
13　暗褐色　焼土・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

覆土　7層からなる自然堆積である。



第44図　第18号住居跡実測図

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量・ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子少量
3　暗 褐 色　砂粒中量，ローム粒子微量
4　暗 褐 色　砂粒少量，ローム粒子微量
5　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
6　暗 褐 色　砂粒中量，ローム粒子微量
7　暗 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片41点，須恵器片30点が出土している。出土量は，他の遺構に比べて少ない。第45図２の土師器小形甕と３の須恵器盤は竈前面の覆土下層から，４の須恵器盤は竈内の覆土中層からそれぞれ出土している。５の須恵器甕は西部の覆土中・下層から，６の須恵器甑は竈内の覆土中層と北部の覆土下層から出土したものが接合した。７の須恵器甕は，覆土中から出土している。８の須恵器甕は，北西コーナー部の覆土中層から出土している。１の土師器甕は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後葉と思われる。

第45図　第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	甕 土師器	A〔17.7〕 B（6.8）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁部の器肉は薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・パミス にぶい褐色 普通	P126　5％ 覆土中
2	小形甕 土師器	A〔7.3〕 B（3.6）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P127　5％ 覆土下層
3	盤 須恵器	B（1.9） D　8.8 E　0.9	高台部片。高台は短く，真下に伸びる。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P128　10％ 覆土下層
4	盤 須恵器	A〔20.4〕 B（2.7）	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P129　5％ 竈覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第45図 5	甕 須恵器	B(10.4) C〔15.2〕	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナデ，外面上位平行タタキ下位手持ちヘラ削り。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P130 10% 覆土中・下層
6	甑 須恵器	A〔30.5〕 B 28.8 C〔13.6〕	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はゆるく外反する。口縁端部にわずかな稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上位縦方向のナデ，下位横ナデ。体部外面上位平行タタキ，下位手持ちヘラ削り。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P131 20%　PL25 竈覆土中層・覆土下層
7	甕 須恵器	A〔23.6〕 B(17.2)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位平行タタキ，下位手持ちヘラ削り。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P132 20% 覆土中
8	甕 須恵器	A〔26.6〕 B(8.3)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位平行タタキ。体部内面に指頭圧痕。	石英・雲母 灰色 普通	P133 10% 覆土中層

第19号住居跡（第46図）

位置　調査区の西部，C5e7区。

規模と平面形　長軸3.48m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は60～67cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅23cm，下幅10cm，深さ7cmで，断面形は逆台形である。

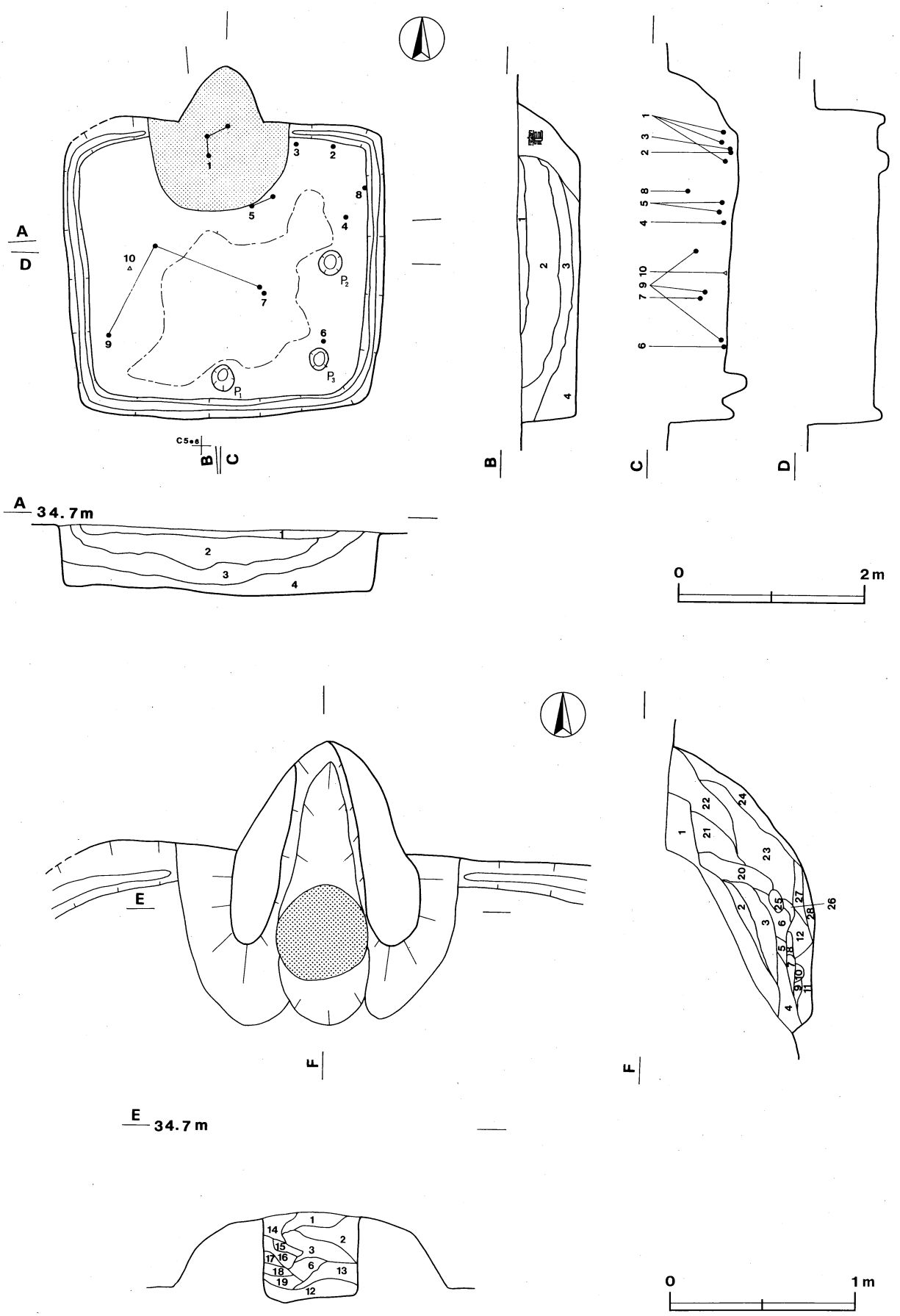
床　中央部から東部にかけて平坦で，踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径29cm，短径24cmの不整楕円形，深さ24cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_3は長径24～27cm，短径21～25cmの不整楕円形，深さ13cm～16cmで，性格は不明である。

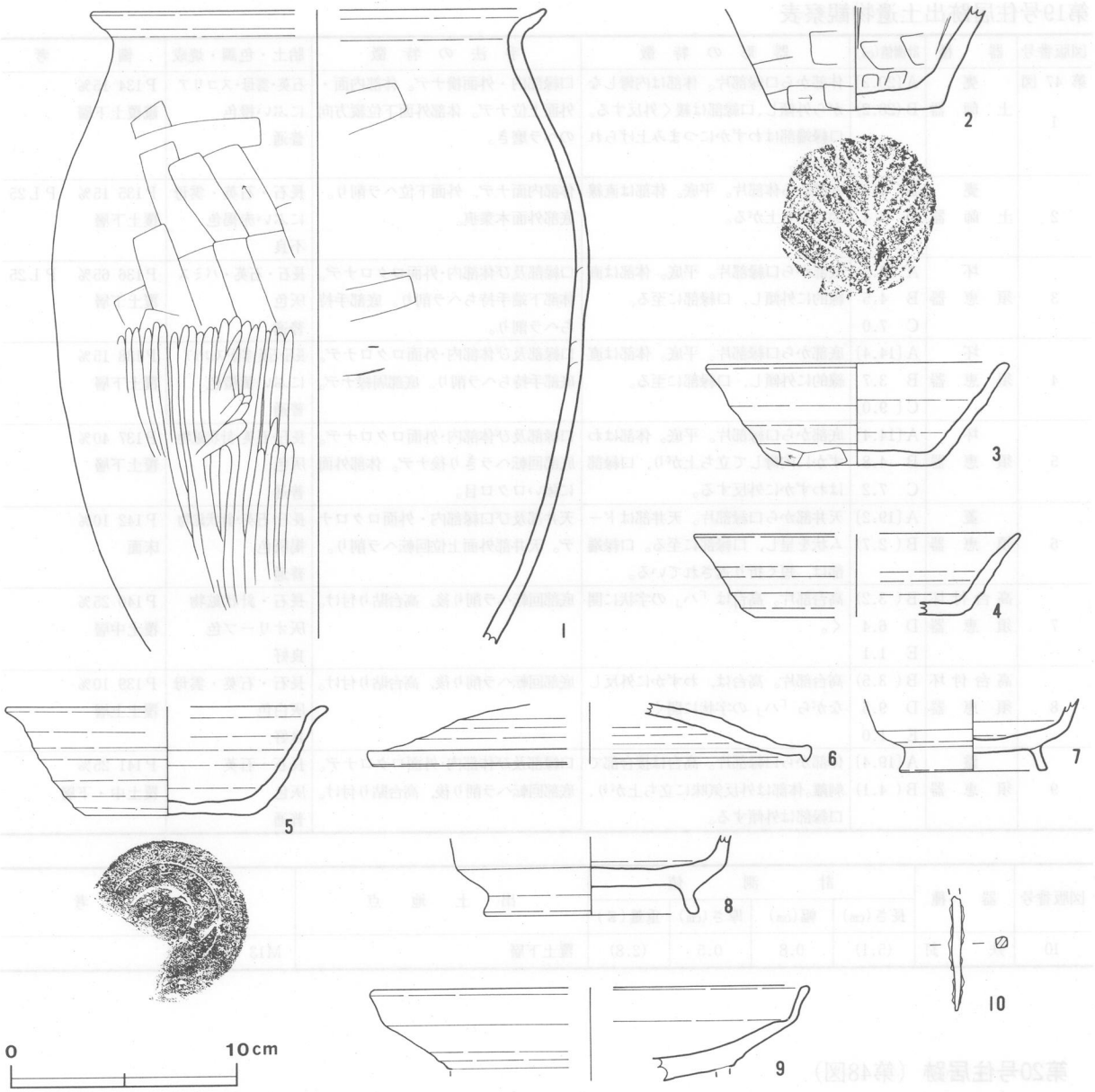
竈　北壁を壁外に60cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されており遺存状態はよい。天井部は崩落し，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ150cm，最大幅150cmで，遺跡内の他の竈に比べて大きい。火床部は，床面を浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は，緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5　暗　褐　色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　砂粒多量，ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
8　黒　褐　色　焼土粒子多量，砂粒少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　砂粒少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック微量
12　暗赤褐色　炭化・ローム粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
14　暗赤褐色　砂粒多量，焼土・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
16　灰　褐　色　焼土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子微量
17　暗　褐　色　焼土粒子・砂粒少量
18　暗　褐　色　焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子微量
19　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒・粘土ブロック少量
20　にぶい橙色　砂粒多量，焼土・炭化粒子微量
21　灰　褐　色　砂粒中量・焼土小ブロック・ローム粒子少量
22　灰　褐　色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
23　灰　赤　色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
24　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
25　にぶい褐色　焼土粒子・粘土ブロック中量，炭化粒子微量
26　暗赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量
27　にぶい褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック少量
28　にぶい褐色　ローム小ブロック多量，焼土粒子少量



第46図　第19号住居跡実測図



第47図　第19号住居跡出土遺物実測図

覆土　ロームブロックを多量に含むことから，4層からなる人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片304点，須恵器片124点，鉄滓等が出土している。遺物は，全体的に出土レベルが高く，比較的東部に集まっている。第47図1の土師器甕は竈内の覆土下層から，2の土師器甕，3の須恵器坏は北壁東部の覆土下層からそれぞれ出土している。4の須恵器坏は東部の覆土下層から，5の須恵器坏は竈前面の覆土下層から，6の須恵器蓋は南東部の床面直上から，7の須恵器高台付坏は，中央部の覆土中層から，8の須恵器高台付坏は北東部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。9の須恵器盤は，中央部の覆土中層と西部の覆土下層から出土したものが接合した。10の鉄釘は，西部の覆土下層から出土した。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	甕 土師器	A〔20.2〕 B(28.2)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し,口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面・外面上位ナデ。体部外面下位縦方向のヘラ磨き。	石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P134 15% 竈覆土下層
2	甕 土師器	B(4.6) C 7.4	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ，外面下位ヘラ削り。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 不良	P135 15% PL25 覆土下層
3	坏 須恵器	A 13.4 B 4.5 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・パミス 灰色 普通	P136 65% PL25 覆土下層
4	坏 須恵器	A〔14.4〕 B 3.7 C〔 9.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P138 15% 覆土下層
5	坏 須恵器	A〔14.4〕 B 4.8 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラきり後ナデ。体部外面に強いロクロ目。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P137 40% 覆土下層
6	蓋 須恵器	A〔19.2〕 B(2.7)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は，短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 褐灰色 普通	P142 10% 床面
7	高台付坏 須恵器	B(3.2) D 6.4 E 1.1	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P140 25% 覆土中層
8	高台付坏 須恵器	B(3.5) D 9.5 E 1.0	高台部片。高台は，わずかに外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P139 10% 覆土上層
9	盤 須恵器	A〔19.4〕 B(4.1)	体部から口縁部片。高台は接合部で剝離。体部は外反気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P141 25% 覆土中・下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	鉄釘	(5.1)	0.8	0.5	(2.8)	覆土下層	M13 PL41

第20号住居跡（第48図）

位置　調査区の西部，D5h4区。

重複関係　本跡は，第15号住居跡の東部を掘り込んでいることから，第15号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.39m，短軸2.81mの長方形である。

主軸方向　N－17°－W

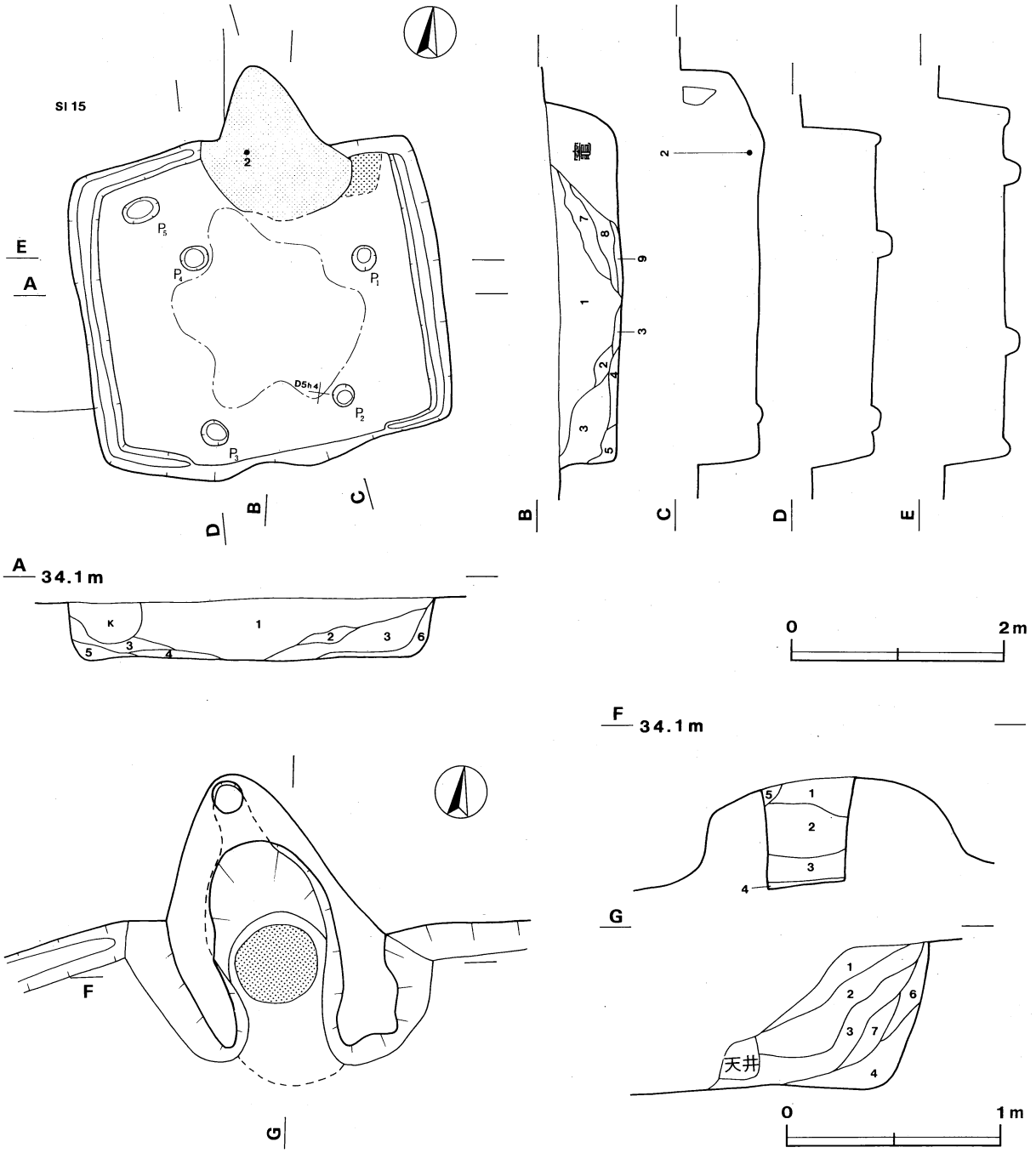
壁　壁高は58～67cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁中央部と，北壁東部を除いて全周する。上幅22cm，下幅7cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径24～27cmの不整円形，深さ6～20cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径36cm，短径23cmの不整楕円形，深さ13cmで性格は不明である。

竈　北壁中央部からやや東寄りの部分を三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は一部が遺存し，煙出部も検出できた。規模は，焚口部から煙道部までの長さ150cm，最大幅140cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は壁外へ大きく突出し，火床面から急に立ち上がっている。



第48図　第20号住居跡実測図

竈土層解説

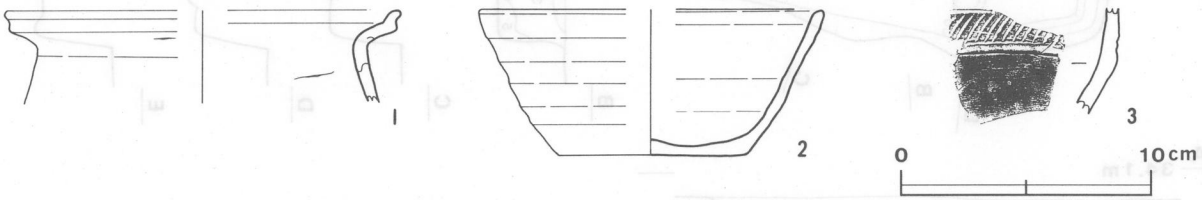
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
7　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量

覆土　9層からなる。1～3層までが，ロームブロックを多量に含んでおり人為堆積と思われる。4～9層は，自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，炭化物・ローム少量，焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック多量，炭化物・ローム少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，炭化物微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム・粘土粒子少量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片79点，須恵器片35点等が出土している。第49図１の土師器甕は北西部の覆土中から，２の須恵器坏は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。３は，本跡から出土した須恵器長頸壺の体部片の拓影図で，上位にヘラ状工具によるきざみ目が見られる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。



第49図　第20号住居跡実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第49図 1	甕 土師器	A〔15.6〕 B（3.7）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P143 5％ 覆土中
2	坏 須恵器	A〔13.6〕 B 5.9 C 7.2	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。底部周縁ナデ。体部外面に強いロクロ目。	長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P144 30％ 竈覆土下層

第21号住居跡（第50図）

位置　調査区の西部，D5e$_6$区。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸（2.28）mの〔方形〕と思われる。

主軸方向　N－113°－E

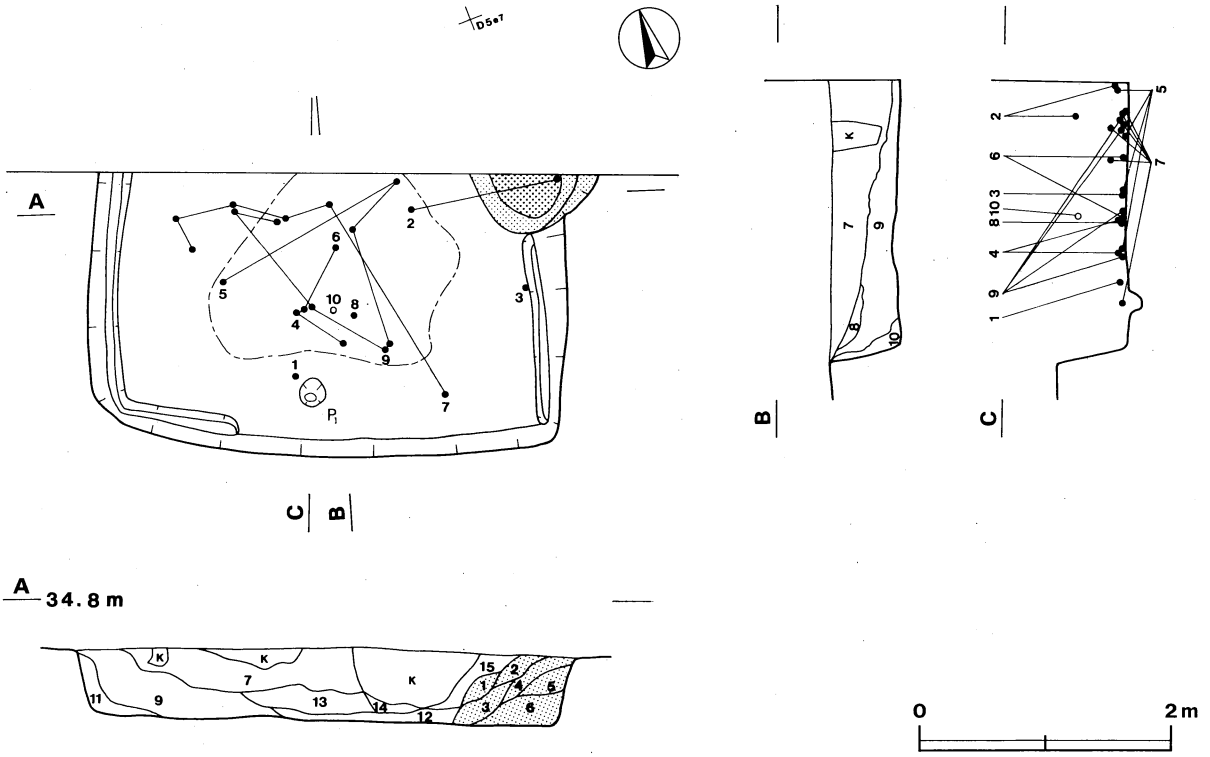
壁　壁高は50～57cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅24cm，下幅６cmで，断面形はU字形である。

床　確認された床面は平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　１か所（P$_1$）。P$_1$は長径24cm，短径21cmの不整楕円形，深さ12cmで性格は不明である。

竈　東壁を壁外に掘り込み，砂まじり粘土で構築している。北側が調査区外のため，規模は不明である。遺存状態が悪く，右袖部も残っていない。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，壁の内側から壁外へ急に立ち上がっている。



第50図　第21号住居跡実測図

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
4　にぶい赤褐色　炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土大・中・小ブロック中量，炭化粒子少量

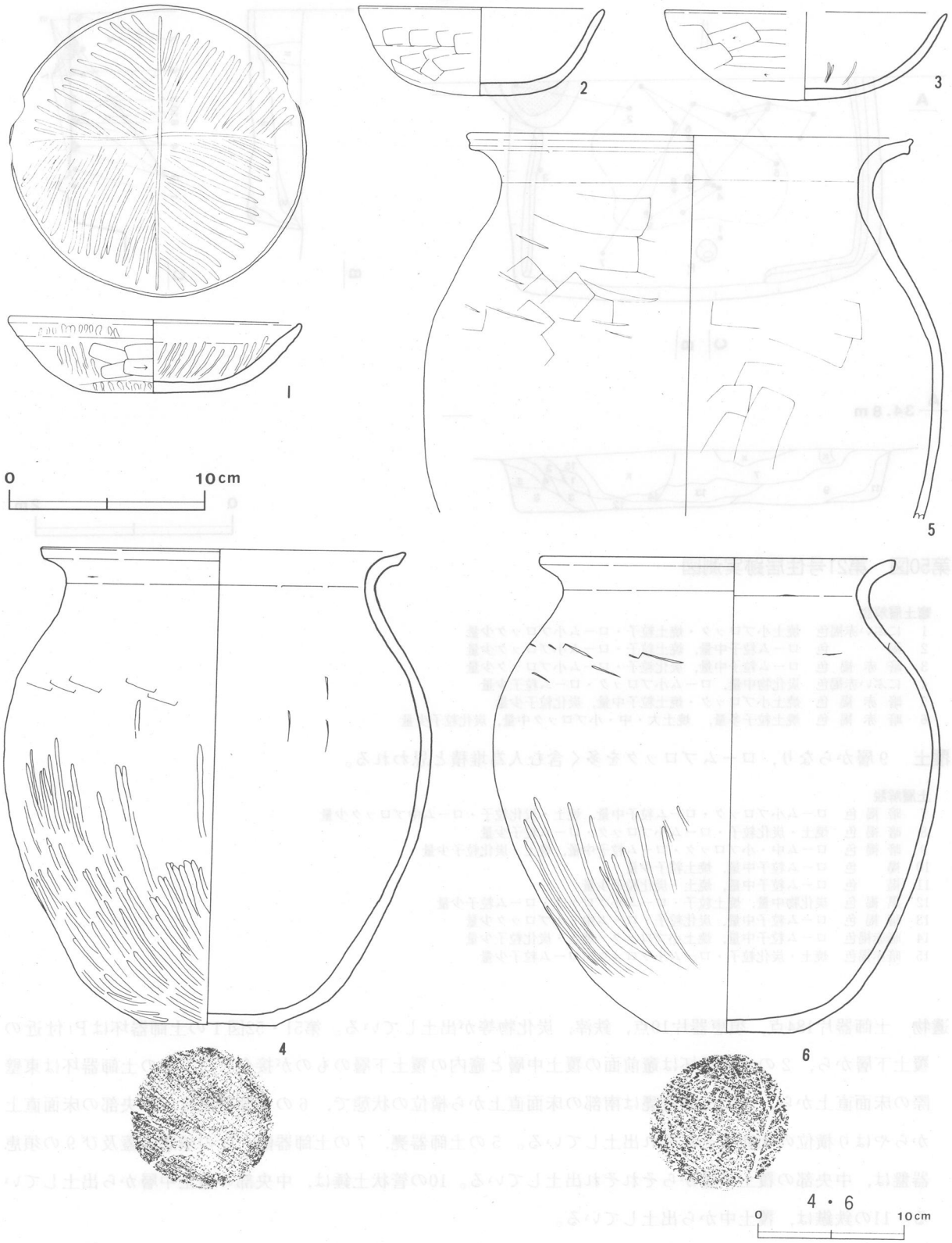
覆土　9層からなり，ロームブロックを多く含む人為堆積と思われる。

土層解説

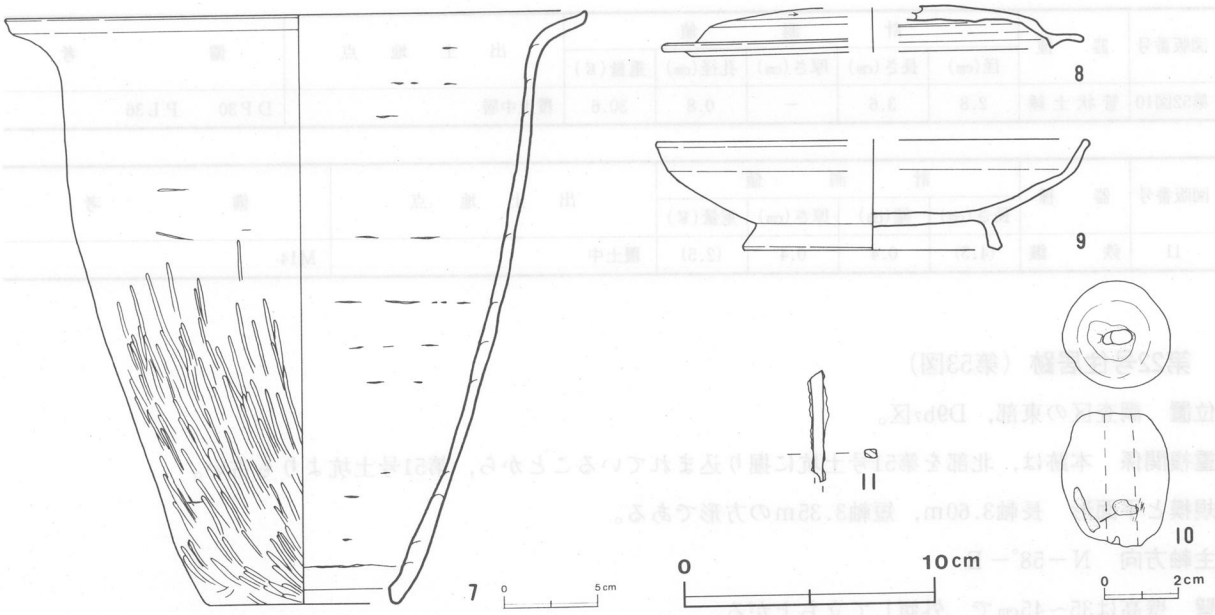
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
8　暗 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
12　黒 褐 色　炭化物中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
13　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
14　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
15　暗赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片184点，須恵器片19点，鉄滓，炭化物等が出土している。第51・52図1の土師器坏はP_1付近の覆土下層から，2の土師器坏は竈前面の覆土中層と竈内の覆土下層のものが接合した。3の土師器坏は東壁際の床面直上から，4の土師器甕は南部の床面直上から横位の状態で，6の土師器甕は，中央部の床面直上からやはり横位の状態でそれぞれ出土している。5の土師器甕，7の土師器甑，8の須恵器蓋及び9の須恵器盤は，中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。10の管状土錘は，中央部の覆土中層から出土している。11の鉄鏃は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第51図　第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第52図　第21号住居跡出土遺物実測図(2)

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 1	坏 土師器	A 14.8 B 3.8 C 6.8	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部はほぼ直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ磨き後ナデ。体部・底部内面に暗文。	石英・スコリア 橙色 良好	P145 95%　PL26 覆土下層
2	坏 土師器	A 12.6 B 4.5	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア にぶい橙色 良好	P146 60% 覆土中・竈覆土下層
3	坏 土師器	A〔14.4〕 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母 にぶい橙色 普通	P147 50% 床面
4	甕 土師器	A 24.6 B 32.7 C 9.3	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，中位から下位ヘラ磨き。体部外面上位にヘラ当て痕。底部ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P148 95%　PL26 床面 体部外面に煤付着
5	甕 土師器	A 22.5 B(19.5)	体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は，外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，一部板状工具によるナデ。	長石・石英・雲母・パミス にぶい黄橙色 普通	P150 35% 覆土下層
6	甕 土師器	A 24.2 B 32.5 C 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 良好	P149 35%　PL26 床面
第52図 7	甑 土師器	A 31.1 B 31.6 C 10.2	口縁部一部欠損。無底式。体部は直線的に外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位ナデ，外面下位ヘラ磨き。体部内・外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 良好	P151 95%　PL26 覆土下層
8	蓋 須恵器	A〔16.8〕 B(1.9)	つまみ欠損。天井部はドーム状を呈し，外面に明瞭な段を持つ。口縁端部は水平方向に伸び，内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部内面に強いロクロ目。	石英・雲母・スコリア 灰白色 良好	P153 10% 覆土下層
9	盤 須恵器	A〔17.1〕 B 4.5 D 10.3 E 1.1	体部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部及び内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰黄褐色 普通	P152 60%　PL26 覆土下層

図版番号	器　種	計測値					出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第52図10	管状土錘	2.8	3.6	—	0.8	30.6	覆土中層	DP30　PL36

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	鉄　鏃	(4.5)	0.4	0.4	(2.5)	覆土中	M14

第22号住居跡（第53図）

位置　調査区の東部，D9b7区。

重複関係　本跡は，北部を第51号土坑に掘り込まれていることから，第51号土坑よりも古い。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.35mの方形である。

主軸方向　N－58°－E

壁　壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁下を除いて全周する。上幅15cm，下幅5cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は長径30～44cm，短径15～29cmの不整楕円形，深さ13～26cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南コーナー部に付設され，長径71cm，短径67cmの不整楕円形である。深さは41cmで，擂鉢状に掘られている。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

竈　北東壁中央からやや南よりを壁外に80cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されているが遺存状態が悪く，両袖部とも残存していない。火床部は，床面を浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で外傾して立ち上がる。

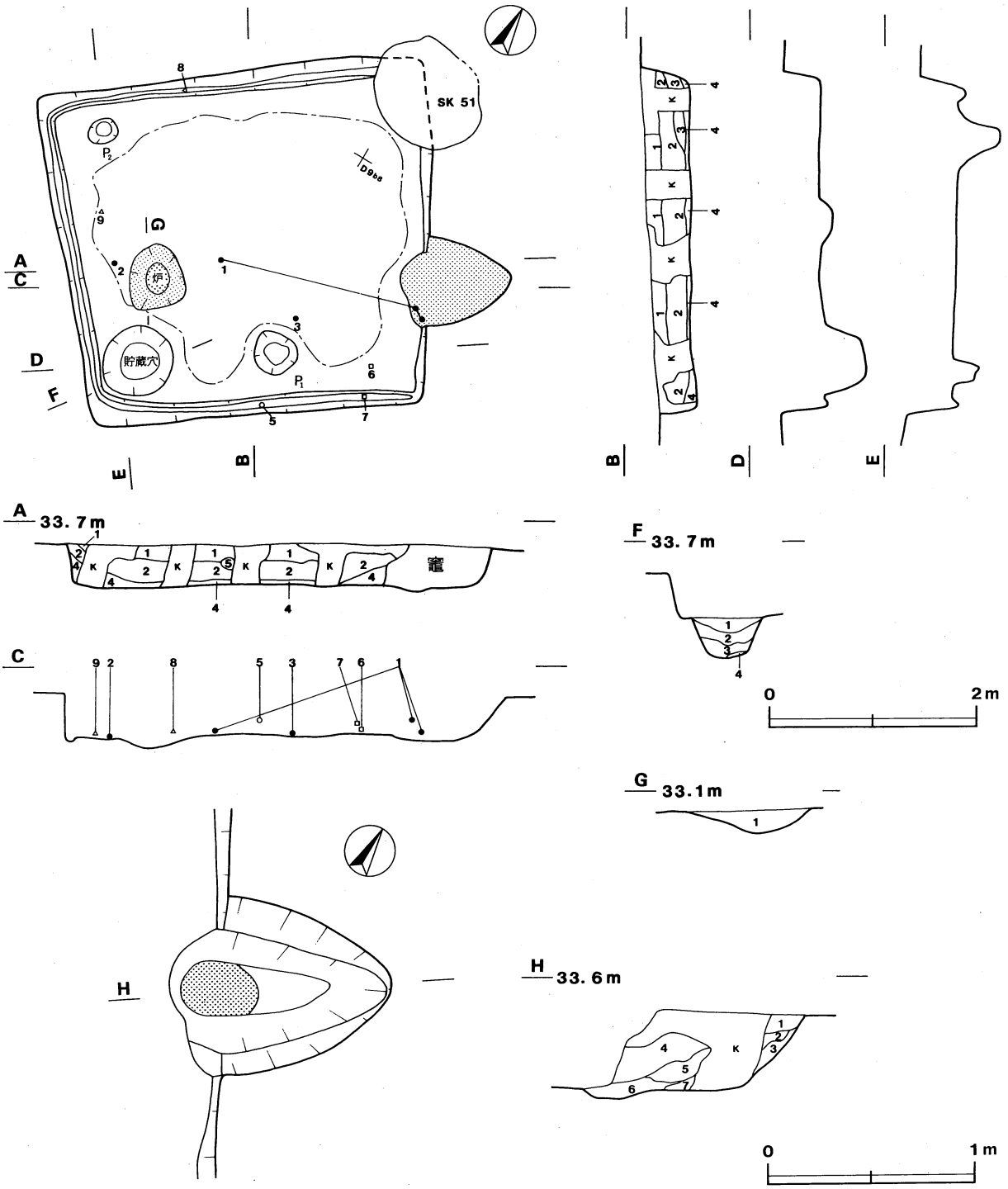
竈土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　焼土・ローム粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子　・ローム小ブロック微量
5　暗褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
6　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック少量

炉　中央部から西よりに位置し，長径60cm，短径52cmの不整楕円形で，床面を10cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量

覆土　5層からなる自然堆積である。

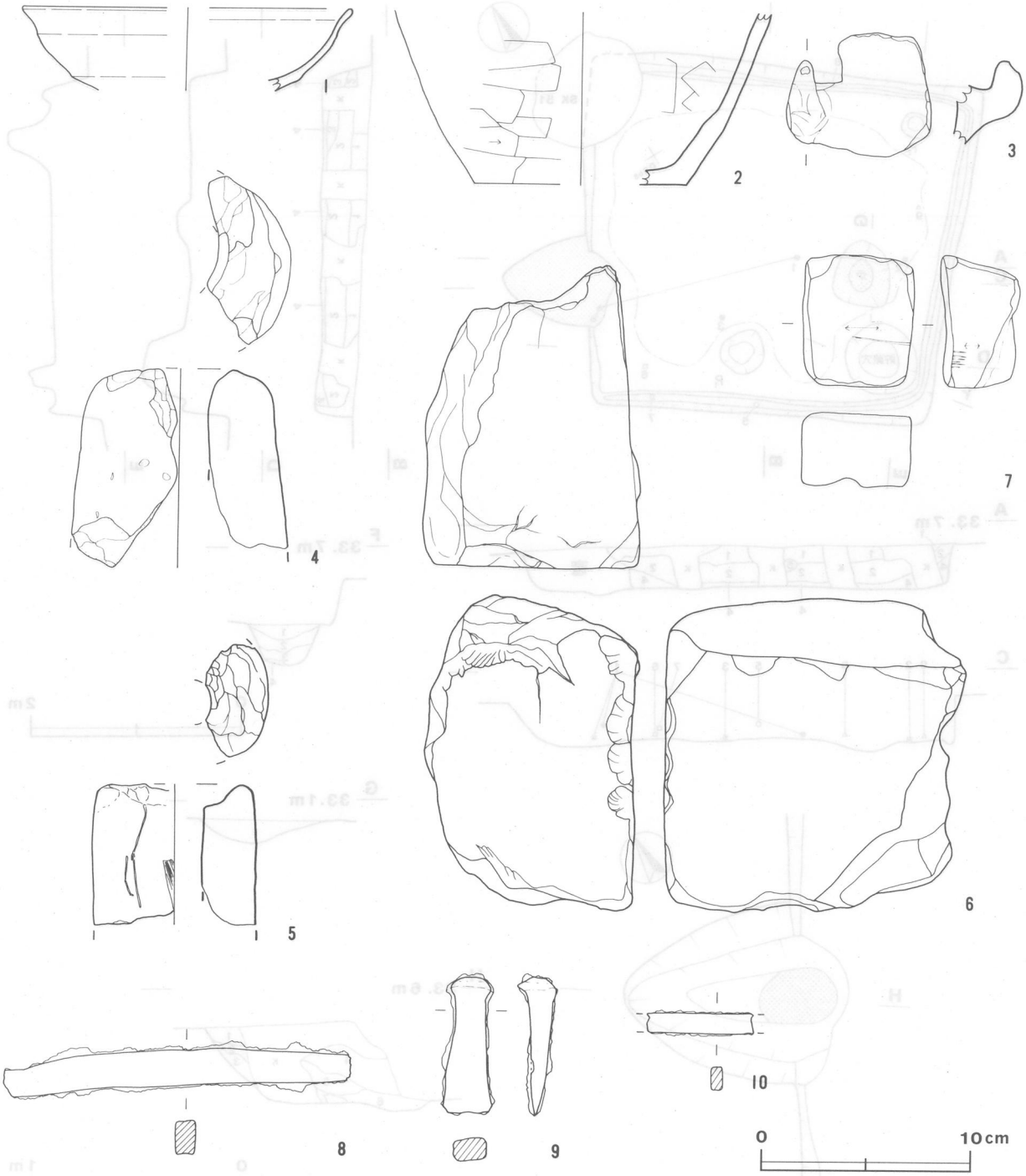
土層解説
1　暗褐色　焼土・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　炭化・ローム粒子微量



第53図　第22号住居跡実測図

遺物　土師器片182点，須恵器片14点，羽口等が出土している。第54図１の土師器坏は竈内の覆土下層と中央部の覆土下層から，２の土師器甕は炉西側の床面直上から，３の土師器甑はP_1付近の床面直上からそれぞれ出土している。４の羽口は覆土中から，５の羽口は南東壁際の覆土下層から出土している。６の金床石は東コーナー部の覆土下層から，７の砥石は６の金床石近くの東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。８の鉄鋌は北西壁際の覆土下層から，９の鏨は西部の床面直上から，10の鉄鋌は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀前葉）と思われる。



第54図　第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第54図 1	坏 土師器	A〔15.6〕 B（4.0）	体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P154 20% 竈覆土下層・覆土下層
2	甕 土師器	B（8.4） C〔10.2〕	体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 不良	P155 5% 床面
3	甑 土師器	B（6.1）	把手。把手は体部外面に取り付けられ，カギの手状を呈する。	体部内・外面及び把手ともにナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P156 5% 床面

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第54図4	羽　口	〔10.4〕	(8.4)	不明	(206.1)	覆土中	DP31　PL37
5	羽　口	〔7.9〕	(6.7)	不明	(83.2)	覆土下層	DP32

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	金床石	15.1	10.2	14.4	3327.4	砂　岩	覆土下層	Q7
7	砥　石	6.3	5.3	3.5	170.4	凝灰岩	覆土下層	Q8

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	鉄　鋌	(16.4)	1.7	1.1	(110.3)	覆土下層	M15　PL41
9	鏃	6.6	2.4	1.9	45.5	床面	M16　PL41
10	鉄　鋌	5.1	1.0	0.8	10.1	覆土中	M17

第23号住居跡（第55図）

位置　調査区の西部，C5h5区。

重複関係　本跡は，第6号溝を掘り込んでいることから，第6号溝よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.77m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は45～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅30cm，下幅6cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

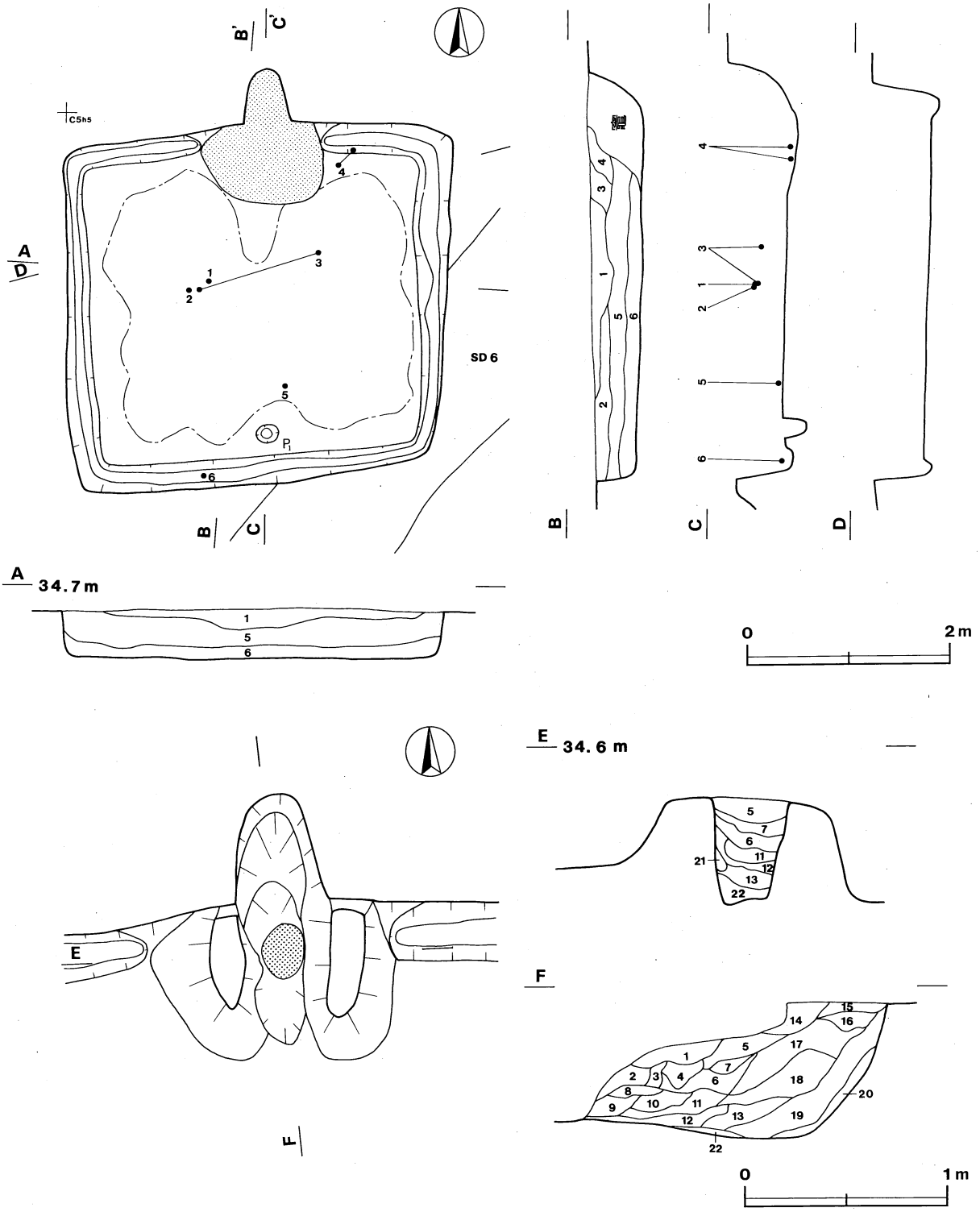
床　平坦で，わずかに踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径22cm，短径19cmの不整楕円形，深さ23cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に55cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで125cm，最大幅120cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めており赤変硬化している。煙道部は，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

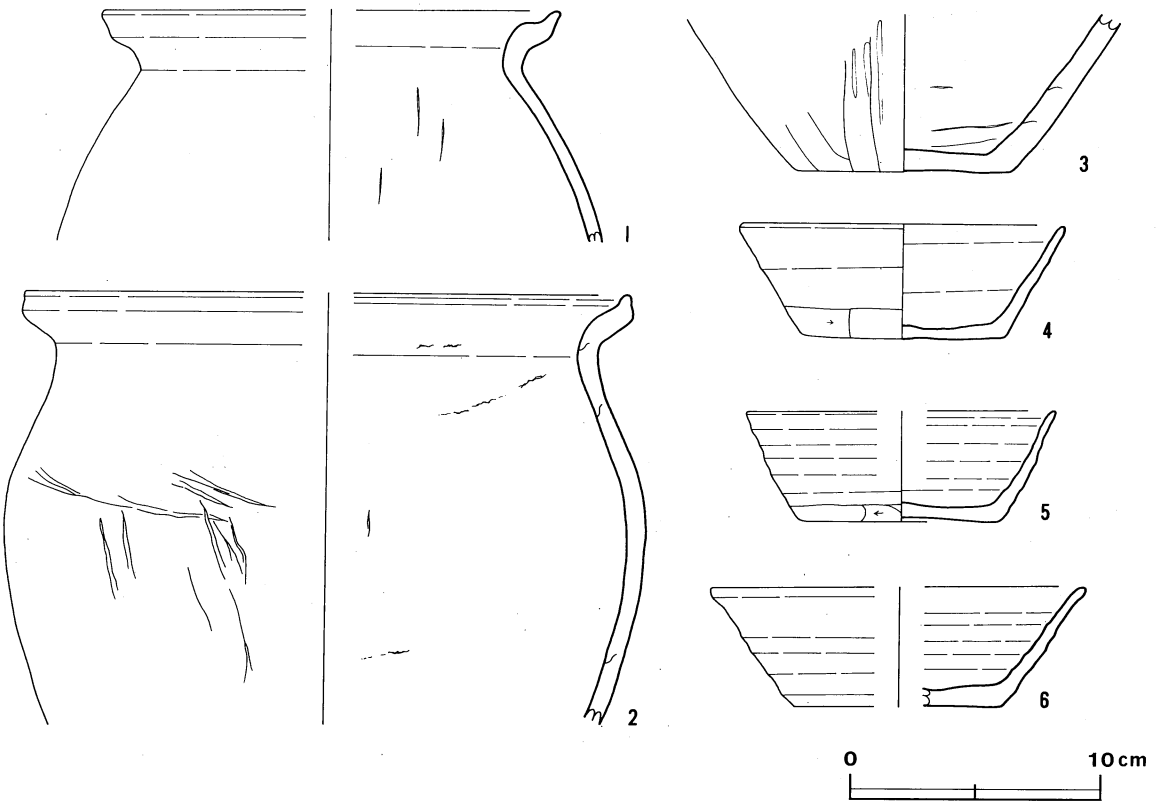
1　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，砂粒少量
9　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子
10　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　黒褐色　砂粒多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
13　暗褐色　焼土粒子中量，砂粒少量，焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
14　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
15　黒褐色　ローム粒子微量，炭化・粘土粒子微量
16　黒褐色　粘土粒子多量，焼土・ローム粒子微量
17　黒褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
18　黒褐色　粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
19　黒　色　粘土多量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
20　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
21　にぶい褐色　砂粒多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
22　暗褐色　砂粒中量，焼土・炭化粒子少量



第55図　第23号住居跡実測図

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量，炭化粒子微量
2　灰褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量
3　灰褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量
5　灰褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量



第56図　第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	甕 土師器	A〔18.2〕 B(9.2)	体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P158 5% 覆土中層
2	甕 土師器	A〔24.2〕 B(17.3)	体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P157 15% 覆土中層
3	甕 土師器	B(6.4) C 8.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ，外面下位ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P159 5% 覆土中層
4	坏 須恵器	A 13.0 B 4.5 C 8.1	口縁部一部欠損。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P160 80% PL26 床面
5	坏 須恵器	A〔12.2〕 B 4.4 C 7.8	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 良好	P161 60% PL26 床面
6	坏 須恵器	A〔14.9〕 B 4.8 C〔 8.3〕	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・針状鉱物・小礫 灰黄色 普通	P162 45% PL26 覆土下層

遺物　土師器片145点，須恵器片58点等が出土している。第56図１～３の土師器甕はいずれも中央部の覆土中層から出土している。４の須恵器坏は北壁際東部の床面直上から，５の須恵器坏は南部の床面直上から，６の須恵器坏は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。

第24号住居跡（第57図）

位置　調査区の西部，C5h3区。

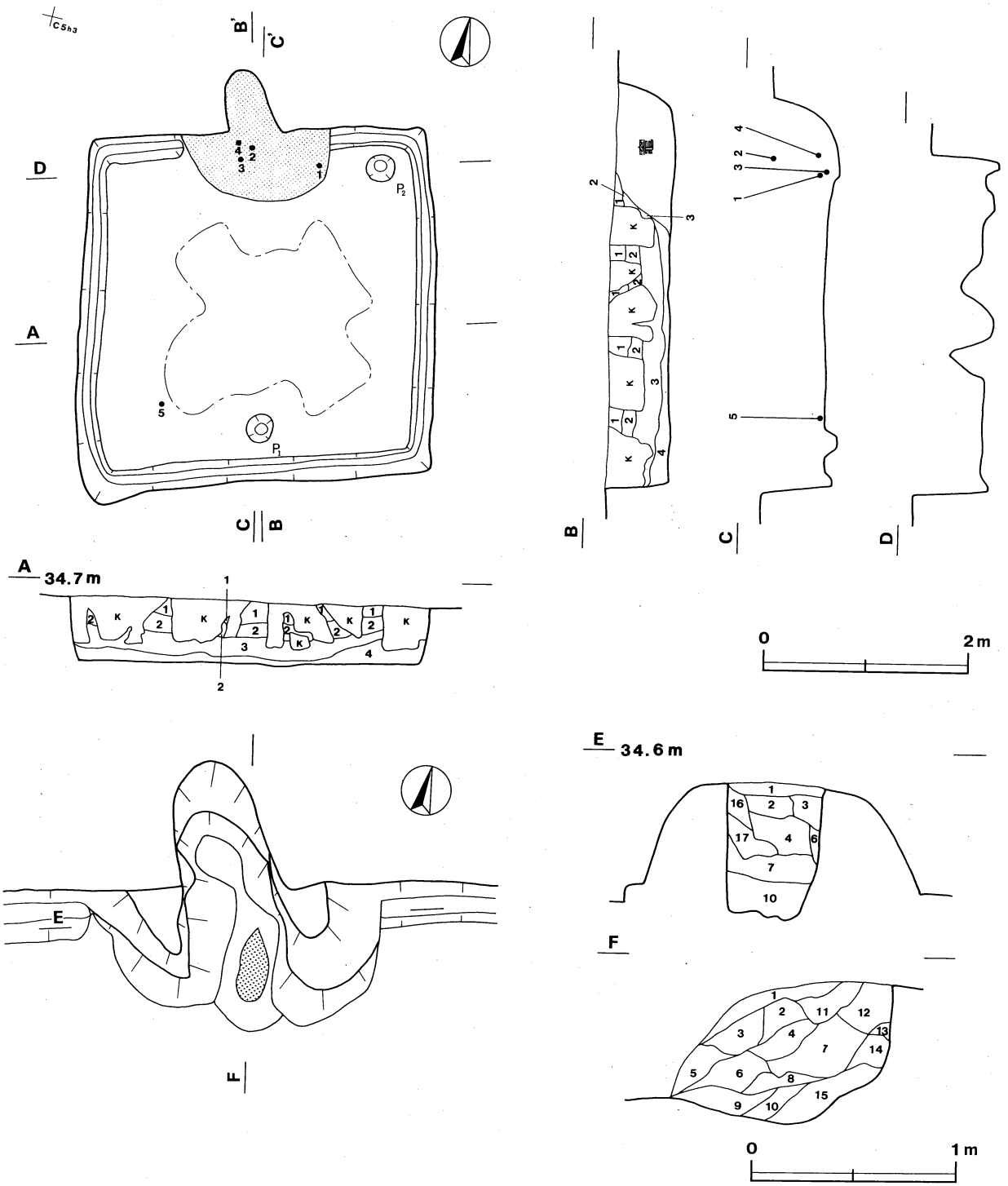
規模と平面形　一辺3.45mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は57～65cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅24cm，下幅27cm，深さ７cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，わずかに締まりがある。



第57図　第24号住居跡実測図

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径29㎝，短径25㎝の不整楕円形，深さ12㎝で，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は径27㎝の不整円形，深さ12㎝で，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に63㎝ほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで130㎝，幅140㎝である。火床部は，床面を15㎝程掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し，中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　色　焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土大ブロック・焼土・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化・ローム粒子・砂粒少量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
10　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量
11　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　暗赤褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
13　暗赤褐色　ローム粒子微量
14　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
15　極暗赤褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
16　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
17　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量

覆土　撹乱は受けているものの，4層からなる自然堆積である。

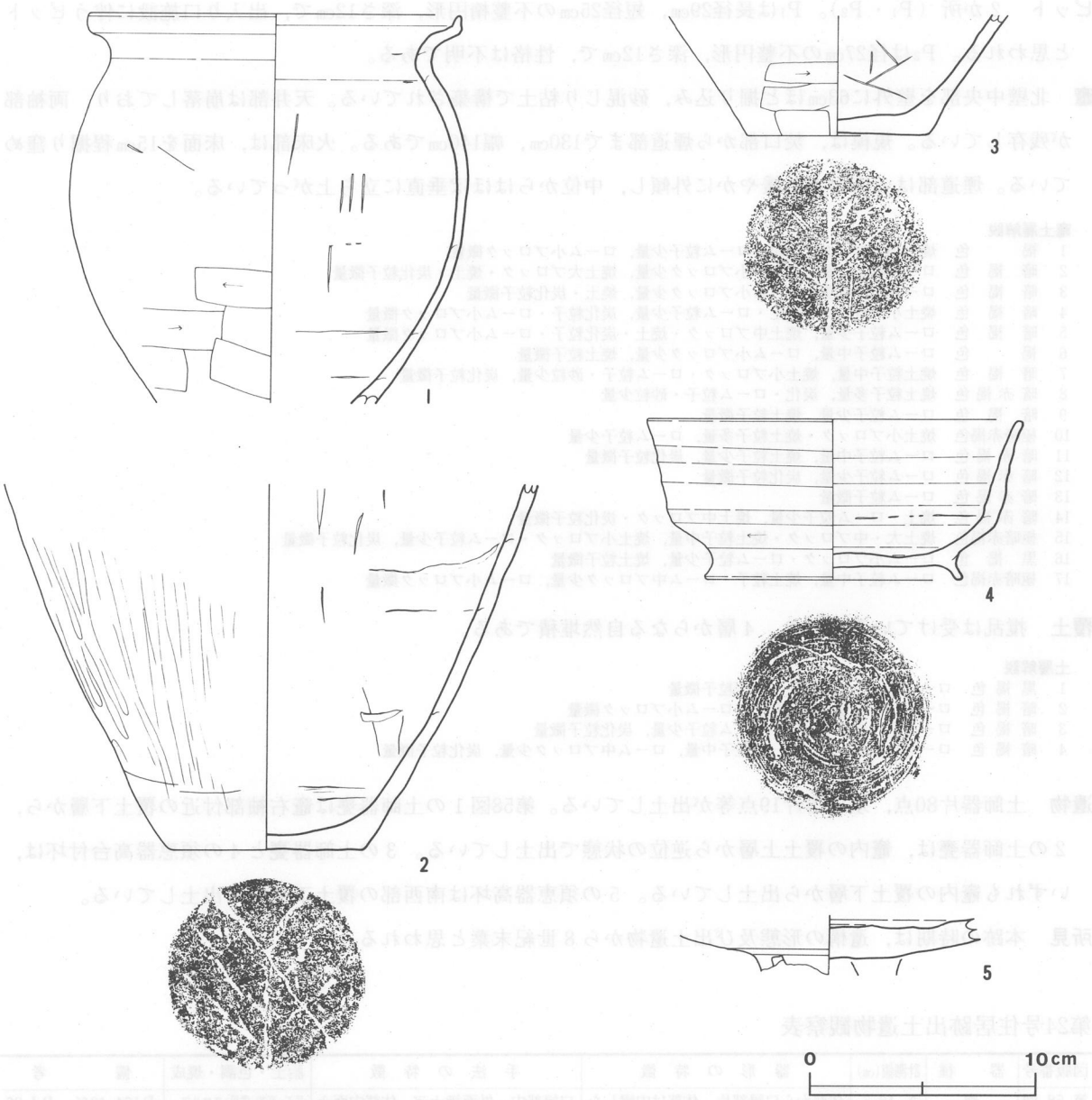
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片80点，須恵器片19点等が出土している。第58図1の土師器甕は竈右袖部付近の覆土下層から，2の土師器甕は，竈内の覆土上層から逆位の状態で出土している。3の土師器甕と4の須恵器高台付坏は，いずれも竈内の覆土下層から出土している。5の須恵器高坏は南西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第58図 1	甕 土師器	A 16.5 B (17.4)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P164 40%　PL26 覆土下層
2	甕 土師器	B (16.3) C 8.5	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面下位ヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母・スコリア 明褐色 普通	P165 30% 竈覆土上層
3	甕 土師器	B (5.4) C 8.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面手持ちヘラ削り後ナデ。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P166 15% 竈覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A 16.4 B 7.1 D 11.3 E 1.3	口縁部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に外反しながら開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り後，高台張り付け。	長石・石英・雲母・スコリア 灰白色 良好	P167 95%　PL27 竈覆土下層
5	高坏 須恵器	B 2.6	坏部・脚部片。坏部は緩やかに外傾する。脚部は四方透かし。	坏・脚部横ナデ。	長石・石英 浅黄色 普通	P168 10% 覆土下層



第58図　第24号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡（第59図）

位置　調査区の西部，D5a3区。

重複関係　本跡は，第27号住居跡の西部を掘り込んでおり，また，第28号住居跡の床の上に本跡の床を構築していることから両遺構よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.42mの方形である。

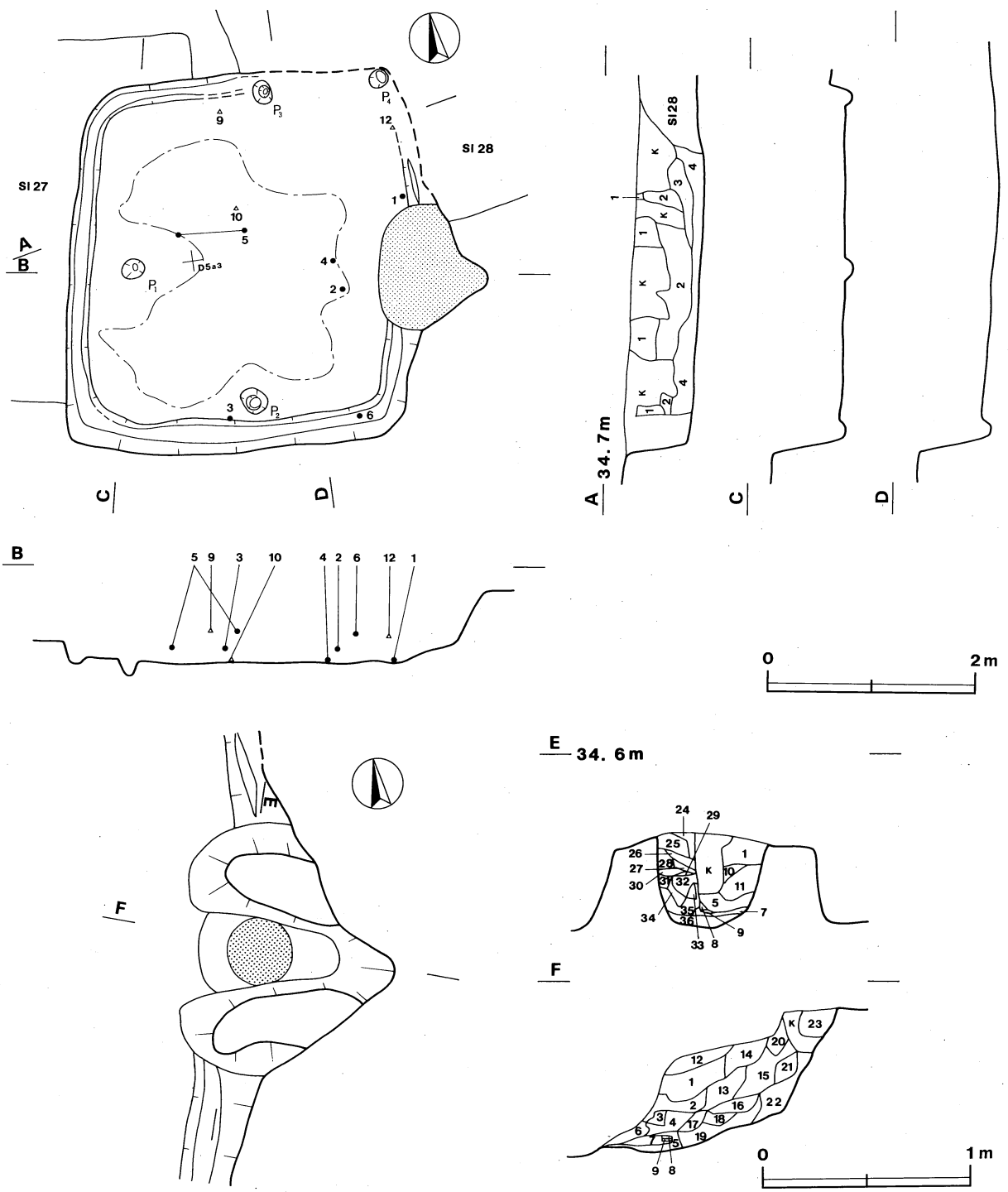
主軸方向　N－103°－E

壁　壁高は65～72cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部壁下を除き全周する。上幅22cm，下幅13cm，深さ８cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1は長径24cm，短径20cmの不整楕円形，深さ20cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_4は長径24～28cm，短径17～22cmの不整楕円形，深さ19～33cmで性格は不明である。



第59図　第25号住居跡実測図

竈　東壁ほぼ中央部を壁外に60㎝程掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ95㎝，最大幅120㎝である。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面から直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　赤　褐　色　粘土粒子多量
4　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化・ローム粒子微量
5　暗 赤 灰 色　焼土・粘土粒子少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土・炭化・ローム粒子微量

7　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック微量
8　暗　褐　色　焼土・粘土粒子多量
9　暗 赤 灰 色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化材・炭化・粘土粒子少量
11　暗 赤 褐 色　粘土粒子少量，炭化・ローム粒子微量，焼土粒子微量
12　暗 赤 褐 色　炭化・ローム・粘土粒子少量
13　暗 赤 褐 色　炭化・ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
14　暗 赤 褐 色　ローム・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
15　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子微量，焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
16　暗 赤 褐 色　焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
17　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量
18　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
19　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
20　暗　褐　色　粘土粒子多量，炭化・ローム粒子少量
21　暗 赤 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
22　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
23　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子少量
24　暗　褐　色　ローム粒子・粘土少量，焼土粒子微量
25　暗　褐　色　粘土粒子多量，炭化物・炭化・ローム粒子少量
26　暗　褐　色　焼土・ローム・粘土粒子少量，炭化粒子微量
27　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土・ローム粒子微量
28　暗　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
29　黒　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
30　暗　褐　色　粘土粒子多量，炭化・ローム粒子少量
31　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土粒子少量
32　暗 赤 褐 色　焼土・粘土粒子少量
33　赤　褐　色　焼土粒子多量
34　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化物微量
35　暗 赤 褐 色　焼土・粘土粒子少量
36　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量

覆土　4層からなる自然堆積である。

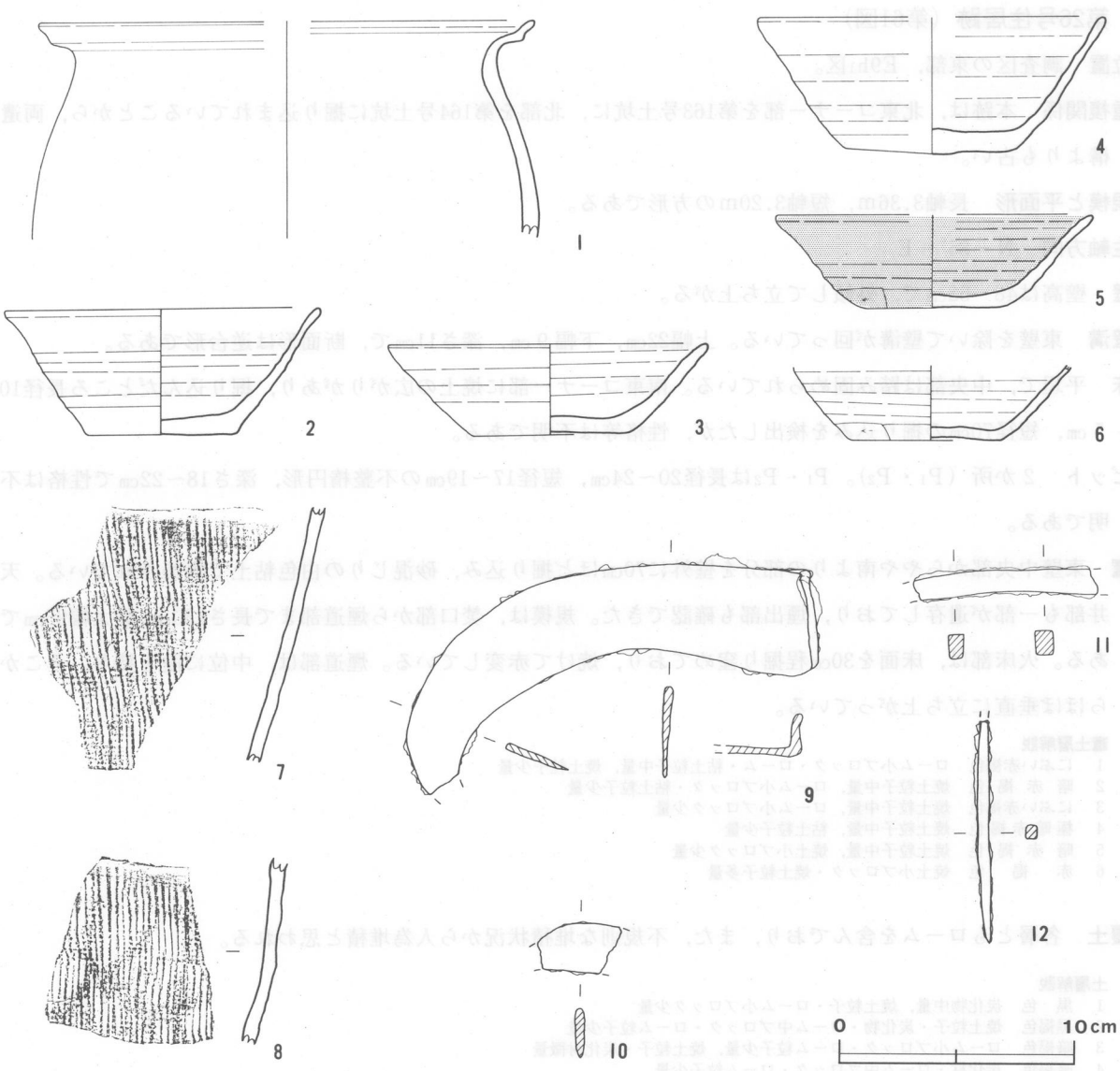
土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
4　黒 褐 色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片65点，須恵器片36点，鉄製品等が出土している。第60図1の土師器甕は東壁際の覆土下層から，2・4の須恵器坏は東部竈前面の覆土下層から，2は正位の状態で，4は逆位の状態で出土している。3の須恵器坏は南壁際の覆土下層から逆位の状態で，5の須恵器坏は中央部の覆土中層から出土している。6の須恵器坏は，南東コーナー部壁際の覆土中層から出土している。7・8は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に擬格子目タタキが施されている。9の鉄鎌は北壁際の覆土中層から，10の鉄鎌は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。11の鉄鋌は覆土中から，12の鉄釘は北東部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	甕 土師器	A〔21.0〕 B（9.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外傾する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・パミス にぶい橙色 良好	P169 5％ 覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.5 B 5.4 C 6.4	体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外彎する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状鉱物・小礫 灰黄色 良好	P170 100％ PL27 覆土下層
3	坏 須恵器	A 13.6 B 3.8 C 6.8	口縁部一部欠損。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P171 90％ PL27 覆土下層 底部外面に二次火熱痕
4	坏 須恵器	A〔14.8〕 B 5.9 C 7.1	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状鉱物・小礫 灰白色 良好	P172 45％ 覆土下層



第60図　第25号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 5	坏 須恵器	A〔13.4〕 B 4.0 C 5.8	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。体部内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P173 45% 覆土中層
6	坏 須恵器	B（3.2） C 6.4	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・パミス 灰黄色 普通	P174 80% 覆土中層

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
9	鉄鎌	(17.9)	4.5	0.4	(92.6)	覆土中層	M19 PL40
10	鉄鎌	(6.0)	2.3	0.5	(5.4)	床面	M20 PL40
11	鉄鋌	7.8	1.2	0.8	31.4	覆土中	M21
12	鉄釘	(9.5)	0.6	0.6	(6.9)	覆土中層	M22 PL41

第26号住居跡（第61図）

位置　調査区の東部，E9h_1区。

重複関係　本跡は，北東コーナー部を第163号土坑に，北部を第164号土坑に掘り込まれていることから，両遺構よりも古い。

規模と平面形　長軸3.36m，短軸3.20mの方形である。

主軸方向　N－85°－E

壁　壁高は48～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁を除いて壁溝が回っている。上幅22cm，下幅9cm，深さ11cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。南東コーナー部に焼土の広がりがあり，掘り込んだところ長径105cm，短径70cmの掘り込みを検出したが，性格等は不明である。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は長径20～24cm，短径17～19cmの不整楕円形，深さ18～22cmで性格は不明である。

竈　東壁中央部からやや南よりの部分を壁外に70cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部も一部が遺存しており，煙出部も確認できた。規模は，焚口部から煙道部まで長さ130cm，最大幅95cmである。火床部は，床面を30cm程掘り窪めており，焼けて赤変している。煙道部は，中位に段を持ち，そこからほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
6　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量

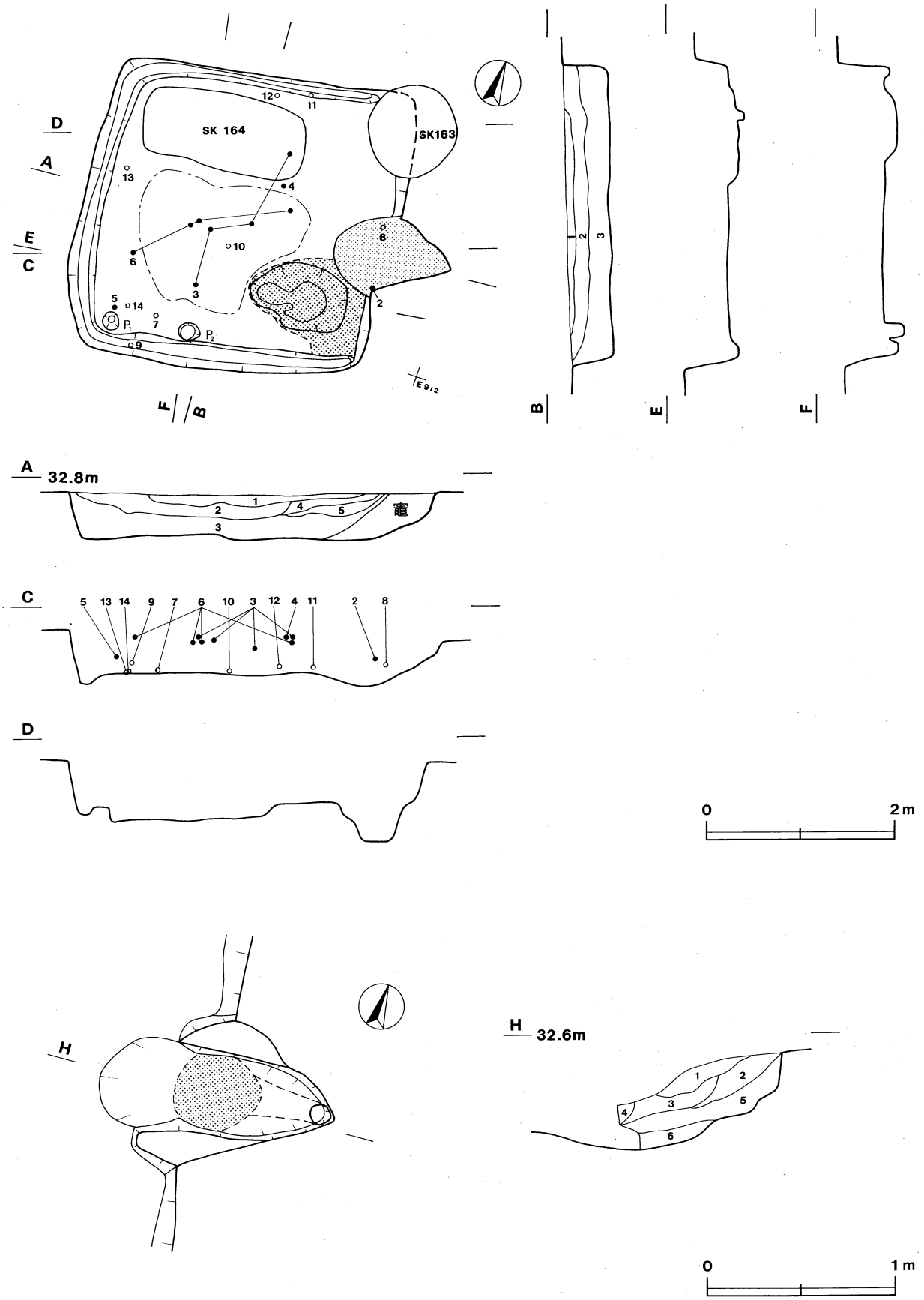
覆土　各層ともロームを含んでおり，また，不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

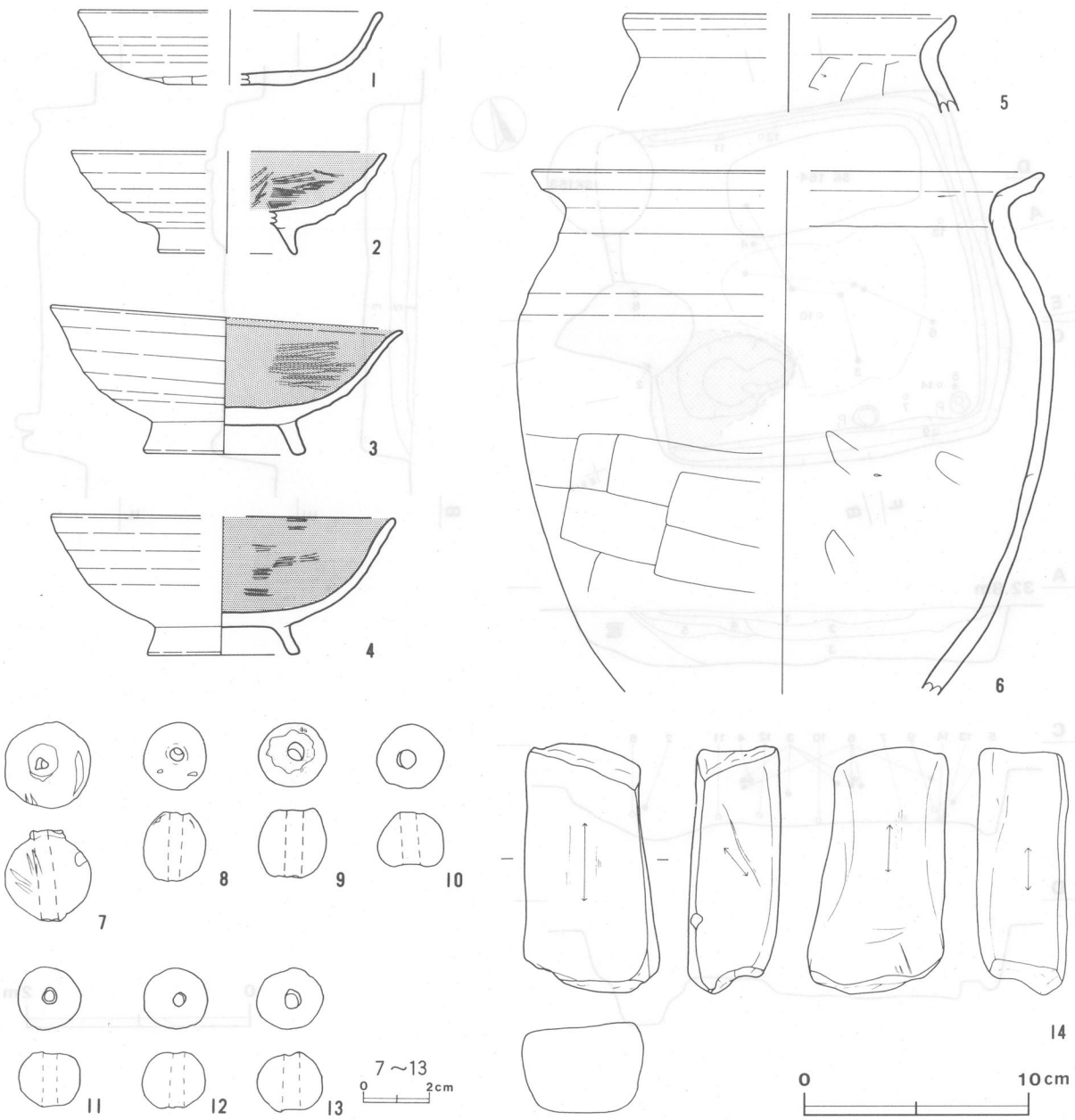
1　黒色　炭化物中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　黒褐色　焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
4　暗褐色　炭化材・ローム中ブロック・ローム粒子少量
5　黒褐色　焼土粒子・炭化物少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片370点，須恵器片37点，土玉7点，砥石1点の他，鉄滓が88.5kg出土している。鉄滓が一つの住居跡からこれほど多量に検出されたのは，本跡を廃棄する際に投棄された可能性が高い。第62図1の土師器坏は，覆土中から出土している。2の土師器高台付坏は竈右袖部付近の覆土中層から，3・4の土師器椀は中央部の覆土上層から出土している。5の土師器甕は南西コーナー部の覆土中層から出土し，6の土師器甕は中央部と南西部の覆土上層から出土したものが接合した。7の土玉は南部の覆土下層から，8の土玉は竈左袖部付近の覆土中層から，9の土玉は南西コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。10の土玉は中央部の覆土下層から，11の土玉は北壁際の覆土下層から，12の土玉は北壁際の中央部覆土下層から，13の土玉は西部の床面直上からそれぞれ出土している。14の砥石は，南西コーナー部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。



第61図　第26号住居跡実測図



第62図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第62図 1	坏 土師器	A〔13.4〕 B 3.4 C〔5.8〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母 橙色 普通	P644 15% 覆土中
2	椀 土師器	A〔14.0〕 B 4.6 D〔6.2〕 E 1.2	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に外反する。高台端部は器肉が薄い。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部切り離し後，高台貼り付け。体部内面黒色処理。	雲母 にぶい橙色 普通	P175 15% 覆土中層
3	椀 土師器	A 15.6 B 6.5 D 7.1 E 1.5	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。体部内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P645 75%　PL27 覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第62図 4	椀 土師器	A〔15.2〕 B 6.2 D 6.7 E 1.3	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。体部内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P646 50% 覆土上層
5	甕 土師器	A〔14.6〕 B(4.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P176 5% 覆土中層
6	甕 土師器	A〔22.4〕 B 23.5	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位横方向のヘラ削り。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P647 20% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.6	2.8	0.4	15.5	覆土下層	DP33 PL36
8	土玉	2.0	2.1	0.4	7.6	覆土中層	DP34
9	土玉	2.1	2.1	0.5	8.6	覆土下層	DP35
10	土玉	2.1	1.7	0.6	5.8	覆土下層	DP36
11	土玉	1.9	1.6	0.4	5.7	覆土下層	DP37
12	土玉	1.9	1.6	0.4	5.8	覆土下層	DP38
13	土玉	2.0	1.8	0.5	5.1	床面	DP39

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥石	11.1	6.1	4.1	457.3	凝灰岩	床面	Q9 PL39

第27号住居跡（第63図）

位置　調査区の西部，C5j_2区。

重複関係　本跡は，東部を第25号住居跡に掘り込まれていることから，第25号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸3.52m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は54cm～56cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第25号住居跡に掘り込まれている部分と，北壁東部壁下を除いて全周する。上幅33cm，下幅10cm，深さ6cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径25cm，短径20cmの不整楕円形，深さ22cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

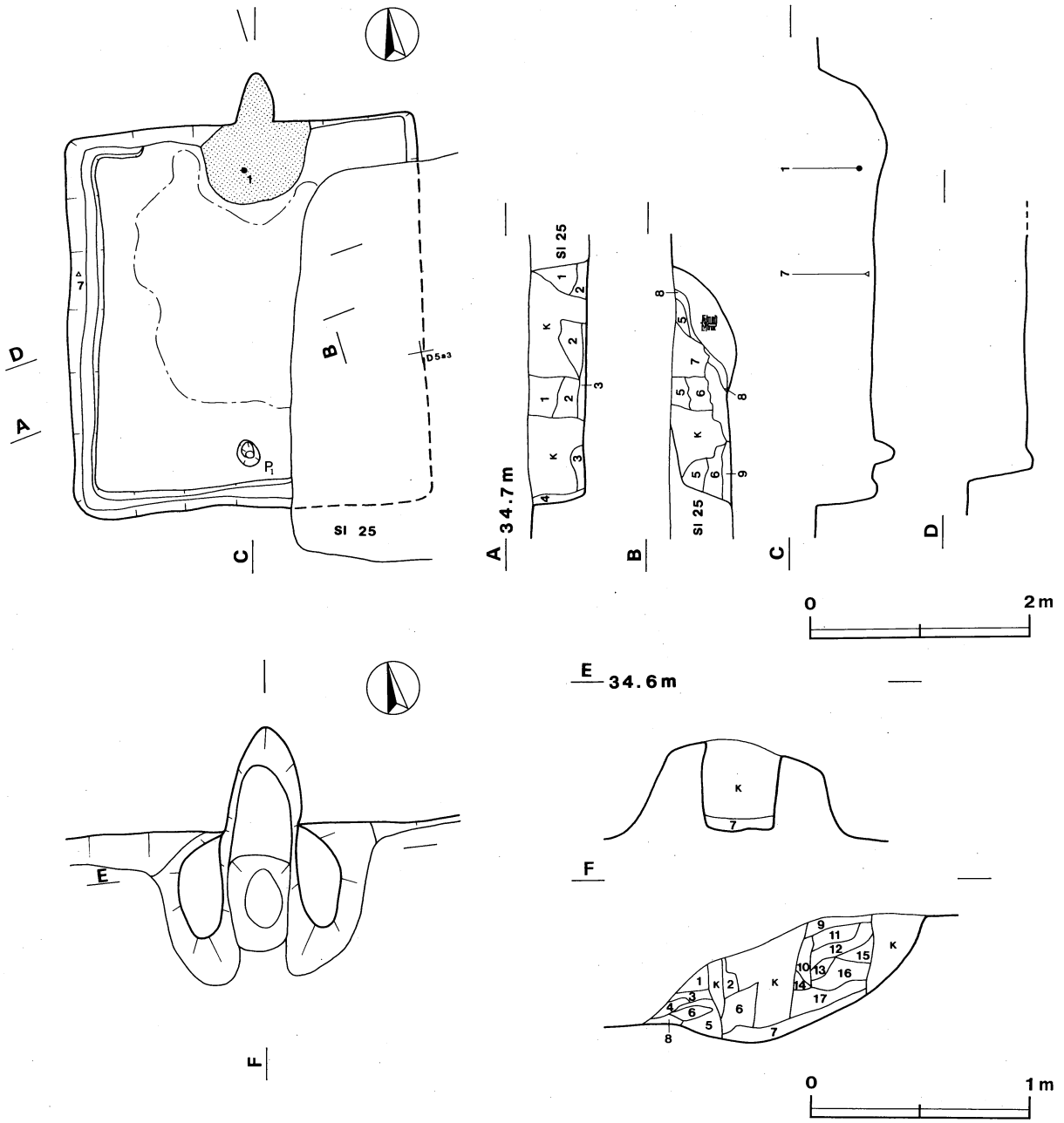
竈　北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されているが撹乱を受け遺存状態は悪い。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ110cm，幅100cmである。火床部は，床面が10cmほど掘り窪められている。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　炭化・粘土粒子少量，焼土・ローム粒子微量
4　暗赤褐色　ローム・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量，炭化材微量
6　暗赤褐色　粘土多量，焼土粒子微量
7　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
8　暗赤褐色　粘土粒子少量，炭化粒子微量，焼土・ローム粒子微量
9　暗赤褐色　焼土・ローム粒子微量

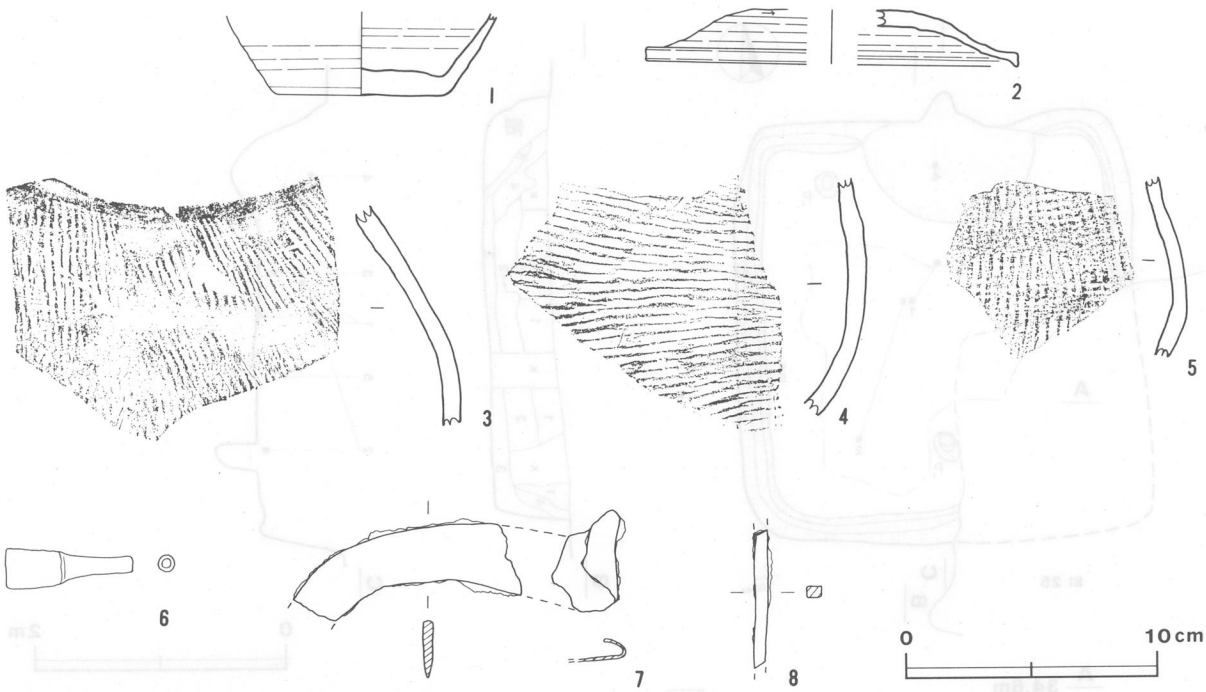
10　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
11　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
12　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
13　にぶい赤褐色　粘土多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
14　暗 赤 褐 色　砂粒多量，焼土・ローム粒子少量
15　暗 赤 褐 色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
16　暗 赤 褐 色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
17　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量

覆土　9層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化・焼土粒子微量
2　暗褐色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗褐色　焼土・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量



第63図　第27号住居跡実測図



第64図　第27号住居出土遺物跡実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第64図 1	坏 須恵器	B(3.4) C 6.8	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P177 30% 竈覆土中層
2	蓋 須恵器	A〔14.8〕 B(2.2)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・パミス 灰黄色 普通	P178 20% 竈覆土中

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	煙管	5.2	(1.7)	—	(5.2)	覆土中	M23 吸口径0.7cm PL41
7	鉄鎌	(9.2)+(3.0)	3.2	0.4	(29.5)	床面	M24 PL40
8	鉄釘	(5.5)	0.6	0.4	(4.6)	竈覆土中	M26

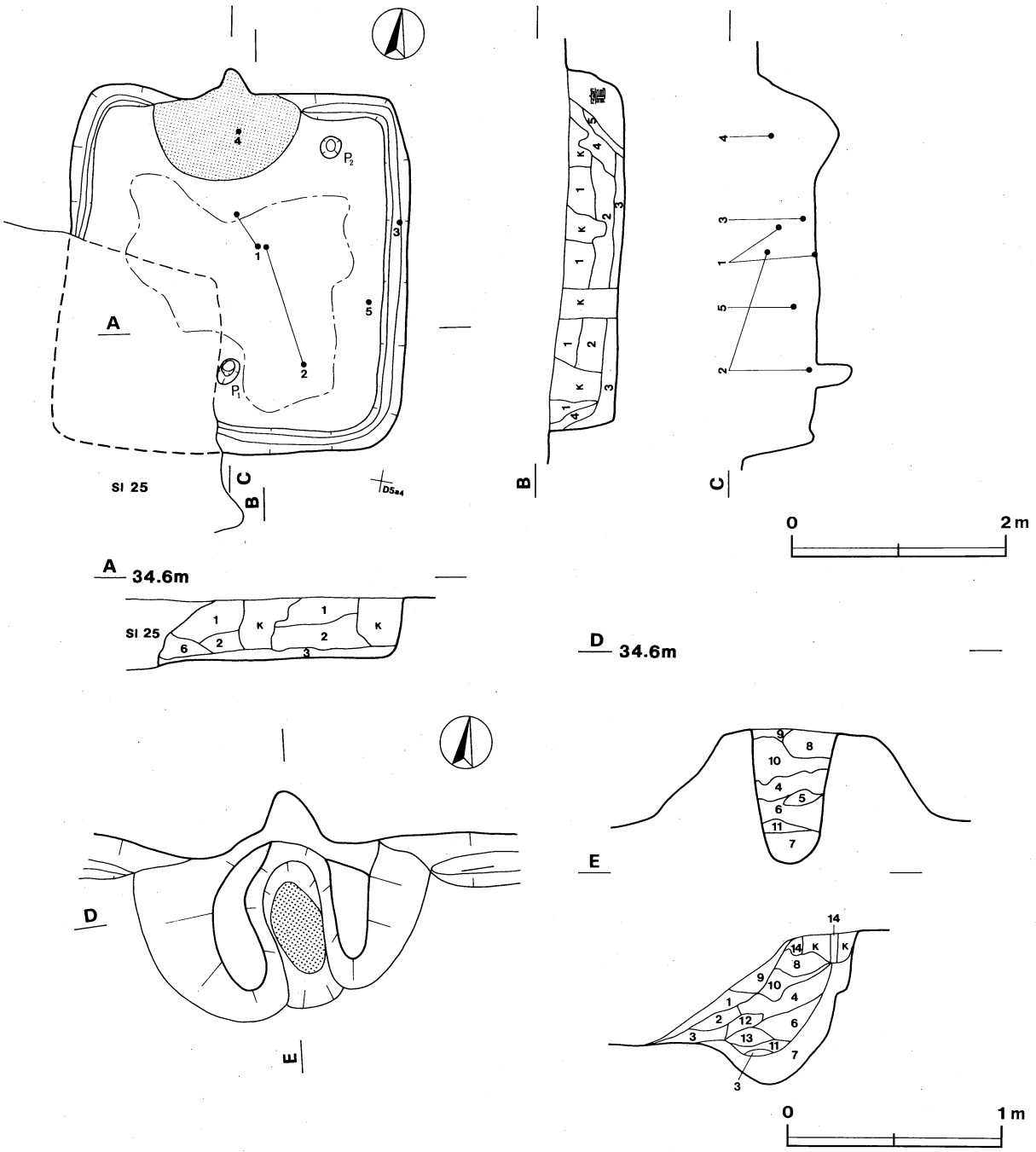
遺物　土師器片152点，須恵器片78点，鉄製品等が出土している。第64図1の須恵器坏は竈内の覆土中層から，2の須恵器蓋と8の鉄釘は竈内の覆土中から出土している。3・4・5は本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，3と5は外面の擬格子タタキ，4は横方向の平行タタキが施されている。6の煙管は覆土中から，7の鉄鎌は西壁際床面直上から出土している。8の鉄鏃は竈覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，第25号住居跡に掘り込まれていることと出土遺物等から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第28号住居跡（第65図）

位置　調査区の西部，C5j3区。

重複関係　本跡の床上に第25号住居跡の床を構築していることから，本跡は第25号住居跡よりも古い。



第65図　第28号住居跡実測図

規模と平面形　長軸3.42m，短軸3.20mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は62～68cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，第25号住居跡に掘り込まれている部分を除いて壁溝が回っている。上幅23cm，下幅12cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径25cm，短径18cmの不整楕円形，深さ35cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径21cm，短径18cmの不整楕円形，深さ19cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築している。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ105cm，最大幅140cmである。火床部は，床面から10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は中位にわずかな段を持ち，火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
2　黒 褐 色　粘土粒子少量，ローム・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　粘土粒子多量，ローム・炭化粒子微量
4　褐　　色　粘土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
5　黒 褐 色　粘土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
6　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
7　暗赤褐色　焼土・ローム・粘土粒子中量，ローム粒子微量
8　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
10　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
11　暗赤褐色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　明 褐 色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
13　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
14　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

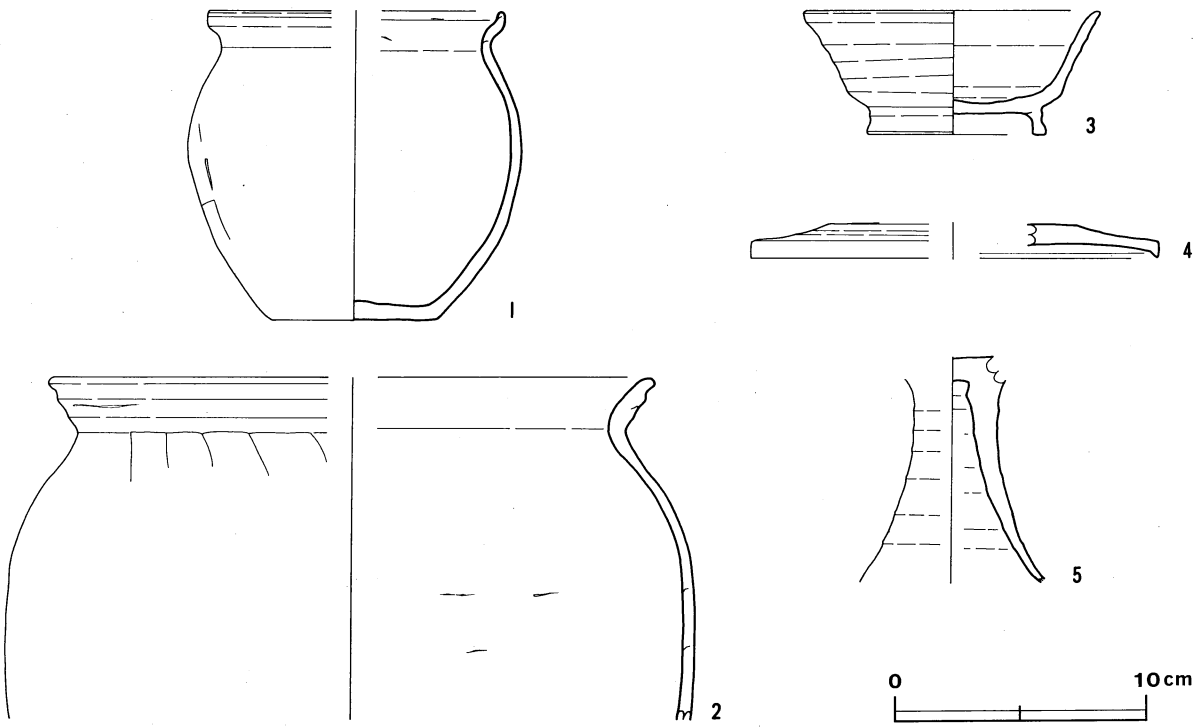
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック中量，砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物　土師器片180点，須恵器片90点，炭化材，鉄滓等が出土している。第66図1の土師器甕は中央部の覆土中層と下層から，2の土師器甕は東部の覆土中層と下層から出土したものが接合した。3の須恵器高台付坏は，東壁際の覆土中層から逆位の状態で出土している。4の須恵器蓋は竈内の覆土中層から，5の須恵器高坏の脚部は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第66図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

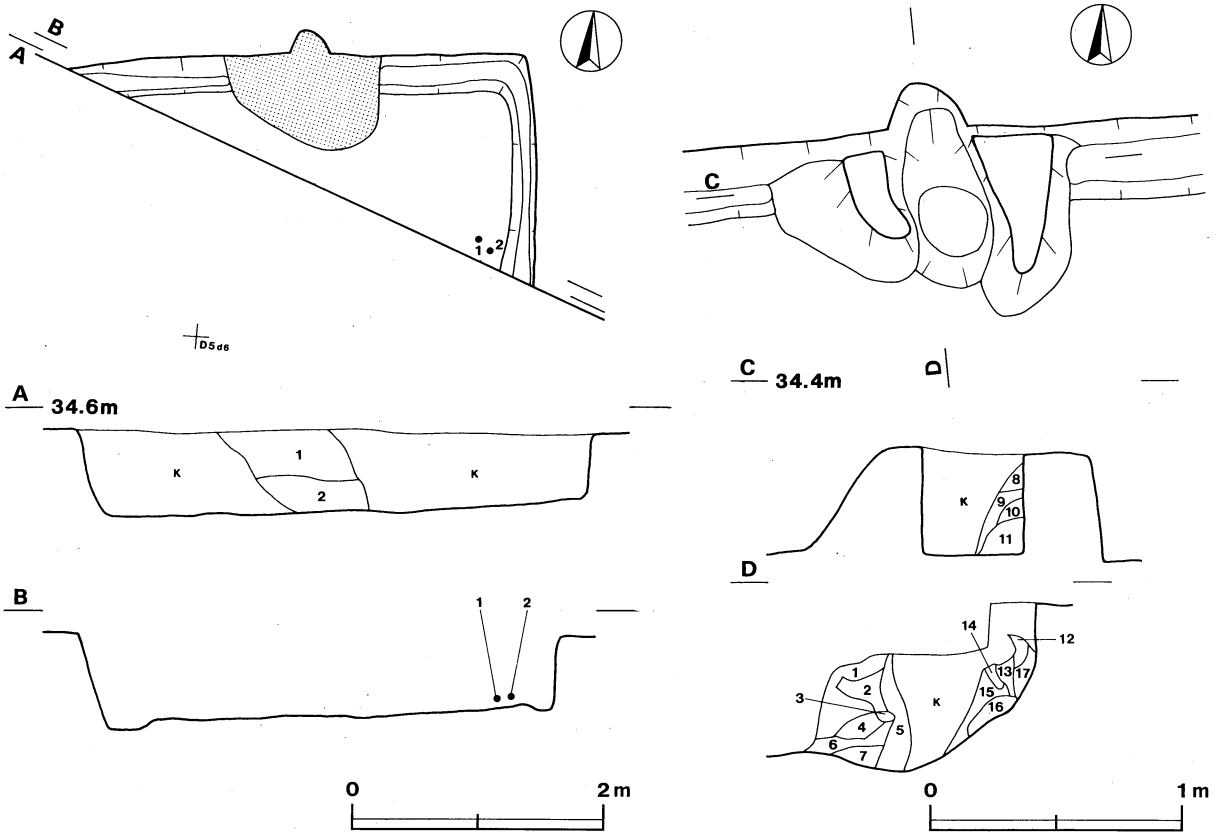
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第66図 1	小形甕 土師器	A〔11.8〕 B 12.4 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 にぶい赤褐色 普通	P179 65%　PL27 覆土中・下層
2	甕 土師器	A〔23.8〕 B(13.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部外側に棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上位ヘラナデ，下位ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P180 10% 覆土中・下層
3	高台付坏 須恵器	A 11.7 B 5.0 D 7.1 E 1.1	口縁部一部欠損。高台は器肉が厚く「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・パミス・針状鉱物 オリーブ灰色 良好	P181 90%　PL27 覆土中層
4	蓋 須恵器	A 16.2 B 1.4	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P182 5% 竈覆土中層
5	高坏 須恵器	B(7.4)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面横ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P183 25% 覆土中層

第29号住居跡（第67図）

位置　調査区の西部，D5c6区。

規模と平面形　長軸（3.55）m，短軸（1.80）mで，南部が調査区外のため平面形は不明である。

主軸方向　N－7°－W



第67図　第29号住居跡実測図

壁　壁高は52～72cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，全周する。上幅21cm，下幅６cm，深さ７cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦である。全体に撹乱を受けているため，床の硬化面は捉えられなかった。

ピット　確認された範囲では，ピットは検出できなかった。

竈　北壁を壁外に20cmほど掘り込み構築されているが，撹乱を受け遺存状態は悪い。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ80cm，最大幅120cmである。火床部は，浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり，徐々に角度を増してほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
3　暗赤褐色　粘土粒子多量，炭化粒子微量
4　褐　　色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
5　暗 褐 色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　砂粒多量，焼土・ローム粒子微量
7　褐　　色　砂粒多量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
8　褐　　色　砂粒少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　砂粒多量，焼土・ローム粒子微量
10　暗赤褐色　焼土中ブロック少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
11　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　褐　　色　砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
13　明 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
14　褐　　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
15　暗赤褐色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
16　暗赤褐色　砂粒中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子微量
17　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子微量

覆土　各層ともロームブロックを含んでおり，人為堆積である。

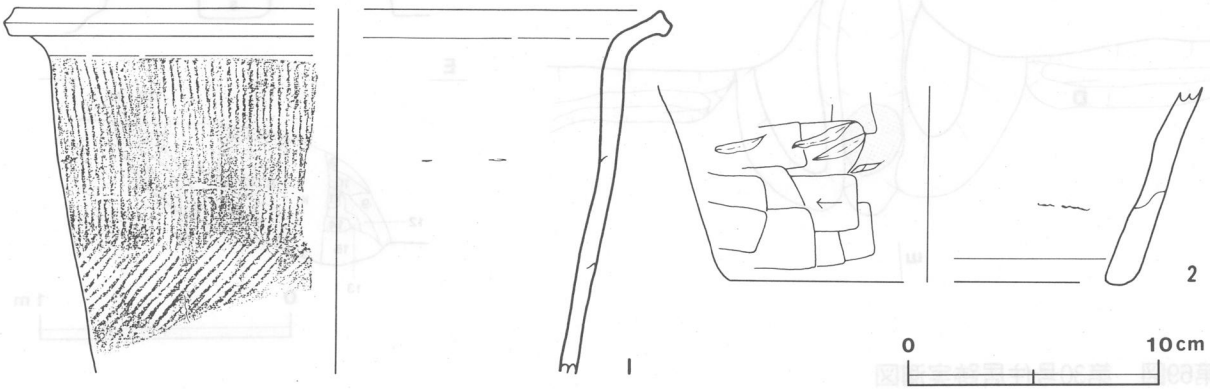
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・ローム大ブロック微量

遺物　大部分が調査区外になっているため，出土遺物も少ない。土師器片16点，須恵器片14点等が出土している。第68図１の須恵器甕と２の須恵器甑は，東壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第68図 1	甕 須恵器	A〔25.9〕 B(14.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位縦方向の平行タタキ，中位斜め方向の平行タタキ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P184 5％ 覆土下層
2	甑 須恵器	B(7.9) C〔16.0〕	底部から体部片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄褐色 普通	P185 5％ 覆土下層



第68図　第29号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡（第69図）

位置　調査区の西部，D5b5区。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.58mの方形である。

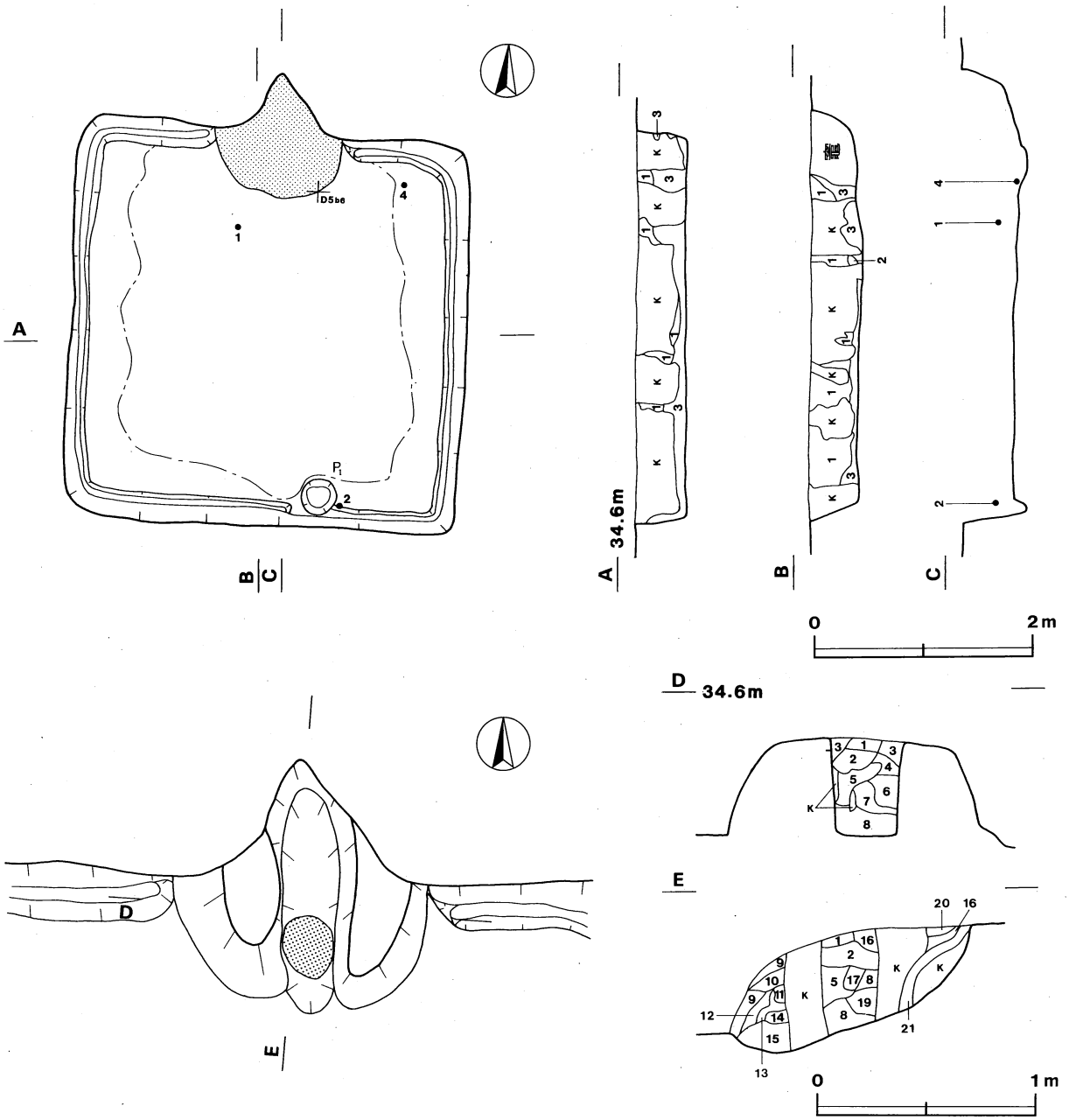
主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は45～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　ほぼ全周する。上幅25cm，下幅6cm，深さ12cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ非常に締まりがある。

ピット　1か所（P_1）。P_1は径32cmの不整円形，深さ8cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。



第69図　第30号住居跡実測図

竈　北壁中央部を壁外に55㎝程三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されているが，撹乱を受け遺存状態はよくない。天井部は崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120㎝，最大幅115㎝である。火床部は，床面を10㎝程掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　砂粒中量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　砂粒少量，焼土・ローム粒子微量
3　暗赤褐色　砂粒少量，焼土・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　砂粒少量，焼土・ローム粒子微量
5　黒　褐　色　炭化・ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量，焼土・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
10　暗赤褐色　砂粒多量・焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
11　暗赤褐色　焼土・ローム粒子微量
12　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量
13　にぶい赤褐色　砂粒多量
14　赤　褐　色　砂粒多量
15　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
16　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
17　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
18　暗　褐　色　焼土小ブロック少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
19　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化・ローム粒子微量
20　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
21　暗赤褐色　粘土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

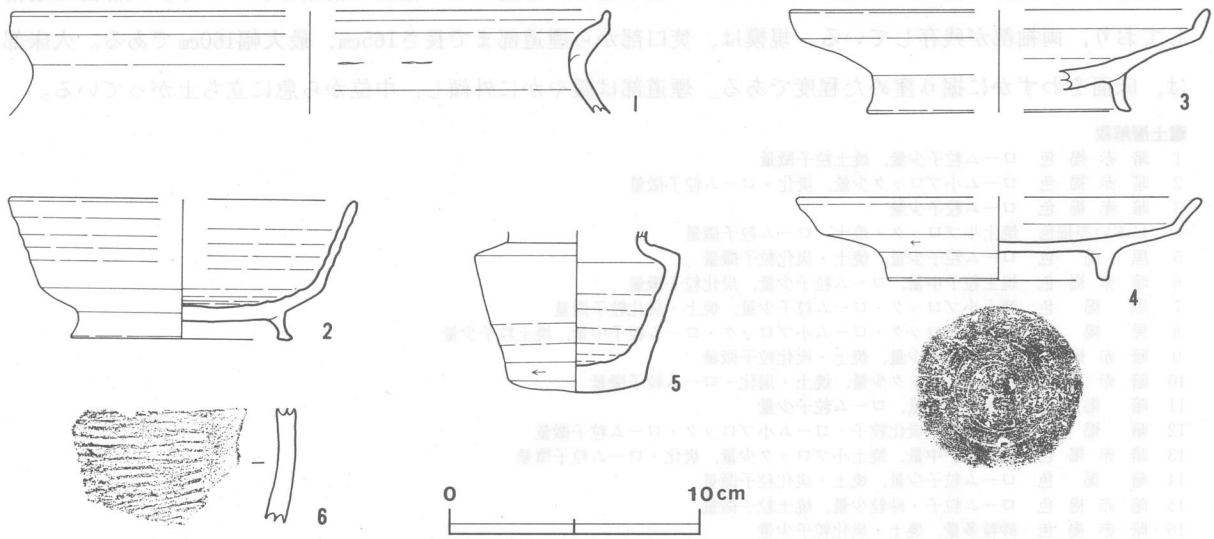
覆土　各層ともローム粒子を含んでおり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量
2　暗赤褐色　砂粒多量
3　暗褐色　ローム大・中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量

遺物　土師器片72点，須恵器片76点等が出土している。第70図1の土師器甕は北部竈前面の覆土中層から，2の須恵器高台付坏は，南壁際P_1付近の覆土中層からそれぞれ出土している。4の須恵器盤は，北東コーナー部の床面直上から正位の状態で出土している。3の須恵器盤と5の須恵器短頸壺は，覆土中から出土している。6は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に横方向の平行タタキが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第70図　第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第70図 1	甕 土師器	A〔23.8〕 B（4.1）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P186 5％ 覆土中層
2	高台付坏 須恵器	A〔13.8〕 B 5.6 D 8.8 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は短く，外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り後ナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P187 40％　PL27 覆土中層
3	盤 須恵器	A〔16.6〕 B 4.1 D〔10.6〕 E 1.5	高台部から口縁部片。高台は高めで真下に伸び，端部は広がる。体部は外傾し，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P189 20％ 覆土中
4	盤 須恵器	A〔16.0〕 B 3.3 D 8.6 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は高めで真下に伸びる。体部は緩く外傾し，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・パミス 褐灰色 普通	P188 60％ 床面
5	短頸壺 須恵器	B（6.5） C 5.4	底部から体部片。丸みを帯びた平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。上位に最大径を有し，強く内傾する。口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P190 50％ 覆土中

第31号住居跡（第71図）

位置　調査区の西部，C5j6区。

規模と平面形　長軸4.05m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は38～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北壁と東壁，西壁の一部を除き全周する。上幅19cm，下幅6cm，深さ6cmで，断面形は逆台形である。

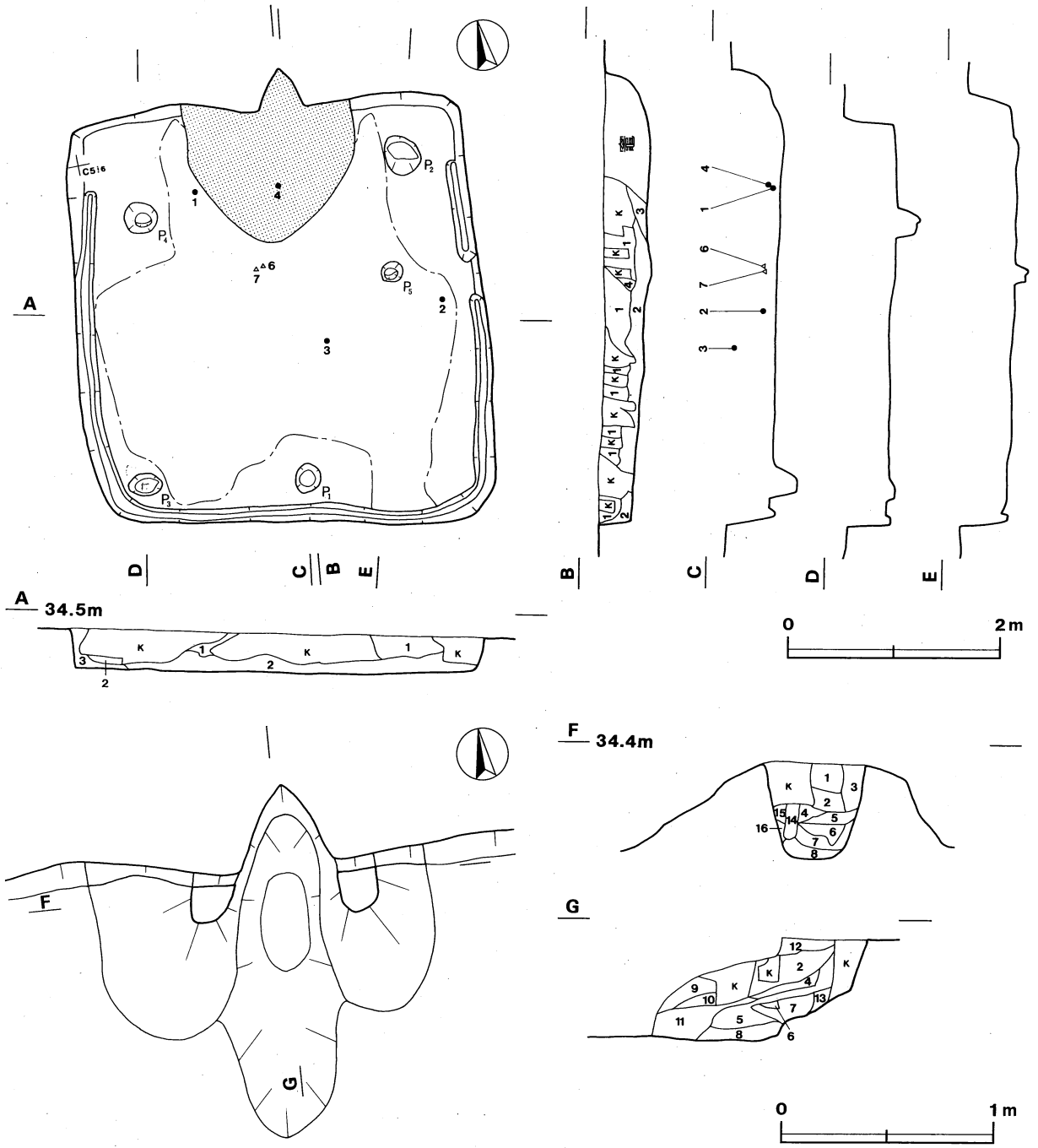
床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1は長径37cm，短径24cmの不整楕円形，深さ30cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_5は長径23～40cm，短径21～33cmの不整楕円形，深さ6～23cmで，性格は不明である。

竈　北壁ほぼ中央部を壁外に76cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ165cm，最大幅160cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は緩やかに外傾し，中位から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック少量，炭化・ローム粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
8　黒褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
11　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
12　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化・ローム粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
16　暗赤褐色　砂粒多量，焼土・炭化粒子少量

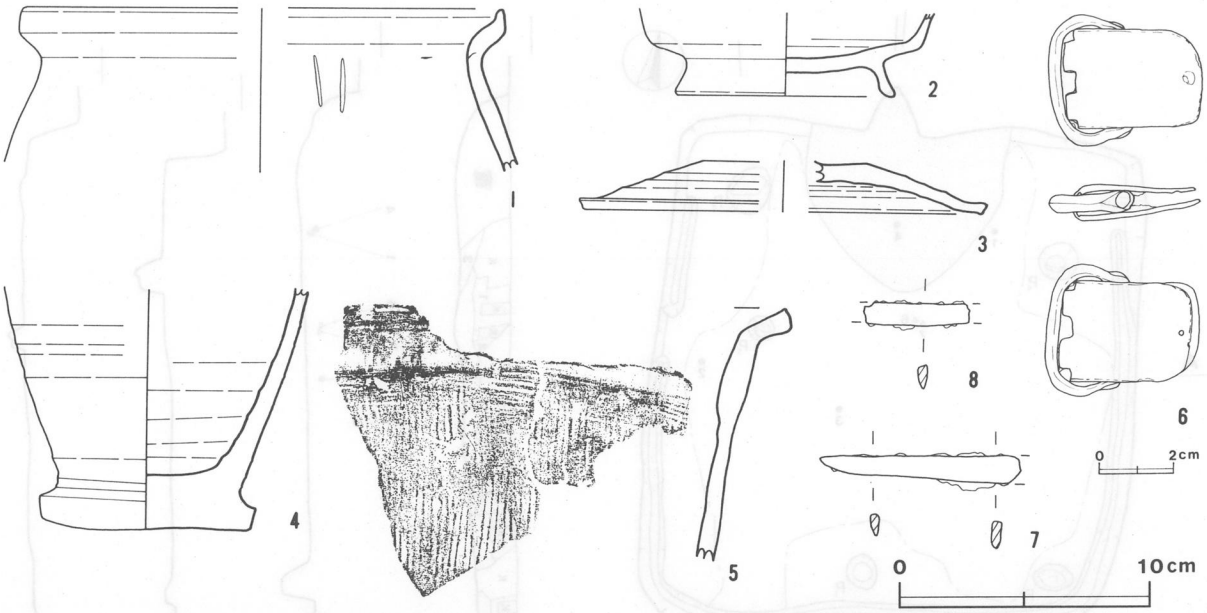


第71図　第31号住居跡実測図

覆土　各層ともロームブロックを含んでおり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　色　砂粒多量，炭化粒子微量

遺物　土師器片152点，須恵器片48点，銅製品，鉄製品等が，遺構北部の覆土下層を中心に出土している。第72図1の土師器甕は竈左袖部付近の覆土下層から，2の須恵器高台付坏は東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。3の須恵器蓋は中央部の覆土上層から，4の須恵器捏鉢は竈内の覆土下層から正位の状態でそれぞれ出土している。5は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に擬格子タタキが施され



第72図　第31号住居跡出土遺物実測図

ている。6の銅製の帯金具（鉸具）と7の刀子は，中央部の覆土下層から出土している。8の刀子は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	甕 土師器	A〔19.2〕 B（6.7）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P191 5％ 覆土下層
2	高台付坏 須恵器	B（3.5） D 8.6 E 1.5	高台部から体部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P192 10％ 覆土下層
3	蓋 須恵器	A〔16.2〕 B（2.0）	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部は水平方向に伸びる。口縁端部はわずかに肥厚する。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P193 40％ 覆土上層
4	捏鉢 須恵器	B（9.7） C 8.4	底部から体部片。底部は厚い円盤状の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P194 35％ PL27 竈覆土下層

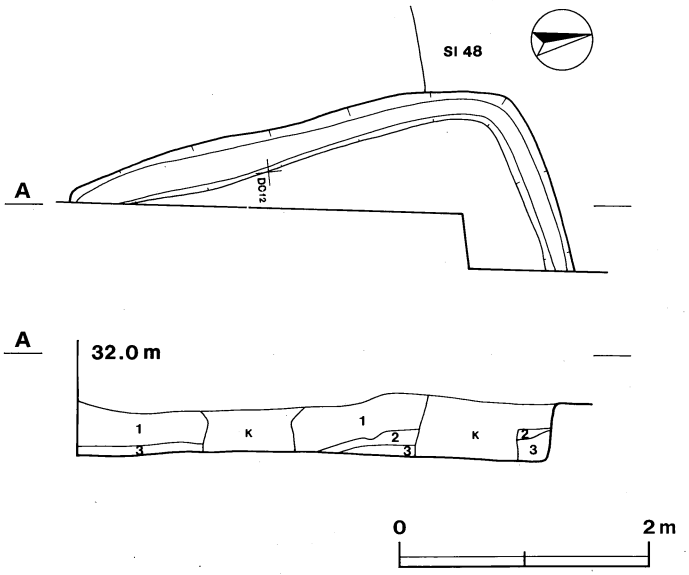
図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	帯金具	4.1	3.6	1.0	18.8	覆土下層	M27 PL41
7	刀子	8.0	1.1	0.4	6.1	覆土下層	M28 PL39
8	刀子	4.2	0.9	0.4	2.5	覆土中	M29 PL39

第32号住居跡（第73図）

位置　調査区の東部，D0f₂区。

重複関係　本跡は第48号住居跡の南部を掘り込んでおり，第48号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸（3.55）m，短軸（1.70）mの〔長方形〕と思われる。



第73図　第32号住居跡実測図

主軸方向　〔N－80°－E〕

壁　壁高は46㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，全周する。上幅30㎝，下幅16㎝である。

床　平坦であるが撹乱を受けており，硬化面は捉えられなかった。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

所見　本跡は床面や壁溝等が検出されたことから，竪穴住居跡であると判断したが，出土遺物がなく正確な時期を限定するのは難しい。しかし，9世紀末葉の第48号住居跡を掘り込んでいることから9世紀末葉以降のものであると思われる。

第33号住居跡（第74図）

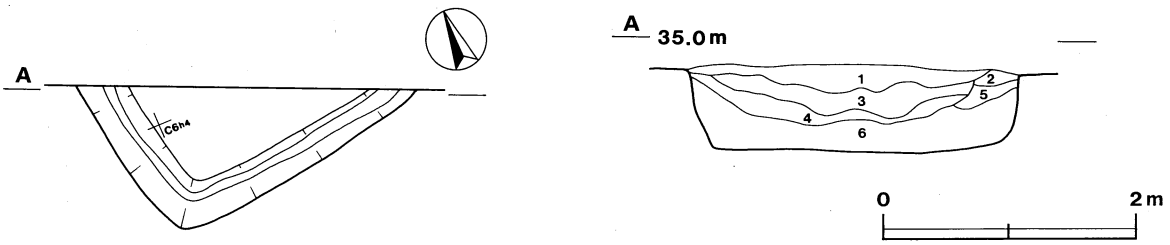
位置　調査区の西部，C6h4区。

規模と平面形　長軸（2.10）m，短軸（1.35）mで，南西部の一部を残しほとんどが調査区外のため平面形は不明である。

主軸方向　〔N－86°－E〕

壁　壁高は47～62㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が回っている。上幅33㎝，下幅7㎝である。



第74図　第33号住居跡実測図

床　平坦で，踏み固められた部分は見られなかった。

覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　黒褐色　炭化・ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片40点，須恵器片3点が，覆土中から遺構全体に散在した状態で出土している。

所見　本跡は，時期を決定できる遺物がなく時期不明である。

第34号住居跡（第75図）

位置　調査区の西部，D6c$_4$区。

重複関係　本跡は，北部を第48号土坑に掘り込まれていることから第48号土坑よりも古い。

規模と平面形　長軸3.27m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　N－56°－E

壁　壁高は20～24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東壁下及び南東コーナー部を除いて全周する。上幅25cm，下幅6cm，深さ5cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

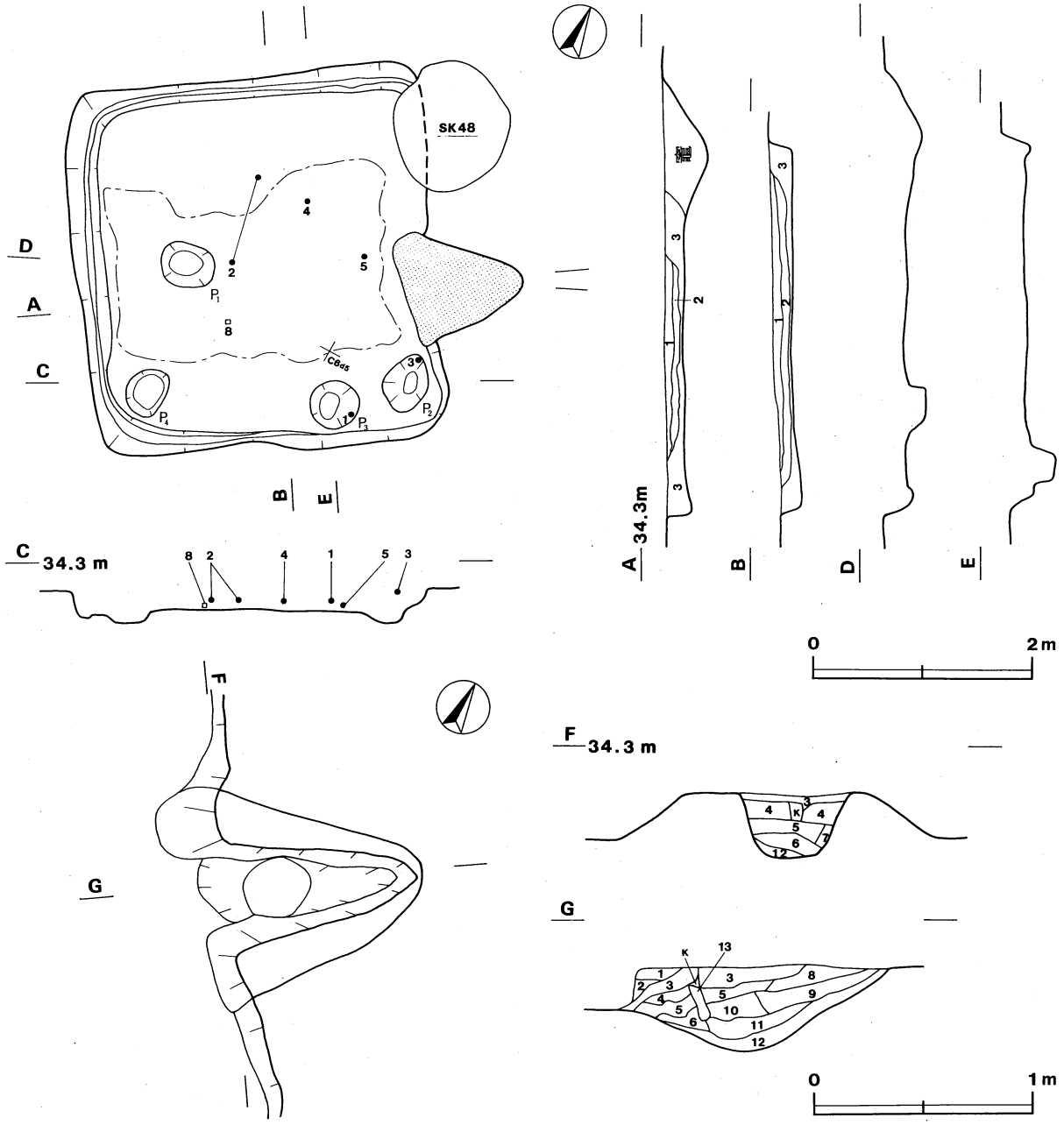
ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$は長径50cm，短径40cmの不整楕円形，深さ20cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P$_2$・P$_4$は長径45～55cm，短径36～41cmの不整楕円形，深さ12～15cm，P$_3$は径44cmの不整円形，深さ22cmで性格は不明である。

竈　南東壁やや南側を壁外に80cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，袖部もほとんど残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，最大幅100cmである。火床部は，床面を29cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　極暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
4　極暗褐色　粘土粒子中量，焼土・ローム粒子微量
5　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　極暗褐色　粘土粒子少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量
8　灰　褐　色　焼土・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　焼土・ローム・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
11　赤　褐　色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量
12　赤　褐　色　焼土・粘土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
13　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土・粘土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　3層からなる自然堆積である。

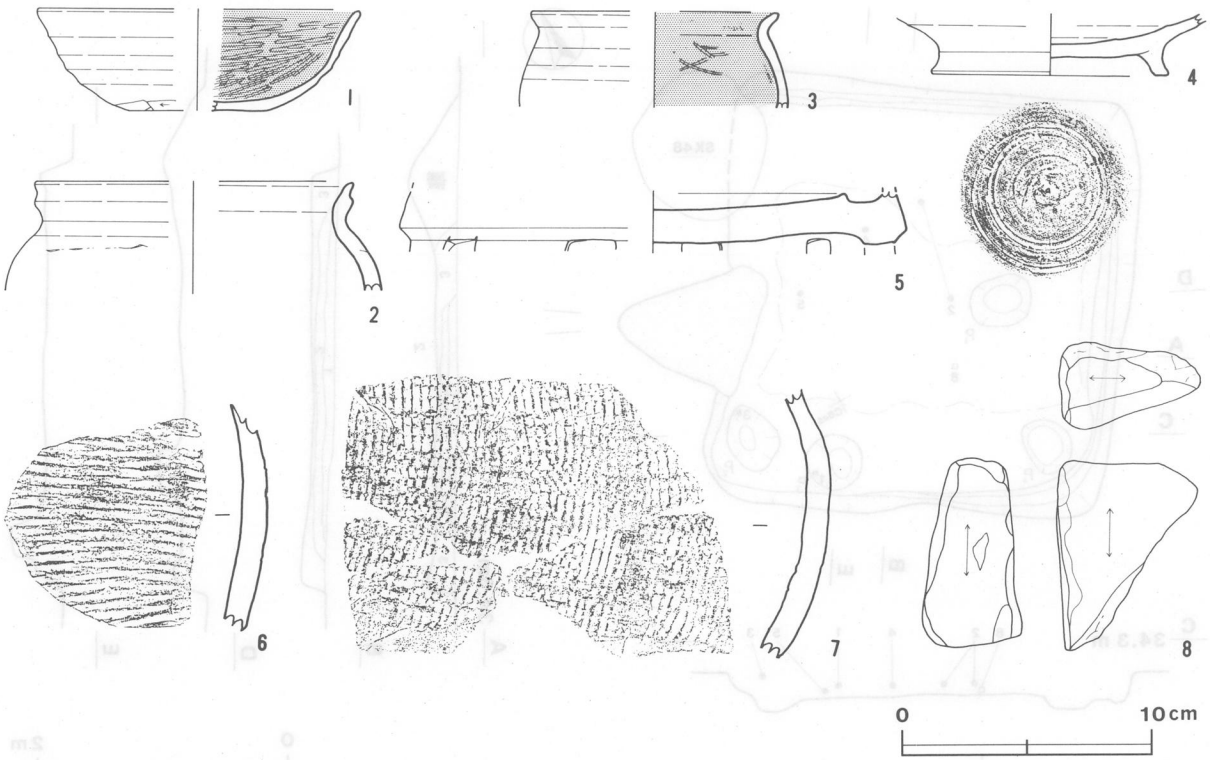
土層解説
1　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子少量，焼土・ローム粒子微量
3　黒褐色　炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量



第75図　第34号住居跡実測図

遺物　土師器片105点，須恵器片18点の他，鉄滓300ｇ等が，竈付近の覆土中層を中心に出土している。第76図１の土師器坏はP_3付近の覆土中層から，２の土師器甕は中央部の覆土中層から，３の土師器小形甕はP_2付近の覆土上層からそれぞれ出土している。４の須恵器盤は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。５の須恵器円面硯は，竈前面の覆土下層から出土している。６と７は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，６は外面に横方向の平行タタキが，７は擬格子タタキが施されている。８の砥石は南部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀中葉）と思われる。



第76図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

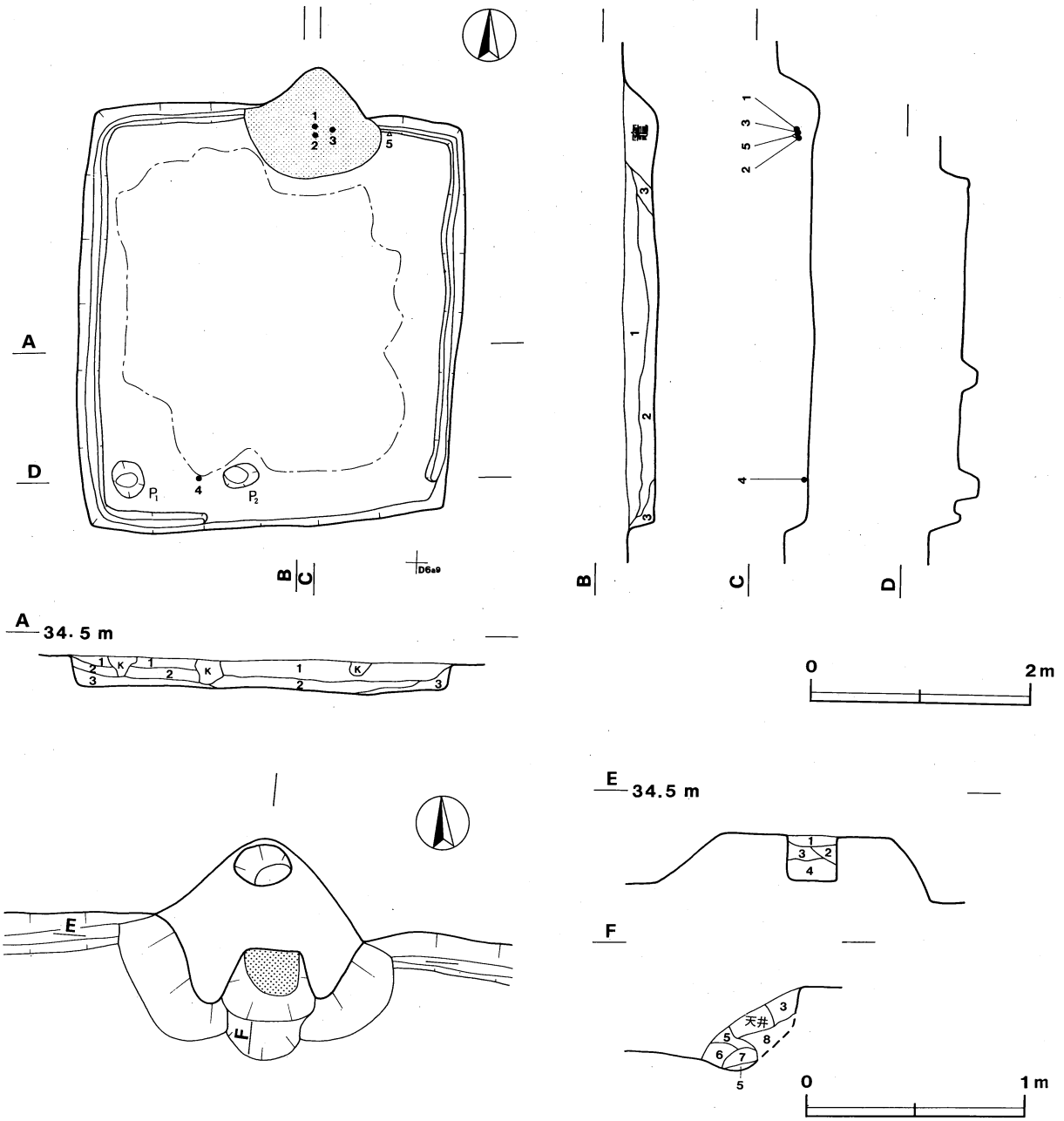
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏 土師器	A〔12.8〕 B 4.1 C〔5.4〕	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P197 35% 覆土中層
2	甕 土師器	A〔12.6〕 B(4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，頸部は急に外反し，口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P195 5% 覆土中層
3	小形甕 土師器	A〔9.8〕 B(3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し，頸部は急に外反する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P196 5% 覆土上層 体部内面に煤付着
4	盤 須恵器	B(2.5) D 9.4 E 1.3	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に外反しながら開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・スコリア 暗灰黄色 普通	P198 30% 覆土中層
5	円面硯 須恵器	B(2.6)	硯部片。硯部は陸と海が明確で，陸の周囲に低い内堤。硯部外端部に一条の突帯。脚部に長方形の透かしが十か所あると思われる。	硯面ヘラナデ。透かし部ヘラ切り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P199 15% 覆土下層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	砥石	7.6	5.6	3.1	127.8	凝灰岩	覆土下層	Q11

第35号住居跡（第77図）

位置　調査区の中央部，C6j8区。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.50mの長方形である。



第77図　第35号住居跡実測図

主軸方向　N－1°－E

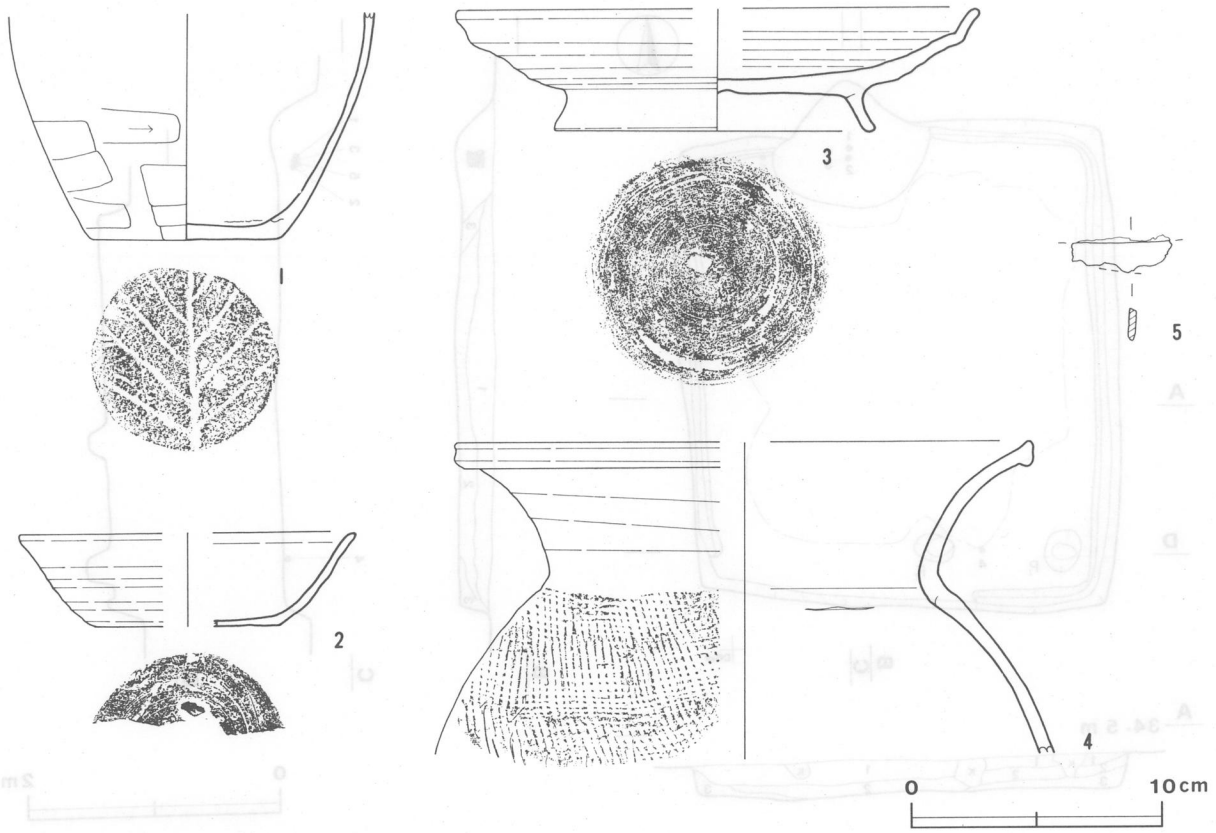
壁　壁高は21～25㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁の一部を除いて全周する。上幅20㎝，下幅６㎝，深さ４㎝で，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1は長径35㎝，短径25㎝の不整楕円形，深さ23㎝で柱穴と思われる。P_2は長径33㎝，短径21㎝の不整楕円形，深さ17㎝で，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁やや東側を壁外に40㎝ほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部，袖部ともに遺存状態はよく，煙出部も検出できた。天井部も厚さ10㎝ほどの砂混じり粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ100㎝，最大幅130㎝である。火床部は，床面を浅く掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。



第78図　第35号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1　明　褐　色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　炭化・ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　砂粒少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
5　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
6　赤　褐　色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
7　赤　褐　色　焼土・ローム粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片87点，須恵器片18点の他，鉄滓が覆土中から50ｇ出土している。遺物は，竈内と竈付近の覆土中層を中心に出土している。第78図１の土師器甕は，竈内の覆土中層から出土している。２の須恵器坏は，１と同じ層位から出土しているが流れ込みと思われる。３の須恵器盤も，竈内の覆土中層から逆位の状態で出土している。４の須恵器甕は，南西部の覆土下層から，５の刀子は竈右袖部付近の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（８世紀後葉）と思われる。

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第78図 1	甕 土師器	B（9.2） C 7.6	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。体部の器肉は薄い。	体部内面ナデ。体部外面中位ナデ，体部下端手持ちヘラ削り。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母にぶい橙色 普通	P200 40% PL27 竈覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第78図 2	坏 須恵器	A〔13.4〕 B 3.7 C〔7.4〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P201 35% PL27 竈覆土中層
3	盤 須恵器	A〔20.7〕 B 5.0 D 12.7 E 1.5	高台部から口縁部片。高台は高めで外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P202 60% PL27 竈覆土中層
4	甕 須恵器	A〔23.0〕 B(12.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面擬格子タタキ。	長石・石英・雲母 灰色 良好	P203 10% PL27 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	刀　子	(4.0)	(1.2)	0.4	(32.0)	覆土中層	M32

第36号住居跡（第79図）

位置　調査区の中央部，D6c8区。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　N－40°－E

壁　壁高は10～15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東壁の一部を除いて回っている。上幅16cm，下幅4cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

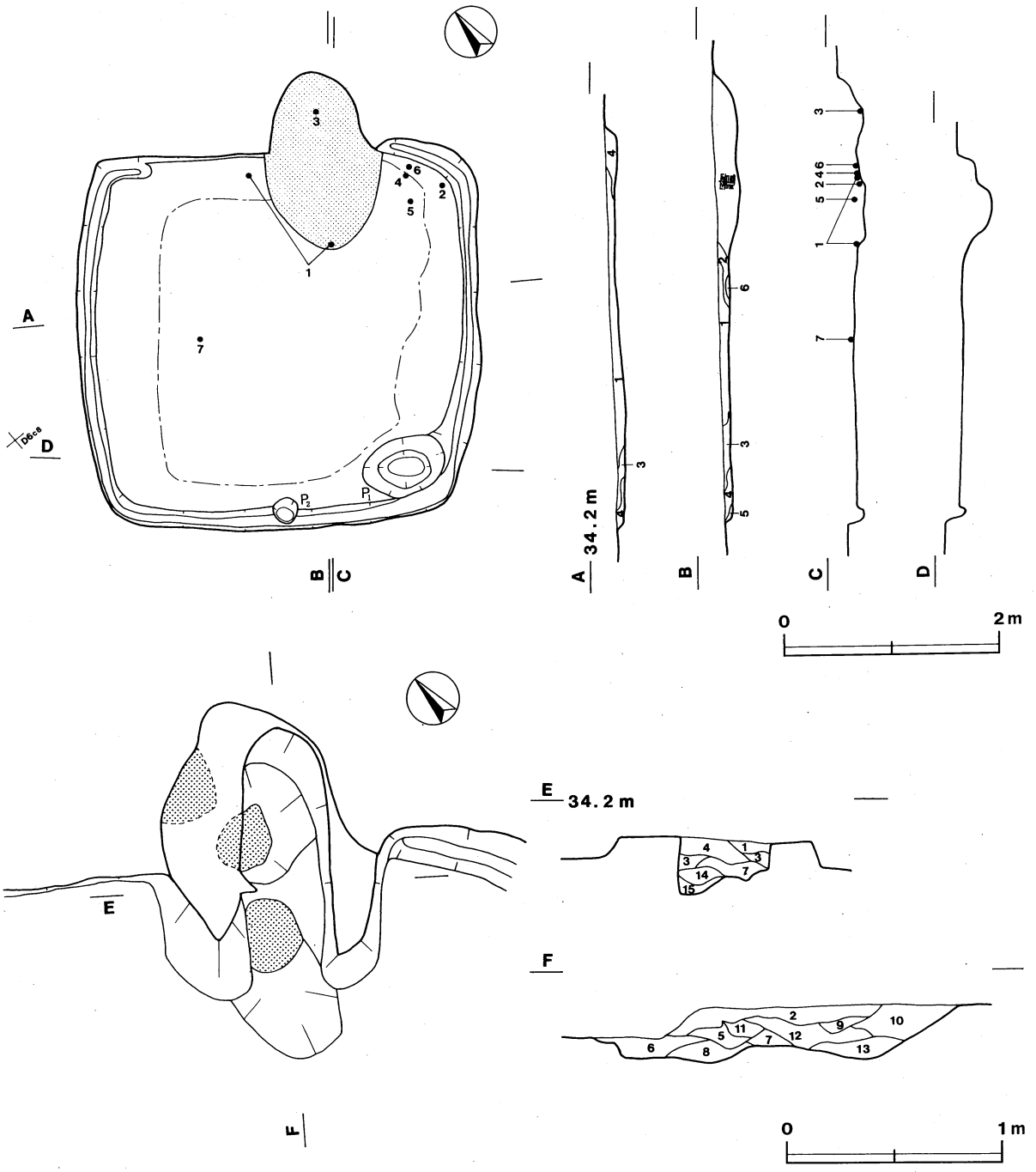
ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は，長径78cm，短径54cmの不整楕円形，深さ22cmで，配置や規模から柱穴と思われる。P_2は径24cmの不整円形，深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北東壁中央部からやや南側を壁外に70cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ170cm，最大幅100cmである。火床部は，火熱を受けている部分が3か所検出された。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　色　砂粒少量，焼土・ローム粒子微量
2　褐　色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
3　褐　色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子微量
4　黒褐色　砂粒中量，焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子少量
6　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
7　暗赤褐色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
8　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
9　褐　色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
10　暗褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
11　暗褐色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
12　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
13　暗褐色　焼土・ローム粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
14　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
15　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土・炭化粒子微量

覆土　6層からなる自然堆積である。

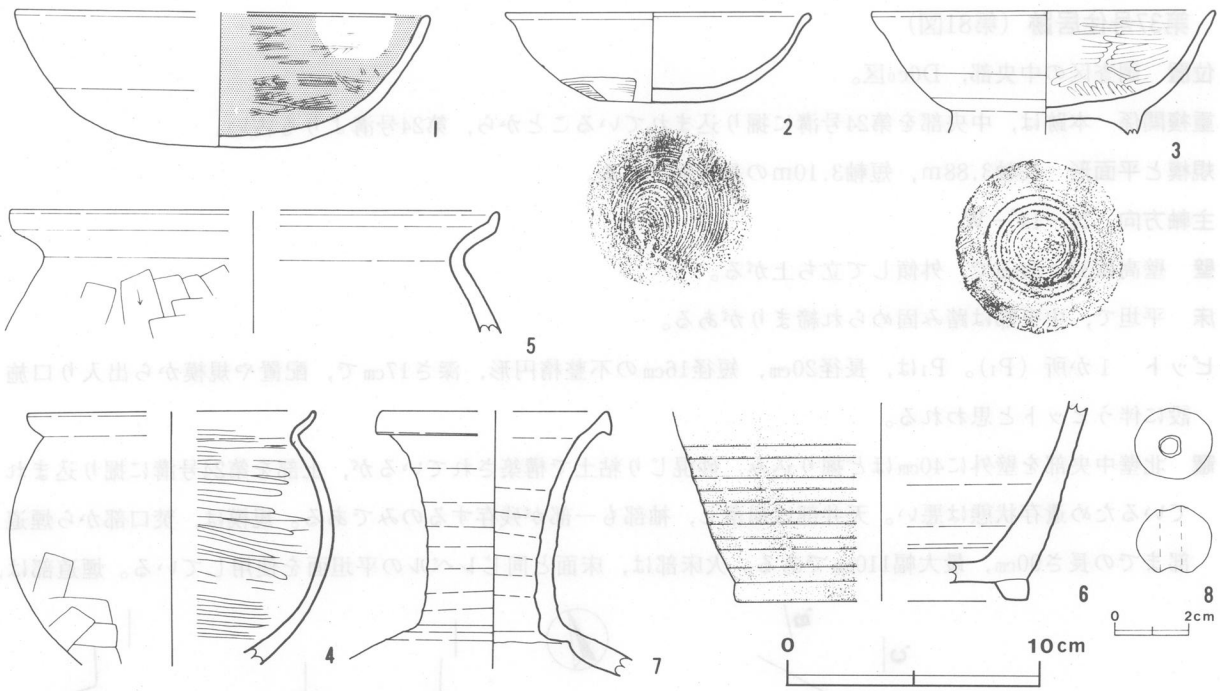
土層解説
1　黒褐色　炭化・ローム粒子微量
2　黒褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量



第79図　第36号住居跡実測図

遺物　東コーナー部を中心に土師器片35点，須恵器片12点が出土している。第80図１の土師器坏は竈付近の床面直上から，２の土師器坏，４の土師器小形甕，６の須恵器長頸瓶は東コーナー部の床面直上から出土している。３の土師器椀は竈の火床面直上から逆位の状態で，５の土師器甕は東コーナー部の覆土下層から，７の須恵器長頸瓶は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。８の土玉は，竈の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前葉と思われる。



第80図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	坏 土師器	A〔13.6〕 B 5.4	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。体部内面黒色処理。底部手持ちヘラ削り後，ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P204 40% 床面
2	坏 土師器	A 12.1 B 3.7 C 4.7	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア にぶい黄橙色 良好	P205 60%　PL27 床面
3	椀 土師器	A 13.7 B(5.0) E(0.9)	高台部一部欠損。高台は短く直線的に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は直線的に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	石英・パミス 橙色 普通	P206 85%　PL28 竈火床面
4	小形甕 土師器	A〔11.4〕 B(10.1)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り。	長石・雲母・パミス 灰黄褐色 普通	P207 40%　PL27 床面
5	甕 土師器	A〔19.4〕 B(4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P208 5% 覆土下層
6	長頸瓶 須恵器	B(8.4) D〔11.6〕 E 0.8	高台部から体部片。平底。高台は短く，直線的に開く。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面にロクロ目。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色 良好	P209 10%　PL28 床面 体部外面に自然釉付着
7	長頸瓶 須恵器	A〔 9.1〕 B(10.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反して立ち上がる。口縁端部は折り返され，縁帯を形成している。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・スコリア 黄灰色 良好	P210 20%　PL28 覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.0	1.7	0.6	5.9	竈覆土中	DP40

第37号住居跡（第81図）

位置　調査区の中央部，D6co区。

重複関係　本跡は，中央部を第24号溝に掘り込まれていることから，第24号溝よりも古い。

規模と平面形　長軸3.88m，短軸3.10mの長方形である。

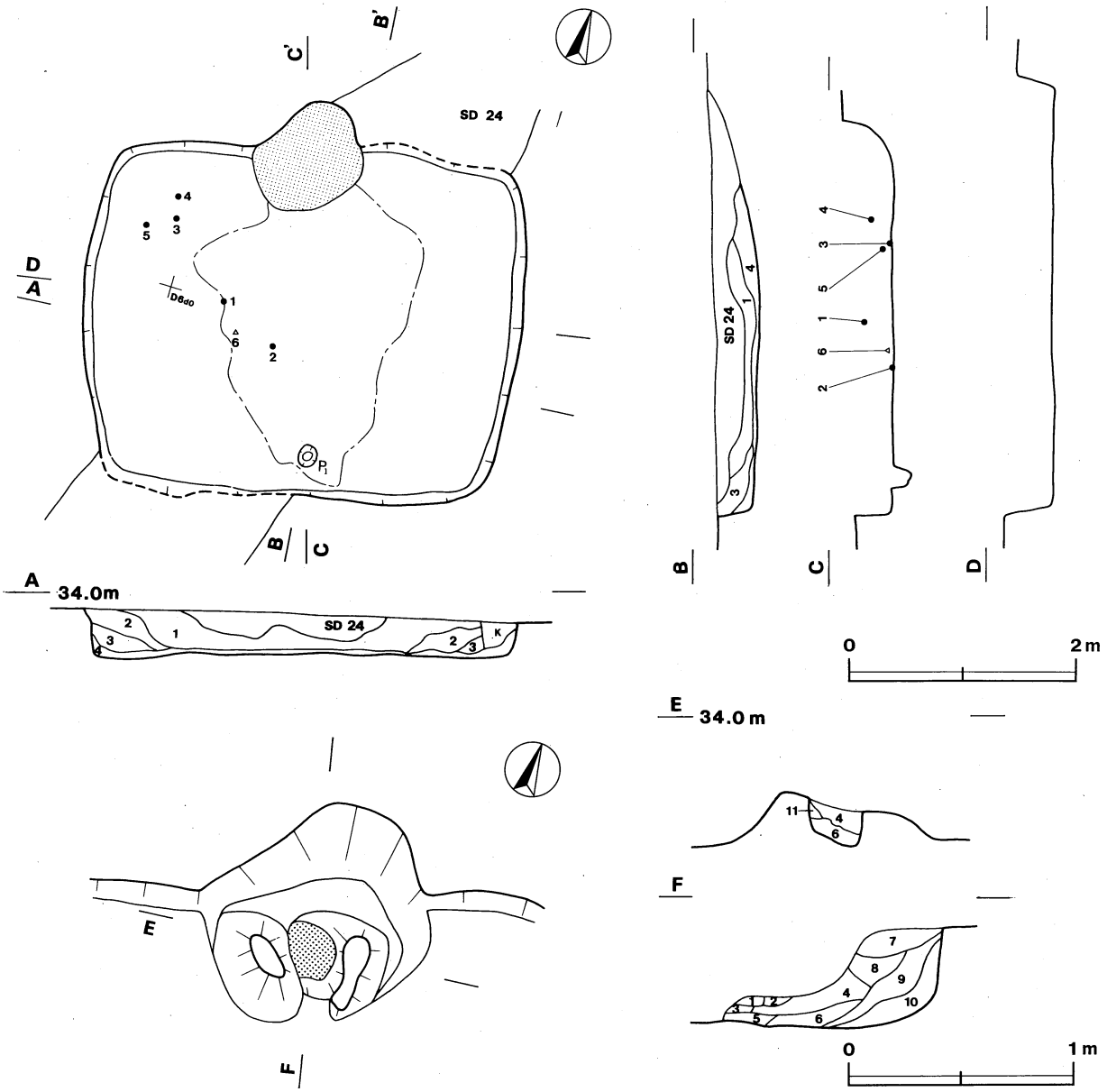
主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は33～34cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　1か所（P_1）。P_1は，長径20cm，短径16cmの不整楕円形，深さ17cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されているが，上部を第24号溝に掘り込まれているため遺存状態は悪い。天井部は崩落し，袖部も一部が残存するのみである。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅110cmである。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，



第81図　第37号住居跡実測図

火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　色　砂粒中量，炭化・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
3　褐　　色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
4　褐　　色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量
5　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　黒 褐 色　炭化・ローム粒子少量
8　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
9　黒 褐 色　ローム粒子中量
10　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量

覆土　4層からなる自然堆積と思われる。

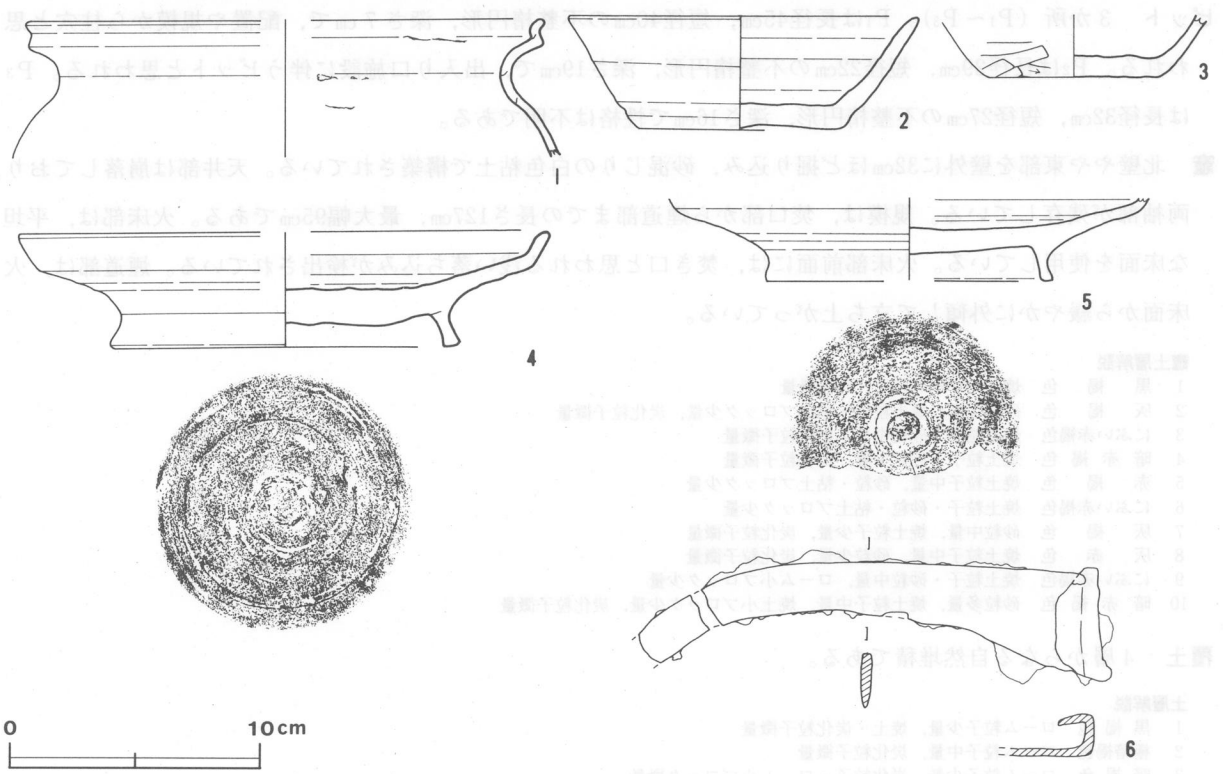
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
3　暗 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子微量
4　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量

遺物　土師器片83点，須恵器片61点の他，鉄滓150ｇ等が出土している。第82図１の土師器甕は中央部の覆土中層から，２の須恵器坏は中央部の床面直上から正位の状態で，３の須恵器坏は北西コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。４の須恵器盤は北西コーナー部の覆土中層から正位の状態で，５の須恵器盤は北西コーナー部の覆土下層から逆位の状態で出土している。６の鉄鎌は，中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後葉と思われる。

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 82 図 1	甕 土師器	A〔20.5〕 B(5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・パミスにぶい褐色 普通	P211 5% 覆土中層



第82図　第37号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第82図 2	坏 須恵器	A 14.0 B 4.5 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P212 80%　PL28 床面
3	坏 須恵器	B(2.5) C 6.8	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・パミス 灰色 普通	P213 15% 床面
4	盤 須恵器	A〔21.3〕 B 4.6 D 13.8 E 1.5	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は外傾し，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・パミス 灰色 普通	P214 70%　PL28 覆土中層
5	盤 須恵器	B(3.4) D〔11.4〕 E 0.9	高台部から体部片。高台は外反気味に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・パミス 灰色 普通	P215 20% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	鉄　鎌	(16.4)+(2.0)	4.4	0.4	(69.9)	覆土下層	M34　PL40

第38号住居跡（第83図）

位置　調査区の中央部，C7f3区。

規模と平面形　長軸3.91m，短軸3.73mの方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は35～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南壁の一部を除いて全周する。上幅19cm，下幅5cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径45cm，短径40cmの不整楕円形，深さ7cmで，配置や規模から柱穴と思われる。P_2は長径29cm，短径22cmの不整楕円形，深さ19cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_3は長径32cm，短径27cmの不整楕円形，深さ16cmで性格は不明である。

竈　北壁やや東部を壁外に32cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ127cm，最大幅95cmである。火床部は，平坦な床面を使用している。火床部前面には，焚き口と思われる浅い落ち込みが検出されている。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

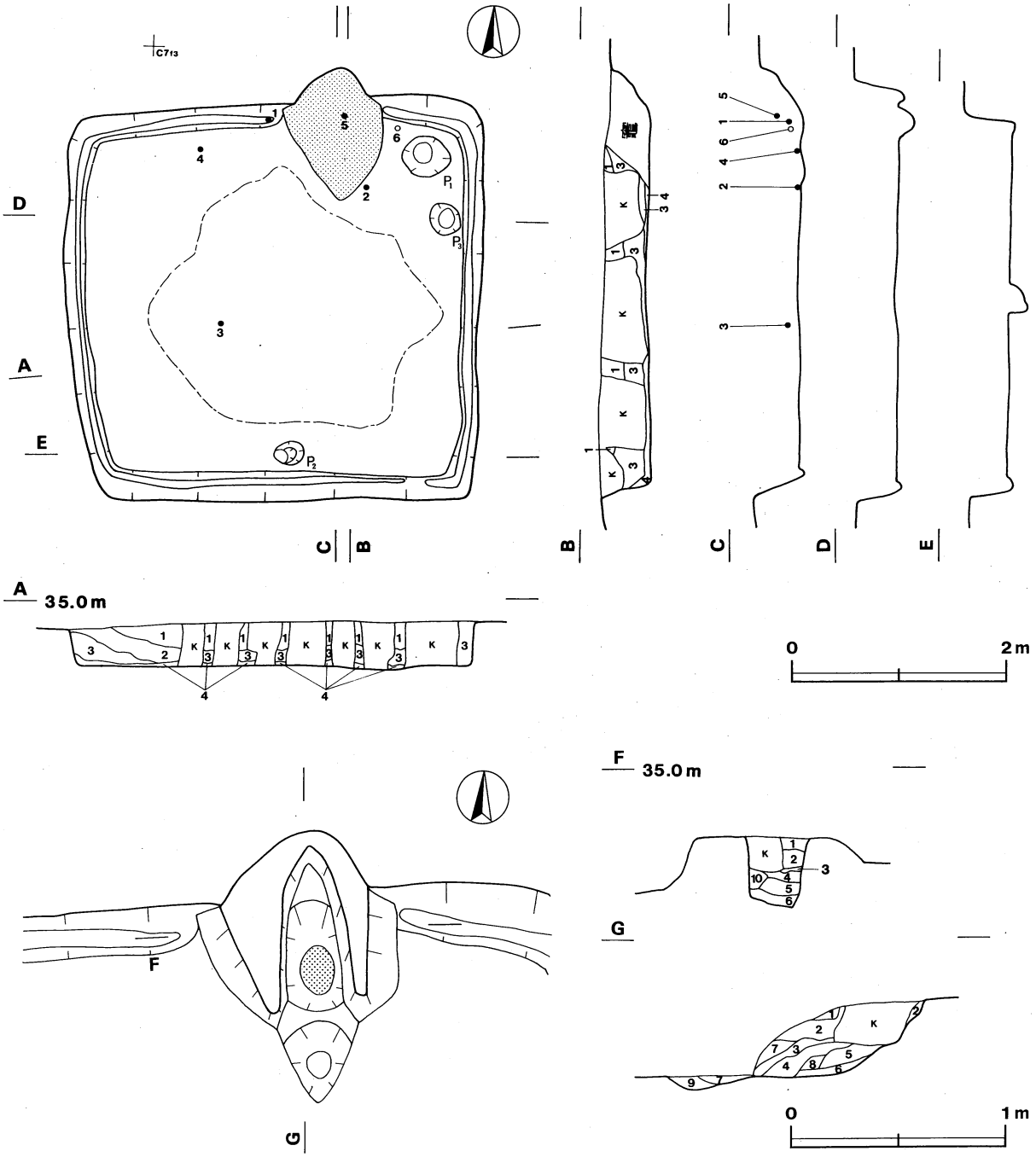
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土・ローム粒子・砂粒微量
2　灰　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　赤　褐　色　焼土粒子中量，砂粒・粘土ブロック少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒・粘土ブロック少量
7　灰　褐　色　砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　灰　赤　色　焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
10　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

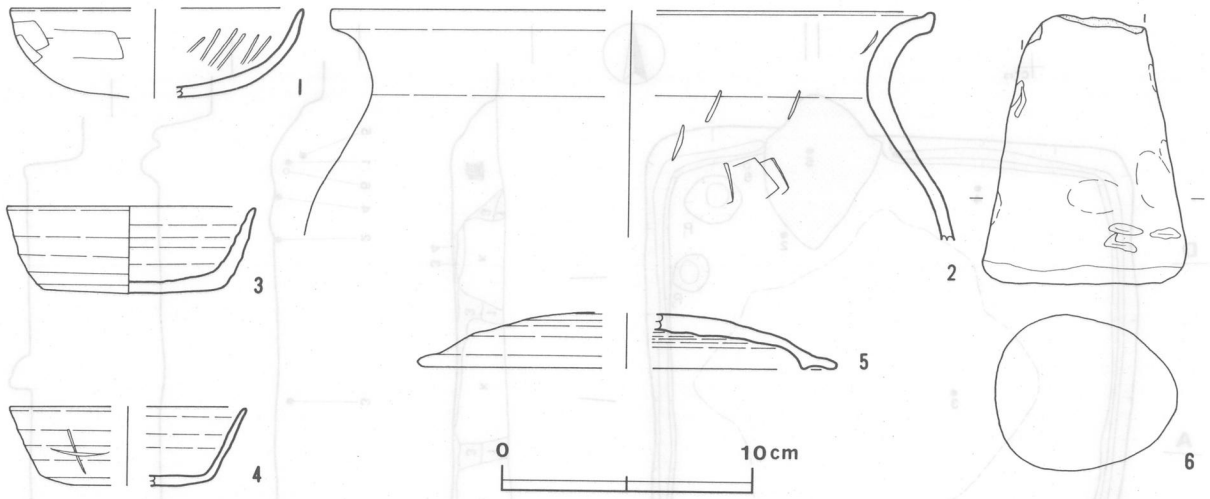
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量



第83図　第38号住居跡実測図

遺物　土師器片82点，須恵器片28点，支脚１点の他，鉄滓が少量出土している。第84図１の土師器坏は北壁際竈袖部付近の覆土下層から，２の土師器甕は竈前面の覆土下層から出土している。３の須恵器坏は，中央部の覆土下層から，４の須恵器坏は北部の覆土下層から，５の須恵器蓋は竈内の覆土中層からそれぞれ出土している。６の土製支脚は竈袖部付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前葉と思われる。



第84図　第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	坏 土師器	A〔11.7〕 B(3.6)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り後，ナデ。体部内面に暗文。	長石・スコリア 橙色 普通	P216 20% 覆土下層
2	甕 土師器	A〔24.0〕 B(9.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・パミス 橙色 普通	P217 10% 覆土下層
3	坏 須恵器	A 9.9 B 3.5 C 7.2	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・パミス 灰色 普通	P218 75%　PL28 覆土下層
4	坏 須恵器	A〔 9.4〕 B 3.2 C〔 6.8〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁部は器肉が薄い。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。体部外面にヘラ記号。	長石・石英・パミス 灰白色 普通	P219 40% 覆土下層
5	蓋 須恵器	A〔16.8〕 B(2.7)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P220 15% 竈覆土中層

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
6	土製支脚	8.2	(10.9)	(532.4)	覆土下層	DP41

第39号住居跡（第85図）

位置　調査区の中央部，C7i5区。

規模と平面形　長軸2.97m，短軸2.29mの長方形である。

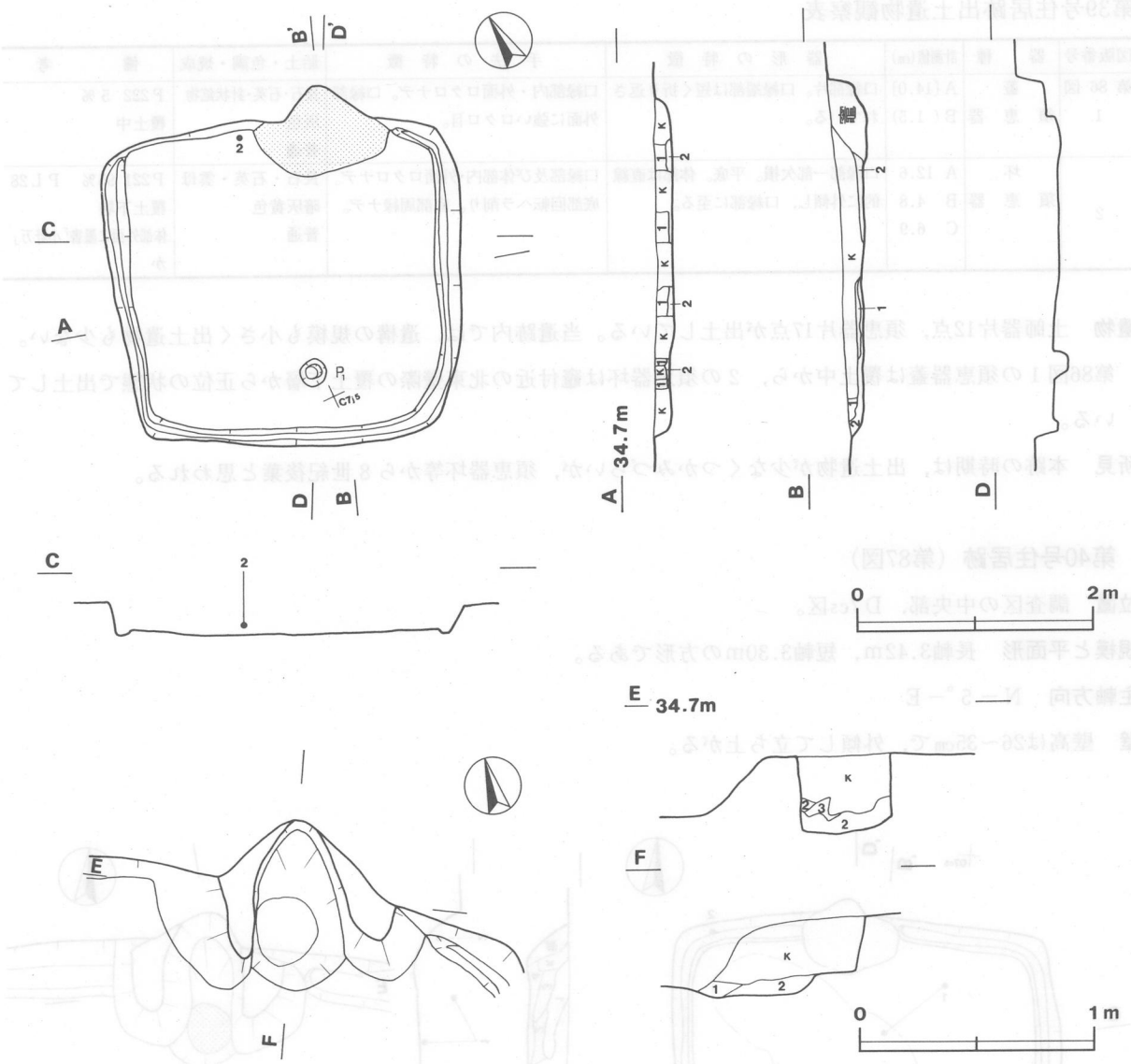
主軸方向　N－22°－E

壁　壁高は20～23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅22cm，下幅6cm，深さ5cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，全体的に軟らかく締まりがない。

ピット　1か所（P_1）。P_1は径23cmの不整円形，深さ12cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。



第85図　第39号住居跡実測図

竈　遺構全体が撹乱を受けており，遺存状態はよくない。竈は，北東壁中央部からやや東部よりを壁外に56cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ70cm，最大幅100cmである。火床部は，床面を浅く皿状に掘り窪めているが，上部は撹乱を受けている。煙道部も撹乱を受け，立ち上がりの様子は確認できなかった。

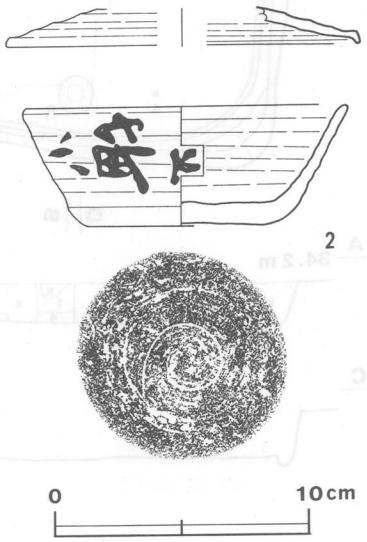
竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化・ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化・ローム粒子微量

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量



第86図　第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第86図 1	蓋 須恵器	A〔14.0〕 B(1.5)	口縁部片。口縁端部は短く折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に強いロクロ目。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P222 5% 覆土中
2	坏 須恵器	A 12.6 B 4.8 C 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P221 95% PL28 覆土下層 体部外面に墨書「小野万」か

遺物　土師器片12点，須恵器片17点が出土している。当遺跡内では，遺構の規模も小さく出土遺物も少ない。第86図1の須恵器蓋は覆土中から，2の須恵器坏は竈付近の北東壁際の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくつかみづらいが，須恵器坏等から8世紀後葉と思われる。

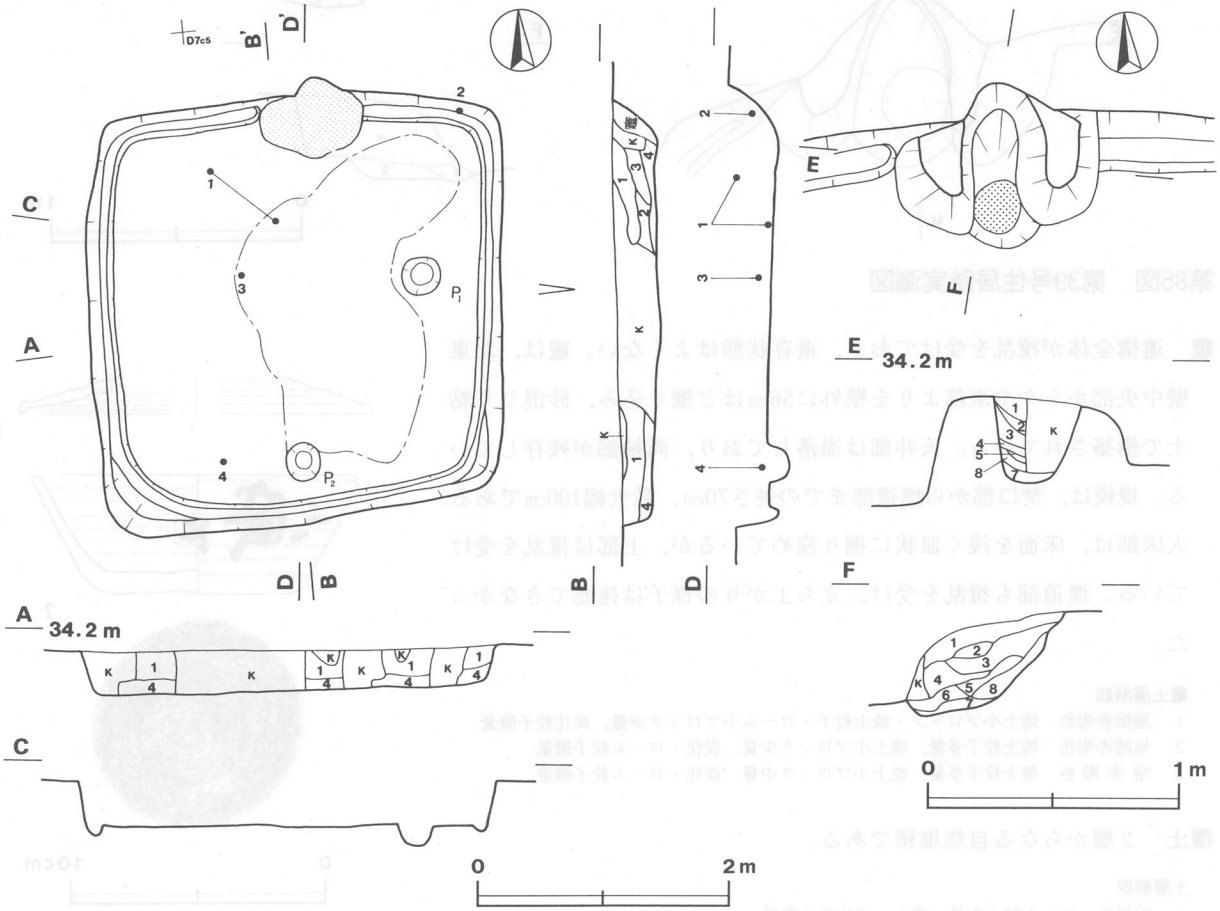
第40号住居跡（第87図）

位置　調査区の中央部，D7c5区。

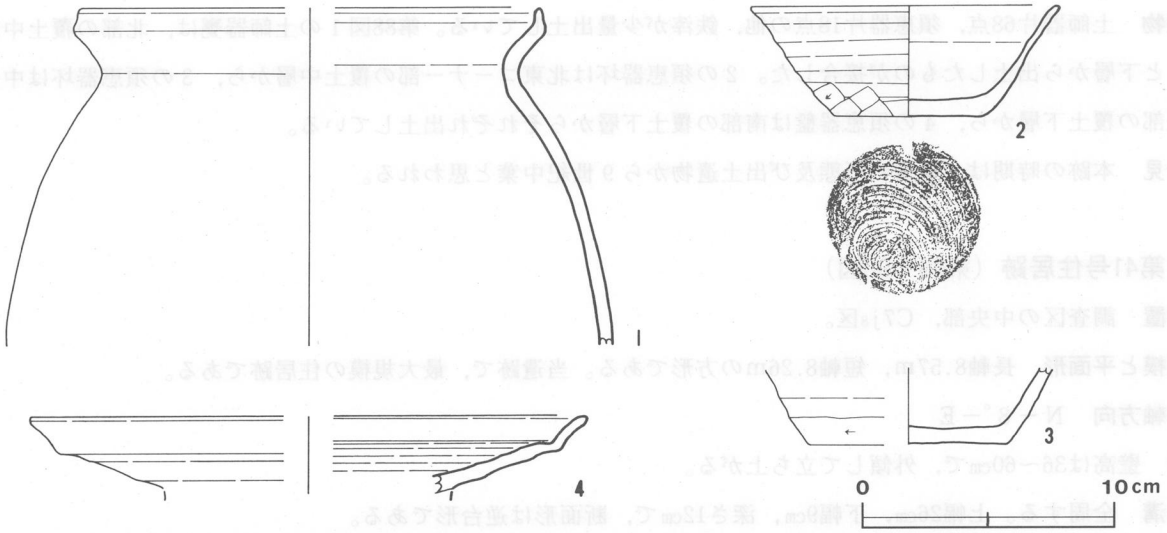
規模と平面形　長軸3.42m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は26～35cmで，外傾して立ち上がる。



第87図　第40号住居跡実測図



第88図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	甕 土師器	A〔18.4〕 B(13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P223 15% 覆土中・下層
2	坏 須恵器	A 12.4 B 4.5 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。	長石・石英 黄灰色 普通	P224 70% PL28 覆土中層
3	坏 須恵器	B(3.1) C 8.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り調整。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P225 10% 覆土下層
4	盤 須恵器	A〔22.2〕 B(3.1)	体部から口縁部片。体部は外傾し，口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・パミス 灰黄色 良好	P226 20% 覆土下層

壁溝　全周する。上幅16cm，下幅6cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，東部は踏み固められ締まりがある。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径30cmの不整円形，深さ18cmで，配置や規模から柱穴と思われる。P_2は長径30cm，短径27cmの不整楕円形，深さ18cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に25cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ65cm，最大幅75cmである。火床部は，床面を浅く掘り窪めており赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　砂粒少量，焼土・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子微量
3　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化材微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土・ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物　土師器片68点，須恵器片18点の他，鉄滓が少量出土している。第88図１の土師器甕は，北部の覆土中層と下層から出土したものが接合した。２の須恵器坏は北東コーナー部の覆土中層から，３の須恵器坏は中央部の覆土下層から，４の須恵器盤は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から９世紀中葉と思われる。

第41号住居跡（第89・90図）

位置　調査区の中央部，C7j_8区。

規模と平面形　長軸8.57m，短軸8.26mの方形である。当遺跡で，最大規模の住居跡である。

主軸方向　N－8°－E

壁　壁高は36～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅26cm，下幅9cm，深さ12cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で中央部は踏み固められているが，竈の前面から北東部にかけて軟らかく締まりがない部分が認められた。掘り込んで堆積物を調べたところ，土器片・焼土ブロック・炭化粒子等が多量に確認された。以上のことから，この部分は竈使用に伴う灰置き場として使用された場所と思われる。他に，西壁から中央部に向かって，上幅20cm，下幅７cm，深さ７cm，長さ100cm程で，断面形はU字形の溝が４条構築されている。

ピット　12か所（P_1～P_{12}）。P_1～P_4は，長径110～167cm，短径76～107cmの不整楕円形，深さ54～77cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径36cm，短径34cmの不整楕円形，深さ25cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6・P_7は長径74～92cm，短径67～70cmの不整楕円形，深さ51～63cmで性格は不明である。P_8～P_{11}は，長径27～54cm，短径21～40cmの不整楕円形，深さ９～40cmで性格等は不明。P_{12}は長径200cm，短径130cmの不整楕円形，深さ34cmで竈使用に伴う灰置き場用ピットと思われる。

P_{12}土層解説

不規則な堆積状況を示し，覆土中に焼土ブロック・炭化粒子・土器片等を多量に含んでいることから，人為堆積と思われる。

1　褐　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック微量
2　灰　褐　色　焼土粒子中量，焼土中・小ブロック・炭化・ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化物微量
3　褐　　色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子少量，焼土大・中ブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化物微量
7　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム大・小ブロック微量

竈　北壁中央部を壁外に53cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，最大幅140cmである。火床部は床面を浅く皿状に掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　砂粒中量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
2　褐　　色　ローム中ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
4　黒褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化・ローム粒子微量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6　暗赤褐色　砂粒多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
7　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
8　赤褐色　砂粒多量，ローム粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　8層からなる自然堆積である。

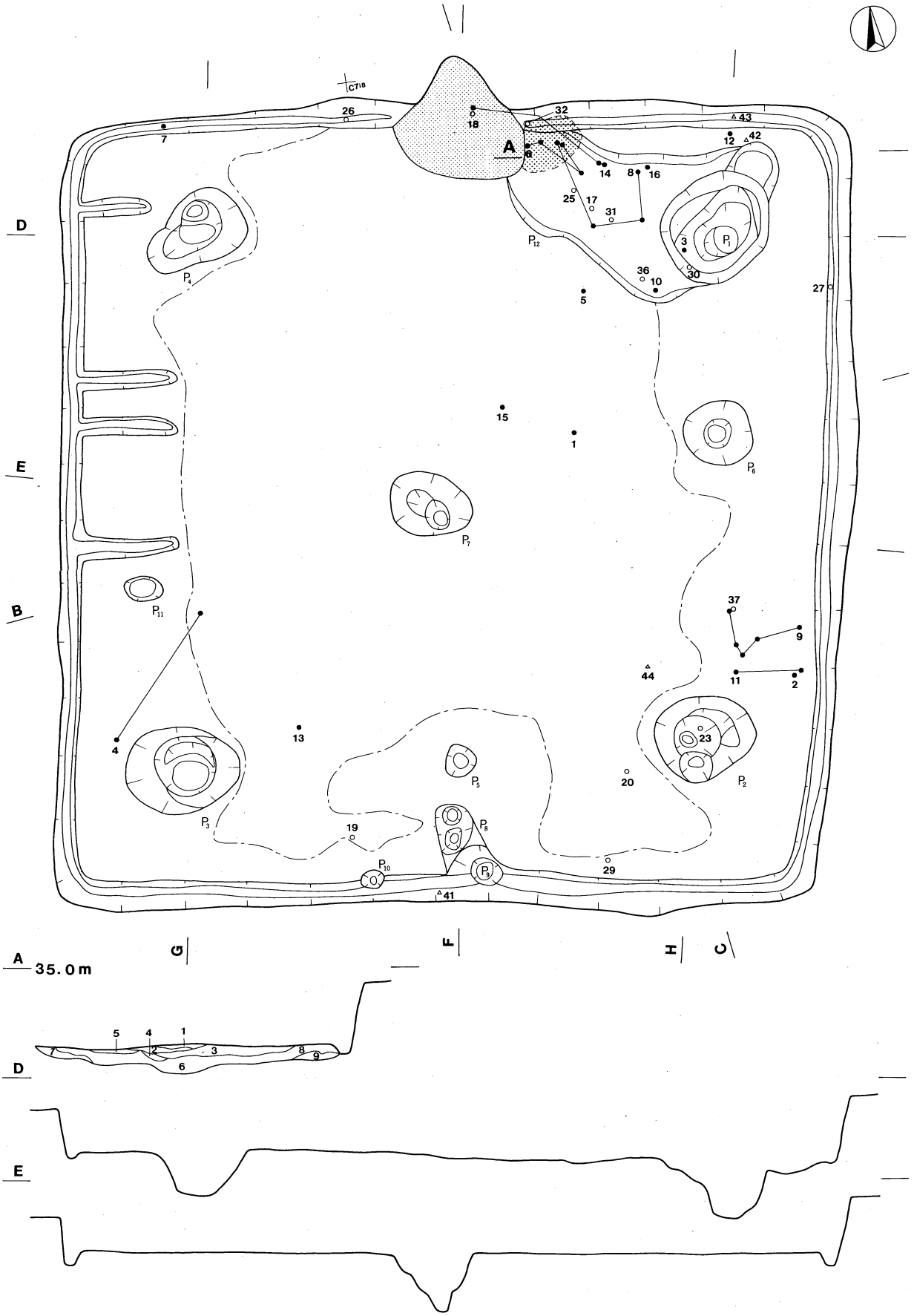
土層解説
1　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子中量
7　暗褐色　ローム粒子中量
8　暗褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片919点，須恵器片166点，土玉6点，管状土錘16点，土製支脚2点，刀子1点，鉄鏃1点，不明銅製品1点，飾金具1，鉄滓3kg，炭化材等が出土している。また，P_{12}の覆土中から，土師器を中心とする土器や土製品が50点ほど出土している。第91・92・93図1の土師器坏は東部の覆土下層から出土している。2～9は土師器甕である。2は東壁南部の床面直上から，3はP_1の覆土中から，4は南西部の覆土下層から，5は北東部の床面直上からそれぞれ出土している。6は竈付近の床面直上とP_{12}の覆土中のものが接合した。7は北西部壁溝の覆土下層から，8はP_{12}の覆土中から，9は東部の床面直上から出土している。10～13は須恵器坏である。10はP_{12}の覆土中から，11は南東部の床面直上から，12は北東部壁際の覆土下層から，13は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。14の須恵器蓋は竈内の覆土下層とP_{12}の覆土中から出土したものが接合した。15の須恵器甕は中央部の覆土下層から，16の須恵器甕はP_{12}の覆土中からそれぞれ出土している。19～24の土玉及び25～40の管状土錘は，遺構全体に散在した状態で出土している。その中で25・31・32の管状土錘は，P_{12}の覆土中から出土している。17の土製支脚はP_{12}の覆土中から，18の土製支脚は竈内の覆土中から出土している。41の不明銅製品は南部壁溝の覆土下層から，42の飾金具と43の刀子は北東部壁際の覆土下層から，44の鉄鏃は南東部の床面直上からそれぞれ出土している。

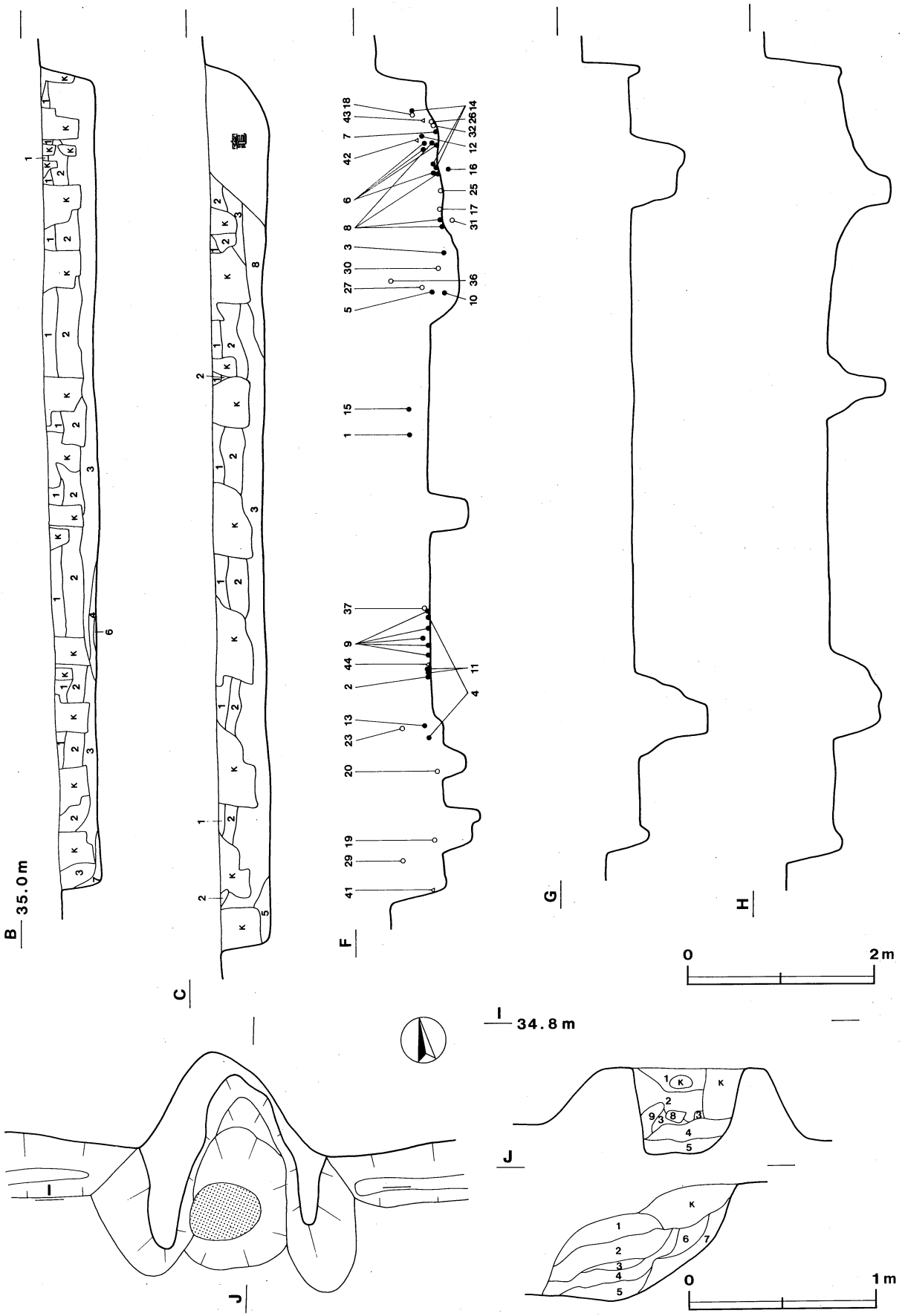
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第41号住居跡出土遺物観察表

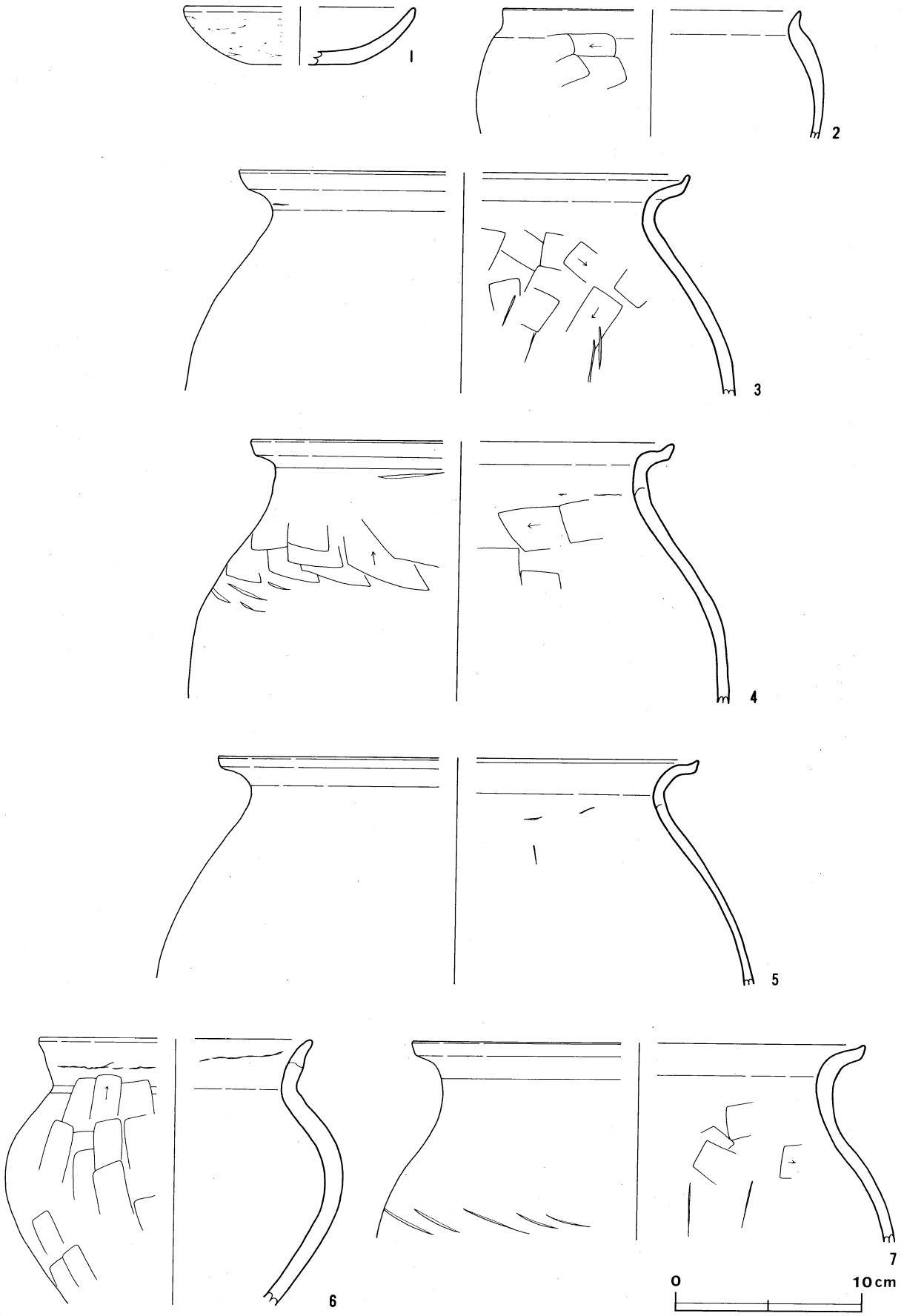
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	土師器 坏	A〔12.4〕 B 3.2 C〔5.4〕	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。底部内・外面ナデ。	雲母・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P227 20% 覆土下層
2	土師器 甕	A〔15.0〕 B(6.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 赤 普通	P235 5% 床面
3	土師器 甕	A〔24.4〕 B(11.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は，わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。体部内面に縦方向の沈線。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P230 10% P_1覆土中
4	土師器 甕	A〔22.8〕 B(14.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は急に外反する。口縁端部は，外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部外面にヘラ痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P228 25% 覆土下層
5	土師器 甕	A〔26.0〕 B(12.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部は，わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P229 15% 床面
第92図 6	土師器 甕	A〔14.6〕 B(14.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内・外面に輪積み痕。	石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P234 20% 床面・P_{12}覆土中
7	土師器 甕	A〔24.4〕 B(10.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部は，わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ナデ。体部内・外面に斜位の沈線。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P231 10% 覆土下層



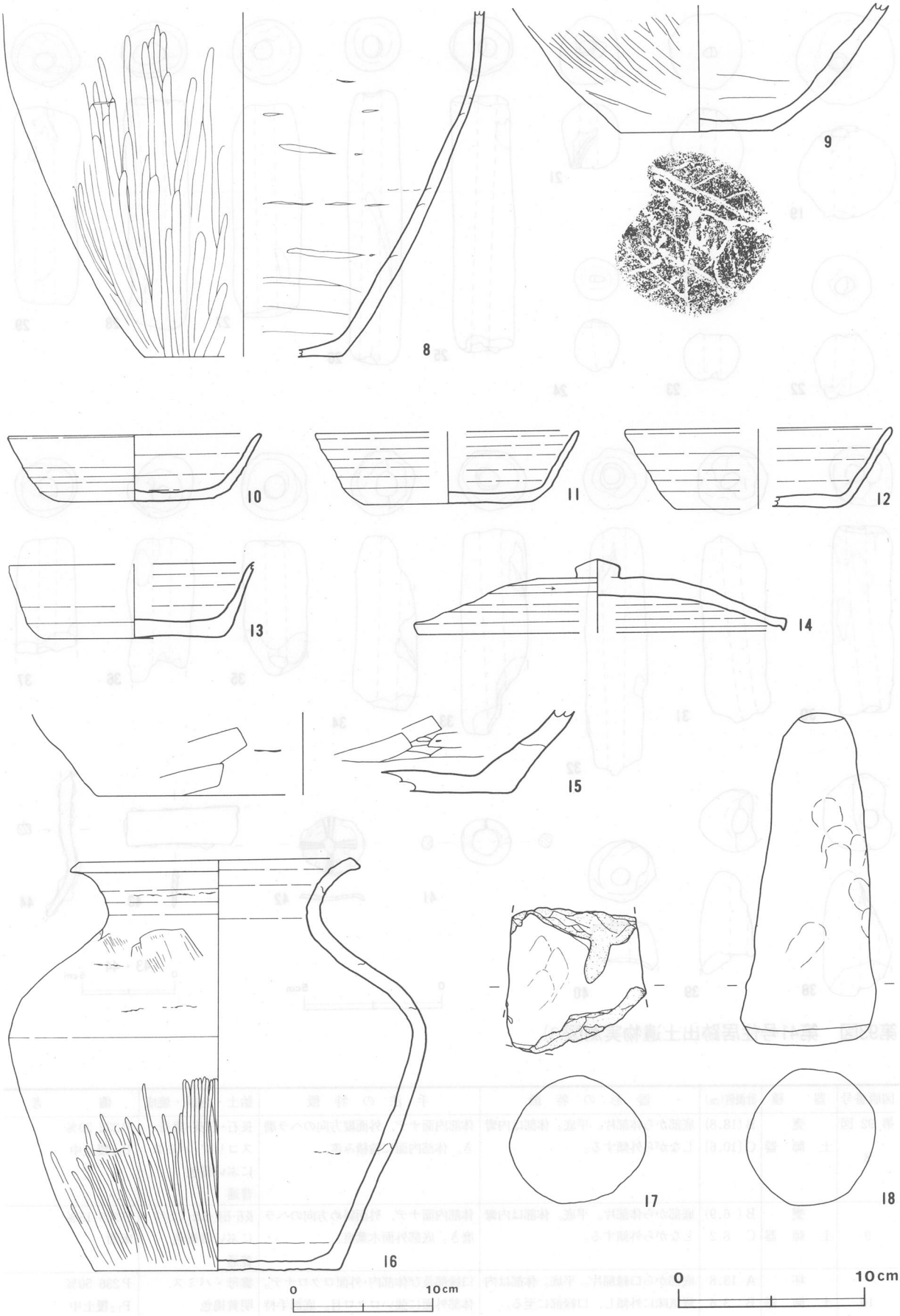
第89図　第41号住居跡実測図(1)



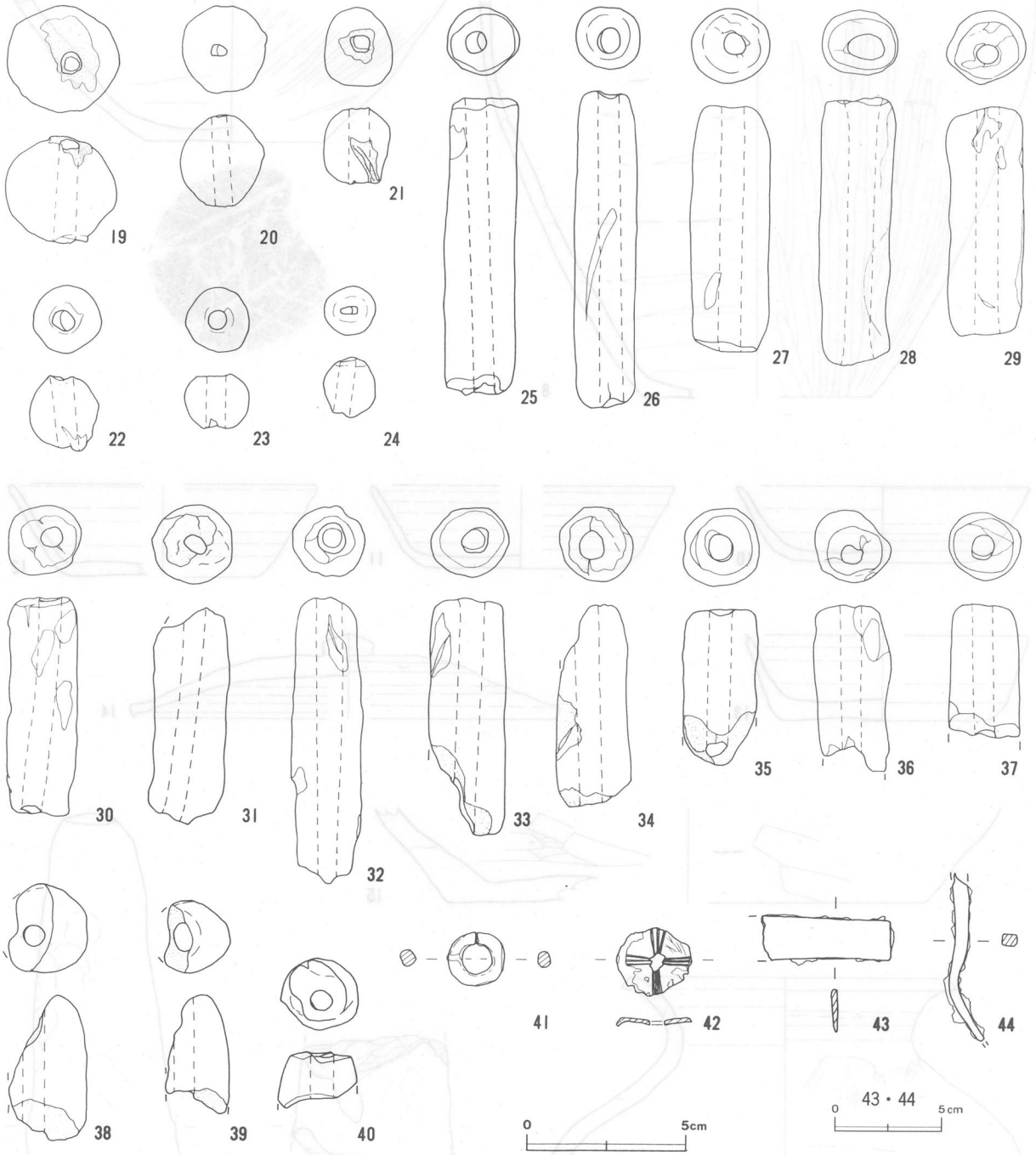
第90図　第41号住居跡実測図(2)



第91図　第41号住居跡出土遺物実測図(1)



第92図　第41号住居跡出土遺物実測図(2)



第93図　第41号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第92図 8	甕 土師器	B(18.8) C〔10.6〕	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 スコリア・パミス にぶい褐色 普通	P232 20% P_{12}覆土中
9	甕 土師器	B(6.9) C 8.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面斜め方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P233 15% 床面
10	坏 土師器	A 13.8 B 3.6 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	雲母・パミス 明黄褐色 普通	P236 50% P_{12}覆土中

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 92 図 11	坏 須恵器	A〔14.2〕 B 3.9 C 9.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P237 25% 床面
12	坏 須恵器	A〔14.4〕 B 4.3 C〔 9.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P238 30%　PL28 覆土下層
13	坏 須恵器	A〔13.3〕 B 4.0 C 9.4	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内･外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後，ナデ。底部周縁ナデ。	針状鉱物・スコリア 灰色 普通	P239 40% 床面
14	蓋 須恵器	A〔20.2〕 B 3.0 F 2.4 G 1.3	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 良好	P240 50%　PL28 竈覆土下層・P_{12}覆土中
15	甕 須恵器	B(4.5) C〔22.2〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ。	雲母･スコリア･パミス 灰色 普通	P242 5% 覆土下層
16	甕 須恵器	A 19.7 B 29.7 C 17.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾し，体部上位に最大径を有する。口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。体部外面下位縦方向のヘラ磨き。底部外面手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P241 95%　PL28 P_{12}覆土中

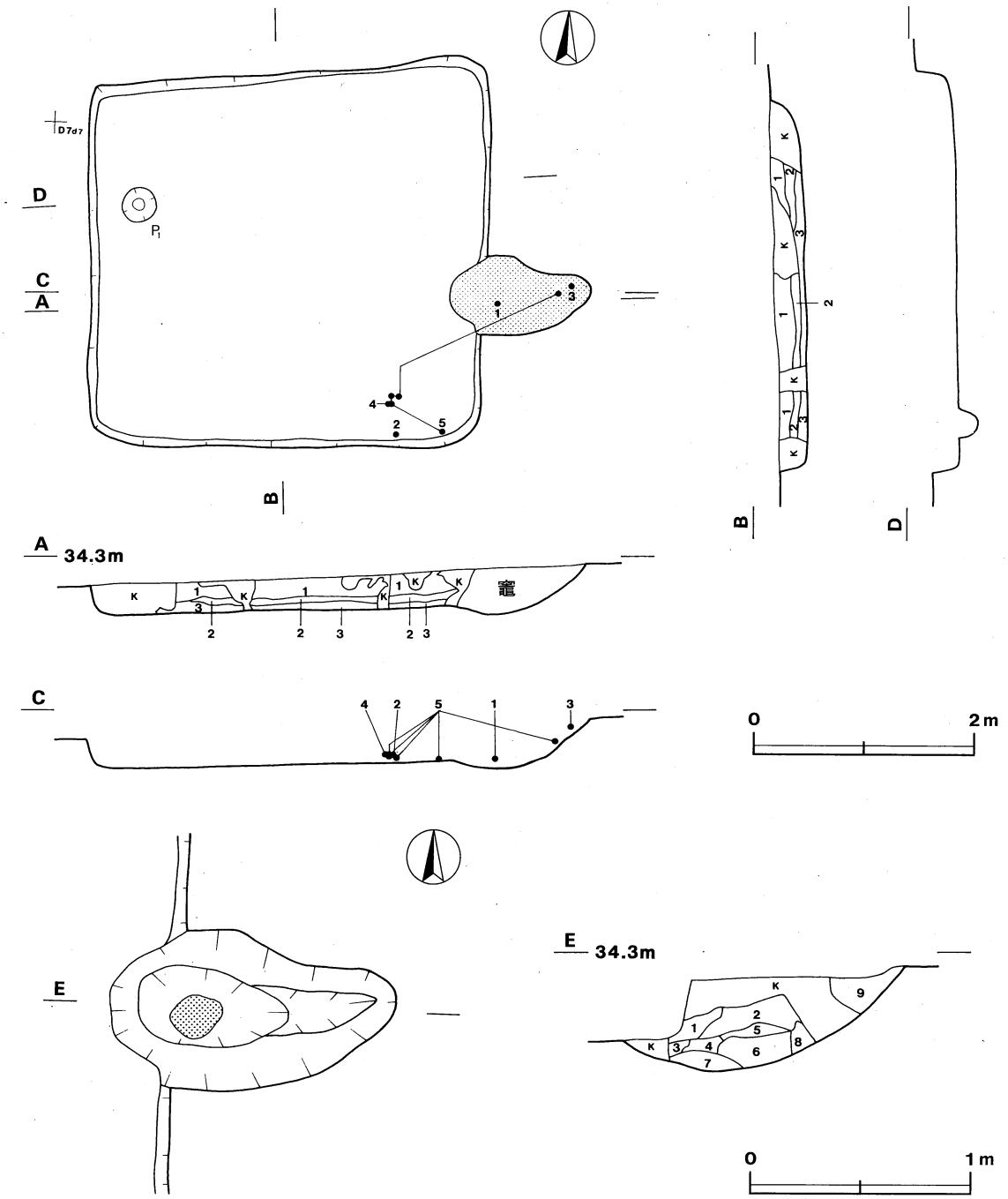
図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
17	土製支脚	(7.5)	(7.7)	—	(378.4)	P_{12}覆土中	DP64
18	土製支脚	7.4	17.9	—	721.3	竈内覆土中	DP65　PL37
第93図19	土玉	3.6	3.4	0.6	37.1	床面	DP42　PL36
20	土玉	2.6	2.8	0.4	18.0	床面	DP43　PL36
21	土玉	2.5	2.4	0.7	11.1	覆土中	DP44　PL36
22	土玉	2.2	2.3	0.6	7.9	覆土中	DP45
23	土玉	2.0	1.7	0.6	5.8	覆土上層	DP46
24	土玉	1.6	1.9	0.5	4.1	覆土中	DP47
25	管状土錘	2.3	9.3	0.6	55.1	P_{12}覆土中	DP48　PL37
26	管状土錘	2.0	9.8	0.7	38.8	床面	DP49　PL37
27	管状土錘	2.5	7.7	0.6	53.2	覆土下層	DP50　PL37
28	管状土錘	2.4	8.4	1.0	41.2	覆土中	DP51　PL37
29	管状土錘	2.5	7.1	0.7	47.0	覆土上層	DP52　PL37
30	管状土錘	2.2	6.9	0.7	37.3	床面	DP53　PL37
31	管状土錘	2.5	6.8	0.7	41.2	P_{12}覆土中	DP55　PL37
32	管状土錘	2.3	9.0	0.8	30.3	P_{12}覆土中	DP54　PL37
33	管状土錘	2.4	7.4	0.8	38.8	覆土中	DP56　PL37
34	管状土錘	2.3	6.3	0.7	30.6	覆土中	DP57　PL37
35	管状土錘	2.4	(5.0)	0.7	(28.3)	覆土中	DP58　PL37
36	管状土錘	2.4	(5.2)	0.6	(25.7)	覆土上層	DP59　PL37
37	管状土錘	2.2	4.1	0.6	20.7	覆土下層	DP60　PL37
38	管状土錘	2.8	(4.6)	0.7	(22.3)	覆土中	DP61　PL37
39	管状土錘	2.3	(3.8)	0.6	(10.9)	覆土中	DP62
40	管状土錘	2.5	(1.8)	0.7	(7.9)	覆土中	DP63

図版番号	器　種	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第93図41	不明銅製品	(径) 1.9	—	0.5	4.2	覆土下層	M38
42	飾　金　具	(径)(2.4)	—	0.3	(1.5)	覆土下層	M39　銅製(表面に鍍金が施されている)　PL41
43	刀　　子	(6.1)	2.1	0.3	(10.8)	覆土下層	M36
44	鉄　　鏃	(7.9)	0.7	0.6	(9.2)	床面	M37

第42号住居跡（第94図）

位置　調査区の中央部，D7d7区。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.43mの方形である。



第94図　第42号住居跡実測図

主軸方向　N－89°－E

壁　壁高は24～26cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固めた部分は見られない。

ピット　1か所（P_1）。P_1は径31cmの不整円形，深さ26cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　東壁中央部からやや南よりを壁外に1m程掘り込み，砂混じり粘土で構築されているが，撹乱を受け遺存状態はよくない。天井部は崩落しており，袖部も残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さは130cm，最大幅75cmである。火床部は，床面を10cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土・ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土・粘土粒子少量，ローム粒子微量
9　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子少量

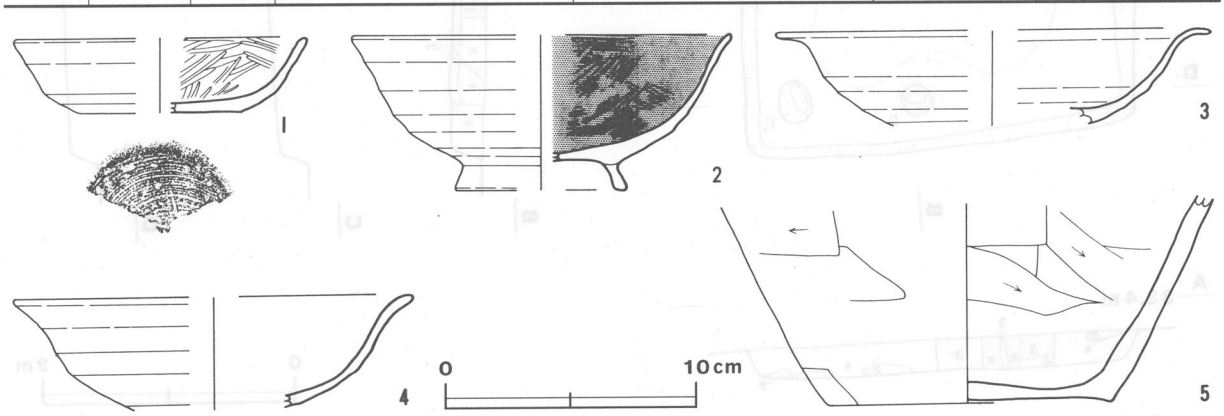
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第95図 1	坏 土師器	A〔11.6〕 B 3.0 C〔6.6〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。	石英・パミス 橙色 普通	P244 15% 竈内覆土下層
2	椀 土師器	A〔15.4〕 B 6.2 D 6.8 E 1.0	高台部から口縁部片。高台は短く直線的に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部切り離し後，高台貼り付け。体部内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア・パミス にぶい褐色 普通	P245 50% 覆土下層
3	椀 土師器	A〔17.5〕 B（3.7）	体部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は強く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。	雲母・スコリア・パミス 黒褐色　普通	P246 15% 竈覆土下層
4	椀 土師器	A〔16.0〕 B（4.5）	体部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。	雲母・スコリア・パミス にぶい赤褐色 普通	P247 10% 竈覆土下層
5	甕 須恵器	B（8.0） C 11.5	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。	石英・スコリア 明赤褐色　普通	P248 10% 竈覆土下層



第95図　第42号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片47点，須恵器片８点が，竈内と東コーナー部の覆土下層を中心に出土している。第95図１の土師器坏は竈内の覆土下層から，２の土師器椀は南東コーナー部の覆土下層から，３・４の土師器椀は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。５の土師器甕は，竈内の覆土下層と南東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合した。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。

第43号住居跡（第96図）

位置　調査区の西部，E6b4区。

重複関係　本跡は，北部を第17号溝に掘り込まれていることから，第17号溝よりも古い。

規模と平面形　長軸（2.72）m，短軸3.15mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向　〔N－8°－E〕

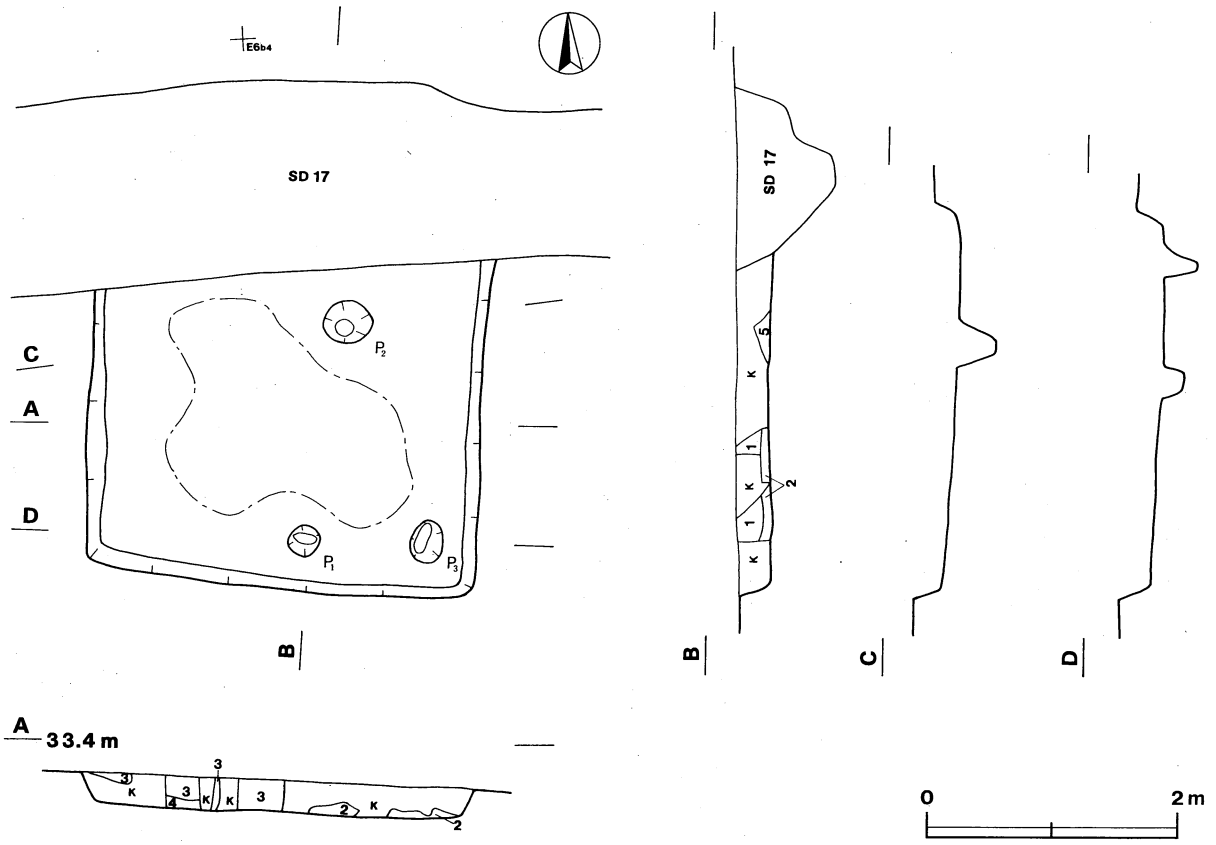
壁　壁高は18～25cmで，外傾して立ち上がる。

床　東側に傾斜しており，検出した床面の中央部は踏み固められ締まりがある。

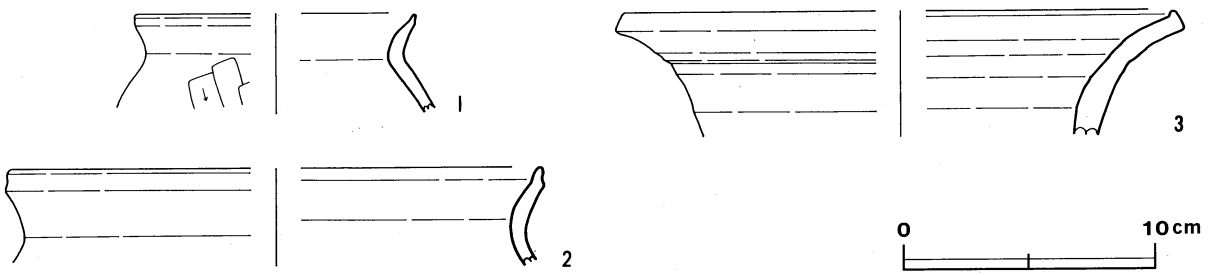
ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1は径25cmの不整円形，深さ19cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2・P_3は長径40～45cm，短径25～34cmの不整楕円形，深さ25～30cmで性格は不明である。

覆土　撹乱を受けているものの，５層からなる自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量



第96図　第43号住居跡実測図



第97図　第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第97図 1	小形甕 土師器	A〔11.2〕 B（4.0）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス 灰褐色 普通	P250 5％ 覆土中
2	甕 土師器	A〔21.2〕 B（3.9）	口縁部片。口縁部は緩く外反し，口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P249 5％ 覆土中
3	甕 須恵器	A〔21.8〕 B（6.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・パミス 灰色 普通	P251 5％ 覆土中

遺物　土師器片180点，須恵器片25点等が出土しているが，遺構全体が撹乱を受けておりほとんどが覆土中からの出土である。第97図１の土師器小形甕と２の土師器甕，３の須恵器甕はいずれも覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後葉）と思われる。

第45号住居跡（第98図）

位置　調査区の中央部，C8i₂区。

規模と平面形　長軸3.75m，短軸3.30mの長方形である。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は40～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅20cm，下幅８cm，深さ７cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部から東部にかけて踏み固められている。

ピット　１か所（P_1）。P_1は長径36cm，短径32cmの不整楕円形，深さ25cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

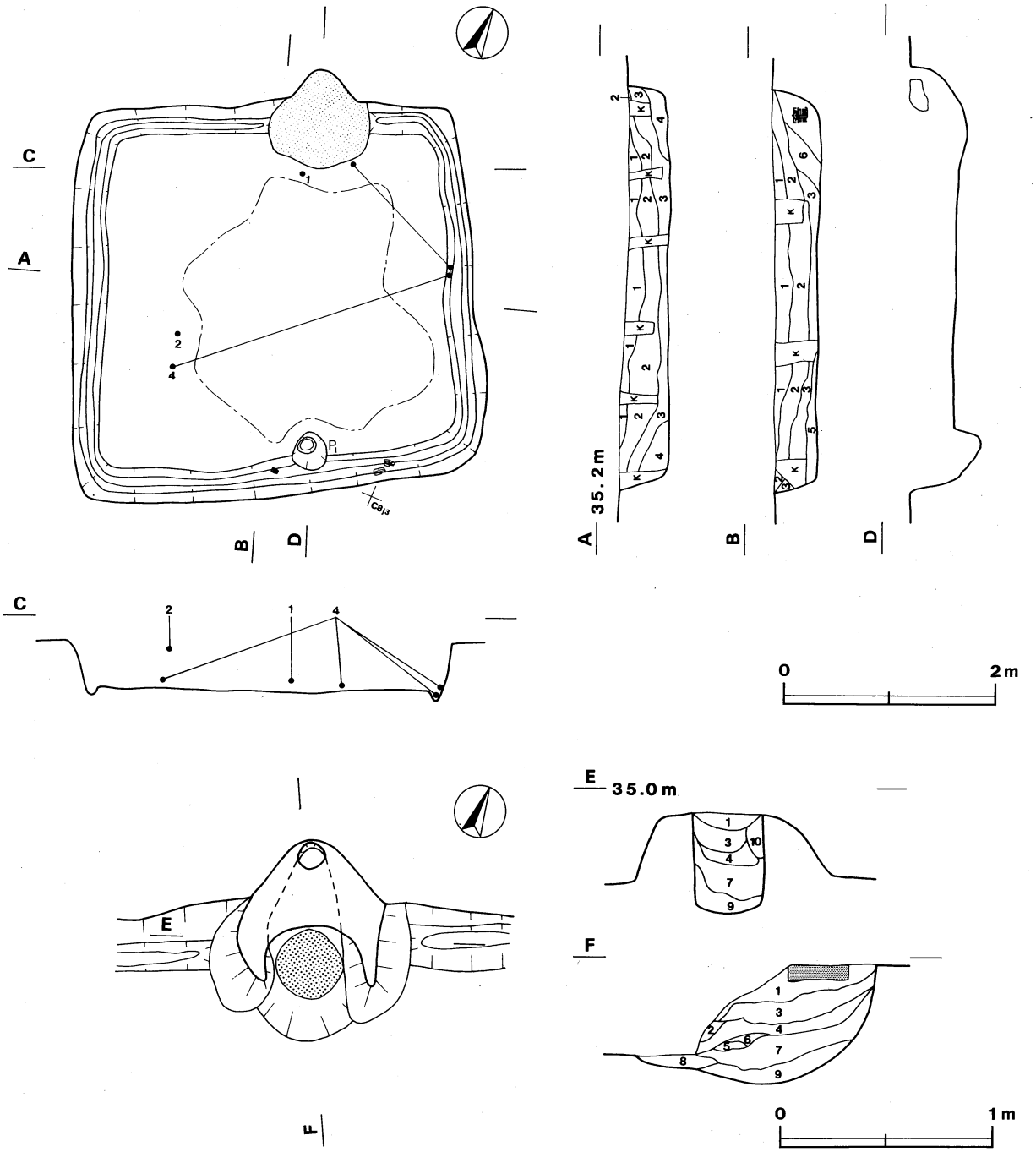
竈　北壁中央部からやや北東よりを壁外に36cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。遺存状態は良い。天井部，袖部とも残存しており，煙出部も検出した。規模は，焚口部から煙道部までの長さ95cm，最大幅96cmである。天井部は，厚さ11cmの粘土で構築されている。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり，徐々に角度を増してほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　色　砂粒少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化・ローム粒子微量
3　褐　　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　　色　砂粒多量，炭化粒子少量，焼土・ローム粒子微量
5　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化・ローム粒子微量
6　暗赤褐色　砂粒少量，焼土・炭化・ローム粒子微量

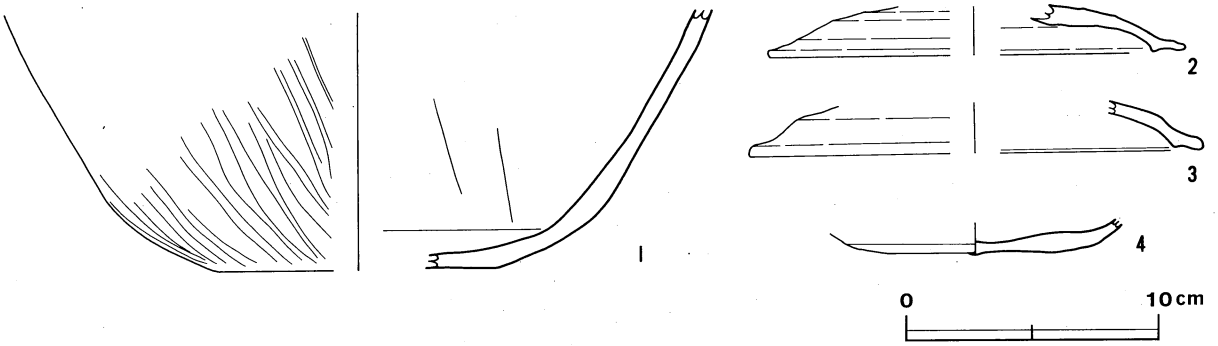
7　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子中量，炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子微量
9　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
10　褐　　色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子微量

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　灰褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量



第98図　第45号住居跡実測図



第99図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第99図 1	甕 土師器	B(10.3) C〔11.4〕	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。底部木葉痕。	長石・石英・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P252 10% 覆土下層
2	蓋 須恵器	A〔16.6〕 B(2.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部は水平方向に伸びる。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P254 10% 覆土上層
3	蓋 須恵器	A〔18.0〕 B(2.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部は水平方向に伸びる。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母・パミス 浅黄色 普通	P255 5% 覆土中
4	坏 須恵器	B(1.4) C 6.7	底部片。平底。	底部内面ナデ，外面回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P253 45% 覆土下層

遺物　土師器片150点，須恵器片36点の他，P_1付近に炭化材が少量検出された。第99図１の土師器甕は竈前面の覆土下層から，４の須恵器高台付坏は竈前面，北東壁際と南西部の覆土下層から出土したものが接合した。２の須恵器蓋は西部の覆土上層から，３の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，３の須恵器高台付坏等から８世紀前葉と思われる。

第46号住居跡（第100・101図）

位置　調査区の中央部，D8c_4区。

重複関係　本跡は北部を第９号溝に掘り込まれていることから，第９号溝よりも古い。

規模と平面形　長軸6.38m，短軸5.65mの長方形である。

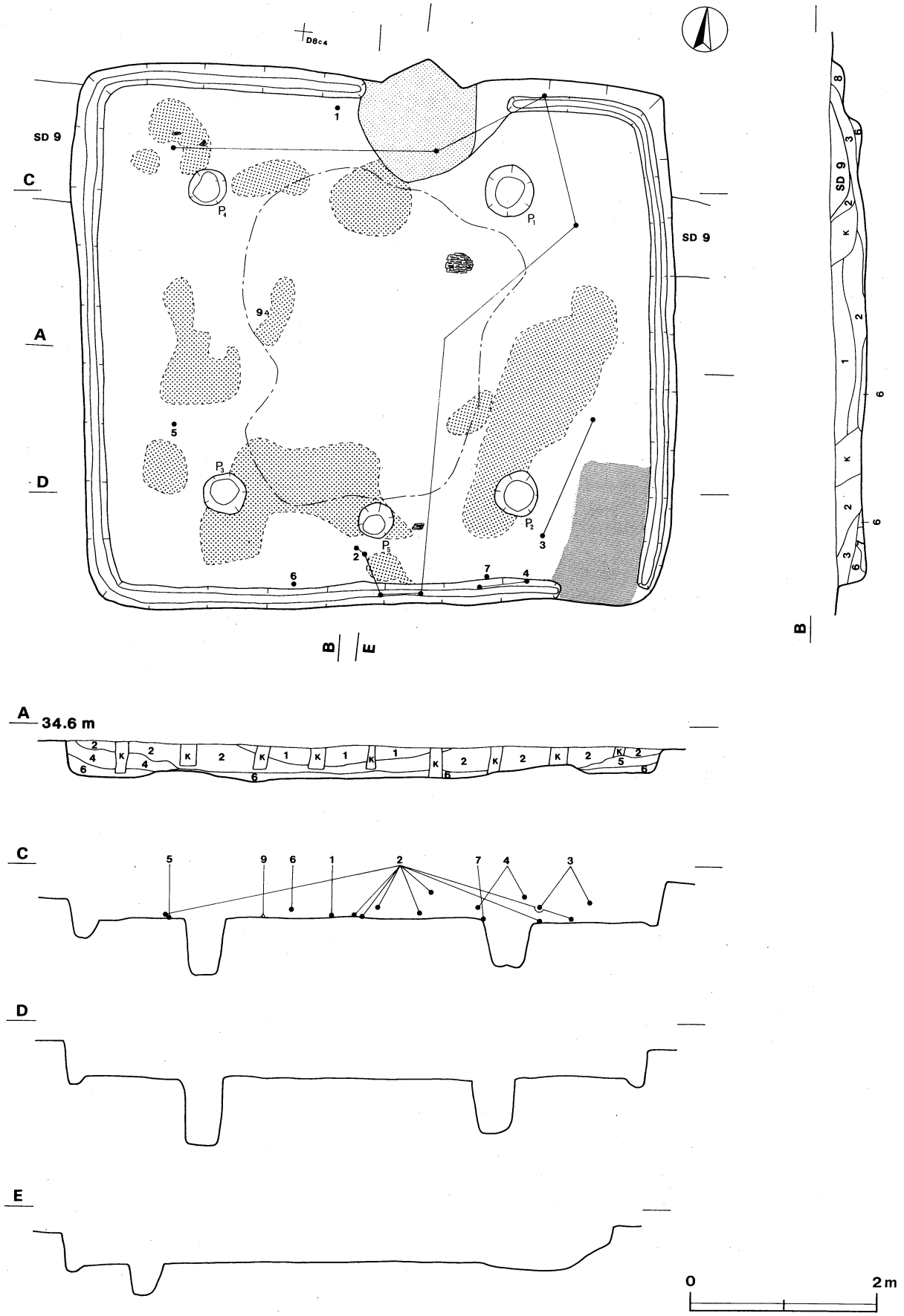
主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は32～40cmで，外傾して立ち上がる。

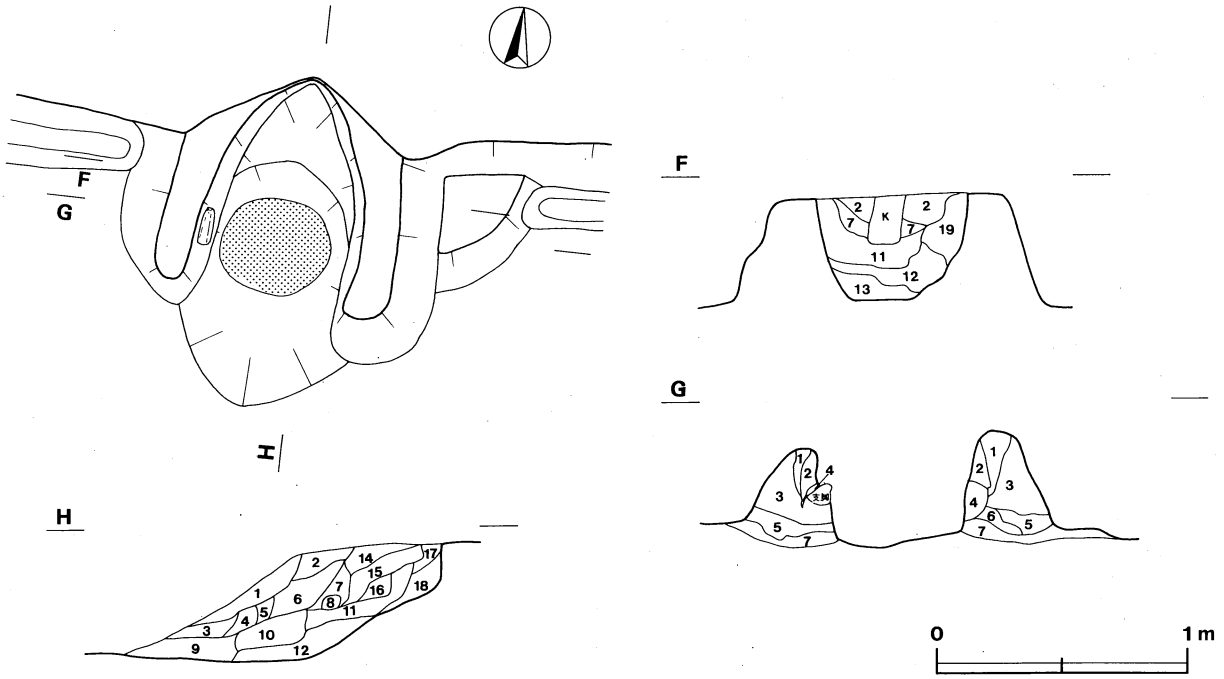
壁溝　南東コーナー部を除き，全周する。上幅20cm，下幅９cm，深さ９cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径40～52cmの不整円形，深さ50～71cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径46cmの不整円形，深さ31cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。



第100図　第46号住居跡実測図(1)



第101図　第46号住居跡実測図(2)

竈　北壁中央部からやや東よりを壁外に29cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は，崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ135cm，最大幅127cmである。火床部は床面をわずかに掘り窪めており，レンガ状に赤変硬化し，かなり長期にわたって使われたものと思われる。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり，中位からほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

1　赤 褐 色　砂粒多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 色　砂粒中量，焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
3　暗 赤 色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子少量，
5　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子少量
6　暗 褐 色　砂粒多量，焼土中・小ブロック・焼土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　砂粒多量
9　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量，
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
13　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック微量
14　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
16　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
17　褐　　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
18　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
19　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

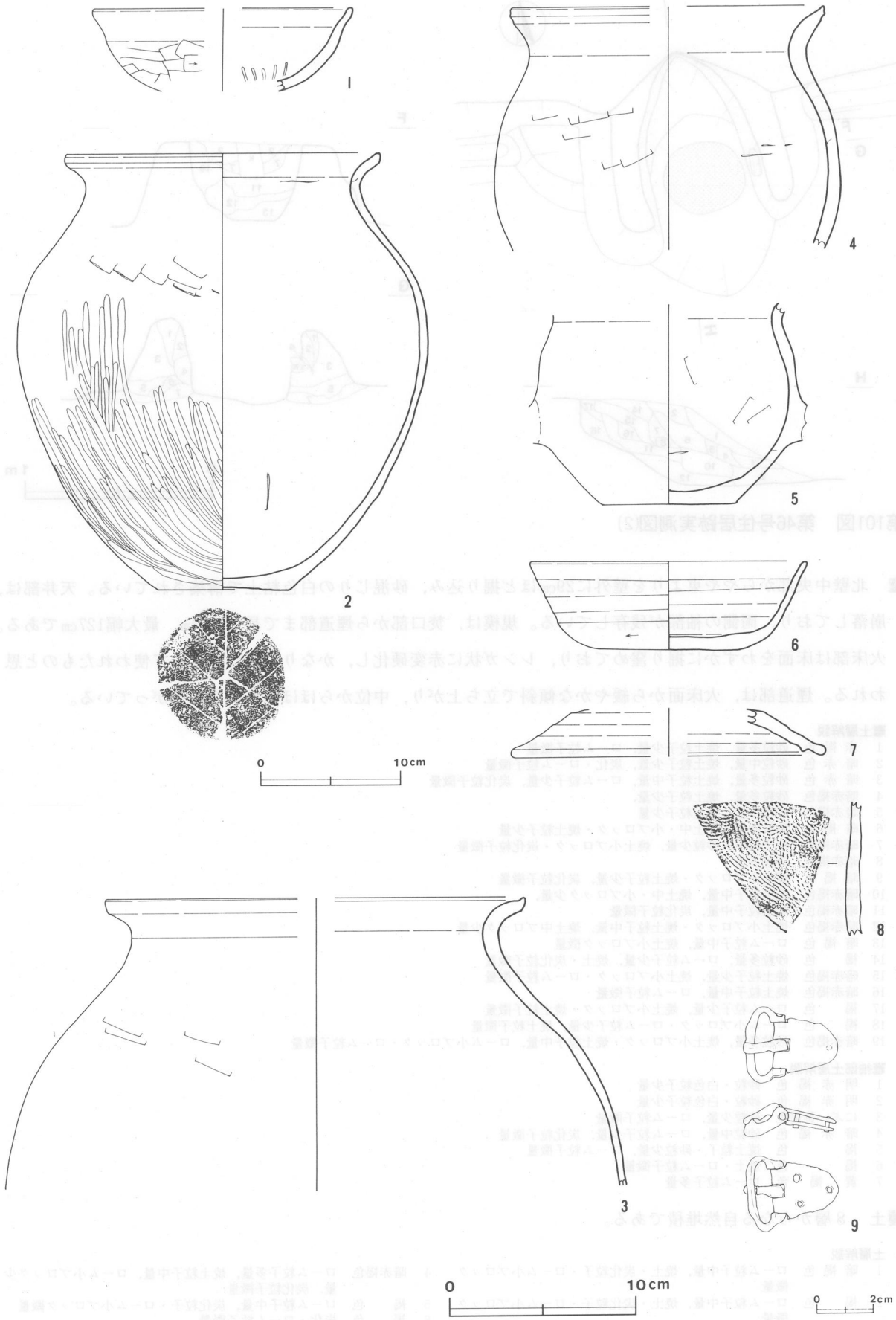
竈袖部土層解説

1　明 赤 褐 色　砂粒・白色粒子少量
2　明 赤 褐 色　砂粒・白色粒子少量
3　にぶい黄褐色　砂粒少量，ローム粒子微量
4　暗 赤 褐 色　砂粒中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
6　褐　　色　焼土・ローム粒子微量
7　黄 褐 色　ローム粒子多量

覆土　8層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
6　褐　　色　炭化・ローム粒子微量
7　褐　　色　砂粒多量，焼土粒子微量
8　赤 褐 色　砂粒少量，焼土・炭化粒子微量



第102図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	坏 土師器	A〔13.8〕 B(4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に暗文。	長石・雲母・スコリア 橙色 良好	P256 20% 覆土下層
2	甕 土師器	A 22.4 B 31.5 C 9.4	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。体部外面上位にヘラ当て痕。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P257 75% PL29 覆土下層
3	甕 土師器	A〔22.6〕 B(15.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P258 15% 覆土中層
4	甕 土師器	A〔16.8〕 B(13.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部外側に2本の沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P259 25% 覆土中層
5	甕 土師器	B(10.8) C 7.2	底部から体部片。体部外面中位に把手痕。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ。外面剥離のため調整不明。体部内面にヘラ当て痕。底部手持ちヘラ削り。	石英・パミス 灰黄色 普通	P260 60% 床面
6	坏 須恵器	A 14.8 B 4.7 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・パミス 灰黄色 良好	P261 85% PL29 覆土下層
7	蓋 須恵器	A〔16.8〕 B(2.6)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部および口縁部内・外面ロクロナデ。	石英・パミス・雲母 にぶい黄橙色 普通	P262 10% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	帯金具	3.4	2.7	0.8	9.1	床面	M40 銅製品（鉸具） PL41

遺物　土師器片240点，須恵器片14点，銅製品（帯金具）等が出土している。土師器を中心に遺構全体の覆土下層及び中層から出土している。第102図1の土師器坏は竈左袖部前面の覆土下層から，2の土師器甕は北部覆土下層と南部壁際の覆土下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は南東部の覆土中層から，4の土師器甕は南東部壁際の覆土中層から，5の土師器甕は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。6の須恵器坏は南部壁際の覆土下層から，7の須恵器蓋は南東部壁際の床面直上から出土している。8は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に同心円状のタタキが見られる。9の帯金具（鉸具）は，西部の床面直上から出土している。

所見　本跡は床面全面に焼土を検出し，また少量の炭化材も確認した。焼失家屋の可能性もある。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第47号住居跡（第103図）

位置　調査区の東部，D9e8区。

規模と平面形　長軸4.70m，短軸4.50mの方形である。

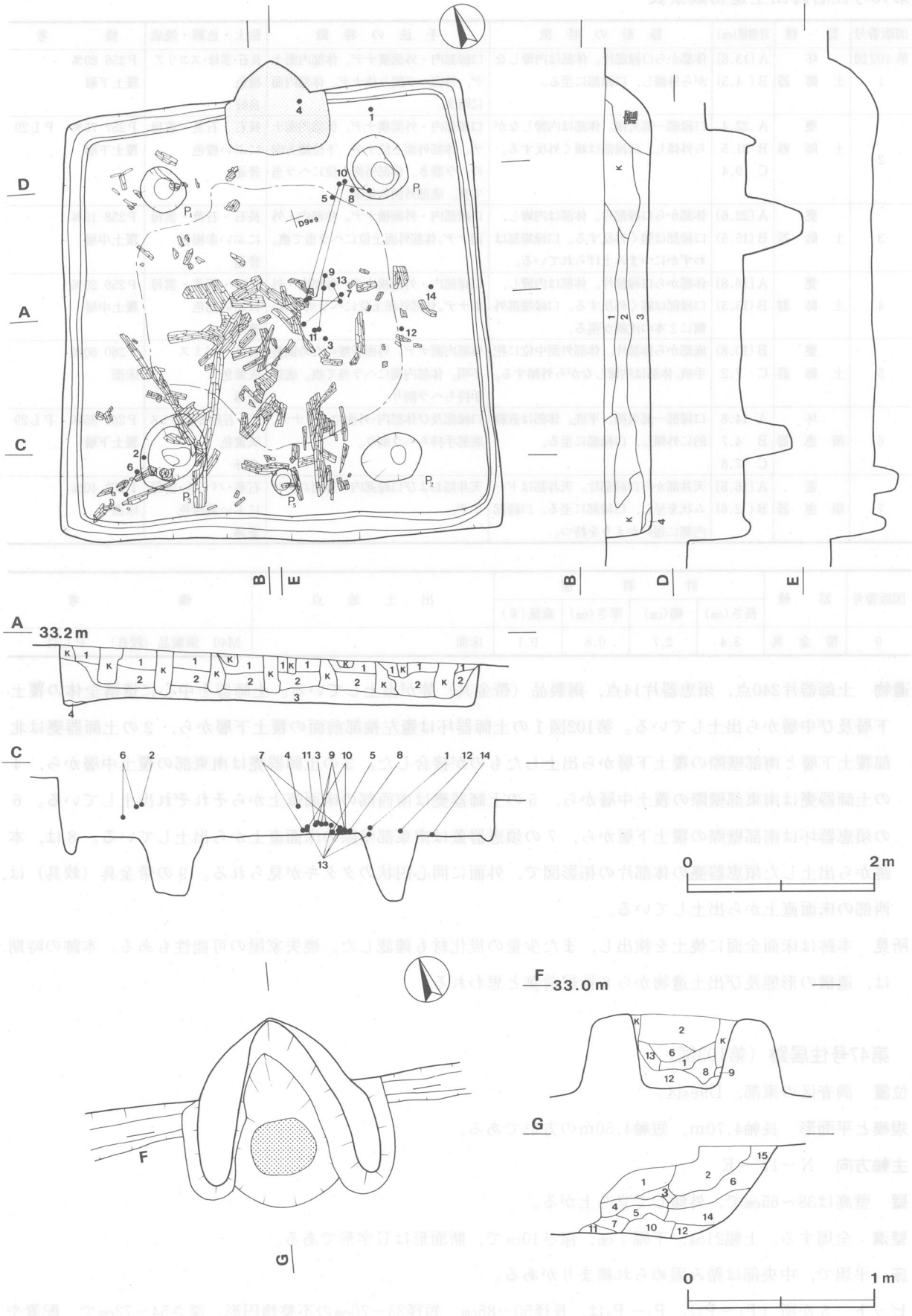
主軸方向　N－17°－E

壁　壁高は38～65cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅21cm，下幅7cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径50～85cm，短径33～70cmの不整楕円形，深さ54～72cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径27cmの不整円形，深さ29cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。



第103図　第47号住居跡実測図

竈　北壁中央部を壁外に80cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は，崩落しており両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ105cm，最大幅115cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
2　褐　　色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
3　褐　　色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
4　褐　　色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量
5　褐　　色　砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　焼土粒子・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
7　褐　　色　焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
8　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
9　暗 褐 色　焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
10　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，砂粒少量
11　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
12　暗 褐 色　焼土・ローム粒子少量
13　暗赤褐色　砂粒中量，焼土中・小ブロック・焼土粒子少量
14　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
15　褐　　色　焼土・ローム粒子微量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

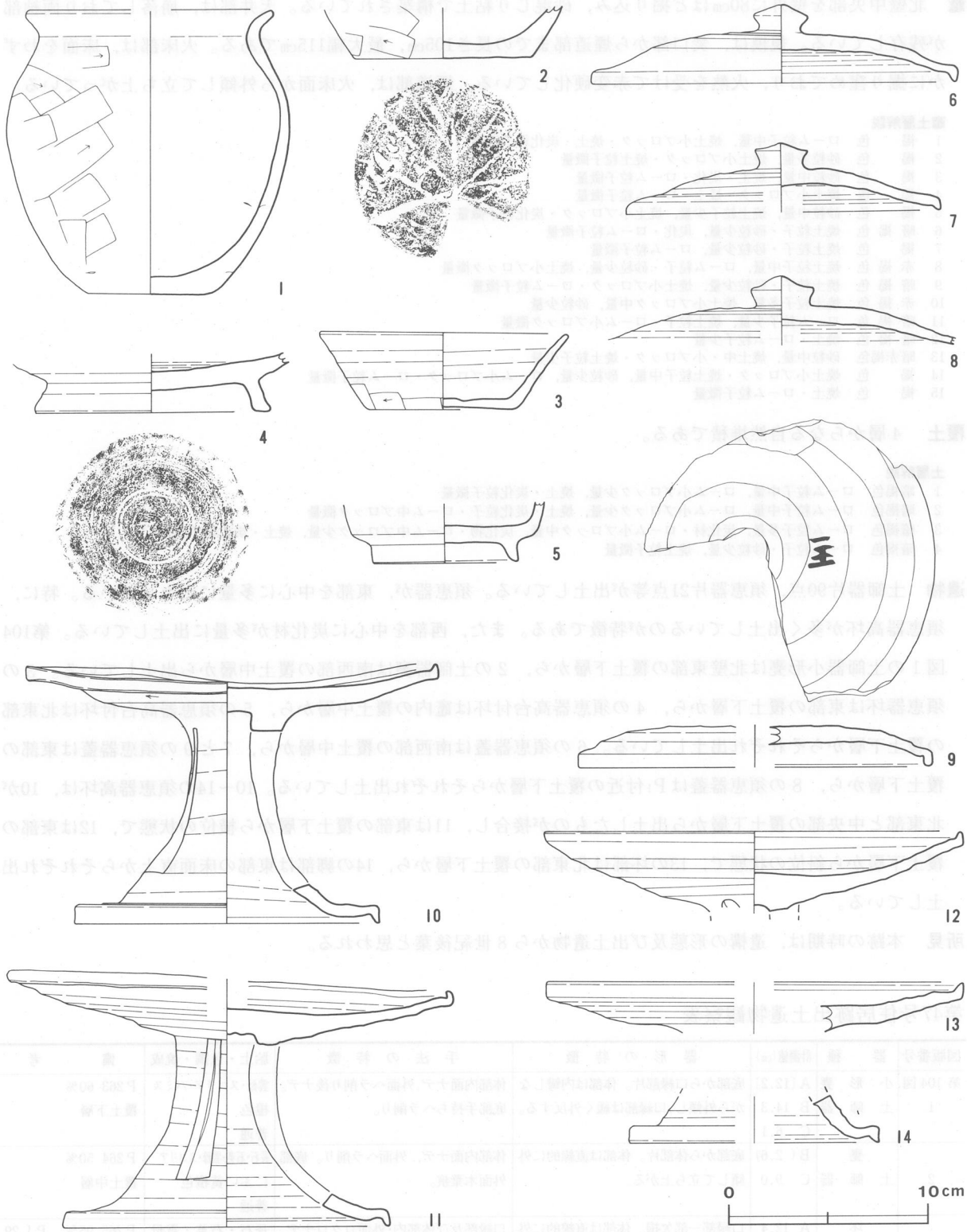
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，炭化材・ローム小ブロック中量，炭化物・ローム中ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片90点，須恵器片21点等が出土している。須恵器が，東部を中心に多量に出土している。特に，須恵器高坏が多く出土しているのが特徴である。また，西部を中心に炭化材が多量に出土している。第104図1の土師器小形甕は北壁東部の覆土下層から，2の土師器甕は南西部の覆土中層から出土している。3の須恵器坏は東部の覆土下層から，4の須恵器高台付坏は竈内の覆土中層から，5の須恵器高台付坏は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。6の須恵器蓋は南西部の覆土中層から，7と9の須恵器蓋は東部の覆土下層から，8の須恵器蓋はP_1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。10～14の須恵器高坏は，10が北東部と中央部の覆土下層から出土したものが接合し，11は東部の覆土下層から横位の状態で，12は東部の覆土下層から斜位の状態で，13の坏部は北東部の覆土下層から，14の脚部は東部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第104図 1	小形甕 土師器	A〔12.2〕 B 14.3 C 6.1	底部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。	雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P263 60% 覆土下層
2	甕 土師器	B(2.6) C 9.0	底部から体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P264 50% 覆土中層
3	坏 須恵器	A 12.4 B 3.8 C 7.5	口縁部一部欠損。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P265 95%　PL29 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	B(3.0) D 11.7 E 1.6	高台部片。高台は高めで，「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 緑灰色 普通	P266 20% 竈覆土中層
5	高台付坏 須恵器	B(3.0) D 7.4 E 1.0	高台部片。高台は短く真下に伸びる。	底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P267 20% 覆土下層



第104図　第47号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第104図 6	蓋 須恵器	A 18.4 B 4.0 F 2.8 G 1.4	口縁部一部欠損。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P268 95% 覆土中層 PL29

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第104図 7	蓋 須恵器	A〔15.8〕 B 3.5 F 2.7 G 1.3	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P269 60%　PL29 覆土下層
8	蓋 須恵器	B(3.5) F 3.1 G 1.5	天井部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P270 50% 覆土下層
9	蓋 須恵器	A〔17.6〕 B(2.1)	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部はドーム状を呈する。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転へら削り。	石英・雲母 浅黄色 普通	P271 40%　PL29 覆土下層 天井部外面に墨書「主」か
10	高坏 須恵器	A 20.5 B 13.0 D 15.2 E 10.5	坏部及び脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，二方に透かしが入る。坏部の口縁端部は上方に，脚部の口縁端部は下方に短く折り返されている。	坏部及び脚部内・外面ロクロナデ。坏部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P272 85%　PL29 覆土下層
11	高坏 須恵器	A〔22.4〕 B 13.0 D 16.4 E 9.6	脚部から口縁部片。脚部はラッパ状に開き，三方に透かしが入る。坏部の口縁端部は上方に，脚部の口縁端部は下方に短く折り返されている。	坏部及び脚部内・外面ロクロナデ。坏部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P273 75%　PL29 覆土下層
12	高坏 須恵器	A 20.9 B(4.3)	坏部。体部は内彎気味に外傾し，口縁端部は上方に短く折り返されている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P274 40% 覆土下層
13	高坏 須恵器	A〔20.8〕 B(2.6)	坏部。体部は内彎気味に外傾し，口縁端部は上方に短く折り返されている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P275 15% 覆土下層
14	高坏 須恵器	B(2.3) D〔12.6〕	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部口縁端部は，下方に短く折り返されている。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P276 5% 床面

第48号住居跡（第105図）

位置　調査区の東部，D0f1区。

重複関係　本跡は，南東部を第32号住居跡に掘り込まれていることから，第32号住居跡よりも古い。また，竈の一部が調査区外になっている。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.56mの方形である。

主軸方向　N－85°－E

壁　壁高は22～33cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，東壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅30cm，下幅15cm，深さ10cmで，断面形は逆台形である。

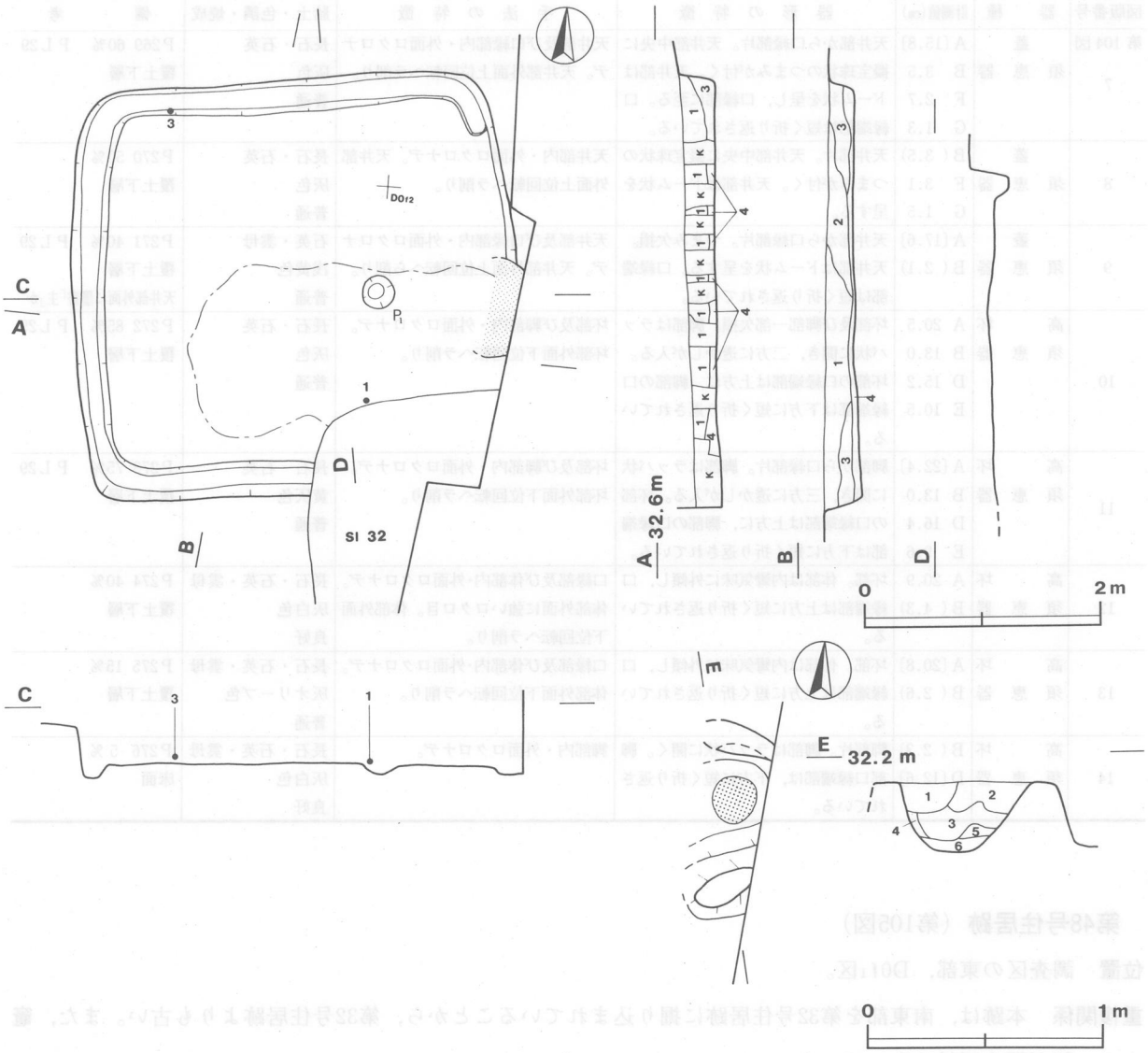
床　平坦で，南東部が踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は径28cmの不整円形，深さ10cmで，性格は不明である。

竈　竈東部が調査区外のため全体は調査できなかった。東壁中央部からやや南よりに付設され，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。火床部は，床面をわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は，調査区外のため確認できなかった。

竈土層解説

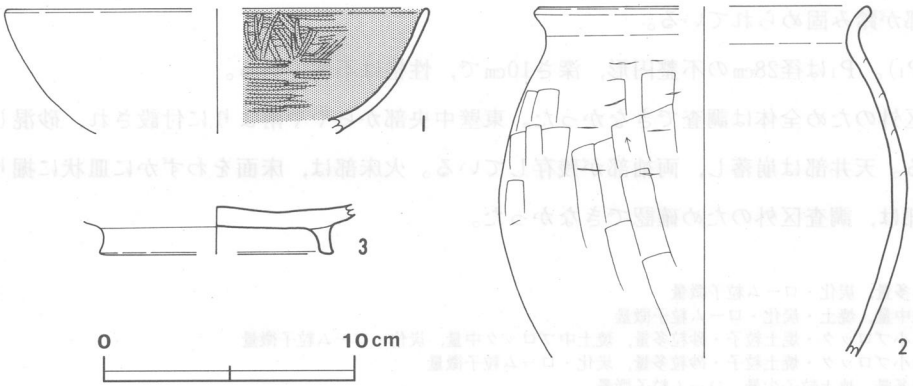
1　黒褐色　砂粒多量，炭化・ローム粒子微量
2　黒褐色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック中量，炭化・ローム粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，炭化・ローム粒子微量
5　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量



第105図　第48号住居跡実測図

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　炭化・ローム粒子微量



第106図　第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第106図 1	坏 土師器	A〔16.8〕 B(5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部に至る。	体部内面ヘラ磨き。体部外面ナデ。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P277 10% 覆土下層
2	甕 土師器	A〔13.2〕 B(14.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石 灰色 普通	P278 30%　PL29 覆土中
3	高台付坏 須恵器	B　1.9 D〔 8.4〕 E　1.1	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P279 5% 覆土下層

遺物　土師器片36点，須恵器片10点等が出土している。本遺構は，当遺跡の他の遺構と比べ出土遺物は少ない。第106図1の土師器坏は南東部の覆土下層から，2の土師器甕は覆土中から，3の須恵器高台付坏は北壁西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀末葉）と思われる。

第49号住居跡（第107・108図）

位置　調査区の東部，E0a1区。

重複関係　本跡は，第50号住居跡に南東コーナー部を掘り込まれていることから，第50号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.42m，短軸6.20mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は42～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅19cm，下幅7cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

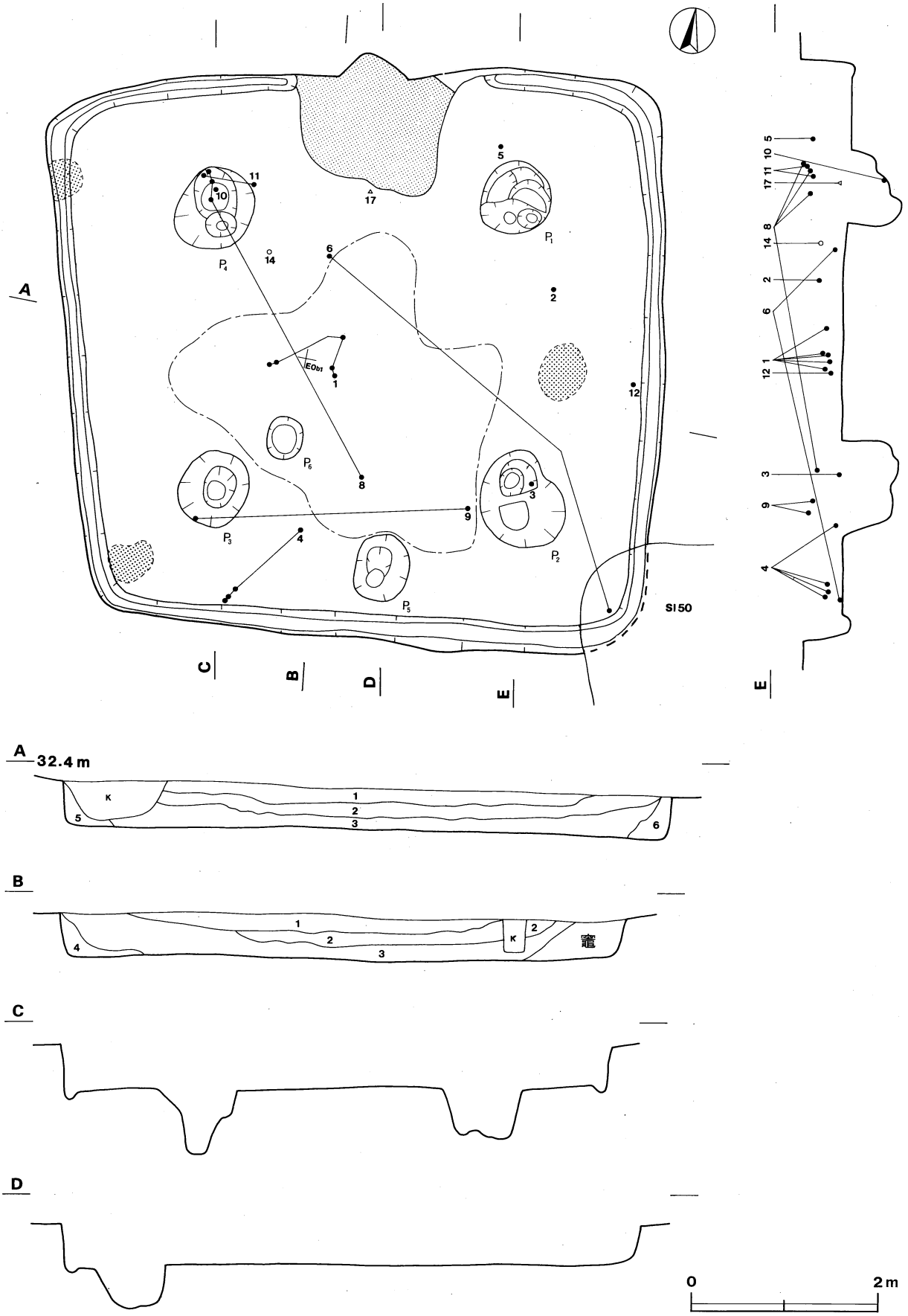
ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，長径80～105cm，短径70～85cmの不整楕円形，深さ52～67cmで配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径80cm，短径57cmの不整楕円形，深さ45cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は長径37cm，短径46cmの不整楕円形で性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ140cm，最大幅170cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

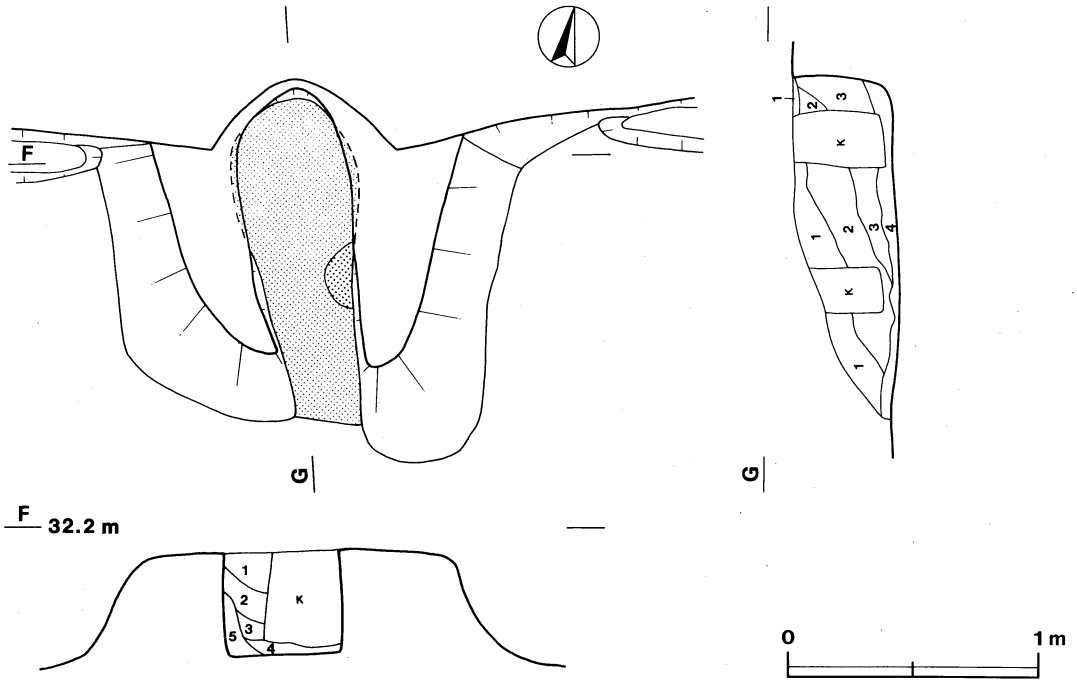
竈土層解説
1　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量



第107図　第49号住居跡実測図(1)



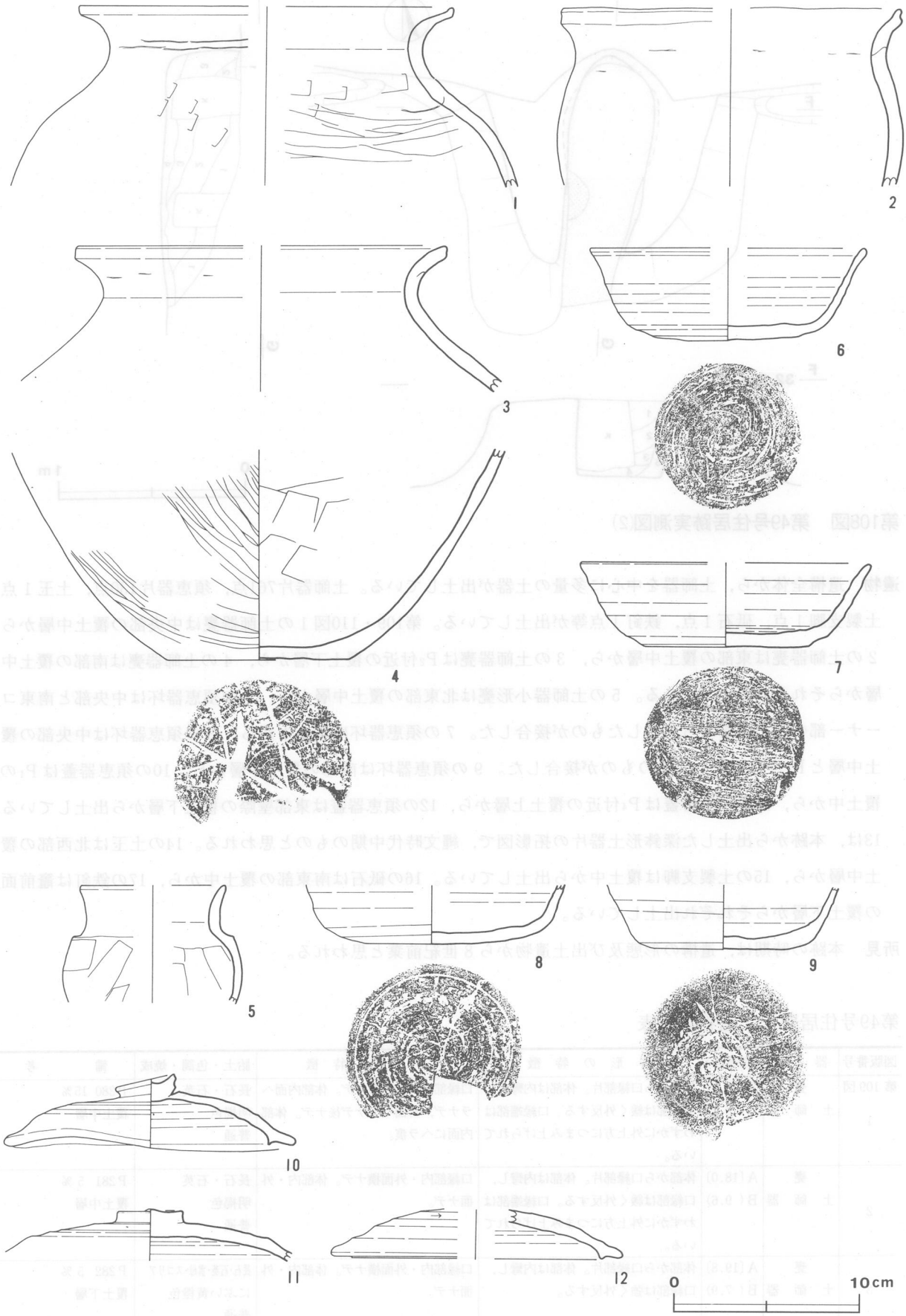
第108図　第49号住居跡実測図(2)

遺物　遺構全体から，土師器を中心に多量の土器が出土している。土師器片761点，須恵器片130点，土玉１点，土製支脚１点，砥石１点，鉄釘１点等が出土している。第109・110図１の土師器甕は中央部の覆土中層から，２の土師器甕は東部の覆土中層から，３の土師器甕はP_2付近の覆土下層から，４の土師器甕は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。５の土師器小形甕は北東部の覆土中層から，６の須恵器坏は中央部と南東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合した。７の須恵器坏は覆土中から，８の須恵器坏は中央部の覆土中層とP_4付近の覆土上層のものが接合した。９の須恵器坏は南部の覆土中層から，10の須恵器蓋はP_4の覆土中から，11の須恵器蓋はP_4付近の覆土上層から，12の須恵器蓋は東部壁際の覆土下層から出土している。13は，本跡から出土した深鉢形土器片の拓影図で，縄文時代中期のものと思われる。14の土玉は北西部の覆土中層から，15の土製支脚は覆土中から出土している。16の砥石は南東部の覆土中から，17の鉄釘は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

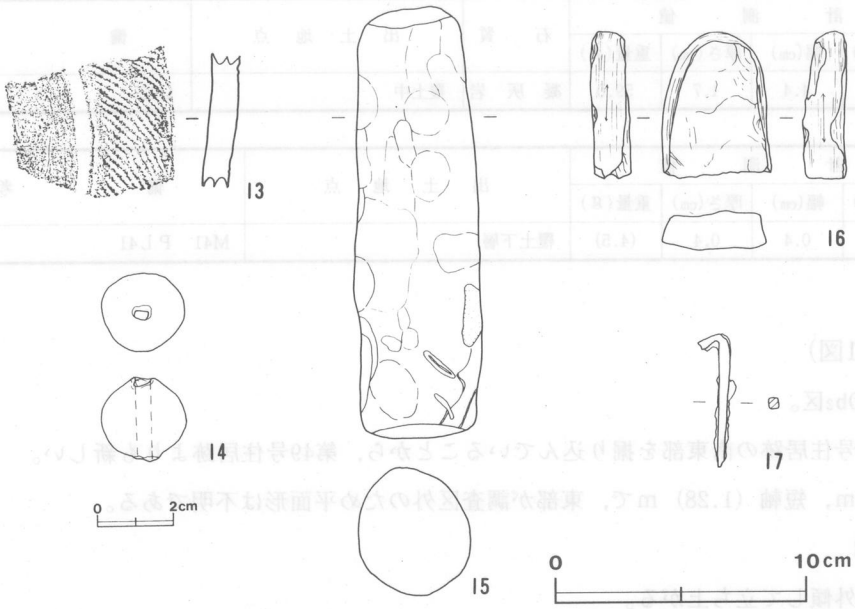
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前葉と思われる。

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 1	甕 土師器	A〔20.0〕 B（9.7）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラナデ後ナデ。体部内面にヘラ痕。	長石・石英 明褐色 普通	P280 15% 覆土中層
2	甕 土師器	A〔18.0〕 B（9.6）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 明褐色 普通	P281 5% 覆土中層
3	甕 土師器	A〔19.8〕 B（7.9）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P282 5% 覆土下層



第109図　第49号住居跡出土遺物実測図(1)



第110図　第49号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 4	甕 土師器	B(11.4) C 9.8	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ削り。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	P283 15% 覆土中層
5	小形甕 土師器	A〔7.7〕 B(6.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し，頸部に段を持つ。口縁部は長く，緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P284 5% 覆土中層
6	坏 須恵器	A〔14.8〕 B(5.0) C 7.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 良好	P285 70%　PL30 覆土下層
7	坏 須恵器	A〔15.6〕 B 4.6 C 9.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P286 60% 覆土中
8	坏 須恵器	B(3.2) C 9.7	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 淡黄色 良好	P287 50% 覆土上・中層
9	坏 須恵器	B(3.4) C 9.5	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P288 50% 覆土中層
10	蓋 須恵器	A 15.6 B 4.3 F 3.1 G 0.6	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。天井部内側に短く，するどいかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P289 60%　PL30 P_4覆土中
11	蓋 須恵器	B(2.8) F 3.5 G 0.7	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P290 30% 覆土上層
12	蓋 須恵器	A〔15.7〕 B(2.6)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰白色 普通	P291 20% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第110図14	土　玉	2.2	2.2	0.4	9.1	覆土中層	DP66
15	土製支脚	5.1	17.4	—	525.0	覆土中	DP67　PL37

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第110図16	砥　石	5.9	4.4	1.7	59.0	凝灰岩	覆土中	Q12

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	鉄　釘	(5.4)	0.4	0.4	(4.5)	覆土下層	M41　PL41

第50号住居跡（第111図）

位置　調査区の東部，E0b2区。

重複関係　本跡は，第49号住居跡の南東部を掘り込んでいることから，第49号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.12m，短軸（1.28）mで，東部が調査区外のため平面形は不明である。

主軸方向　〔N－20°－W〕

壁　壁高は16～18cmで，外傾して立ち上がる。

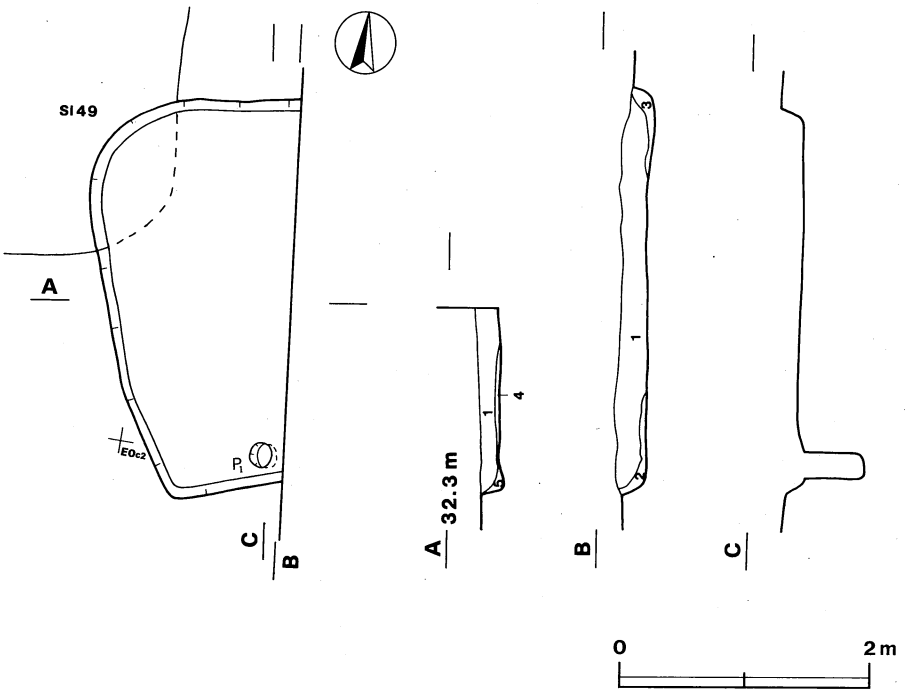
床　平坦であるが，踏み固められた部分は検出できなかった。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径20cm，短径17cmの不整楕円形，深さ45cmで，性格は不明である。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片20点，須恵器片3点の他，覆土中から鉄滓が90g出土している。東部が調査区外であり出土遺物は少なく，ほとんどが破片である。



第111図　第50号住居跡実測図

所見　本跡は，時期を決定できる遺物はないが，第49号住居跡（８世紀前葉）を掘り込んでいることから，８世紀前葉以降の竪穴住居跡と思われる。

第51号住居跡（第112図）

位置　調査区の東部，E0g2区。

規模と平面形　長軸（1.70）m，短軸（0.96）mで，西部を残しほとんどが調査区外のため，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－23°－W〕

壁　壁高は46～48cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固められた部分は検出できなかった。

覆土　２層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量

遺物　土師器片７点，須恵器片１点の他，鉄滓50ｇが覆土中から出土している。

所見　本跡は，時期を決定できる遺物がなく時期は不明である。

第52号住居跡（第112図）

位置　調査区の東部，E0h2区。

重複関係　本跡は，西部を第11号溝に掘り込まれていることから，第11号溝よりも古い。

規模と平面形　長軸2.98m，短軸2.92mの方形である。

主軸方向　N－89°－E

壁　壁高は16～62cmで，外傾して立ち上がる。

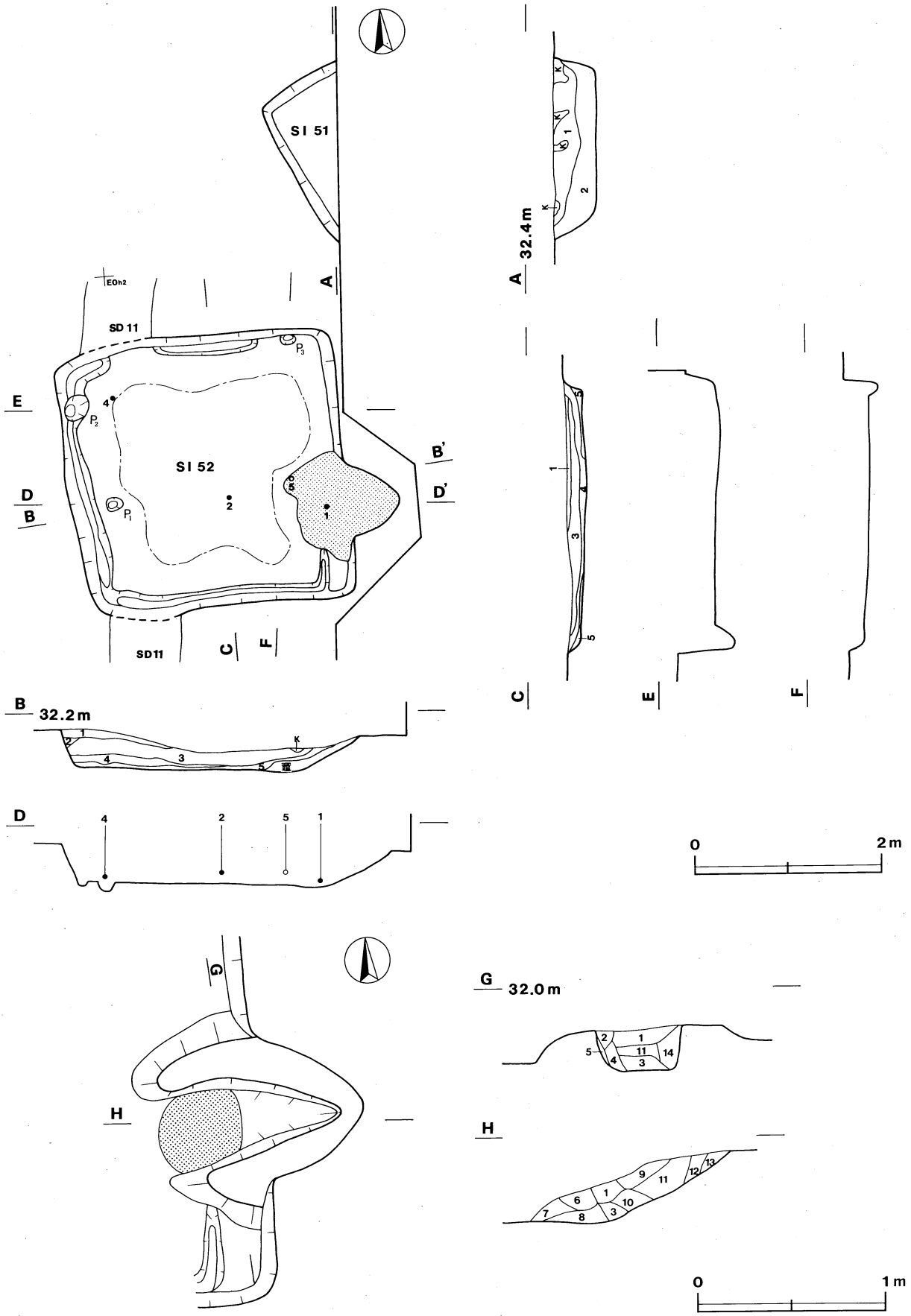
壁溝　北壁の一部と北東コーナー部，東壁北部を除いて全周する。上幅20～30cm，下幅６～９cm，深さ５cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

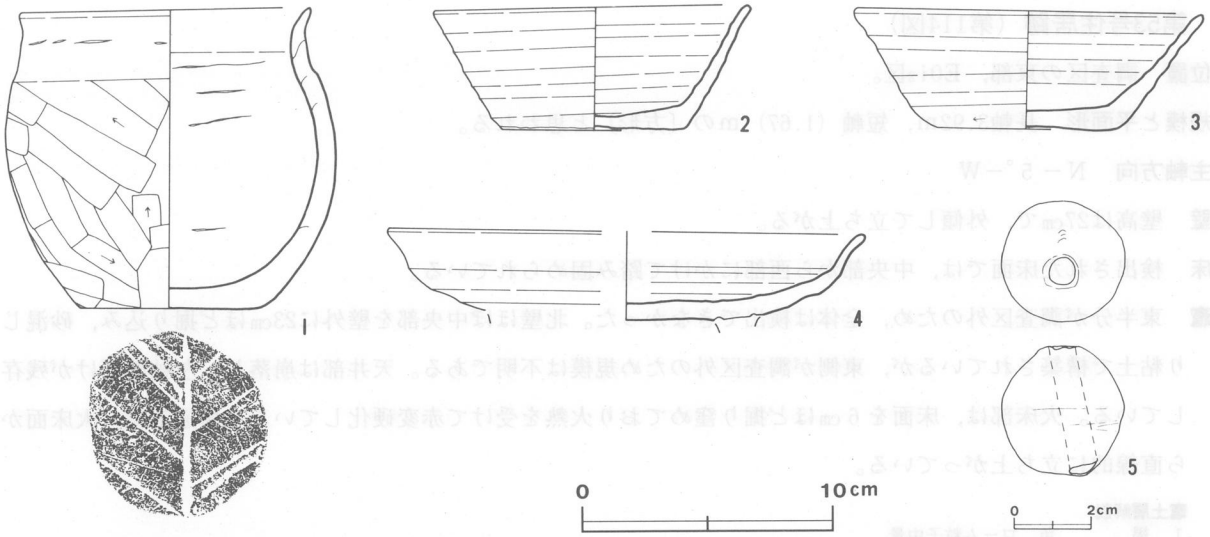
ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1は長径19cm，短径15cmの不整楕円形，深さ10cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2・P_3は長径17～30cm，短径11～15cmの不整楕円形，深さ10～22cmで，性格は不明である。

竈　東壁中央部からやや南よりを壁外に55cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，最大幅105cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子中量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
7　暗 赤 褐 色　ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土・ローム粒子少量
9　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
11　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
12　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
13　暗　褐　色　焼土・ローム粒子少量
14　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量



第112図　第51・52号住居跡実測図



第113図　第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 1	小形甕 土師器	A 11.6 B 12.0 C 7.0	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P292 95%　PL30 竈覆土下層
2	坏 須恵器	A 12.6 B 5.0 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ切り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P293 98%　PL30 覆土下層
3	坏 須恵器	A 13.8 B 4.7 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P294 70% 覆土中
4	盤 須恵器	A〔18.8〕 B(3.6)	底部から口縁部片。高台部欠損。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰黄色 普通	P295 15% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	土玉	3.3	3.4	0.7	32.6	覆土下層	DP68　PL36

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片68点，須恵器片11点の他，鉄滓200gが覆土中から出土している。第113図1の土師器小形甕は竈内の覆土下層から横位の状態で，2の須恵器坏は中央部の覆土下層から正位の状態で出土している。3の須恵器坏は覆土中から，4の須恵器盤は北西部の覆土下層から出土している。5の土玉は，竈付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第53号住居跡（第114図）

位置　調査区の東部，E0i₂区。

規模と平面形　長軸3.92m，短軸（1.67）mの〔方形〕と思われる。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は27cmで，外傾して立ち上がる。

床　検出された床面では，中央部から西部にかけて踏み固められている。

竈　東半分が調査区外のため，全体は検出できなかった。北壁ほぼ中央部を壁外に23cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されているが，東側が調査区外のため規模は不明である。天井部は崩落し，左袖部だけが残存している。火床部は，床面を6cmほど掘り窪めており火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から直線的に立ち上がっている。

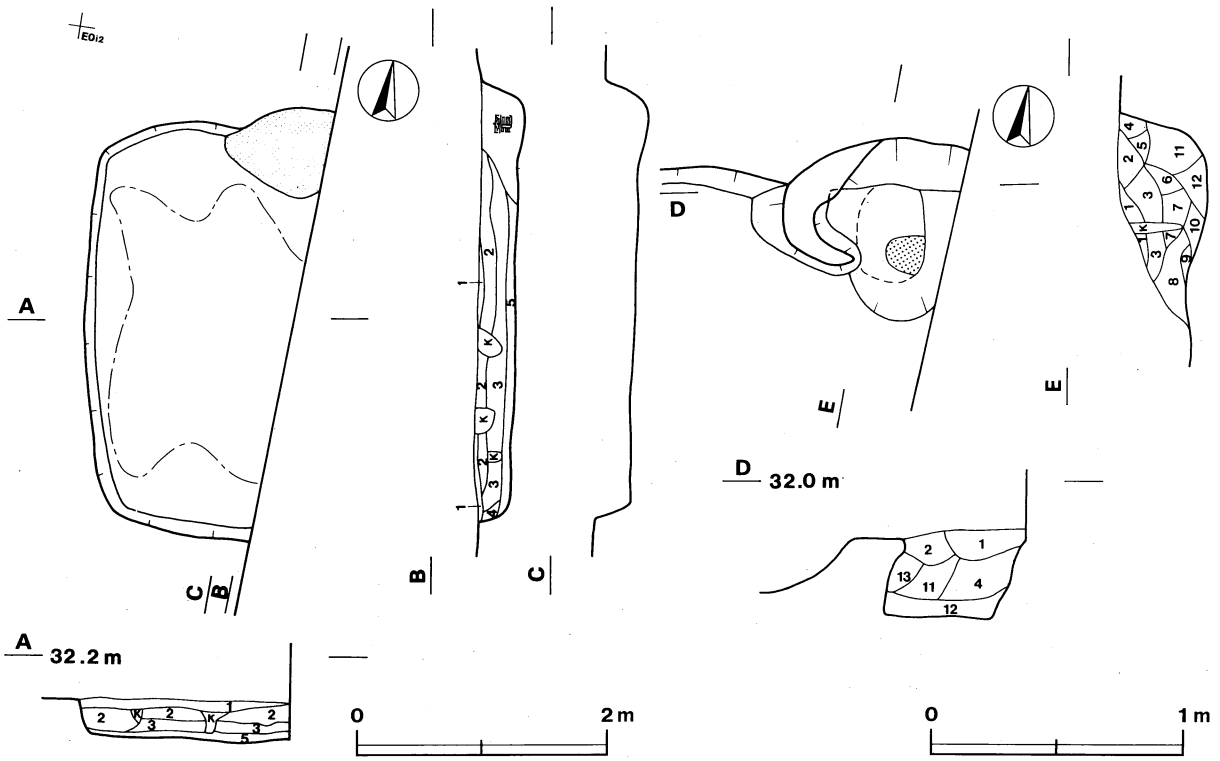
竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　褐　　色　焼土小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子少量
9　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量
10　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
11　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
13　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

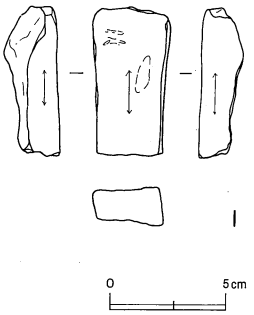
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量



第114図　第53号住居跡実測図

遺物　土師器片19点，須恵器片２点，砥石１点が，遺構全体に散乱した状態で出土している。ほとんどが破片である。第115図１の砥石は，覆土中から出土している。

所見　本跡は，時期を決定できる遺物がなく時期不明である。



第115図　第53号住居跡
出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第115図1	砥　石	5.9	3.1	1.5	38.7	凝灰岩	覆土中	Q13

第54号住居跡（第116・117図）

位置　調査区の東部，E9j_0区。

重複関係　本跡は，第55号住居跡の床上に床を構築し，さらに第11号溝が両遺構を掘り込んでいることから，第55号住居跡より新しく，第11号溝よりも古い。また本跡は，第50・102号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸（3.35）m，短軸3.20mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は８～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には全周する。上幅23cm，下幅４cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

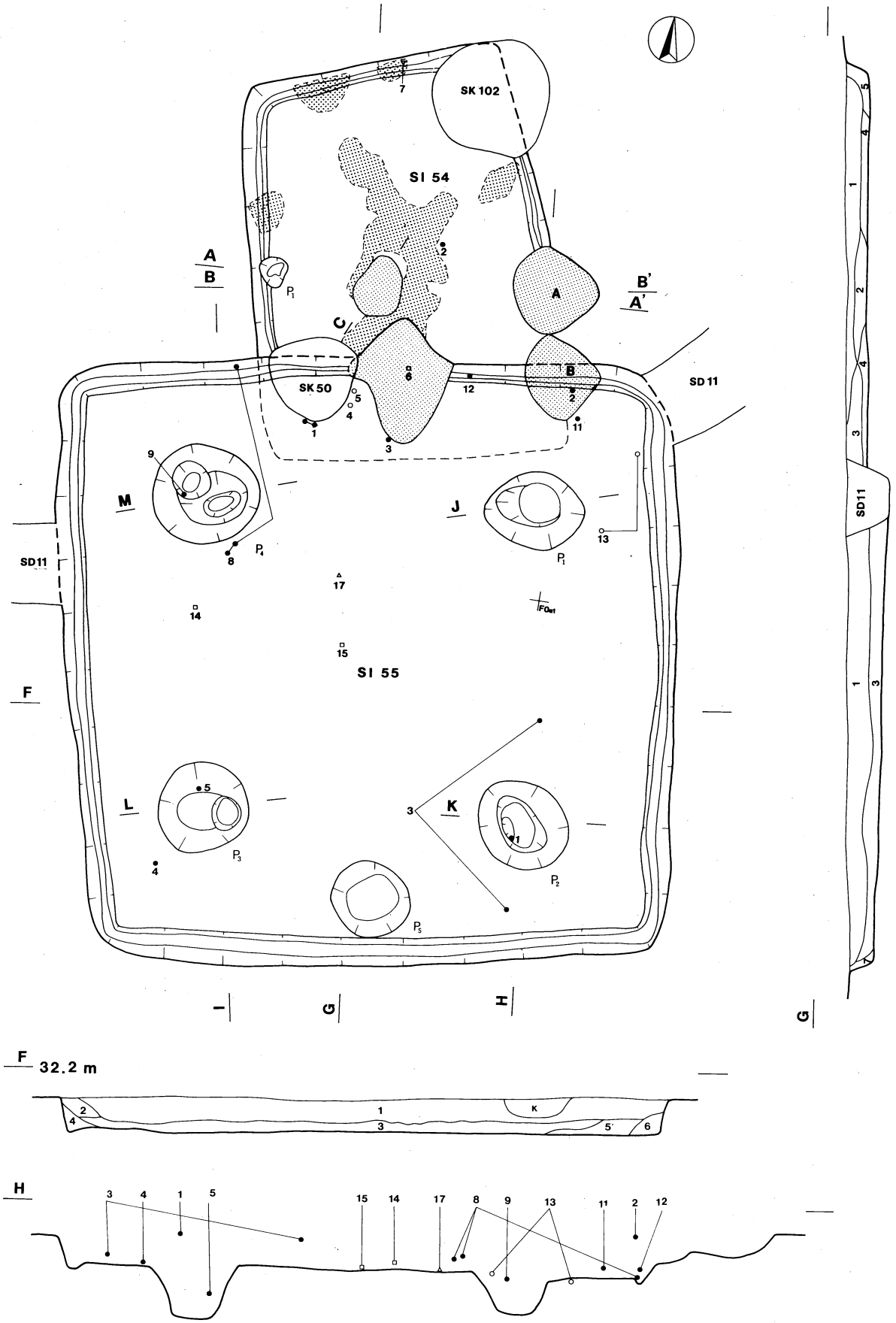
床　平坦で，全体的に軟らかく締まりがない。

ピット　１か所（P_1）。P_1は長径33cm，短径27cmの不整楕円形，深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

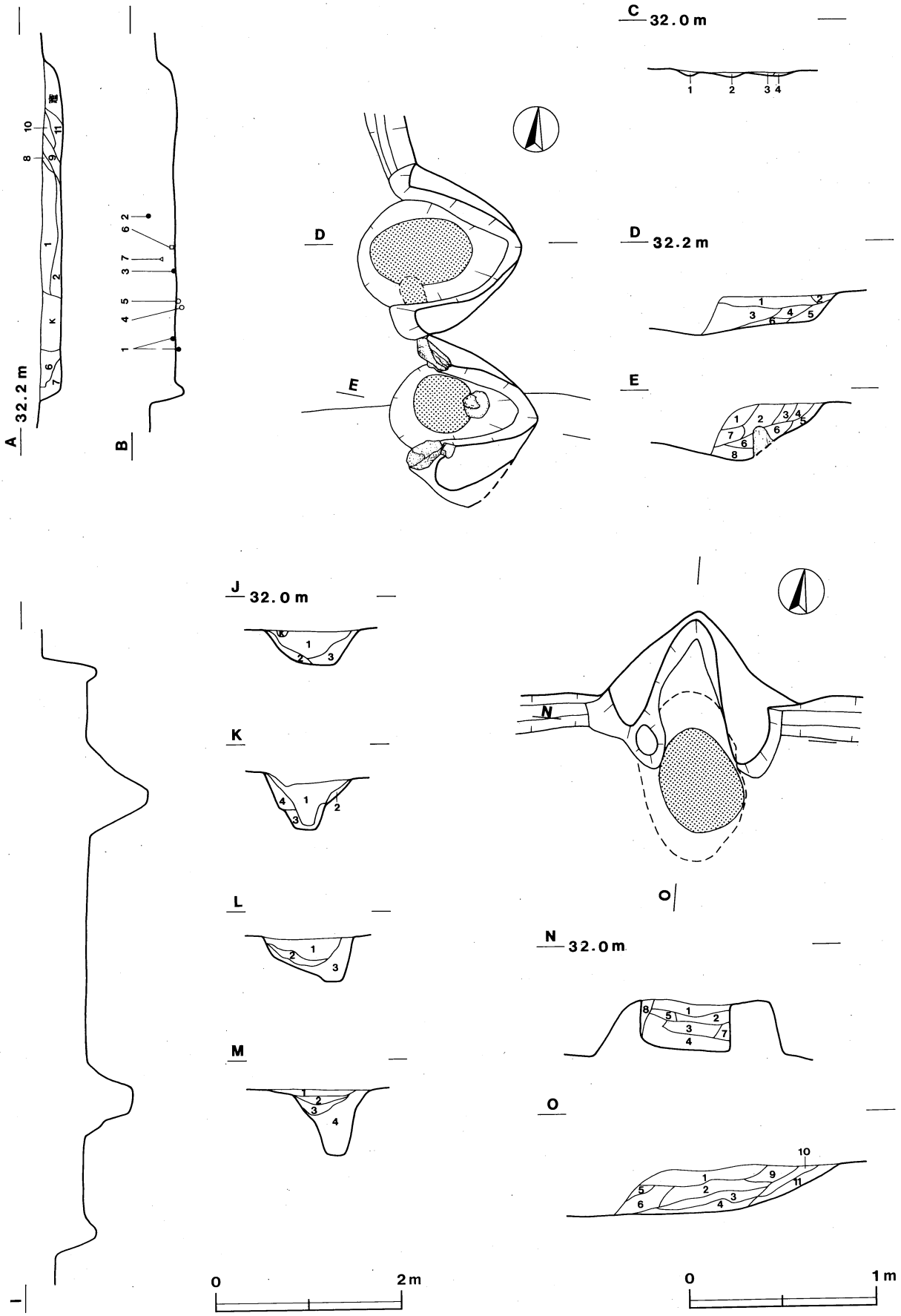
竈　２基検出されている。竈Aは，東壁中央部からやや南よりの部分を壁外に55cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部もほとんどが残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅91cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度であるが，レンガ状に赤変硬化しており，かなり長期にわたって使われたものと思われる。煙道部は，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈A土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土・炭化粒子少量，ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子中量
6　極暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

竈Bは，東壁中央部からやや１mほど南よりの部分を壁外に40cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。中央部から粘土塊が検出され，赤変しており支脚に利用された可能性もある。天井部は崩落しており，両袖部もほとんどが残存していない。袖部から，補強材に使われたと思われる雲母片岩が出土している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅91cmである。火床部は，床面を11cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から外傾して立ち上がっている。



第116図　第54・55住居跡実測図(1)



第117図　第54・55住居跡実測図(2)

竈B土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化・ローム粒子少量
3　にぶい赤褐色　炭化・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
7　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量

炉　中央部から南よりに位置し，長径65cm，短径45cmの楕円形で，床面を20cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
2　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土　11層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック少量，ローム小ブロック微量
3　黒褐色　焼土・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
4　黒褐色　焼土・炭化粒子少量，炭化材・ローム粒子微量
5　暗褐色　焼土・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　黒褐色　焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
8　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子・砂粒中量
9　暗褐色　焼土粒子中量，炭化・ローム粒子・砂粒少量
10　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量
11　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量

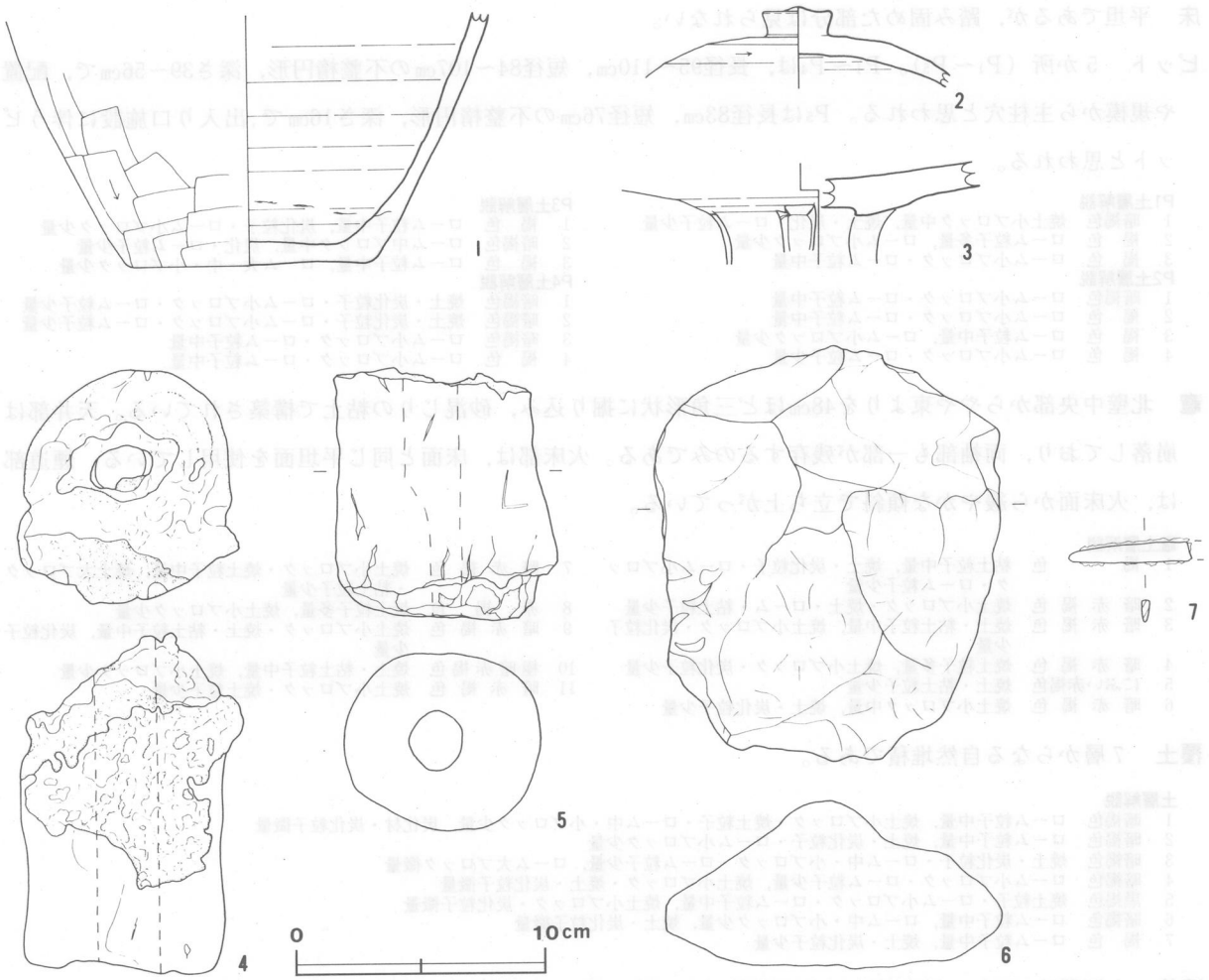
遺物　土師器片186点，須恵器片34点，羽口２点，金床石１点，刀子１点の他，覆土中から鉄滓が出土している。第118図１の土師器甕は南西部の覆土下層から，２の須恵器蓋は中央部の覆土上層から，３の須恵器高坏は南部の床面直上からそれぞれ出土している。４・５の羽口は南西部の床面直上から，６の金床石は南部の床面直上から，７の刀子は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。２の須恵器蓋，７の刀子を除いては，床面直上か覆土下層からの出土である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀前葉）と思われる。

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	甕 土師器	B(10.2) C 9.8	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ,外面ヘラ削り後ナデ。底部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P299 25% 覆土下層
2	蓋 須恵器	B(3.6) F 2.7 G 1.4	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P300 15% 覆土上層
3	高坏 須恵器	B(4.2)	坏部および脚部片。四方透かしか。	坏部及び脚部ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P302 5% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	羽口	(9.0)	14.1	2.5	(815)	床面	DP69　PL37
5	羽口	8.9	(10.3)	10.3	(620)	床面	DP70



第118図　第54号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第118図6	金床石	16.7	13.9	6.8	1669.7	砂岩	床面	Q14

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	刀　子	(5.0)	0.8	0.3	(2.2)	覆土中層	M42

第55号住居跡（第116・117図）

位置　調査区の東部，E9j₀区。

重複関係　本跡上に第54号住居跡が構築されており，また，両遺構を第11号溝が掘り込んでいることから，本跡は第54号住居跡や第11号溝よりも古い。

規模と平面形　一辺6.48mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は29～51cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅28cm，下幅9cm，深さ7cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦であるが，踏み固めた部分は見られない。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径95～110㎝，短径84～107㎝の不整楕円形，深さ39～56㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径83㎝，短径76㎝の不整楕円形，深さ16㎝で，出入り口施設に伴うピットと思われる。

P1土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

P2土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

P3土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム中ブロック中量，炭化・ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム大・中・小ブロック少量

P4土層解説
1　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

竈　北壁中央部からやや東よりを48㎝ほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部も一部が残存するのみである。火床部は，床面と同じ平坦面を使用している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　色　粘土粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・ローム・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土大ブロック・粘土粒子少量
8　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
10　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　7層からなる自然堆積である。

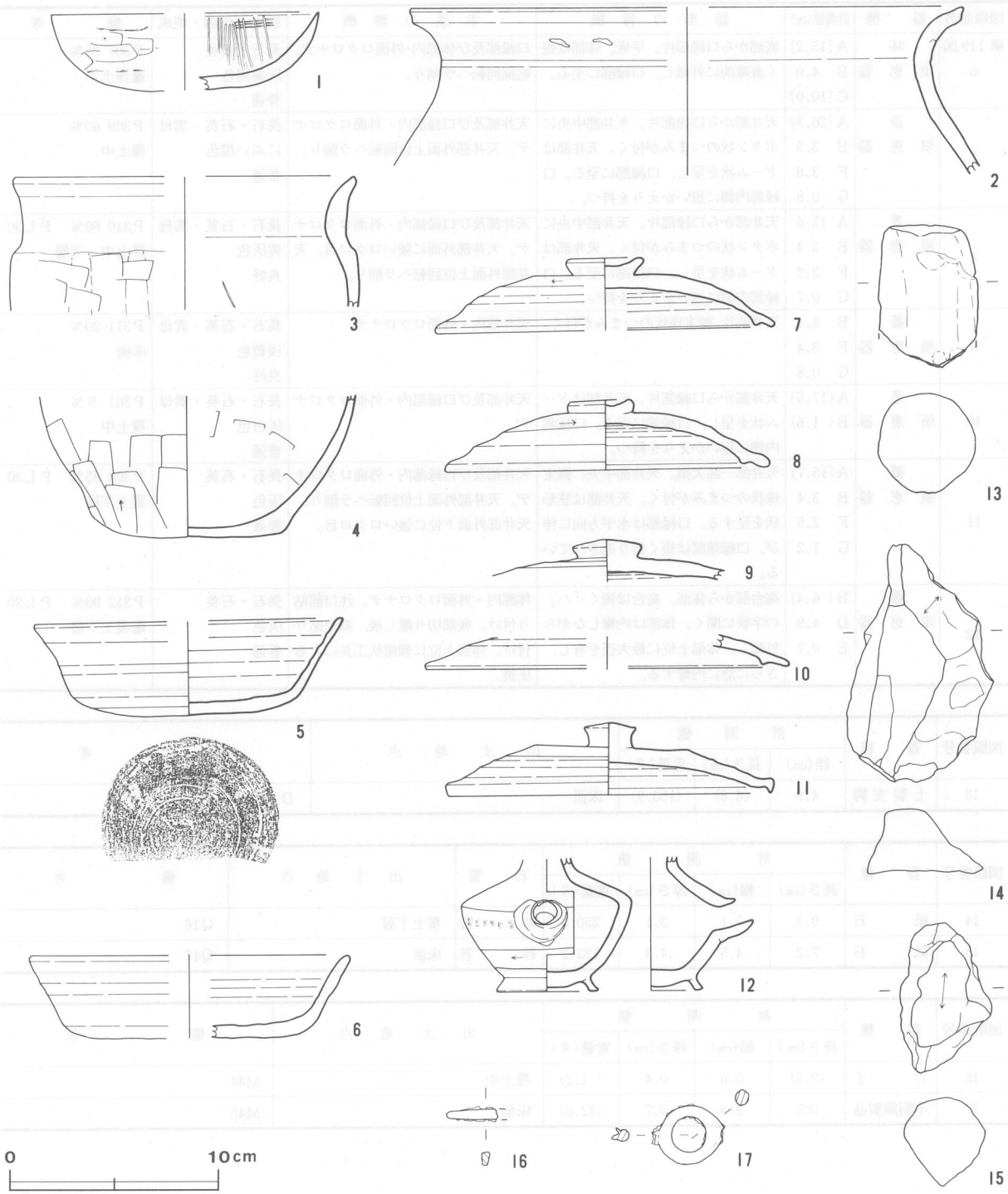
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック少量，炭化材・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量

遺物　土師器片942点，須恵器片56点が竈付近と北部の覆土下層を中心に出土している。第119図1の土師器坏はP_2付近の覆土上層から，2の土師器甕は北部の覆土上層から，3の土師器甕は南東コーナー部の覆土中下層から，4の土師器甕は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。5の須恵器坏はP_3の覆土中から，6の須恵器坏は竈の覆土中から出土している。7の須恵器蓋は覆土中から出土している。8の須恵器蓋は，P_4付近の覆土中層と北壁際西部の覆土下層から出土したものが接合した。9の須恵器蓋はP_4直上から，10の須恵器蓋は覆土中から出土している。11の須恵器蓋は北東コーナー部の覆土下層から逆位の状態で，12の須恵器甑は竈の覆土下層から正位の状態で出土している。13の土製支脚は北東壁際の床面直上から出土している。14の砥石は西部の覆土下層から，15の砥石は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。16の刀子は覆土中から，17の不明銅製品は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第119図 1	坏 土師器	A〔13.0〕 B（3.7）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内面横方向のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ナデ後，ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ナデ。	石英 橙色 良好	P303 10% 覆土上層
2	甕 土師器	A〔26.8〕 B（8.1）	体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は，わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。頸部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 良好	P298 5% 覆土上層
3	甕 土師器	A〔16.4〕 B（6.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は直線的に外傾した後，口縁端部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母 橙色 普通	P304 5% 覆土中・下層



第119図　第55号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第119図 4	甕 土師器	B (6.7) C　8.2	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ,外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 オリーブ黒色 普通	P305 30% 覆土下層
5	坏 須恵器	A〔14.8〕 B　4.5 C　9.2	底部から口縁部片。丸みをおびた平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母・スコリア・パミス オリーブ黄色 普通	P306 50% P_3覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 6	坏 須恵器	A〔15.2〕 B 4.0 C〔10.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は短く直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P307 35% 竈覆土中
7	蓋 須恵器	A〔26.3〕 B 3.5 F 3.8 G 0.8	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P309 60% 覆土中
8	蓋 須恵器	A 15.6 B 3.4 F 3.2 G 0.7	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 良好	P310 60% PL30 覆土中・下層
9	蓋 須恵器	B 2.1 F 3.4 G 0.8	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 良好	P311 20% 床面
10	蓋 須恵器	A〔17.6〕 B(1.6)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P301 5% 覆土中
11	蓋 須恵器	A〔15.7〕 B 3.4 F 2.5 G 1.2	天井部一部欠損。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部は笠形状を呈する。口縁部は水平方向に伸び，口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面下位に強いロクロ目。	長石・石英 灰色 普通	P308 85% PL30 覆土下層
12	甕 須恵器	B(6.4) D 4.9 E 0.7	高台部から体部。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，体部上位に最大径を有し，さらに急に内彎する。	体部内・外面ロクロナデ。注口部貼り付け。底部切り離し後，高台貼り付け。体部上位に櫛歯状工具による圧痕。	長石・石英 灰色 普通	P312 90% PL30 竈覆土下層

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
13	土製支脚	4.9	(6.8)	(150.9)	床面	DP71

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥石	9.3	7.1	3.1	250.8	砂岩	覆土下層	Q16
15	砥石	7.2	4.5	4.3	122.2	砂岩	床面	Q17

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	刀子	(2.5)	0.6	0.4	(1.2)	覆土中	M44
17	不明銅製品	(3.5)	2.9	0.7	(12.0)	床面	M45

第56号住居跡（第120図）

位置　調査区の東部，E9c2区。

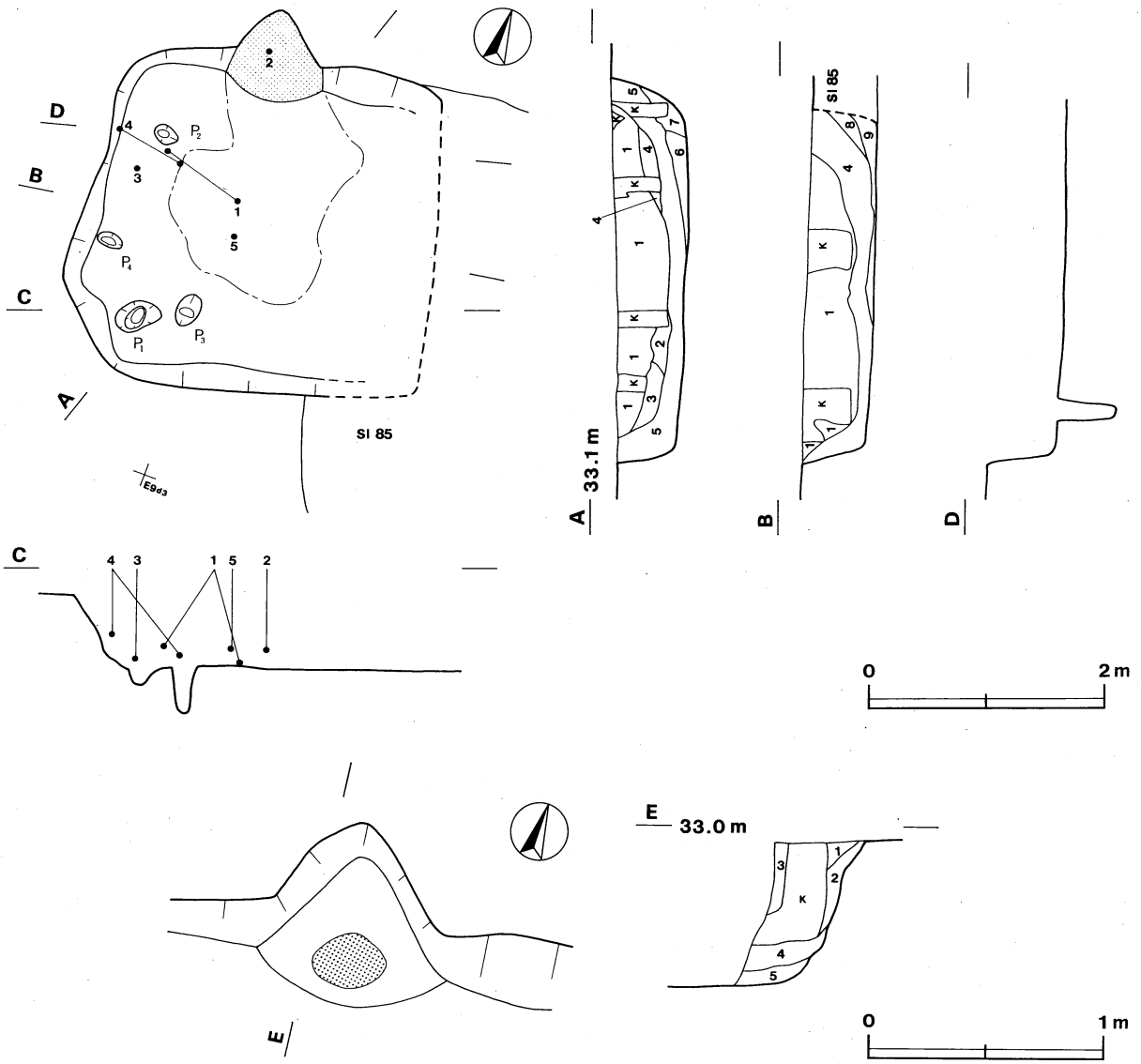
重複関係　本跡は，第85号住居跡の西部を掘り込んでいることから第85号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸2.93m，短軸〔2.87〕mの〔方形〕と思われる。

主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は50～56cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から竈前面にかけて踏み固められ締まりがある。



第120図　第56号住居跡実測図

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は長径23～40㎝，短径12～24㎝の不整楕円形，深さ14～50㎝で，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に83㎝ほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し，袖部も残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ77㎝，最大幅80㎝である。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から急に外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

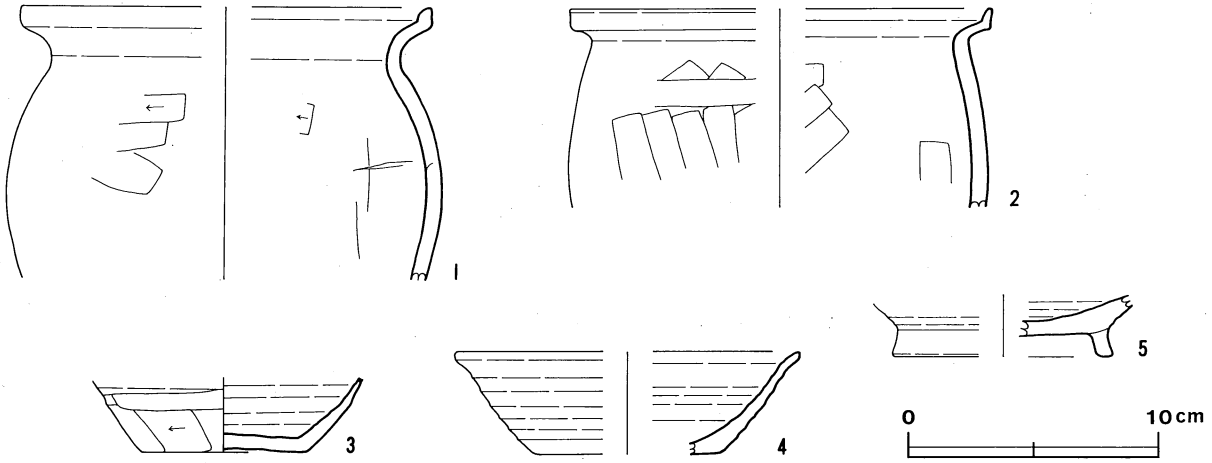
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土・ローム・粘土粒子少量，炭化物微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

覆土　9層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

5　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム粒子少量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
9　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量



第121図　第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第121図 1	甕 土師器	A〔16.4〕 B(10.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P313 15% 覆土下層・床面
2	甕 土師器	A〔17.0〕 B(7.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P314 10% 竈覆土下層
3	小形甕 土師器	B(3.0) C　6.5	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内面ナデ，外面下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P315 10% 覆土下層
4	坏 須恵器	A〔13.8〕 B　4.1 C〔 7.4〕	底部から口縁部片。平底。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P316 20% 覆土中・下層 酸化焔焼成
5	高台付坏 須恵器	A〔15.8〕 B　4.1 C〔 9.4〕	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P317 5% 覆土下層

遺物　土師器片63点，須恵器片37点の他，覆土中から鉄滓が300g出土している。第121図1の土師器甕は，中央部の床面直上と西部の覆土下層から出土したものが接合した。2の土師器甕は竈内の覆土下層から横位の状態で，3の土師器甕は西部の覆土下層から出土している。4の須恵器坏は，西部の覆土下層と西壁際の覆土中層から出土したものが接合した。5の須恵器高台付坏は，中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。

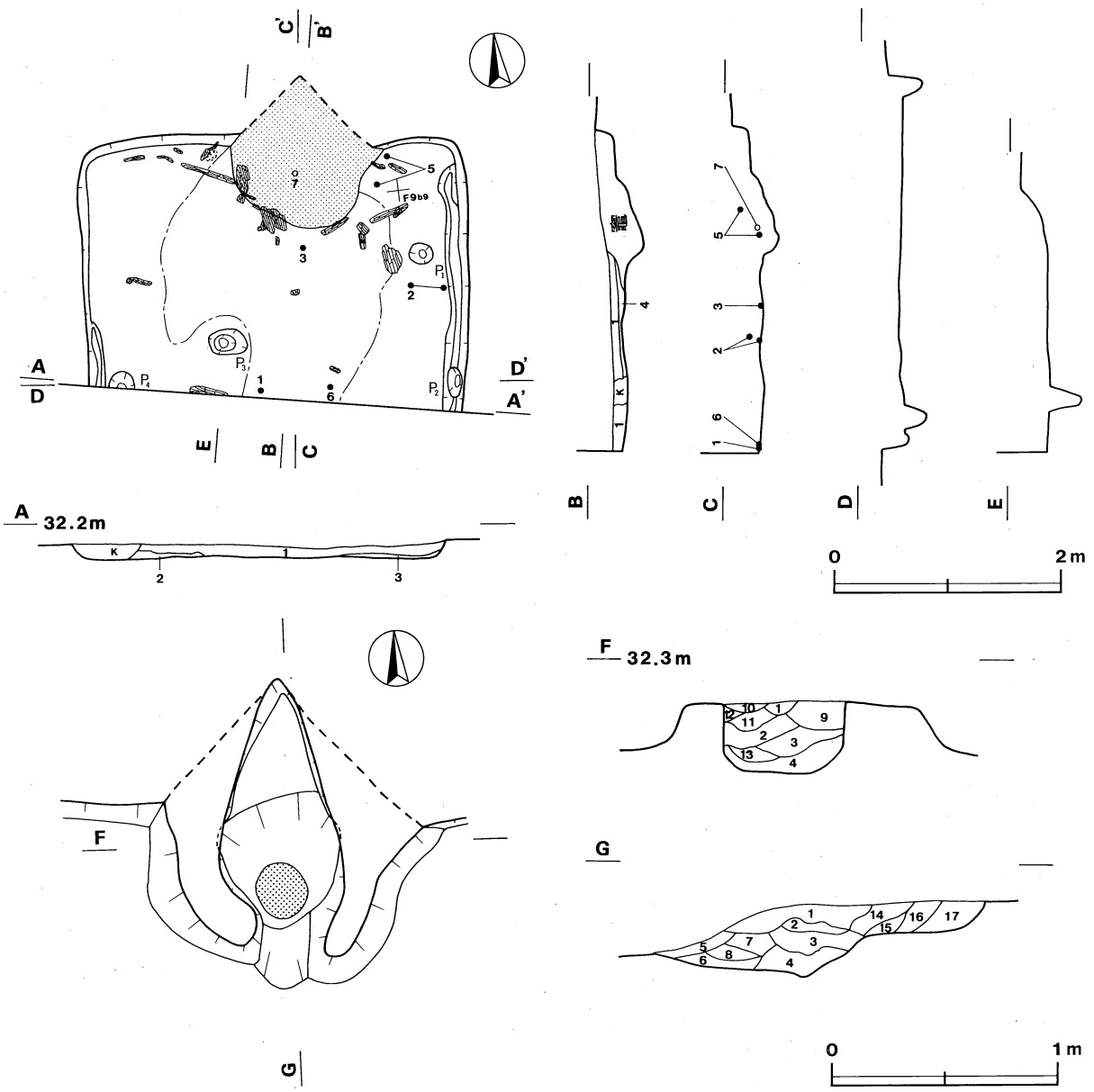
第57号住居跡（第122図）

位置　調査区の東部，F9b8区。

規模と平面形　長軸（2.33）m，短軸3.42mの〔方形〕と思われる。

主軸方向　N－8°－E

壁　壁高は16～20cmで，外傾して立ち上がる。



第122図　第57号住居跡実測図

壁溝　東壁と西壁の南部に検出した。上幅20㎝，下幅10㎝，深さ５㎝で，断面形はＵ字形である。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，長径21～32㎝の不整楕円形，短径13～23㎝で，性格等は不明である。

竈　北壁中央部からやや東よりを壁外に55㎝ほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部は残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ136㎝，最大幅130㎝である。火床部は，床面を５㎝ほど掘り窪めている。煙道部は火床面から外傾し，中位に平坦面を持ち，そこからほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量

5　暗 赤 褐 色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化材少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土大ブロック多量，焼土粒子・炭化材中量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　極暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
13　暗 赤 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
14　極暗赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
15　暗 赤 褐 色　炭化材多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
16　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
17　にぶい赤褐色　焼土・炭化粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　炭化材・炭化粒子少量，焼土・ローム粒子少量
3　黒褐色　炭化材多量，炭化粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　炭化材・炭化粒子中量，焼土・ローム粒子少量

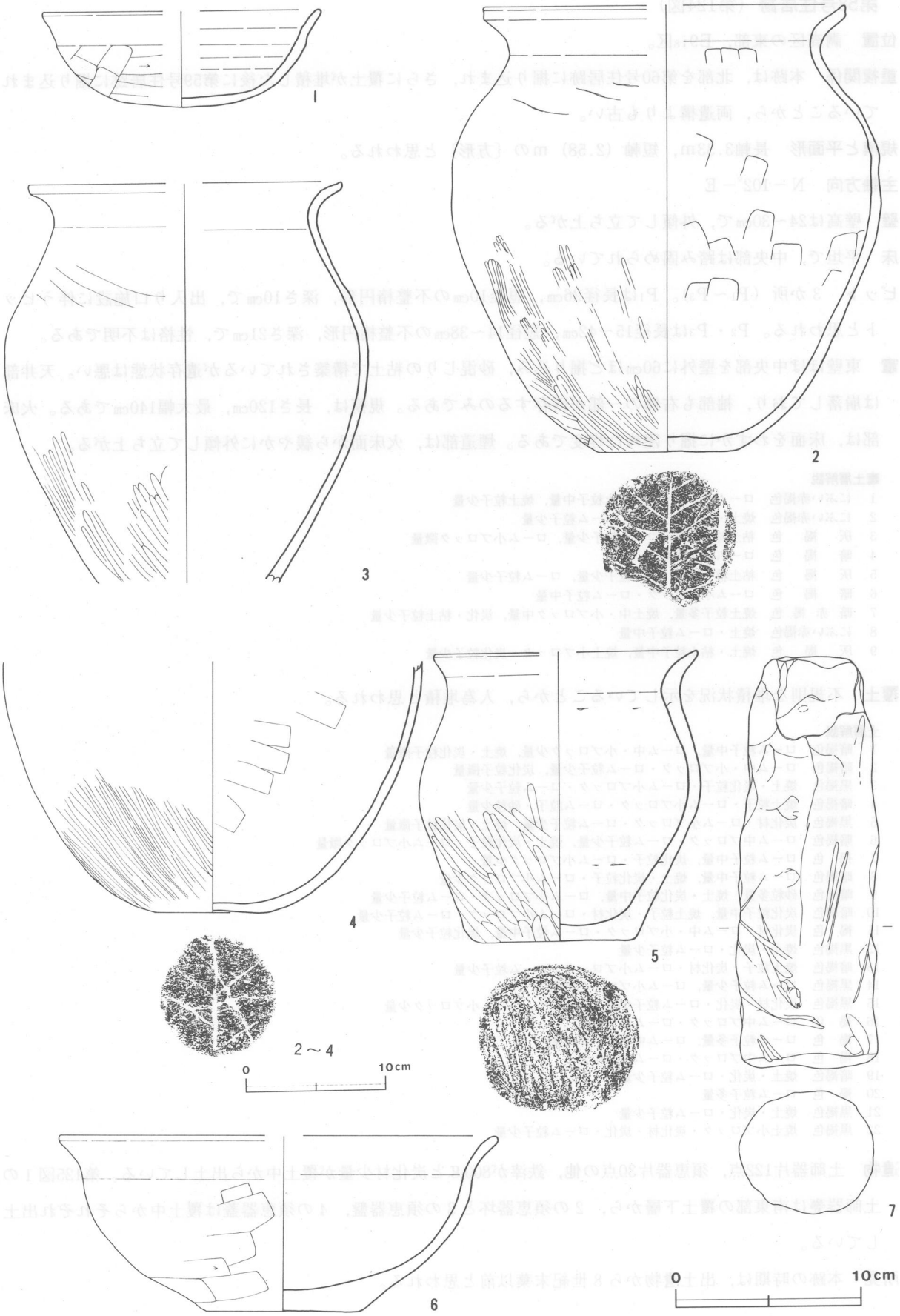
遺物　土師器片172点，須恵器片10点の他，炭化材，少量の鉄滓が出土している。炭化材は，大部分が竈周囲の床面から，鉄滓は覆土中から検出されている。第123図1の土師器坏は中央部の床面直上から，2の土師器甕は東部の覆土中層と覆土下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は竈前面の覆土下層から，4の土師器甕は竈の覆土中から，5の土師器甕は竈右袖部付近の覆土上層と下層から出土したものが接合した。6の土師器鉢は，中央部の床面直上から出土している。7の土製支脚は，竈内の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀末葉）と思われる。

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第123図 1	坏 土師器	A〔14.8〕 B 5.2	底部から口縁部片。丸みをおびた平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	体部内面ナデ,外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P318 40% 床面
2	甕 土師器	A 25.7 B 32.3 C 9.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後ナデ。体部外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P319 50%　PL30 覆土中・下層
3	甕 土師器	A〔22.6〕 B(28.8)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し,口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P320 30% 覆土下層
4	甕 土師器	B(18.1) C 8.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P321 25% 竈覆土中
5	甕 土師器	A〔14.1〕 B 15.6 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，体部上位に最大径を有する。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P322 60% 覆土上・下層
6	鉢 土師器	A〔23.4〕 B 9.5 C 8.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石･石英･スコリア にぶい橙色 普通	P323 20% 床面

図版番号	器　種	計測値			出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
7	土製支脚	7.4	22.4	1300.0	竈内覆土下層	DP72　PL37



第123図　第57号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡（第124図）

位置　調査区の東部，E9i8区。

重複関係　本跡は，北部を第60号住居跡に掘り込まれ，さらに覆土が堆積した後に第59号住居跡に掘り込まれていることから，両遺構よりも古い。

規模と平面形　長軸3.33m，短軸（2.58）mの〔方形〕と思われる。

主軸方向　N－102°－E

壁　壁高は24～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径26cm，短径10cmの不整楕円形，深さ10cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2・P_3は長径15～42cm，短径14～38cmの不整楕円形，深さ21cmで，性格は不明である。

竈　東壁ほぼ中央部を壁外に60cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されているが遺存状態は悪い。天井部は崩落しており，袖部も右側の一部が残存するのみである。規模は，長さ120cm，最大幅140cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，ローム粒子少量
3　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化・粘土粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子中量
9　灰　褐　色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

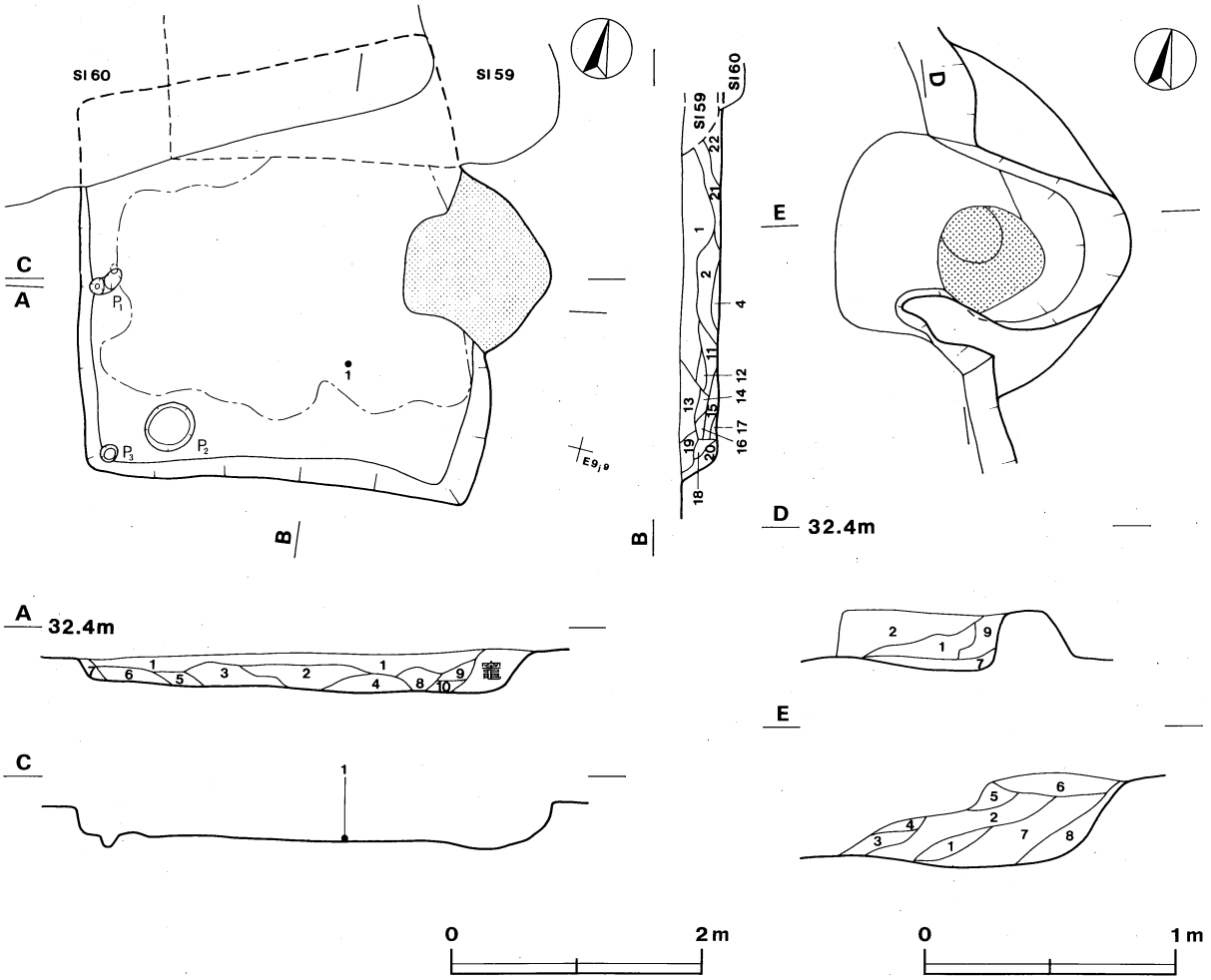
覆土　不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

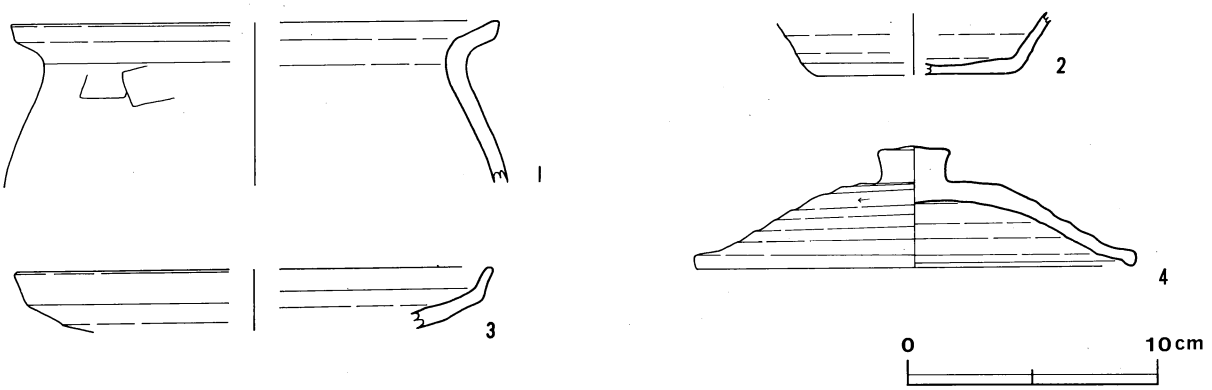
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
5　黒褐色　炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
9　暗褐色　砂粒多量，焼土・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　褐　色　炭化材・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
12　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
13　暗褐色　焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量
14　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
15　黒褐色　炭化材・炭化・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
16　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
17　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
18　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
19　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
20　褐　色　ローム粒子多量
21　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
22　黒褐色　焼土小ブロック・炭化材・炭化・ローム粒子少量

遺物　土師器片122点，須恵器片30点の他，鉄滓が800gと炭化材少量が覆土中から出土している。第125図1の土師器甕は南東部の覆土下層から，2の須恵器坏と3の須恵器盤，4の須恵器蓋は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から8世紀末葉以前と思われる。



第124図　第58号住居跡実測図



第125図　第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第125図 1	甕 土師器	A〔19.6〕 B(6.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は急に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ，一部ヘラナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P324 5％ 覆土下層
2	坏 須恵器	B(2.5) C〔 7.8〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P325 15％ 覆土中
3	盤 須恵器	A〔19.2〕 B(2.4)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P326 10％ 覆土中
4	蓋 須恵器	A 17.7 B 4.9 F 3.0 G 1.4	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部は笠形状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P327 60％　PL30 覆土中

第59号住居跡（第126図）

位置　調査区の東部，E9i8区。

重複関係　本跡は，第58号住居跡及び第60号住居跡の床上に床を構築していることから両遺構よりも新しい。

規模と平面形　長軸（3.66）m，短軸（2.16）mで，西部が第60号住居跡に掘り込まれているため，平面形は不明である。

主軸方向　N－97°－E

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から南部にかけて踏み固められている。

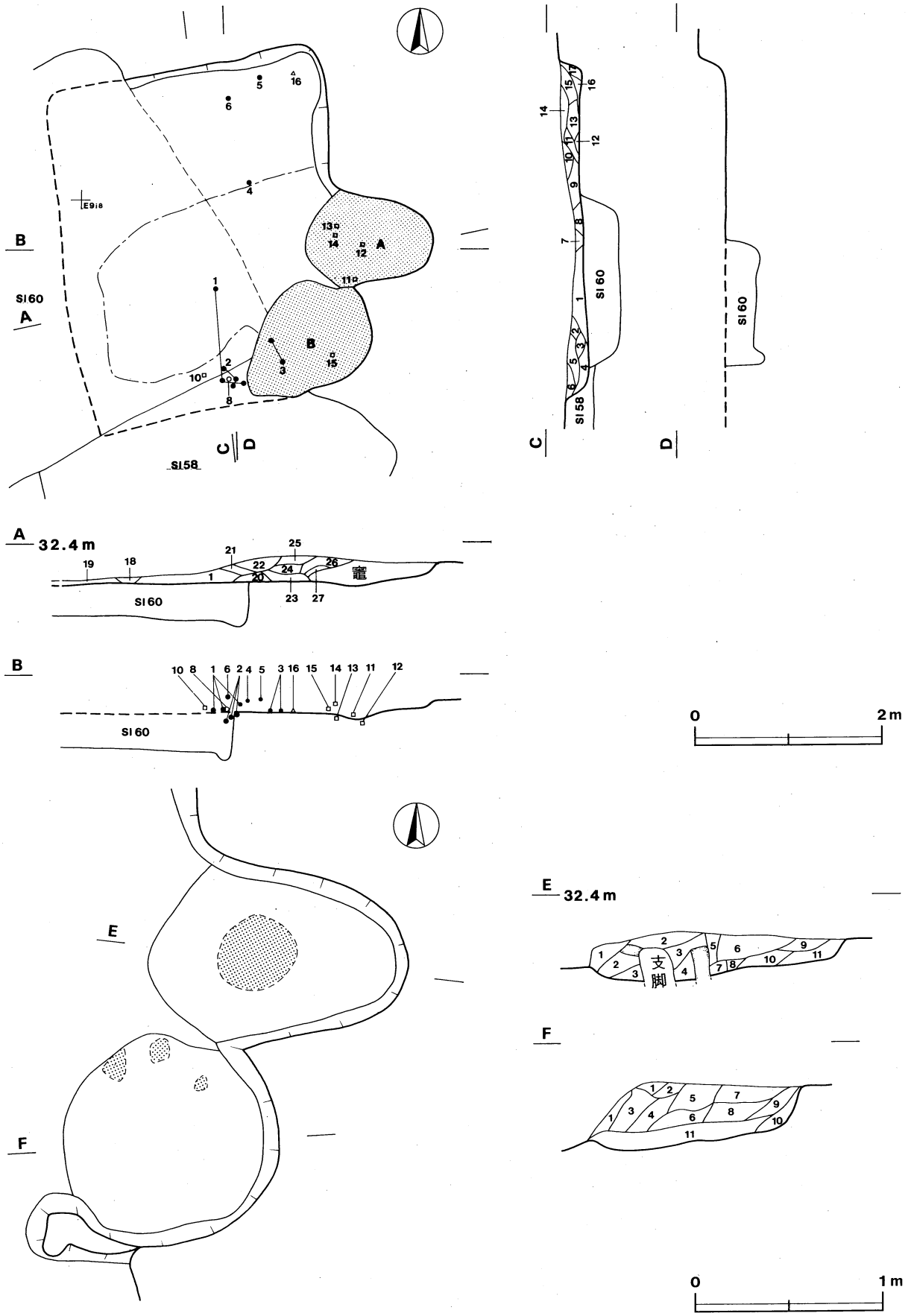
ピット　検出できなかった。

竈　2基検出されている。竈Aは，東壁ほぼ中央部を壁外に125cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，袖部も残存していない。中央部に土製支脚と，補強材に使用したと思われる石が検出されている。規模は，長さ140cm，最大幅100cmである。火床部は，床面を皿状に掘り窪めている。煙道部は，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈A土層解説

1　灰　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
3　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
7　にぶい赤褐色　ローム大ブロック多量，焼土粒子少量
8　暗赤褐色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

竈Bは，東壁からやや南よりを壁外に73cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，袖部も右側の一部のみ残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，最大幅130cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めており，赤変硬化している。



第126図　第59号住居跡実測図

竈B土層解説
1　灰　褐　色　砂粒多量，ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂粒中量
3　灰　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量
5　灰　褐　色　砂粒多量
6　暗赤褐色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
9　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　にぶい赤褐色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
11　黒　褐　色　炭化材・炭化粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック微量

覆土　不規則な堆積状況を示していることから，27層からなる人為堆積と思われる。

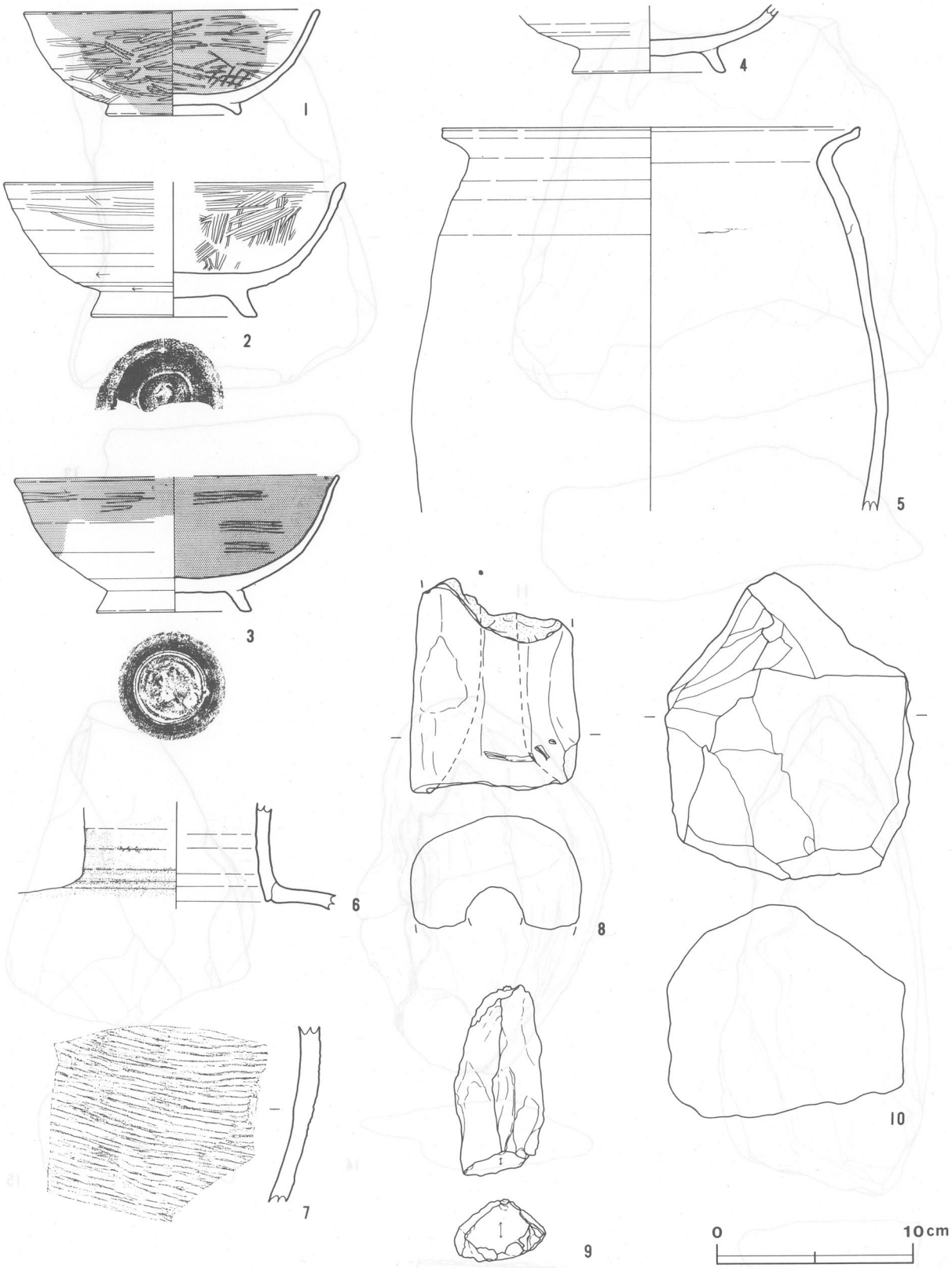
土層解説
1　暗　褐　色　焼土・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
2　暗　褐　色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック中量，炭化・ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化材・炭化・ローム粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量
8　極暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化材・炭化・ローム粒子少量
9　黒　褐　色　炭化材中量，焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
10　黒　褐　色　焼土・炭化粒子少量
11　黒　褐　色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
13　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材・ローム粒子少量
14　暗　褐　色　炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
15　黒　褐　色　焼土粒子・炭化材・炭化・ローム粒子少量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
17　褐　　色　ローム粒子中量
18　黒　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
19　暗　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量
20　暗赤褐色　炭化材中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
21　暗　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
22　黒　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
23　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
24　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，焼土中ブロック・炭化・ローム粒子少量
25　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
26　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
27　極暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片200点，須恵器片24点，灰釉陶器等が出土している。遺構北部・南部の下層を中心にして出土している。また，竈A覆土下層から雲母片岩が4点出土している。第127・128図1・2の土師器椀は南部の覆土下層から，3の土師器椀は竈Bの覆土下層から，4の土師器椀は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。5の土師器甕は北壁際の覆土上層から出土している。6の灰釉陶器長頸瓶は北部の覆土上層から出土している。7は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に横方向の平行タタキが施されている。8の羽口と10の金床石は南部の覆土下層から，9の砥石は竈の覆土中からそれぞれ出土している。11～14の石は，竈Aの覆土下層及び上層から出土している。15の石は，竈B内の覆土下層から，16の鉄鏃は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

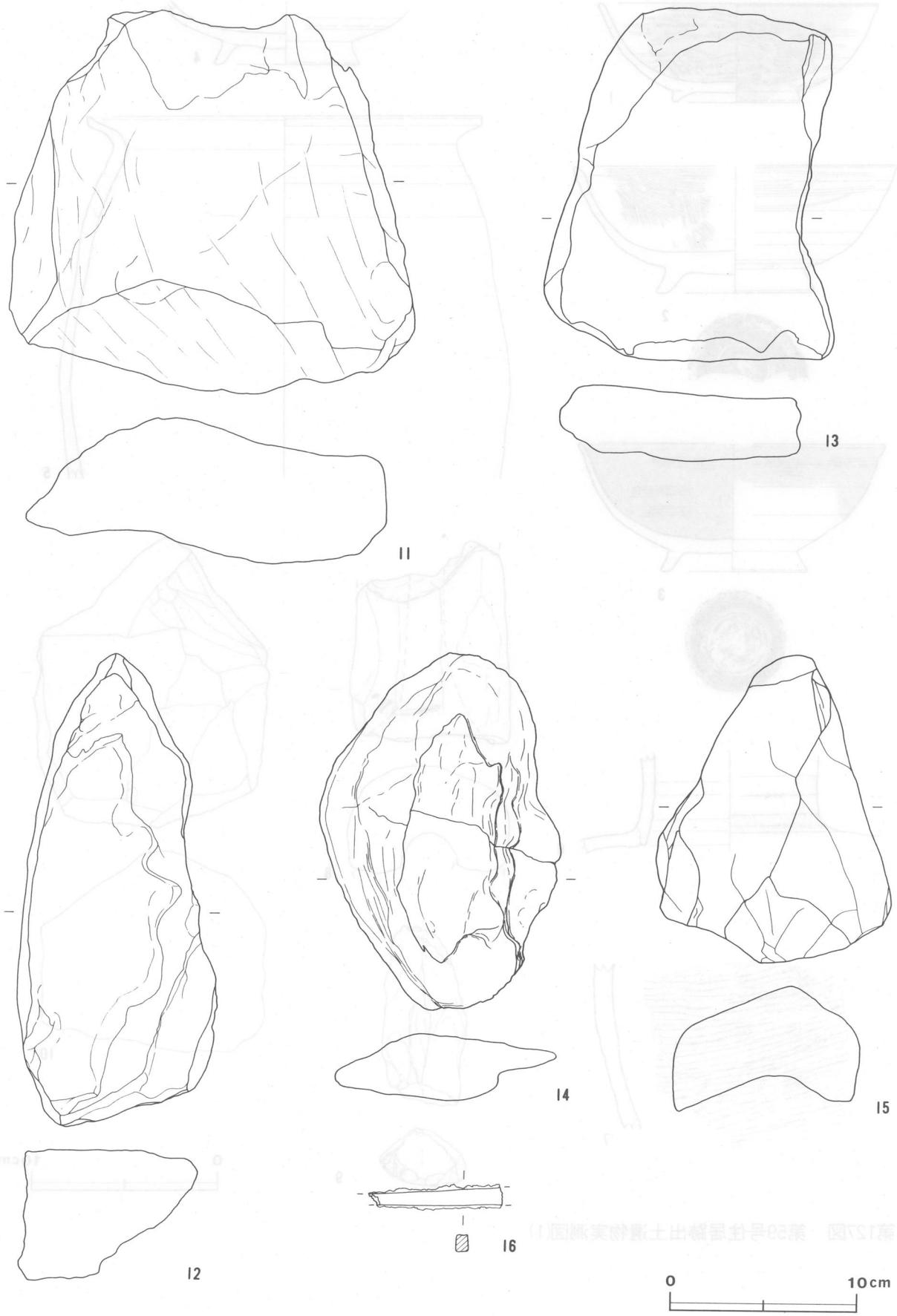
所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第127図 1	椀 土師器	A 15.0 B 5.4 D 6.8 E 0.6	口縁部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	体部内・外面ヘラ磨き。底部回転糸切り後，高台貼り付け。体部内・外面黒色処理。	長石・スコリア 橙色 良好	P329 90%　PL30 覆土下層
2	椀 土師器	A〔17.4〕 B 6.9 D 8.4 E 1.4	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面縦方向のヘラ磨き，外面上位横方向のヘラ磨き。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P330 45% 覆土下層



第127図　第59号住居跡出土遺物実測図(1)



第128図　第59号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第127図 3	椀 土師器	A〔16.4〕 B 6.9 D 7.9 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面，外面上位横方向のヘラ磨き。底部ヘラ切り後，高台貼り付け。体部内面・外面上位黒色処理。	石英・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P331 35% 竈B覆土下層
4	椀 土師器	B(3.5) D 7.8 E 1.3	高台部から体部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	石英・スコリア 普通	P332 10% 覆土上層
5	甕 土師器	A 21.2 B(19.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は短く，外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P333 35%　PL30 覆土上層
6	長頸瓶 須恵器	B(5.4)	体部から頸部片。体部は内傾し，頸部はほぼ垂直に立ち上がる。	頸部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石 (外)灰色 (内)黄灰色 良好	P682 10% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	羽　口	8.8	(10.9)	不　明	(362.3)	覆土下層	DP73

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	砥　石	9.7	4.6	3.2	175.5	凝灰岩	竈覆土中	Q18
10	金床石	15.5	12.5	10.8	2500.0	砂　岩	覆土下層	Q19　PL39
第128図11	石	20.7	21.7	7.9	3900.0	砂　岩	竈A覆土下層	Q20
12	石	25.6	10.7	7.1	2250.0	砂　岩	竈A覆土下層	Q21
13	石	19.2	15.8	4.0	2100.0	砂　岩	竈A覆土下層	Q22
14	石	19.1	12.9	3.6	750.0	砂　岩	竈A覆土上層	Q23
15	石	16.5	12.7	6.7	1550.0	砂　岩	竈B覆土下層	Q24

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	鉄　鏃	(7.2)	1.3	0.7	(22.4)	覆土下層	M46

第60号住居跡（第129図）

位置　調査区の東部，E9i_7区。

重複関係　本跡は，第58号住居跡の北部を掘り込んでおり，また，本跡の床上に第59号住居跡の床が構築されていることから第58号住居跡より新しく，第59号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸3.88m，短軸3.85mの方形である。

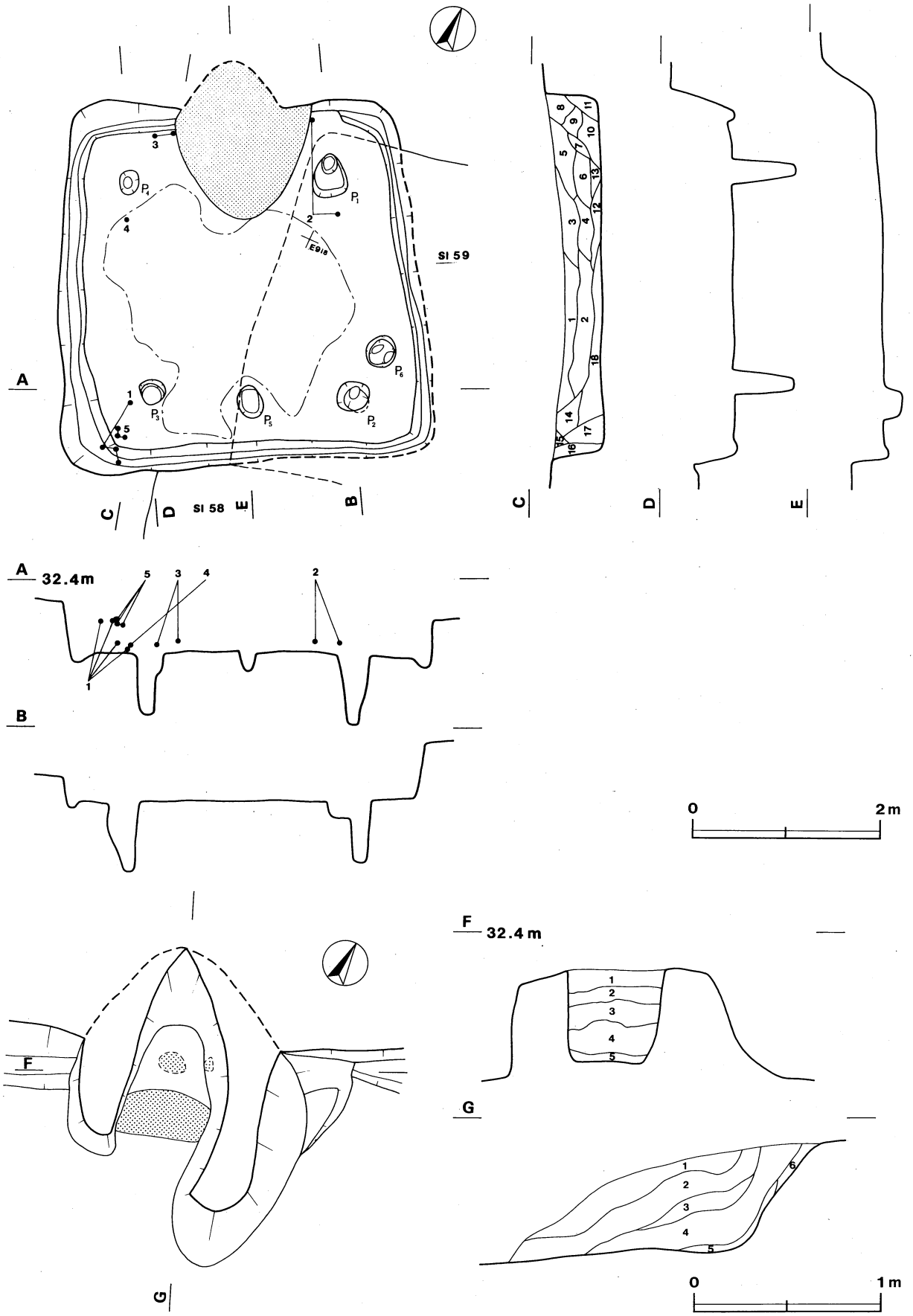
主軸方向　N－27°－W

壁　壁高は30～62cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈右袖部外側壁下の一部を除いて全周する。上幅26cm，下幅10cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，長径25～45cm，短径21～36cmの不整楕円形，深さ55～75cmで配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径36cm，短径25cmの不整楕円形，深さ20cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は，長径35cm，短径33cmの不整楕円形で性格は不明である。



第129図　第60号住居跡実測図

竈　北西壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ103cm，最大幅128cmである。火床部は，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・ローム・粘土粒子少量
4　灰褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量

覆土　ロームブロックを多量に含む層があり，また，不規則な堆積状況を示していることから，18層からなる人為堆積と思われる。

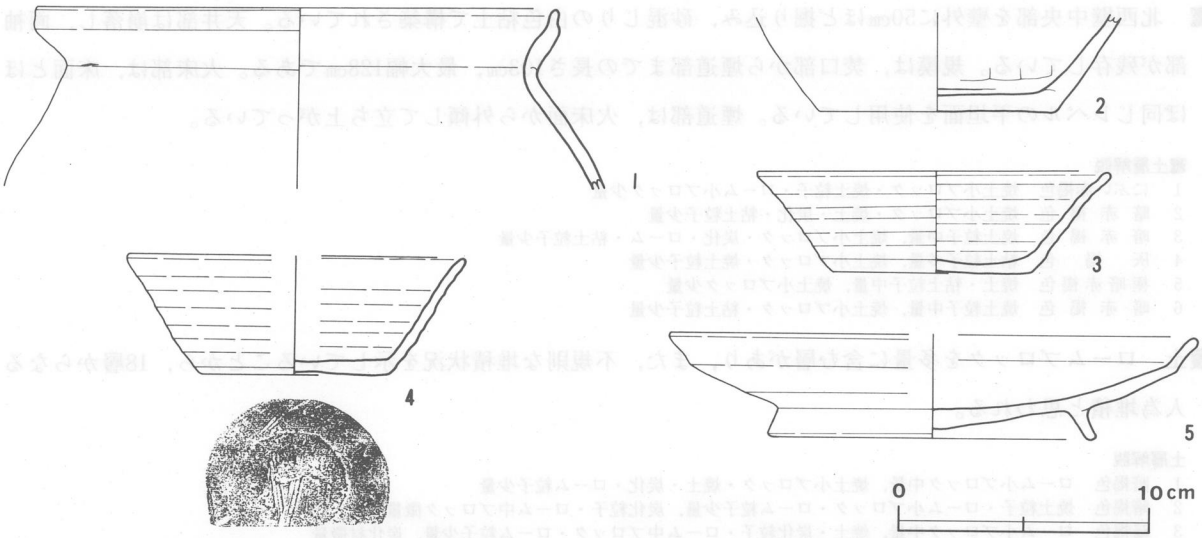
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
2　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化材微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
5　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
7　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
9　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　黒褐色　焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
11　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
12　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
13　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
14　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
15　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
16　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
17　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
18　暗褐色　焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　南コーナー部の中・下層を中心に土師器片199点，須恵器片63点が出土している。第130図1の土師器甕は，南コーナー部の覆土中層と下層から出土したものが接合した。2の土師器甕は北コーナー部の覆土下層から，3の須恵器坏は竈左袖部の覆土下層から，4の須恵器坏は西部の覆土下層から，5の須恵器盤は南コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，床面近くに焼土・炭化粒子等を多量に含む層があることから焼失家屋と思われる。また，各層がブロック状の堆積状況を示していることから，焼失後人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	甕 土師器	A 20.9 B (7.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P334 5% 覆土中・下層
2	甕 土師器	B (4.0) C 9.4	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面剝離のため不明。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P335 5% 覆土下層
3	坏 須恵器	A 14.1 B 4.1 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。底部糸切り後ナデ。	石英・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P336 80%　PL31 覆土下層
4	坏 須恵器	A〔13.4〕 B 4.8 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰白色 良好	P337 25% 覆土下層



第130図　第60号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第130図 5	盤 須恵器	A〔21.0〕 B　4.2 D 12.8 E　1.2	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 良好	P338 40% 覆土中層

第61号住居跡（第131図）

位置　調査区の東部，F9a5区。

規模と平面形　長軸2.46m，短軸2.34mの方形である。

主軸方向　N－27°－W

壁　壁高は58～66cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約27cm，下幅約9cm，深さ約5cmで，断面形は逆台形である。

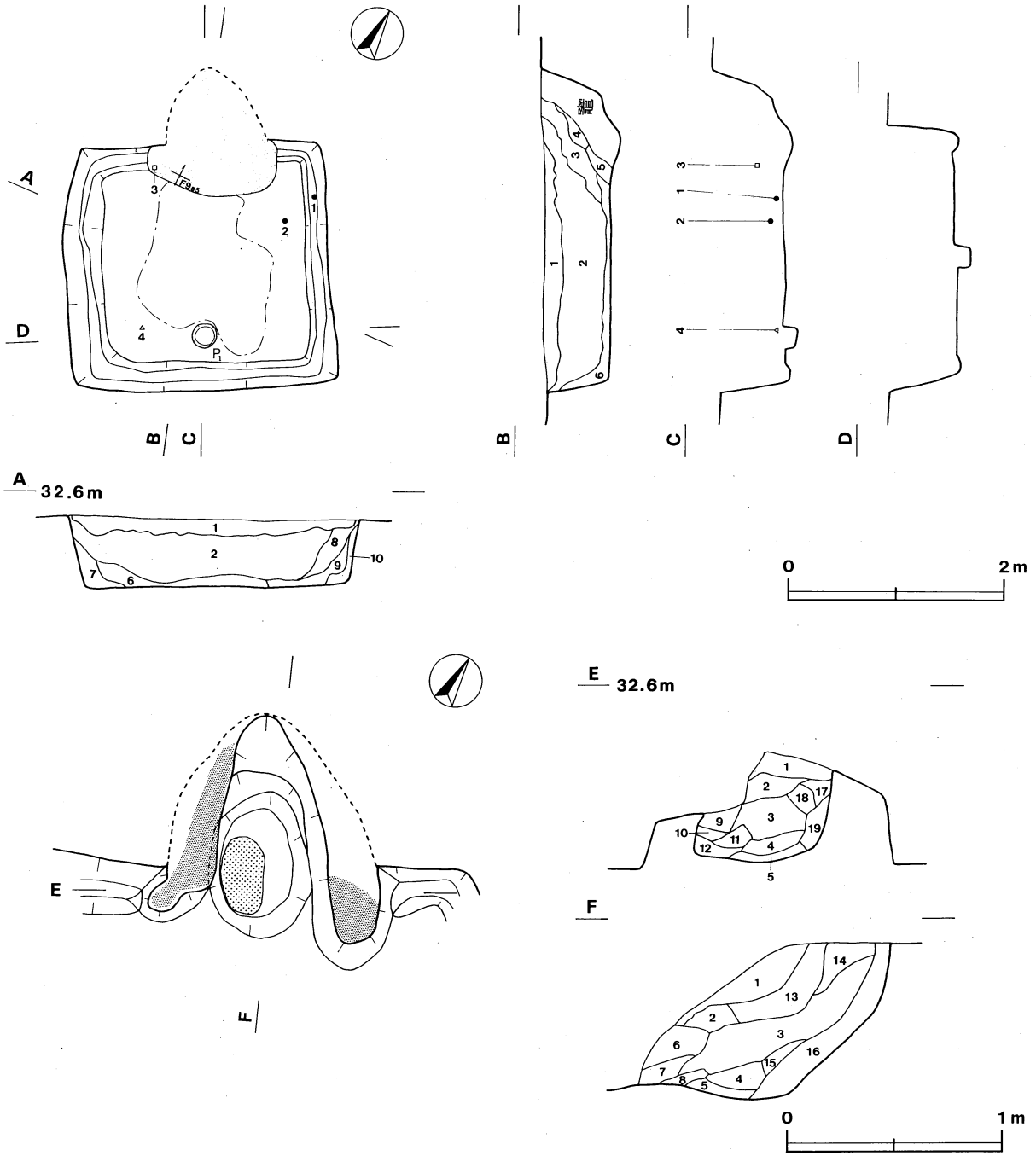
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は径20cmの不整円形，深さ14cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北西壁ほぼ中央部を壁外に70cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ103cm，最大幅120cmである。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し，中位からは急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　褐　灰　色　灰多量，焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
9　褐　灰　色　粘土粒子多量，焼土・ローム粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
12　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
13　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
14　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
15　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
16　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
17　灰　褐　色　焼土・粘土粒子中量
18　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
19　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子多量，焼土小ブロック中量

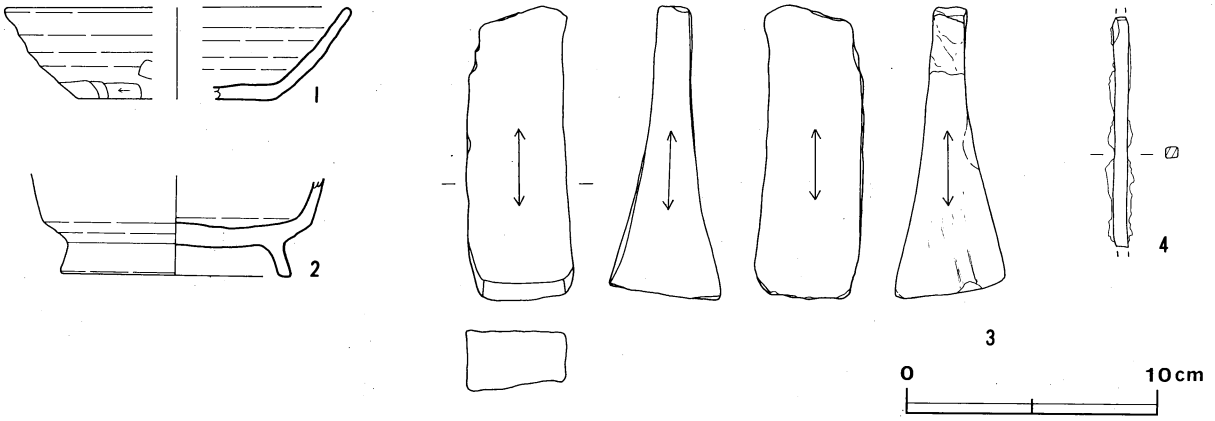


第131図　第61号住居跡実測図

覆土　不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化材・炭化・ローム粒子少量
4　極暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 赤 褐 色　砂粒中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒　褐　色　粘土ブロック多量，炭化・ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
8　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子中量



第132図　第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第132図 1	坏 須恵器	A〔13.6〕 B 3.2 C〔8.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P339 15% 覆土下層
2	高台付坏 須恵器	B(4.0) D 9.2 E 1.4	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。高台端部は広がる。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P340 15% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	砥　石	11.7	4.4	2.5	205.5	凝灰岩	覆土中層	Q25 PL38

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄　鏃	(9.2)	0.6	0.4	(7.1)	覆土下層	M48

遺物　土師器片29点，須恵器片22点の他，少量の鉄滓が出土している。第132図1の須恵器坏は北東壁際の覆土下層から，2の須恵器高台付坏は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。3の砥石は竈付近の覆土中層から，4の鉄鏃は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第62号住居跡（第133図）

位置　調査区の東部，E9j4区。

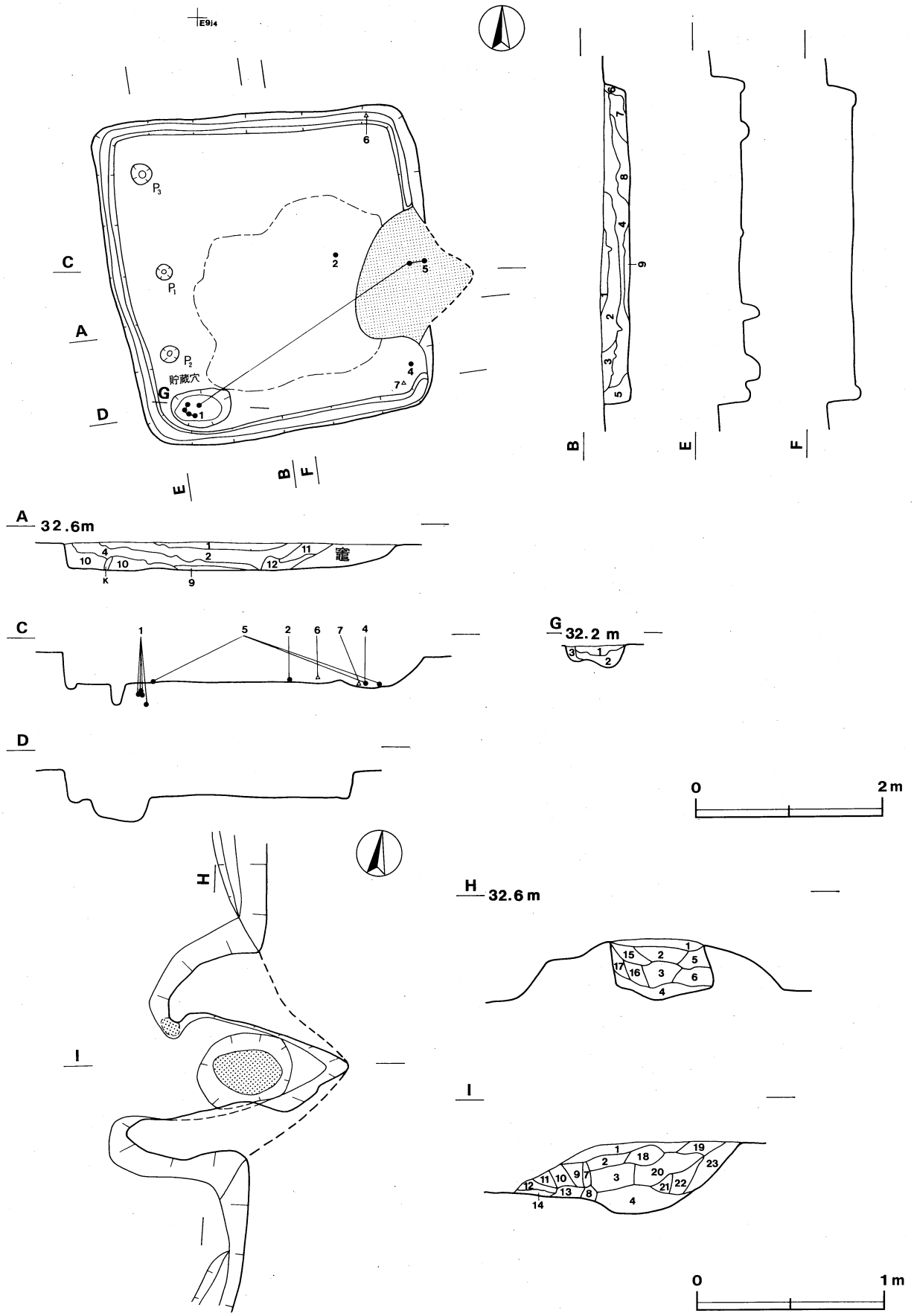
規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.45mの方形である。

主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は28～34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南東コーナー壁下の一部を除いて壁溝が回っている。上幅19cm，下幅10cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部から南部にかけて踏み固められている。



第133図　第62号住居跡実測図

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径26cmの不整円形，深さ23cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2・P_3は長軸21～24cm，短軸18～23cmの不整楕円形，深さ9～20cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南西コーナーに付設され，長径55cm，短径40cmの楕円形で，深さは27cmである。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　炭化材中量，炭化・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
3　褐　色　ローム粒子多量

竈　西壁中央部からやや南よりを壁外に50cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ125cm，最大幅145cmである。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

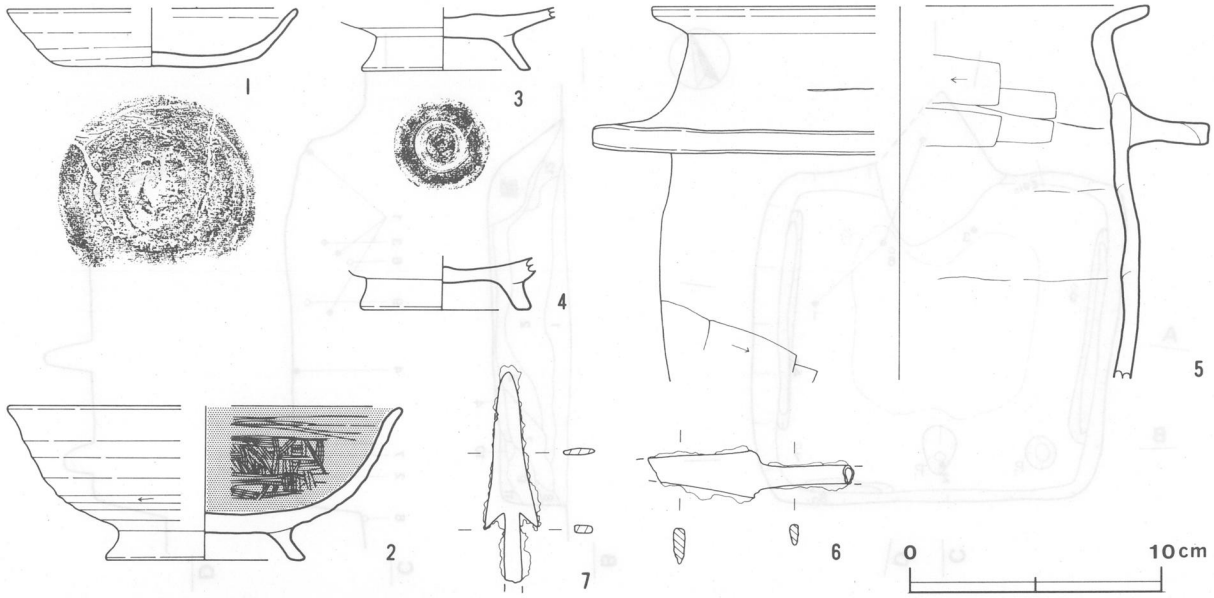
竈土層解説
1　暗　褐　色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化・粘土粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　灰　赤　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
7　極暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
8　赤　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
11　灰　褐　色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
12　黒　褐　色　焼土・粘土粒子少量
13　赤　黒　色　炭化・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
14　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム・粘土粒子中量
15　暗赤褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量
16　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
17　暗赤褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量
18　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
19　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
20　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
21　赤　褐　色　焼土大ブロック多量，粘土粒子少量
22　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
23　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量

覆土　各層ともロームブロックを含み，人為堆積であると思われる。また，覆土中から焼土粒子・炭化粒子が検出され焼失家屋の可能性もある。

土層解説
1　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
3　暗褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　炭化材・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
8　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　黒褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　黒褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量，炭化材微量
11　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　黒褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片142点，須恵器片14点の他，鉄滓等が出土している。第134図1の土師器皿は，貯蔵穴の覆土中から出土している。2の土師器椀は竈前面の床面直上から，3の土師器椀は覆土中から，4の土師器椀は南東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。5の羽釜は，竈の覆土中と貯蔵穴上の床面から出土したものが接合した。6の刀子は北東コーナー壁際の覆土下層から，7の鉄鏃は南東コーナー部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。



第134図　第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第134図 1	皿 土師器	A〔9.6〕 B 2.4 C 8.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P341 80% 貯蔵穴覆土中
2	椀 土師器	A〔15.8〕 B 6.2 D 1.3 E 7.8	高台部から口縁部片。高台は外反気味に「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面に強いロクロ目。体部内面ヘラ磨き。内面全体黒色処理。底部切り離し後，高台貼り付け。	雲母 明黄褐色 普通	P342 45%　PL31 床面
3	椀 土師器	B(2.6) D 1.5 E 6.7	高台部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P343 15% 覆土中
4	椀 土師器	B(2.2) D 6.6 E 1.2	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	石英・雲母・スコリア・パミス にぶい橙色 良好	P344 15% 床面
5	羽釜 土師器	A〔19.8〕 B(15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。体部上位に幅32mm，厚さ13mmの突帯が回る。	口縁部内・外面横ナデ。突帯貼り付け。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア 浅黄橙色 良好	P345 5%　PL31 竈覆土中・床面

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	刀子	8.3	1.9	0.7	9.4	覆土下層	M49　PL39
7	鉄鏃	(8.7)	2.3	0.5	(11.2)	床面	M50　PL40

第63号住居跡（第135図）

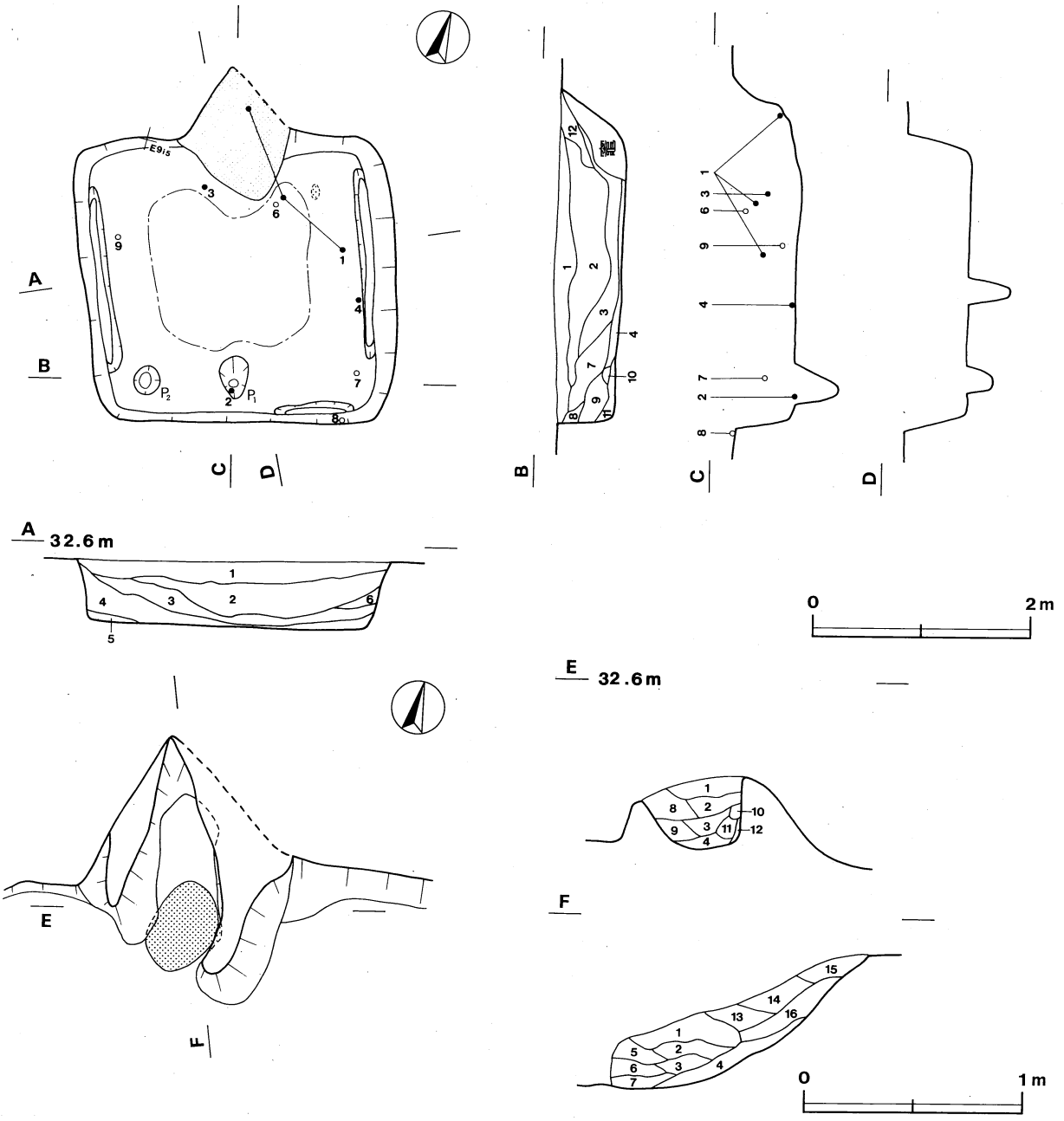
位置　調査区の東部，E9i5区。

規模と平面形　長軸2.92m，短軸2.70mの方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は48～56cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁，西壁，南壁の一部で検出された。上幅13cm，下幅6cmである。



第135図　第63号住居跡実測図

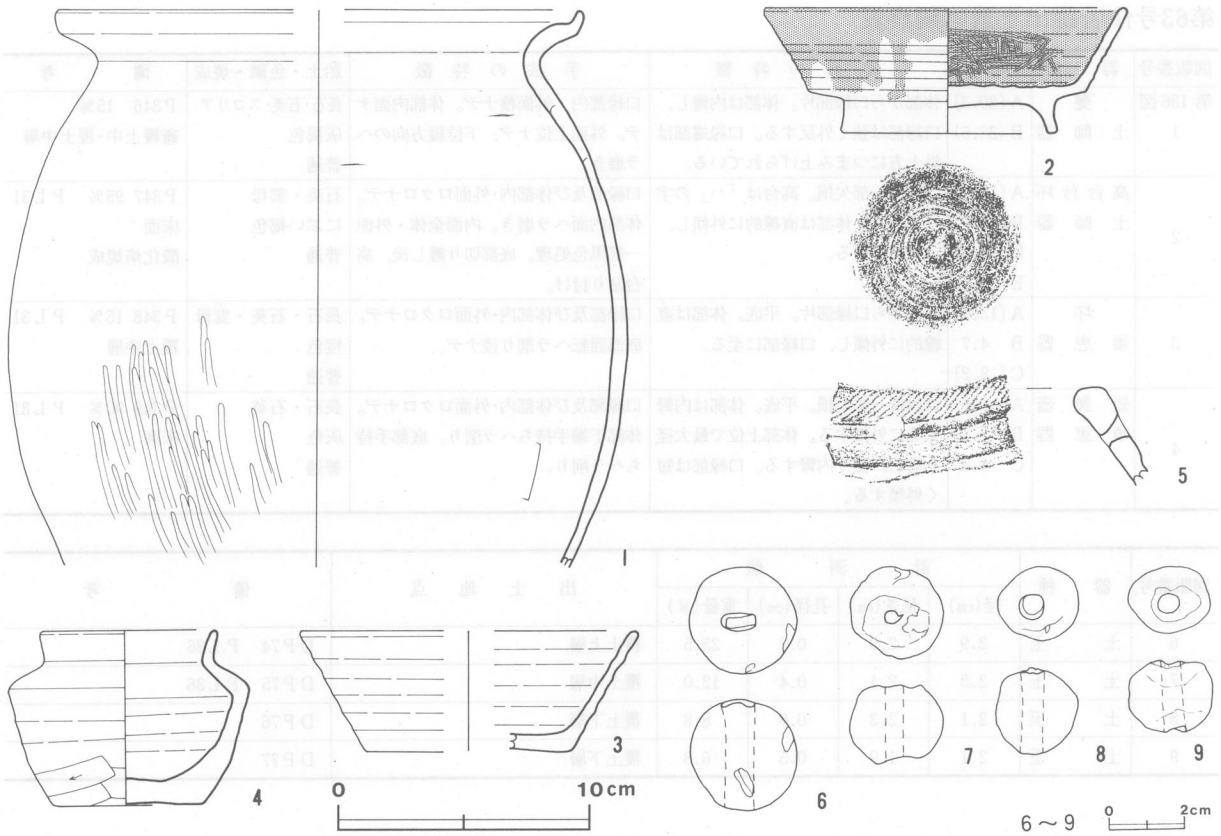
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径30㎝，短径15㎝の不整楕円形，深さ41㎝で，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径18㎝，短径15㎝，深さ25㎝の不整楕円形で性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に63㎝ほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ147㎝，最大幅97㎝である。火床部は，床面を掘り窪めておらずそのまま使用している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土・ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土・炭化・ローム粒子・ローム小ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量



第136図　第63号住居跡出土遺物実測図

7　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
11　暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土・ローム粒子少量
12　極暗赤褐色　焼土・炭化粒子中量，ローム粒子少量
13　灰　褐　色　粘土粒子多量，炭化・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
14　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土・ローム粒子少量
15　赤　褐　色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
16　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土粒子少量

覆土　12層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子少量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
9　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
11　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　暗褐色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量

遺物　土師器片75点，須恵器片28点の他，少量の鉄滓が出土している。第136図1の土師器甕は，竈の覆土中と北東部の覆土中層から出土したものが接合した。2の土師器高台付坏は，P_1上の床面から斜位の状態で出土している。3の須恵器坏は竈前面の覆土中層から，4の須恵器短頸壺は東壁際の床面直上から横位の状態でそれぞれ出土している。5は，本跡から出土した縄文土器の深鉢片の拓影図で，縄文時代後期のものであると思われる。6の土玉は竈前面の覆土上層から，7の土玉は南東コーナー部の覆土中層から，8の土玉は南壁下東部の壁溝上から，9の土玉は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	甕 土師器	A〔20.3〕 B(22.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P346 15% 竈覆土中・覆土中層
2	高台付坏 土師器	A〔14.5〕 B 5.2 D 8.6 E 1.5	口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面全体・外面一部黒色処理。底部切り離し後，高台貼り付け。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P347 95% PL31 床面 酸化焔焼成
3	坏 須恵器	A〔13.6〕 B 4.7 C〔8.2〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P348 15% PL31 覆土中層
4	短頸壺 須恵器	A 9.9 B 7.1 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾する。体部上位で最大径を有し，強く内彎する。口縁部は短く外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P349 90% PL31 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	土玉	2.9	2.9	0.9	23.5	覆土上層	DP74 PL36
7	土玉	2.5	2.1	0.4	12.0	覆土中層	DP75 PL36
8	土玉	2.1	2.3	0.6	8.8	覆土下層	DP76
9	土玉	2.1	1.9	0.5	6.8	覆土下層	DP77

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第64号住居跡（第138図）

位置　調査区の東部，E9g2区。

規模と平面形　長軸2.72m，短軸2.71mの方形である。

重複関係　本跡は北西コーナー部を第162・166号土坑に掘り込まれており，第162・166号土坑よりも古い。

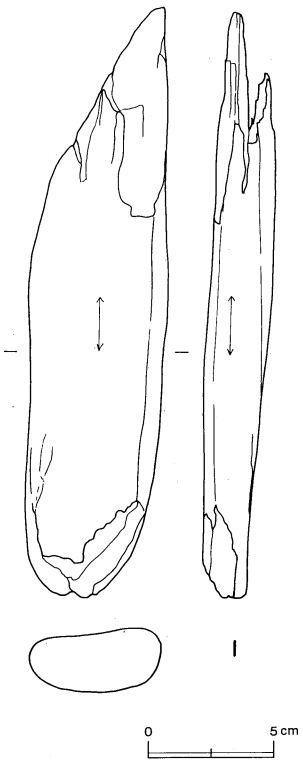
主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は68～72cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径20cm，短径18cm，深さ17cmの不整楕円形で出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径19cm，短径17cm，深さ28cmの不整楕円形で，性格は不明である。

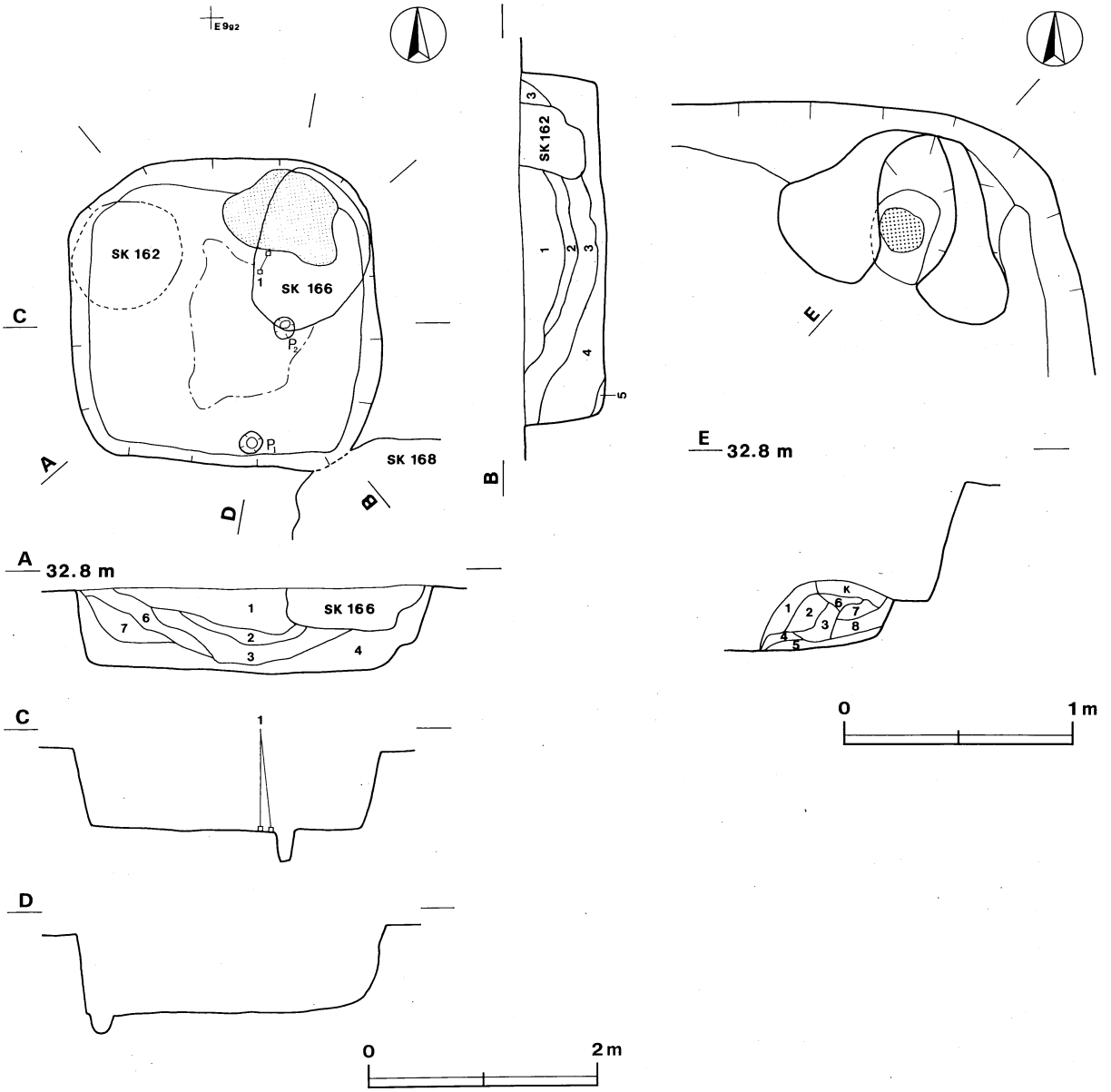
竈　北壁中央部より東側の壁内に，構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ74cm，最大幅140cmである。火床部は，床面をそのまま使用している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。



第137図　第64号住居跡
出土遺物実測図

竈土層解説

1　褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　赤褐色　焼土・炭化物・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化物少量
6　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量



第138図　第64号住居跡実測図

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　焼土・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物　本跡は出土遺物が少なく，また破片が多い。土師器片51点，須恵器片1点等が出土している。第137図1の砥石は，竈前面の床面直上から出土している。

所見　本跡は，時期を決定できる遺物がなく時期不明である。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第137図1	砥　石	23.5	5.5	2.6	423.7	凝灰岩	床面	Q26

第65号住居跡（第139図）

位置　調査区の南部，E7j₃区。

重複関係　本跡は，第２号鍛冶工房跡の北東部を掘り込んでおり，第２号鍛冶工房跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.23m，短軸3.07mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は45～55cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅24cm，下幅８cm，深さ８cmで，断面形は逆台形である。

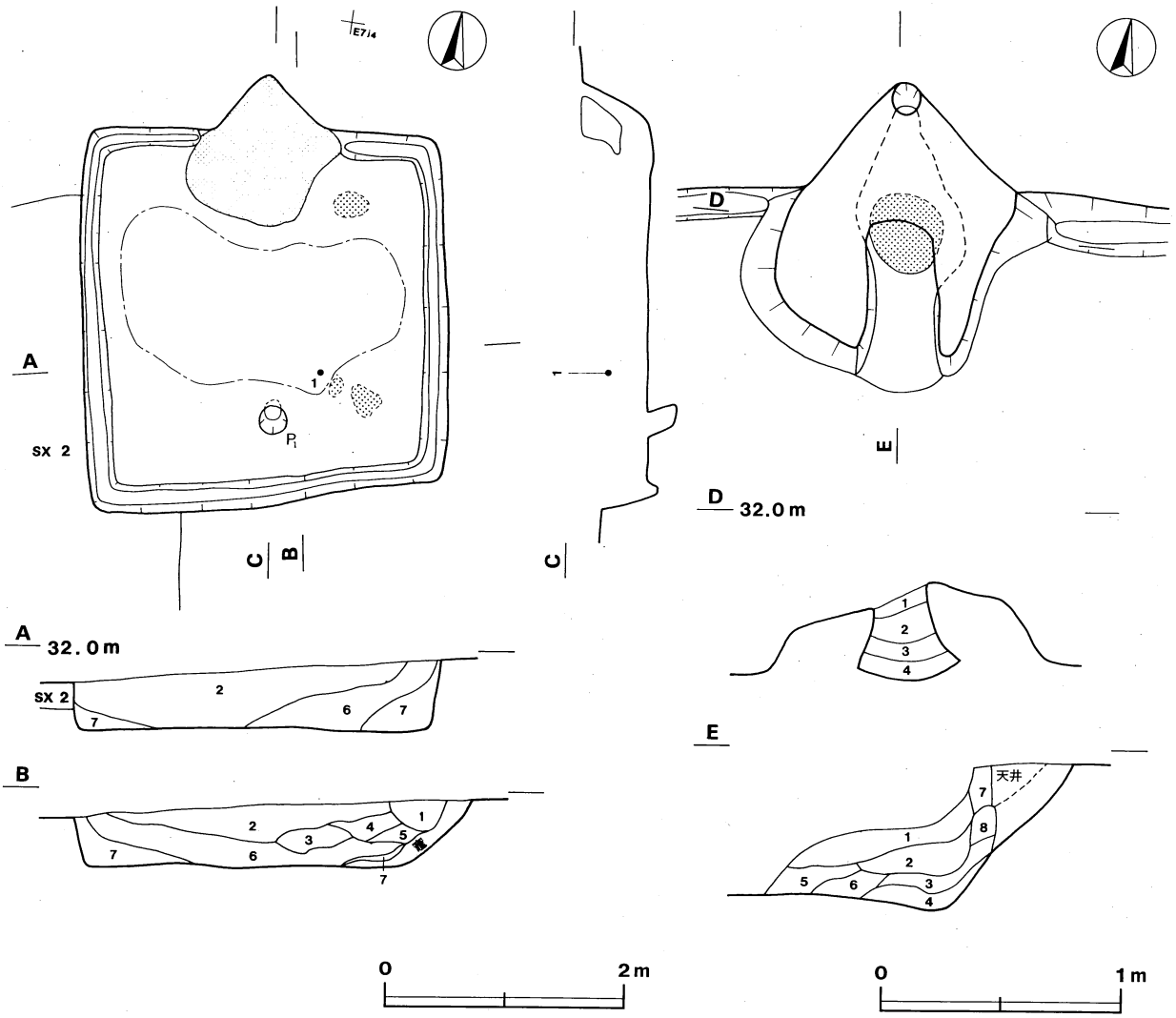
床　平坦で，東部から西部にかけて踏み固められている。

ピット　１か所（P_1）。P_1は，径24cmの不整円形，深さ24cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に45cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部や煙道部等の遺存状態はよい。規模は，焚口部から煙道部までの長さ130cm，最大幅120cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量

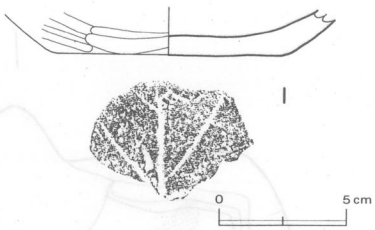


第139図　第65号住居跡実測図

5　にぶい赤褐色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量
7　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
8　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量

覆土　7層からなり，不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説
1　暗褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，炭化・ローム粒子少量
3　褐　色　炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
6　暗褐色　炭化・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量



第140図　第65号住居跡
出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第140図 1	甕 土師器	B(1.9) C 9.2	体部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P350 5% 覆土上層

遺物　土師器片54点，須恵器片11点の他，竈付近の覆土第1層から鉄滓が7.5kg出土している。第140図1の土師器甕は，南東部の覆土上層から出土している。また，東部床面の3か所から砂混じり粘土の固まりが検出されたが，性格等は不明である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。竈付近の覆土第1層から鉄滓が多量に出土しているのは，本跡廃絶後に投棄された可能性もある。

第66号住居跡（第141図）

位置　調査区の東部，E9i₁区。

規模と平面形　長軸4.04m，短軸3.58mの長方形である。

主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は64～73cmで，外傾して立ち上がる。

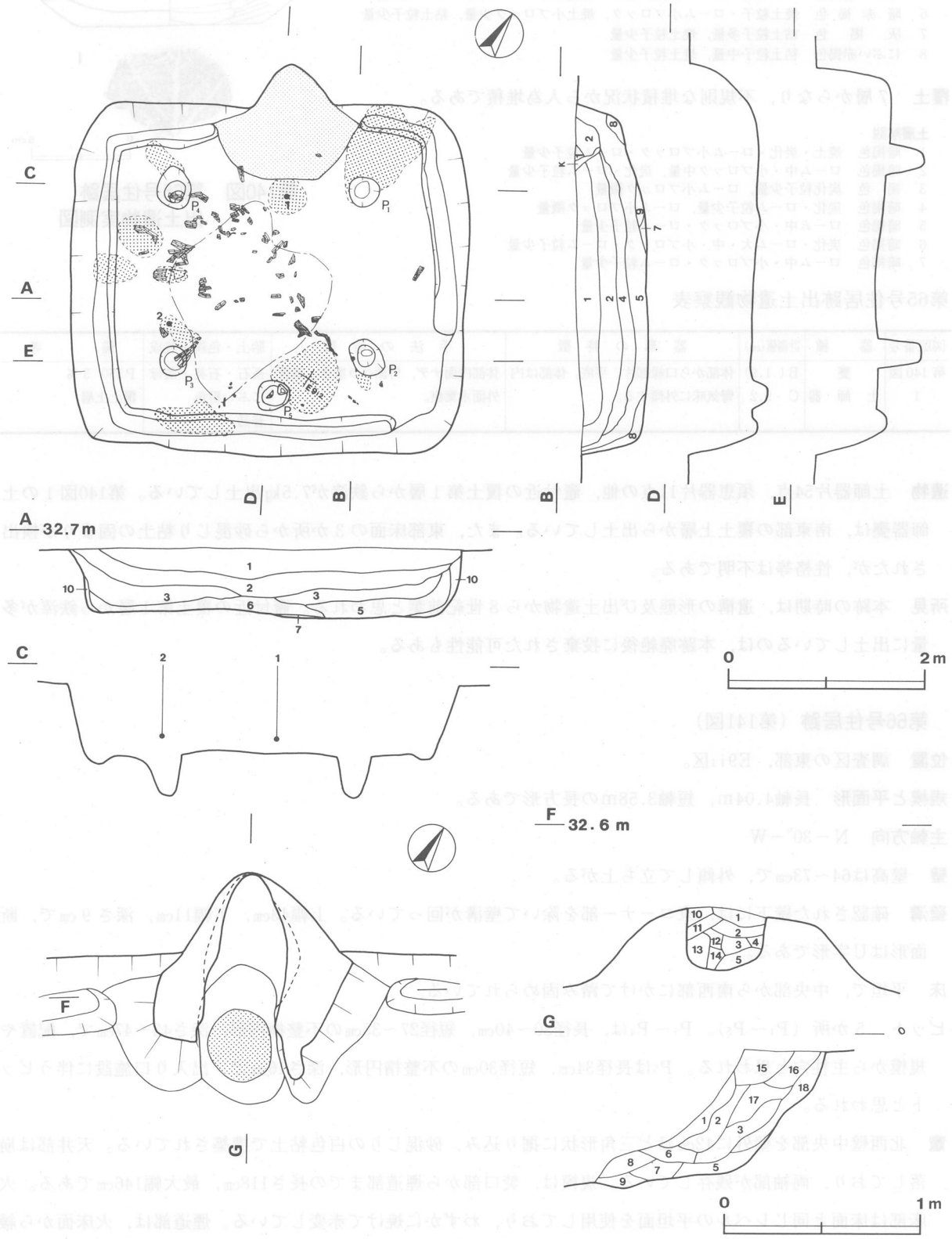
壁溝　確認された壁下には，東コーナー部を除いて壁溝が回っている。上幅43cm，下幅11cm，深さ9cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部から南西部にかけて踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径30～40cm，短径27～35cmの不整楕円形，深さ43～47cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径34cm，短径30cmの不整楕円形，深さ16cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北西壁中央部を壁外に42cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ118cm，最大幅146cmである。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用しており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土・粘土粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量
5　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
6　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量



第141図　第66号住居跡実測図

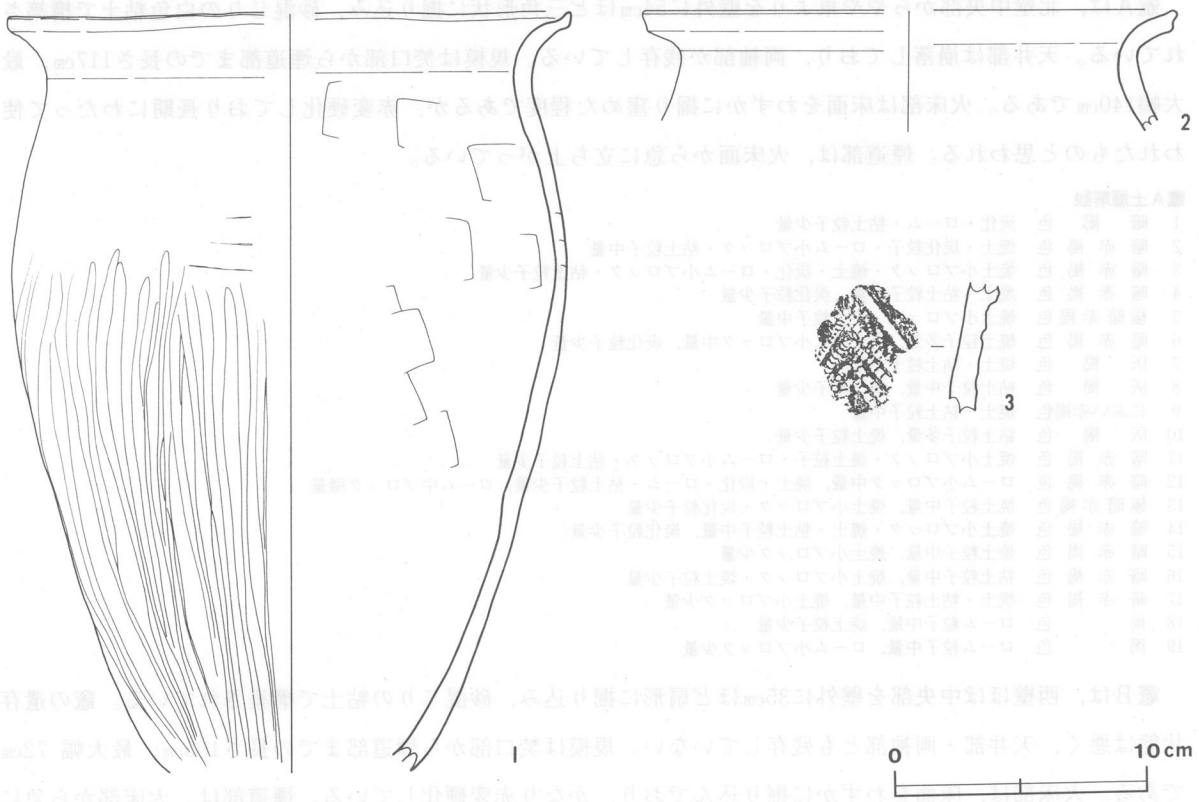
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
8　灰　褐　色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化・粘土粒子少量
10　褐　　色　焼土・ローム・粘土粒子少量
11　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
12　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
13　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子少量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
15　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
16　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土・炭化粒子少量
17　にぶい赤褐色　炭化・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
18　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック・粘土粒子少量

覆土　10層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
6　褐　色　炭化物・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量
9　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量
10　褐　色　ローム粒子多量，焼土・炭化粒子微量

遺物　土師器片119点，須恵器片29点，鉄滓等が出土している。また，炭化材及び焼土が床面に貼り付くように検出されたことから焼失家屋の可能性が高い。第142図1の土師器甕は竈前面の覆土下層から，2の土師器甕は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。3は本跡から出土した縄文土器の深鉢片の拓影図で，縄文時代中期のものと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第142図　第66号住居跡出土遺物実測図

第66号　住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第142図 1	甕 土師器	A〔22.5〕 B(30.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，体部中位から下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P351 30%　PL31 覆土下層
2	甕 土師器	A〔21.2〕 B(4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母 にぶい黄橙色 普通	P352 5% 覆土下層

第67号住居跡（第143図）

位置　調査区の東部，E8h8区。

規模と平面形　長軸4.30m，短軸3.93mの方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は68～70cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，西壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅30cm，下幅11cm，深さ16cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部から東部にかけて踏み固められている。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径50cm，短径40cm，の不整楕円形，深さ30cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径37cm，短径27cm，深さ23cmの不整楕円形で性格は不明である。

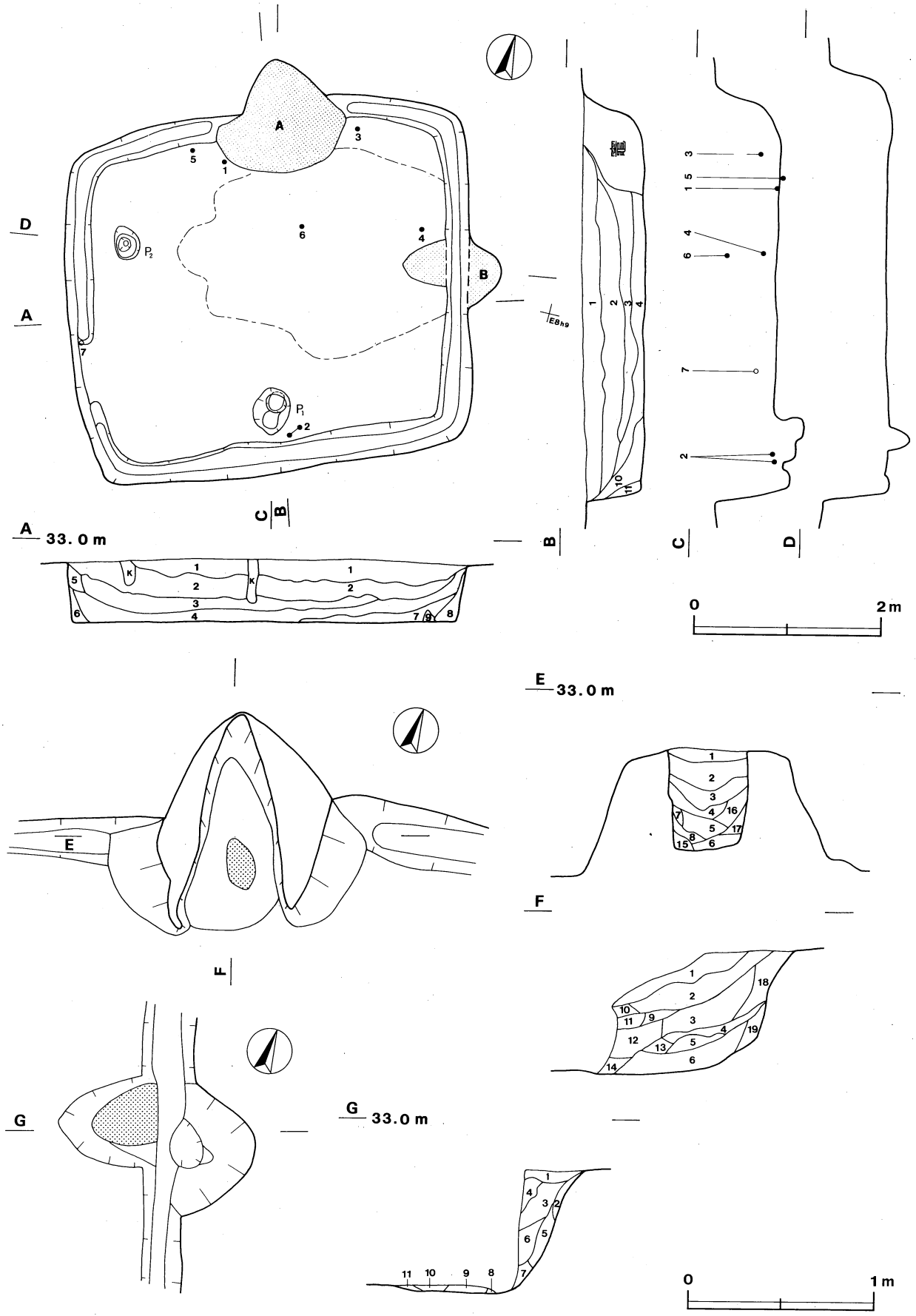
竈　2基検出されている。竈Bは火床部が壁溝に壊されていることから，竈Aより古いと思われる。

竈Aは，北壁中央部からやや東よりを壁外に54cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ117cm，最大幅140cmである。火床部は床面をわずかに掘り窪めた程度であるが，赤変硬化しており長期にわたって使われたものと思われる。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

竈A土層解説

1　暗　褐　色　炭化・ローム・粘土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量
3　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック・粘土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子少量
7　灰　褐　色　焼土・粘土粒子中量
8　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量
10　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
11　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
12　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量，ローム中ブロック微量
13　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
14　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
15　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
16　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
17　暗 赤 褐 色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
18　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
19　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

竈Bは，西壁ほぼ中央部を壁外に35cmほど扇形に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。竈の遺存状態は悪く，天井部・両袖部とも残存していない。規模は焚口部から煙道部までの長さ105cm，最大幅 72cmである。火床部は，床面をわずかに掘り込んでおり，かなり赤変硬化している。煙道部は，火床部から急に立ち上がっている。



第143図　第67号住居跡実測図

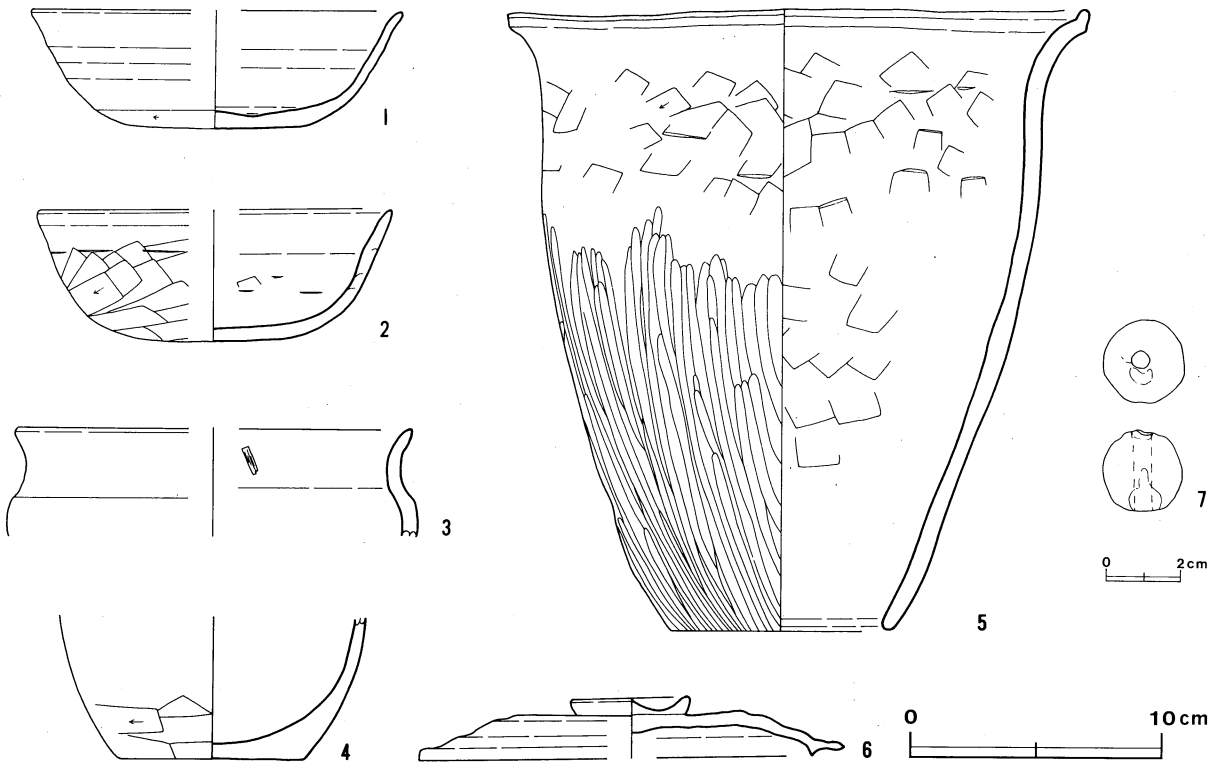
竈B土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土・ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土・ローム粒子少量
7　灰　褐　色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
8　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
10　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化・粘土粒子少量
11　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量

覆土　不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物・ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
9　灰褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
11　褐　色　ローム粒子中量

遺物　竈付近を中心に土師器片176点，須恵器片30点の他，鉄滓が少量出土している。第144図１の土師器坏は竈A左袖部前面の床面直上から正位の状態で，２の土師器坏は南壁際の覆土下層から，３の土師器甕は，竈A右袖部前面の覆土下層からそれぞれ出土している。４の土師器甕は竈B付近の覆土下層から，５の土師器甑は，竈A左袖部付近の床面直上から横位の状態でそれぞれ出土している。６の須恵器蓋は中央部の覆土上層から，７の土玉は西壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（７世紀末葉）と思われる。



第144図　第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第144図 1	坏 土師器	A〔14.8〕 B 4.7 C 9.8	底部から口縁部片。丸みをおびた平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P353　65% 床面
2	坏 土師器	A〔14.0〕 B 5.2 C 5.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P354　40% 覆土下層
3	甕 土師器	A〔15.8〕 B(4.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面剝離のため不明。体部内面ヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P355　5% 覆土下層 体部内面に煤付着
4	甕 土師器	B(5.7) C 7.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面剝離のため不明。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P356　10% 覆土下層
5	甑 土師器	A 23.2 B 24.8 C 8.8	口縁部及び体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後ナデ。体部外面ナデ，中位から下位縦方向のヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・パミス にぶい黄橙色 普通	P357　90%　PL31 床面
6	蓋 須恵器	A〔17.1〕 B 2.4 F 4.6 G 0.7	天井部から口縁部片。ボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部は水平方向に伸び，内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。	石英・雲母 にぶい黄橙色 良好	P358　10% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土　玉	2.2	2.1	0.5	9.6	覆土下層	DP78　PL36

第68号住居跡（第145図）

位置　調査区の東部，E8h6区。

規模と平面形　長軸3.45m，短軸3.17mの方形である。

主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は60～68cmで，東壁はほぼ垂直に立ち上がり，西壁は外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，東壁の掘り込み部分を除いて壁溝が回っている。上幅30cm，下幅12cm，深さ9cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，全体的に軟らかく締まりがない。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は長径21～35cm，短径15～31cmの不整楕円形で性格は不明である。

竈　北壁中央部からやや西よりを壁外に33cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，左袖部だけが残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅130cmである。火床部は床面をそのまま使用しており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

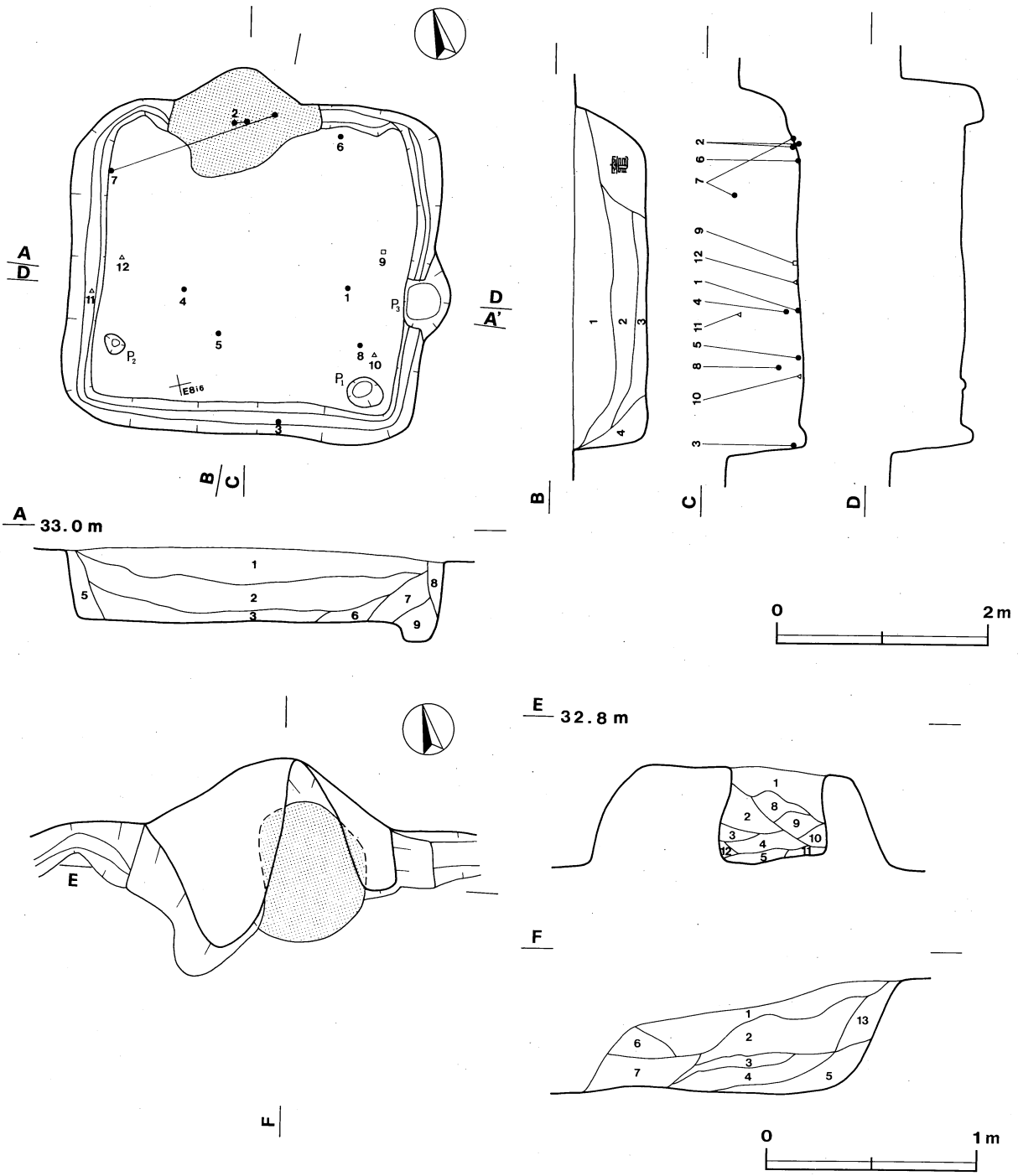
竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　灰　褐　色　ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　暗　褐　色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　灰　褐　色　焼土・粘土粒子中量，炭化・ローム粒子少量

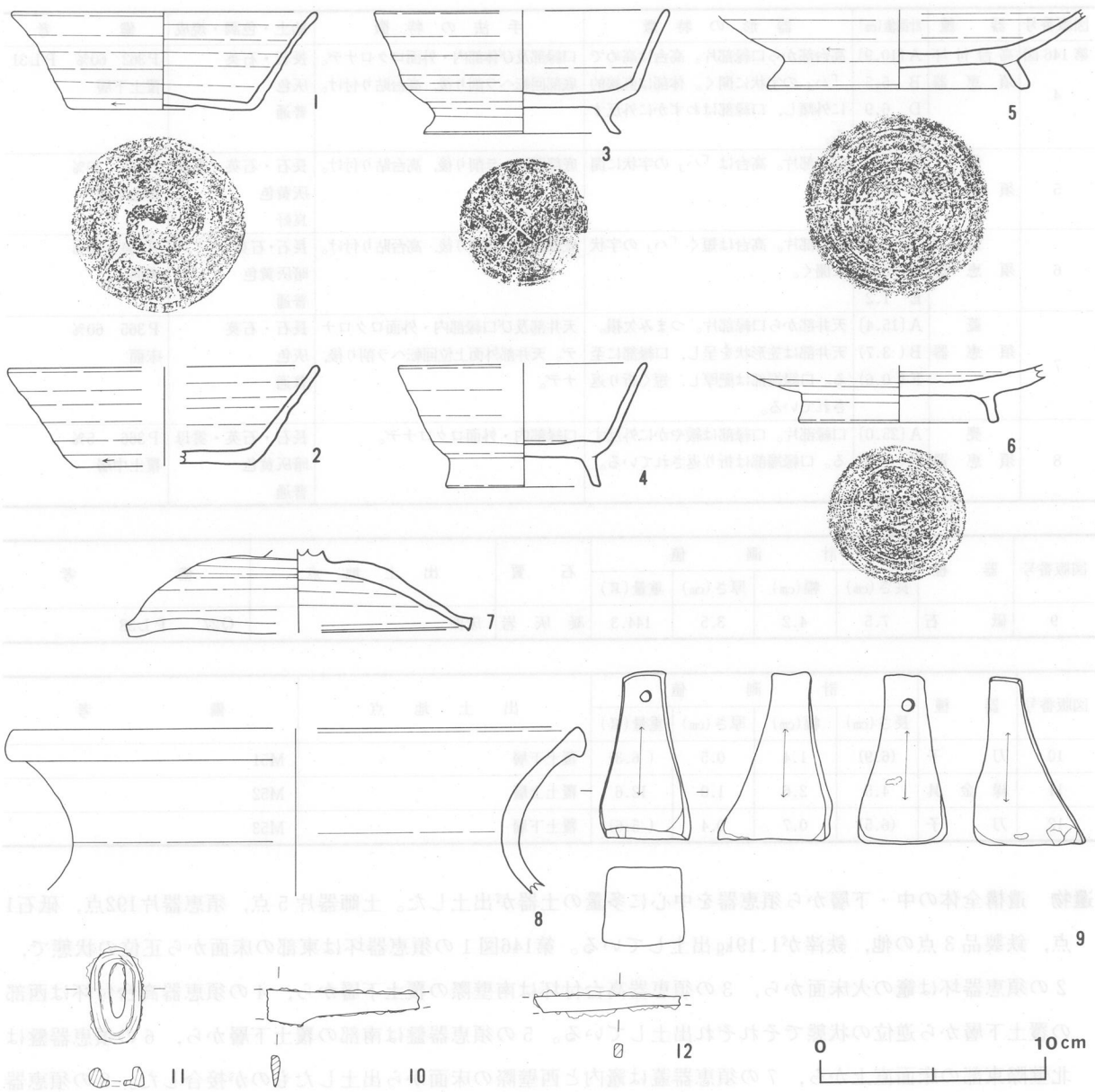
9　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
11　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
12　極暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量
13　暗 赤 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土　9層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム中・小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム中・小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
9　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第145図　第68号住居跡実測図



第146図　第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第146図 1	坏 須恵器	A 13.5 B 4.5 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P359　70%　PL31 床面
2	坏 須恵器	A〔13.8〕 B 4.4 C〔7.9〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P360　40% 竈火床面 酸化焔焼成
3	高台付坏 須恵器	A〔13.0〕 B 5.5 D 8.8 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。底部外面にヘラ記号。	長石・石英 灰色 普通	P361　50% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第146図 4	高台付坏 須恵器	A〔10.9〕 B 5.5 D 6.9 E 1.3	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P362 60% PL31 覆土下層
5	盤 須恵器	B(3.6) D 11.7 E 1.4	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰黄色 良好	P363 30% 覆土下層
6	盤 須恵器	B(2.6) D 8.8 E 1.2	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・パミス 暗灰黄色 普通	P364 30% 床面
7	蓋 須恵器	A〔15.4〕 B(3.7) F(0.6)	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部は笠形状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は肥厚し，短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り後，ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P365 60% 床面
8	甕 須恵器	A〔25.0〕 B(7.3)	口縁部片。口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P366 5% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	砥　石	7.5	4.2	3.5	144.3	凝灰岩	床面	Q27 PL38

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	刀　子	(6.9)	1.4	0.5	(6.3)	覆土下層	M51
11	縁金具	4.5	2.6	1.0	12.6	覆土上層	M52
12	刀　子	(6.5)	0.7	0.4	(5.6)	覆土下層	M53

遺物　遺構全体の中・下層から須恵器を中心に多量の土器が出土した。土師器片5点，須恵器片192点，砥石1点，鉄製品3点の他，鉄滓が1.19kg出土している。第146図1の須恵器坏は東部の床面から正位の状態で，2の須恵器坏は竈の火床面から，3の須恵器高台付坏は南壁際の覆土下層から，4の須恵器高台付坏は西部の覆土下層から逆位の状態でそれぞれ出土している。5の須恵器盤は南部の覆土下層から，6の須恵器盤は北壁際東部の床面直上から，7の須恵器蓋は竈内と西壁際の床面から出土したものが接合した。8の須恵器甕は南東部の覆土中層から，9の砥石は東部の床面直上からそれぞれ出土している。10の刀子は南東部の覆土下層から，11の縁金具は西壁際の覆土上層から，12の刀子は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第69号住居跡（第147図）

位置　調査区の東部，E8g9区。

重複関係　本跡は，北部を第70号住居跡を掘り込んでいることから，第70号住居跡よりも新しい。

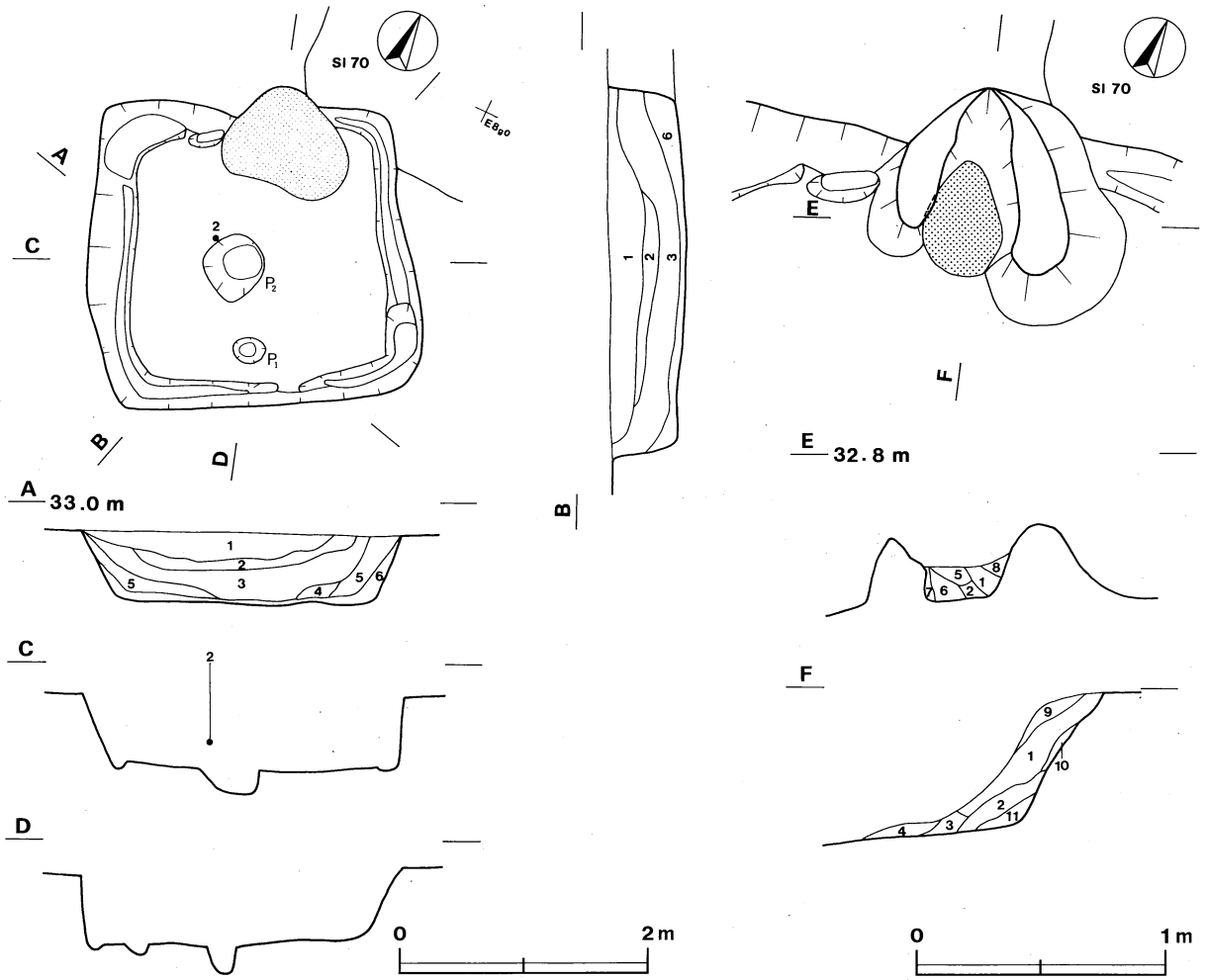
規模と平面形　長軸2.58m，短軸2.52mの方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は53～57cmで，西壁は外傾するものの，東壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南東壁の一部を除いて壁溝が回っている。北西コーナー部，南東コーナー部は他に比べ深く掘り込まれている。上幅25cm，下幅10cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に軟らかい。



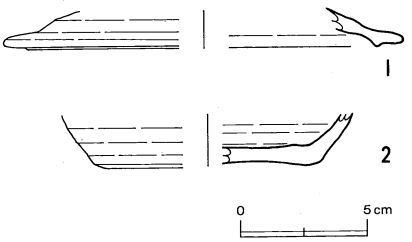
第147図　第69号住居跡実測図

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は，長径26cm，短径21cmの不整楕円形，深さ10cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径55cm，短径50cmの不整楕円形，深さ20cmで性格は不明である。

竈　北西壁中央部からやや東よりを壁外に27cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ77cm，最大幅103cmである。火床部は，床面をそのまま使用している。煙道部は，火床面から直線的に立ち上がっている。火床部に砂混じり粘土の固まりがあり，その上に甕片がのせられていた。これは外面が焼けて赤変しており，支脚として使用された可能性がある。

竈土層解説

1	極暗赤褐色	焼土大ブロック多量，焼土粒子中量
2	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
4	灰褐色	粘土粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
5	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化・粘土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量
8	暗赤褐色	焼土・ローム粒子少量
9	灰褐色	ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量
10	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
11	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量



第148図　第69号住居跡出土遺物実測図

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　竈内と竈付近の中層を中心にして，土師器片30点，須恵器片5点，鉄滓が少量出土している。第148図1の須恵器蓋は，覆土中から出土している。2の須恵器坏は，P_2付近の覆土中層から出土している。

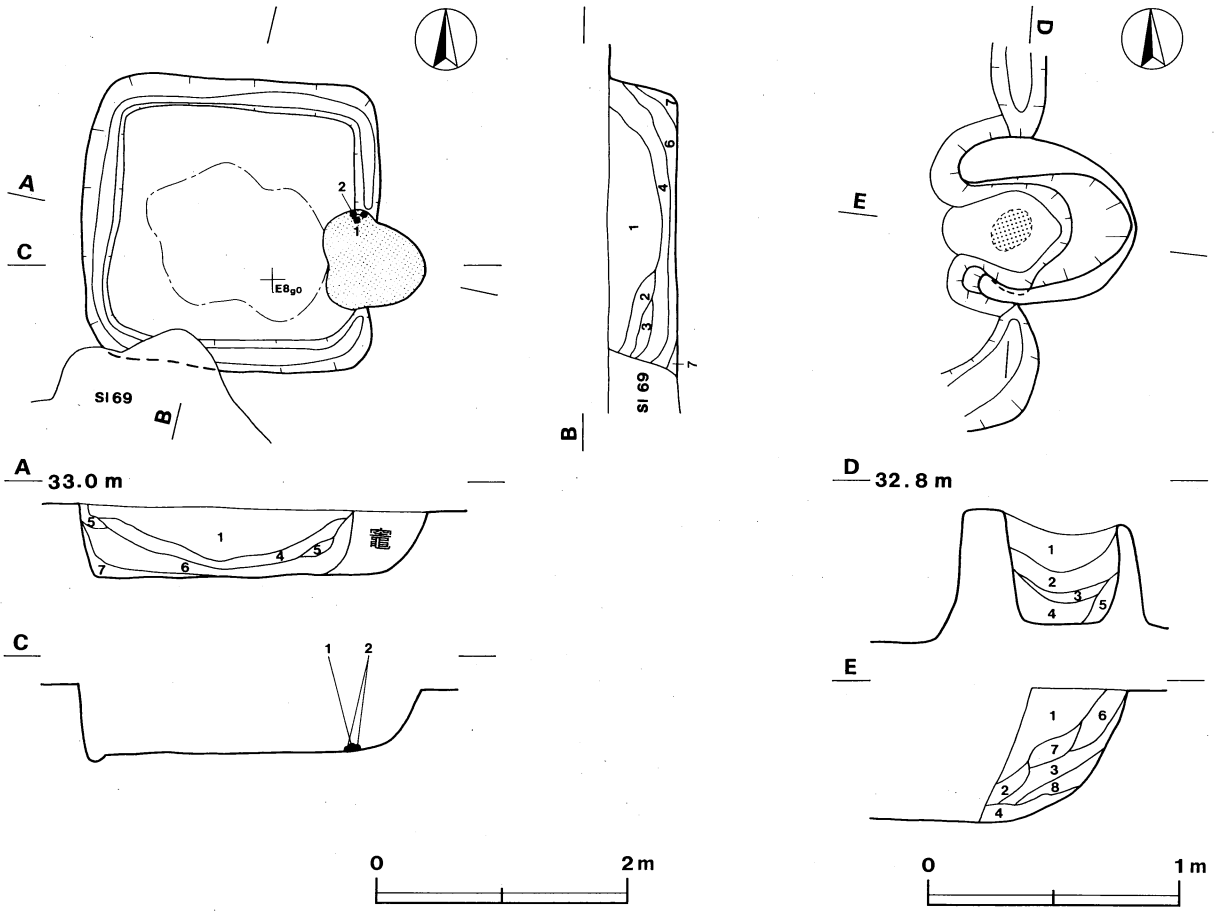
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第148図 1	蓋 須恵器	A〔15.8〕 B（1.5）	口縁部片。口縁部内側に短いかえりを持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P368　5% 覆土中
2	坏 須恵器	B（2.1） C〔8.8〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P367　10% 覆土中層

第70号住居跡（第149図）

位置　調査区の東部，E8f9区。



第149図　第70号住居跡実測図

重複関係　本跡は，第69号住居跡の北部に掘り込まれていることから，第69号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸2.38m，短軸2.37mの方形である。

主軸方向　N－95°－E

壁　壁高は56～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅21cm，下幅８cm，深さ６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部は踏み固められている。

竈　東壁中央部からやや南よりを壁外に38cmほど半円状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ78cm，最大幅80cmである。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。本跡にも第69号住居跡と同じように，火床部に砂混じり粘土の固まりがあり，その上に甕片がのせられていた。これも，竈の支脚として使用された可能性がある。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　焼土・ローム粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
6　褐色　ローム粒子中量，焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

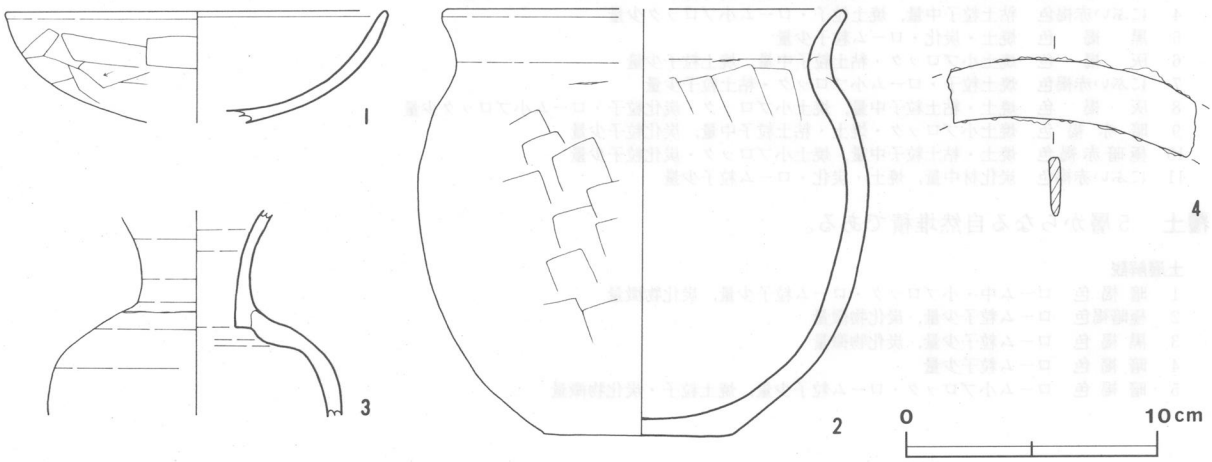
覆土　７層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黒褐色　焼土・ローム粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器片44点，須恵器片２点の他，鉄製品が出土している。第150図１の土師器坏，２の土師器甕はともに竈左袖部付近の床面直上から出土している。３の須恵器長頸瓶，４の鉄鎌は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（７世紀前葉）と思われる。



第150図　第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 1	坏 土師器	A 15.1 B (4.4)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内側に一条の沈線が巡る。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P369 65% PL31 竈袖部内
2	甕 土師器	A〔15.8〕 B 17.2 C 7.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P370 50% 竈袖部内
3	長頸瓶 須恵器	B (8.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	小礫 灰白色 良好	P371 10% PL31 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄鎌	(10.1)	2.5	0.5	(24.6)	覆土中	M54

第71号住居跡（第151図）

位置　調査区の東部，E8e₀区。

規模と平面形　長軸3.53m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－29°－W

壁　壁高は60～71cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅25cm，下幅12cm，深さ18cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，竈前面から南部にかけて踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径44cm，短径17cmの不整楕円形，深さ29cmで，性格は不明である。

竈　北西壁中央部からやや北よりを壁外に57cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，最大幅120cmである。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に立ち上がっている。

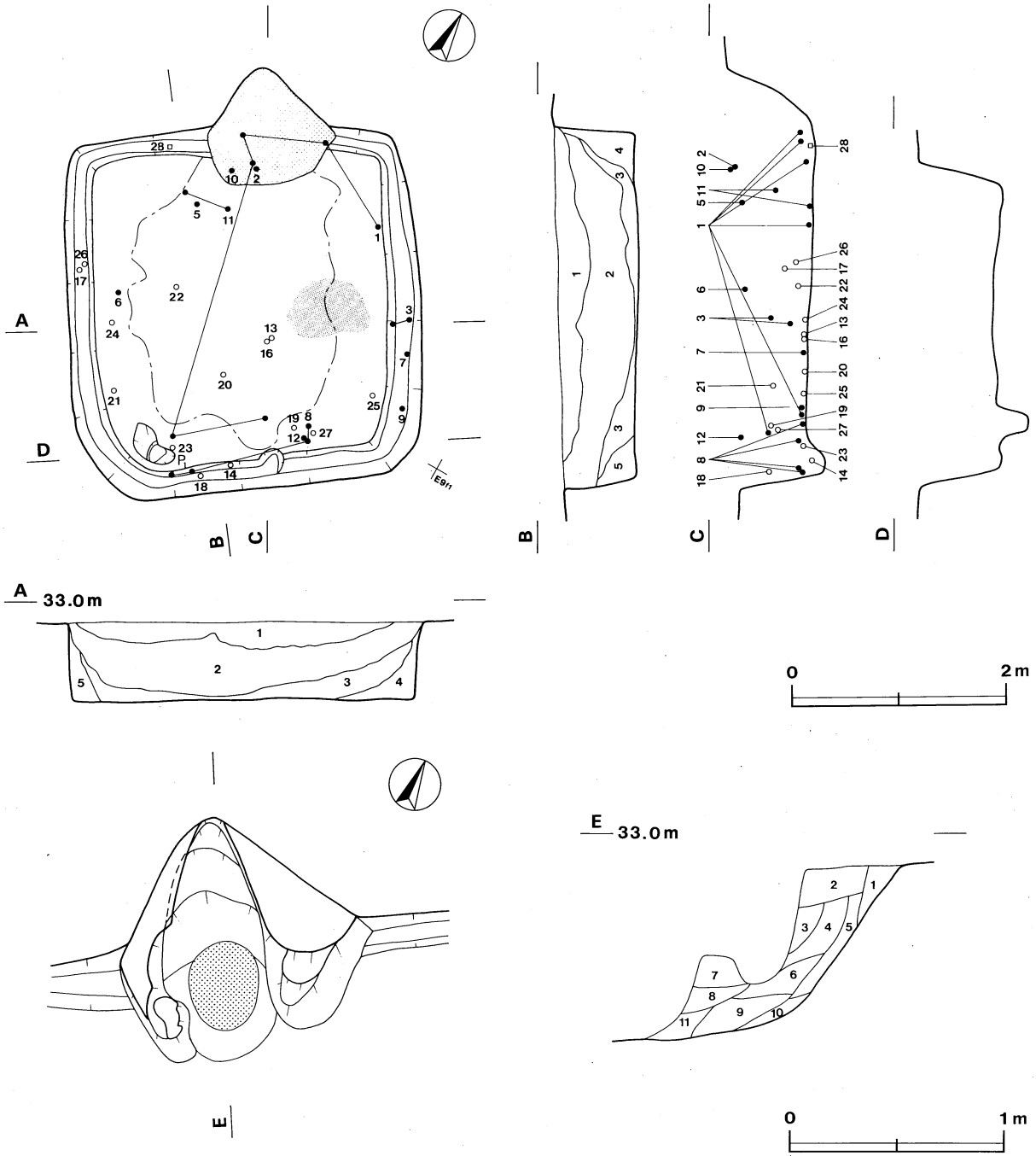
竈土層解説

1　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　褐色　ローム中ブロック・ローム・粘土粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　灰褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
5　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
6　灰褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
8　灰褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化粒子少量
10　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
11　にぶい赤褐色　炭化材中量，焼土・炭化・ローム粒子少量

覆土　5層からなる自然堆積である。

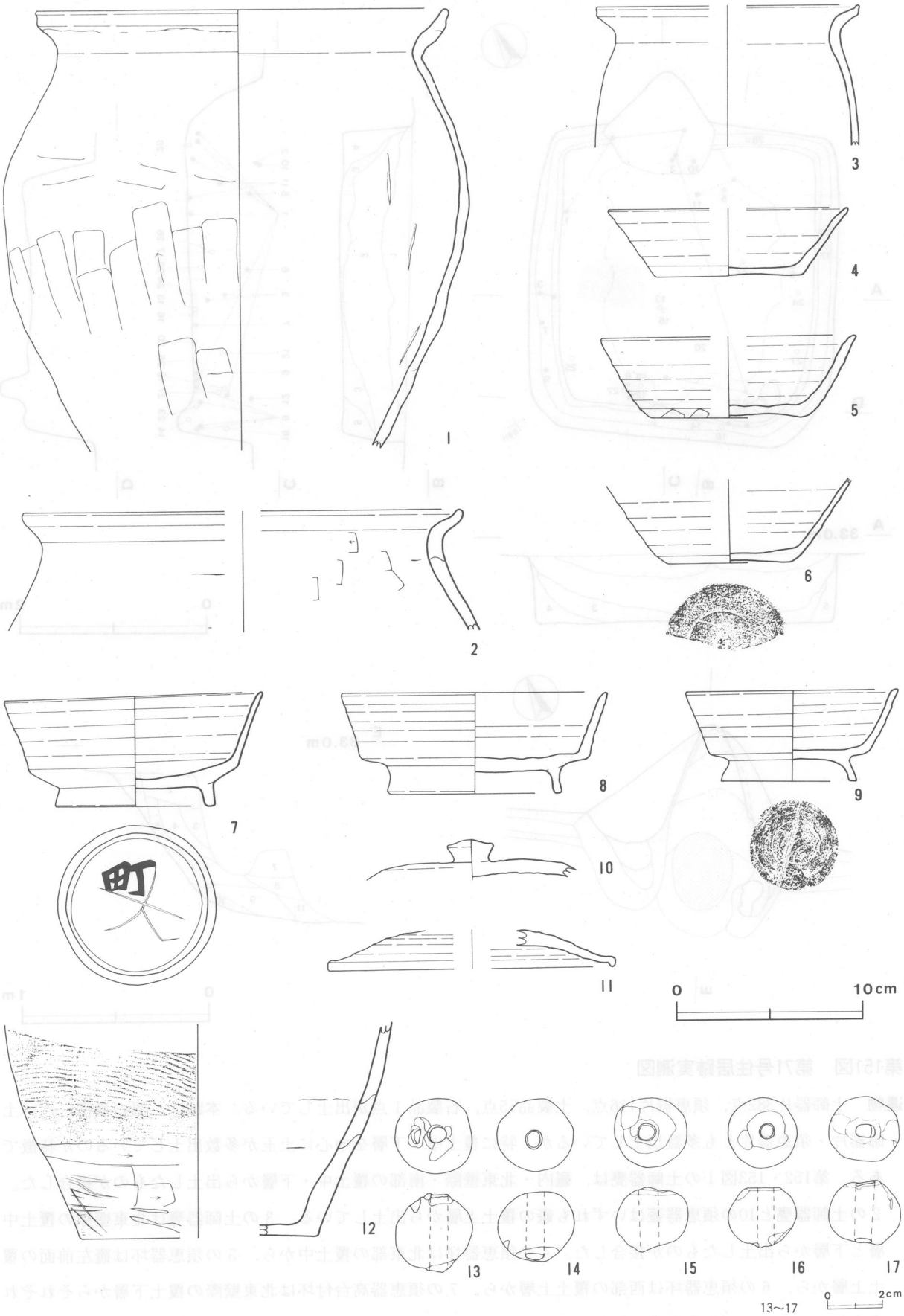
土層解説

1　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

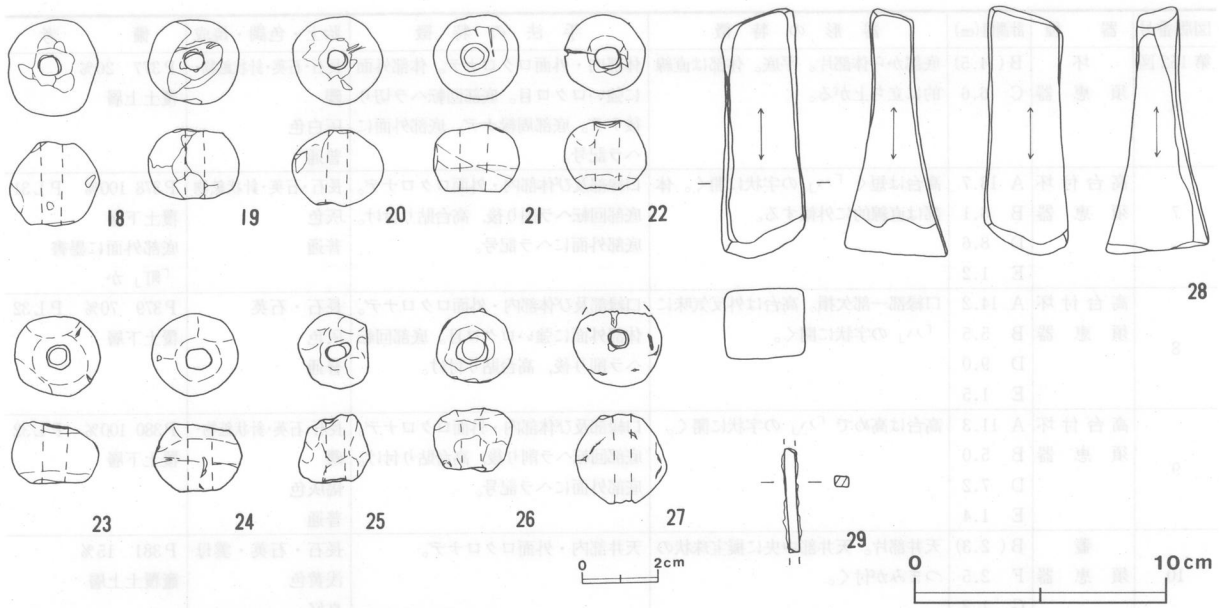


第151図　第71号住居跡実測図

遺物　土師器片382点，須恵器片116点，土製品15点，石製品１点が出土している。本跡は，他の遺構に比べ土師器片・須恵器片とも多数出土しているが，特に覆土中・下層を中心に土玉が多数出土しているのが特徴である。第152・153図１の土師器甕は，竈内・北東壁際・南部の覆土中・下層から出土したものが接合した。２の土師器甕と10の須恵器蓋はいずれも竈の覆土上層から出土している。３の土師器甕は北東壁際の覆土中層と下層から出土したものが接合した。４の須恵器坏は北東部の覆土中から，５の須恵器坏は竈左前面の覆土上層から，６の須恵器坏は西部の覆土上層から，７の須恵器高台付坏は北東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。８の須恵器高台付坏は南東壁際の覆土下層から，９の須恵器高台付坏は東コーナー部の覆土下層から正位の状態で出土している。11の須恵器蓋は竈左袖部前面の覆土中層と下層から出土したものが接



第152図　第71号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図　第71号住居跡出土遺物実測図(2)

合し，12の須恵器甕は南東部の覆土上層から出土している。13・16・20の土玉は中央部からやや南寄りの床面直上から，22の土玉は中央部からやや西寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。14の土玉は南東壁溝の覆土中から，18の土玉は同じく南東壁際の覆土中層から，19・27の土玉は南東部の覆土中層から，25の土玉は東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。17・26の土玉は南西壁際の覆土下層から，21の土玉は南西部の覆土中層から，24の土玉は同じく南西部の床面直上からそれぞれ出土している。23の土玉は，P_1付近の床面直上から出土している。28の砥石は，北西壁際の床面直上から出土している。15の土玉と29の鉄鏃は覆土中から出土している。また，本跡東部の床面から厚さ15cmほどの，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んだ粘土の固まりが検出されたが，性格等は不明である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	甕 土師器	A 22.1 B (24.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，外面下位ヘラ削り後ナデ。体部内面・外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P372　50%　PL32 覆土中・下層
2	甕 土師器	A〔23.6〕 B (6.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上位ヘラナデ，中位ナデ。体部外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P373　5% 竈覆土上層
3	甕 土師器	A〔14.0〕 B (7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面剝離。	長石・石英 明赤褐色 普通	P374　10% 覆土中・下層
4	坏 須恵器	A〔12.7〕 B 3.7 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P375　50% 覆土中
5	坏 須恵器	A〔13.6〕 B 4.3 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	長石 灰色 普通	P376　25% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 6	坏 須恵器	B(4.5) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ切り後ナデ。底部周縁ナデ。底部外面にヘラ記号。	長石・石英・針状鉱物・礫 灰白色 普通	P377 20% 覆土上層
7	高台付坏 須恵器	A 13.7 B 6.1 D 8.6 E 1.2	高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。底部外面にヘラ記号。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P378 100% PL31 覆土下層 底部外面に墨書「町」か
8	高台付坏 須恵器	A 14.2 B 5.5 D 9.0 E 1.5	口縁部一部欠損。高台は外反気味に「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P379 70% PL32 覆土下層
9	高台付坏 須恵器	A 11.3 B 5.0 D 7.2 E 1.4	高台は高めで「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。底部外面にヘラ記号。	長石・石英・針状鉱物・礫 褐灰色 普通	P380 100% PL32 覆土下層
10	蓋 須恵器	B(2.3) F 2.5 G 1.3	天井部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 良好	P381 15% 竈覆土上層
11	蓋 須恵器	A〔15.4〕 B(2.1)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面中位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 オリーブ灰色 普通	P382 15% 覆土中・下層
12	甕 須恵器	B(11.5) C〔12.6〕	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ナデ。体部外面中位横方向の平行タタキ，下端手持ちヘラ削り。体部外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P383 10% 覆土上層 酸化焔焼成 体部外面に砥石転用痕

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	土玉	2.8	2.9	0.8	19.0	床面	DP79 PL36
14	土玉	2.7	2.5	0.7	14.9	覆土下層	DP80 PL36
15	土玉	2.6	2.3	0.7	12.8	覆土中	DP81 PL36
16	土玉	2.5	2.2	0.6	10.1	床面	DP82 PL36
17	土玉	2.6	2.3	0.7	11.1	覆土下層	DP83 PL36
第153図18	土玉	2.4	2.3	0.5	9.3	覆土中層	DP84 PL36
19	土玉	2.4	1.9	0.5	9.3	覆土中層	DP85 PL36
20	土玉	2.4	2.1	0.5	9.8	床面	DP86 PL36
21	土玉	2.3	1.8	0.7	8.8	覆土中層	DP87
22	土玉	2.2	1.9	0.7	7.2	覆土下層	DP88
23	土玉	2.3	1.7	0.6	7.4	床面	DP89
24	土玉	2.3	1.7	0.7	7.2	床面	DP90
25	土玉	1.8	1.8	0.7	5.5	床面	DP91
26	土玉	2.0	1.7	0.9	5.3	覆土下層	DP92
27	土玉	2.3	2.4	0.5	9.5	覆土中層	DP93

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
28	砥石	10.1	3.4	2.8	132.5	凝灰岩	床面	Q29 PL38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
29	鉄鏃	4.2	0.4	0.4	3.3	覆土中	M55

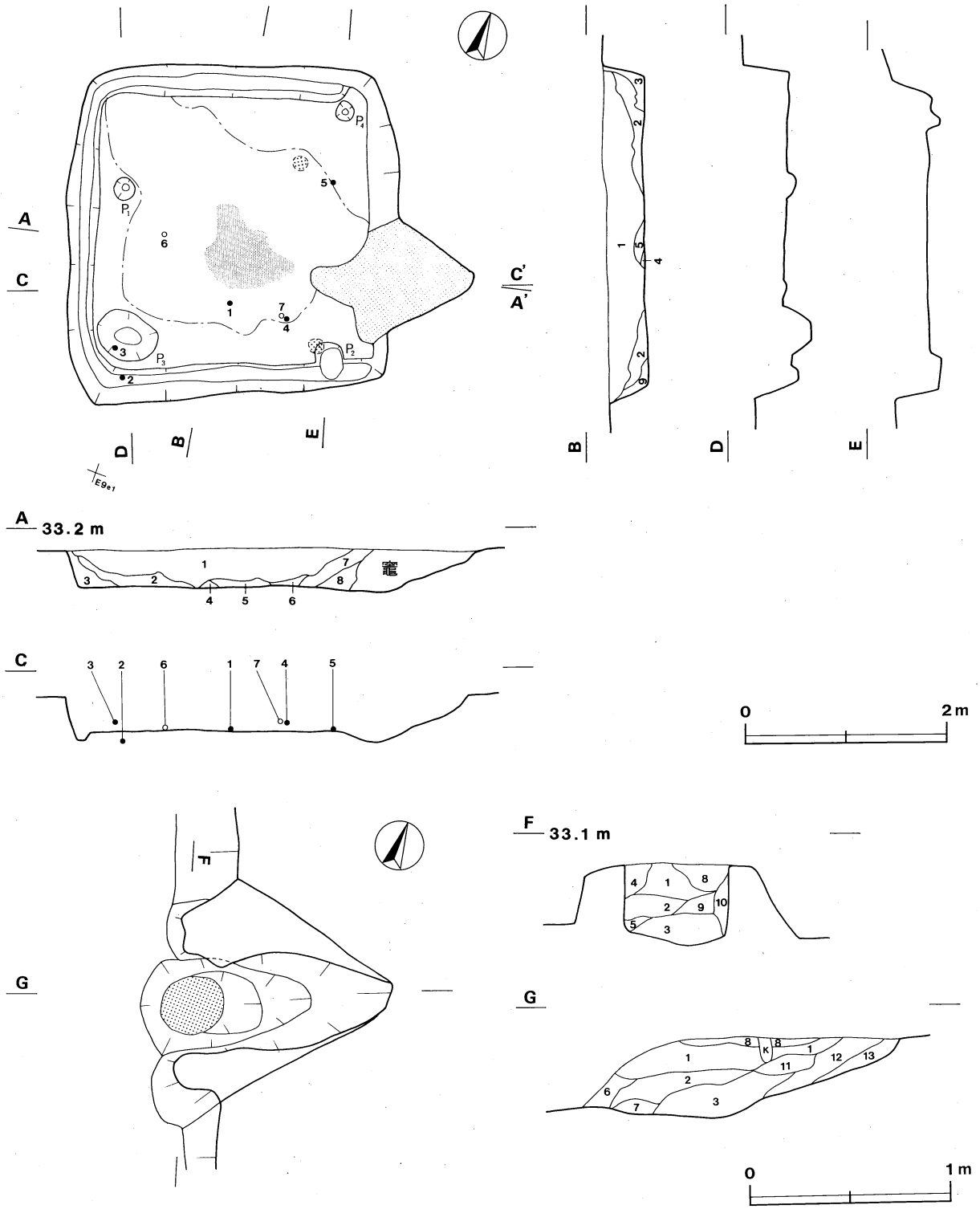
第72号住居跡（第154図）

位置　調査区の東部，Ｅ9d1区。

規模と平面形　長軸3.32m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　Ｎ－69°－Ｅ

壁　壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がる。



第154図　第72号住居跡実測図

壁溝　確認された壁下には，北東壁を除いて壁溝が回っている。上幅15cm，下幅９cm，深さ９cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，竈前面から北西部にかけて踏み固められている。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1は径11cmの不整円形，深さ10cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_4は長径21～62cm，短径18～46cm，深さ11～24cmの不整楕円形で性格は不明である。

竈　北東壁中央部からやや南よりを壁外に81cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ126cm，最大幅110cmである。火床部は，床面を11cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
5　極暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
6　暗　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量
7　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
9　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
12　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
13　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　各層ともロームブロック等を多く含み，また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

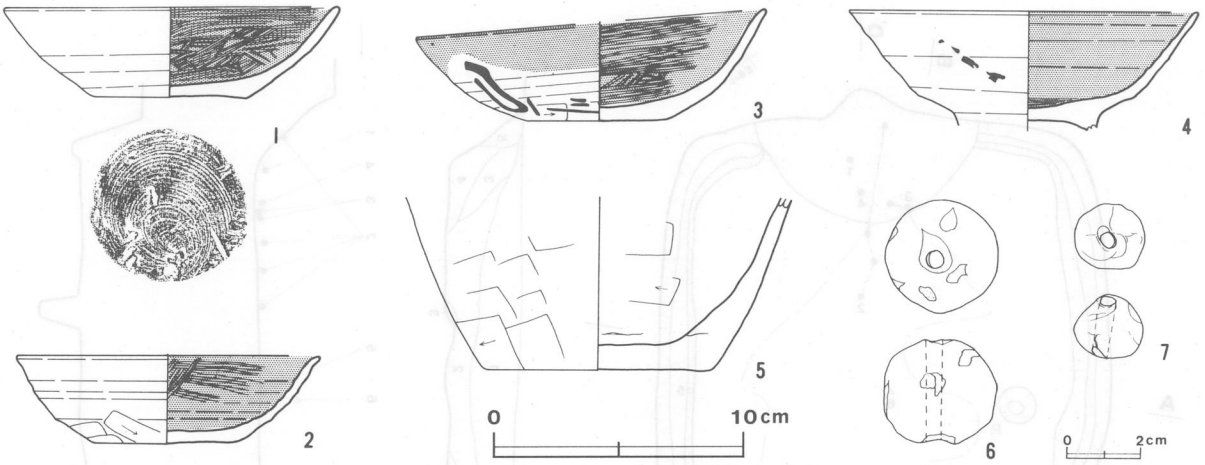
土層解説

1　暗 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
3　暗 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
5　灰 褐 色　粘土粒子多量，ローム粒子少量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　焼土・ローム・粘土粒子少量
8　褐　　色　炭化・ローム粒子少量，粘土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第155図 1	坏 土師器	A 13.6 B 3.8 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。底部回転糸切り。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P384　95%　PL32 覆土下層
2	坏 土師器	A 12.2 B 3.5 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P385　65% 覆土下層
3	坏 土師器	A〔14.0〕 B 4.4 C 5.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部内・外面黒色処理。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P386　50% 覆土下層 体部外面に墨書「三」か
4	椀 土師器	A〔14.0〕 B（4.8） E（0.6）	口縁部一部及び高台部欠損。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P387　90% 覆土下層 体部外面にタール付着
5	甕 土師器	B（7.0） C 9.0	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ヘラナデ後ナデ，外面下端手持ちヘラ削り。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P388　20% 床面

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	土　玉	3.0	2.2	0.5	22.6	床面	DP94　PL36
7	土　玉	1.9	1.7	0.5	4.5	覆土下層	DP95



第155図　第72号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片102点，須恵器片18点，土製品２点の他，鉄滓が1.1kg出土している。第155図１の土師器坏は南部の覆土下層から正位の状態で，２の土師器坏は南西コーナー部の壁溝覆土下層から，３の土師器坏はP_3上の覆土下層から正位の状態で出土している。４の土師器椀は南東部の覆土下層から正位の状態で，５の土師器甕は北東部の床面直上から出土している。６の土玉は西部の床面直上から，７の土玉は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。また，第71号住居跡と同じようにほぼ中央部の床面上からロームブロックを含む厚さ12cmほどの粘土の固まりが，北部と南東部から焼土の固まりが２か所検出されているが，性格は不明である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後葉）と思われる。

第73号住居跡（第156図）

位置　調査区の東部，E8c_0区。

規模と平面形　長軸3.76m，短軸3.64mの方形である。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は50～65cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。

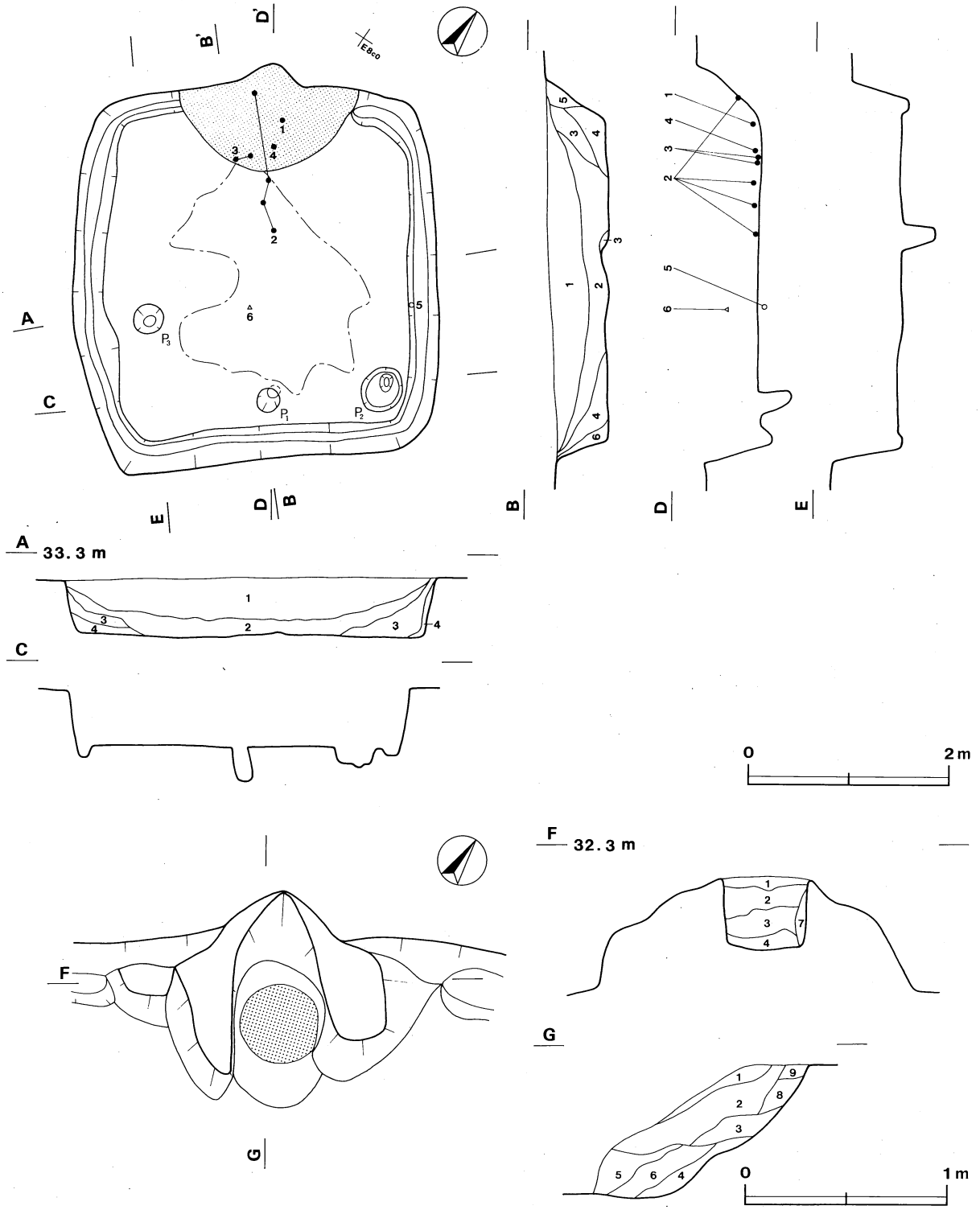
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1は長径24cm，短径22cmの不整楕円形，深さ33cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径47cm，短径30cm，深さ20cmの不整楕円形，P_3は径30cmの不整円形，深さ33cmでP_2・P_3とも性格は不明である。

竈　北西壁中央部を壁外に23cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ107cm，最大幅165cmである。火床部は，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用しており赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　粘土粒子中量，炭化・ローム粒子少量
2　灰褐色　粘土粒子多量，炭化・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　ローム・粘土粒子中量，炭化粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量
5　黒褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
7　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
8　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子少量
9　にぶい赤褐色　ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量

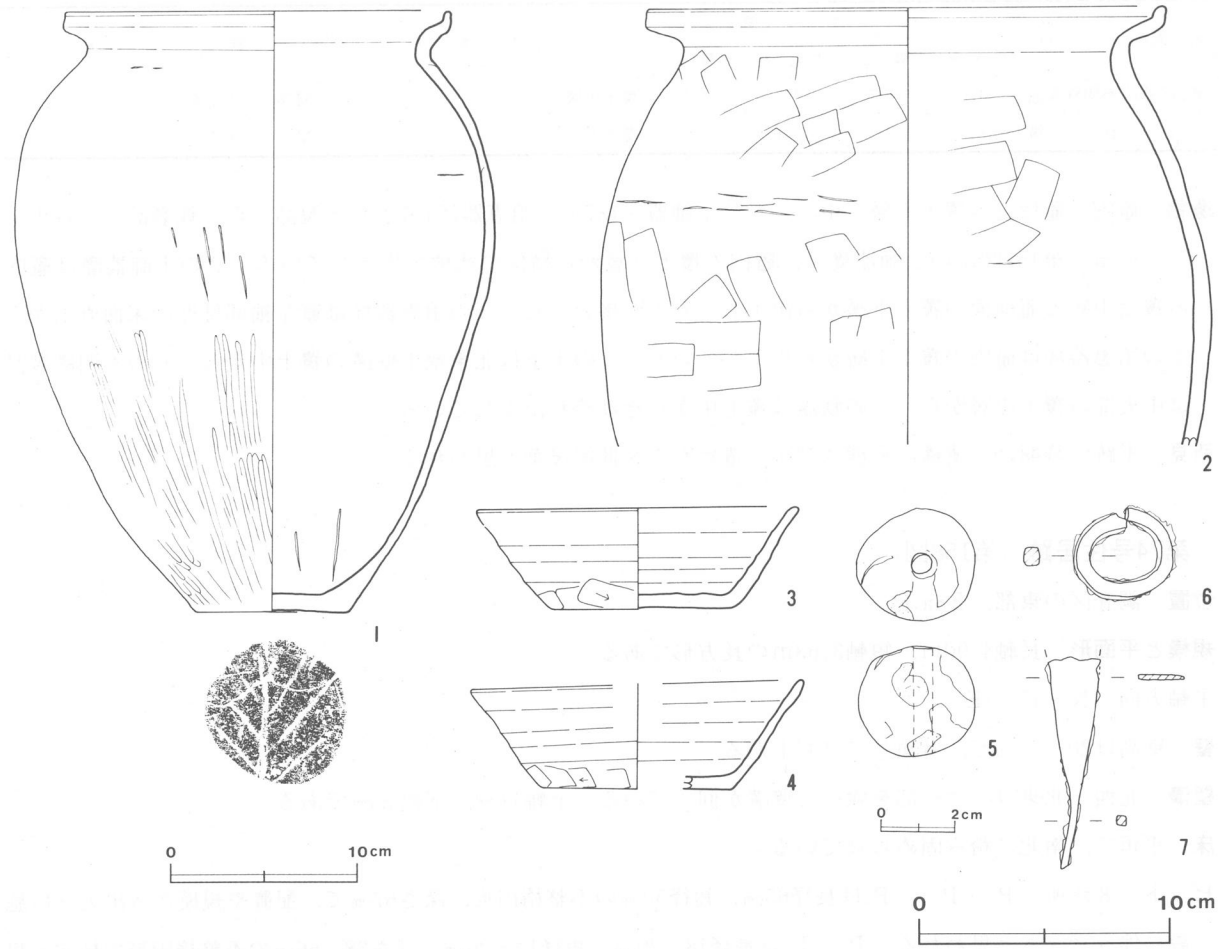


第156図　73号住居跡実測図

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム・粘土粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　砂粒・粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム大・小ブロック微量



第157図　第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	甕 土師器	A 20.5 B 32.2 C 8.3	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P389 95% PL32 竈覆土下層
2	甕 土師器	A 20.7 B (17.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P390 35% 竈覆土中・下層
3	坏 須恵器	A 13.0 B 4.0 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P391 95% PL32 床面
4	坏 須恵器	A 13.2 B 4.4 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P392 50% PL32 竈覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	土玉	3.2	3.0	0.5	23.9	覆土下層	DP96 PL36

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第157図6	不明鉄製品	4.0	3.7	0.7	16.7	覆土中層	M56　PL41
7	鉄　鏃	(8.4)	2.1	0.4	(7.3)	覆土中	M57　PL40

遺物　竈内と竈付近の覆土下層を中心にして土師器片187点，須恵器片107点，土製品1点，鉄製品が2点出土している。第157図1の土師器甕は，竈内の覆土下層から横位の状態で出土している。2の土師器甕は竈内の覆土中層と竈前面の覆土下層から出土したものが接合した。3の須恵器坏は竈左袖部付近の床面直上から，4の須恵器坏は竈内の覆土下層から出土している。5の土玉は北東壁下壁溝の覆土中から，6の不明鉄製品は中央部の覆土中層から，7の鉄鏃は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第74号住居跡（第158図）

位置　調査区の東部，E8a7区。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸3.63mの長方形である。

主軸方向　N－15°－E

壁　壁高は20～31cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西・北東コーナー部を除いて壁溝が回っている。上幅11cm，下幅3cmである。

床　平坦で，南北に踏み固められている。

ピット　8か所（P_1～P_8）。P_1は長径65cm，短径50cmの不整楕円形，深さ67cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_6は長径18～29cm，短径13～26cm，深さ38～66cmの不整楕円形で柱穴と思われる。P_7・P_8は長径20～23cm，短径18～20cmの不整楕円形，深さ16～27cmで性格は不明である。

竈　北壁中央部からやや東よりを壁外に50cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ156cm，最大幅122cmである。火床部は，床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用し，わずかに赤変している。煙道部は，火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。また，竈前面に竈から流れ出したと思われる焼土を検出した。

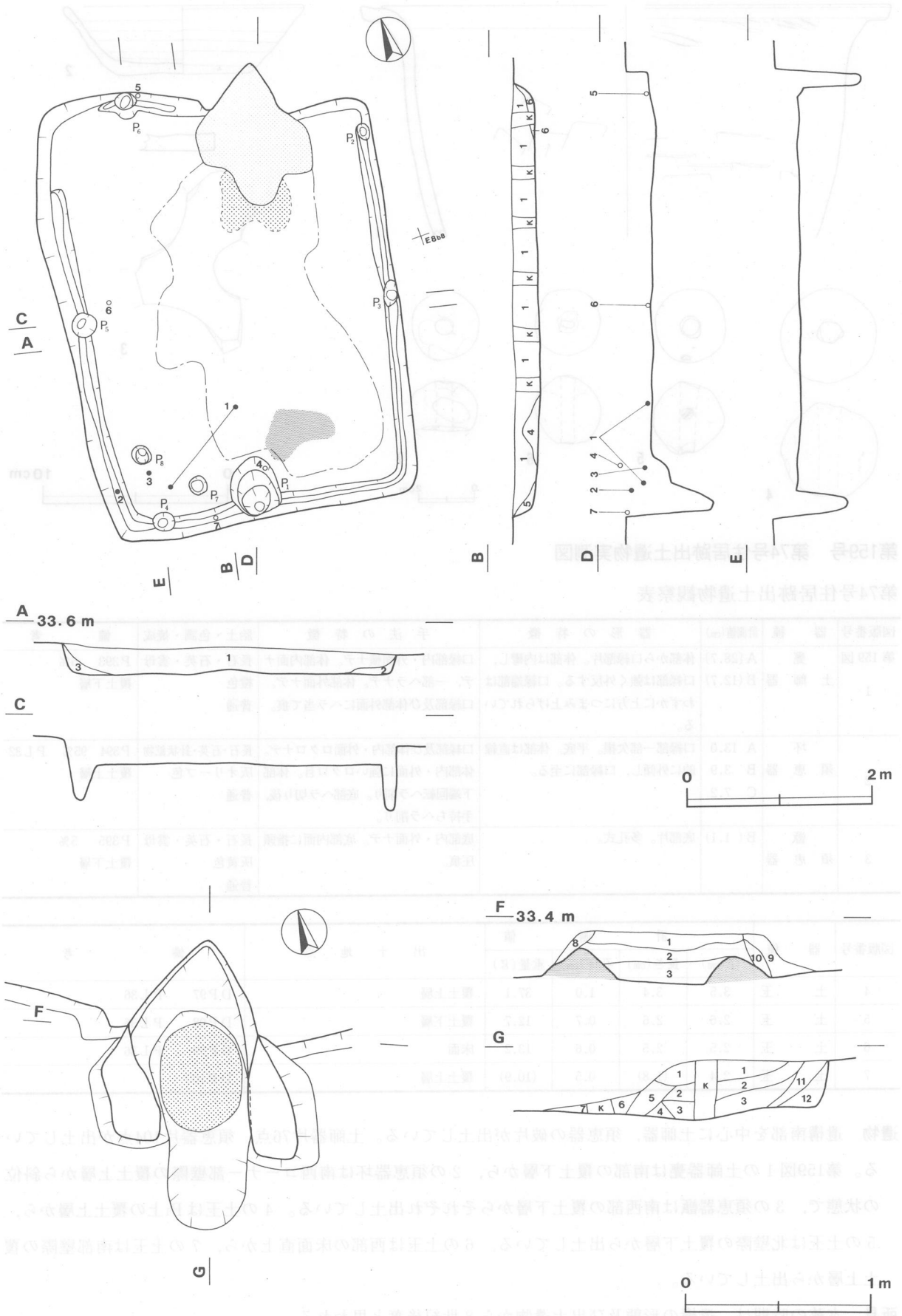
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム大ブロック多量
5　暗赤褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
8　にぶい赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
12　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量

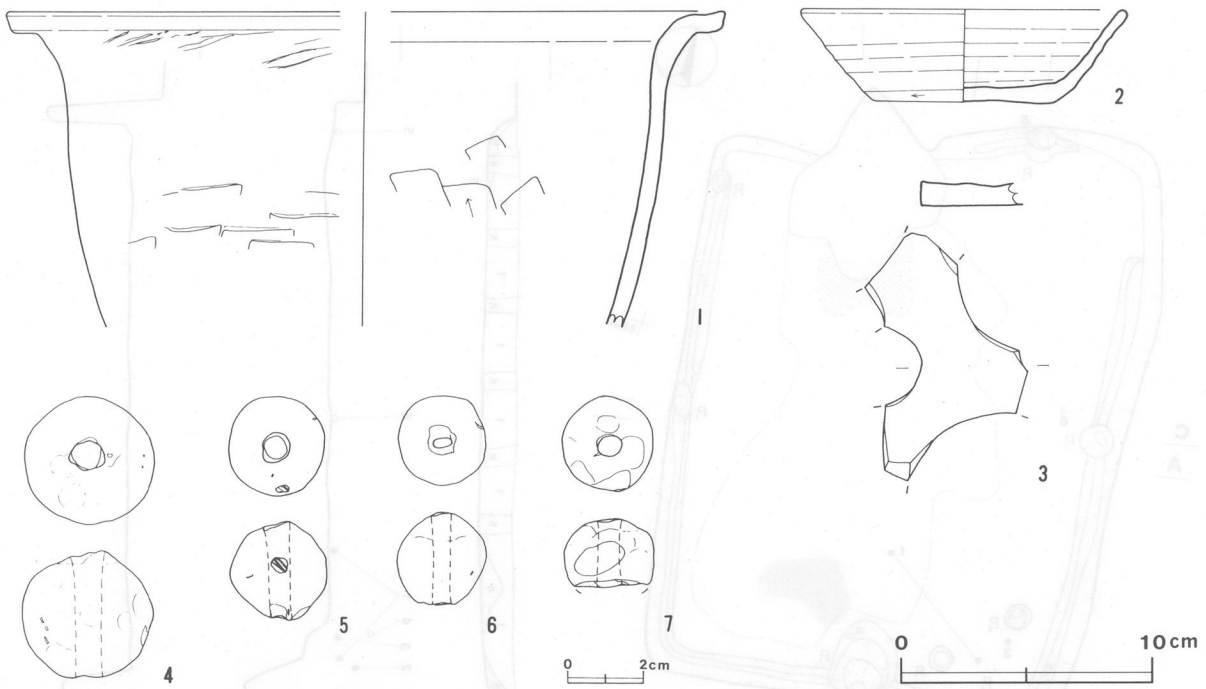
覆土　覆土の大部分を1層が占める。各層ともロームブロックを含み，人為的に埋め戻した可能性が高い。

土層解説

1　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量



第158図　第74号住居跡実測図



第159号　第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 1	甕 土師器	A〔28.7〕 B(12.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ナデ。口縁部及び体部外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P393　5% 覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.0 B 3.9 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P394　95%　PL32 覆土上層
3	甑 須恵器	B(1.1)	底部片。多孔式。	底部内・外面ナデ。底部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P395　5% 覆土下層

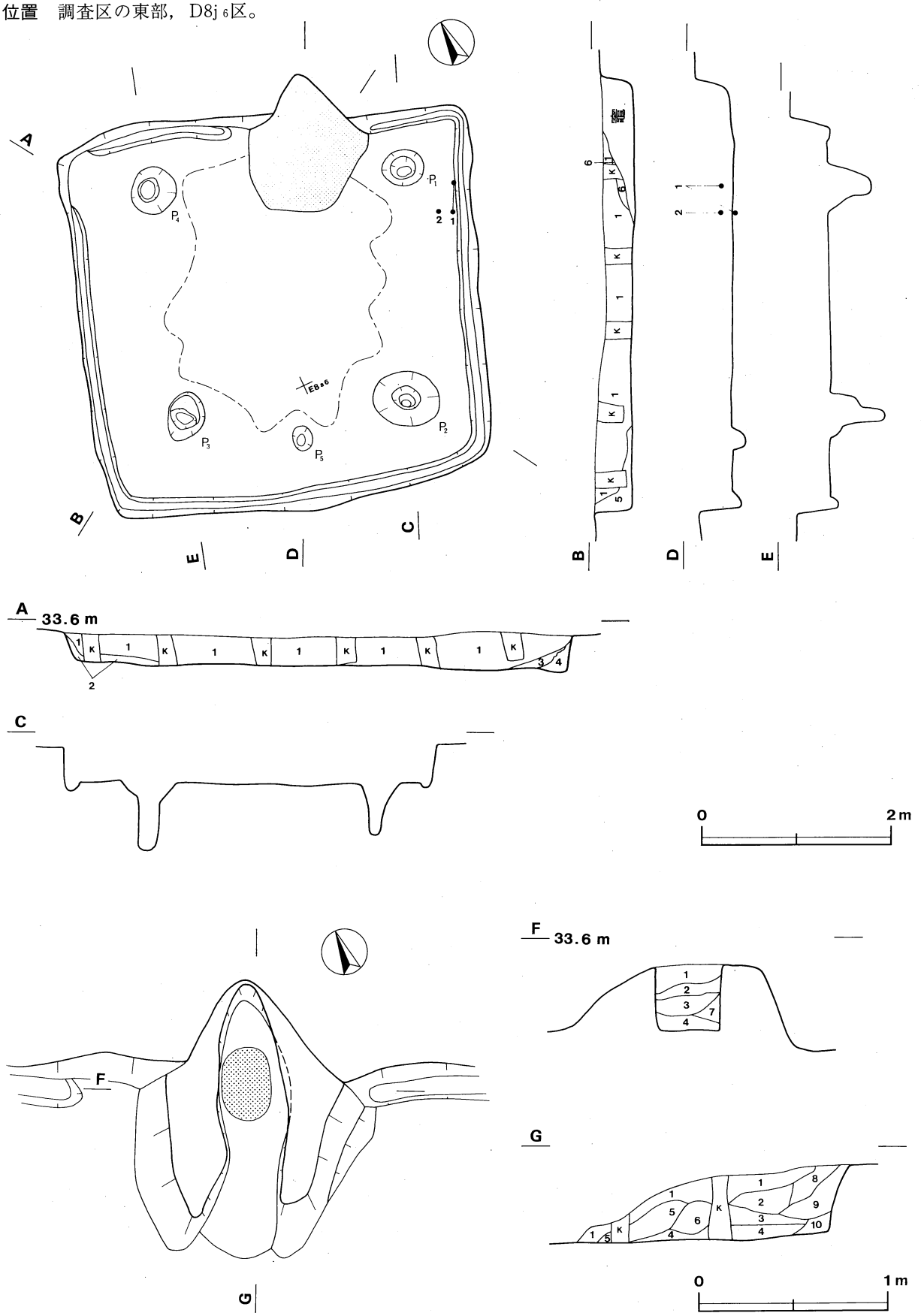
図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	土玉	3.5	3.4	1.0	37.1	覆土上層	DP97　PL36
5	土玉	2.6	2.6	0.7	12.7	覆土下層	DP98　PL36
6	土玉	2.5	2.5	0.6	13.2	床面	DP99　PL36
7	土玉	2.4	(1.8)	0.5	(10.9)	覆土上層	DP100

遺物　遺構南部を中心に土師器，須恵器の破片が出土している。土師器片76点，須恵器片104点が出土している。第159図1の土師器甕は南部の覆土下層から，2の須恵器坏は南西コーナー部壁際の覆土上層から斜位の状態で，3の須恵器甑は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。4の土玉はP_1上の覆土上層から，5の土玉は北壁際の覆土下層から出土している。6の土玉は西部の床面直上から，7の土玉は南部壁際の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第75号住居跡（第160図）

位置　調査区の東部，D8j 6区。



第160図　第75号住居跡実測図

規模と平面形　長軸4.29m，短軸4.22mの方形である。

主軸方向　N－26°－E

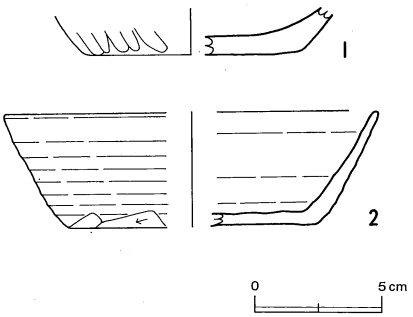
壁　壁高は32～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北西コーナー部と竈左袖部付近を除いて壁溝が回っている。上幅24cm，下幅6cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径70cm，短径45cmの不整楕円形，深さ46～73cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径26cm，短径21cmの不整楕円形，深さ14cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部からやや東よりを壁外に48cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，最大幅148cmである。火床部は，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。



竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量・焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　黒褐色　焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
5　灰褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
6　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　黒褐色　焼土・ローム粒子少量
10　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

第161図　第75号住居跡出土遺物実測図

覆土　覆土の大部分を1層が占め，ロームブロックを含み人為的に埋め戻されたと思われる。

土層解説

1　褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
4　褐色　ローム粒子中量
5　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	甕 土師器	B（1.9） C 8.4	体部から底部片。平底。	体部内面剝離。体部外面縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P396　5% 床面・覆土中層
2	坏 須恵器	A〔14.7〕 B 4.5 C〔9.8〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後，ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P397　10% 覆土中層

遺物　土師器片77点，須恵器片104点，鉄滓少量が出土しているが，全体的に破片が多い。第161図1の土師器甕は西壁際北部の床面と覆土中層から出土したものが接合した。2の須恵器坏は西部の覆土中層から出土している。

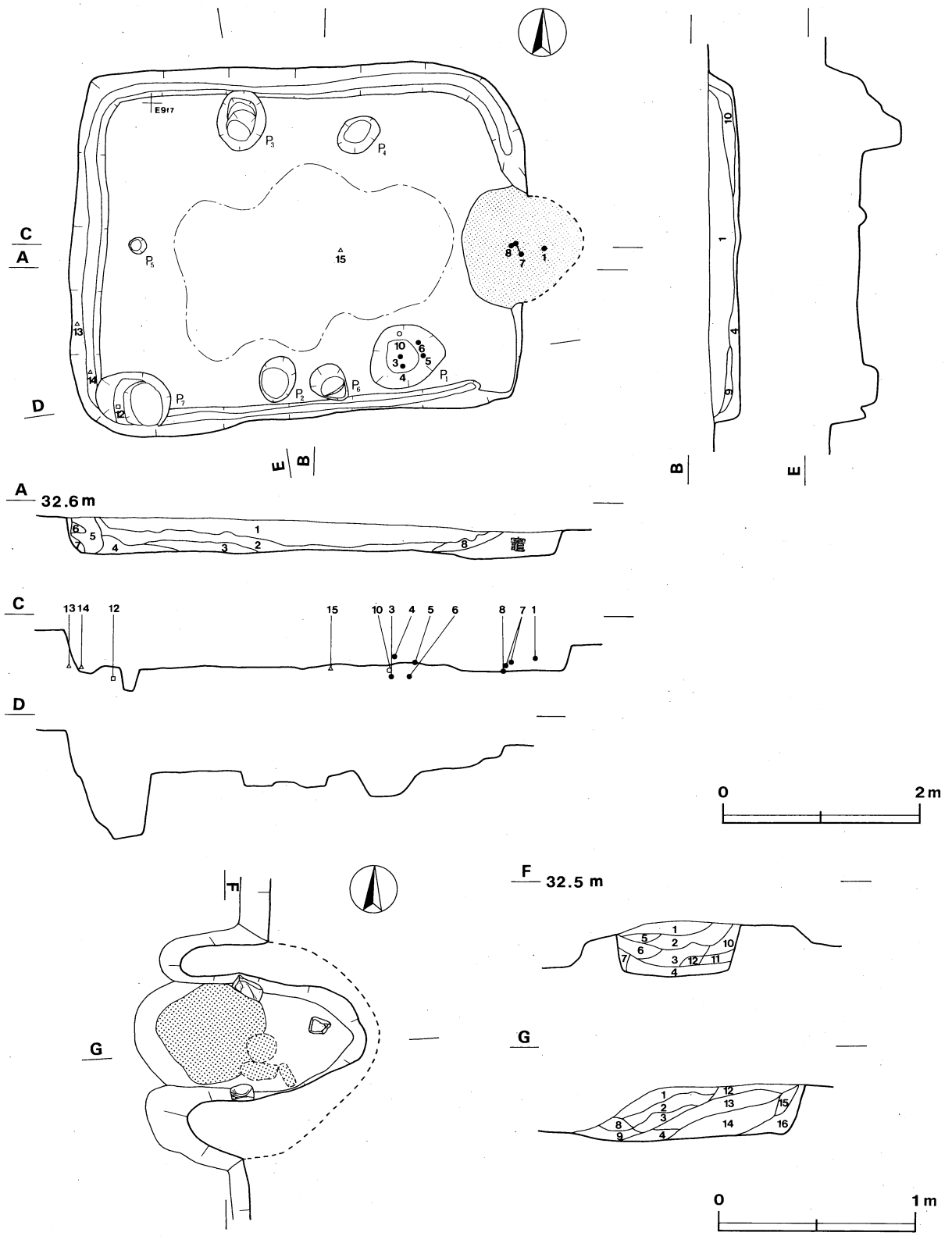
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀中葉）と思われる。

第76号住居跡（第162図）

位置　調査区の東部，E9f₇区。

規模と平面形　長軸4.60m，短軸3.64mの長方形である。

主軸方向　N－89°－E



第162図　第76号住居跡実測図

壁　壁高は15～40㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁の南部を除いて壁溝が回っている。上幅27㎝，下幅６㎝，深さ10㎝で，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。東部を中心に床面に凹凸が見られた。

ピット　７か所（P_1～P_7）。P_1～P_4は，長径45～76㎝，短径35～65㎝の不整楕円形，深さ17～35㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径18㎝の不整円形，深さ22㎝で，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6・P_7は長径44～77㎝，短径33～54㎝，深さ26～66㎝の不整楕円形で性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に62㎝ほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ126㎝，最大幅124㎝である。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。また，竈内から雲母片岩が３片出土している。その内２片は，袖部内側に貼り付くように出土している。これは，竈の補強材として使用された可能性がある。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土・炭化粒子中量
3　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
7　暗褐色　粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
8　極暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
9　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
11　暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
12　暗赤褐色　焼土大ブロック多量，焼土粒子中量
13　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化粒子少量
14　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
16　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

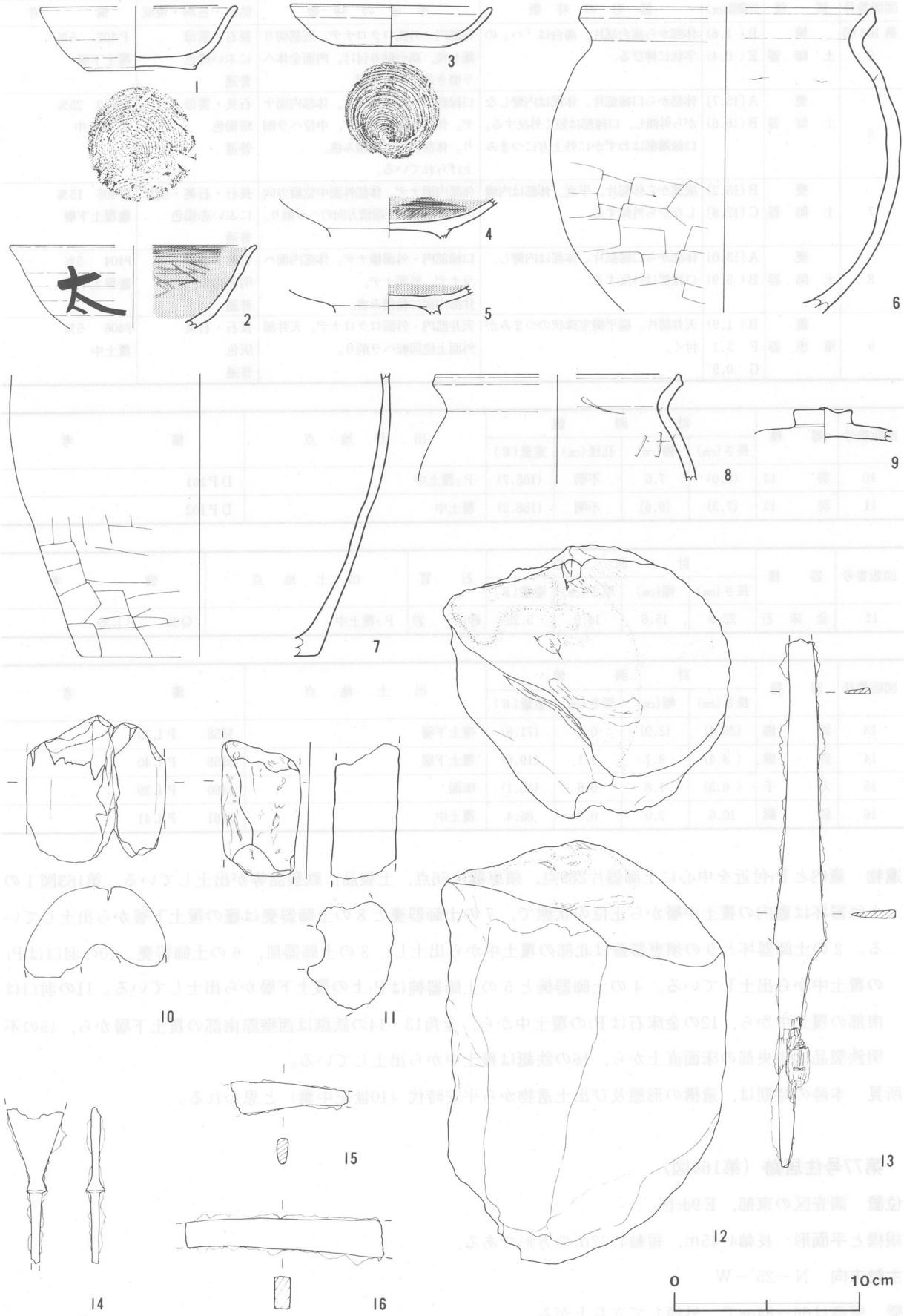
覆土　各層ともローム ブロック等を含み，また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　極暗褐色　炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　炭化物・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　黒褐色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
6　暗褐色　ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子中量
8　極暗褐色　焼土粒子・炭化物・ローム・粘土粒子少量
9　黒褐色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗褐色　炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 1	坏 土師器	A〔10.5〕 B 3.5 C 6.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P398 55% 竈覆土中層
2	坏 土師器	A〔13.2〕 B（4.5）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き後，黒色処理。	雲母 にぶい橙色 良好	P399 10% PL32 覆土中 体部外面に墨書「太」か
3	皿 土師器	A 10.9 B 2.2 C 5.7	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P400 100% PL32 P_1覆土中
4	椀 土師器	B（2.2） E（0.5）	体部から高台部片。高台は短く真下に伸びる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P401 10% 覆土下層



第163図　第76号出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第163図 5	椀 土師器	B(1.6) E(0.4)	体部から高台部片。高台は「ハ」の字状に伸びる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P402　5% 覆土下層
6	甕 土師器	A〔15.7〕 B(16.6)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は短く外反する。口縁端部はわずかに外上方につまみ	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，中位ヘラ削り。体部内面に輪積み痕。上げられている。	石英・雲母 暗褐色 普通	P403　25% P_1覆土中
7	甕 土師器	B(15.2) C〔12.8〕	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ。体部外面中位縦方向のヘラ削り，下端横方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P405　15% 竈覆土下層
8	甕 土師器	A〔13.0〕 B(5.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P404　5% 竈覆土下層
9	蓋 須恵器	B(1.9) F　3.1 G　0.9	天井部片。扁平擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P406　5% 覆土中

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	羽　口	(8.0)	7.6	不明	(165.7)	P_1覆土中	DP101
11	羽　口	(7.3)	〔9.6〕	不明	(158.2)	覆土中	DP102

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	金床石	22.9	15.6	14.9	5.25	砂　岩	P_7覆土中	Q30　PL39

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	鉄　鏃	(28.4)	(2.9)	0.4	(71.8)	覆土下層	M58　PL39
14	鉄　鏃	(8.4)	3.1	1.1	(19.6)	覆土下層	M59　PL40
15	刀　子	(6.3)	1.8	0.6	(15.1)	床面	M60　PL39
16	鉄　鋌	10.6	2.0	0.9	86.4	覆土中	M61　PL41

遺物　竈内とP_1付近を中心に土師器片289点，須恵器片66点，土製品，鉄製品等が出土している。第163図1の土師器坏は竈内の覆土中層から正位の状態で，7の土師器甕と8の土師器甕は竈の覆土下層から出土している。2の土師器坏と9の須恵器蓋は北部の覆土中から出土し，3の土師器皿，6の土師器甕，10の羽口はP_1の覆土中から出土している。4の土師器椀と5の土師器椀はP_1上の覆土下層から出土している。11の羽口は南部の覆土中から，12の金床石はP_7の覆土中から，全角13・14の鉄鏃は西壁際南部の覆土下層から，15の不明鉄製品は中央部の床面直上から，16の鉄鋌は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。

第77号住居跡（第164図）

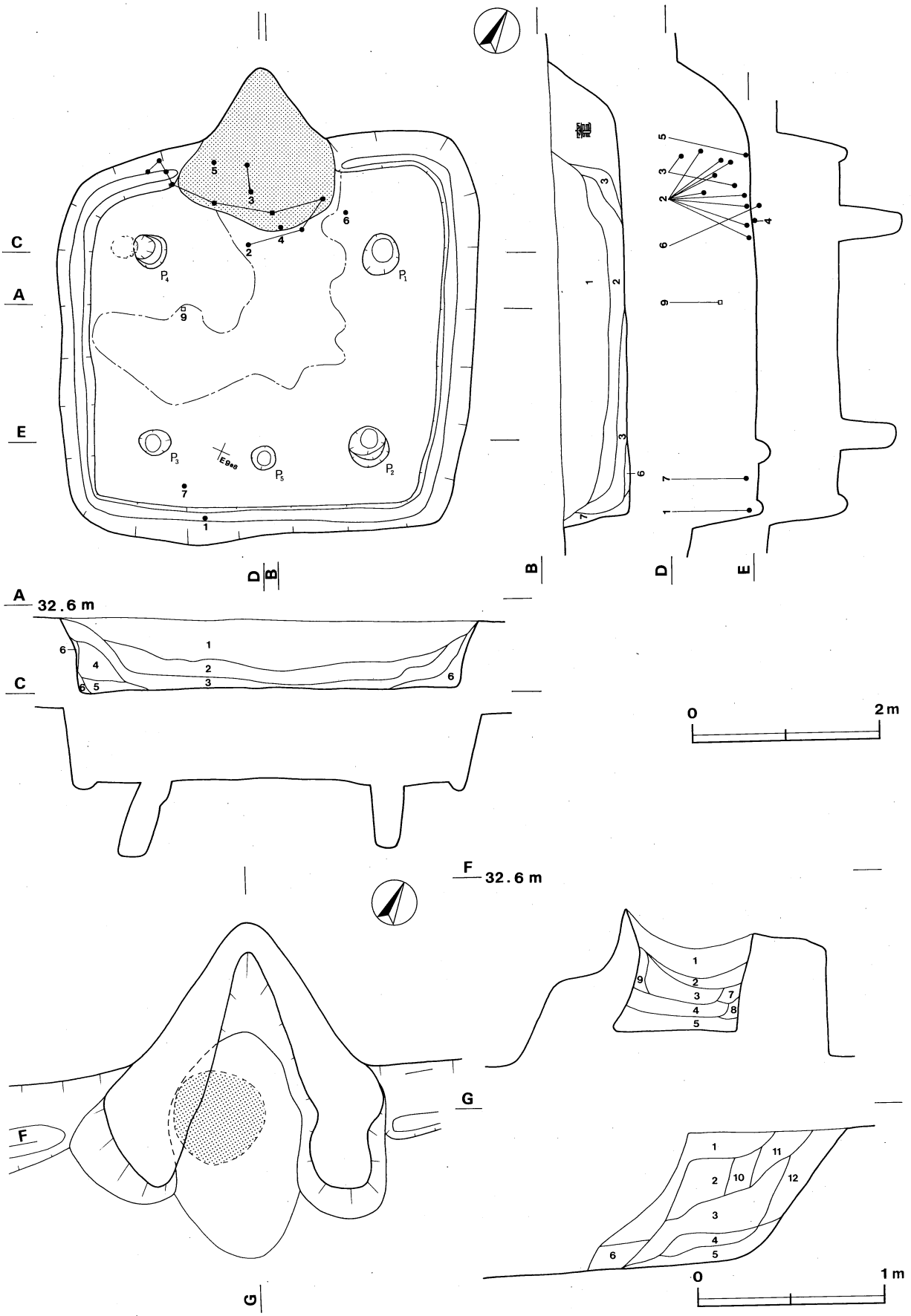
位置　調査区の東部，E9d_7区。

規模と平面形　長軸4.45m，短軸4.32mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は66～84cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅36cm，下幅10cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。



第164図　第77号住居跡実測図

床　平坦で，竈前面から西部にかけて踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径35～45㎝，短径30～42㎝の不整楕円形，深さ58～80㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径27㎝の不整円形，深さ15㎝で，出入り口施設に伴うピットと思われる。本跡の主柱穴は他の遺構に比べ，掘り込みが深いのが特徴である。また，P_4は中央に内傾するように掘り込まれていた。

竈　北西壁中央部を壁外に80㎝ほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は，崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ180㎝，最大幅170㎝である。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
8　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
11　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土・ローム粒子微量
12　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　各層ともロームブロックを含んでおり，また，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　極暗褐色　焼土・ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム・粘土粒子少量
3　黒 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化材微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
5　極暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量，炭化材微量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物　土師器片558点，須恵器片154点，土製品1点，石製品1点等が，竈付近を中心にして多量に出土している。第165図1の土師器高台付坏は南部壁際の覆土下層から，2の土師器甕は竈前面と竈左袖部付近の覆土中・下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は，竈の覆土上層と下層から出土したものが接合した。4の土師器甕は竈前面の床面直上から正位の状態で，5の須恵器坏は竈の覆土下層から横位の状態で出土している。6の須恵器坏は竈右袖部前面の床面直上から正位の状態で，7の須恵器高台付坏は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の土玉は覆土中から，9の石製紡錘車は西部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第165図 1	高台付坏 土師器	A〔14.0〕 B 4.1 C〔7.0〕	底部から口縁部片。高台部欠損。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。口縁部の器肉は薄い。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P407　25% 覆土下層
2	甕 土師器	A〔21.0〕 B 32.9 C 8.3	底部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は短く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P408　80%　PL32 竈覆土中・下層
3	甕 土師器	A 20.3 B(31.9)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は短く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P409　70% 竈覆土上・下層

第165図第77号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 4	小形甕 土師器	A〔13.4〕 B 14.9 C 7.4	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り。底部外面木葉痕。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P410 65% 床面 PL32
5	坏 須恵器	A 13.2 B 4.1 C 7.3	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P411 90% 竈覆土下層 PL32
6	坏 須恵器	A 13.0 B 5.1 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P412 90% 床面 PL32

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第165図 7	高台付坏 須恵器	A〔14.4〕 B　5.6 D〔 8.8〕 E　1.2	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P413　20% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土　玉	(3.0)	(2.2)	0.6	(13.4)	覆土中	DP103

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
9	石製紡錘車	3.9	0.9	0.9	23.5	粘板岩	覆土中層	Q31　PL38

第78号住居跡（第166・167図）

位置　調査区の東部，E9c9区。

規模と平面形　長軸6.03m，短軸5.66mの方形である。

主軸方向　N－32°－W

壁　壁高は69～89cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅27cm，下幅9cm，深さ17cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径77～91cm，短径69～80cmの不整楕円形，深さ73～107cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径49cm，短径43cmの不整楕円形，深さ31cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北西壁中央部からやや東よりを壁外に29cmほど半円状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ122cm，最大幅120cmである。火床部は床面と同じレベルの床面を使用し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

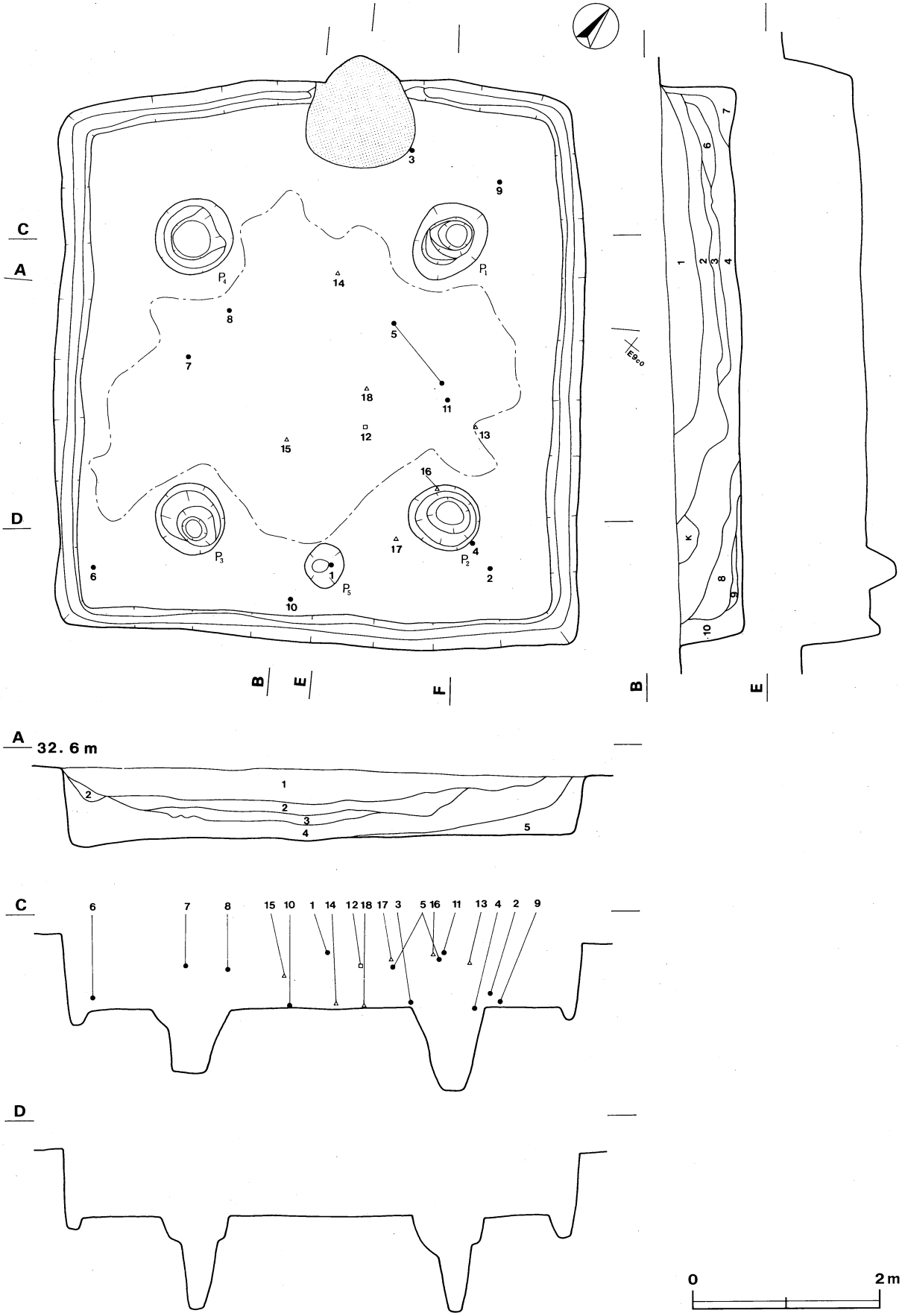
竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土大ブロック中量，炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子中量，炭化・粘土粒子少量
7　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　炭化・粘土粒子中量，焼土粒子少量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

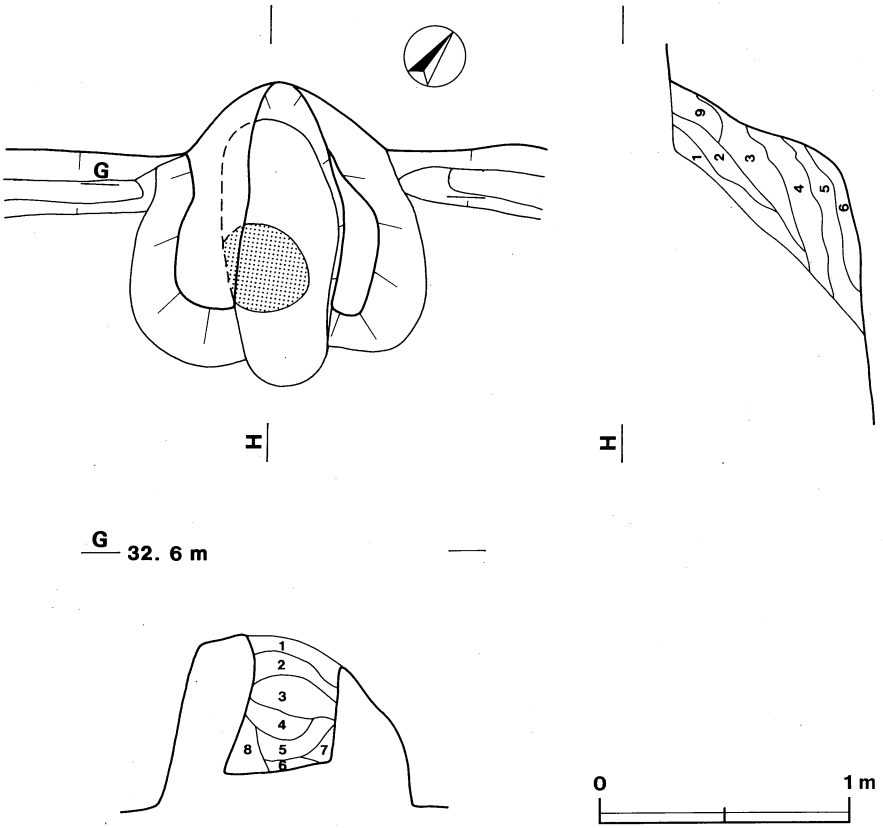
覆土　10層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化材・ローム粒子微量
4　暗 褐 色　焼土粒子中量，炭化物・ローム・粘土粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
6　暗 褐 色　焼土・ローム・粘土粒子少量，炭化材微量
7　黒 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化材・ローム粒子微量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量，炭化材微量
9　暗 褐 色　ローム・粘土粒子少量
10　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量



第166図　第78号住居跡実測図(1)



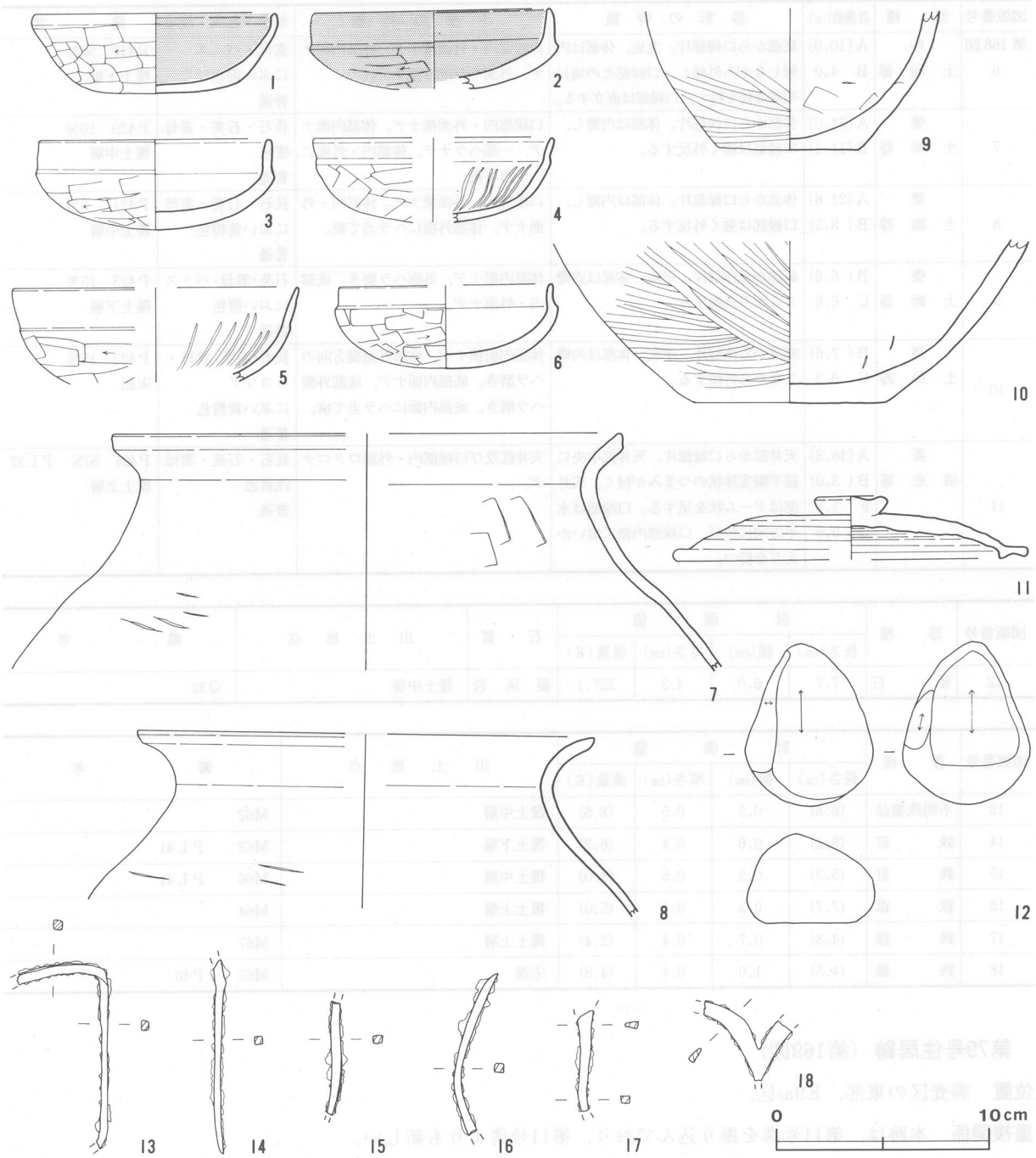
第167図　第78号住居跡実測図(2)

遺物　土師器を中心に，遺構全体の覆土各層から多量の土器が出土している。土師器片1,432点，須恵器片39点，鉄製品６点，石製品１点が出土している。第168図１の土師器坏はP_5上の覆土中層から，２の土師器坏は東コーナー部の覆土下層から，３の土師器坏は竈右袖部前面の覆土下層からいずれも正位の状態で出土している。４の土師器坏はP_2付近の覆土下層から逆位の状態で，５の土師器坏は中央部の覆土中層から出土した破片が接合した。６の土師器坏は南コーナー部の覆土下層から正位の状態で，７・８の土師器甕は西部の覆土中層から，９の土師器甕はP_5付近の床面直上からそれぞれ出土している。10の土師器甕は南東壁際の床面直上から，11の須恵器蓋は東部の覆土上層から出土している。12の砥石は中央部の覆土中層から，13の不明鉄製品は東部の覆土中層から，14の鉄釘は中央部の覆土下層から。15の鉄釘は同じく中央部の覆土中層から，16の鉄鏃と17の鉄鏃はP_2付近の覆土上層からそれぞれ出土している。18の鉄鏃は中央部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（７世紀後葉）と思われる。

第78号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	坏 土師器	A 11.4 B 3.8 C 6.0	口縁部一部欠損。丸みをおびた平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内面全体黒色処理。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P414　95% 覆土中層
2	坏 土師器	A 11.1 B(3.8)	底部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母 灰褐色 普通	P415　85%　PL32 覆土下層



第168図　第78号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第168図 3	坏 土師器	A 11.0 B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P416　55%　PL32 覆土下層
4	坏 土師器	A〔11.2〕 B（4.0）	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内面全体に暗文。	石英・雲母 橙色 普通	P417　45% 覆土下層
5	坏 土師器	A〔13.6〕 B（4.5）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部との境にわずかな稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に暗文。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P418　25% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第168図 6	坏 土師器	A〔10.0〕 B　4.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス にぶい褐色 普通	P419　50% 覆土下層
7	甕 土師器	A〔24.0〕 B(11.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部内・外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P420　10% 覆土中層
8	甕 土師器	A〔21.6〕 B(8.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P421　5% 覆土中層
9	甕 土師器	B(6.6) C　6.6	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。底部内・外面ナデ。	石英・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P423　15% 覆土下層
10	甕 土師器	B(7.6) C　9.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面横ナデ，体部外面縦方向のヘラ磨き。底部内面ナデ，底部外面ヘラ磨き。底部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P422　15% 床面
11	蓋 須恵器	A〔16.8〕 B(3.0) F　3.5 G　0.9	天井部から口縁部片。天井部中央に扁平擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。口縁部は水平方向に伸び，口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P424　50%　PL32 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	砥　石	7.7	6.0	4.2	227.1	凝灰岩	覆土中層	Q32

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	不明鉄製品	(8.8)	0.5	0.5	(8.6)	覆土中層	M62
14	鉄　釘	(9.2)	0.6	0.4	(6.3)	覆土下層	M63　PL41
15	鉄　釘	(5.3)	0.5	0.5	(4.0)	覆土中層	M66　PL41
16	鉄　鏃	(7.7)	0.5	0.4	(5.0)	覆土上層	M64
17	鉄　鏃	(4.8)	0.7	0.4	(2.4)	覆土上層	M67
18	鉄　鏃	(4.5)	1.0	0.4	(4.8)	床面	M65　P40

第79号住居跡（第169図）

位置　調査区の東部，E9a8区。

重複関係　本跡は，第11号溝を掘り込んでおり，第11号溝よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.66m，短軸3.30mの方形である。

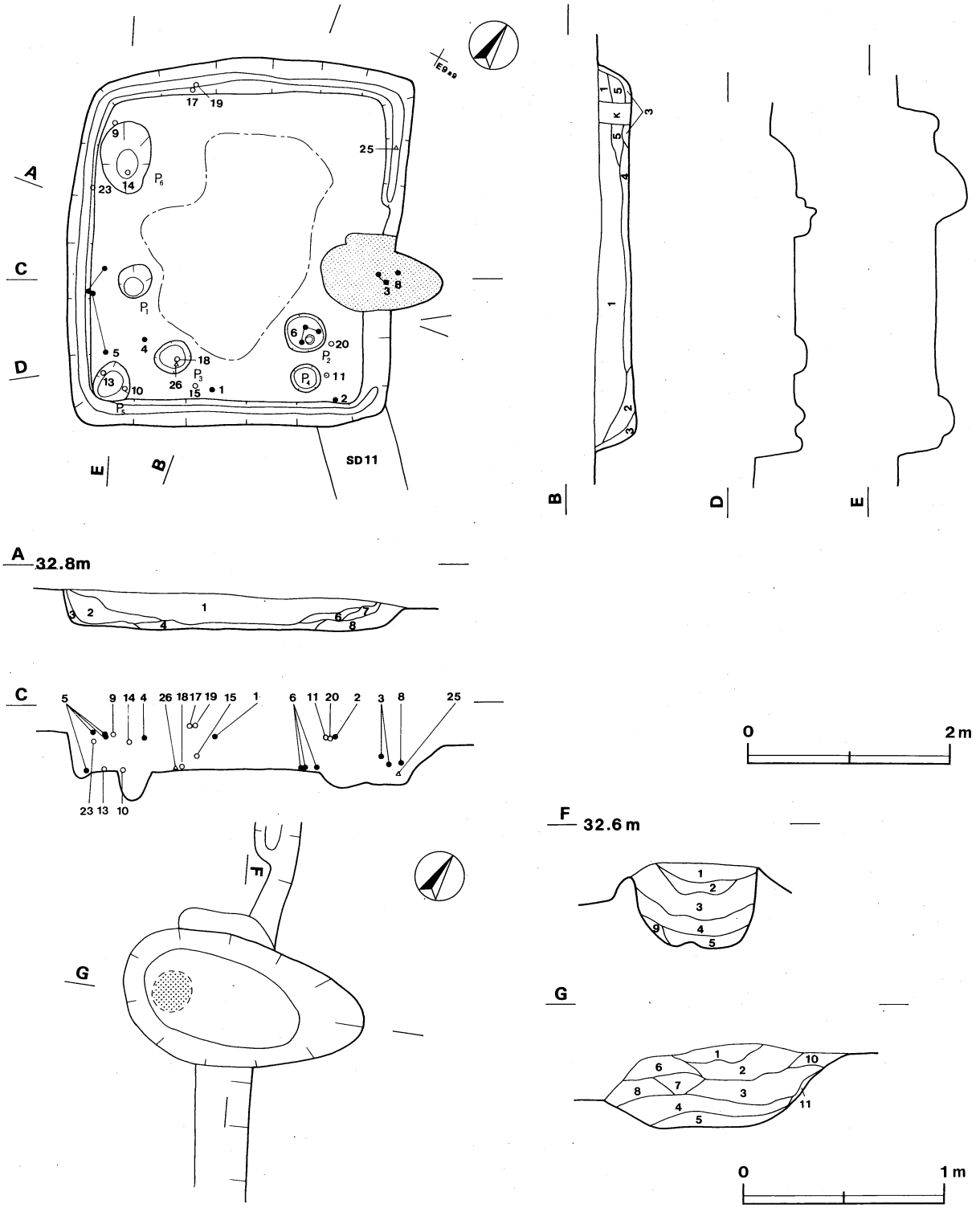
主軸方向　N－61°－E

壁　壁高は36～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北東壁の南部と竈左袖部付近を除いて壁溝が回っている。上幅27cm，下幅7cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1は長径35cm，短径32cmの不整楕円形，深さ32cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_6は長径30～72cm，短径28～51cm，深さ8～31cmの不整楕円形で性格は不明である。



第169図　第79号住居跡実測図

竈　北東壁ほぼ中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，袖部も一部が残存するのみである。規模は，焚口部から煙道部までの長さ122cm，最大幅 76cmである。火床部は床面を15cmほど掘り窪め，焚口部は一段低くなっている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　黒　　褐　　色　焼土・ローム粒子微量
2　黒　　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子少量
4　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　黒　　褐　　色　焼土粒子少量，粘土粒子少量
7　灰　　褐　　色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
8　黒　　褐　　色　焼土・粘土粒子少量
9　暗　赤　褐　色　粘土粒子中量，焼土・ローム粒子少量
10　暗　赤　褐　色　焼土・ローム粒子中量，焼土・ローム小ブロック少量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック中量

覆土　8層からなる自然堆積である。

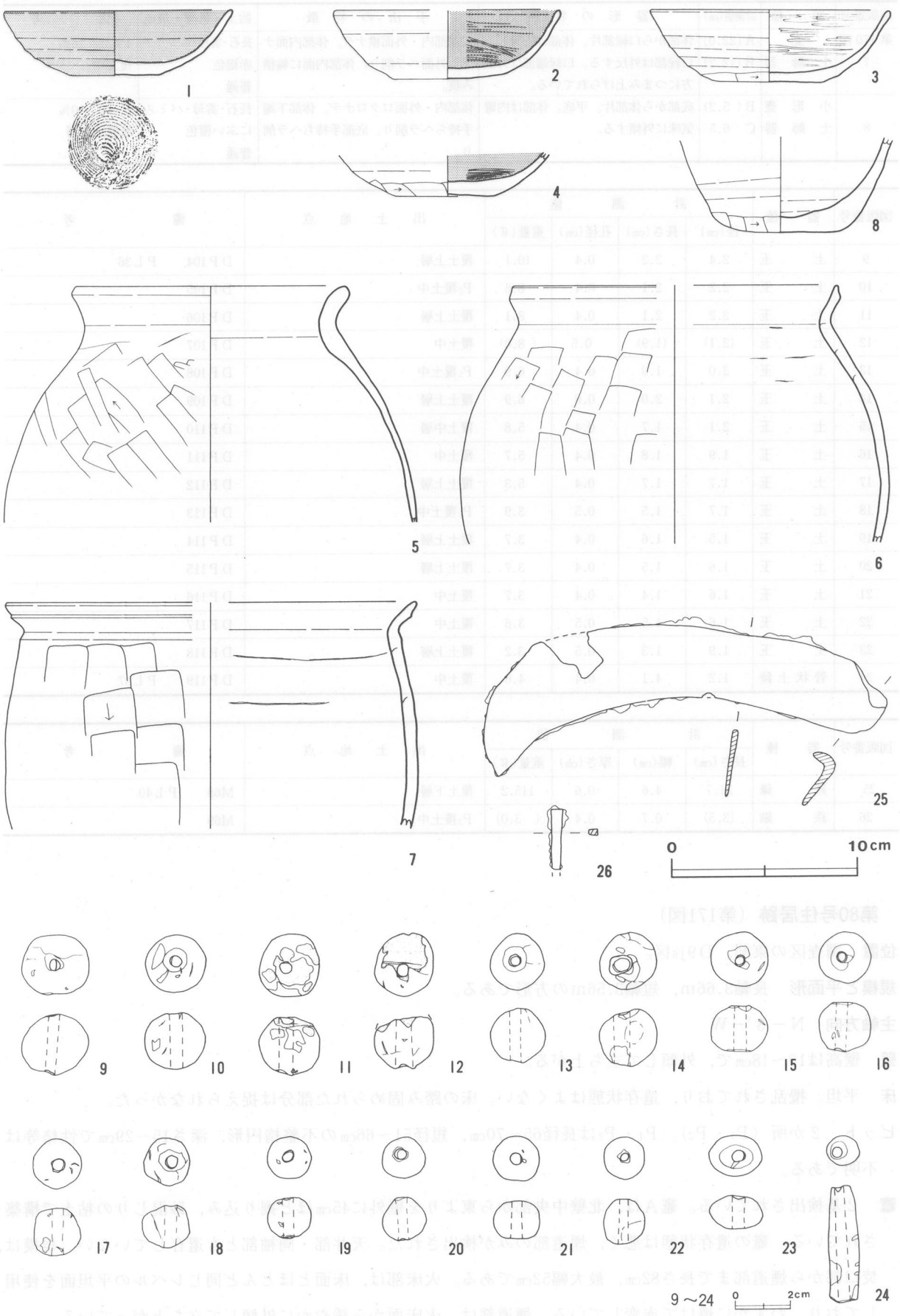
土層解説
1　極暗褐色　焼土・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化材微量
4　極暗褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム・粘土粒子微量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子微量
7　極暗褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量
8　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片225点，須恵器片26点，土製品16点，鉄製品2点，鉄滓250gが出土している。本跡の遺物は，他に比べて竈内及び柱穴内から多く出土していることと，土玉が多く出土しているのが特徴である。第170図1の土師器坏は南東壁際の覆土上層から，2の土師器坏は東コーナー壁際の覆土上層から，3の土師器坏と8の土師器甕はいずれも竈内の覆土中層から出土している。4の土師器坏は南部の覆土上層から，5の土師器甕は南西壁際の覆土上層と下層から出土したものが接合した。6の土師器甕はP_2内の覆土中から，7の土師器甕は覆土中から出土している。9・14の土玉はP_6付近の覆土上層から，10・13の土玉はP_5の覆土中から，11の土玉はP_4付近の覆土上層からそれぞれ出土している。15の土玉は南東壁の際覆土中層から，17・19の土玉は北西壁際の覆土上層から，18の土玉と26の鉄鏃はP_3の覆土中からそれぞれ出土している。20の土玉はP_2付近の覆土上層から，23の土玉は南西壁際の覆土上層から，25の鉄鎌は北東壁際北部の覆土下層から出土している。12・16・21・22の土玉と24の管状土錘はいずれも覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第170図 1	坏 土師器	A 12.3 B 3.6 C 4.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P425　65%　PL32 覆土上層
2	坏 土師器	A〔12.0〕 B 3.8 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面全体ヘラ磨き後黒色処理。底部外面はナデ。	長石・石英・雲母 黄褐色 普通	P426　60% 覆土上層
3	坏 土師器	A 12.8 B 4.0 C 5.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。内面全体ヘラ磨き。底部外面はナデ。	雲母・パミス 橙色 普通	P427　45% 竈覆土中層
4	坏 土師器	B(2.4) C 5.5	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P428　30% 覆土上層
5	甕 土師器	A 14.8 B(12.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剝離。体部外面ヘラ削り。	雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P429　20% 覆土上・下層
6	甕 土師器	A〔17.6〕 B(13.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P430　25% P_2覆土中



第170図　第79号出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 7	甕 土師器	A〔22.0〕 B(12.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。体部内面に輪積み痕。	長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P431 15% 覆土中
8	小形甕 土師器	B(5.2) C 6.5	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P432 10% 竈覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	土玉	2.4	2.2	0.4	10.1	覆土上層	DP104 PL36
10	土玉	2.2	2.1	0.4	8.6	P_5覆土中	DP105
11	土玉	2.2	2.1	0.4	8.1	覆土上層	DP106
12	土玉	(2.1)	(1.9)	0.5	(8.0)	覆土中	DP107
13	土玉	2.0	1.9	0.4	6.9	P_5覆土中	DP108
14	土玉	2.1	2.0	0.6	6.9	覆土上層	DP109
15	土玉	2.1	1.7	0.4	5.8	覆土中層	DP110
16	土玉	1.9	1.8	0.4	5.7	覆土中	DP111
17	土玉	1.7	1.7	0.4	5.3	覆土上層	DP112
18	土玉	1.7	1.5	0.5	3.9	P_3覆土中	DP113
19	土玉	1.5	1.6	0.4	3.7	覆土上層	DP114
20	土玉	1.6	1.5	0.4	3.7	覆土上層	DP115
21	土玉	1.6	1.4	0.4	3.7	覆土中	DP116
22	土玉	1.6	1.5	0.5	3.6	覆土中	DP117
23	土玉	1.9	1.3	0.5	3.2	覆土上層	DP118
24	管状土錘	1.2	4.1	0.4	4.6	覆土中	DP119 PL37

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
25	鉄鎌	21.7	4.6	0.6	115.2	覆土下層	M68 PL40
26	鉄鏃	(3.5)	0.7	0.4	(3.0)	P_3覆土中	M69

第80号住居跡（第171図）

位置　調査区の東部，D9j6区。

規模と平面形　長軸3.66m，短軸3.56mの方形である。

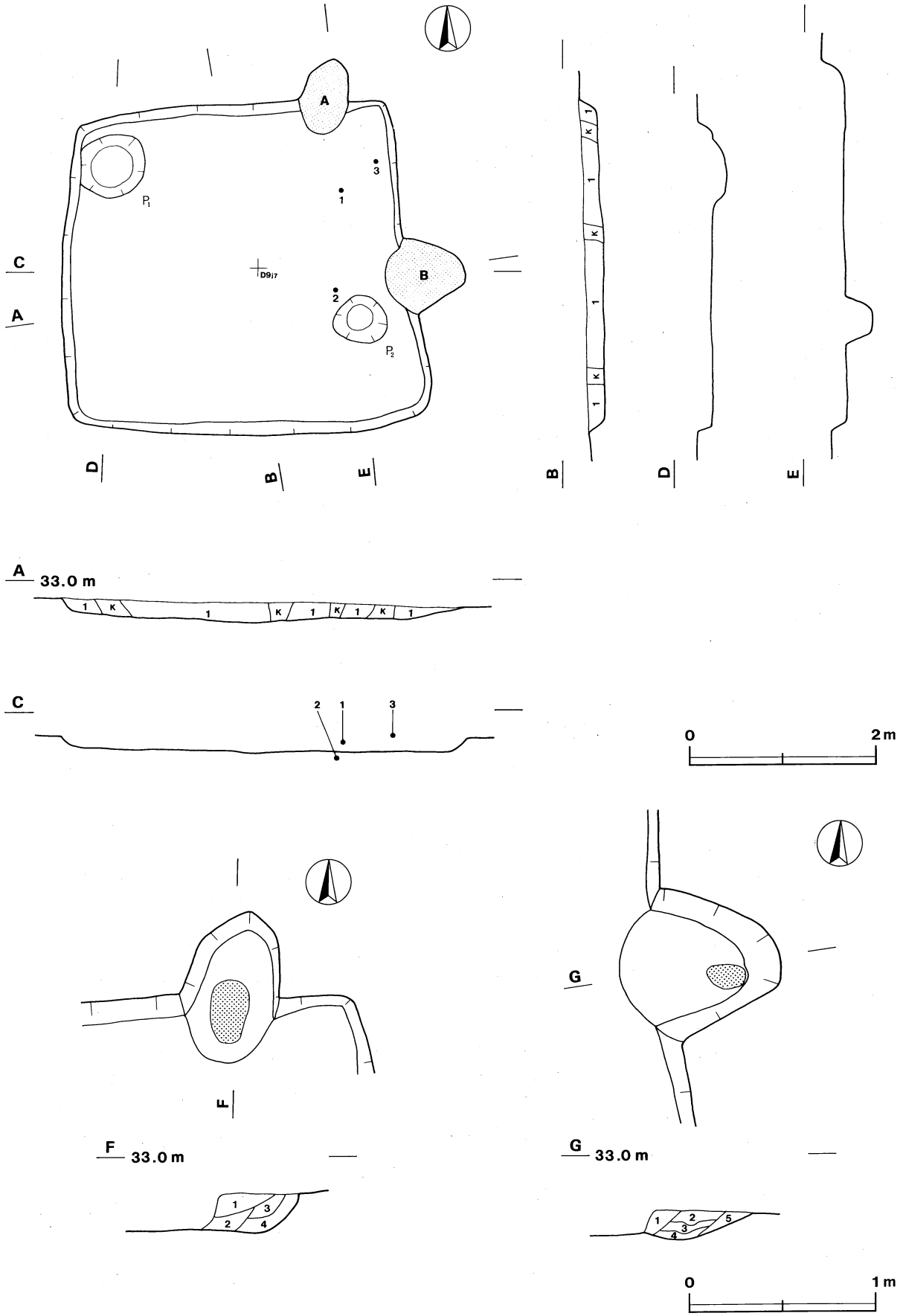
主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は10～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦。攪乱されており，遺存状態はよくない。床の踏み固められた部分は捉えられなかった。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は長径65～70cm，短径51～66cmの不整楕円形，深さ15～29cmで性格等は不明である。

竈　2基検出されている。竈Aは，北壁中央部から東よりを壁外に45cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。竈の遺存状態は悪く，煙道部のみが検出された。天井部・両袖部とも遺存していない。規模は，焚口部から煙道部まで長さ82cm，最大幅52cmである。火床部は，床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用しており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。



第171図　第80号住居跡実測図

竈Ａ土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土・ローム小ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土・炭化粒子微量

竈Ｂは，東壁中央部からやや南よりをを壁外に59cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ87cm，最大幅83cmである。竈Ａ同様遺存状態は悪く，天井部・両袖部とも遺存していない。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用しており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈Ｂ土層解説
1　灰 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量

覆土　耕作による撹乱を受けているが，１層からなる自然堆積である。

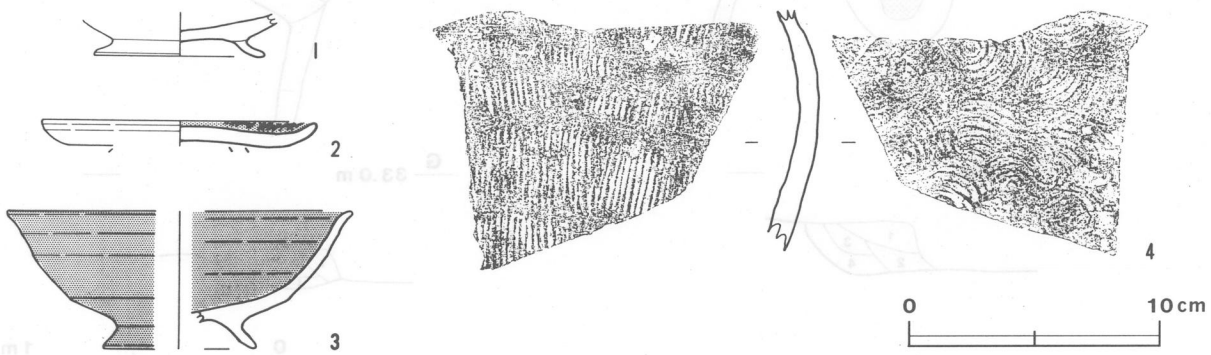
土層解説
1　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片105点，須恵器片11点，鉄滓80ｇが出土している。遺構全体に撹乱を受けているため破片が多く，遺物の遺存状態は悪い。第172図１土師器高台付皿は北東部の覆土中層から，２の土師器高台付皿は東部の床面直上から，３の土師器椀は東壁際北部の覆土上層からそれぞれ出土している。４は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に縦方向の平行タタキ，内面に同心円状の当て具痕が見られる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（11世紀前葉）と思われる。

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第172図 1	高台付皿 土師器	B（1.8） D 6.8 E 0.7	高台部片。高台は短く外反し，端部は広がる。	底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P433 5% 覆土中層
2	高台付皿 土師器	A 10.8 B（1.0）	高台部及び口縁部一部欠損。	底部切り離し後，高台貼り付け。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。	雲母・スコリア・針状鉱物 にぶい橙色 普通	P434 50% 床面
3	椀 土師器	A〔13.7〕 B 5.5 D〔6.0〕 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に外反する。体部は内彎しながら外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒色 普通	P435 25% 覆土上層



第172図　第80号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡（第173図）

位置　調査区の南部，E8g3区。

規模と平面形　長軸3.27m，短軸（2.54）mの〔方形〕と思われる。

主軸方向　N－7°－W

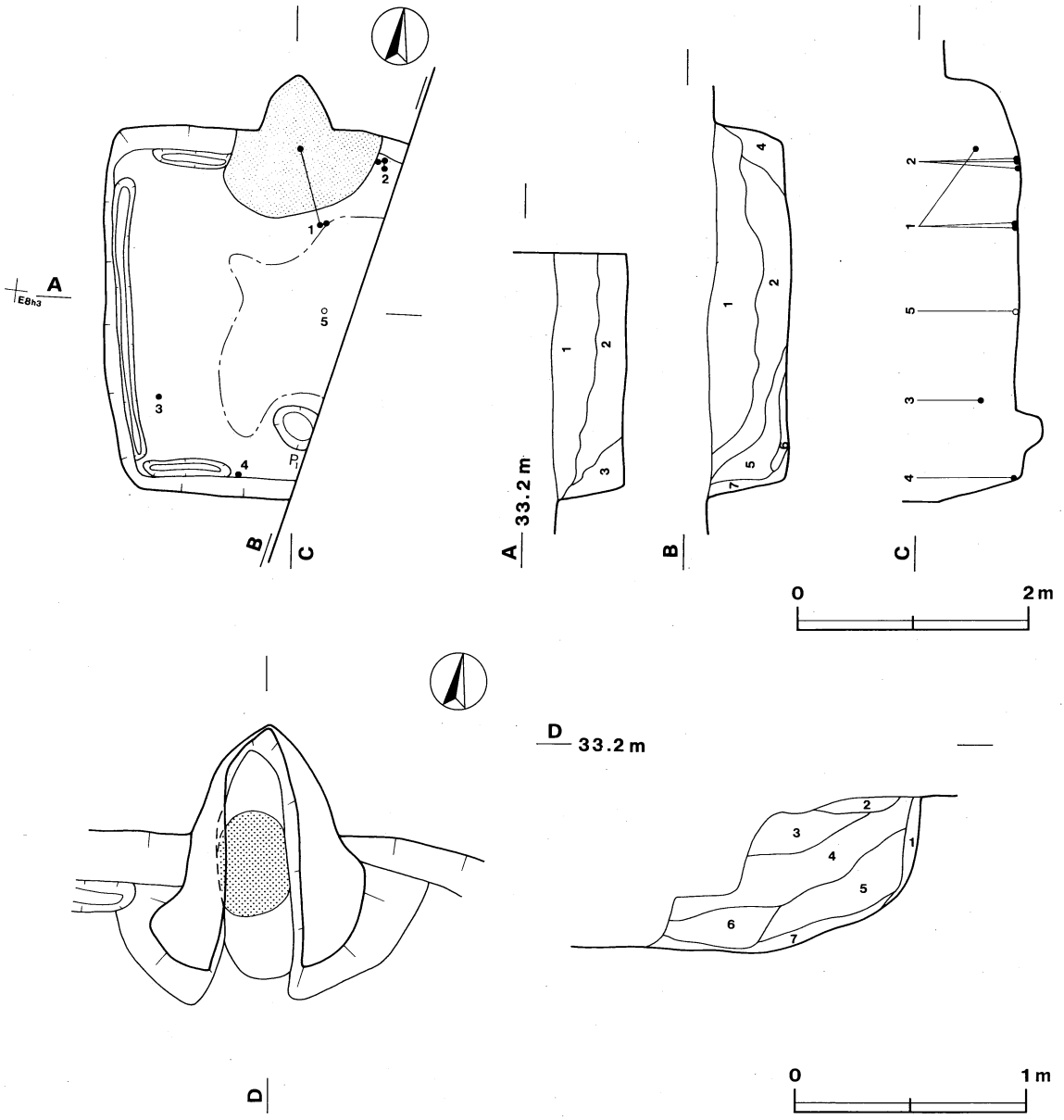
壁　壁高は40～74cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，西壁と北壁及び南壁の西側に壁溝が検出された。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径（35）cm，短径（36）cmの不整楕円形，深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に50cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，最大幅130cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は，火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。



第173図　第81号住居跡実測図

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土・粘土粒子少量
4　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子少量
7　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量

覆土　7層からなる自然堆積である。

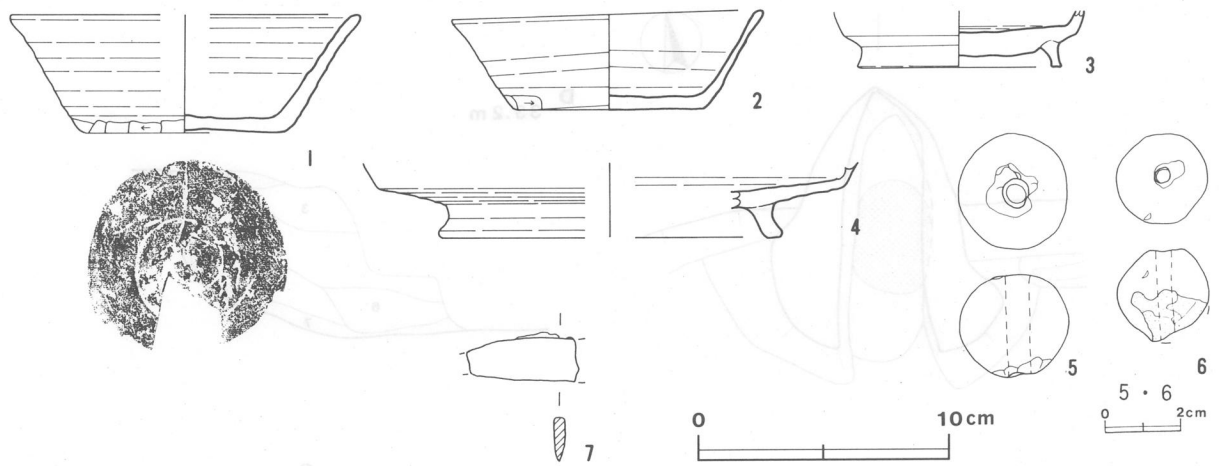
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器片63点，須恵器片28点，土製品2点，鉄製品1点の他，鉄滓が少量出土している。第174図1の須恵器坏は，竈内の覆土中層と竈前面の床面直上から出土したものが接合した。2の須恵器坏は竈右袖部外側の床面直上から，3の須恵器高台付坏は南西部の覆土中層から，4の須恵器盤は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。5の土玉は中央部の床面直上から，6の土玉と7の鉄鎌は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第174図 1	坏 須恵器	A〔14.0〕 B　4.7 C　8.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後，ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P436　55% 床面・竈覆土中層
2	坏 須恵器	A 12.6 B　3.9 C　7.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 淡黄色 普通	P437　66% 床面
3	高台付坏 須恵器	B（2.3） D　8.2 E　1.0	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P438　30% 覆土中層
4	盤 須恵器	B（3.0） D〔13.6〕 E　1.3	高台部片。高台は短く，外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 オリーブ色 普通	P439　15% 覆土下層



第174図　第81号住居跡出土遺物実測図

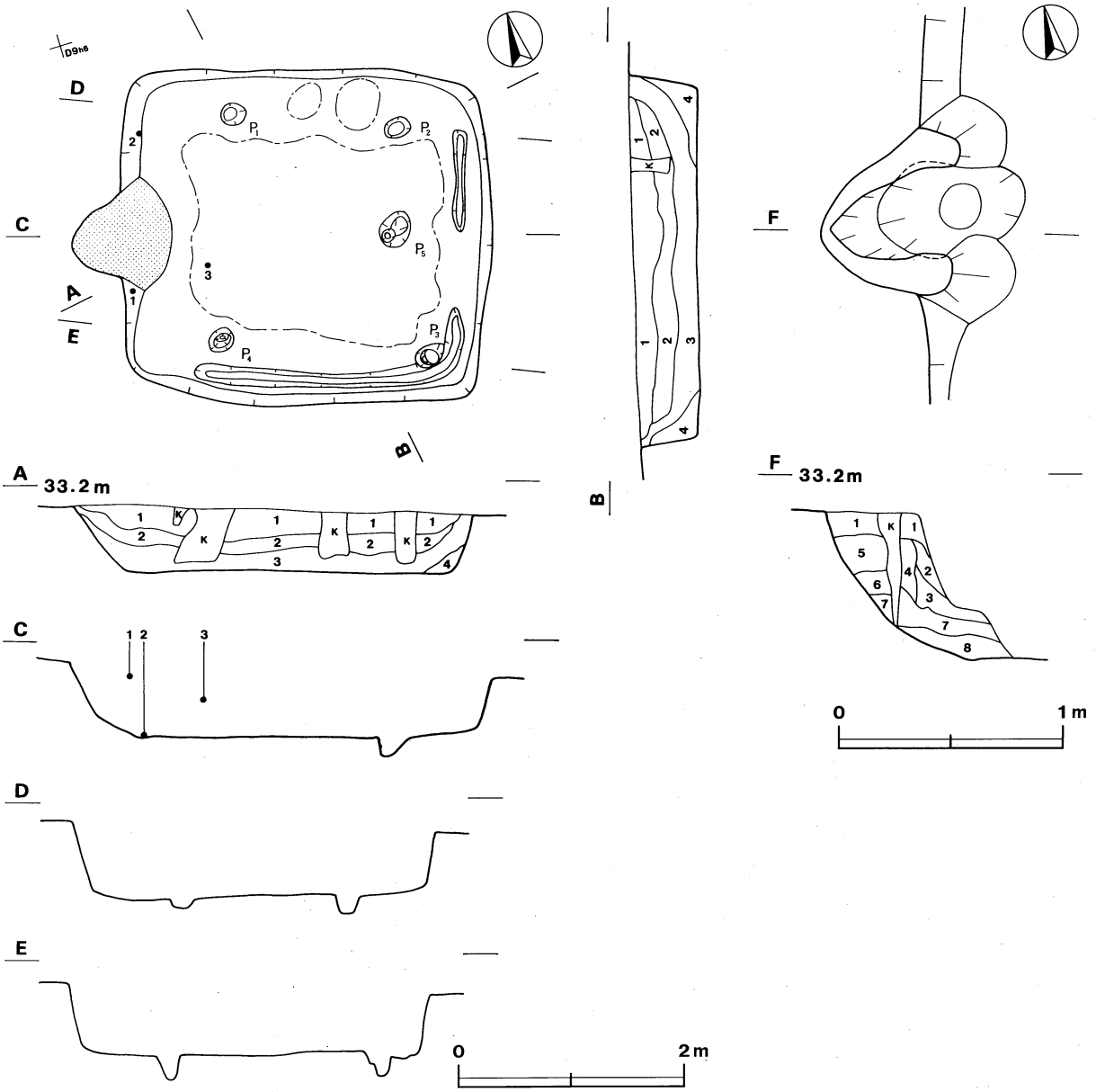
図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第174図5	土　玉	2.9	2.7	0.6	24.8	床面	DP120　PL36
6	土　玉	2.5	2.5	0.4	12.9	覆土中	DP121　PL36

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	鉄　鎌	(4.5)	1.8	0.5	(8.1)	覆土中	M70

第82号住居跡（第175図）

位置　調査区の東部，D9h6区。

規模と平面形　長軸3.24m，短軸3.0mの方形である。



第175図　第82号住居跡実測図

主軸方向　N－68°－W

壁　壁高は42～64cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁と東壁の一部から検出した。上幅15cm，下幅6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。また，北壁際の2か所にも硬化面が検出された。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は長径23～29cm，短径17～20cmの不整楕円形，深さ10～24cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径34cm，短径25cmの不整楕円形，深さ17cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　西壁中央部のやや南側を壁外に45cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅103cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し，中位からは急に立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗褐色　炭化・ローム粒子微量
2　暗褐色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
3　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
4　暗褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
3　暗褐色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

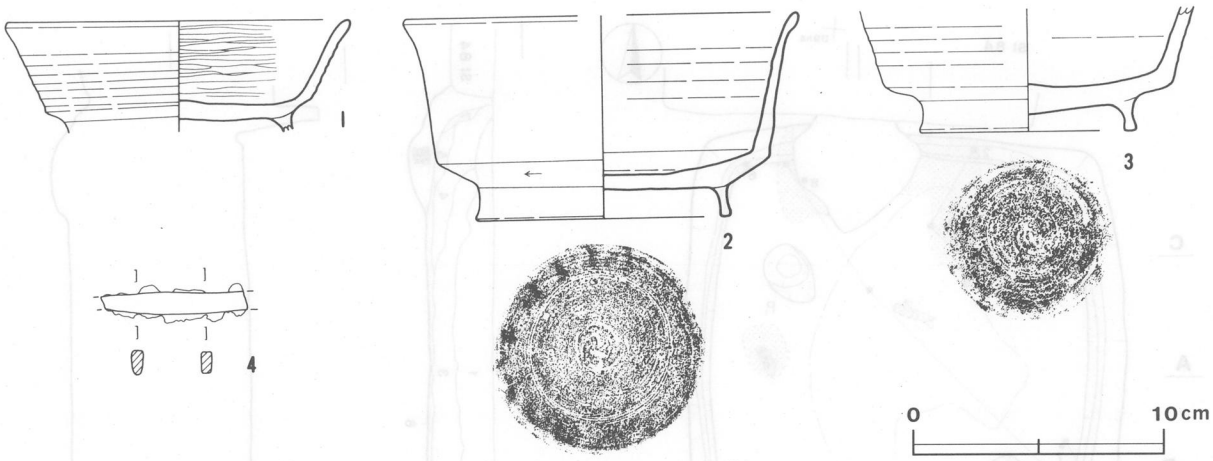
遺物　土師器片239点，須恵器片56点の他，鉄製品が出土している。第176図1の土師器高台付坏は竈左袖部付近の覆土上層から正位の状態で，2の須恵器高台付坏は西壁際北部の床面直上から，3の須恵器高台付坏は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。4の刀子は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	高台付坏 土師器	A 13.7 B (4.0) E (0.5)	高台部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面全体ヘラ磨き。体部外面に強いロクロ目。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P440　90%　PL33 覆土上層
2	高台付坏 須恵器	A〔15.7〕 B 8.3 D 10.2 E 1.3	高台部から口縁部片。高台は短く真下に伸びる。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P441　65%　PL33 床面
3	高台付坏 須恵器	B (5.0) D 8.6 E 1.5	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P442　50% 覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	刀子	(5.9)	0.9	0.5	(7.4)	覆土中	M71



第176図　第82号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡（第177図）

位置　調査区の東部，D9h7区。

重複関係　本跡は，北部を第84号住居跡に掘り込まれていることから，第84号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸3.73m，短軸3.52mの方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は50～64cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅30cm，下幅7cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

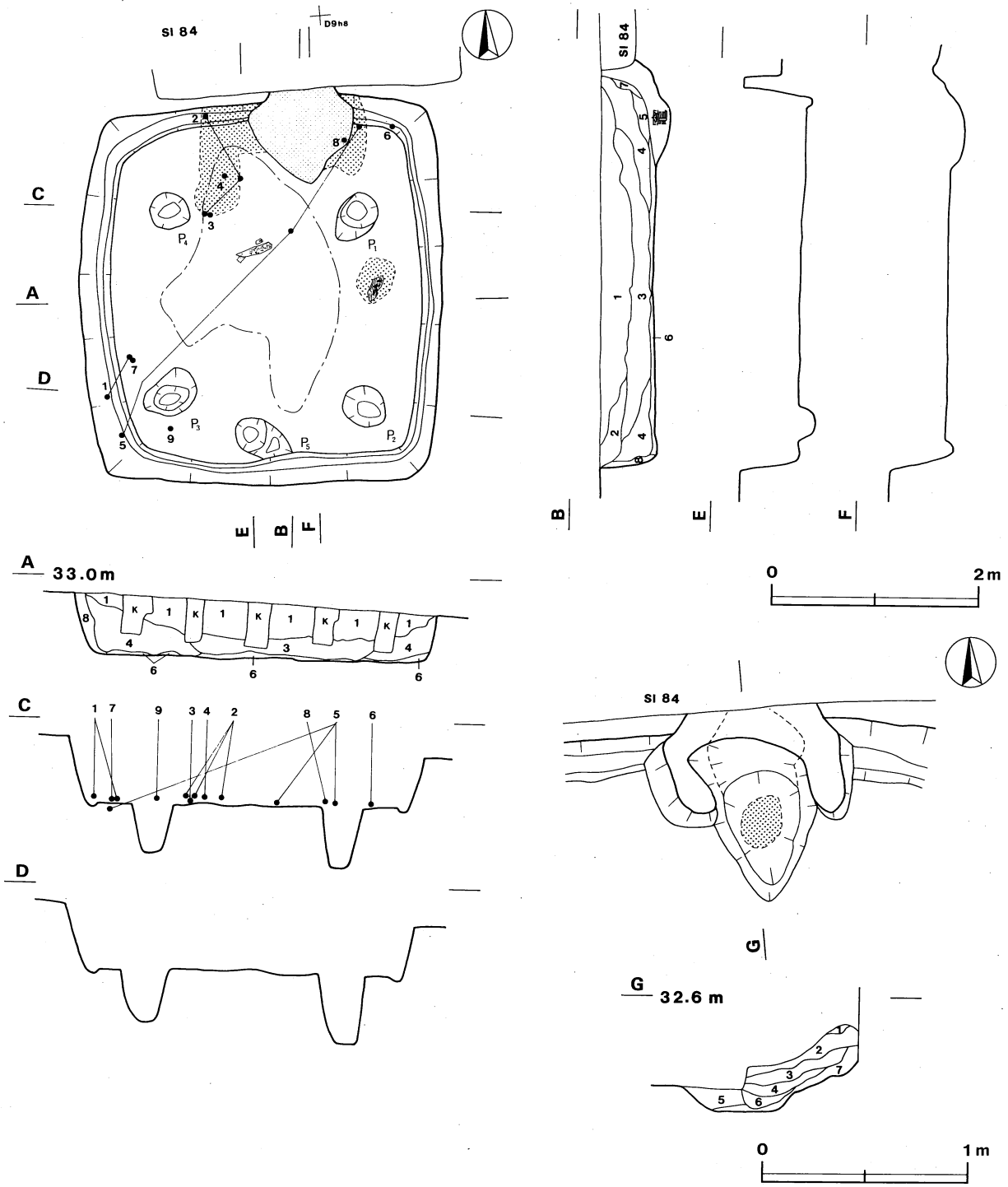
ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径40～55cm，短径35～37cmの不整楕円形，深さ49～67cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径60cm，短径34cmの不整楕円形，深さ31cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部からやや東よりを壁外に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，最大幅110cmであるが，第84号住居跡に掘り込まれているため，焚口部から煙道部までの長さは不明である。火床部は，床面を14cmほど皿状に掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
2　灰 褐 色　砂粒多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
3　暗 褐 色　焼土中ブロック中量，焼土大・小ブロック・焼土・炭化粒子・砂粒少量
4　暗 褐 色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　焼土中ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・焼土粒子微量
6　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
7　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

覆土　8層からなる自然堆積である。

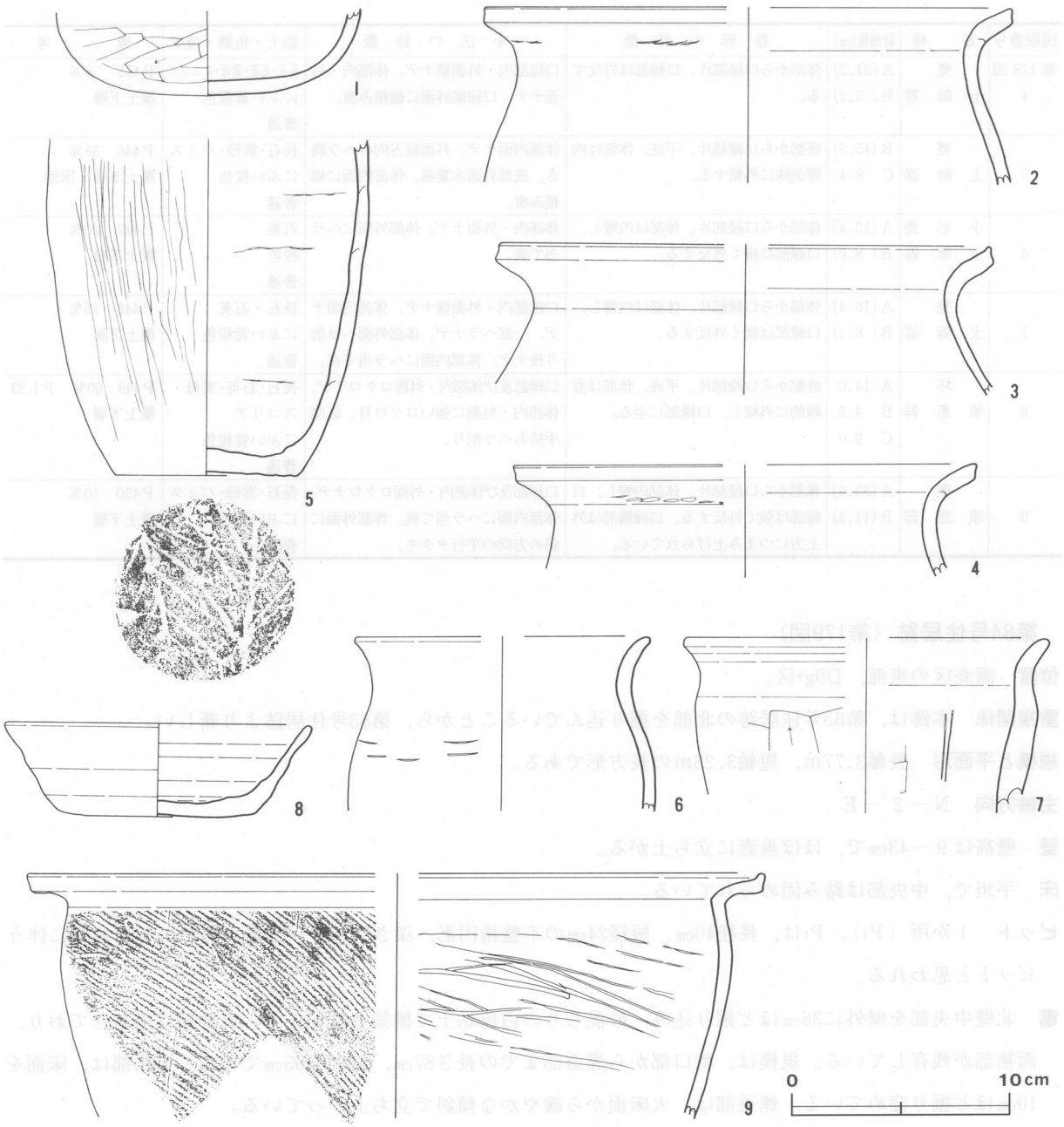
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
6　暗 褐 色　焼土中ブロック少量，ローム粒子微量
7　暗 褐 色　砂粒多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量



第177図　第83号住居跡実測図

遺物　土師器片126点，須恵器片26点が遺構北部と南西コーナー部を中心に覆土下層から出土している。また，炭化材が2か所床面に貼り付くようにして出土している。第178図1の土師器坏は南西部壁際の覆土下層から，2・3の土師器甕は北部の覆土下層から出土している。4の土師器甕は北部の覆土下層から，5の土師器甕は北部の覆土下層と南西コーナー部壁際の床面直上から出土したものが接合した。6の土師器小形甕は北東コーナー部の覆土下層から，7の土師器甕は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の須恵器坏は竈右袖部付近の覆土下層から，9の須恵器甕は，P_3付近の覆土下層からぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。



第178図　第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第178図 1	坏 土師器	B(3.9)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P443　25% 覆土下層
2	甕 土師器	A〔24.0〕 B(8.1)	体部から口縁部片。口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P444　15% 覆土下層
3	甕 土師器	A〔22.2〕 B(6.9)	体部から口縁部片。口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P445　10% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第178図 4	甕 土師器	A〔21.2〕 B(5.2)	体部から口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P452　5% 覆土下層
5	甕 土師器	B(15.5) C　8.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。体部内面に輪積み痕。	長石・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P446　35% 覆土下層・床面
6	小形甕 土師器	A〔13.4〕 B(8.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	体部内・外面ナデ。体部外面にヘラ当て痕。	石英 橙色 普通	P447　20% 覆土下層
7	甕 土師器	A〔16.4〕 B(8.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P448　15% 覆土下層
8	坏 須恵器	A 14.0 B　4.2 C　9.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P449　60%　PL33 覆土下層
9	甕 須恵器	A〔33.6〕 B(11.3)	体部から口縁部片。体部内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面にヘラ当て痕。体部外面に斜め方向の平行タタキ。	長石・雲母・パミス にぶい黄色 普通	P450　10% 覆土下層

第84号住居跡（第179図）

位置　調査区の東部，D9g7区。

重複関係　本跡は，第83号住居跡の北部を掘り込んでいることから，第83号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.77m，短軸3.23mの長方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は9～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は，長径40cm，短径24cmの不整楕円形，深さ22cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に36cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ87cm，最大幅95cmである。火床部は，床面を10cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

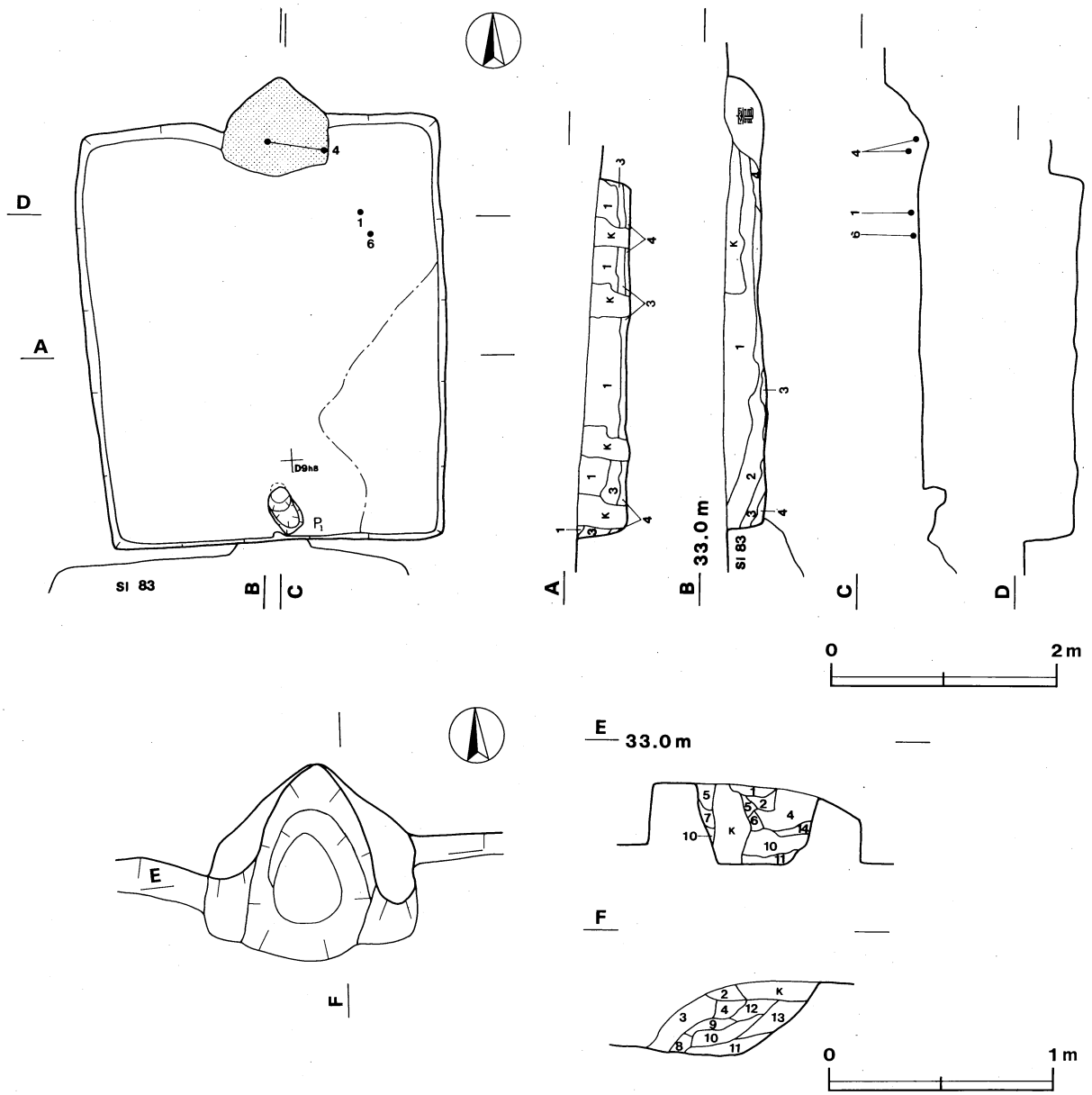
竈土層解説

1　褐　　色　焼土・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
4　暗　褐　色　砂粒多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化・ローム粒子・砂粒少量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土大ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
11　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
12　暗赤褐色　砂粒中量，焼土・ローム粒子少量
13　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
14　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・　砂粒中量，炭化粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量



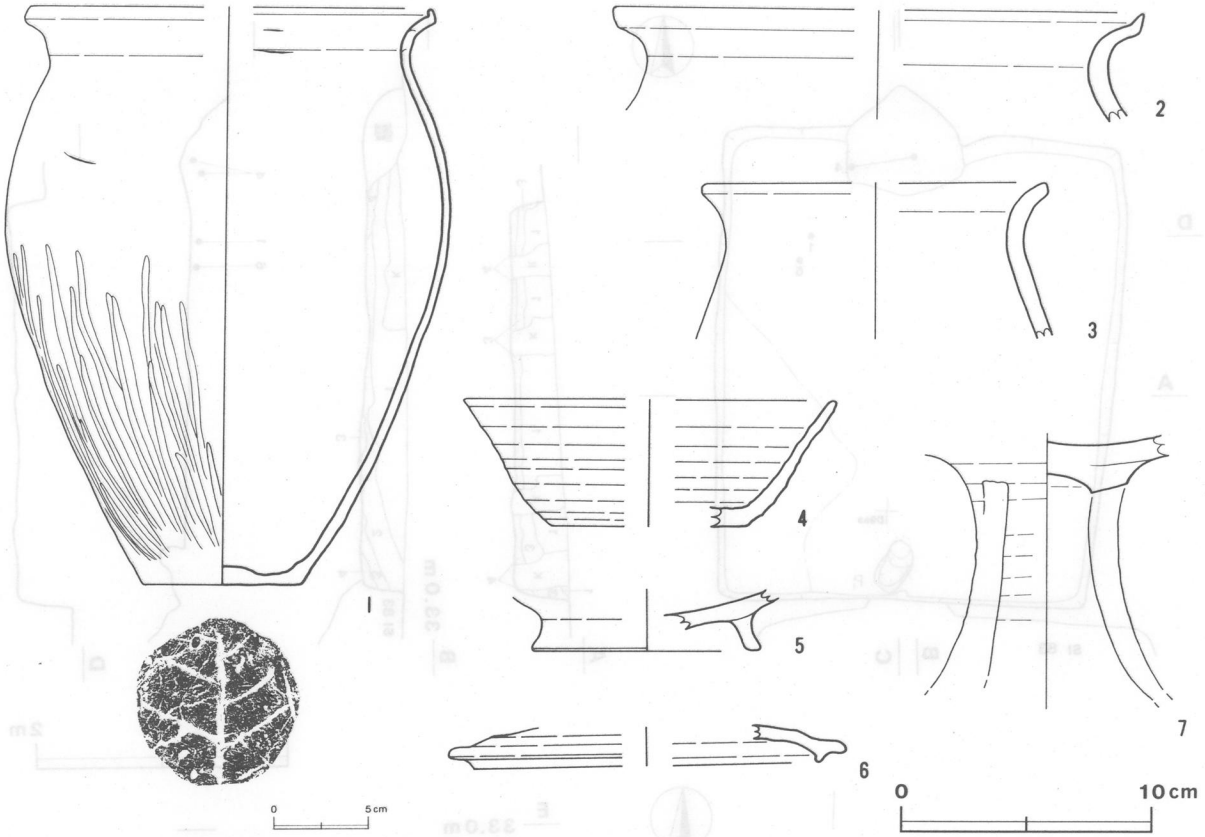
第179図　第84号住居跡実測図

遺物　土師器片126点，須恵器片61点が出土しているが，破片が多い。第180図１の土師器甕と６の須恵器蓋は北東部の覆土下層から，４の須恵器坏は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。２の土師器甕，３の土師器小型甕，５の須恵器高台付坏，７の須恵器高坏は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀末葉と思われる。

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第180図 1	甕 土師器	A〔20.6〕 B 31.0 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・スコリア 灰色 普通	P451　50%　PL33 覆土下層
2	甕 土師器	A〔21.2〕 B(4.4)	口縁部片。口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P453　5% 覆土中



第180図　第84号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 3	小形甕 土師器	A〔13.7〕 B（6.2）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P454　5% 覆土中
4	坏 須恵器	A〔15.0〕 B　5.1 C〔7.1〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰白色 普通	P455　15% 竈覆土下層
5	高台付坏 須恵器	B（2.5） D　9.0 E　1.4	高台部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P456　5% 覆土中
6	蓋 須恵器	A〔16.0〕 B（1.6）	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P457　5% 覆土下層
7	高坏 須恵器	B(10.7)	脚部片。脚部はラッパ状に開き，三方に透かしが入る。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P458　15%　PL33 覆土中

第85号住居跡（第181図）

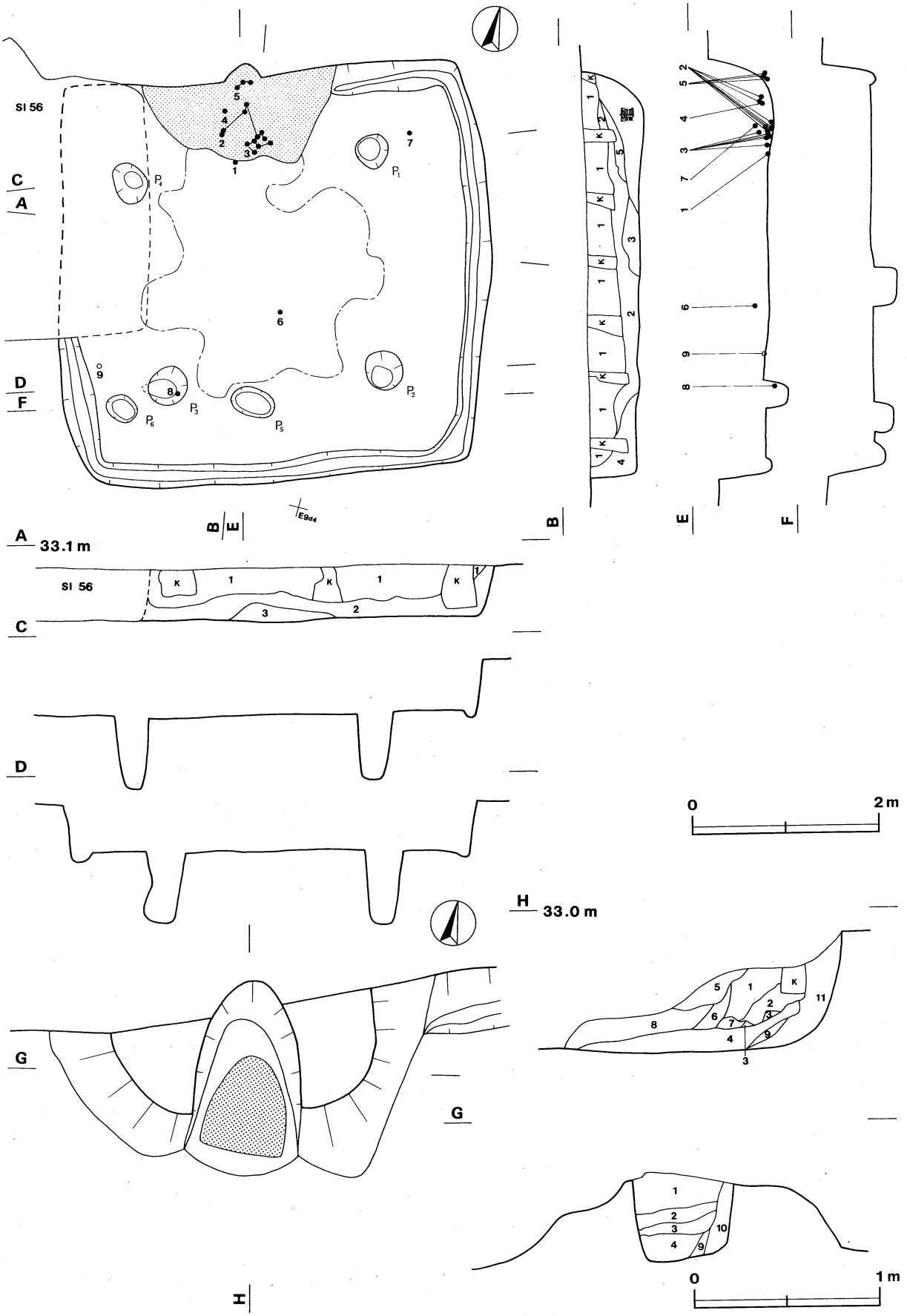
位置　調査区の東部，E9c3区。

重複関係　本跡は，西部を第56号住居跡に掘り込まれていることから，第56号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸4.52m，短軸4.20mの方形である。

主軸方向　N－13°－W

壁　壁高は51～60cmで，外傾して立ち上がる。



第181図　第85号住居跡実測図

壁溝　確認された壁下には，第56号住居跡に掘り込まれている部分を除いて壁溝が回っている。上幅22㎝，下幅９㎝，深さ９㎝で，断面形はＵ字形である。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，長径35～45㎝，短径34～39㎝の不整楕円形，深さ71～80㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径48㎝，短径30㎝の不整楕円形，深さ25㎝で，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は長径34㎝，短径27㎝の不整楕円形，深さ20㎝で，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に15㎝ほど半円状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ104㎝，最大幅210㎝である。火床部は，床面を６㎝ほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム中・小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
4　極 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム小ブロック少量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
10　極 赤 褐 色　焼土・粘土粒子多量，ローム粒子少量
11　赤　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量

覆土　各層ともロームブロックを多く含み，また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。３・５層は竈材あるいは竈の覆土の流出物と思われる。

土層解説

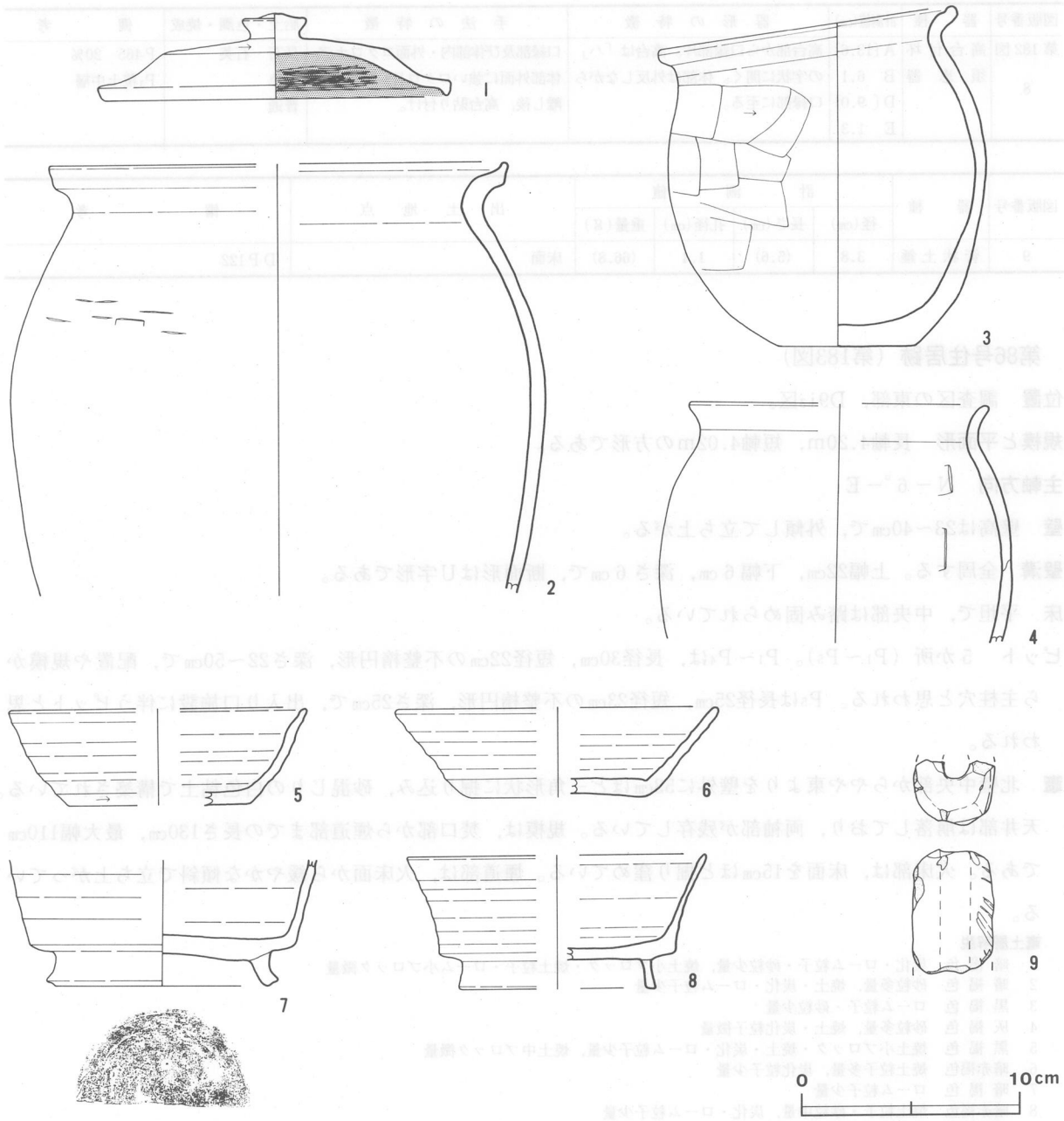
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化材・炭化粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　灰 褐 色　ローム・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　灰 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
5　灰 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片138点，須恵器片45点，土製品１点，鉄滓360ｇが出土している。特に，竈内から多く出土している点が特徴的である。第182図１の土師器蓋は竈前面の床面直上から正位の状態で，２の土師器甕・３と４の土師器小形甕・５の須恵器坏はいずれも竈内の覆土下層から出土している。６の須恵器坏は中央部の覆土下層から，７の須恵器高台付坏は北東コーナー部の覆土下層から，８須恵器高台付坏はP_3の覆土中から，９の管状土錘は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀末葉と思われる。

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第182図 1	蓋 土師器	A 16.2 B 4.0 F 3.0 G 1.1	口縁部一部欠損。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部は笠形状を呈し外面中位に段を持つ。口縁部は水平方向に伸び，口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P459　95%　PL33 床面
2	甕 土師器	A〔21.0〕 B(19.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P460　25% 竈覆土下層
3	小形甕 土師器	A 13.5 B 15.7 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P461　85%　PL33 竈覆土下層



第182図　第85号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第182図 4	小形甕 土師器	A〔13.6〕 B(10.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P462　15% 竈覆土下層
5	坏 須恵器	A〔13.4〕 B　4.4 C〔 8.2〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰白色 良好	P463　10% 竈覆土下層
6	坏 須恵器	A〔14.6〕 B　4.1 C〔 8.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P464　10% 覆土中層
7	高台付坏 須恵器	B　6.1 D　9.0 E　1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P466　20% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第182図 8	高台付坏 須恵器	A〔13.6〕 B　6.1 D〔 9.0〕 E　1.3	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外反しながら口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P465　20% P_3覆土中層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	管状土錘	3.8	(5.6)	1.4	(66.8)	床面	DP122

第86号住居跡（第183図）

位置　調査区の東部，D9i3区。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸4.02mの方形である。

主軸方向　N－6°－E

壁　壁高は23～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅22cm，下幅6cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径30cm，短径22cmの不整楕円形，深さ22～50cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径25cm，短径23cmの不整楕円形，深さ25cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部からやや東よりを壁外に53cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ130cm，最大幅110cmである。火床部は，床面を15cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗褐色　炭化・ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子・砂粒少量
4　灰褐色　砂粒多量，焼土・炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，炭化・ローム粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子微量
10　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量

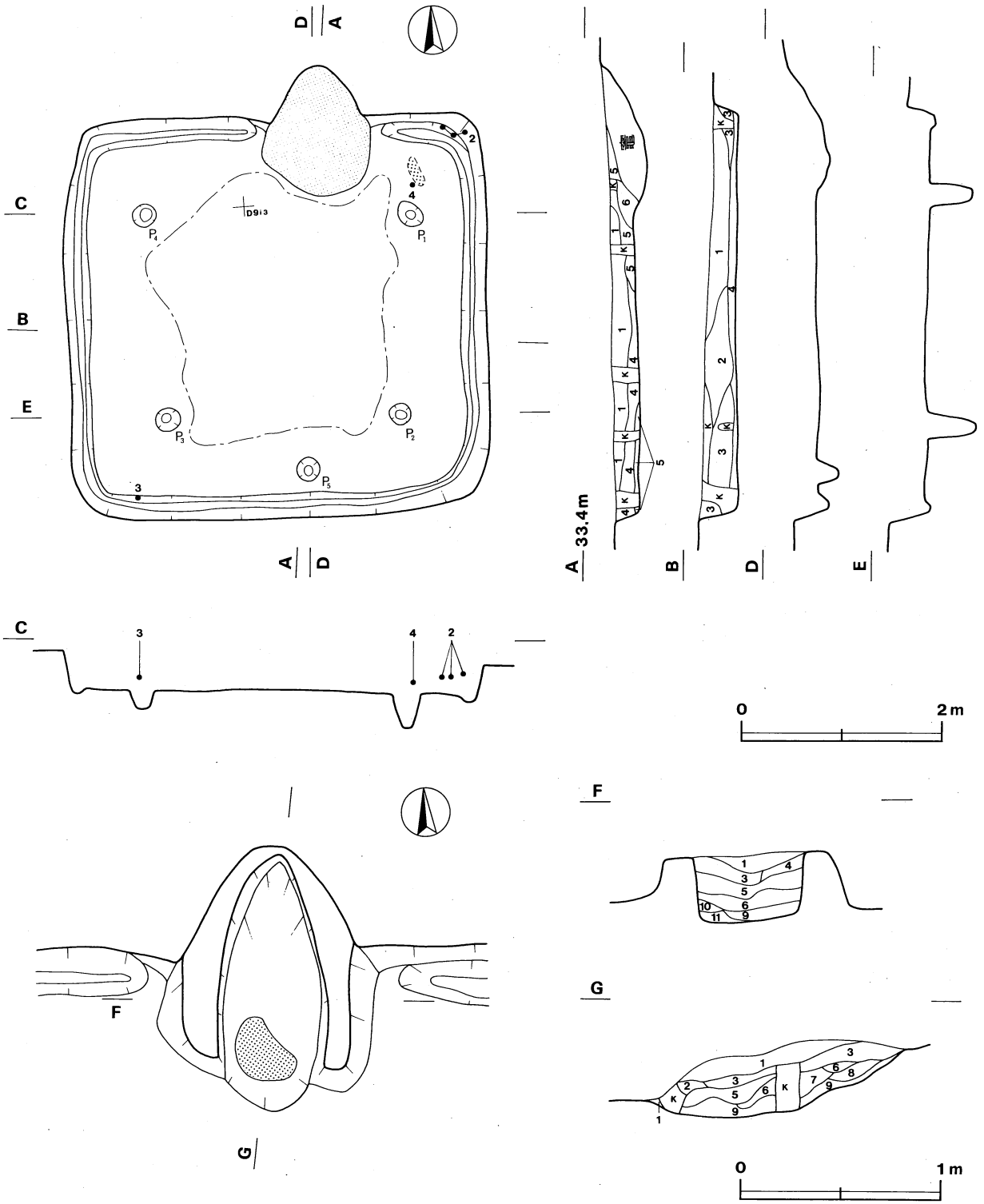
覆土　各層ともロームブロック等を含んでおり，また不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
3　黒褐色　焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　炭化・ローム粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量
6　灰褐色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量

遺物　土師器片316点，須恵器片7点が竈付近と南西コーナー部を中心に出土しているが，ほとんどが破片である。第184図1の土師器甕は，覆土中から出土している。2の土師器甕は北東コーナー壁際の覆土中層から，3の土師器甕は南西コーナー壁際の覆土中層から，4の須恵器坏は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

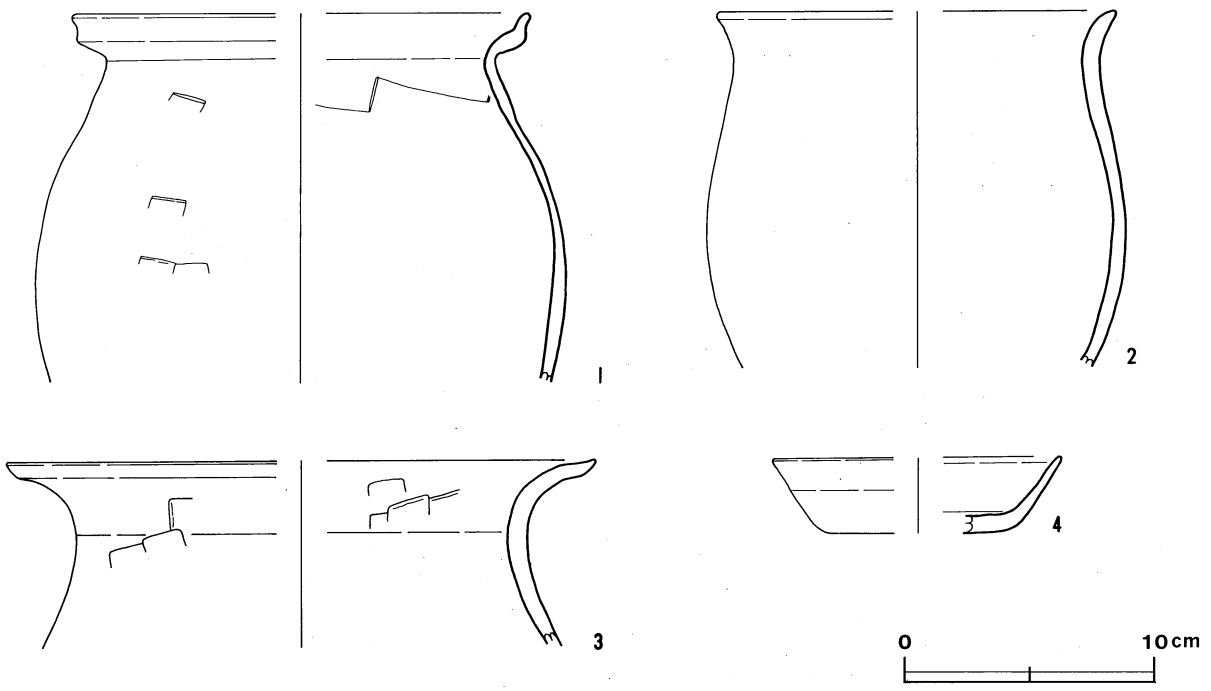
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。



第183図　第86号住居跡実測図

第86号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第184図 1	甕 土師器	A〔18.2〕 B(14.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，一部ヘラナデ。体部内・外面にヘラ当て痕。	長石・石英 褐色 普通	P467　20% 覆土中層



第184図　第86号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第184図 2	甕 土師器	A〔16.0〕 B(14.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英 にぶい黄橙色 普通	P468　20% 覆土中層
3	甕 土師器	A〔23.4〕 B(7.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ，一部ヘラナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P469　5% 覆土中層
4	坏 須恵器	A〔11.4〕 B　3.0 C〔 7.6〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。口縁部の器肉は薄い。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石 灰黄色 普通	P470　10% 覆土下層

第87号住居跡（第185図）

位置　調査区の東部，D9f$_3$区。

規模と平面形　長軸5.46m，短軸5.44mの方形である。

主軸方向　N－6°－E

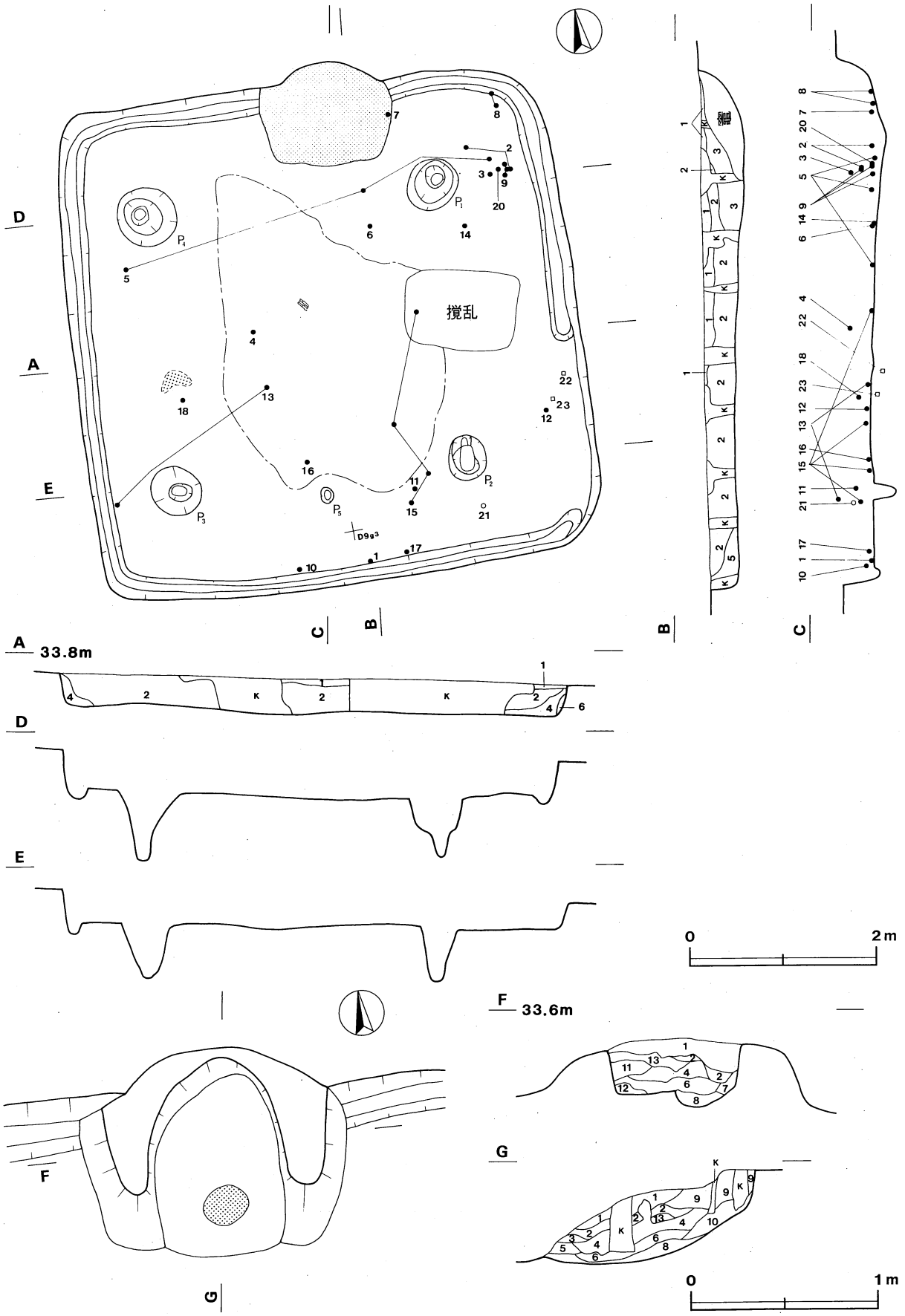
壁　壁高は25～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，東壁南部を除いて壁溝が回っている。上幅26cm，下幅11cm，深さ11cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は，長径49～66cm，短径40～63cmの不整楕円形，深さ58～80cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は長径17cm，短径14cmの不整楕円形，深さ26cmで，性格は不明である。

竈　北壁ほぼ中央部を壁外に22cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されているが，他の住居跡の竈に比べて壁外への掘り込みが少ないのが特徴である。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ112cm，最大幅142cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。



第185図　第87号住居跡実測図

竈土層解説
1　暗 褐 色　砂粒多量，焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　褐　　色　砂粒多量，焼土大・小ブロック・焼土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・砂粒多量，焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化・ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中・小ブロック少量
7　褐　　色　砂粒多量，焼土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
9　暗 褐 色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
10　暗 褐 色　砂粒中量，焼土・炭化粒子少量
11　暗 褐 色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
13　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化・ローム粒子微量

覆土　6層からなる自然堆積である。

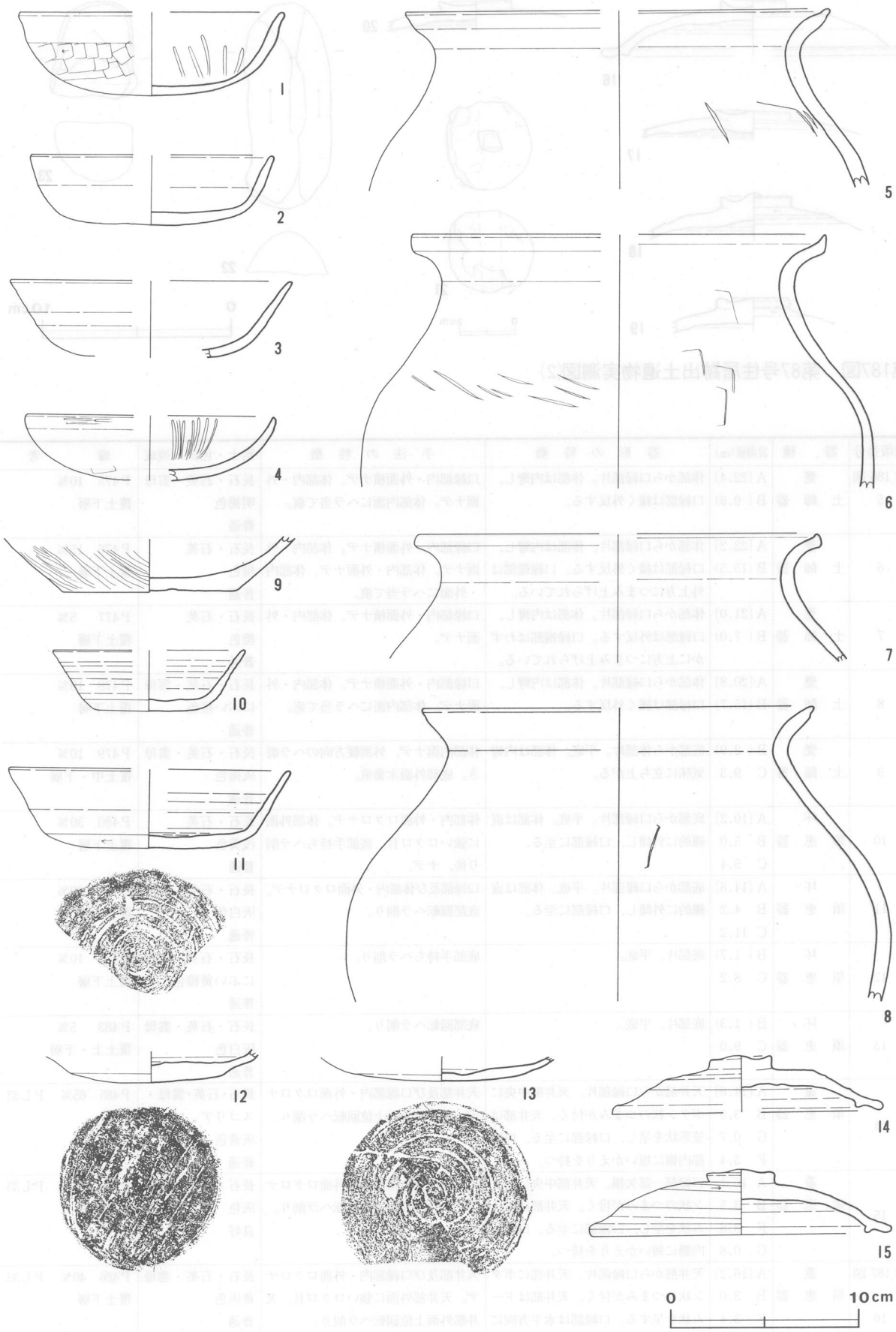
土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
3　褐　　色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量

遺物　土師器片430点，須恵器片63点，土製品1点，石製品2点，鉄滓100gが出土している。遺構全体に散在した状態で出土しているが，特に，須恵器蓋が多数出土している。第186図1の土師器坏は南壁際の床面直上から，2の土師器坏は北東コーナー部の覆土中層と覆土下層から出土したものが接合し，3の土師器坏も北東コーナー部の覆土中層から出土している。4の土師器坏は中央部の覆土中層から，5の土師器甕は北東部と北西部の覆土下層から出土したものが接合している。6の土師器甕は北部の覆土下層から，7の土師器甕は竈右袖部付近の覆土下層から，8の土師器甕は北東コーナー部の覆土下層，9の土師器甕は北東部の覆土中層と覆土下層から出土したものが接合している。10の須恵器坏は南部壁際の覆土下層から，11の須恵器坏は南部の覆土中層から，12の須恵器坏は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。13の須恵器坏は中央部の覆土下層と西壁際の覆土上層から出土したものが接合した。14の須恵器蓋はP_1付近の床面直上から，15の須恵器蓋は中央部と南部の覆土下層から，16の須恵器蓋は南部の覆土下層から，17の須恵器蓋は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。18の須恵器蓋は西部の覆土下層から，19の須恵器蓋は覆土中から，20の須恵器蓋は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。21の土玉はP_2付近の覆土中層から，22・23の砥石は南東部の床面直上からそれぞれ出土している。

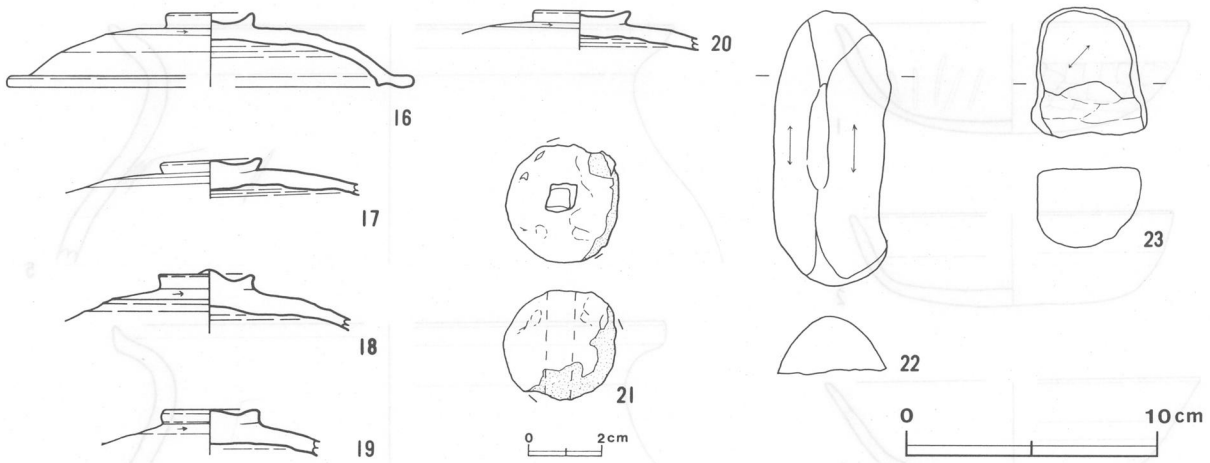
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第186図 1	坏 土師器	A〔14.0〕 B　4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部・底部内面に暗文。	石英・スコリア・礫 橙色 普通	P471　45% 床面
2	坏 土師器	A〔12.8〕 B　3.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	雲母 橙色 良好	P472　40% 覆土中・下層
3	坏 須恵器	A〔15.0〕 B（4.1）	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P473　10% 覆土中層
4	坏 土師器	A〔13.2〕 B（3.4）	底部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に暗文。	長石・スコリア 橙色 普通	P474　20% 覆土中層



第186図　第87号住居跡出土遺物実測図(1)



第187図　第87号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 5	甕 土師器	A〔22.4〕 B(9.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P475　10% 覆土下層
6	甕 土師器	A〔22.2〕 B(13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面にヘラ当て痕。	長石・石英 橙色 普通	P476　15% 覆土下層
7	甕 土師器	A〔21.0〕 B(7.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P477　5% 覆土下層
8	甕 土師器	A〔20.8〕 B(15.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P478　10% 覆土下層
9	甕 土師器	B(2.9) C　9.3	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P479　10% 覆土中・下層
10	坏 須恵器	A〔10.2〕 B　5.0 C　5.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り後，ナデ。	長石・石英 浅黄色 普通	P480　30% 覆土下層
11	坏 須恵器	A〔14.8〕 B　4.2 C 11.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P481　20% 覆土中層
12	坏 須恵器	B(1.7) C　8.2	底部片。平底。	底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P482　10% 覆土下層
13	坏 須恵器	B(1.3) C　9.0	底部片。平底。	底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P483　5% 覆土上・下層
14	蓋 須恵器	A〔14.6〕 B　3.0 G　0.7 F　3.4	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部は笠形状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P485　65%　PL33 床面
15	蓋 須恵器	A 16.1 B　3.5 F　3.6 G　0.8	口縁部一部欠損。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 良好	P484　70%　PL33 覆土下層
第187図 16	蓋 須恵器	A〔16.2〕 B　3.0 F　3.4 G　0.6	天井部から口縁部片。天井部にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。口縁部は水平方向に伸び，口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P486　40%　PL33 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第187図 17	蓋 須恵器	B(1.6) F 4.1 G 0.5	天井部片。ボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P487 30% 覆土下層
18	蓋 須恵器	B(2.5) F 3.9 G 0.8	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P488 15% 覆土下層
19	蓋 須恵器	B(1.8) F 3.9 G 0.5	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P489 15% 覆土中層
20	蓋 須恵器	B(1.6) F 3.9 G 0.5	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P490 10% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
21	土　玉	3.1	2.9	0.7	23.2	覆土中層	DP123　PL36

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
22	砥　石	11.2	4.6	2.3	147.8	凝灰岩	床面	Q33
23	砥　石	5.3	4.6	3.2	99.0	凝灰岩	床面	Q34

第88号住居跡（第188図）

位置　調査区の東部，D8go区。

規模と平面形　長軸4.57m，短軸4.18mの方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は14～39cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅19cm，下幅8cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

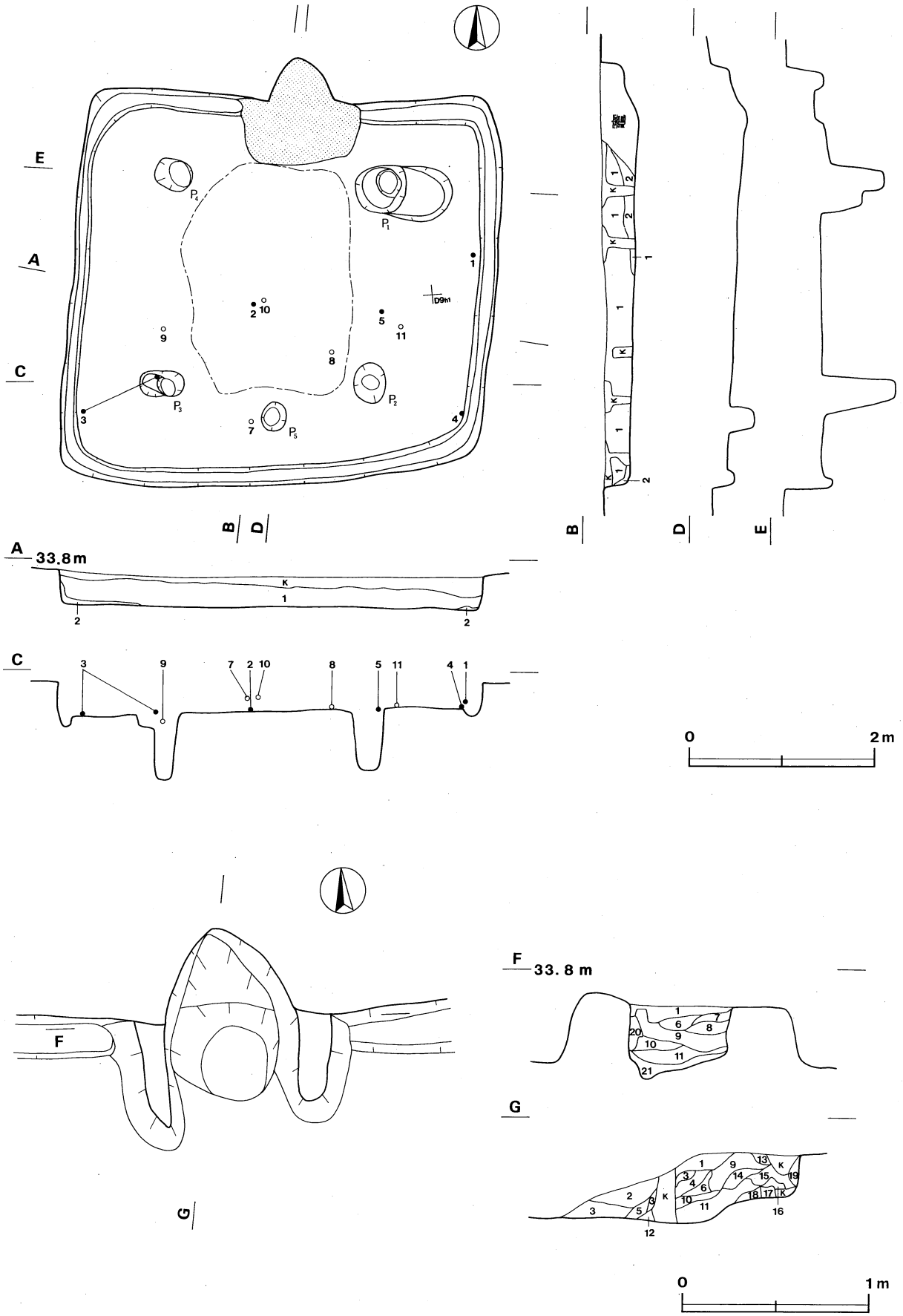
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径105cm，短径41cmの不整楕円形，深さ62～76cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径30cm，短径25cmの不整楕円形，深さ26cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に50cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ92cm，最大幅130cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し，中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　炭化・ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　砂粒多量，焼土・炭化粒子微量
4　褐　　色　砂粒中量，焼土・炭化粒子微量
5　褐　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
7　褐　　色　砂粒中量，焼土・炭化粒子微量
8　褐　　色　砂粒中量，焼土・炭化・ローム粒子微量
9　褐　　色　砂粒多量，焼土・炭化粒子微量
10　褐　　色　焼土・炭化・ローム粒子微量
11　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
12　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量



第188図　第88号住居跡実測図

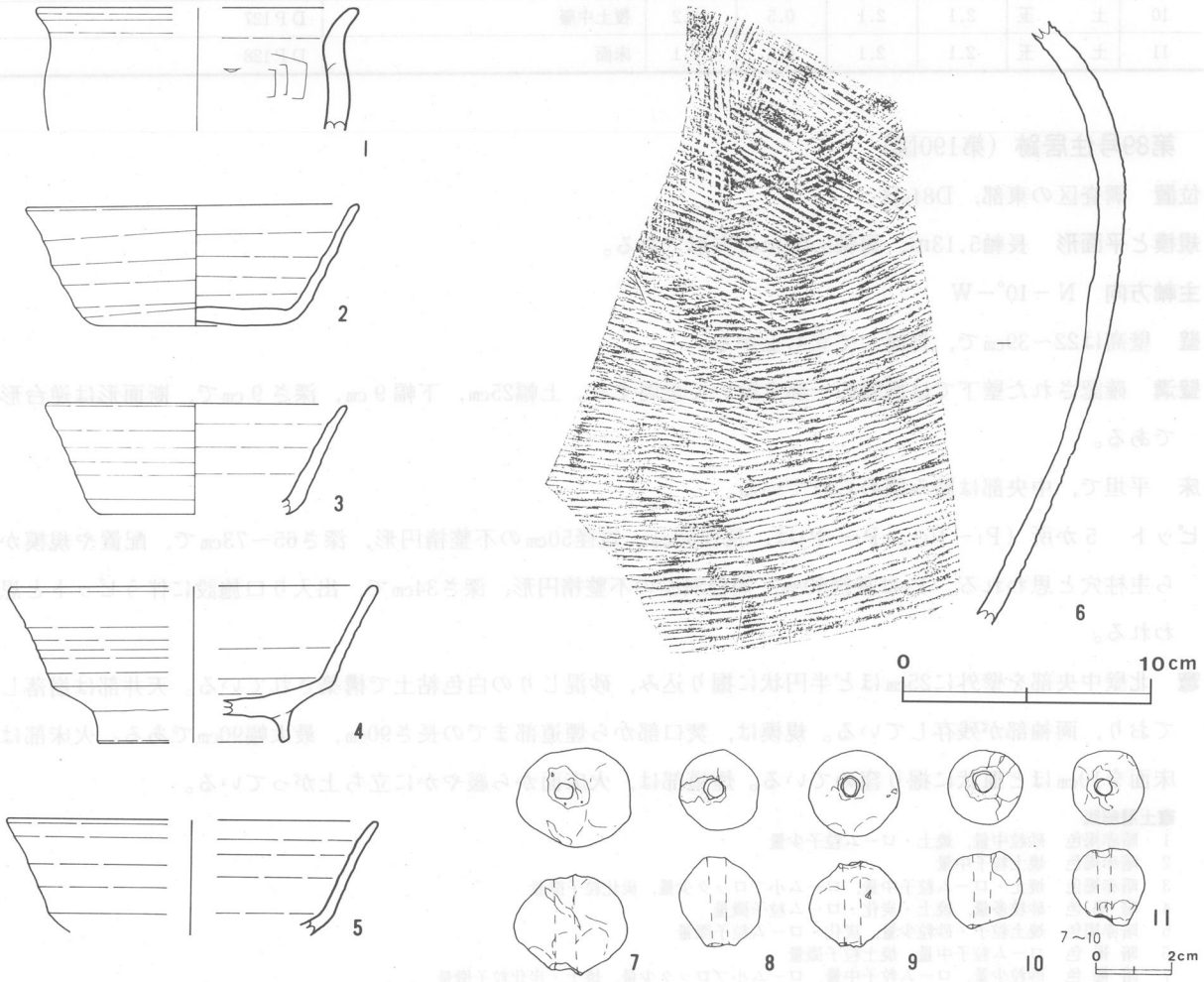
13　褐　　色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化・ローム粒子少量
14　褐　　色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子微量
15　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化・ローム粒子少量
16　褐　　色　ローム粒子多量
17　暗　褐　色　焼土・ローム粒子微量
18　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
19　褐　　色　砂粒多量，炭化・ローム粒子微量
20　赤　褐　色　砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
21　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量

遺物　土師器片94点，須恵器片78点，土製品5点等が出土している。第189図1の土師器小形甕は東壁際の覆土下層から，2の須恵器坏は中央部の床面直上から正位の状態で，3の須恵器坏はP_3上の覆土下層と南西部壁際の床面直上から出土したものが接合した。4の須恵器高台付坏は南東部壁際の床面直上から，5の須恵器高台付坏は東部の床面直上からそれぞれ出土している。6は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面上位に縦あるいは斜め，中位から下位にかけては横方向のタタキが施されている。7の土玉はP_5付近の覆土中層から，8の土玉はP_2付近の床面直上から，9の土玉は西部の床面直上からそれぞれ出土している。10の土玉は中央部の覆土中層から，11の土玉は東部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第189図　第88号住居跡出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 1	小形甕 土師器	A〔13.0〕 B(4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラナデ。体部外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P491　15% 覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.9 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部ヘラ切り後，ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P492　85%　PL33 床面
3	坏 須恵器	A 12.0 B 4.5 C 7.6	体部片。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P493　35%　PL33 覆土下層・床面
4	高台付坏 須恵器	A〔14.8〕 B 6.3 D〔7.8〕 E 1.4	高台部から口縁部片。高台は真下に伸びる。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P494　30%　PL33 床面
5	高台付坏 須恵器	A〔15.0〕 B(4.6)	体部片。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P495　20% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土玉	3.1	2.7	0.7	19.0	覆土中層	DP124　PL36
8	土玉	2.1	2.4	0.6	10.7	床面	DP125　PL36
9	土玉	2.4	2.3	0.5	10.9	床面	DP126　PL36
10	土玉	2.1	2.1	0.5	8.2	覆土中層	DP127
11	土玉	2.1	2.1	0.5	7.1	床面	DP128

第89号住居跡（第190図）

位置　調査区の東部，D8f0区。

規模と平面形　長軸5.13m，短軸5.05mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は22～39cmで，外傾して立ち上がる。

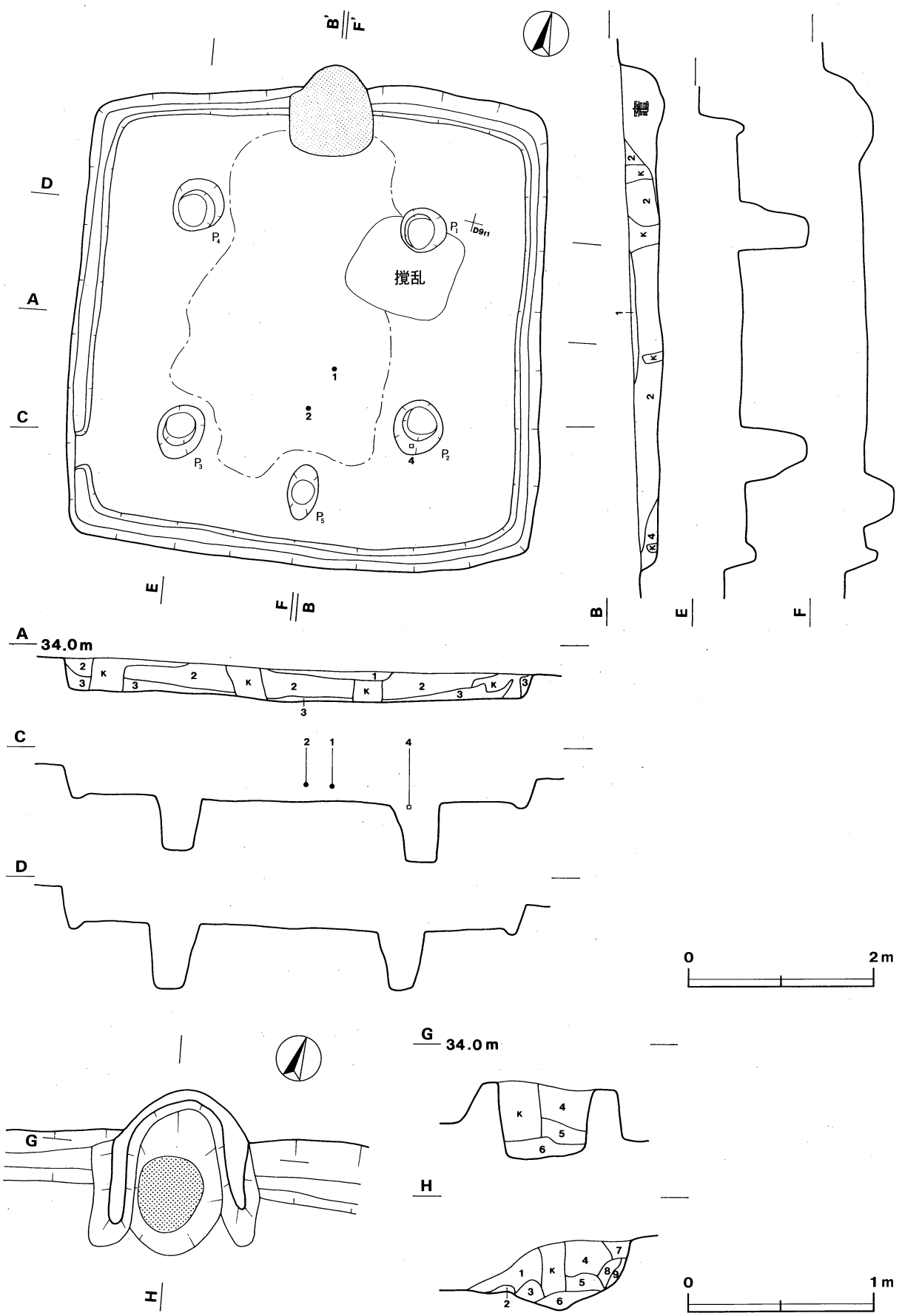
壁溝　確認された壁下では西壁の一部を除いて全周する。上幅25cm，下幅9cm，深さ9cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

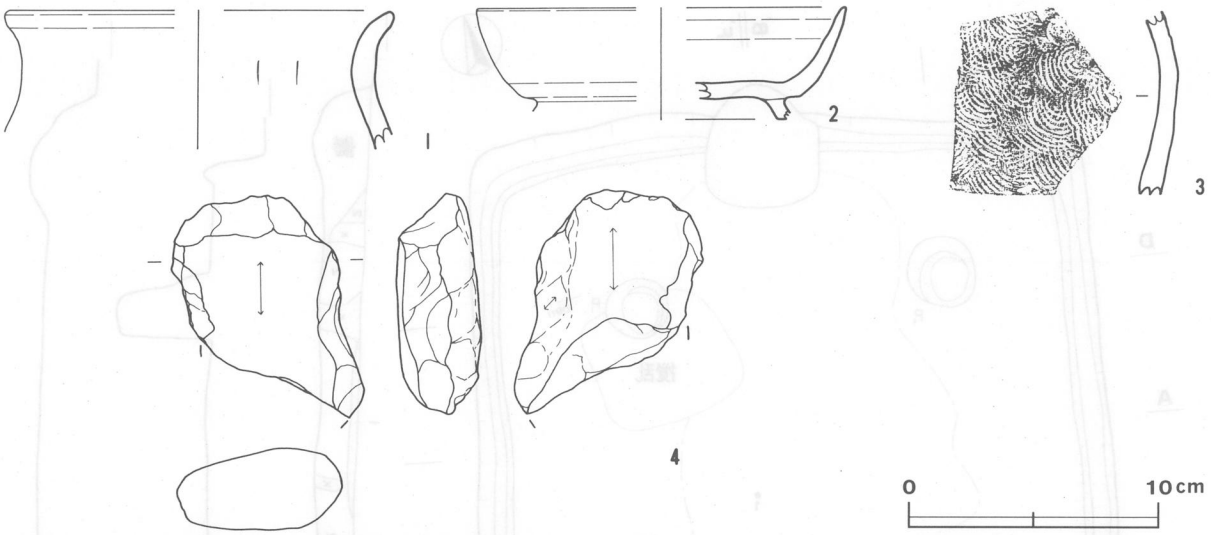
ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径60cm，短径50cmの不整楕円形，深さ65～73cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径60cm，短径34cmの不整楕円形，深さ34cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に25cmほど半円状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅90cmである。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　砂粒中量，焼土・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化・ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　暗褐色　砂粒少量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・砂粒少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
9　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量



第190図　第89号住居跡実測図



第191図　第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第191図 1	甕 土師器	A〔15.2〕 B(5.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内部内・外面ナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P496　5% 覆土中層
2	高台付坏 須恵器	A〔14.8〕 B　4.4 E　0.8	高台部から口縁部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P497　10% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	砥　石	(8.9)	7.7	3.5	(262.7)	凝灰岩	覆土下層	Q35

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量

遺物　出土遺物は少なく，また破片が多い。土師器片47点，須恵器片4点の他，石製品が1点出土している。第191図1の土師器甕と2の須恵器高台付坏は，ともに南部の覆土中層から出土している。3は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に同心円状のタタキが施されている。4の砥石は，P_2上の覆土下層から出土している。

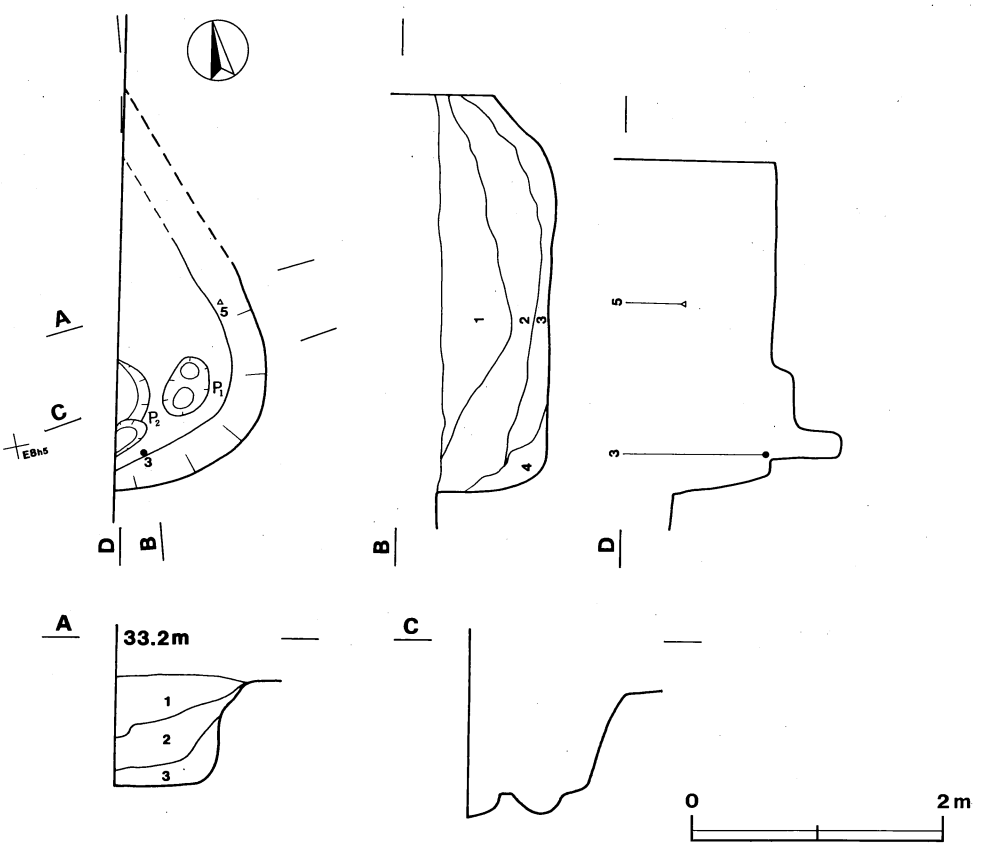
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第90号住居跡（第192図）

位置　調査区の東部，E8g5区。

規模と平面形　長軸（2.08）m，短軸（1.45）mであるが，南東部の一部を残しほとんどが調査区外のため，平面形は不明である。

主軸方向　N－31°－W



第192図　第90号住居跡実測図

壁　壁高は79㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。東壁の北部は撹乱のため，検出できなかった。

床　平坦であるが，踏み固めた部分は見られない。

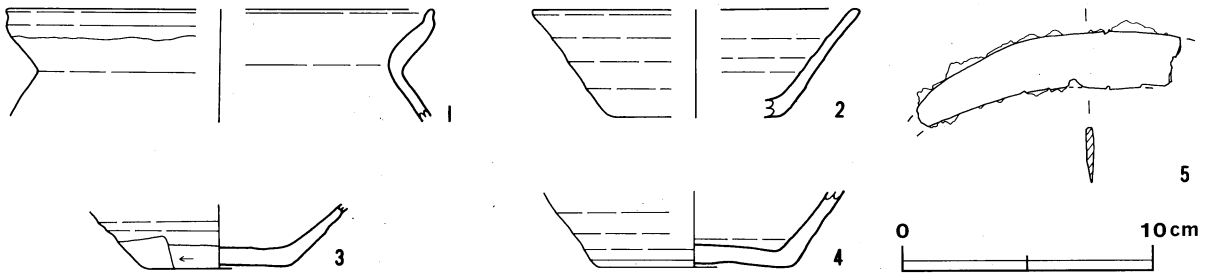
ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は，長径50～76㎝，短径（25）～33㎝の不整楕円形，深さ16～（20）㎝で性格は不明である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物　土師器片126点，須恵器片107点の他，鉄滓が少量出土している。第193図1の土師器甕・2の須恵器坏・4の須恵器坏はともに覆土中から出土している。3の須恵器坏は南壁際の覆土下層から，5の鉄鎌は東壁際の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。



第193図　第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 1	甕 土師器	A〔17.0〕 B(4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P498　5% 覆土中
2	坏 須恵器	A〔13.0〕 B　4.2 C〔 6.8〕	体部片。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面に強いロクロ目。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P499　10% 覆土中
3	坏 須恵器	B(2.5) C　5.8	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P500　20% 覆土下層 酸化焔焼成
4	坏 須恵器	B(3.0) C　7.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P501　10% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	鉄鎌	10.8	2.2	0.3	21.5	覆土上層	M72　PL40

第91号住居跡（第194図）

位置　調査区の南部，E8f3区。

規模と平面形　長軸4.82m，短軸4.74mの方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は55～67cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅28cm，下幅11cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，竈前面から南部にかけて踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，長径30～51cm，短径26～40cmの不整楕円形，深さ23～75cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径20cmの不整円形，深さ10cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は長径34cm，短径28cm，深さ10cmの不整楕円形で性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に40cmほど半円状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ150cm，最大幅155cmである。火床部は，床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

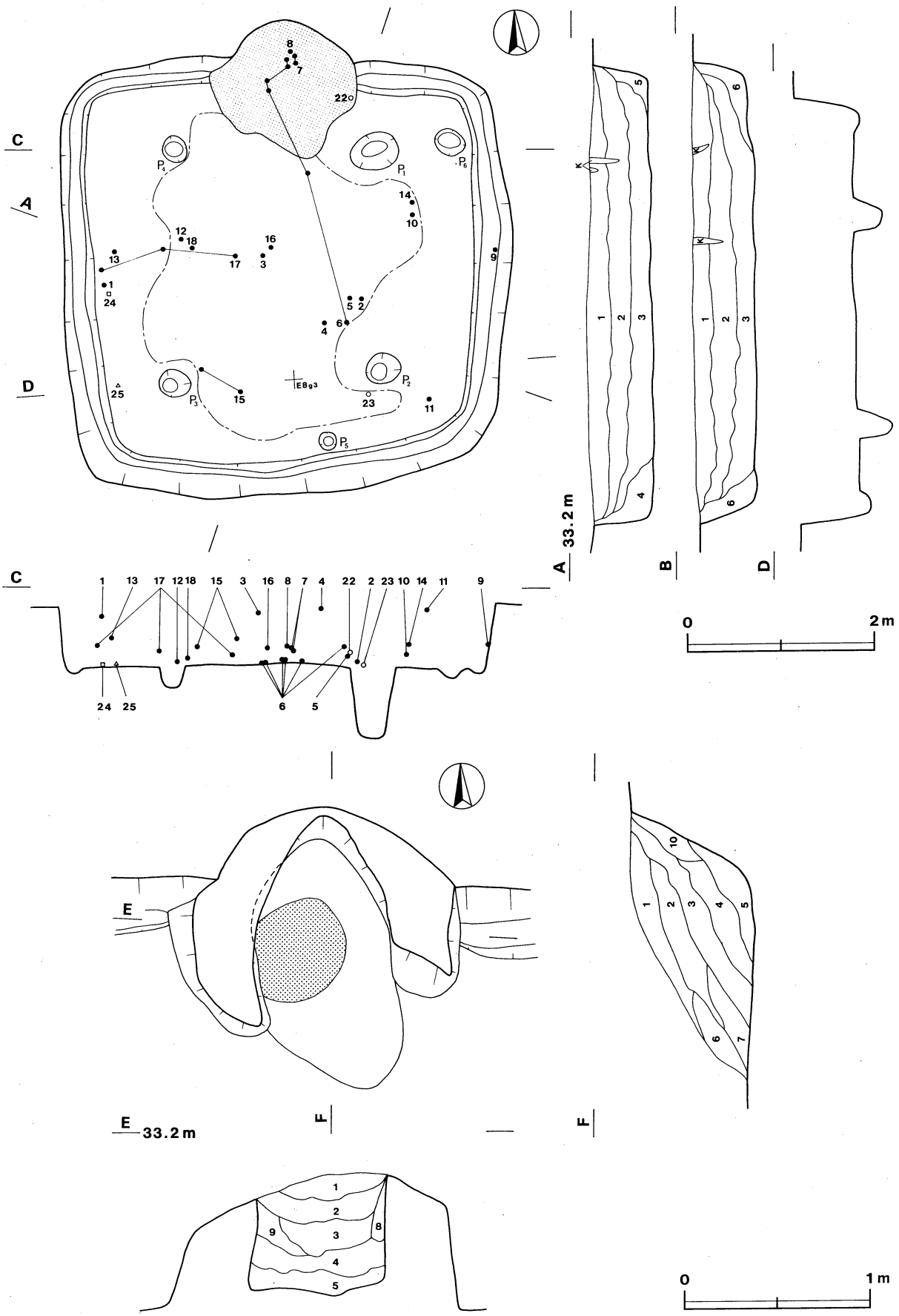
竈土層解説

1　褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化・粘土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
7　灰褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
9　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量

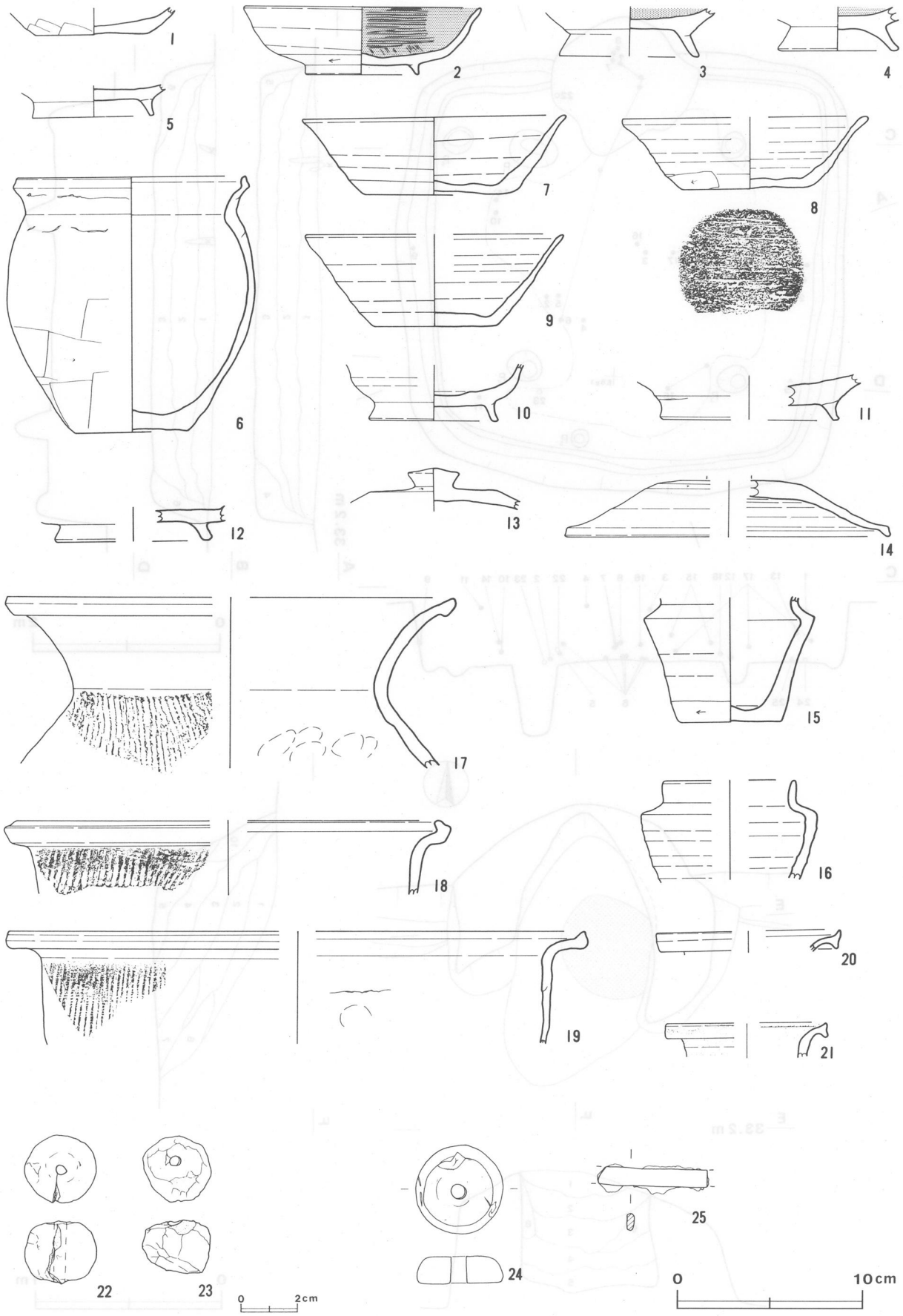
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐色　ローム粒子中量
6　暗褐色　焼土・ローム粒子少量



第194図　第91号住居跡実測図



第195図　第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第195図 1	坏 土師器	B(1.5) C 6.0	底部から体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P502 15% 覆土上層
2	高台付坏 土師器	A 12.8 B 3.7 D 6.0 E 0.5	口縁部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面全体黒色処理。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P503 70% PL33 覆土下層
3	高台付坏 土師器	B(2.7) D〔 7.3〕 E 1.4	高台部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。	底部内面黒色処理。底部切り離し後高台貼り付け。	石英・雲母・スコリア・針状鉱物 にぶい褐色 普通	P504 20% 覆土上層
4	高台付坏 土師器	B(2.4) D 6.6 E 1.4	高台部片。高台は高めで外反気味に開く。	底部内面黒色処理。底部切り離し後高台貼り付け。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P505 15% 覆土上層
5	高台付坏 土師器	B(1.7) D 6.6 E 0.8	高台部片。高台は短く外反気味に開く。	底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P506 15% 覆土下層
6	小形甕 土師器	A 12.4 B 13.7 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ，体部下端手持ちヘラ削り。体部外面上位に輪積み痕。底部外面に木葉痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P507 50% 竈床面・覆土下層
7	坏 須恵器	A 14.3 B 4.3 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。	長石・石英 灰色 普通	P508 90% PL33 竈覆土下層
8	坏 須恵器	A〔13.0〕 B 3.9 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部外面手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 良好	P509 55% 竈覆土下層
9	坏 須恵器	A〔13.8〕 B 5.0 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石・石英 灰黄色 普通	P510 50% 覆土中層
10	高台付坏 須恵器	B(3.1) D 7.0 E 1.0	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P511 20% 覆土下層
11	高台付坏 須恵器	B(2.5) D〔 9.4〕 E 1.1	高台部片。高台は短く外反気味である。	底部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P512 15% 覆土上層
12	高台付坏 須恵器	B(1.9) D〔 8.2〕 E 1.0	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P513 5% 覆土下層
13	蓋 須恵器	B(2.3) F 2.8 G 1.0	天井部片。中央に擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P514 10% 覆土中層
14	蓋 須恵器	A〔17.6〕 B(3.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P515 15% 覆土中層
15	短頸壺 須恵器	B(6.7) C 5.6	底部から体部片。平底。体部は外反気味に立ち上がり。体部上位で最大径を有し，内反する。口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P516 40% 覆土中層
16	短頸壺 須恵器	A〔 7.0〕 B(5.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，体部上位で最大径を有し口縁部はわずかに外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P517 20% 覆土下層
17	甕 須恵器	A〔24.0〕 B(9.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は折り返され，縁帯を形成している。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面縦方向の平行タタキ。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 灰オリーブ色 普通	P518 10% 覆土中・下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第195図 18	甕 須恵器	A〔22.6〕 B(4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し,口縁部は緩く外反する。口縁端部は短く，内上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。口縁部の一部及び体部外面に平行タタキ。	長石・石英 灰色 普通	P519　5% 覆土下層
19	甕 須恵器	A〔30.9〕 B(6.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に平行タタキ。体部内面に指頭圧痕。	長石・雲母 褐灰色 普通	P520　5% 覆土中
20	長頸瓶 須恵器	A〔 9.9〕 B(1.2)	口縁部片。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 黒褐色 普通	P521　5% 覆土中
21	長頸瓶 灰釉陶器	A〔 8.6〕 B(2.2)	口縁部片。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 黒褐色 普通	P522　5% 覆土中 黒笹14号窯式

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
22	土玉	2.6	2.3	0.4	11.9	覆土下層	DP129
23	土玉	2.4	1.9	0.5	10.3	覆土下層	DP130

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
24	石製紡錘車	4.8	1.4	0.8	54.0	チャート	床面	Q36　PL38

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
25	刀子	(5.8)	0.9	0.4	14.5	床面	M73　PL39

遺物　土師器片512点，須恵器片392点，土製品２点，石製紡錘車１点，刀子１点が出土している。第195図１の土師器坏は西部の覆土上層から，２の土師器高台付坏は東部の覆土下層から逆位の状態で，３・４の土師器高台付坏は中央部の覆土上層から，５の土師器高台付坏は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。６の土師器小形甕は，竈の覆土下層と竈前面の床面直上及び東部の覆土下層から出土したものが接合した。７・８の須恵器坏は竈の覆土下層からいずれも正位の状態で，９の須恵器坏は東壁際の覆土中層から横位の状態で出土している。10の須恵器高台付坏は東部の覆土下層から，11の須恵器高台付坏は南東コーナー部の覆土上層から，12の須恵器高台付坏と18の須恵器甕は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。13の須恵器蓋は西部の覆土中層から，14の須恵器蓋は東部の覆土中層から，15の須恵器短頸壺は南西部の覆土中層から，16の須恵器短頸壺は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。17の須恵器甕は西部の中層と下層から出土した破片が接合した。19の須恵器甕・20の須恵器長頸瓶・21の灰釉陶器長頸瓶はいずれも覆土中から出土している。22の土玉は竈付近の覆土下層から，23の土玉はP_2付近の覆土下層から，24の石製紡錘車は西部の床面直上から，25の刀子は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀中葉）と思われる。

第92号住居跡（第196図）

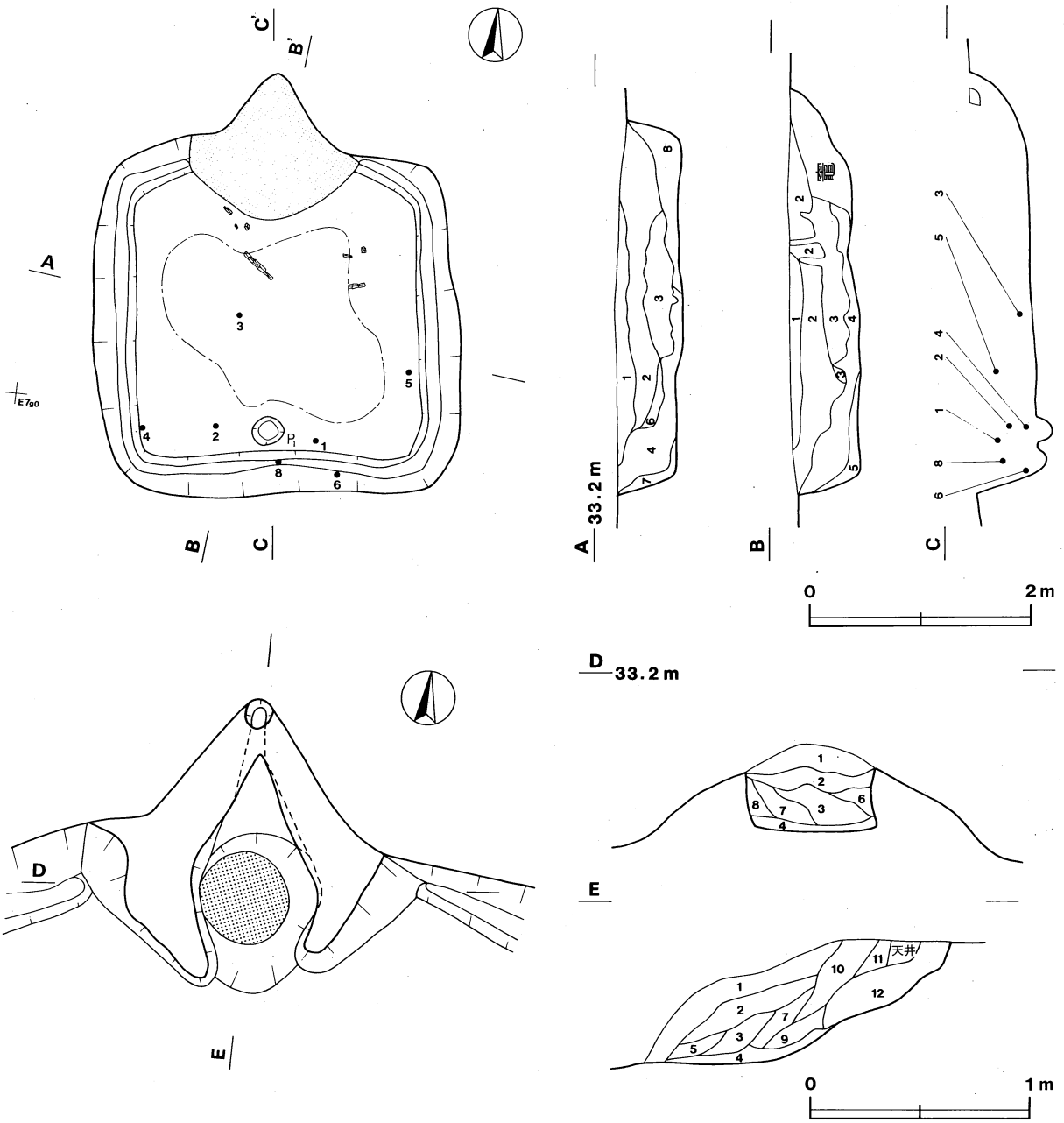
位置　調査区の南部，E7f_0区。

規模と平面形　長軸3.31m，短軸3.11mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は45～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅40cm，下幅10cm，深さ９cmで，断面形はU字形である。



第196図　第92号住居跡実測図

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は，長径30㎝，短径25㎝不整楕円形，深さ17㎝で，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　遺存状態は良好で，煙出し部も検出された。北壁中央部を壁外に65㎝ほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は，北部と両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さは135㎝，最大幅150㎝である。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
4　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量

5　にぶい赤褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
8　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
11　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
12　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量

覆土　撹乱を受け不規則な堆積状況を示すが，８層からなる自然堆積と思われる。

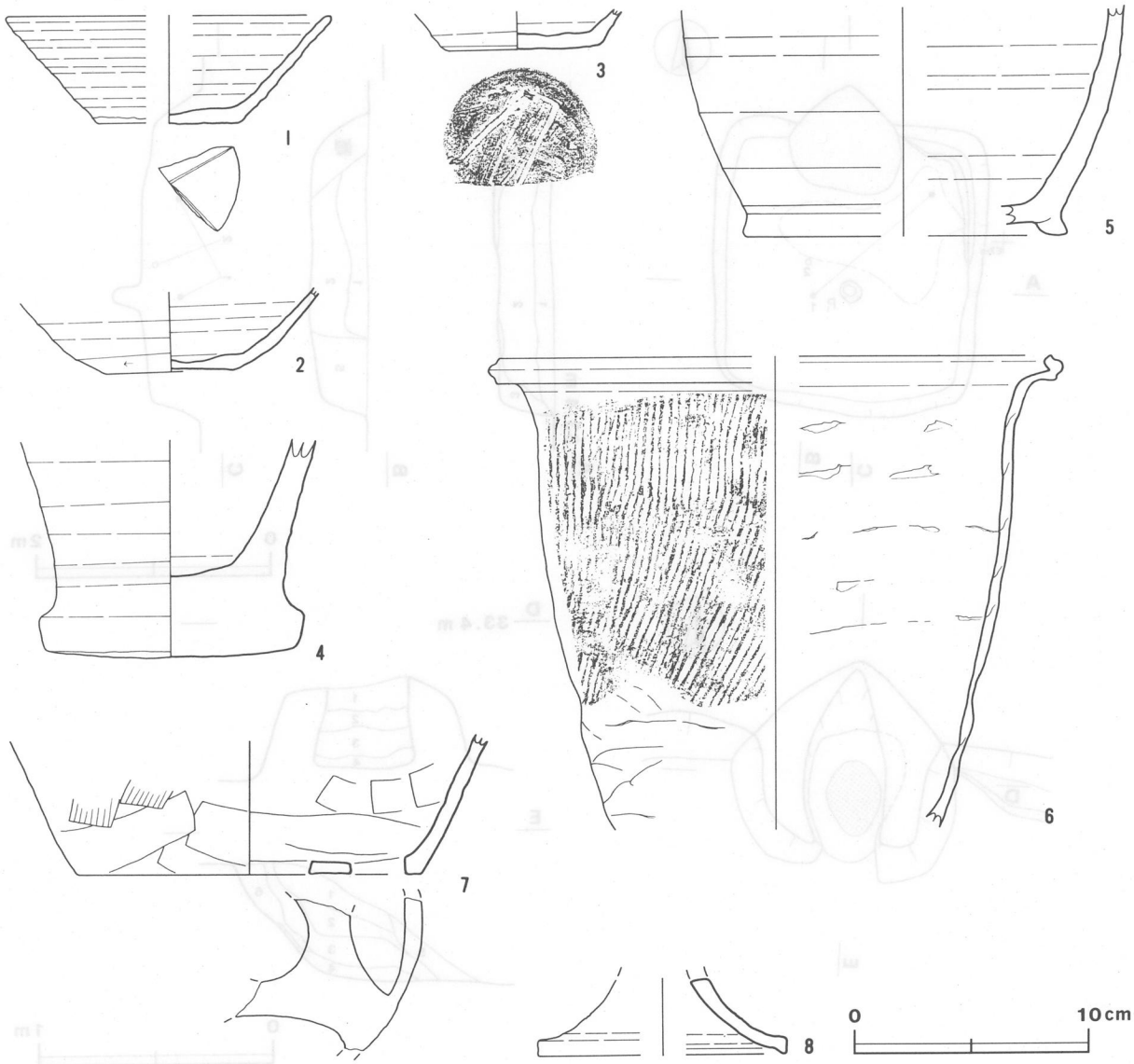
土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化材・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　極暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片179点，須恵器片107点，鉄滓700ｇが出土している。土師器を中心に覆土中・下層から出土しており，また，炭化材が北部の床面に貼り付くように少量出土している。第197図１・２の須恵器坏は南部の覆土中層から，３の須恵器坏は中央部の覆土下層から，４の須恵器捏鉢は南西コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。５の須恵器長頸瓶は南東壁際の覆土中層から，６の須恵器甑は南部壁際の覆土下層から，７の須恵器甑は覆土中から，８の須恵器高坏は南部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後葉）と思われる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第197図 1	坏 須恵器	A〔13.8〕 B　4.6 C　6.1	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P523　15% 覆土中層
2	坏 須恵器	B（3.4） C　5.4	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P524　50% 覆土中層 酸化焔焼成
3	坏 須恵器	B（1.7） C　6.5	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部外面にヘラ記号。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P525　10% 覆土下層
4	捏鉢 須恵器	B（1.7） C　6.5	底部から体部片。底部は厚い円盤状の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P526　40%　PL33 覆土下層
5	長頸瓶 須恵器	B（9.9） D〔13.8〕 E　1.0	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P527　5% 覆土中層
6	甑 須恵器	A〔23.5〕 B（20.3）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面に縦方向の平行タタキ。体部内面に輪積み痕。体部外面下位に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P528　10% 覆土下層
7	甑 須恵器	B（6.0） C 14.7	底部から体部片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ体部外面に平行タタキ。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P529　5%　PL33 覆土中
8	高坏 須恵器	B（3.3） D〔10.6〕	脚部片。脚部はラッパ状に開き，裾部で下方につまみ出されている。	脚部内・外面ロクロナデ。脚部外面に沈線が回る。	長石・石英 灰色 普通	P530　5% 覆土中層



第197図　第92号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡（第198図）

位置　調査区の南部，E7co区。

規模と平面形　長軸2.52m，短軸2.32mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

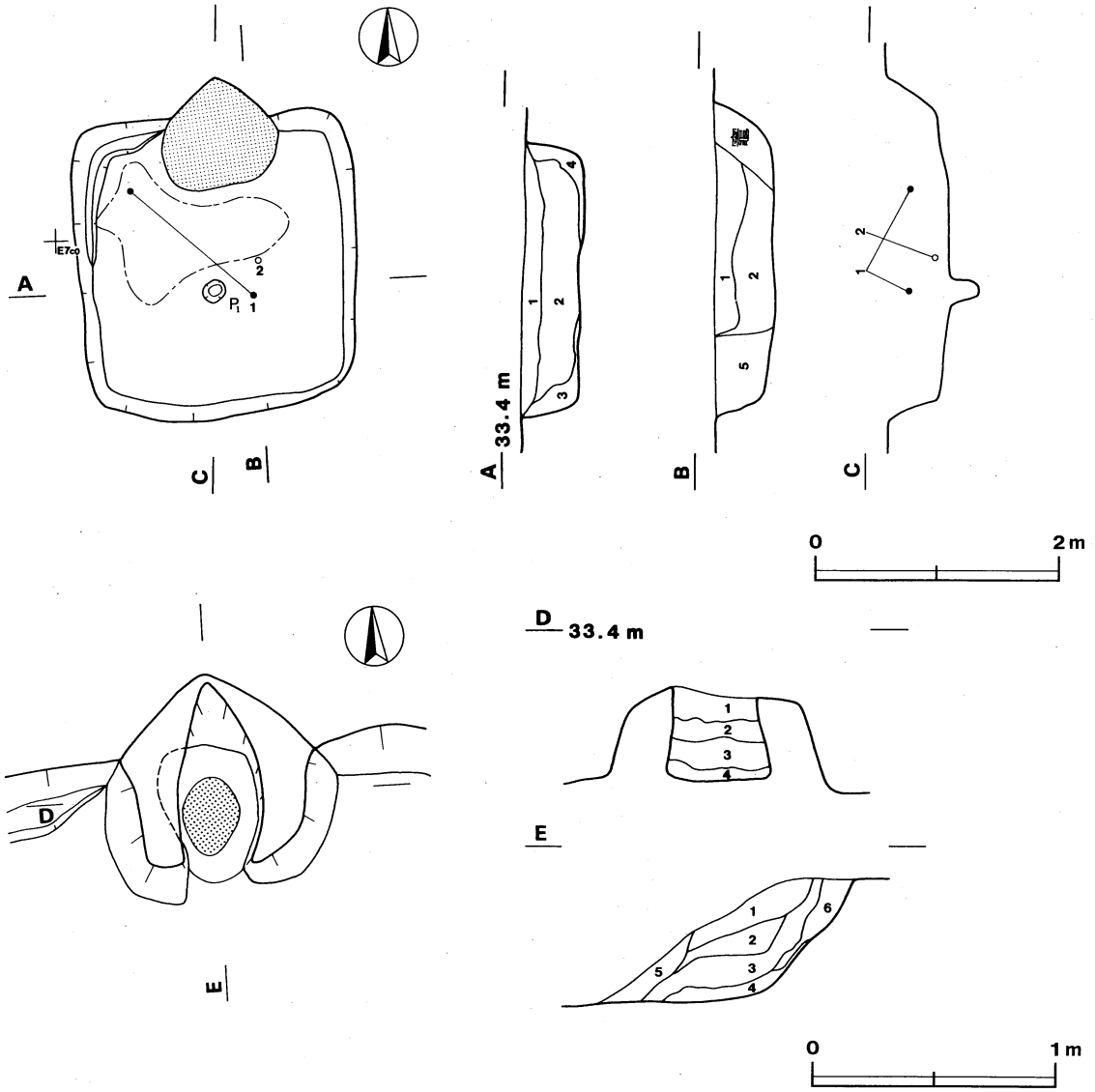
壁　壁高は27～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西コーナー部に検出された。上幅33cm，下幅6cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，竈前面から北西部にかけて踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は，長径20cm，短径16cmの不整楕円形，深さ25cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に30cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ85cm，最大幅95cmである。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。



第198図　第93号住居跡実測図

竈土層解説

1　にぶい褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量
4　極暗赤褐色　炭化・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・粘土粒子少量

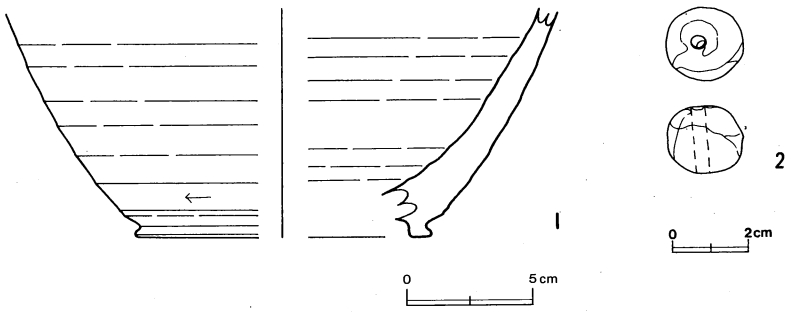
覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　遺物は少なく，土師器片18点と須恵器片2点，土製品1点，鉄滓2.2kgが出土している。第199図1の須恵器長頸瓶は北西部と中央部の覆土中層から出土したものが接合した。2の土玉は，中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。



第199図　第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第199図 1	長頸瓶 須恵器	B(9.2) D〔11.8〕 E 0.6	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P531 10% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	土　玉	2.0	1.8	0.4	7.0	覆土下層	DP131

第94号住居跡（第200図）

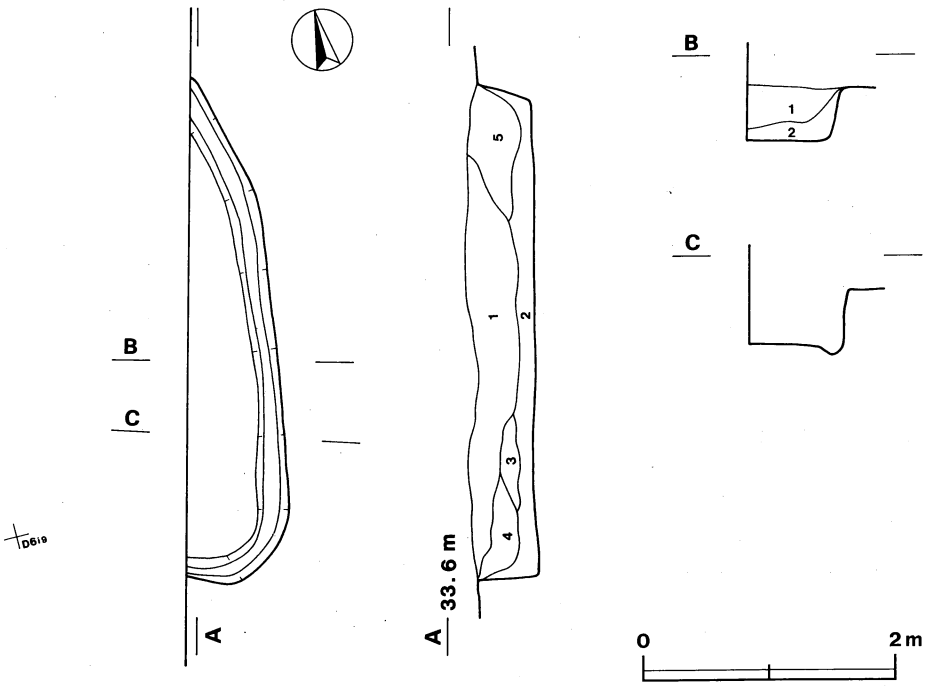
位置　調査区の南部，D6h9区。

規模と平面形　長軸（3.93）m，短軸（0.79）mで，遺構の西部が調査区外のため，平面形は不明である。

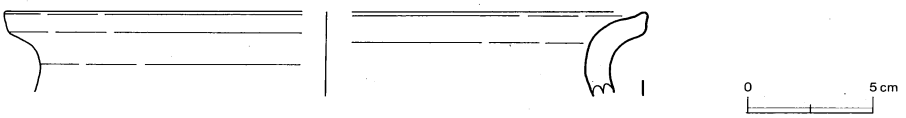
主軸方向　N－19°－E

壁　壁高は45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が回っている。上幅22cm，下幅11cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。



第200図　第94号住居跡実測図



第201図　第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第201図 1	甕 土師器	A〔25.6〕 B（3.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P532　5% 覆土中

床　平坦であるが，踏み固めた部分は検出できなかった。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　焼土・ローム粒子少量
3　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
5　黒褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　遺構のほとんどが調査区外のため，遺物は少なく土師器片1点の他，鉄滓が少量出土しているのみである。第201図1の土師器甕は，覆土中から出土している。

所見　本跡は時期を決定できる遺物がなく，時期不明である。

第95号住居跡（第202・203図）

位置　調査区の中央部，D8c1区。

重複関係　本跡は，北部を第9号溝に，南部を第23号溝に掘り込まれていることから，両遺構よりも古い。

規模と平面形　長軸8.20m，短軸5.70mの長方形である。

長軸方向　N－29°－E

壁　壁高は23～65cmで，北東壁・南西壁は外傾し，それ以外の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅11～35cm，下幅6～15cm，深さ5cm前後で，断面形はU字形である。

床　平坦で，炉，補助柱穴付近を除いて踏み固められている。

ピット　19か所（P_1～P_{19}）。P_1～P_{15}は，長径30～55cm，短径25～42cmの不整楕円形，深さ21～95cmで，壁際に設置され補助主柱穴，P_{16}～P_{19}は長径19～22cm，短径17～31cmの不整楕円形，深さ13～26cmで，やはり補助柱穴と思われる。

炉　本跡からは2か所で炉が検出された。

炉A　中央部からやや北東よりに位置し，径150cm前後の不整円形で，床面を60cmほど掘り窪めている。

炉A土層解説
1　黒褐色　炭化粒子・砂多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　色　焼土粒子多量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　黒褐色　炭化材・炭化・ローム粒子中量，焼土粒子微量

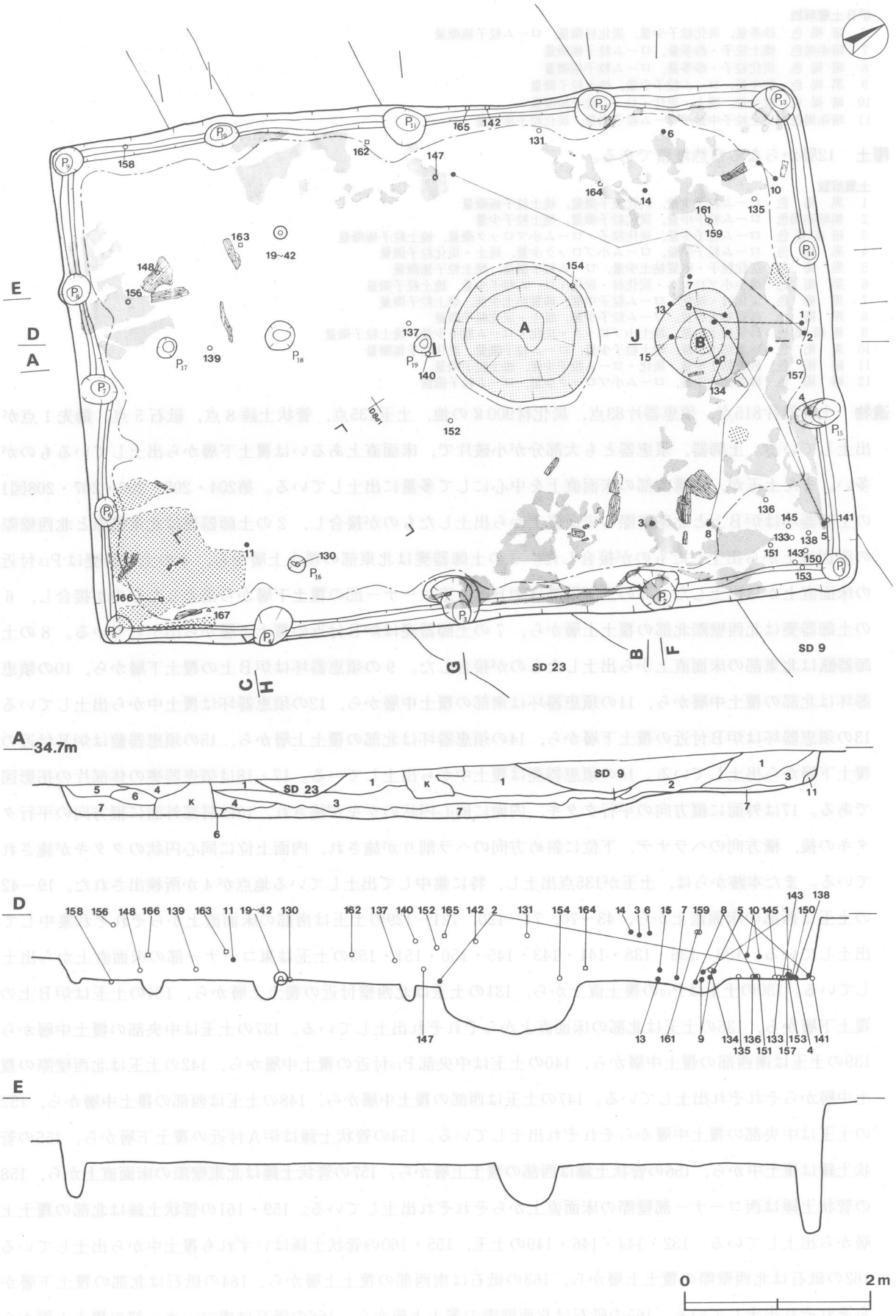
炉B　炉Aよりもさらに北東よりに位置し，長径98cm，短径90cmの不整楕円形で，床面を15cmほど掘り窪めた北側に粘土の高まりが見られた。炉床は焼けて赤変硬化している。

炉B土層解説
6　暗 褐 色　砂多量，炭化粒子少量，炭化材微量，ローム粒子極微量
7　暗赤褐色　焼土粒子・砂多量，ローム粒子極微量
8　暗 褐 色　炭化粒子・砂多量，ローム粒子極微量
9　黒 褐 色　砂中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
10　暗 褐 色　砂少量，焼土・炭化・ローム粒子極微量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量，炭化粒子極微量

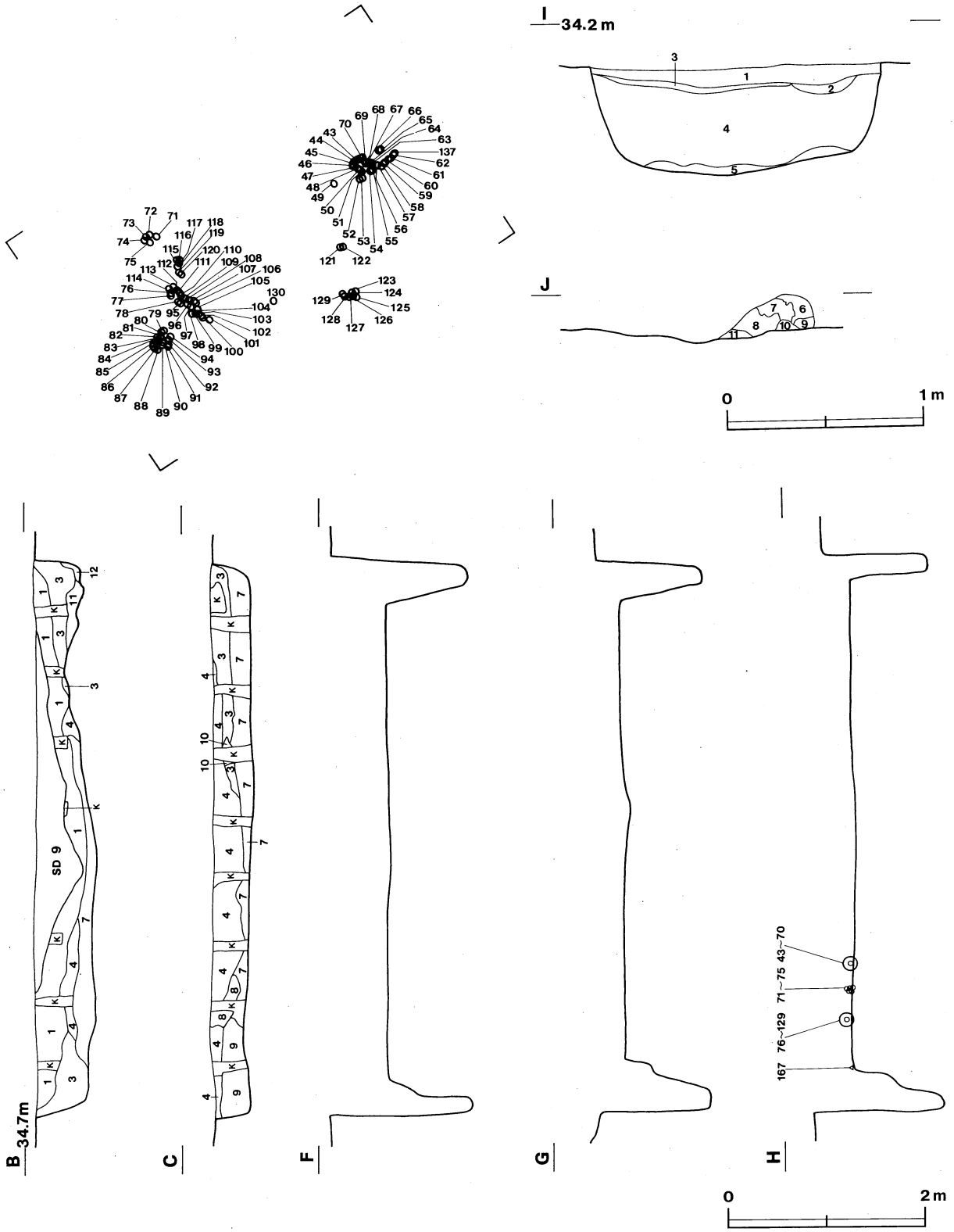
覆土　12層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
2　極暗赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量，焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量，焼土粒子極微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子・砂質粘土少量，ローム粒子微量，焼土粒子極微量
6　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化材・炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　炭化材・炭化・ローム粒子中量，砂質粘土少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　砂質粘土中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
9　極 暗 褐 色　砂質粘土中量，焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
10　黒　褐　色　砂質粘土多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量，炭化粒子極微量
11　暗　褐　色　砂質粘土中量，炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　暗　褐　色　砂質粘土中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

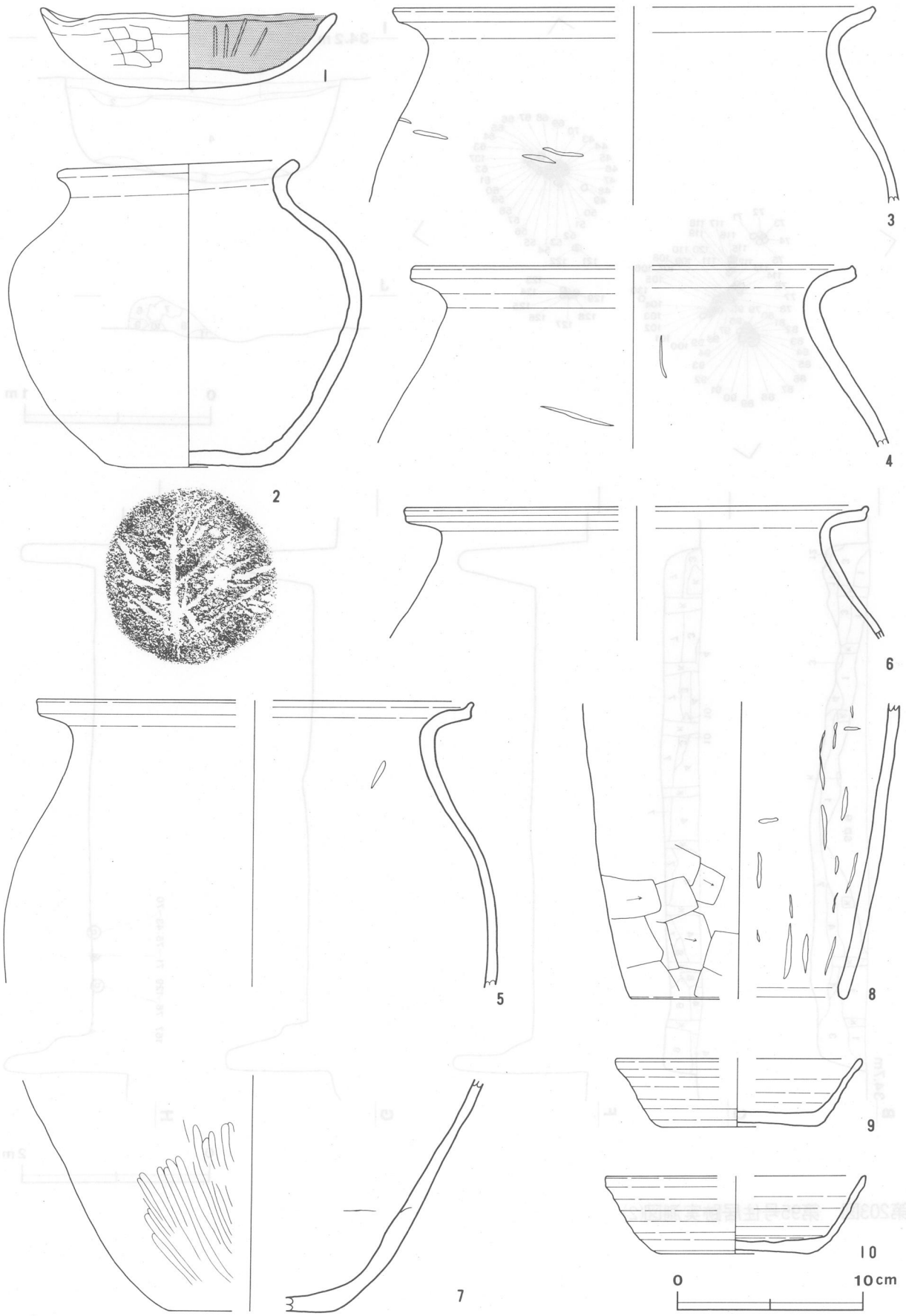
遺物　土師器片815点，須恵器片83点，炭化材900ｇの他，土玉135点，管状土錘８点，砥石５点，鋤先１点が出土している。土師器，須恵器とも大部分が小破片で，床面直上あるいは覆土下層から出土しているものが多い。また土玉が，遺構南部の床面直上を中心にして多量に出土している。第204・205・206・207・208図1の土師器坏は炉Ｂ上と北東壁際の床面直上から出土したものが接合し，２の土師器甕は北東壁際と北西壁際の床面直上から出土したものが接合した。３の土師器甕は北東部の覆土上層から，４の土師器甕はP_{15}付近の床面直上から出土した。５の土師器甕は炉Ｂ上と東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合し，６の土師器甕は北西壁際北部の覆土上層から，７の土師器甕は炉Ｂ付近の覆土下層から出土している。８の土師器甑は北東部の床面直上から出土したものが接合した。９の須恵器坏は炉Ｂ上の覆土下層から，10の須恵器坏は北部の覆土中層から，11の須恵器坏は南部の覆土中層から，12の須恵器坏は覆土中から出土している。13の須恵器坏は炉Ｂ付近の覆土下層から，14の須恵器坏は北部の覆土上層から，15の須恵器盤は炉Ｂ付近の覆土下層から出土している。16の須恵器甕は覆土中から出土している。17・18は須恵器甕の体部片の拓影図である。17は外面に縦方向の平行タタキ，内面に同心円状のタキが施され，18は肩部外面に縦方向の平行タタキの後，横方向のヘラナデ，下位に斜め方向のヘラ削りが施され，内面上位に同心円状のタタキが施されている。また本跡からは，土玉が135点出土し，特に集中して出土している地点が４か所検出された。19～42の土玉は西部の床面直上から，43～70，71～120，121～129の土玉は南部の床面直上からそれぞれ集中して出土している。133・136・138・141・143・145・150・151・153の土玉は東コーナー部の床面直上から出土している。130の土玉はP_{16}の覆土直上から，131の土玉は北西壁付近の覆土上層から，134の土玉は炉Ｂ上の覆土下層から，135の土玉は北部の床面直上からそれぞれ出土している。137の土玉は中央部の覆土中層から，139の土玉は南西部の覆土中層から，140の土玉は中央部P_{19}付近の覆土中層から，142の土玉は北西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。147の土玉は西部の覆土中層から，148の土玉は西部の覆土中層から，152の土玉は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。154の管状土錘は炉Ａ付近の覆土下層から，155の管状土錘は覆土中から，156の管状土錘は西部の覆土上層から，157の管状土錘は北東壁際の床面直上から，158の管状土錘は西コーナー部壁際の床面直上からそれぞれ出土している。159・161の管状土錘は北部の覆土上層から出土している。132・144・146・149の土玉，155・160の管状土錘はいずれも覆土中から出土している。162の砥石は北西壁際の覆土上層から，163の砥石は南西部の覆土上層から，164の砥石は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。165の砥石は北西壁際の覆土上層から，166の砥石は南コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。167の鋤先は南コーナー部の床面直上から出土している。



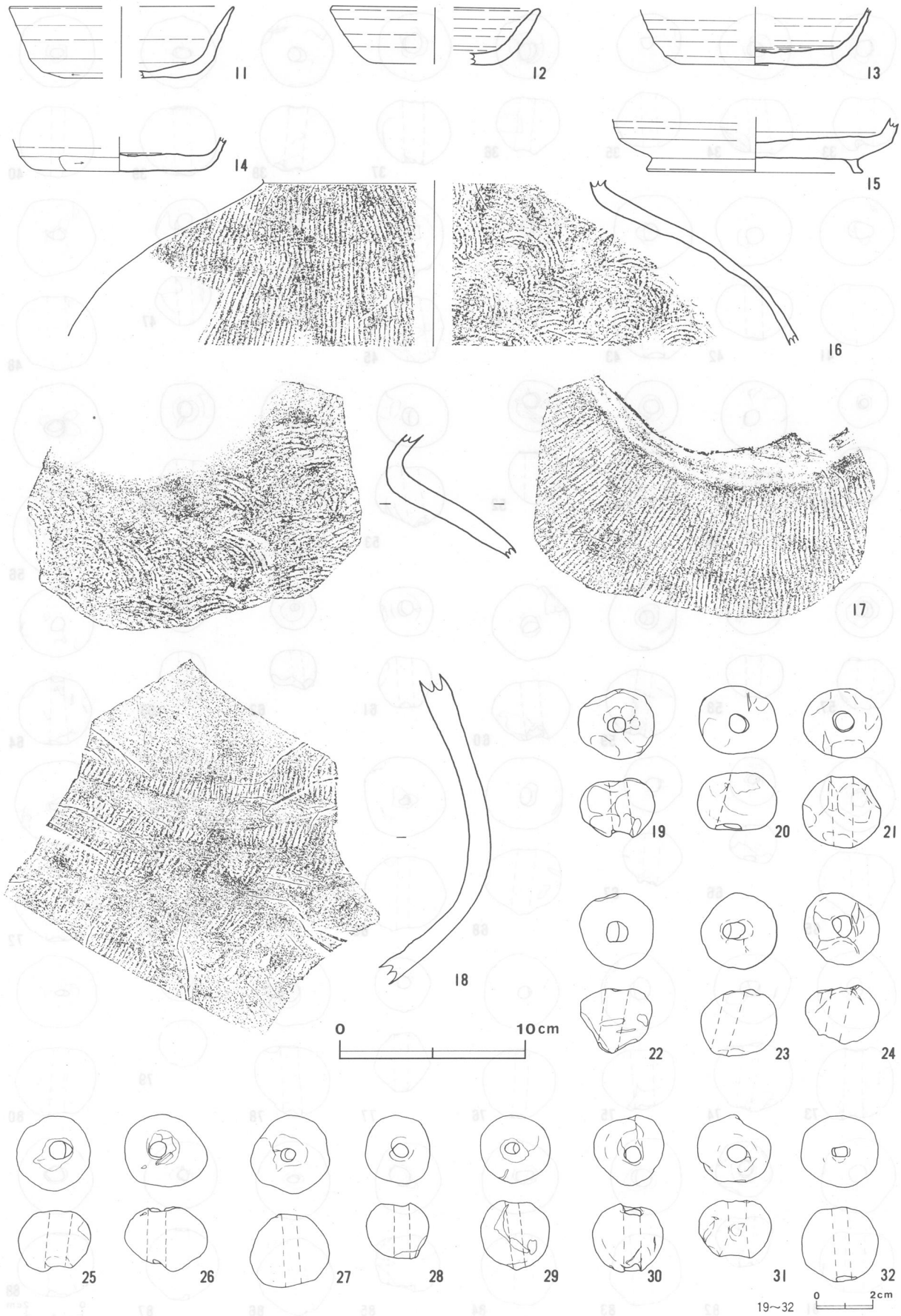
第202図　第95号住居跡実測図(1)



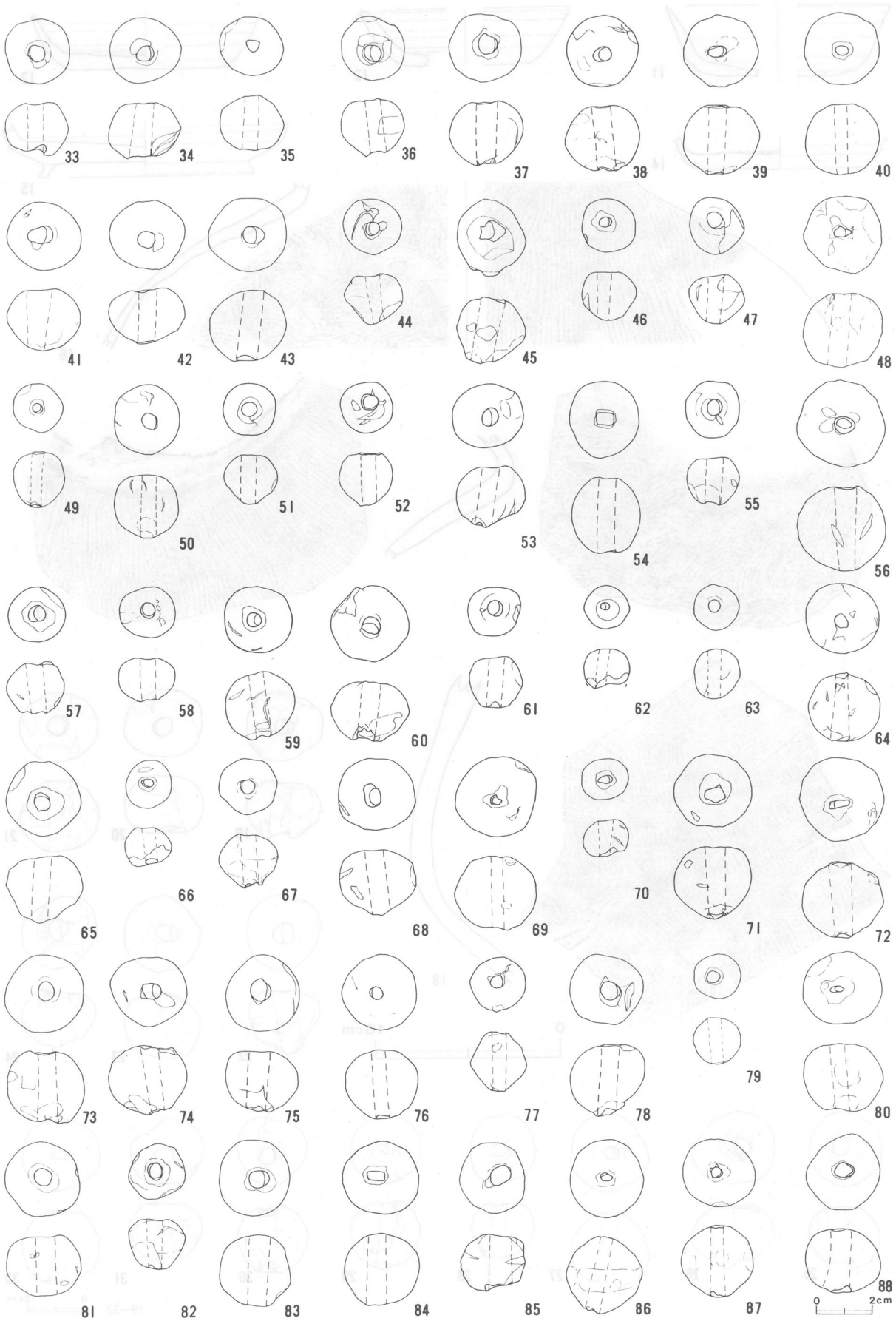
第203図　第95号住居跡実測図(2)



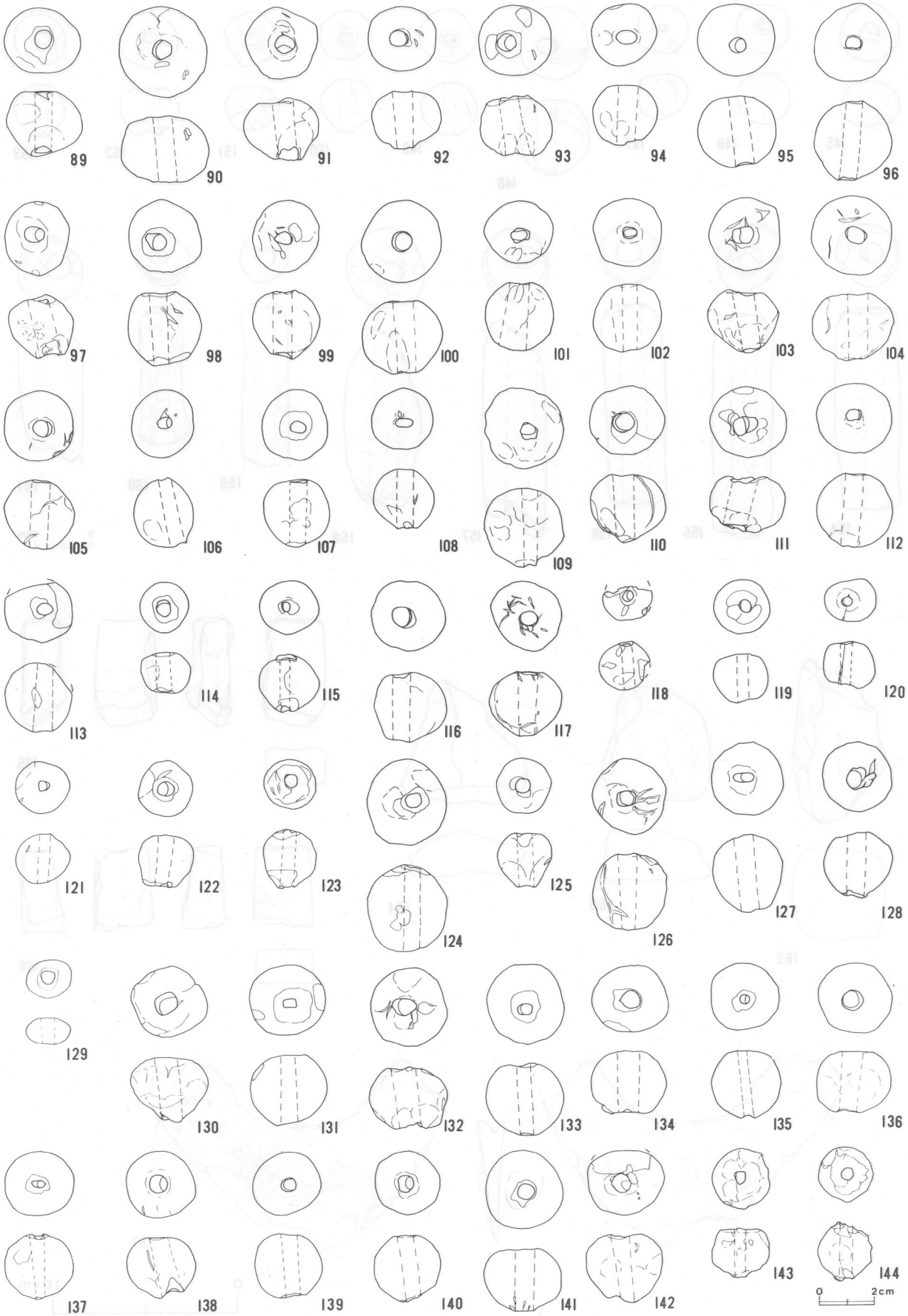
第204図　第95号住居跡出土遺物実測図(1)



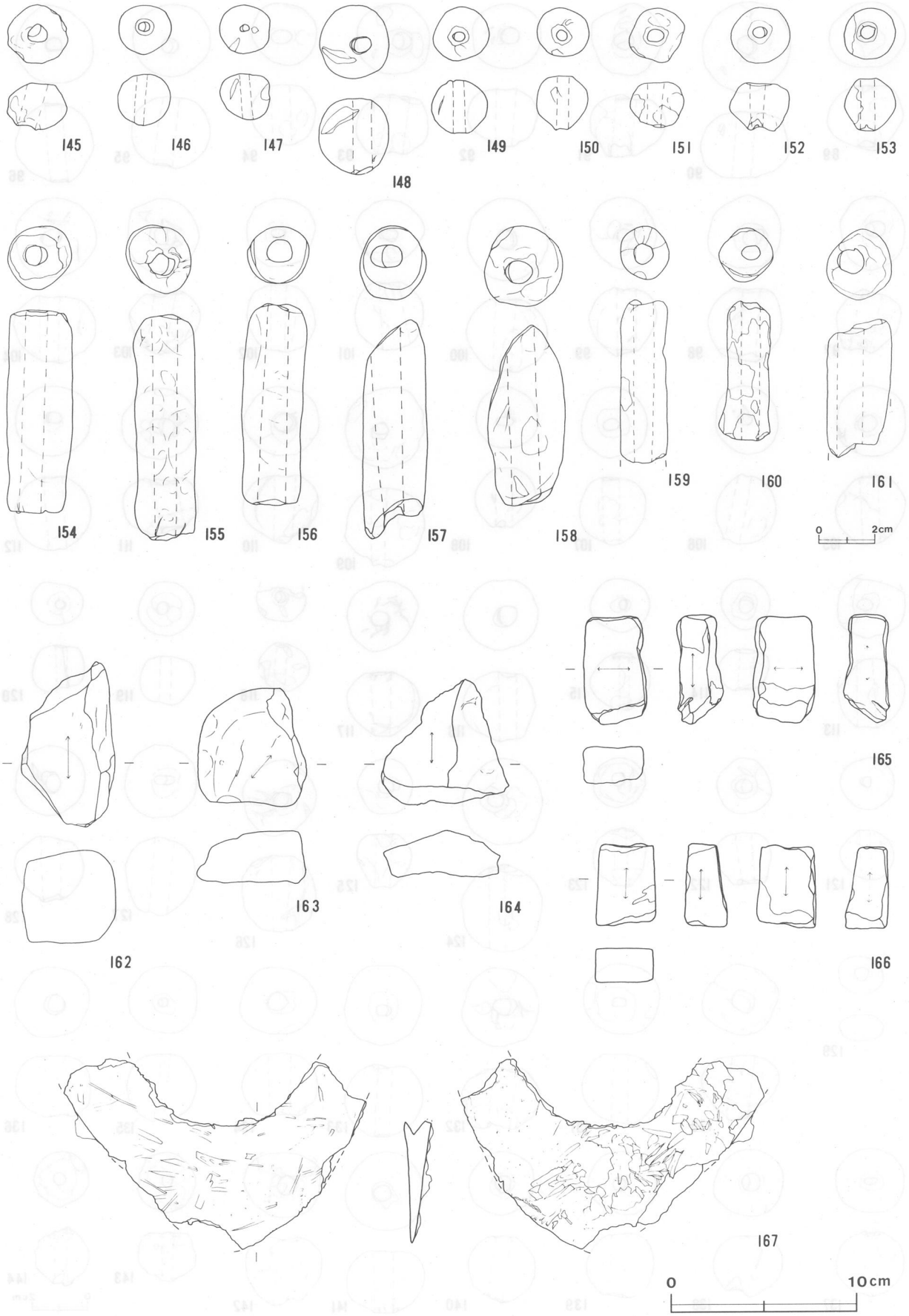
第205図　第95号住居跡出土遺物実測図(2)



第206図　第95号住居跡出土遺物実測図(3)



第207図　第95号住居跡出土遺物実測図(4)



第208図　第95号住居跡出土遺物実測図(5)

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図 1	坏 土師器	A 16.0 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。体部内面ヘラ磨き後，黒色処理。体部内面に暗文。	長石・雲母 橙色 普通	P659 60% 床面
2	甕 土師器	A 12.7 B 16.6 C 9.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P660 85% PL33 床面 体部外面に二次火熱痕
3	甕 土師器	A〔25.8〕 B(10.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P661 10% 覆土上層
4	甕 土師器	A〔23.5〕 B(9.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P662 10% 床面
5	甕 土師器	A〔23.4〕 B 15.5	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P663 10% 覆土下層
6	甕 土師器	A〔24.2〕 B(7.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P664 10% 覆土上層
7	甕 土師器	B(12.6) C〔 8.6〕	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P665 10% 覆土下層
8	甑 土師器	B(16.0) C〔11.4〕	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ，外面下位ヘラ削り。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P666 15% 床面
9	坏 須恵器	A〔13.1〕 B 3.7 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P667 60% 覆土下層
10	坏 須恵器	A〔14.0〕 B 4.2 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。体部外面に強いロクロ目。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P668 50% 覆土中層 酸化焔焼成
第205図 11	坏 須恵器	A〔12.2〕 B 3.9 C〔 6.4〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 褐灰色 普通	P669 25% 覆土中層
12	坏 須恵器	A〔11.1〕 B 3.1 C〔 6.2〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母・パミス にぶい黄色 良好	P670 20% 覆土中
13	坏 須恵器	B(3.2) C 8.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P671 60% 覆土下層
14	坏 須恵器	B(1.9) C 9.2	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P672 60% 覆土上層
15	盤 須恵器	B(3.0) D 11.3 E 0.8	高台部から体部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P673 45% 覆土下層 酸化焔焼成
16	甕 須恵器	B(9.0)	体部片。体部は内彎する。	体部外面縦方向の平行タタキ。体部内面に同心円状の当て具痕。	長石・石英 灰色 普通	P686 15% PL3 覆土中

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第205図19	土　玉	2.7	2.1	0.6	11.4	床面	DP244
20	土　玉	2.8	2.1	1.0	16.2	床面	DP192　PL36
21	土　玉	2.8	2.6	0.8	14.9	床面	DP214　PL36
22	土　玉	2.7	2.3	0.8	12.4	床面	DP242　PL36
23	土　玉	2.7	2.4	0.7	13.6	床面	DP196　PL36
24	土　玉	2.6	2.0	0.5	8.9	床面	DP234
25	土　玉	2.6	2.2	0.8	13.6	床面	DP202
26	土　玉	2.9	2.3	0.6	15.2	床面	DP201　PL36
27	土　玉	2.8	2.9	0.6	18.4	床面	DP169　PL36
28	土　玉	2.4	1.9	0.5	11.7	床面	DP237　PL36
29	土　玉	2.5	2.5	0.5	14.4	床面	DP209　PL36
30	土　玉	2.5	2.4	0.6	12.7	床面	DP249
31	土　玉	2.6	2.1	1.1	9.8	床面	DP247
32	土　玉	2.7	2.7	0.6	17.7	床面	DP179　PL36
第206図33	土　玉	2.3	1.9	0.6	9.9	床面	DP238　PL36
34	土　玉	2.6	2.0	0.6	11.4	床面	DP240　PL36
35	土　玉	2.3	2.0	0.5	8.9	床面	DP233
36	土　玉	2.3	2.1	0.6	9.7	床面	DP239　PL36
37	土　玉	2.5	2.5	0.7	17.5	床面	DP182　PL36
38	土　玉	2.6	2.4	0.7	13.4	床面	DP199　PL36
39	土　玉	2.7	2.5	0.6	14.7	床面	DP198
40	土　玉	2.7	2.6	0.4	17.1	床面	DP191　PL36
41	土　玉	2.6	2.3	0.9	12.9	床面	DP222　PL36
42	土　玉	2.7	2.0	0.6	12.4	床面	DP216　PL36
43	土　玉	2.9	2.5	0.7	17.8	床面	DP165　PL36
44	土　玉	2.1	1.9	0.6	6.2	床面	DP255
45	土　玉	2.8	2.4	0.8	12.0	床面	DP243　PL36
46	土　玉	2.0	1.8	0.5	6.1	床面	DP288
47	土　玉	1.9	1.8	0.6	6.6	床面	DP267
48	土　玉	2.8	2.7	0.6	20.2	床面	DP160　PL36
49	土　玉	1.9	2.0	0.4	5.7	床面	DP278
50	土　玉	2.3	2.3	0.6	13.1	床面	DP204　PL36
51	土　玉	2.0	1.8	0.6	5.9	床面	DP286
52	土　玉	1.9	1.9	0.6	7.2	床面	DP263
53	土　玉	2.5	2.2	0.6	11.8	床面	DP221　PL36
54	土　玉	2.7	2.7	0.6	17.6	床面	DP163　PL36
55	土　玉	2.7	2.8	0.7	6.5	床面	DP264
56	土　玉	3.1	3.0	0.8	0.8	床面	DP155　PL36
57	土　玉	2.1	1.9	0.6	6.8	床面	DP271
58	土　玉	2.0	1.5	0.6	6.3	床面	DP270
59	土　玉	2.4	2.5	0.5	13.8	床面	DP210　PL36
60	土　玉	2.8	2.2	0.7	13.7	床面	DP219　PL36
61	土　玉	1.9	1.8	0.5	7.0	床面	DP266
62	土　玉	1.7	1.5	0.4	4.0	床面	DP276
63	土　玉	1.7	1.7	0.5	4.0	床面	DP279
64	土　玉	2.6	2.5	0.5	15.5	床面	DP203
65	土　玉	2.7	2.4	0.6	15.0	床面	DP187　PL36
66	土　玉	1.8	(1.4)	0.5	3.8	床面	DP274
67	土　玉	2.1	1.9	0.5	6.7	床面	DP258
68	土　玉	2.8	2.4	0.6	14.7	床面	DP174　PL36
69	土　玉	2.9	2.9	0.4	20.2	床面	DP166　PL36

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第206図70	土　玉	1.7	1.4	0.5	3.1	床面	DP273
71	土　玉	2.8	2.6	0.8	17.1	床面	DP188　PL36
72	土　玉	3.0	2.8	0.8	20.5	床面	DP167　PL36
73	土　玉	2.8	2.7	0.6	19.3	床面	DP161　PL36
74	土　玉	2.7	2.5	0.7	16.6	床面	DP200　PL36
75	土　玉	2.6	2.2	0.8	15.0	床面	DP183　PL36
76	土　玉	2.7	2.6	1.0	17.1	床面	DP193　PL36
77	土　玉	2.0	2.2	0.5	7.0	床面	DP257
78	土　玉	2.7	2.6	0.7	17.7	床面	DP185　PL36
79	土　玉	1.7	1.7	0.5	4.2	床面	DP275
80	土　玉	2.9	2.5	0.5	17.4	床面	DP175
81	土　玉	2.7	2.2	0.6	15.5	床面	DP184　PL36
82	土　玉	2.1	1.8	0.6	7.0	床面	DP251
83	土　玉	2.6	2.3	0.6	14.9	床面	DP181　PL36
84	土　玉	2.7	2.6	0.7	17.2	床面	DP171　PL36
85	土　玉	2.6	2.1	0.9	9.4	床面	DP245
86	土　玉	2.8	2.8	0.6	17.2	床面	DP178　PL36
87	土　玉	2.5	2.6	0.5	14.7	床面	DP211　PL36
88	土　玉	2.7	2.3	1.0	15.1	床面	DP194　PL36
第207図89	土　玉	2.7	2.4	0.6	13.3	床面	DP229　PL36
90	土　玉	3.3	2.4	0.7	24.0	床面	DP154　PL36
91	土　玉	2.6	2.3	0.7	13.3	床面	DP218　PL36
92	土　玉	2.5	2.2	0.7	11.3	床面	DP232　PL36
93	土　玉	2.6	2.2	0.7	13.2	床面	DP208　PL36
94	土　玉	2.3	2.2	0.7	11.8	床面	DP224　PL36
95	土　玉	2.8	2.6	0.7	17.4	床面	DP173　PL36
96	土　玉	2.8	2.9	0.6	19.0	床面	DP157　PL36
97	土　玉	2.7	2.3	0.8	10.4	床面	DP235　PL36
98	土　玉	2.7	2.7	0.8	17.1	床面	DP189　PL36
99	土　玉	2.6	2.5	0.6	13.1	床面	DP246　PL36
100	土　玉	2.9	2.7	0.7	21.3	床面	DP158　PL36
101	土　玉	2.5	2.4	1.0	12.9	床面	DP213　PL36
102	土　玉	2.5	2.4	0.5	13.2	床面	DP215　PL36
103	土　玉	2.6	2.3	0.8	14.0	床面	DP217　PL36
104	土　玉	2.9	2.4	0.7	18.9	床面	DP159　PL36
105	土　玉	2.5	2.5	0.7	14.5	床面	DP205　PL36
106	土　玉	2.2	2.5	0.6	14.4	床面	DP225　PL36
107	土　玉	2.5	2.5	0.6	13.8	床面	DP230　PL36
108	土　玉	2.2	2.1	0.6	10.1	床面	DP223　PL36
109	土　玉	2.9	2.9	0.5	20.6	床面	DP168　PL36
110	土　玉	2.7	2.5	0.8	13.7	床面	DP206　PL36
111	土　玉	2.8	2.1	0.9	12.2	床面	DP220　PL36
112	土　玉	2.7	2.6	0.6	16.5	床面	DP180　PL36
113	土　玉	2.4	2.5	0.6	12.3	床面	DP236
114	土　玉	1.8	1.5	0.5	4.0	床面	DP280
115	土　玉	2.2	2.1	0.4	7.0	床面	DP254

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第207図116	土　玉	2.7	2.5	0.7	15.9	床面	DP190　PL36
117	土　玉	2.6	2.3	0.7	12.8	床面	DP248
118	土　玉	1.8	(1.8)	0.4	2.7	床面	DP283
119	土　玉	2.0	1.8	0.4	7.8	床面	DP269　PL36
120	土　玉	1.9	(1.7)	0.4	4.0	床面	DP277
121	土　玉	2.0	1.8	0.4	5.6	床面	DP281
122	土　玉	2.0	1.8	0.6	6.2	床面	DP282
123	土　玉	1.9	2.1	0.5	6.5	床面	DP253
124	土　玉	3.1	3.1	0.6	26.4	床面	DP156　PL36
125	土　玉	2.0	1.9	0.5	6.9	床面	DP252
126	土　玉	2.7	2.7	0.7	16.8	床面	DP197　PL36
127	土　玉	2.6	2.8	0.7	16.6	床面	DP170　PL36
128	土　玉	2.5	2.4	0.7	13.8	床面	DP177　PL36
129	土　玉	1.6	1.0	0.6	2.0	床面	DP272
130	土　玉	2.8	2.3	0.8	12.5	床面	DP241　PL36
131	土　玉	2.7	2.6	0.6	15.9	覆土上層	DP172
132	土　玉	2.9	2.2	0.9	14.1	覆土中	DP176
133	土　玉	2.9	2.6	0.5	19.0	床面	DP186
134	土　玉	2.8	2.3	0.8	13.0	覆土下層	DP195
135	土　玉	2.4	2.4	0.4	13.8	床面	DP207
136	土　玉	2.6	2.6	0.7	14.1	床面	DP212
137	土　玉	2.4	2.3	0.5	11.5	覆土中層	DP226
138	土　玉	2.5	2.2	0.8	10.3	床面	DP227
139	土　玉	2.4	2.3	0.5	11.2	覆土中層	DP228
140	土　玉	2.4	2.4	0.6	11.5	覆土中層	DP231
141	土　玉	2.8	2.3	0.7	18.1	床面	DP162
142	土　玉	2.8	2.5	0.7	13.5	覆土中層	DP250
143	土　玉	2.2	1.8	0.4	7.2	床面	DP256
144	土　玉	2.0	2.1	0.4	6.3	覆土中	DP259
第208図145	土　玉	2.2	1.7	0.7	6.5	床面	DP260
146	土　玉	1.9	1.9	0.4	6.7	覆土中	DP261
147	土　玉	1.8	1.7	0.4	5.5	覆土中層	DP262
148	土　玉	1.9	1.7	0.6	6.5	覆土中層	DP264　PL36
149	土　玉	2.0	1.9	0.4	7.2	覆土中	DP265
150	土　玉	1.8	1.9	0.4	6.6	床面	DP268
151	土　玉	2.0	1.6	0.6	5.4	床面	DP284
152	土　玉	2.2	1.8	0.5	6.8	覆土中層	DP285
153	土　玉	1.9	1.9	0.7	6.0	床面	DP287
154	管状土錘	2.3	7.3	0.8	46.9	覆土下層	DP289　PL37
155	管状土錘	2.5	8.1	1.0	51.7	覆土中	DP290　PL37
156	管状土錘	2.3	7.2	1.0	40.4	覆土上層	DP291　PL37
157	管状土錘	2.4	(7.8)	1.0	47.5	床面	DP292　PL37
158	管状土錘	2.8	6.4	1.0	44.5	床面	DP293　PL37
159	管状土錘	1.9	(5.8)	0.8	(17.6)	覆土上層	DP294　PL37
160	管状土錘	1.9	(5.0)	0.7	(13.9)	覆土中	DP295　PL37
161	管状土錘	2.5	(4.9)	1.0	(18.4)	覆土上層	DP296　PL37

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第208図162	砥　石	8.9	5.1	4.9	274.4	安山岩	覆土上層	Q43
163	砥　石	6.4	5.8	2.9	148.8	石英斑岩	覆土上層	Q44
164	砥　石	(6.8)	(6.9)	2.5	(97.5)	安山岩	覆土下層	Q45
165	砥　石	5.9	2.5	2.0	70.8	安山岩	覆土上層	Q46
166	砥　石	4.5	3.2	1.9	49.4	凝灰岩	覆土上層	Q47

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
167	鋤　先	(10.2)	16.4	0.7	(380.3)	床面	M86

所見　本跡の出土遺物としては，土玉が多量に出土したこと以外特徴は見当たらないが，当遺跡内の他の竪穴住居跡に比べて，遺構の構造に特異な点が多い。まず竈がないこと，中央部からやや北東よりに炉が2か所検出されたこと，壁際に補助柱穴があること，また壁際から壁材と思われる粘土塊が崩落した状態で検出されたことなどである。この粘土塊は壁の補強材であったと思われる。これらの事実だけで本遺構の性格を限定することは難しいが，単なる住居跡ではなくそれ以外の何らかの目的のためにつくられた可能性が高い。

本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第96号住居跡（第209図）

位置　調査区の南部，E7h9区。

規模と平面形　長軸4.17m，短軸3.75mの長方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は66～74cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅23cm，下幅7cm，深さ5cmで，断面形は逆台形である。

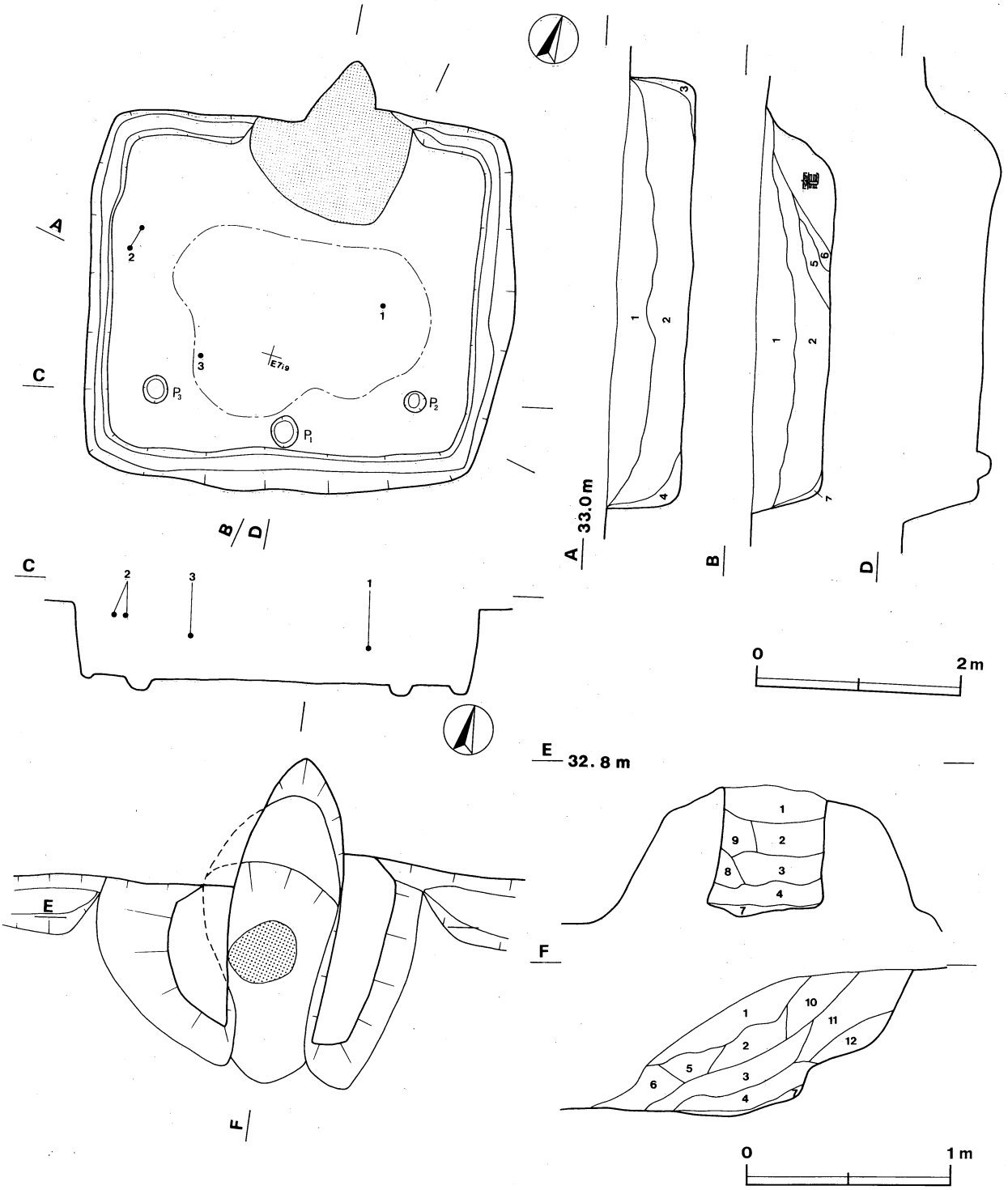
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径32cm，短径26cmの不整楕円形，深さ14cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2・P_3は長径21～28cm，短径22～24cmの不整楕円形，深さ11～13cmで柱穴と思われる。

竈　北壁中央部を壁外に55cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ160cm，最大幅157cmである。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めており，わずかに焼けて赤変している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

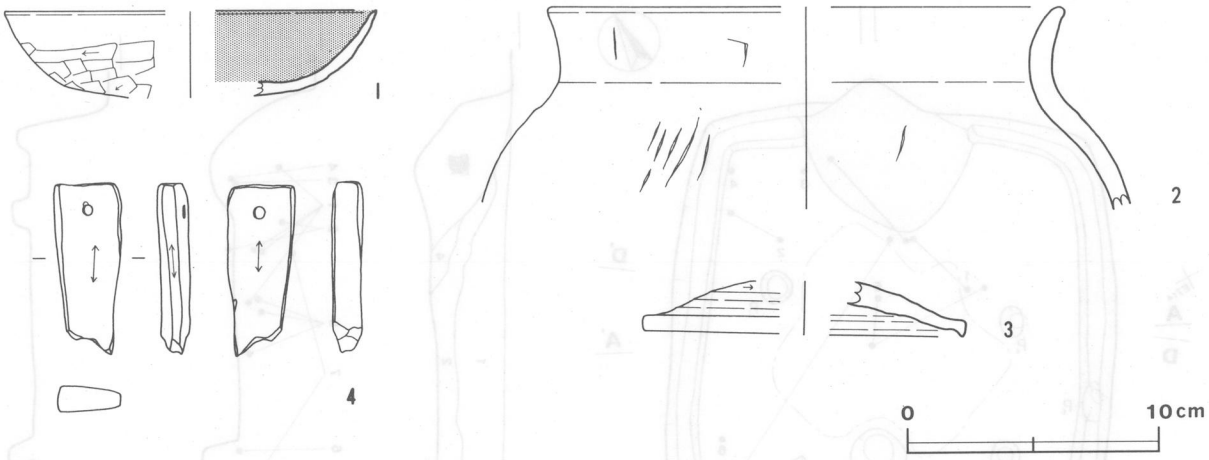
1　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土・炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，炭化物少量
4　極暗赤褐色　焼土・粘土粒子中量，炭化物少量
5　暗赤褐色　ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
6　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土中ブロック中量
8　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
9　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
10　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
11　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
12　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子少量



第209図　第96号住居跡実測図

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
7　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



第210図　第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第210図 1	坏 土師器	A〔14.8〕 B(3.5)	底部から体部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア 褐灰色 普通	P533　10% 覆土中層
2	甕 土師器	A〔20.4〕 B(8.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部及び体部内・外面にヘラ当て痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P534　10% 覆土上層
3	蓋 須恵器	A〔12.8〕 B　2.2	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P535　5% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値					石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
4	砥　石	6.9	2.7	1.2	0.4	36.7	凝灰岩	覆土中	Q37　PL38

遺物　土師器片93点，須恵器片13点，石製品１点が出土しているが破片が多く，また覆土中・上層から出土しているものが多い。第210図１の土師器坏は東部の覆土中層から，２の土師器甕は西部の覆土上層から，３の須恵器蓋は南西部の覆土中層から，４の砥石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後葉と思われる。

第97号住居跡（第211図）

位置　調査区の南部，E7e4区。

規模と平面形　長軸3.52m，短軸3.43mの方形である。

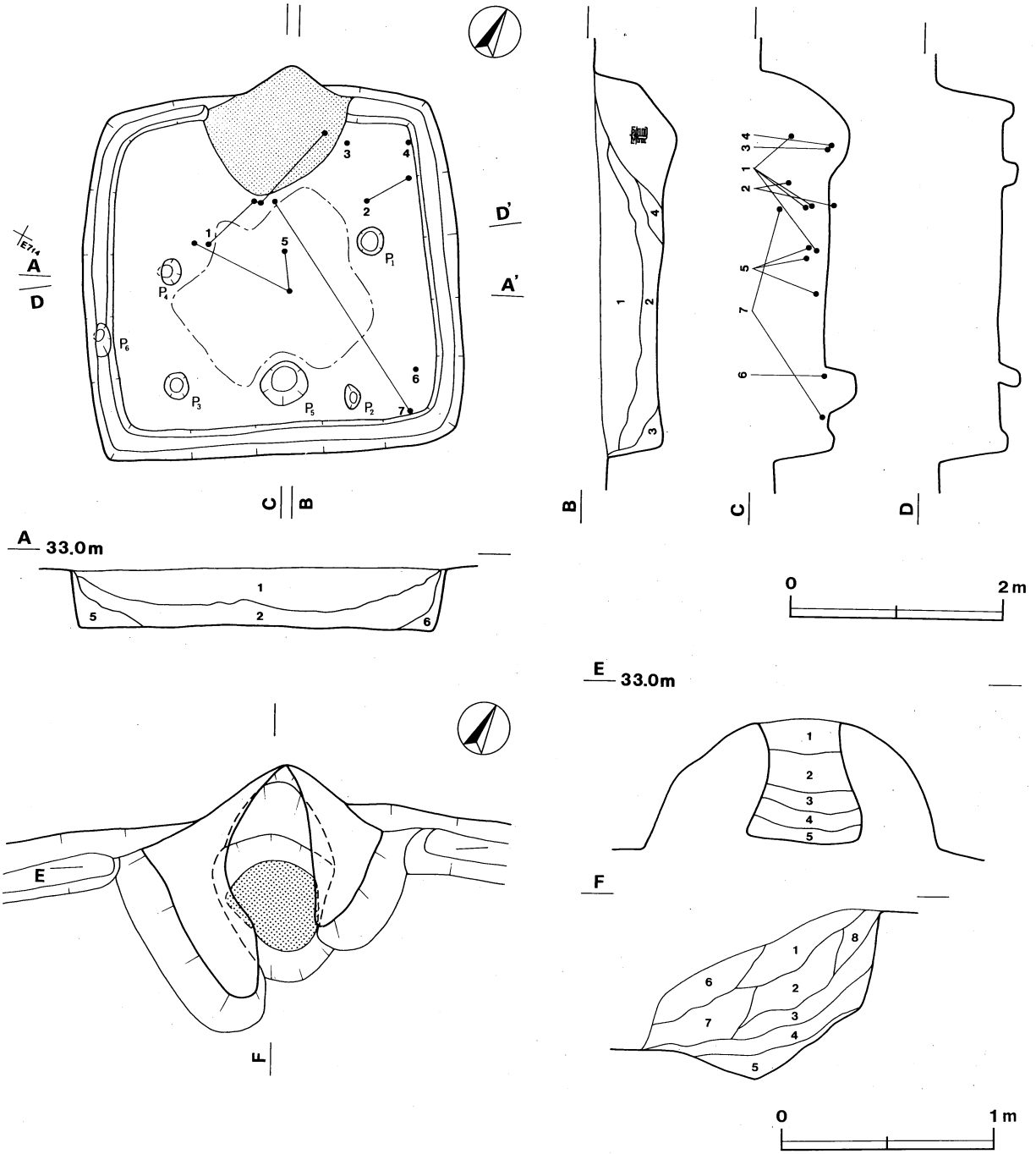
主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は50～62cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅30cm，下幅14cm，深さ６cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径24～26cm，短径15～25cmの不整楕円形，深さ７～20cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径45cm，短径42cmの不整楕円形，深さ28cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

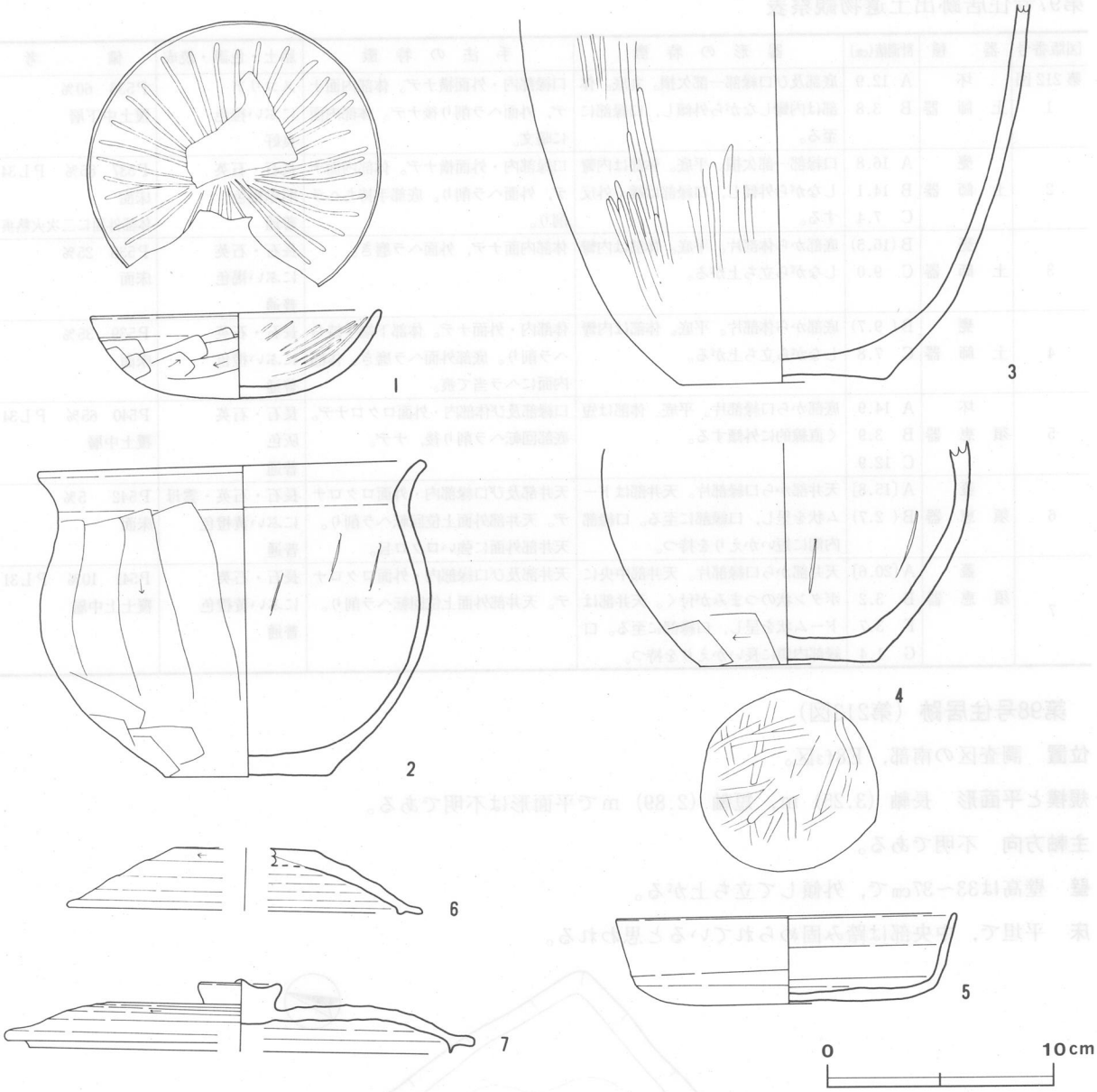


第211図　第97号住居跡実測図

竈　北西壁中央部を壁外に21cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ102cm，最大幅140cmである。火床部は，床面を17cmほど掘り窪めている。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土・ローム小ブロック少量
2　灰　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子少量
4　極 暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
5　極 暗 褐 色　焼土・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
6　灰　褐　色　焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック・粘土粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第212図　第97号住居跡出土遺物実測図

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量
2　黒 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム大ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片136点，須恵器片4点の他，鉄滓が450ｇ出土している。第212図1の土師器坏は，竈内の覆土中層と竈前面の覆土下層から出土したものが接合した。2の土師器甕は北東部の床面直上と覆土中層から出土したものが接合し，3の土師器甕は竈右袖部付近の床面直上からそれぞれ出土している。4の土師器甕は北部コーナー壁際の床面直上から，5の須恵器坏は中央部の覆土下層から出土した破片が接合した。6の須恵器蓋は東コーナー部の床面直上から，7の須恵器蓋は竈前面の覆土上層と東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合した。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第97号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第212図 1	坏 土師器	A 12.9 B 3.8	底部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に暗文。	スコリア にぶい橙色 良好	P536　60% 覆土中下層
2	甕 土師器	A 16.8 B 14.1 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 明赤褐色 普通	P537　85%　PL34 床面 体部外面に二次火熱痕
3	甕 土師器	B(16.5) C 9.0	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P538　25% 床面
4	甕 土師器	B(9.7) C 7.8	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部外面ヘラ磨き。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P539　35% 床面
5	坏 須恵器	A 14.9 B 3.9 C 12.9	底部から口縁部片。平底。体部は短く直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P540　65%　PL34 覆土中層
6	蓋 須恵器	A〔15.8〕 B(2.7)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面に強いロクロ目。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P542　5% 床面
7	蓋 須恵器	A〔20.6〕 B 3.2 F 3.7 G 1.4	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に長いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P541　10%　PL31 覆土上中層

第98号住居跡（第213図）

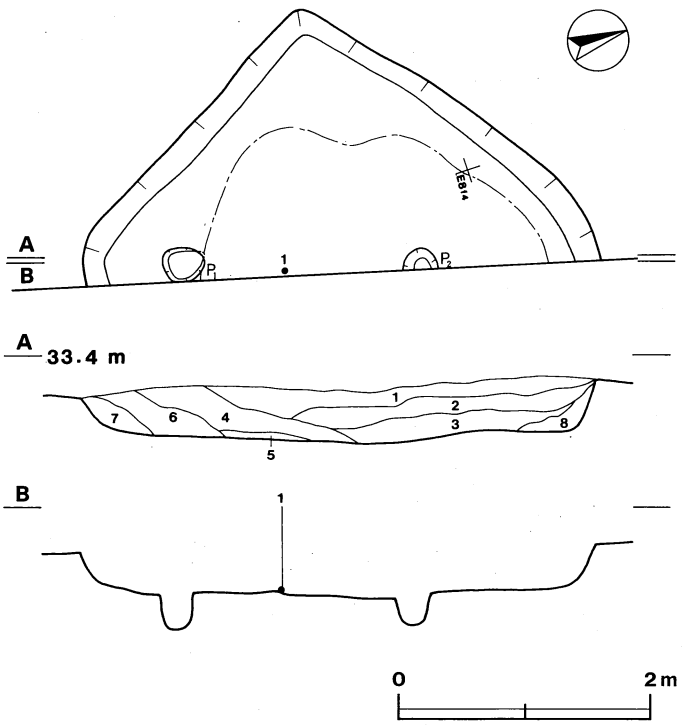
位置　調査区の南部，E8f3区。

規模と平面形　長軸（3.25）m，短軸（2.89）mで平面形は不明である。

主軸方向　不明である。

壁　壁高は33～37cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められていると思われる。

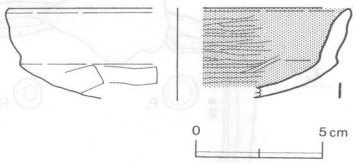


第213図　第98号住居跡実測図

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は，長径（17）～33cm，短径28～29cm不整楕円形，深さ23～39cmで，性格は不明である。

覆土　8層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子少量
7　褐　色　ローム粒子中量
8　暗褐色　ローム粒子少量



第214図　第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第214図 1	土師器 坏	A〔13.5〕 B（3.6）	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内面全体ヘラ磨き後，黒色処理。体部外面手持ちヘラ削り。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P543　5% 床面

遺物　出土遺物は少なく土師器片1点のみである。第214図1の土師器坏は，中央部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後葉）と思われる。

第99号住居跡（第215図）

位置　調査区の南部，E7h_7区。

規模と平面形　長軸2.48m，短軸2.18mの長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は57～63cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅25cm，下幅6cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦であるが，踏み固めた部分は見られない。

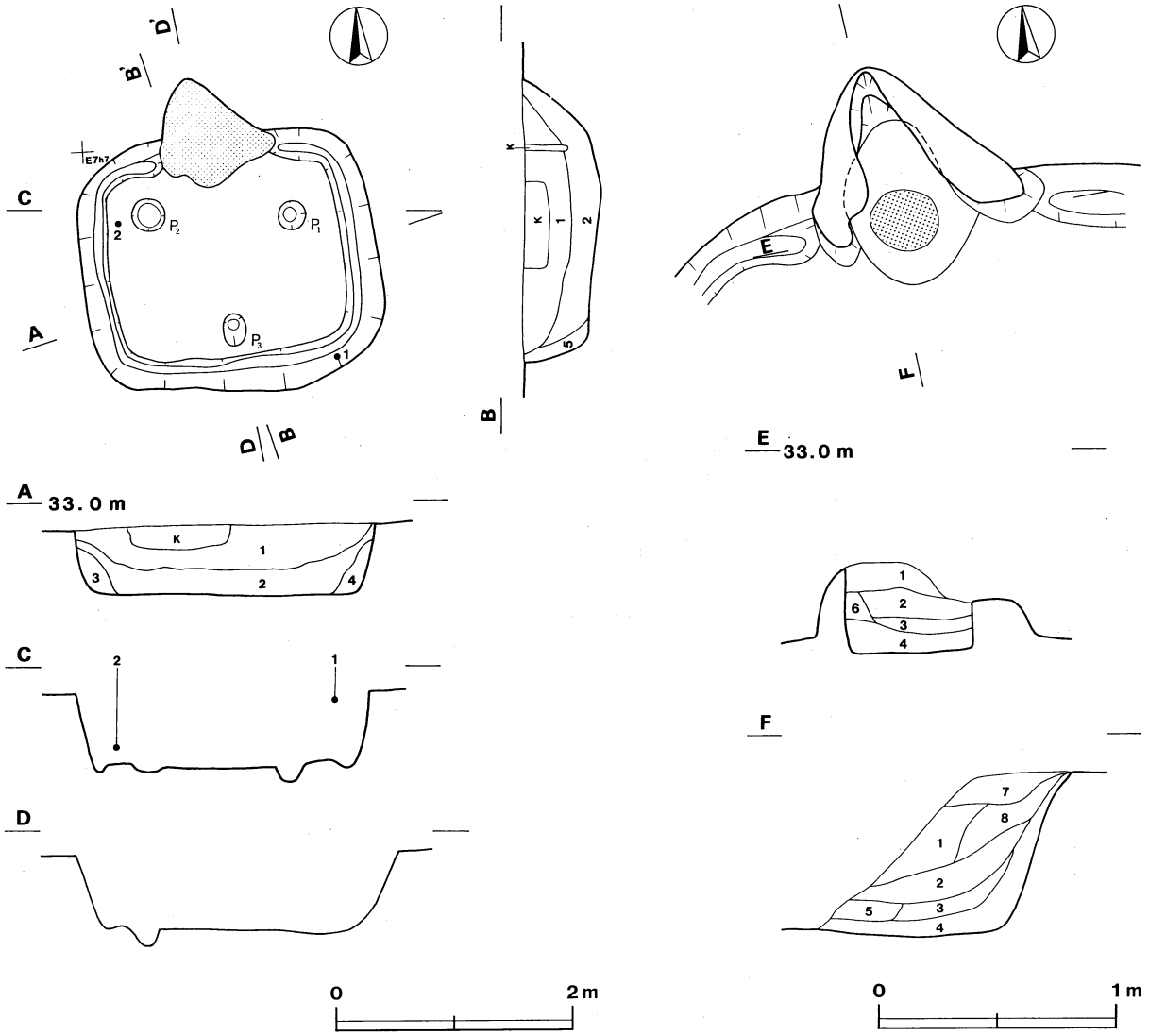
ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1～P_2は，長径23～28cm，短径15～27cmの不整楕円形，深さ5～14cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3は長径27cm，短径19cmの不整楕円形，深さ15cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に50cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ95cm，最大幅97cmである。火床部は，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土・炭化粒子少量
7　極暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子少量



第215図　第99号住居跡実測図

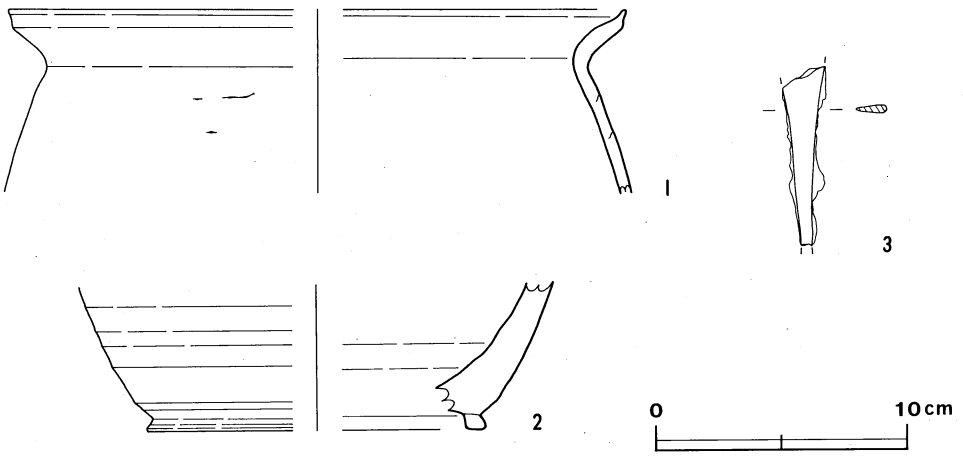
遺物　出土遺物は少なく，土師器片26点，須恵器片７点の他，鉄製品１点のみである。第216図１の土師器甕は南東コーナー部壁際の覆土上層から，２の須恵器長頸瓶は北西部の覆土下層から，３の鉄鏃は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 1	甕 土師器	A〔24.6〕 B（7.1）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P544　5% 覆土上層
2	長頸瓶 須恵器	B（5.9） D〔13.6〕 E　0.5	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰白色 普通	P545　5% 覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	鉄鏃	(7.1)	1.7	0.4	(11.9)	覆土中	M74　PL40



第216図　第99号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡（第217・218図）

位置　調査区の南部，E7b0区。

重複関係　本跡は，北西部を第13号溝に掘り込まれていることから，第13号溝よりも古い。

規模と平面形　東部は調査区外のため，長軸6.36m，短軸（5.44）mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は60～78cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，全周する。上幅24cm，下幅9cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　8か所（P_1～P_8）。P_1～P_3は，長径65～77cm，短径54～76cmの不整楕円形，深さ56～61cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_4～P_7は長径20～35cm，短径18～26cmの不整楕円形，深さ30～32cmで，配置から壁柱穴と思われる。P_8は長径117cm，短径74cmの不整楕円形，深さ18cmの不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に62cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，最大幅175cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

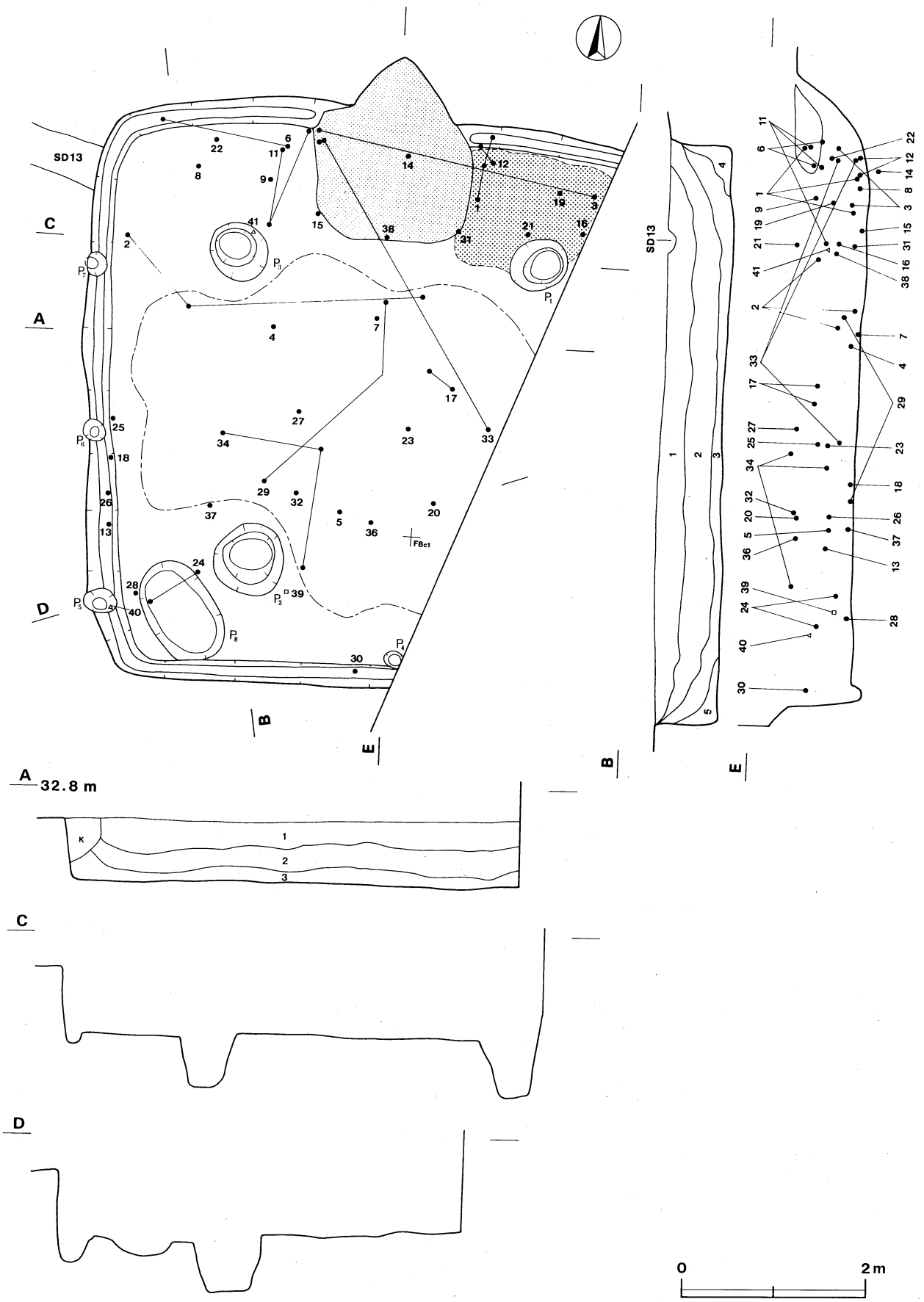
竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
2　灰　褐　色　焼土・粘土粒子多量
3　にぶい赤褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子少量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子中量
7　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム小ブロック少量
8　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
10　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
11　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
12　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
13　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
14　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
15　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

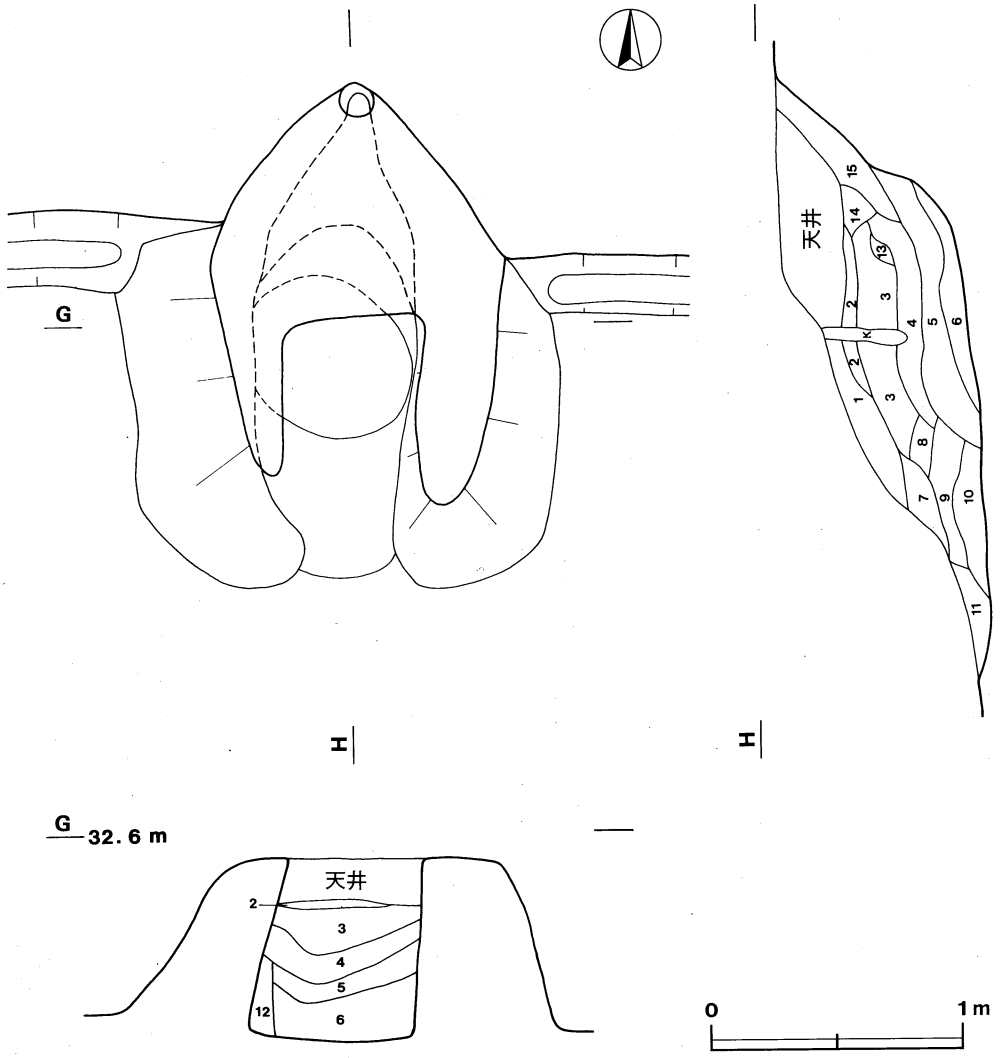
覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化・ローム中ブロック少量
2　暗褐色　焼土・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量



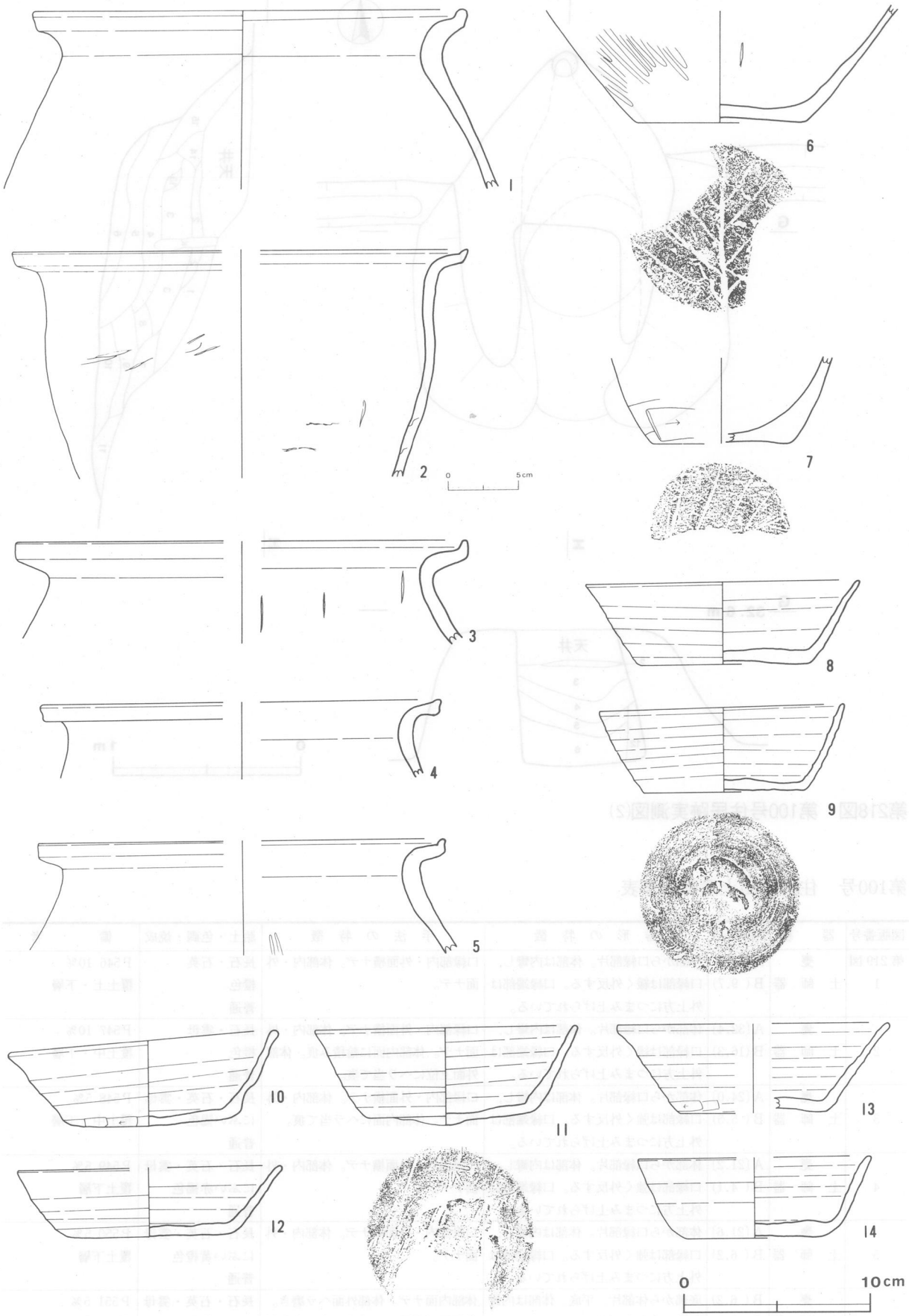
第217図　第100号住居跡実測図(1)



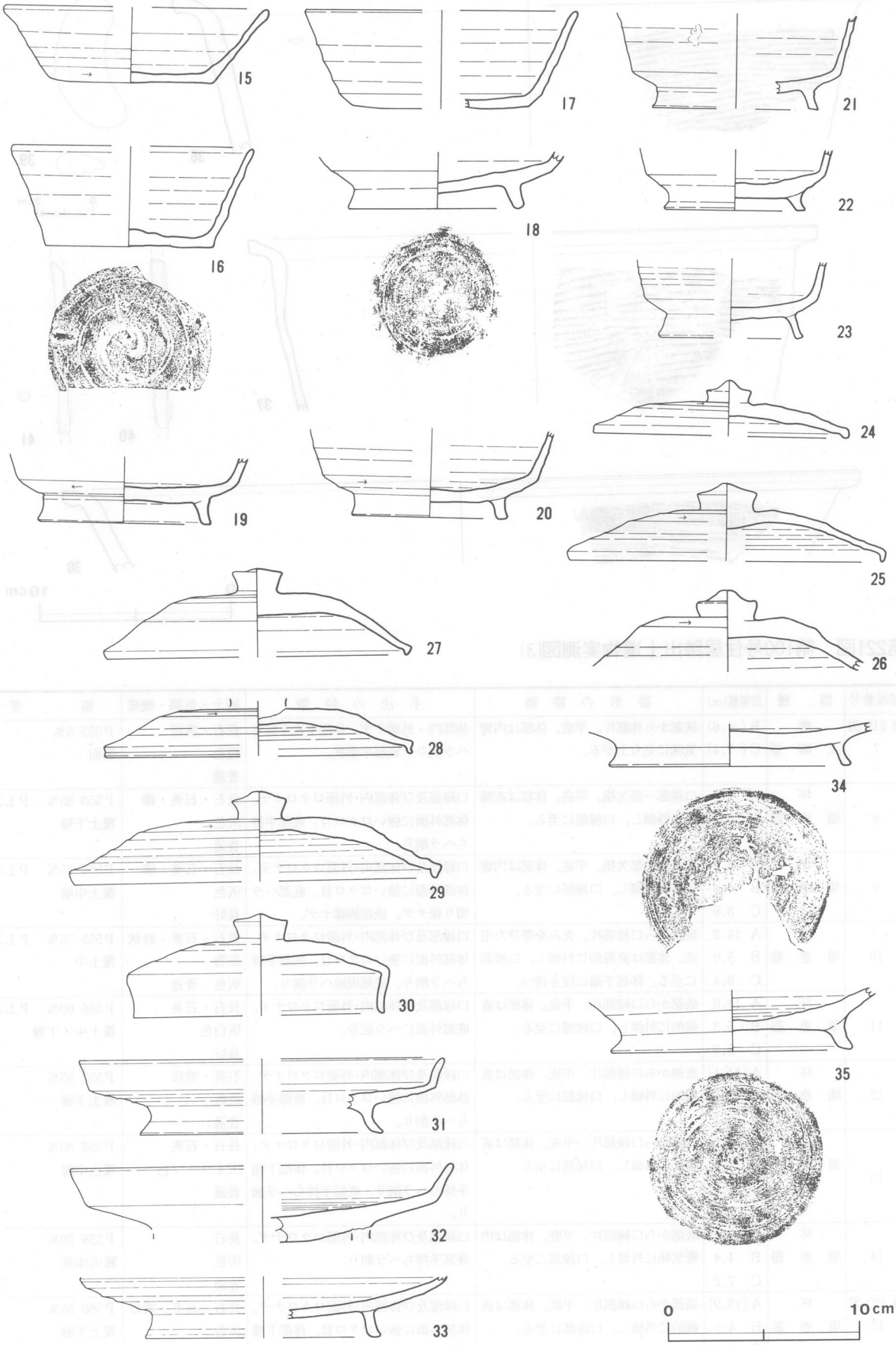
第218図　第100号住居跡実測図(2)

第100号　住居跡出土遺物観察表

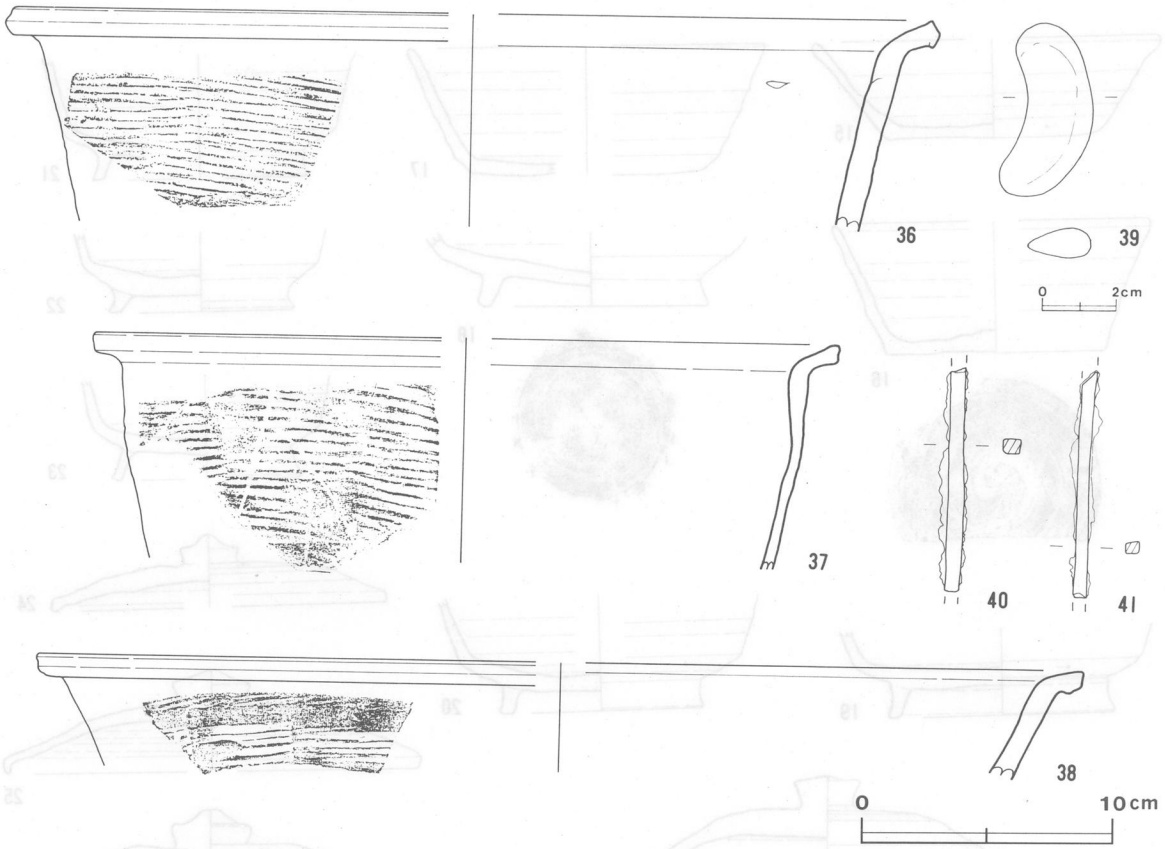
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第219図 1	甕 土師器	A 23.1 B (9.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P546 10% 覆土上・下層
2	甕 土師器	A〔32.4〕 B (16.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・雲母 橙色 普通	P547 10% 覆土中・下層
3	甕 土師器	A〔24.0〕 B (5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P548 5% 覆土中・下層
4	甕 土師器	A〔21.2〕 B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P549 5% 覆土下層
5	甕 土師器	A〔21.6〕 B (6.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P550 5% 覆土下層
6	甕 土師器	B (6.2) C 9.0	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部及び内面にヘラ当て痕。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P551 5% 覆土中層



第219図　第100号住居跡出土遺物実測図(1)



第220図　第100号住居跡出土遺物実測図(2)



第221図　第100号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第219図 7	甕 土師器	B(4.6) C〔 7.4〕	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部木葉痕。	長石・雲母 橙色 普通	P552 5% 床面
8	坏 須恵器	A 14.8 B 4.4 C 9.5	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・礫 灰色 普通	P553 85%　PL34 覆土下層
9	坏 須恵器	A 13.0 B 4.6 C 8.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部ヘラ切り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・礫 灰色 良好	P554 75%　PL34 覆土中層
10	坏 須恵器	A 14.2 B 5.0 C 8.4	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。体部下端に段を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色　普通	P555 55%　PL34 覆土中
11	坏 須恵器	A 14.0 B 5.3 C 8.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部外面にヘラ記号。	長石・石英 灰白色 良好	P556 60%　PL34 覆土中・下層
12	坏 須恵器	A〔14.1〕 B 3.7 C 9.1	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	石英・雲母 灰色 普通	P557 55% 覆土下層
13	坏 須恵器	A〔14.6〕 B 4.8 C〔 5.8〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P558 30% 覆土中層
14	坏 須恵器	A〔12.4〕 B 4.4 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 灰色 普通	P559 50% 竈火床面
第220図 15	坏 須恵器	A〔13.9〕 B 4.0 C 8.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P560 55% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第220図 16	坏 須恵器	A〔12.6〕 B 5.3 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P561 25% 覆土下層
17	坏 須恵器	A〔14.2〕 B 5.2 C〔9.2〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部内・外面ナデ。	長石 灰黄色 普通	P562 20% 覆土中層
18	高台付坏 須恵器	B(3.0) D 9.3 E 1.3	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け。	長石・石英・雲母・パミス 灰色　普通	P563 50% 覆土下層
19	高台付坏 須恵器	B(3.5) D 9.0 E 1.4	高台部から体部片。高台は外反気味に真下に伸びる。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P564 50% 覆土中層
20	高台付坏 須恵器	B(4.7) D 8.2 E 1.2	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P565 25% 覆土上層
21	高台付坏 須恵器	B(5.0) D〔8.7〕 E 1.1	高台部から体部片。高台は外反しながら開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P566 15% 覆土上層 体部外面に鉄錆付着
22	高台付坏 須恵器	B(3.2) D 7.4 E 1.1	高台部から体部片。高台は外反しながら開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰色 良好	P567 20% 覆土中層
23	高台付坏 須恵器	B(4.0) D〔7.6〕 E 1.3	高台部から口縁部片。高台は高めで直線的に開く。体部は直線的に立ち上がる。全体に器肉は薄い。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P568 10% 覆土中層
24	蓋 須恵器	A〔13.4〕 B 2.9 F 2.3 G 1.2	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P578 30% 覆土中・下層
25	蓋 須恵器	A〔16.6〕 B 4.1 F 3.2 G 1.5	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P579 25%　PL34 覆土中層
26	蓋 須恵器	B(4.3) F 3.2 G 1.6	天井部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，外面にわずかな段を持つ。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 良好	P580 60% 覆土中層
27	蓋 須恵器	A〔16.2〕 B 4.6 F 2.6 G 1.3	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P575 50%　PL34 覆土上層
28	蓋 須恵器	A〔16.2〕 B(2.9)	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は外反気味に折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面下位に強いロクロ目。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P576 50% 覆土下層
29	蓋 須恵器	A〔19.7〕 B 4.7 F 2.9 G 1.4	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面下位に強いロクロ目。	長石・石英 灰色 普通	P574 70%　PL34 覆土下層
30	蓋 須恵器	A〔13.2〕 B 5.4 F 2.9 G 1.4	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し,口縁部は内傾する。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 褐灰色 普通	P577 35%　PL34 覆土中層
31	盤 須恵器	A〔19.2〕 B 4.9 D〔12.8〕 E 1.4	高台部から口縁部片。高台は外反しながら開く。体部は外傾し，口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P570 10% 覆土下層
32	盤 須恵器	A〔20.0〕 B(4.1)	高台部欠損。体部は外傾し，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P569 30% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第220図 33	盤 須恵器	B(3.2) D〔12.4〕 E 1.3	高台部から体部片。高台は高めで外反しながら開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P572 30% 覆土下層 底部外面に硯転用痕あり
34	盤 須恵器	B(2.2) D 12.6 E 1.2	高台部から体部片。高台は外反しながら開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P573 25% 覆土下層
35	盤 須恵器	B(3.2) D 12.7 E 1.7	高台部から体部片。高台は高めで外反しながら開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P571 50% 覆土中
第221図 36	甕 須恵器	A〔36.8〕 B(8.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面横方向の平行タタキ。	長石・パミス 灰色 普通	P581 5% 覆土上層
37	甕 須恵器	A〔29.8〕 B(9.0)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに肥厚する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面横方向の平行タタキ。	雲母 灰色 普通	P582 5% 覆土下層
38	甕 須恵器	A〔41.8〕 B(4.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面横方向の平行タタキ。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P583 5% 覆土中層

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
39	石製模造品	4.6	2.5	0.8	12.4	安山岩	覆土下層	Q38

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
40	鉄　鏃	(9.0)	0.7	0.7	(18.0)	覆土中層	M75　PL41
41	鉄　鏃	(9.0)	0.6	0.6	(11.4)	覆土中層	M76

遺物　遺構全体に散在した状態で，土師器片840点，須恵器片556点，石製模造品1点，鉄製品2点，鉄滓5.15kgが出土している。他の遺構に比べ遺物量は多い。第219・220・221図1の土師器甕は竈右袖部付近の覆土上・下層から，12の須恵器坏は竈右袖部付近の覆土下層から，2の土師器甕は北西部の覆土中・下層と竈前面の覆土下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は竈左袖部付近の覆土中層と北西部の覆土下層から，4の土師器甕は中央部の覆土下層から，5の土師器甕は南部の覆土下層から，6の土師器甕は北西部壁際の覆土中層から，9の須恵器坏・22の須恵器高台付坏は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。7の土師器甕は中央部の床面直上から，8の須恵器坏は北西部の覆土下層から，10の須恵器坏は覆土中から出土している。11の須恵器坏は竈左袖部付近の覆土上層と中層から出土したものが接合した。13の須恵器坏は南西部壁際の覆土中層から，14の須恵器坏は竈内の火床面直上から，15の須恵器坏は竈左袖部前面の覆土下層からそれぞれ出土している。16の須恵器坏は北東部の覆土下層から，17の須恵器坏は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。18の須恵器高台付坏は西部壁際の覆土下層から，19の須恵器高台付坏は北東部の覆土中層から，20の須恵器高台付坏は南部の覆土上層から，21の須恵器高台付坏はP_1付近の覆土上層から，23の須恵器高台付坏は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。24の須恵器蓋はP_8付近の覆土中・下層から出土したものが接合し，25・26の須恵器蓋は西部壁際の覆土中層から出土している。27の須恵器蓋は中央部の覆土上層から，28の須恵器蓋はP_8付近の覆土下層から，29の須恵器蓋は北部と南西部の覆土下層から出土したものが接合し，30の須恵器蓋は南部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。31の須恵器盤は竈右袖部付近の覆土下層から，32の須恵器盤は南部の覆土上層から，33の須恵器盤は竈左袖部付近の覆土中・下層と東部の覆土下層から出土したものが接合し，34の須恵器盤は中央部の覆土下層・南部の覆土中層・西部の覆土上層から出土したものが接合した。35の須恵器盤は覆土中から，36の須恵器甕は南部の覆土上層から，

37の須恵器甕は南西部の覆土下層から，38の須恵器甕は竈付近の覆土中層からそれぞれ出土している。39の石製模造品はP_2付近の覆土下層から，40の鉄鏃はP_5付近の覆土中層から，41の鉄鏃はP_3上の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後葉と思われる。

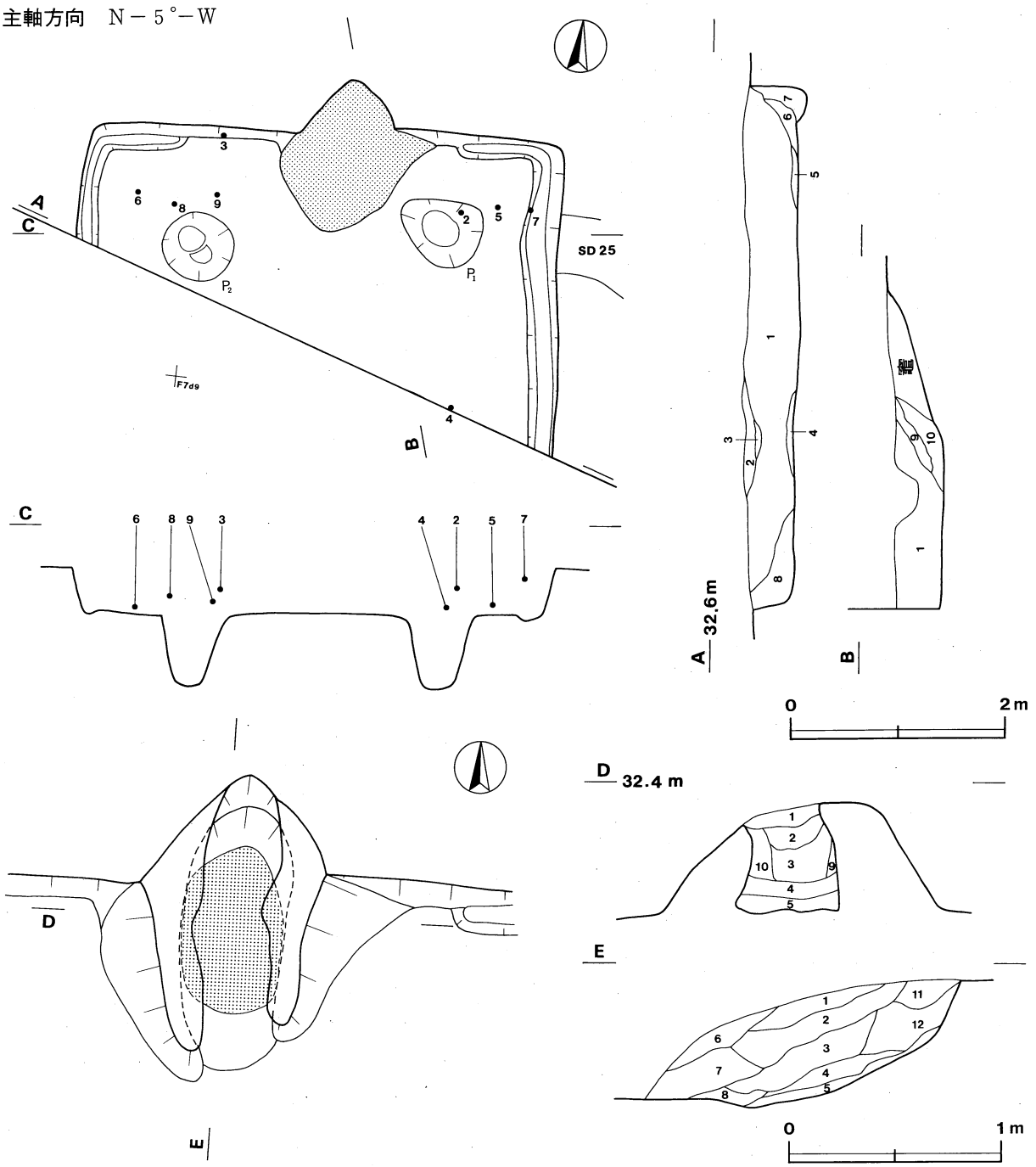
第101号住居跡（第222図）

位置　調査区の南部，F7c9区。

重複関係　本跡は，東部を第25号溝に掘り込まれていることから，第25号溝よりも古い。

規模と平面形　長軸4.5m，短軸（2.60）mの，〔長方形〕と思われる。

主軸方向　N－5°－W



第222図　第101号住居跡実測図

壁　壁高は45～65㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅30㎝，下幅14㎝，深さ５㎝で，断面形はＵ字形である。

床　平坦であるが，踏み固めた部分は捉えられなかった。

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は，長径65～80㎝，短径58～62㎝の不整楕円形，深さ54～69㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。

竈　北壁中央部を壁外に50㎝ほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ140㎝，最大幅145㎝である。火床部は，床面をわずかに掘り窪めており，焼けて赤変している。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，炭化材少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
6　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
12　にぶい赤褐色　ローム小ブロック中量，焼土・粘土粒子少量

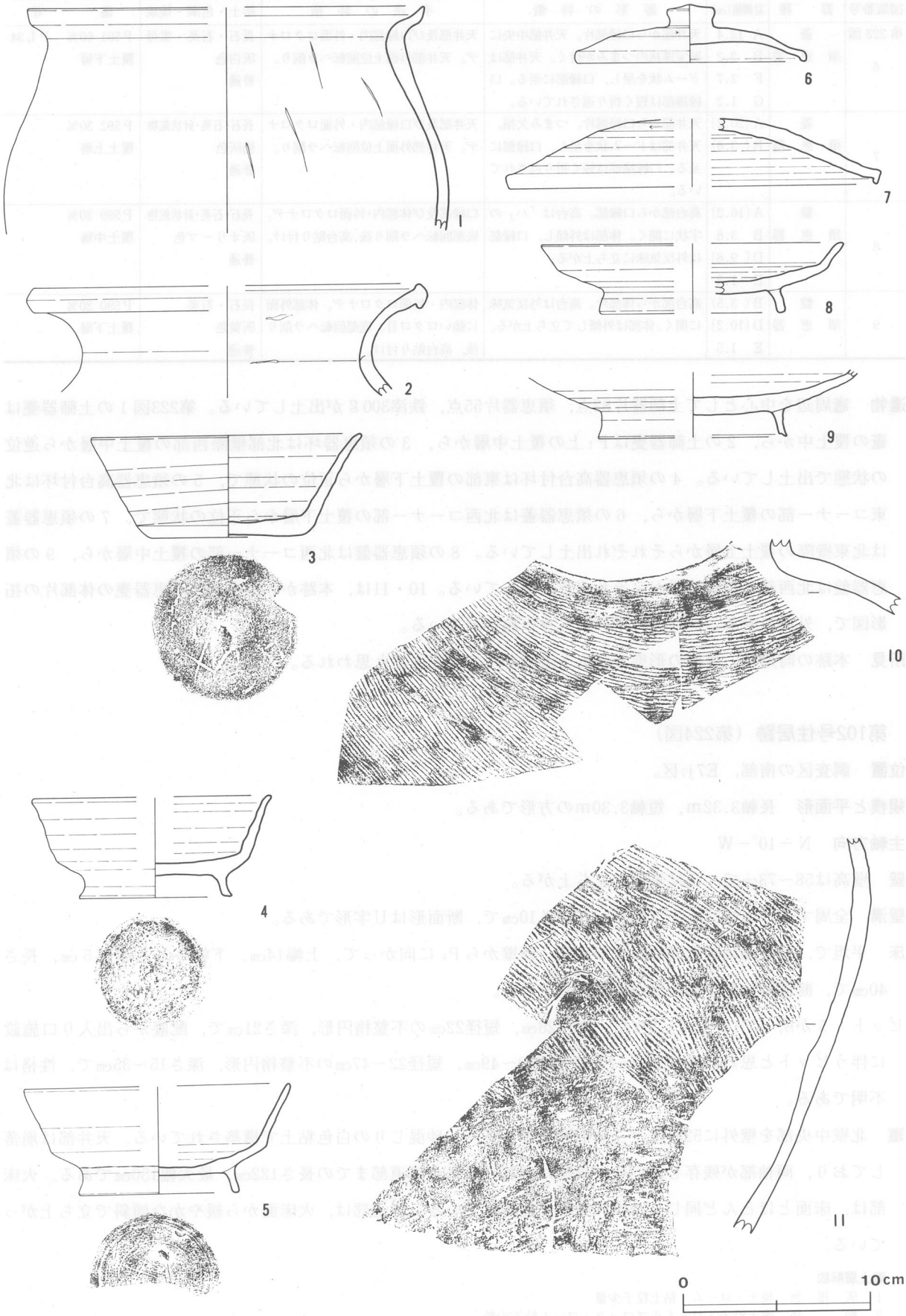
覆土　各層ともロームブロックを含んでおり，また，不自然な堆積状況から10層からなる人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　褐　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　灰褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第223図 1	甕 土師器	A〔21.4〕 B(12.2)	体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P584 10% 竈覆土中
2	甕 土師器	A〔20.8〕 B(6.0)	体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P585 5% 覆土中層
3	坏 須恵器	A 14.5 B 5.5 C 8.1	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石･石英･針状鉱物 浅黄色 良好	P586 85%　ＰＬ34 覆土中層 底部外面にヘラ記号
4	高台付坏 須恵器	A〔12.7〕 B 5.4 D 8.2 E 1.2	高台部から口縁部片。高台は外反気味に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P587 55% 覆土下層
5	高台付坏 須恵器	A〔14.2〕 B 5.8 D 8.6 E 1.4	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色 良好	P588 30% 覆土下層 底部外面にヘラ記号



第223図　第101号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第223図 6	蓋 須恵器	A 12.4 B 3.2 F 2.7 G 1.2	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P591 60%　PL34 覆土下層
7	蓋 須恵器	A〔20.2〕 B（3.6）	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 褐灰色 普通	P592 30% 覆土上層
8	盤 須恵器	A〔16.2〕 B 3.8 D〔9.8〕 E 1.3	高台部から口縁部。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾し，口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P589 30% 覆土中層
9	盤 須恵器	B（3.5） D〔10.2〕 E 1.5	高台部から体部片。高台は外反気味に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色 普通	P590 20% 覆土下層

遺物　竈周辺を中心として土師器片83点，須恵器片55点，鉄滓300ｇが出土している。第223図１の土師器甕は竈の覆土中から，２の土師器甕はP_1上の覆土中層から，３の須恵器坏は北部壁際西部の覆土中層から逆位の状態で出土している。４の須恵器高台付坏は東部の覆土下層から正位の状態で，５の須恵器高台付坏は北東コーナー部の覆土下層から，６の須恵器蓋は北西コーナー部の覆土下層から正位の状態で，７の須恵器蓋は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。８の須恵器盤は北西コーナー部の覆土中層から，９の須恵器盤は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。10・11は，本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で，外面に縦あるいは横の平行タタキが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後葉と思われる。

第102号住居跡（第224図）

位置　調査区の南部，E7j_7区。

規模と平面形　長軸3.32m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は58～73cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

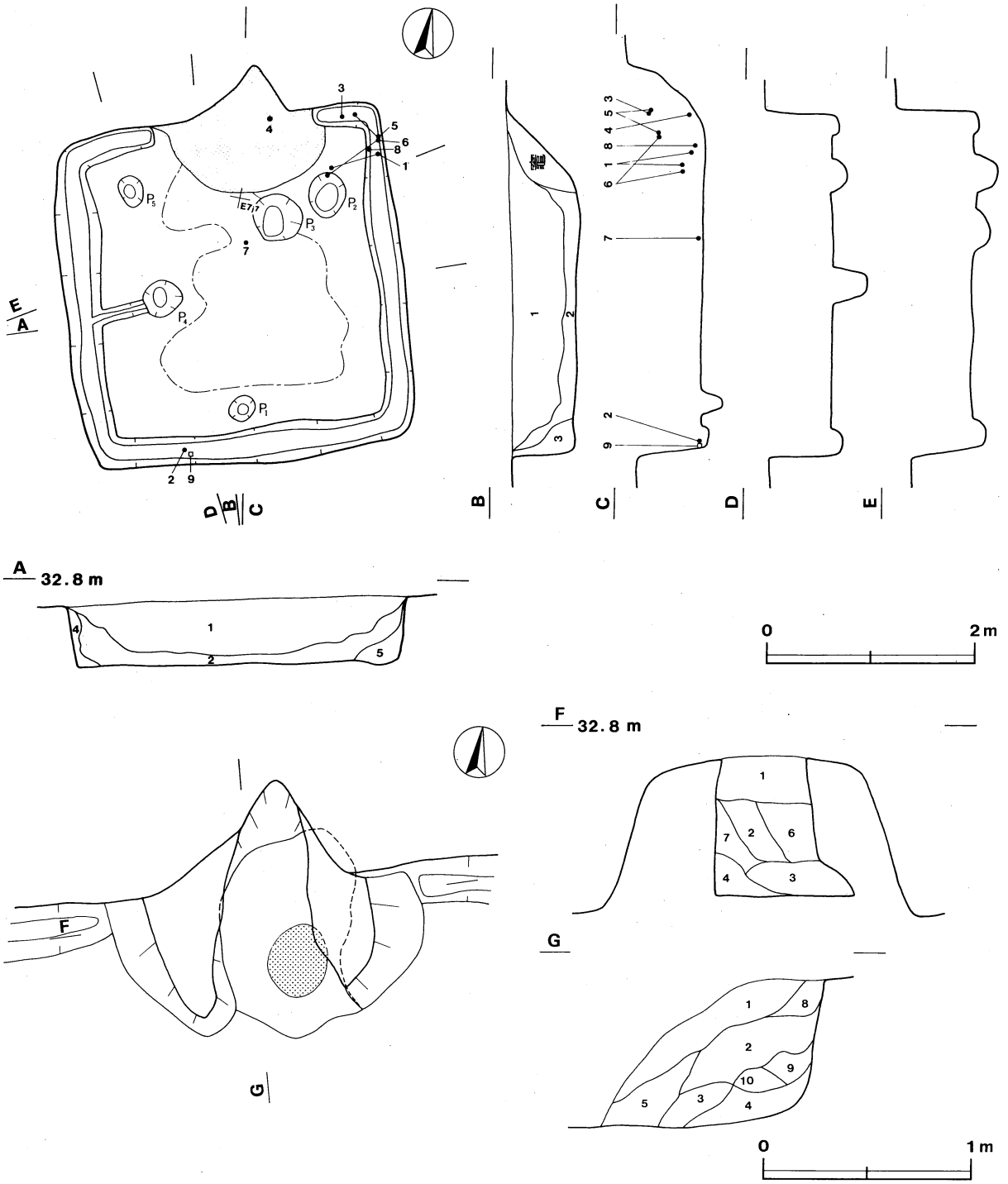
壁溝　全周する。上幅27cm，下幅15cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。西壁からP_4に向かって，上幅14cm，下幅３cm，深さ５cm，長さ40cmで，断面形はU字形の溝が構築されている。

ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1は，長径26cm，短径22cmの不整楕円形，深さ21cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2～P_5は長径30～49cm，短径22～47cmの不整楕円形，深さ15～35cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に52cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ122cm，最大幅150cmである。火床部は，床面とほとんど同じレベルの床面を使用している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　灰褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量
2　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量

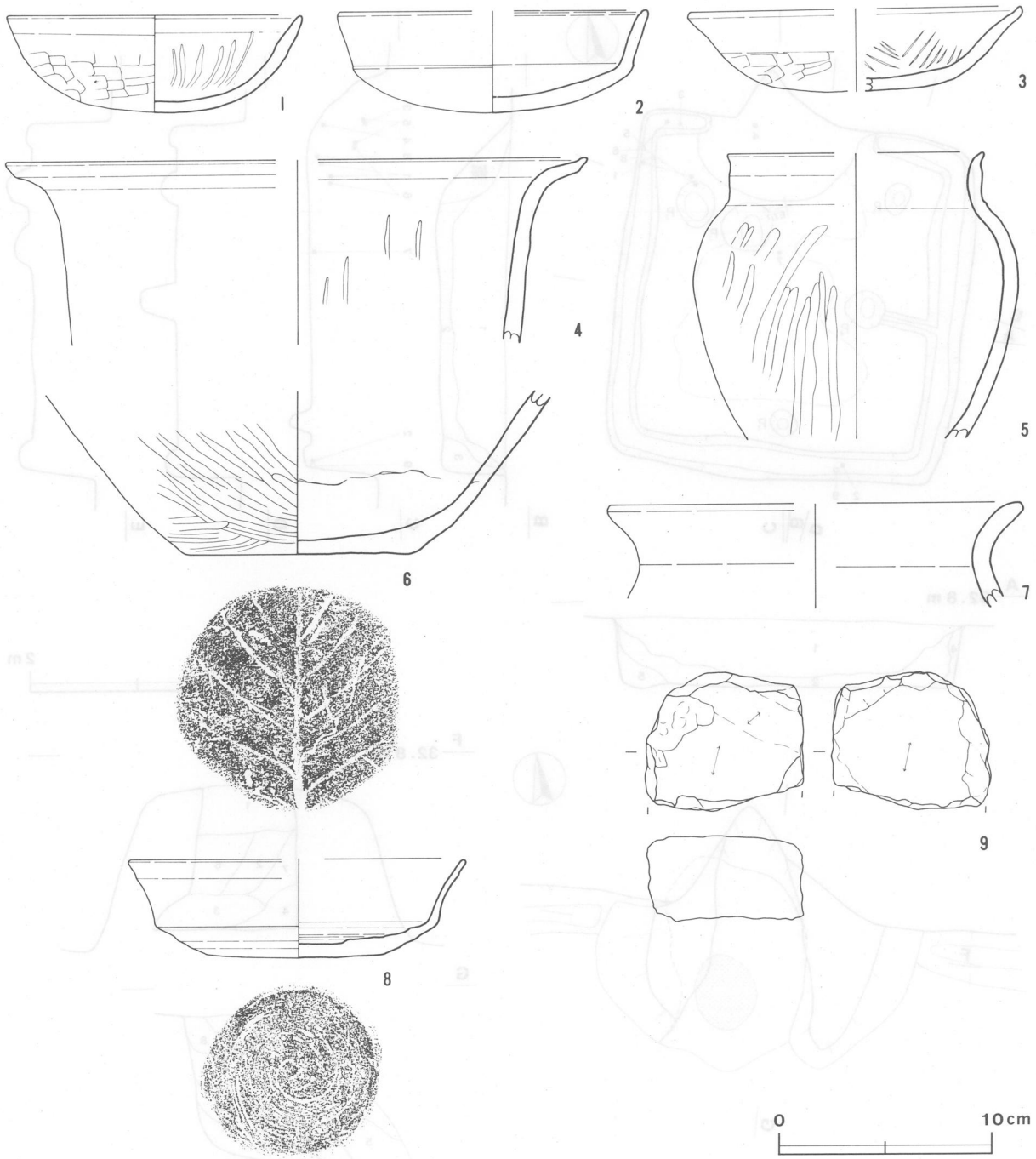


第224図　第102号住居跡実測図

5　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
7　にぶい赤褐色　焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
8　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



第225図　第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第225図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に暗文。	スコリア・雲母 にぶい橙色 普通	P593 70% 覆土下層
2	坏 土師器	A〔14.4〕 B 4.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P594 50% 覆土下層
3	坏 土師器	A〔15.4〕 B(3.8)	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。体部内面に暗文。	スコリア・雲母 にぶい橙色 普通	P595 40% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第225図 4	甕 土師器	A〔27.2〕 B(8.7)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P596 5% 竈覆土下層
5	小形甕 土師器	A〔12.0〕 B(13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は直立する。口縁端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P599 20% 覆土上層
6	甕 土師器	B(7.7) C 10.8	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P598 15% 覆土中・下層
7	甕 土師器	A〔19.4〕 B(4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P597 5% 覆土下層
8	坏 須恵器	A〔15.2〕 B 4.7 C 8.3	底部から口縁部片。平底。体部は外反気味に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P600 60% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	砥　石	(6.4)	7.4	4.0	(226.9)	凝灰岩	床面	Q39

遺物　遺構の北東コーナー部を中心に土師器片101点，須恵器片15点，鉄滓600gが出土している。第225図1の土師器坏は，北東コーナー部と北東壁際の覆土下層から出土したものが接合した。2の土師器坏は南部壁溝の覆土下層から逆位の状態で，3の土師器坏は北東コーナー壁際の覆土上層から，4の土師器甕は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。5の土師器小形甕は北東コーナー壁際の覆土上層から，6の土師器甕はP_2付近の覆土下層と北東コーナー壁際の覆土中層から出土したものが接合した。7の土師器甕は中央部の覆土下層から，8の須恵器坏は同じく北東コーナー壁際の覆土下層から出土している。9の砥石は，南部壁際の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀と思われる。

第103号住居跡（第226図）

位置　調査区の南部，E7j_5区。

規模と平面形　長軸3.47m，短軸3.44mの方形である。

主軸方向　N－92°－E

壁　壁高は7～17cmで，外傾して立ち上がる。

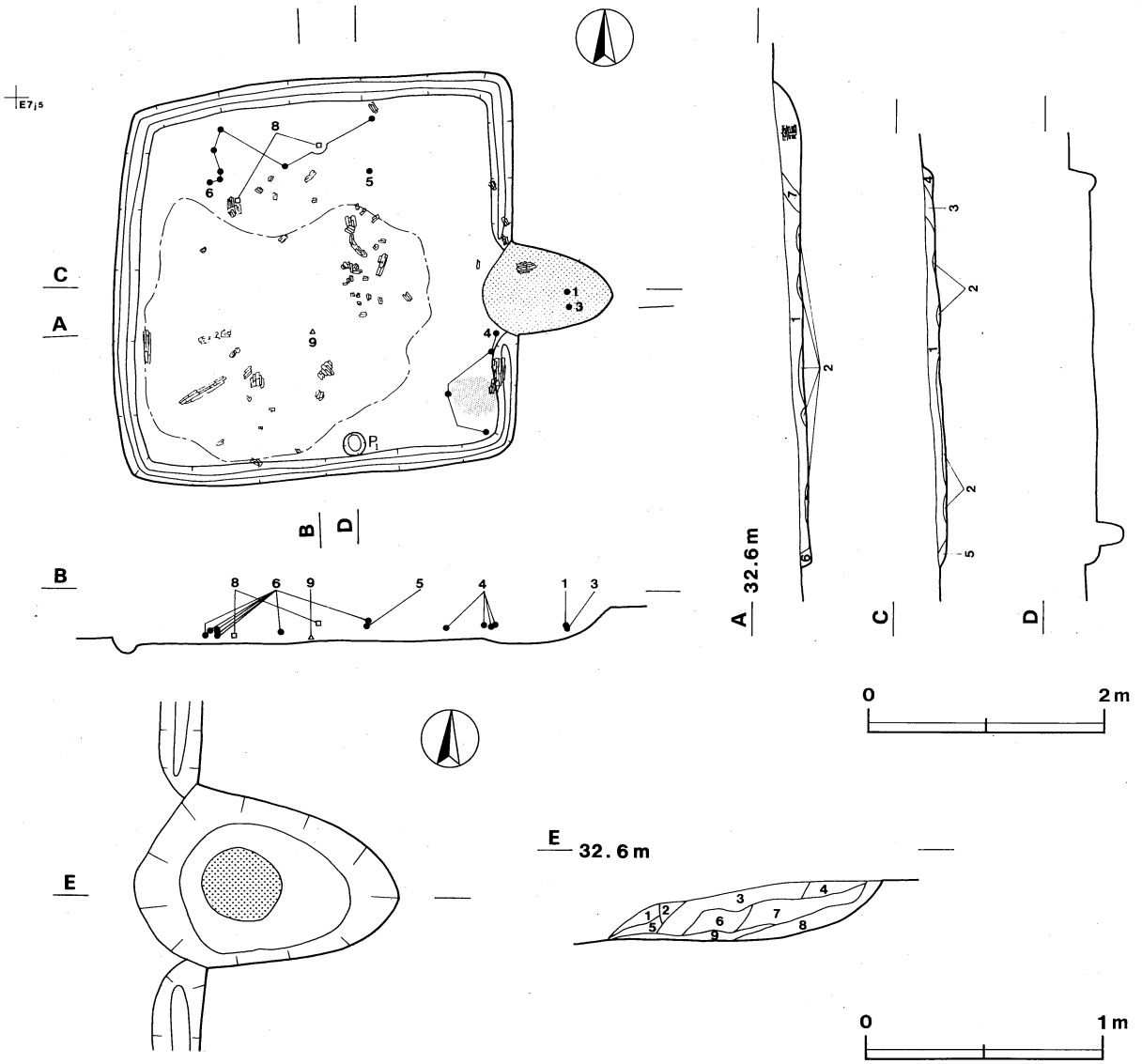
壁溝　全周する。上幅21cm，下幅9cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部から南西部にかけて踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は，径20cmの不整円形，深さ22cmで，性格は不明である。

竈　東壁中央部からやや南よりを壁外に85cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部・両袖部とも遺存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ112cm，最大幅75cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めて使用している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量



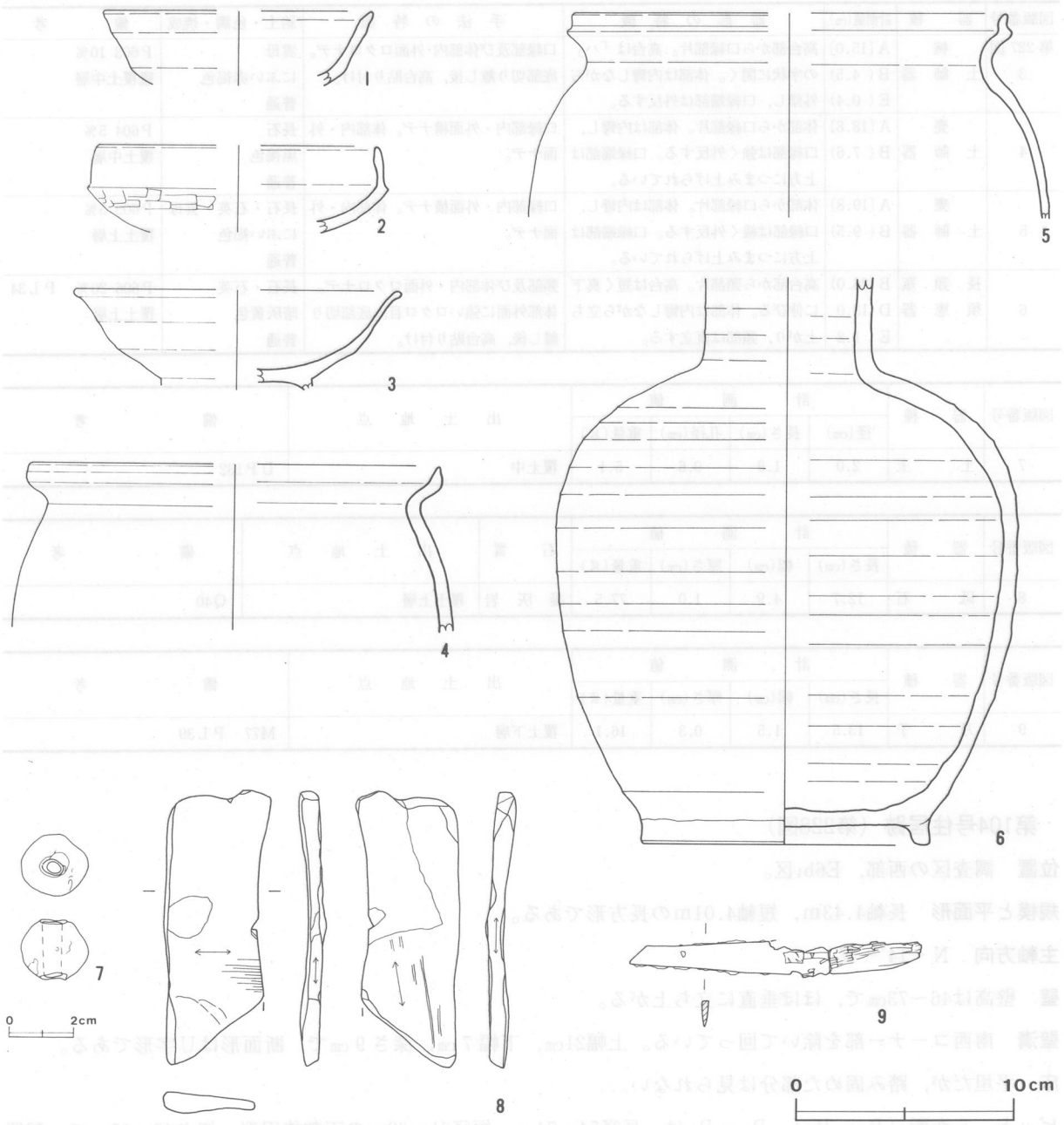
第226図　第103号住居跡実測図

3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土中・小ブロック・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック・炭化粒子中量
8　にぶい赤褐色　焼土・炭化粒子少量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子多量，焼土・ローム粒子少量，炭化材微量
2　暗 褐 色　炭化・ローム粒子中量
3　黒 褐 色　炭化・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
5　黒 褐 色　炭化・ローム粒子少量
6　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　黒 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子少量

遺物　土師器片60点，須恵器片９点，土製品１点，石製品１点，鉄製品１点，鉄滓700ｇが出土している。遺物は，竈内とその周辺，西部を中心に出土している。また，遺構全体に炭化材が検出されたことから，焼失家屋の可能性が高い。第227図１の土師器坏と３の土師器高台付坏は竈内の覆土中層から，２の土師器坏は覆土中から，４の土師器甕は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。５の土師器甕と６の須恵器長頸瓶は



第227図　第103号住居跡出土遺物実測図

北部の覆土上層から出土している。7の土玉は覆土中から，8の砥石は北部の覆土上層から，9の刀子は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀前葉）と思われる。

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第227図 1	坏 土師器	A〔12.4〕 B（3.5）	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P601 25% 竈覆土中層
2	坏 土師器	A〔12.6〕 B（4.0）	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母 赤褐色 普通	P602 5% 覆土中

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第227図 3	椀 土師器	A〔15.0〕 B(4.5) E(0.4)	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し，口縁端部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	雲母 にぶい赤褐色 普通	P603 10% 竈覆土中層
4	甕 土師器	A〔18.8〕 B(7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 黒褐色 普通	P604 5% 覆土中層
5	甕 土師器	A〔19.8〕 B(9.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P605 5% 覆土上層
6	長頸瓶 須恵器	B(26.0) D 13.0 E 1.2	高台部から頸部片。高台は短く真下に伸びる。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は直立する。	頸部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P606 20%　PL34 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.0	1.9	0.6	5.1	覆土中	DP132

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	砥石	12.7	4.9	1.0	77.5	凝灰岩	覆土上層	Q40

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	刀子	13.5	1.5	0.3	16.1	覆土下層	M77　PL39

第104号住居跡（第228図）

位置　調査区の西部，E6b$_1$区。

規模と平面形　長軸4.43m，短軸4.01mの長方形である。

主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は46～73cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南西コーナー部を除いて回っている。上幅21cm，下幅7cm，深さ9cmで，断面形はU字形である。

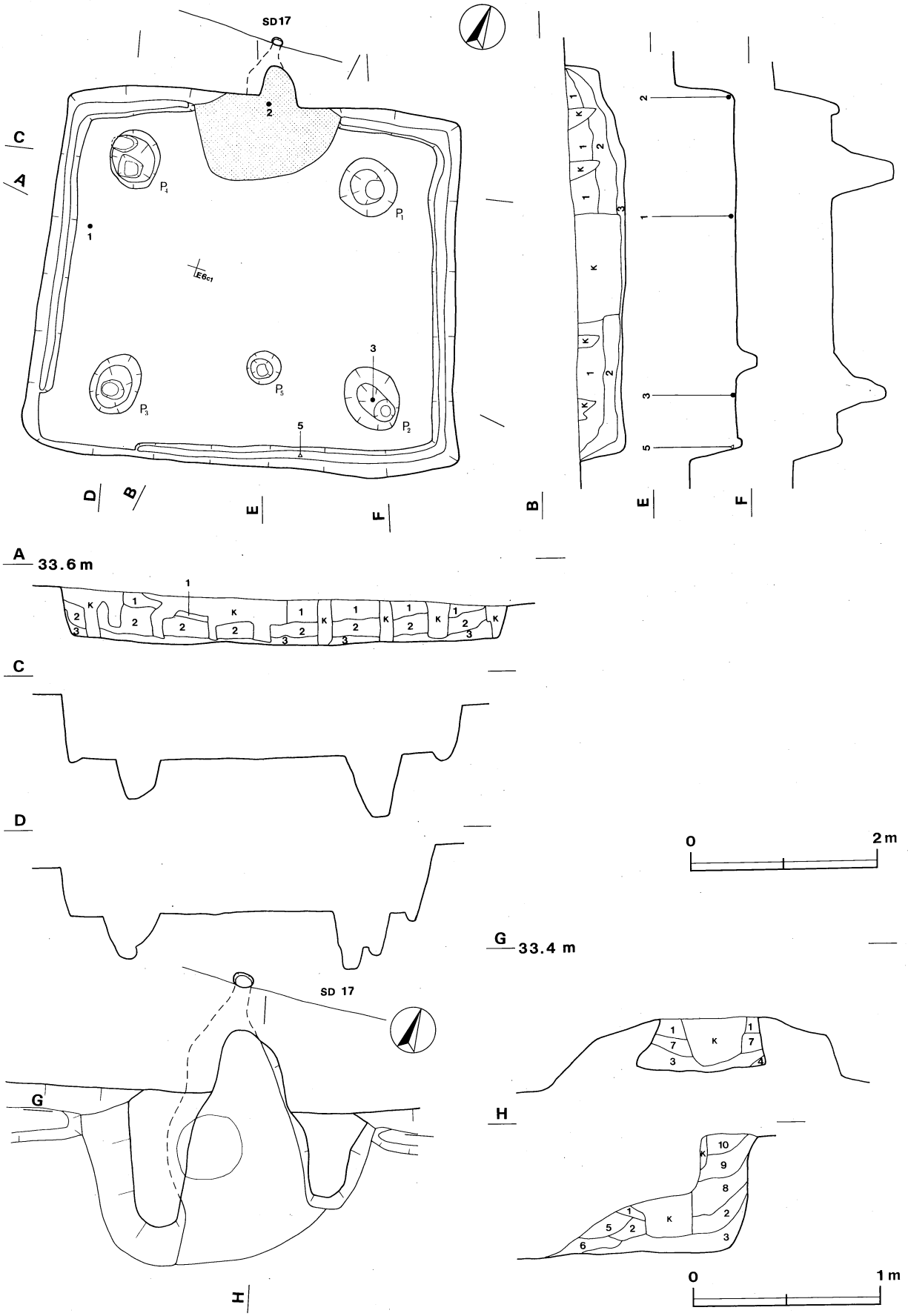
床　平坦だが，踏み固めた部分は見られない。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，長径54～74cm，短径51～62cmの不整楕円形，深さ48～65cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径36cmの不整円形，深さ24cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

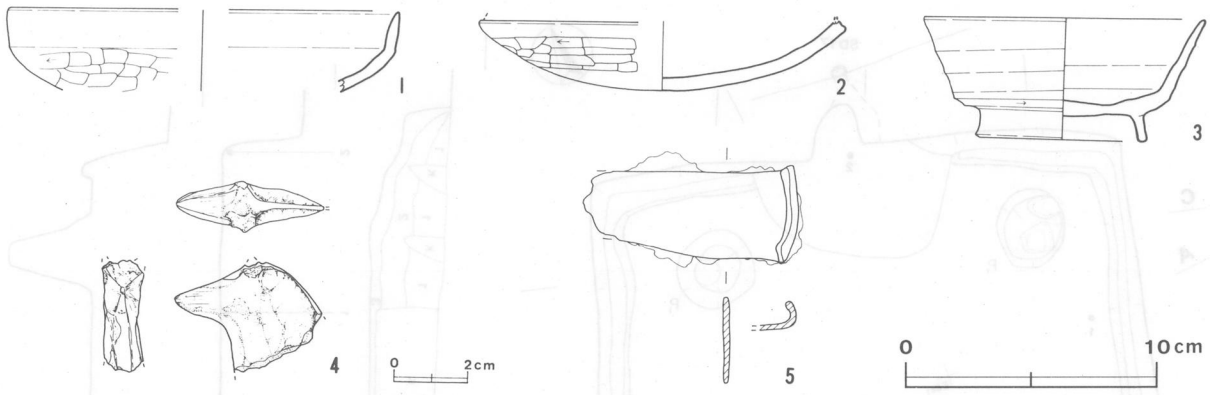
竈　北壁中央部を壁外に70cmほどに掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ155cm，最大幅160cmである。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
3　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
5　暗赤褐色　粘土・焼土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　灰褐色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
9　にぶい赤褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量
10　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



第228図　第104号住居跡実測図



第229図　第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第229図 1	坏 土師器	A〔15.6〕 B(3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P607 5% 覆土下層
2	坏 土師器	B(2.9)	底部から体部片。丸底。口縁部欠損。体部は内彎しながら外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P608 30% 覆土下層
3	高台付坏 須恵器	A 11.2 B 5.0 C 6.9 E 1.1	口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P609 95%　PL34 P_3覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
4	土製模造品	(3.9)	(1.7)	(2.9)	(7.3)	竈覆土中	DP133

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	鉄鎌	(8.7)	4.0	1.3	(33.4)	覆土下層	M78　PL40

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム大ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

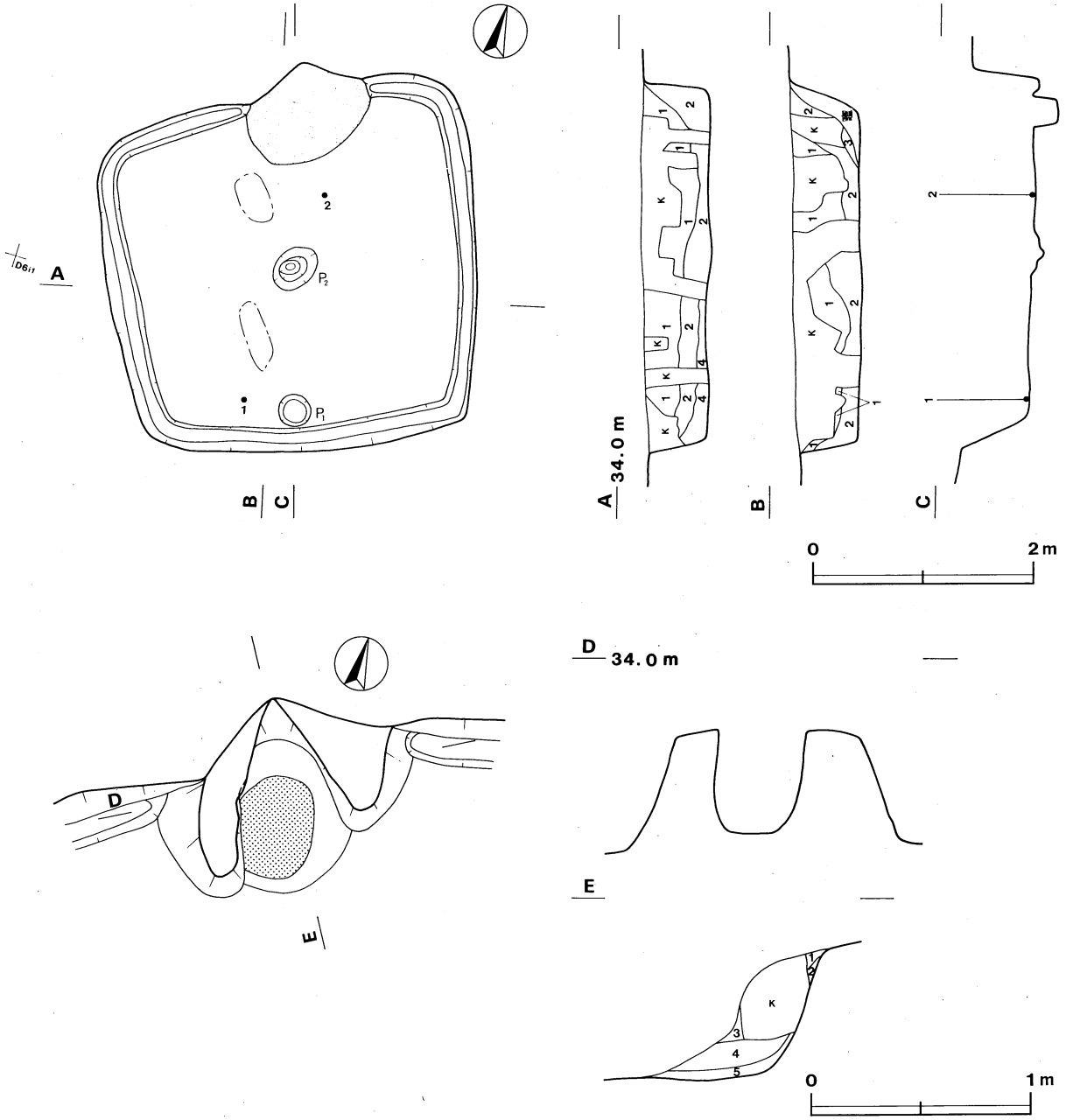
遺物　土師器片37点，須恵器片20点の他，土製品1点，鉄製品1点が出土している。第229図1の土師器坏は北西部の覆土下層から，2の土師器坏は竈内の覆土下層から，3の須恵器高台付坏はP_2の覆土中からそれぞれ出土している。4の土製模造品は竈の覆土中から，5の鉄鎌は南部壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後葉）と思われる。

第105号住居跡（第230図）

位置　調査区の西部，D6h₁区。

規模と平面形　長軸3.38m，短軸3.22mの方形である。



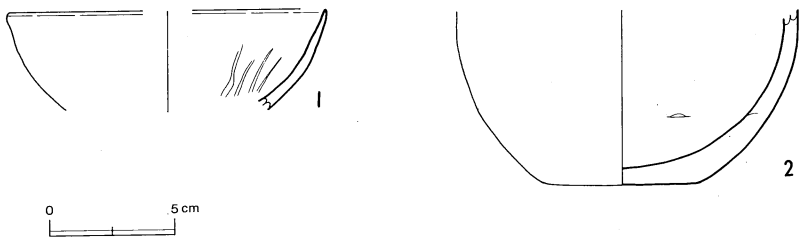
第230図　第105号住居跡実測図

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は53～58cmで，外傾してほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅22cm，下幅９cm，深さ７cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，北西部と南部の２か所で硬化面を検出した。



第231図　第105号住居跡出土遺物実測図

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は，径30cmの不整円形，深さ23cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径45cm，短径34cmの不整楕円形，深さ11cmで，性格は不明である。

竈　北西壁中央部からやや北側を壁外に26cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ85cm，最大幅 120cmである。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，火床面から直線的に立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土・ローム粒子
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物　出土遺物は少なく，また破片が多い。土師器片43点，須恵器片10点が出土している。第231図1の土師器坏は南部覆土下層から，2の土師器甕は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 1	坏 土師器	A〔12.7〕 B（4.0）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部内面に暗文。	針状鉱物 褐灰色 普通	P610 20% 覆土下層
2	甕 土師器	B（7.0） C　6.2	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾する。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P611 20% 覆土下層

第106号住居跡（第232図）

位置　調査区の西部，D4h_9区。

重複関係　本跡は，西部を第11号住居跡に掘り込まれていることから，第11号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸（3.52）m，短軸〔2.15〕mの〔長方形〕と思われる。

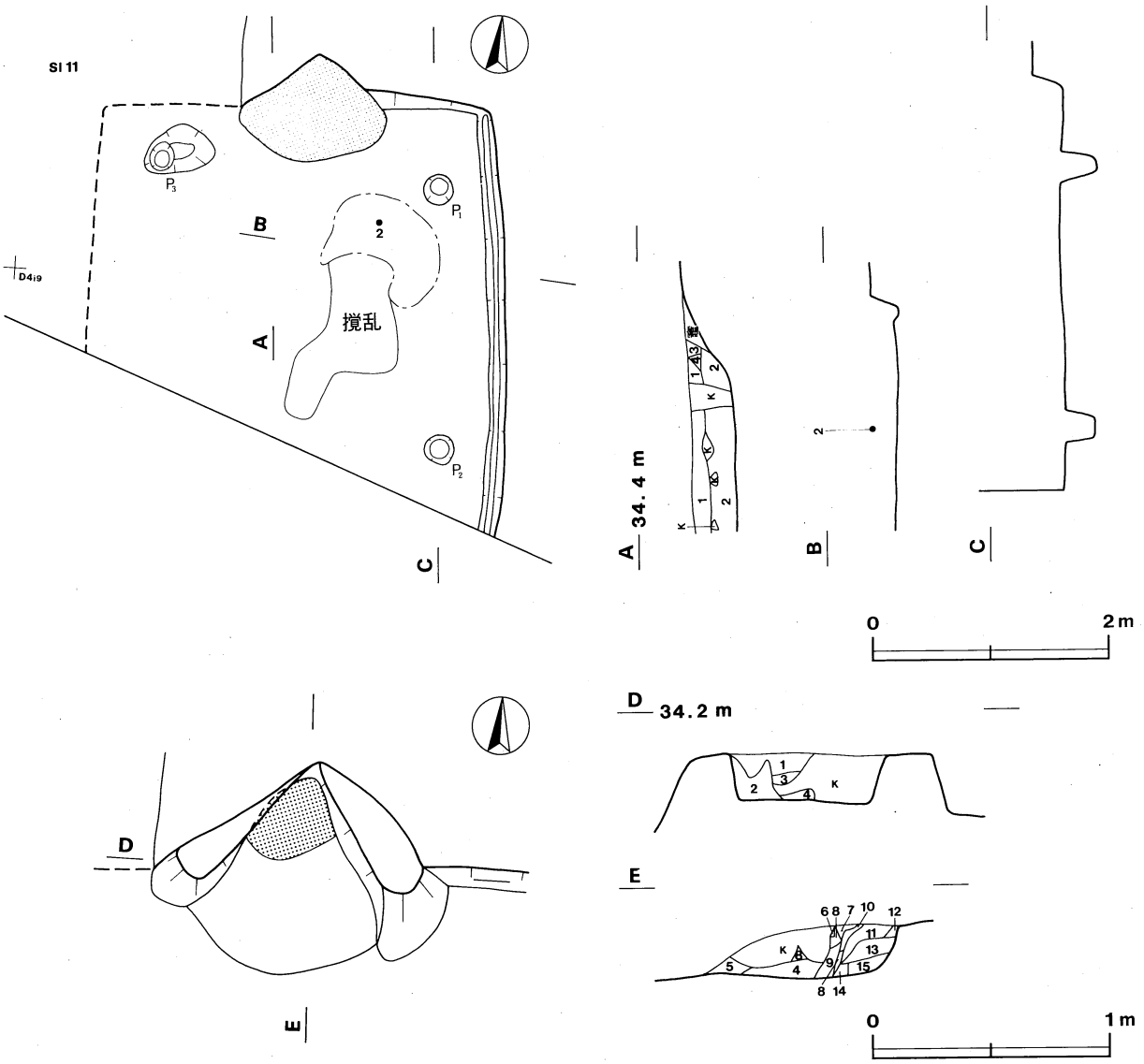
主軸方向　N－0°

壁　壁高は20～26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北壁を除いて壁溝が回っている。上幅16cm，下幅4cm，深さ4cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，北東部が踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。南西部は調査区外のため，ピットは検出できなかった。P_1～P_2は，長径25～57cm，短径24～40cmの不整楕円形，深さ24～30cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

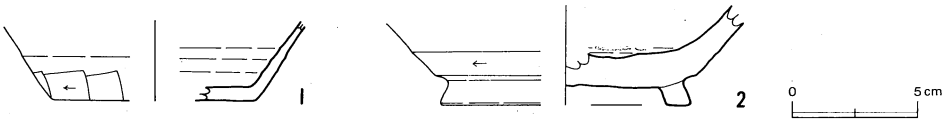


第332図　第106号住居跡実測図

竈　北壁ほぼ中央部を壁外に45cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅127cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めて使用している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土・ローム小ブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土・粘土粒子少量
3　極 暗 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土・粘土粒子少量
6　赤　褐　色　粘土粒子多量
7　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，炭化物微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化物少量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
10　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，ローム粒子中量
11　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量
12　にぶい赤褐色　粘土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物微量
13　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量
14　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化物少量
15　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量
16　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量，炭化物少量
17　に ぶ い 橙 色　粘土粒子多量，焼土粒子中量



第233図　第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第233図 1	坏 須恵器	B(3.2) C〔 8.0〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P73　5% 覆土中
2	長頸瓶 須恵器	B(4.0) D〔10.0〕 E　1.0	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 浅黄色 普通	P612 5% 覆土上層

覆土　各層ともロームブロック等を多く含み，また不自然な堆積状況から4層からなる人為堆積と思われる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土・炭化物・粘土粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　褐　　色　焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土・粘土粒子微量

遺物　出土遺物は少なく，また破片が多い。土師器片30点，須恵器片2点が出土している。第233図1の須恵器坏は覆土中から出土している。2の須恵器長頸瓶は北東部の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は第11号住居跡を掘りこんでいることや，出土遺物等から8世紀前葉以降と思われる。

第107号住居跡（第234図）

位置　調査区の西部，D5i3区。

重複関係　本跡は，第15号住居跡の南西部を掘り込んでおり，第15号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.72m，短軸3.27mの長方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は28～33cmで，外傾して立ち上がる。

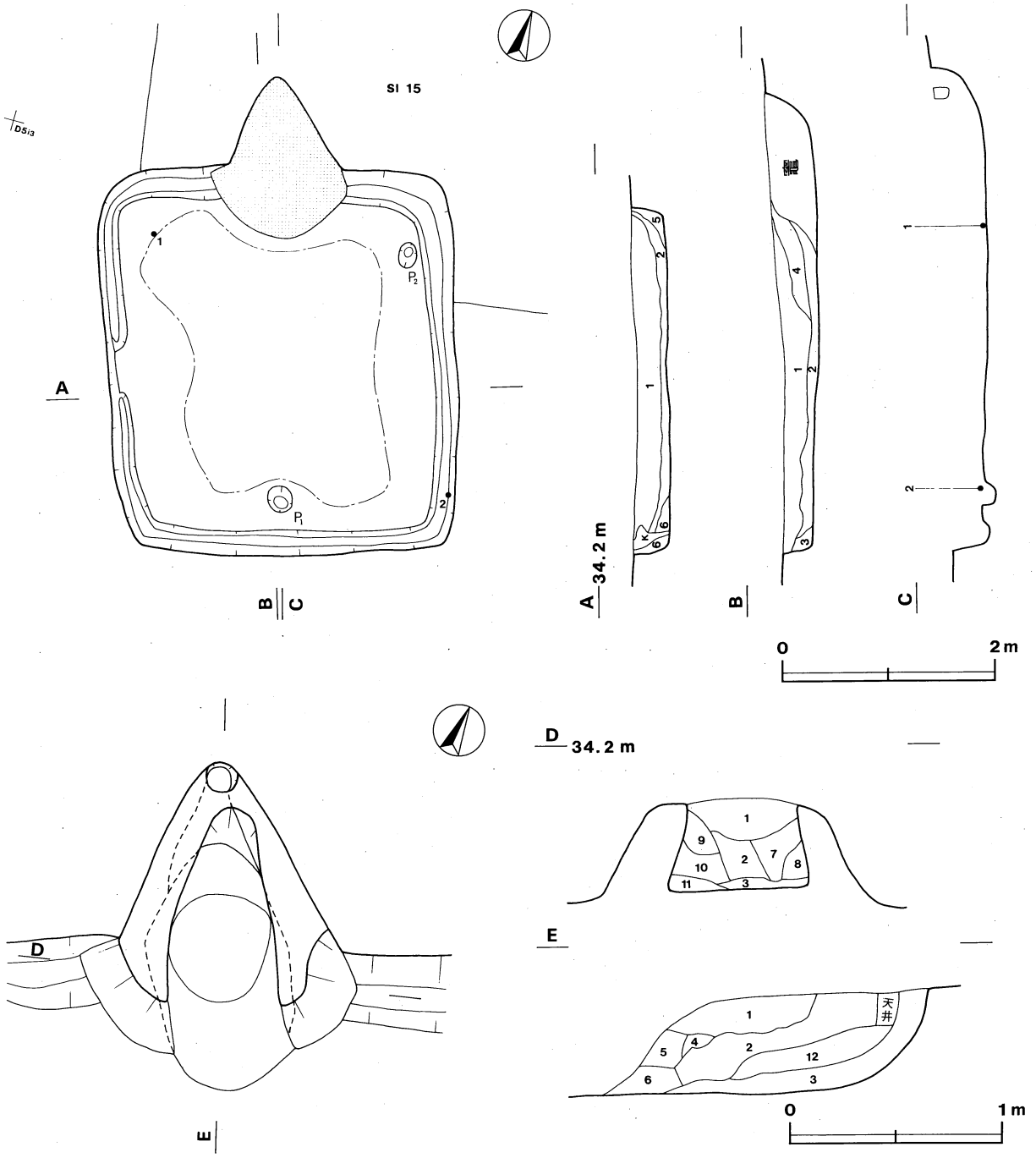
壁溝　確認された壁下には，西壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅25cm，下幅10cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は，長径25cm，短径22cmの不整楕円形，深さ11cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P_2は長径25cm，短径16cmの不整楕円形，深さ13cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部を壁外に85cmほど三角形状に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。遺存状態は良好で，天井部北側に煙出し部も検出できた。両袖部も残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さは155cm，最大幅130cmである。火床部は，床面と同じレベルの床面を使用している。煙道部は，火床面から緩やかに外傾し，中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量

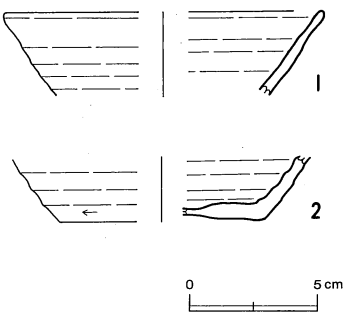


第234図　第107号住居跡実測図

7　にぶい赤褐色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
8　暗 赤 褐 色　焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
9　にぶい赤褐色　焼土・ローム・粘土粒子少量
10　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
12　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子中量



第235図　第107号住居跡
出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第235図 1	坏 須恵器	A〔12.6〕 B(3.3)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P613 5% 床面
2	坏 須恵器	B(2.6) C〔 8.0〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P614 5% 覆土下層

遺物　土師器片49点，須恵器片８点が出土している。第235図１の須恵器坏は北西部の床面直上から，２の須恵器坏は南東コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は第15号住居跡を掘り込んでいることや，出土遺物等から奈良時代（８世紀中葉）と思われる。

表２　木工台遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
1	B4g3	N-4°-E	方形	4.48 × 4.29	20～50	平坦	4		1	1	竈1	人為	土師器片621,須恵器片167,支脚8,土玉1,砥石1,鉄滓3.5kg	本跡→SD-1,2,3
2	B4j5	N-70°-E	長方形	5.98 × 4.33	17～34	平坦	1				炉1	自然	土師器片369,須恵器片26	
3	B5j2	N-2°-E	方形	6.53 × 6.10	55～58	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片1033,須恵器片74,土玉1,刀子1	本跡→SI-8
4	D5e2	N-21°-W	方形	3.24 × 2.99	65～67	平坦	4		1	1	竈1	自然	土師器片50,須恵器片16,羽口1,鉄滓100g	本跡→SI-5
5	D5e2	N-82°-E	方形	3.50 × 3.18	47～49	平坦			3	1	竈1	人為	土師器片255,須恵器片94,鉄滓	SI-4→本跡
6	D5e4	N-28°-W	長方形	6.37 × 5.72	48～56	平坦	4		2		竈1	自然	土師器片300,須恵器片19,砥石1	本跡→SI-14
7	C4d0	N-10°-W	〔長方形〕	(10.18)×(7.20)	66～72	平坦			8		竈1	自然	土師器片1538,須恵器片99,陶器片1,土玉5,支脚2,鉄滓300g	SI-10→本跡
8	B5j2	N-5°-E	方形	3.67 × 3.48	46～53	平坦				1	竈1	自然	土師器片517,須恵器片65,鉄滓280g	SI-3→本跡
9	C5b1	N-11°-E	方形	6.14 × 6.02	56～67	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片385,須恵器片286,支脚1,土玉4,銅製品(帯金具)1,鉄滓1.4kg	本跡→SI-8,SK-12
10	C4c9	—	不明	(1.20)×(0.85)	—	—					—	不明	須恵器片1,鉄鎌1	本跡→SI-7,SK-18
11	D4h9	N-3°-E	〔長方形〕	(3.86)× 3.37	46～52	平坦			6		竈1	自然	土師器片225,須恵器片11,鉄滓140g	SI-106→本跡
12	B5j4	N-2°-E	方形	4.43 × 3.96	42～45	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片288,須恵器片38,土玉2,石製紡錘車1,刀子1	
13	C5a6	N-8°-E	方形	4.78 × 4.50	76～80	平坦	4		2	1	竈1	自然	土師器片912,須恵器片319,土玉1,砥石1,刀子1,鉄滓500g	本跡→SD-5
14	D5e4	N-9°-E	方形	4.00 × 3.71	65～74	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片310,須恵器片81,羽口片4	SI-6→本跡
15	D5h3	N-6°-W	方形	5.78 × 5.76	32～74	平坦	4	1	1	1	竈1	人為	土師器片431,須恵器片12,土製紡錘車1,土玉5,土製勾玉1,土製小玉1,砥石1	SI-107→本跡→SI-20
16	C5e2	N-4°-E	方形	3.44 × 3.24	53～64	平坦			2	1	竈1	自然	土師器片475,須恵器片136,手鎌1,鉄鏃2	SK-22→本跡
17	C5f2	N-21°-E	方形	3.47 × 3.27	58～67	平坦	1			1	竈1	自然	土師器片380,須恵器片108,土玉1,管状土錘1,鉄滓150g	
18	C5j7	N-6°-W	方形	3.05 × 2.95	37～45	平坦				1	竈1	自然	土師器片41,須恵器片30	
19	C5e7	N-1°-W	方形	3.48 × 3.25	60～67	平坦			2	1	竈1	人為	土師器片304,須恵器片124,鉄釘1,鉄滓150g	
20	D5h4	N-17°-W	長方形	3.39 × 2.81	58～67	平坦	4		1		竈1	自然	土師器片79,須恵器片35	SI-15→本跡
21	D5e6	N-113°-E	〔方形〕	3.80 ×(2.28)	50～57	平坦			1		竈1	人為	土師器片184,須恵器片19,鉄鏃1,鉄滓40g	
22	D9b7	N-58°-E	方形	3.60 × 3.35	35～45	平坦		1	2		炉1竈1	自然	土師器片182,須恵器片14,羽口2,金床石1,砥石1,鉄鏃2,鞴1	本跡→SK-51
23	C5h5	N-1°-W	方形	3.77 × 3.60	45～50	平坦				1	竈1	自然	土師器片145,須恵器片58	SD-6→本跡
24	C5h3	N-15°-W	方形	3.45 × 3.45	57～65	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片80,須恵器片19	
25	D5a3	N-103°-E	方形	3.70 × 3.42	65～72	平坦			3	1	竈1	自然	土師器片65,須恵器片36,鉄鎌2,鉄鏃1,鉄釘1	SI-27,SI-28→本跡
26	E9h1	N-85°-E	方形	3.36 × 3.20	48～52	平坦			2		竈1	人為	土師器片370,須恵器片37,土玉7,砥石1,鉄滓88.5g	本跡→SK-163,SK-164
27	C5j2	N-10°-E	方形	3.52 × 3.25	54～56	平坦				1	炉1	自然	土師器片152,須恵器片78,鉄鎌1,鉄鏃1,煙管1	本跡→SI-25
28	C5j3	N-10°-W	方形	3.42 × 3.20	62～68	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片180,須恵器片90,鉄滓10g	本跡→SI-25
29	D5c6	N-7°-W	不明	(3.55)×(1.80)	52～72	平坦					竈1	人為	土師器片16,須恵器片14	

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
30	D5b5	N-2°-W	方形	3.60 × 3.58	45～47	平坦				1	竈1	人為	土師器片72,須恵器片76	
31	C5j6	N-9°-E	方形	4.05 × 3.90	38～48	平坦			4	1	竈1	人為	土師器片152,須恵器片48,刀子2,銅製品(帯金具)1	
32	D0f2	N-80°-E	〔長方形〕	(3.55)×(1.70)	46	平坦					—	自然		SI-48→本跡
33	C6h4	N-86°-E	不明	(2.10)×(1.35)	47～62	平坦					—	人為	土師器片40,須恵器片3	
34	D6c4	N-56°-E	方形	3.27 × 3.25	20～24	平坦			3	1	竈1	自然	土師器片105,須恵器片18,円面硯1,砥石1,鉄滓300g	本跡→SK-48
35	C6j8	N-1°-E	長方形	3.90 × 3.50	21～25	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片87,須恵器片18,刀子1,鉄滓50g	
36	D6c8	N-40°-E	方形	3.50 × 3.25	10～15	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片35,須恵器片12,土玉1	
37	D6c0	N-14°-W	長方形	3.88 × 3.10	33～34	平坦				1	竈1	自然	土師器片83,須恵器片61,鉄鏃1,鉄滓150g	本跡→SD-24
38	C7f3	N-1°-E	方形	3.91 × 3.73	35～48	平坦			2	1	竈1	自然	土師器片82,須恵器片28,支脚1,鉄滓50g	
39	C7i5	N-22°-E	長方形	2.97 × 2.29	20～23	平坦				1	竈1	自然	土師器片12,須恵器片17	
40	D7c5	N-5°-E	方形	3.42 × 3.30	26～35	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片68,須恵器片18,鉄滓90g	
41	C7j8	N-8°-E	方形	8.57 × 8.26	36～60	平坦	4		7	1	竈1	自然	土師器片919,須恵器片166,土玉6,管状土錘16,支脚2,不明銅製品1,鉸金具1,刀子1,鉄鏃1	
42	D7d7	N-89°-E	方形	3.60 × 3.43	24～26	平坦			1		竈1	自然	土師器片47,須恵器片8,不明銅製品1,鉄滓3kg	
43	E6b4	〔N-8°-E〕	〔長方形〕	(2.72)× 3.15	18～25	—			3		—	自然	土師器片180,須恵器片25	本跡→SD-17
45	C8i2	N-23°-W	長方形	3.75 × 3.30	40～45	平坦				1	竈1	自然	土師器片150,須恵器片36	
46	D8c4	N-4°-W	長方形	6.38 × 5.65	32～40	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片240,須恵器片14,銅製品(帯金具)1	本跡→SD-9
47	D9e8	N-17°-E	方形	4.70 × 4.50	38～65	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片90,須恵器片21	
48	D0f1	N-85°-E	方形	3.80 × 3.56	22～33	平坦			1		竈1	自然	土師器片36,須恵器片10	本跡→SI-32
49	E0a1	N-11°-W	方形	6.42 × 6.20	42～50	平坦	4		1	1	竈1	自然	土師器片761,須恵器片130,土玉1,支脚1,砥石1,鉄釘1	本跡→SI-50
50	E0b2	〔N-20°-W〕	不明	3.12 ×(1.28)	16～18	平坦			1		—	自然	土師器片20,須恵器片3,鉄滓90g	SI-49→本跡
51	E0g2	〔N-23°-W〕	不明	(1.70)×(0.96)	46～48	平坦					—	自然	土師器片7,須恵器片1,鉄滓50g	
52	E0h2	N-89°-E	方形	2.98 × 2.92	16～62	平坦			2	1	竈1	自然	土師器片68,須恵器片11,土玉1,鉄滓200g	本跡→SD-11
53	E0i2	N-5°-W	〔方形〕	3.29 ×(1.67)	27	平坦					竈1	自然	土師器片19,須恵器片2,砥石1	
54	E9j0	N-82°-E	〔長方形〕	(3.35)× 3.20	8～47	平坦			1		炉1竈2	自然	土師器片186,須恵器片34,羽口2,金床石1,刀子1,鉄滓1kg	SI-55→本跡→SD-11
55	E9j0	N-6°-W	方形	6.48 × 6.48	29～51	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片942,須恵器片56,支脚1,砥石2,刀子1,不明銅製品1	本跡→SI-54→SD-11
56	E9c2	N-14°-W	〔方形〕	2.93 ×〔2.87〕	50～56	平坦			4		竈1	自然	土師器片63,須恵器片37,鉄滓300g	SI-85→本跡
57	F9b8	N-8°-E	〔方形〕	(2.33)× 3.42	16～20	平坦			4		竈1	自然	土師器片172,須恵器片10,支脚1,鉄滓10g	
58	E9i8	N-102°-E	〔方形〕	3.33 ×(2.58)	24～30	平坦			2	1	竈1	人為	土師器片122,須恵器片30,鉄滓800g	本跡→SI-60→SI-59
59	E9i8	N-97°-E	不明	(3.66)×(2.16)	30	平坦					竈2	人為	土師器片200,須恵器片24,灰釉陶器1,羽口1,砥石1,金床石1,鉄鏃1	SI-58,SI-60→本跡
60	E9i7	N-27°-W	方形	3.88 × 3.85	30～62	平坦	4		1	1	竈1	人為	土師器片199,須恵器片63	SI-58→本跡→SI-59
61	F9a5	N-27°-W	方形	2.46 × 2.34	58～66	平坦				1	竈1	人為	土師器片29,須恵器片22,砥石1,鉄鏃1,鉄滓10g	
62	E9j4	N-82°-E	方形	3.50 × 3.45	28～34	平坦	1	1	2		竈1	人為	土師器片142,須恵器片14,羽釜1,刀子1,鉄鏃1,鉄滓3.5kg	
63	E9i5	N-18°-W	方形	2.92 × 2.70	48～56	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片75,須恵器片28,土玉4,縄文土器片1	
64	E9g2	N-9°-E	方形	2.72 × 2.71	68～72	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片51,須恵器片1,砥石1	本跡→SK-162・166
65	E7j3	N-11°-W	方形	3.23 × 3.07	45～55	平坦				1	竈1	人為	土師器片54,須恵器片11,鉄滓7.5kg	SX-2→本跡
66	E9i1	N-30°-W	長方形	4.04 × 3.58	64～73	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片119,須恵器片29,鉄滓300g,縄文土器片1	
67	E8h8	N-16°-W	方形	4.30 × 3.93	68～70	平坦			1	1	竈2	人為	土師器片176,須恵器片30,土玉1,鉄滓50g	
68	E8h6	N-12°-E	方形	3.45 × 3.17	60～68	平坦			3		竈1	自然	土師器片5,須恵器片192,砥石1,刀子2,鉄製縁金具1,鉄滓1.19kg	
69	E8g9	N-18°-W	方形	2.58 × 2.52	53～57	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片30,須恵器片5,鉄滓50g	SI-70→本跡
70	E8f9	N-95°-E	方形	2.38 × 2.37	56～58	平坦					竈1	自然	土師器片44,須恵器片2,鉄鏃1	本跡→SI-69
71	E8e0	N-29°-W	方形	3.53 × 3.30	60～71	平坦			1		竈1	自然	土師器片382,須恵器片116,土玉15,砥石1,鉄鏃1	
72	E9d1	N-69°-E	方形	3.32 × 3.25	35～45	平坦			3	1	竈1	人為	土師器片102,須恵器片18,土玉2,鉄滓1.1kg	
73	E8c0	N-34°-W	方形	3.76 × 3.64	50～65	平坦			2	1	竈1	自然	土師器片187,須恵器片107,土玉1,鉄鏃1,不明鉄製品1	
74	E8a7	N-15°-E	長方形	4.90 × 3.63	20～31	平坦			7	1	竈1	人為	土師器片76,須恵器片104,土玉4	
75	D8j6	N-26°-E	方形	4.29 × 4.22	32～43	平坦	4			1	竈1	人為	土師器片77,須恵器片104,鉄滓100g	
76	E9f7	N-89°-E	長方形	4.60 × 3.64	15～40	平坦	4		2	1	竈1	人為	土師器片289,須恵器片66,羽口2,金床石1,鉄鏃2,刀子1,鉄鏃1	

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
77	E9d7	N-25°-W	方形	4.45 × 4.32	66～84	平坦	4			1	竈1	人為	土師器片558,須恵器片154,土玉1,石製紡錘車1	
78	E9c9	N-32°-W	方形	6.03 × 5.66	69～89	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片1432,須恵器片39,砥石1,鉄鏃3,鉄釘2,不明鉄製品1	
79	E9a8	N-61°-E	方形	3.66 × 3.30	36～45	平坦			5	1	竈1	自然	土師器片225,須恵器片26,土玉15,管状土錘1,鉄鏃1,鉄鏃1,鉄滓250g	SD-11→本跡
80	D9j6	N-3°-W	方形	3.66 × 3.56	10～18	平坦			2		竈2	自然	土師器片105,須恵器片11,鉄滓80g	
81	E8g3	N-7°-W	〔方形〕	3.27 ×(2.54)	40～74	平坦				1	竈1	自然	土師器片63,須恵器片28,土玉2,鉄鏃1,鉄滓400g	
82	D9h6	N-68°-W	方形	3.24 × 3.00	42～64	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片239,須恵器片56,刀子1	
83	D9h7	N-5°-E	方形	3.73 × 3.52	50～64	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片126,須恵器片26	本跡→SI-84
84	D9g7	N-2°-E	長方形	3.77 × 3.23	9～43	平坦				1	竈1	自然	土師器片126,須恵器片61,鉄滓50g	SI-83→本跡
85	E9c3	N-13°-W	方形	4.52 × 4.20	51～60	平坦	4		1	1	竈1	人為	土師器片138,須恵器片45,管状土錘1,鉄滓360g	本跡→SI-56
86	D9i3	N-6°-E	方形	4.20 × 4.02	23～40	平坦	4			1	竈1	人為	土師器片316,須恵器片7,鉄滓50g	
87	D9f3	N-6°-E	方形	5.46 × 5.44	25～43	平坦	4		1		竈1	自然	土師器片430,須恵器片63,土玉1,砥石2,鉄滓100g	
88	D8g0	N-9°-E	方形	4.57 × 4.18	14～39	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片94,須恵器片78,土玉5	
89	D8f0	N-10°-W	方形	5.13 × 5.05	22～39	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片47,須恵器片4,砥石1	
90	E8g5	N-31°-W	不明	(2.08)×(1.45)	79	平坦			2		―	自然	土師器片126,須恵器片107,鉄鏃1,鉄滓280g	
91	E8f3	N-3°-E	方形	4.82 × 4.74	55～67	平坦	4		1	1	竈1	自然	土師器片512,須恵器片392,土玉2,石製紡錘車1,刀子1,灰釉陶器1	
92	E7f0	N-6°-W	方形	3.31 × 3.11	45～52	平坦				1	竈1	自然	土師器片179,須恵器片107,鉄滓700g	
93	E7c0	N-2°-E	方形	2.52 × 2.32	27～48	平坦			1		竈1	自然	土師器片18,須恵器片2,土玉1,鉄滓2.2kg	
94	D6h9	N-19°-E	不明	(3.93)×(0.79)	45	平坦					―	自然	土師器片1	
95	D8c1	N-29°-E	長方形	8.20 × 5.70	23～65	平坦			19		炉2	自然	土師器片815,須恵器片83,土玉135,管状土錘8,砥石5,鋤先1	本跡→SD-9,SD-23
96	E7h9	N-7°-W	長方形	4.17 × 3.75	66～74	平坦			2	1	竈1	自然	土師器片93,須恵器片13,砥石1,鉄滓700g	
97	E7e4	N-30°-W	方形	3.52 × 3.43	50～62	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片136,須恵器片4,鉄滓450g	
98	E8f3	―	不明	(3.25)×(2.89)	33～37	平坦			2		―	自然	土師器片1	
99	E7h7	N-9°-W	長方形	2.48 × 2.18	57～63	平坦	2			1	竈1	自然	土師器片26,須恵器片7,鉄鏃1	
100	E7b0	N-3°-W	〔長方形〕	6.36 ×(5.44)	60～78	平坦	3		5		竈1	自然	土師器片840,須恵器片556,石製模造品1,鉄鏃2,鉄滓5.15kg	本跡→SD-13
101	F7c9	N-5°-W	〔長方形〕	4.50 ×(2.60)	45～65	平坦	2				竈1	人為	土師器片83,須恵器片55,鉄滓300g	本跡→SD-25
102	E7j7	N-10°-W	方形	3.32 × 3.30	58～73	平坦			4	1	竈1	自然	土師器片101,須恵器片15,砥石1,鉄滓600g	
103	E7j5	N-92°-E	方形	3.47 × 3.44	7～17	平坦			1		竈1	自然	土師器片60,須恵器片9,土玉1,砥石1,刀子1,鉄滓700g	
104	E6b1	N-14°-W	長方形	4.43 × 4.01	46～73	平坦	4			1	竈1	自然	土師器片37,須恵器片20,土製模造品1,鉄鏃1	
105	D6h1	N-22°-W	方形	3.38 × 3.22	53～58	平坦			1	1	竈1	自然	土師器片43,須恵器片10	
106	D4h9	N-0°	〔長方形〕	(3.52)×〔2.15〕	20～26	平坦	3				竈1	人為	土師器片30,須恵器片2	本跡→SI-11
107	D5i3	N-16°-W	長方形	3.72 × 3.27	28～33	平坦	1			1	竈1	自然	土師器片49,須恵器片8	SI-15→本跡

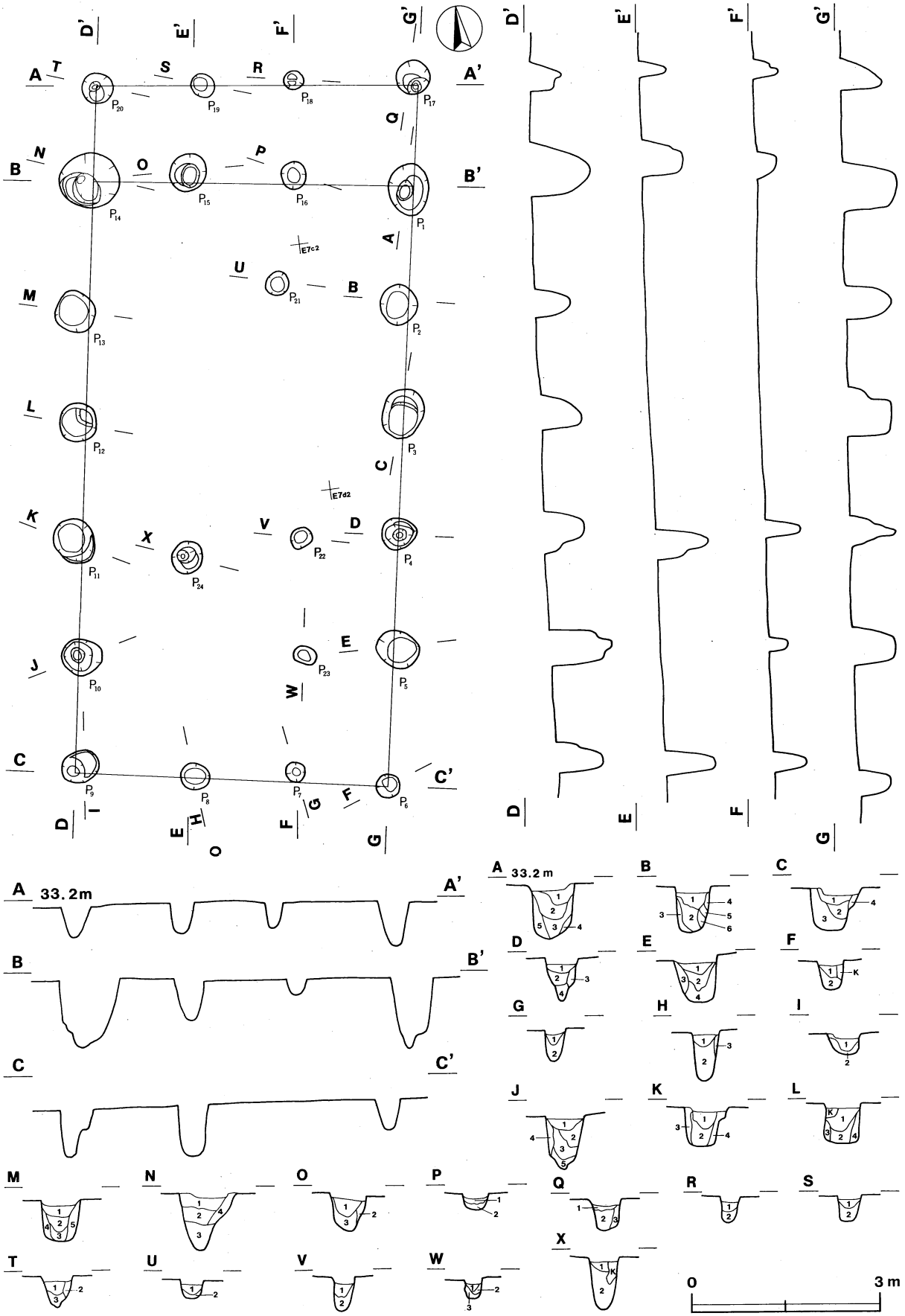
2　掘立柱建物跡

調査区の南部で掘立柱建物跡１棟を検出した。出土遺物が少なく，時期を限定することはできなかった。以下，特徴や出土遺物について記載する。

第１号掘立柱建物跡（第236図）

位置　調査区の南部，B7c1区。

規模　３間×５間の南北棟の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－10°－Ｅを示す。規模は桁行6.45ｍ，梁行3.36ｍで，北側に１間の庇と思われる柱穴がある。また，内側に柱穴を４か所検出したが性格等は不明である。柱間寸法は桁行が1.17～1.45ｍ，梁行が0.99～1.27ｍである。柱穴掘り方は，長径22～60㎝，短径21～59㎝の不整楕円形，深さ18～66㎝である。柱痕や柱抜き取り痕は検出できなかった。



第236図　第１号掘立柱建物跡実測図

覆土　6層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量
5　黒 褐 色　ローム粒子中量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量

遺物　土師器坏片6点，甕片5点，管状土錘1点が出土しているが，いずれも確認面からである。

所見　古墳時代後期の土師器の坏片3点と，平安時代（9世紀末から10世紀初め）の内面黒色処理された土師器坏の破片が2点出土しているが，いずれも確認面からの出土で，時期を限定するのは難しい。

3　溝

当遺跡からは溝30条を検出した。時期を限定するための資料が乏しく，性格等についても不明な点が多い。特徴のある第1・4～6・9・11・14・17・18・24・30・31号溝については文章で解説し，それ以外は一覧表で記載する。

第1号溝（遺構全体図・第237図）

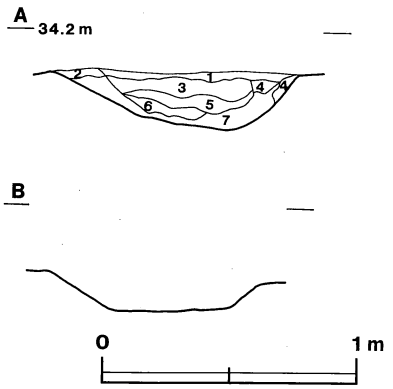
位置　調査区の北西部，B4d5～B4h2区。

重複関係　本跡は第1号住居跡を掘り込んでおり，第1号住居跡よりも新しい。

規模と形状　南西部が調査区域外に延びているため検出部分は（18.0）mである。上幅0.38～1.00m，下幅0.12～0.50m，深さ0.10～0.23mで，断面は逆台形である。

方向　B4d5区から南西（N－43°－E）に直線的に延びる。

覆土　7層からなり，ロームブロック等を含んでいることから，人為堆積と思われる。



第237図　第1号溝実測図

土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子微量，ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　炭化・ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片1点が，出土している。

所見　本跡は出土遺物が少なく時期を限定することは難しいが，第1号住居跡（9世紀前葉）を掘り込んでいることから9世紀前葉以降のものと思われる。

第4号溝（遺構全体図・第238図）

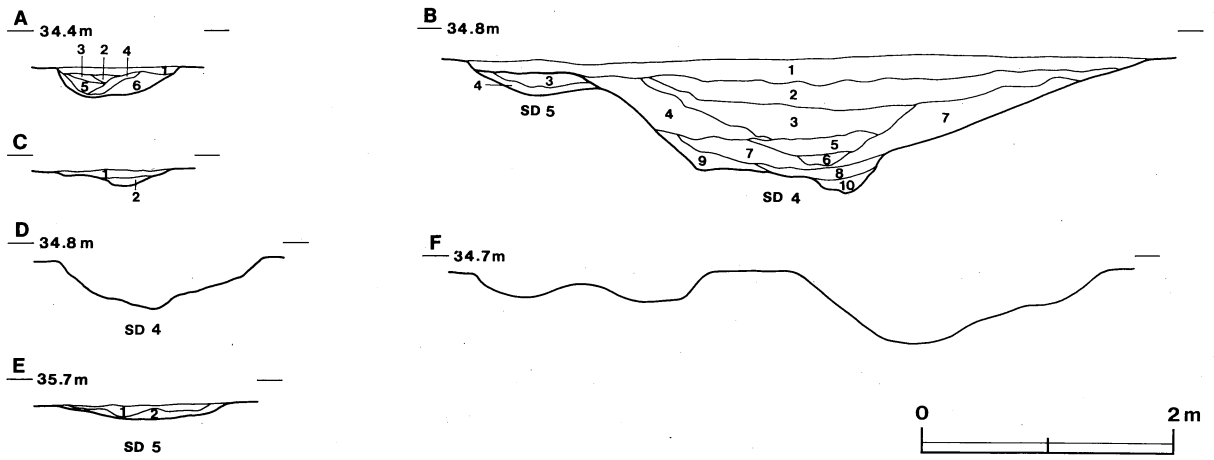
位置　調査区の北西部，B4d5～D6a0区。

重複関係　本跡は第19号土坑，第5号溝を掘り込んでおり，両遺構よりも新しい。

規模と形状　北西部が調査区域外に延びているため検出部分は（125.0）mである。上幅0.70～4.50m，下幅0.10～0.70m，深さ0.07～1.20mで，断面はU字形である。

方向　D7a1区から北西（N－57°－W）にほぼ直線的に延びる。

覆土　A断面は6層，B断面は10層，C断面は2層に分層され，自然堆積と思われる。



第238図　第４・５号溝実測図

土層解説
A断面土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子少量
B断面土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大・小ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
10　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
C断面土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子微量

遺物　土師器片35点，須恵器片34点，土製支脚片１点の他，内耳鍋３点，鉄滓340ｇが覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世のものと思われる。

第５号溝（遺構全体図・第238図）

位置　調査区の北西部B5i_4～C6g_6区。

重複関係　本跡は第４号溝と並行しており，中央部で重複している。重複している部分は，第４号溝に掘り込まれており，第４号溝よりも古い。また，本跡は第13号住居跡を掘り込んでいるため，第13号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　全長は62.5ｍである。上幅0.60～2.00ｍ，下幅0.20～1.30ｍ，深さ0.20ｍで，断面はＵ字形で，底面に凹凸がある。

方向　C6h_6区から北西（Ｎ－57°－Ｗ）にほぼ直線的に延びる。

覆土　４層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　　色　ローム中・小ブロック少量

遺物　土師器片46点，須恵器片10点が覆土中から出土しているが，小破片が多い。

所見　時期を限定できる遺物はないが，本跡が第13号住居跡（９世紀中葉）を掘り込んでいるため，９世紀中葉以降のものと思われる。

第６号溝（遺構全体図・第239図）

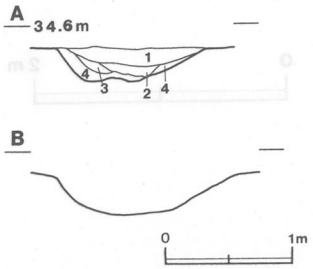
位置　調査区の北西部C5c9～西部D4h0区。

重複関係　本跡は第92・97・99号土坑に掘り込まれており，これらよりも古い。

規模と平面形　全長は69.0mである。上幅0.50～1.80m，下幅0.12～0.60m，深さ0.30～0.45mで，断面はU字形である。

方向　D4h0区から北東（N－40°－E）にほぼ直線的に延びる。

覆土　４層からなり，ロームブロック等を含んでいることから人為堆積と思われる。



土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片43点，須恵器片33点が，覆土中から出土している。

所見　時期を限定できる遺物がなく，時期不明である。

第239図　第６号溝実測図

第９号溝（遺構全体図・第240図）

位置　調査区の東部D7a1～D0c2区。

重複関係　本跡は第46号住居跡及び第95号住居跡を掘り込んでおり，また第54号土坑に掘り込まれていることから，第46号住居跡及び第95号住居跡よりも新しく，第54号土坑よりも古い。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため検出部分は126.0mである。上幅0.80～1.56m，下幅0.20～0.64m，深さ0.16～0.36mで，断面はU字形である。

方向　D7b1区からほぼ真西（N－90°－E）に（126.0）m直線的に延びている。

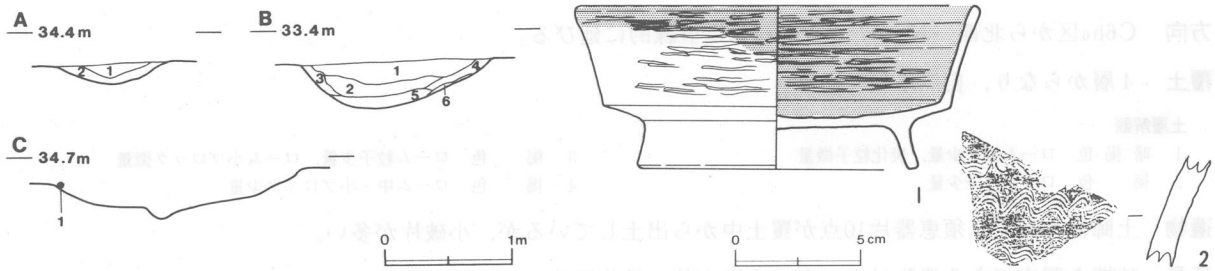
覆土　A断面は２層，B断面は６層に分層された。

土層解説
A断面土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子微量，炭化粒子極微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

B断面土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片90点，須恵器片32点の他，鉄滓1.89kgが覆土中から出土している。第240図１の土師器高台付坏は東部の覆土下層から出土している。２は須恵器長頸瓶の拓影図で，外面に５本単位の櫛状工具による波状文が施されている。

所見　本跡の時期は，第46号住居跡及び第９号工房跡を掘り込んでいることから，両遺構よりも新しく８世紀前葉以降と思われる。



第240図　第９号溝溝・出土遺物実測図

第９号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第240図 1	高台付坏 土師器	A 15.9 B 6.6 D 11.1 E 2.0	口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き後，黒色処理。体部外面ヘラ磨き後，一部黒色処理。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・スコリアにぶい黄橙色 普通	P641 70%　PL34 覆土下層

第11号溝（遺構全体図・第241図）

位置　調査区の東部E9a$_9$～F9b$_6$区。

重複関係　本跡は第52・79号住居跡に掘り込まれており，第53・57・58号住居跡を掘り込んでことから，第52・79号住居跡よりも古く，第53・57・58号住居跡よりも新しい。

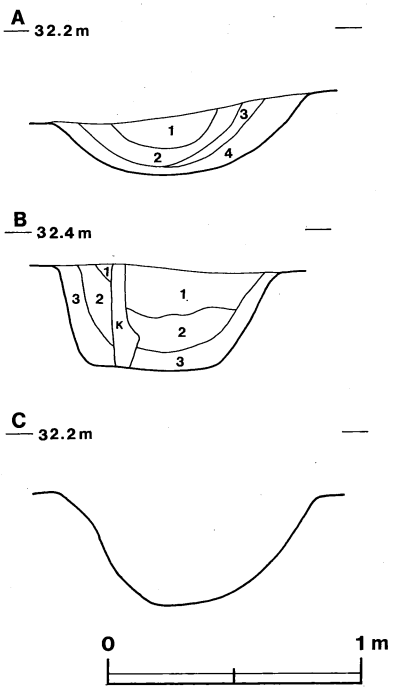
規模と平面形　南部が調査区域外に延びているため検出部分は（56.40）mである。上幅0.74～1.22m，下幅0.22～0.48m，深さ0.22～0.46mで，断面はU字形である。

方向　本跡はE9a$_9$区から南東方向に延び，E0h$_2$区で南西に曲がり，F9b$_6$区（調査区外）に向かってほぼ直線的に伸びる。

覆土　A断面は４層，B断面は３層に分層された。

A断面土層解説
1　褐　色　焼土・炭化・ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　暗褐色　炭化・ローム粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

B断面土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量



第241図　第11号溝実測図

遺物　土師器片207点，須恵器片292点，鉄滓80ｇが，覆土中から出土している。

所見　遺物はいずれも覆土中からの出土であり，時期を限定するものはないが，住居跡との重複関係から，７世紀末から９世紀前葉のものと考えられる。

第14号溝（遺構全体図・第242図）

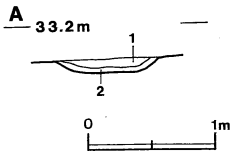
位置　調査区の東部E8d$_6$～E8i$_7$区。

規模と平面形　南部が調査区域外に延びているため検出部分は（20.00）mである。上幅0.50～1.20m，下幅0.18～0.60m，深さ0.12～0.15mで，断面は逆台形である。

方向　E8i$_7$区から北西（N－20°－W）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土　２層からなり，人為堆積と思われる。

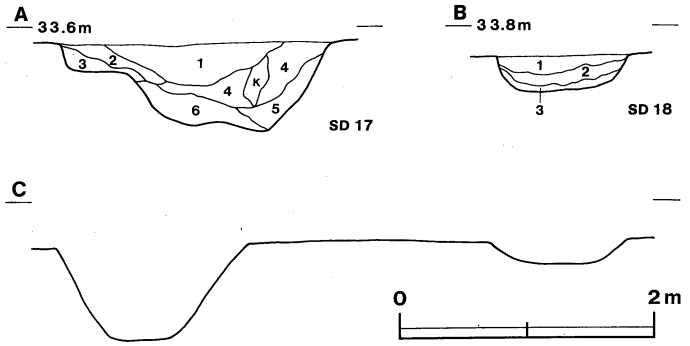
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量



第242図
第14号溝実測図

遺物　土師器片３点が出土している。

所見　時期を限定できる遺物がなく，時期不明である。



第243号　第17・18号溝実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

第17号溝（遺構全体図・第243図）

位置　調査区の西部E5b6～E6b6区。

重複関係　本跡は第43号住居跡を掘り込み，また第93号土坑に掘り込まれていることから，第43号住居跡よりも新しく，第93号土坑よりも古い。

規模と平面形　西部が調査区域外に延びているため検出部分は（42.2）mである。上幅0.85～2.30m，下幅0.20～0.90m，深さ0.75～1.40mで，断面は逆台形である。

方向　E6b6区から西（N－90°－W）に，直線的に延びる。

覆土　6層からなり，人為堆積である。

遺物　土師器片5点，須恵器片9点が，覆土中から出土している。

所見　本跡はE6b6区からほぼ真西に向かって，第18号溝と平行するように延びている。時期を限定する遺物がなく，時期不明である。

第18号溝（遺構全体図・第243図）

位置　調査区の西部E5a6～E6a5区。

規模と平面形　西部が調査区域外に延びているため検出部分は（39.6）mである。上幅0.50～1.20m，下幅0.20～0.80m，深さ0.10～0.30で，断面はU字形である。

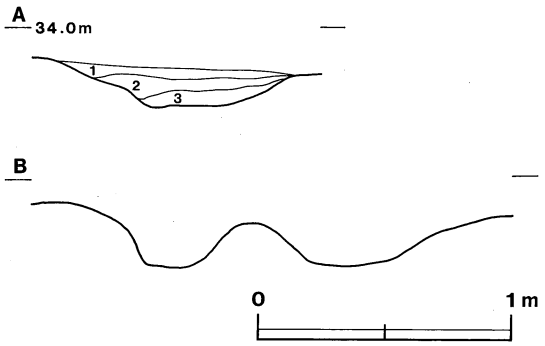
方向　E6a5区から西（N－90°－W）に，直線的に延びる。

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片12点，須恵器片5点が，覆土中から出土している。

所見　本跡はE6a5区からほぼ真西に向かって，第17号溝と並行するように延びている。時期を限定する遺物がなく，時期不明である。



第244号　第24号溝実測図

第24号溝（遺構全体図・第244図）

位置　調査区の中央部D7b1～D6f9区。

重複関係　本跡は第37号住居跡を掘り込んでおり，第37号住居跡よりも新しい。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため検出部分は（20.0）mである。上幅0.90～1.65m，下幅0.25～0.92m，深さ0.05～0.25mである。

方向　D7b1区から南（N－20°－E）に直線的に伸びている。

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子極微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片8点，須恵器片2点が出土している。

所見　本跡は出土遺物が少なく時期を限定するのは難しいが，第37号住居跡（8世紀後葉）を掘り込んでいることから8世紀後葉以降のものである。

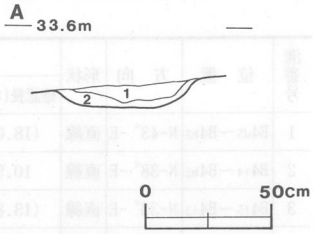
第30号溝（遺構全体図・第245図）

位置　調査区の西部E5a5～E5a7区。

規模と平面形　西部が調査区域外に延びているため検出部分は（6.1）mである。上幅0.35～0.60m，下幅0.15～0.35m，深さ0.10mで，断面はU字形である。

方向　E6a5区から西（N－85°－E）に直線的に伸びている。

覆土　2層からなり，自然堆積である。



第245図　第30号溝実測図

土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がなく，時期は不明である。

第31号溝（遺構全体図・第246図）

位置　調査区の西部D4b9～D5d2区。

規模と形状　西部が調査区外に延びているため検出部分は（14.6）mである。上幅1.60～1.80m，下幅0.20～0.50m，深さ0.65mで，断面はU字形である。

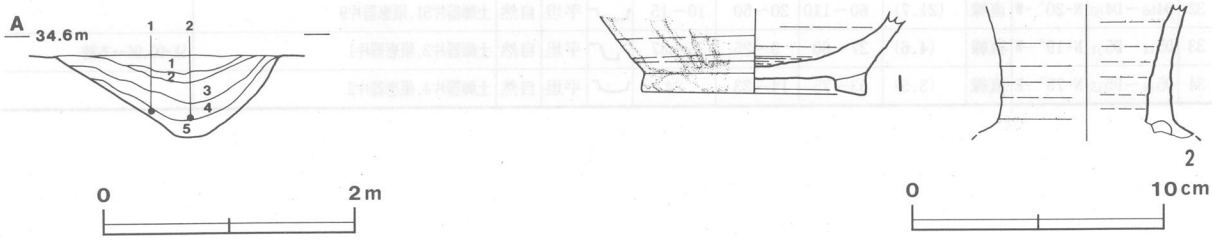
方向　D5d2区から北西方向（N－62°－W）に直線的に伸びている。

覆土　5層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　炭化・ローム粒子少量
4　黒 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　土師器片109点，須恵器片54点が出土している。第246図1の灰釉陶器短頸壺は東部の覆土下層から，2の灰釉陶器長頸瓶は覆土中から出土している。

所見　本跡の出土遺物は小破片が多く，時期を限定するのは難しい。



第246図　第31号溝・出土遺物実測図

第31号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第246図 1	短頸壺 灰釉陶器	B(3.4) D 8.8 E 0.9	高台部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。高台は短く「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に施釉。高台貼り付け。	精良 灰白色 良好	P643 10% 覆土下層 黒笹90号窯式
2	長頸瓶 灰釉陶器	B(5.4)	体部から頸部片。頸部は外反する。	体部及び頸部内・外面ロクロナデ。頸部内・外面に施釉。	精良 灰白色 良好	P683 5% 覆土中 黒笹90号窯式

表3　木工台遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考
				確認長(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
1	$B4_{d5}$～$B4_{h2}$	N-43°-E	直線	(18.0)	38～100	12～50	10～23		平坦	人為	土師器片1	SI-1→本跡
2	$B4_{f4}$～$B4_{h2}$	N-38°-E	直線	10.5	32～109	10～22	6～8		平坦	自然	土師器片10,須恵器片8	SI-1→本跡
3	$B4_{f5}$～$B4_{i3}$	N-32°-E	直線	(13.8)	36～130	18～52	6～26		平坦	人為	土師器片2,須恵器片3	本跡→SI-1
4	$B4_{d5}$～$D6_{a0}$	N-57°-W	直線	(125.0)	70～450	10～70	7～120		平坦	自然	土師器片35,須恵器片34,内耳鍋3,土製支脚1,鉄滓340g	SK-19, SD-5→本跡
5	$B5_{i4}$～$C6_{g6}$	N-57°-W	直線	62.5	60～200	20～130	20		凹凸	自然	土師器片46,須恵器片10	SI-13→本跡→SD-4
6	$C5_{c9}$～$D4_{h0}$	N-40°-E	直線	69.0	50～180	12～60	30～45		平坦	人為	土師器片43,須恵器片33	本跡→SK-97,99→SK-92
7	$C5_{c0}$～$C5_{h8}$	N-22°-E	直線	21.2	20～103	10～50	18～22		平坦	自然		本跡→SK-35
8	$C6_{d1}$～$C5_{f0}$	N-12°-E	直線	11.3	60～80	10～20	18～20		平坦	自然		
9	$D7_{a1}$～$D0_{c2}$	N-90°-E	直線	(126.0)	80～156	20～64	16～36		凹凸	人為	土師器片90,須恵器片32,鉄滓1.89kg	SI-46・95→本跡→SK-54
10	$D9_{a1}$～$D9_{a7}$	N-86°-W	直線	29.3	62～78	20～46	14		平坦	自然	土師器片8,須恵器片4	
11	$E9_{a9}$～$E0_{h2}$ $E0_{h2}$～$F9_{b6}$	N-17°-W N-69°-E	曲線	(56.4)	74～122	22～48	22～46		平坦	人為	土師器片207,須恵器片292,鉄滓80g	SI-53,57,58→本跡→SI-52,79
12	$D8_{j6}$～$E9_{b2}$	N-73°-W	直線	22.7	94～160	30～70	12～34		平坦	人為	土師器片11,須恵器片5,鉄滓100g,銅製品(煙管)2	
13	$F7_{a7}$～$F8_{b1}$	N-77°-W	直線	(16.0)	25～60	10～28	10		平坦	自然	土師器片1,須恵器片1,鉄滓100g	SI-100→本跡
14	$E8_{d6}$～$E8_{i7}$	N-20°-W	直線	(20.0)	50～120	18～60	12～15		平坦	人為	土師器片3	
15	$D7_{j5}$～$E7_{d4}$	N-9°-E	直線	14.2	38～88	12～50	12～14		平坦	自然	土師器片100	
16	$D7_{j3}$～$E7_{d4}$	N-12°-W	直線	16.1	18～52	18～20	14		平坦	自然		本跡→SD-15
17	$E5_{b6}$～$E6_{b6}$	N-90°-W	直線	(42.2)	85～230	20～90	75～140		平坦	人為	土師器片5,須恵器片9	SI-43→本跡→SK-93
18	$E5_{a6}$～$E6_{a5}$	N-90°-W	直線	(39.6)	50～120	20～80	10～30		平坦	自然	土師器片12,須恵器片5	
23	$D9_{c9}$～$D8_{c2}$	N-87°-W	直線	14.0	40～136	14～70	18		平坦	自然	須恵器片1	本跡→SI-95
24	$D7_{b1}$～$D6_{f9}$	N-20°-E	直線	(20.0)	90～165	25～92	5～25		凹凸	自然	土師器片8,須恵器片2	SI-37→本跡
25	$F7_{c9}$～$F7_{d0}$	N-58°-W	直線	(7.2)	58～72	16～42	16		平坦	自然	土師器片25,須恵器片17	
26	$F6_{a0}$～$F7_{b2}$	N-67°-W	直線	(12.0)	(2.36)	(2.10)	20～32		平坦	人為		
27	$E7_{e5}$～$E7_{e8}$	N-76°-E	直線	11.8	30～48	12～26	10		平坦	自然	須恵器片1	
28	$E7_{f1}$～$E7_{f3}$	N-77°-E	直線	(9.0)	38～62	14～32	22		平坦	自然		
29	$E5_{b8}$～$E5_{b0}$	N-85°-E	直線	5.4	40～60	15～35	15		平坦	自然		
30	$E5_{a5}$～$E5_{a7}$	N-85°-E	直線	(6.1)	35～60	15～35	10		平坦	自然		
31	$D4_{b9}$～$D5_{d2}$	N-62°-W	直線	(14.6)	160～180	20～50	65		平坦	自然	土師器片109,須恵器片54,灰釉陶器2	
32	$D4_{b8}$～$D4_{h0}$	N-20°-W	直線	(21.7)	60～110	20～50	10～15		平坦	自然	土師器片51,須恵器片9	
33	$D5_{i1}$～$D5_{j1}$	N-19°-W	直線	(4.6)	27～60	9～25	35～37		平坦	自然	土師器片2,須恵器片1	SK-90,96→本跡
34	$D5_{j4}$～$D5_{j5}$	N-75°-E	直線	(3.5)	53～75	14～23	24		平坦	自然	土師器片4,須恵器片2	

4　土坑

調査区全体から155基の土坑を確認した。ここでは時期が推定できるもの，特徴的なものについては文章で解説し，それ以外は一覧表で記載する。

第12号土坑（第247図）

位置　調査区の北西部，C5a1区。

重複関係　本跡は第９号住居跡を掘り込んでおり，第９号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長径3.78m，短径3.12mの不整楕円形で，深さ72cmである。

長径方向　N－8°－E

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

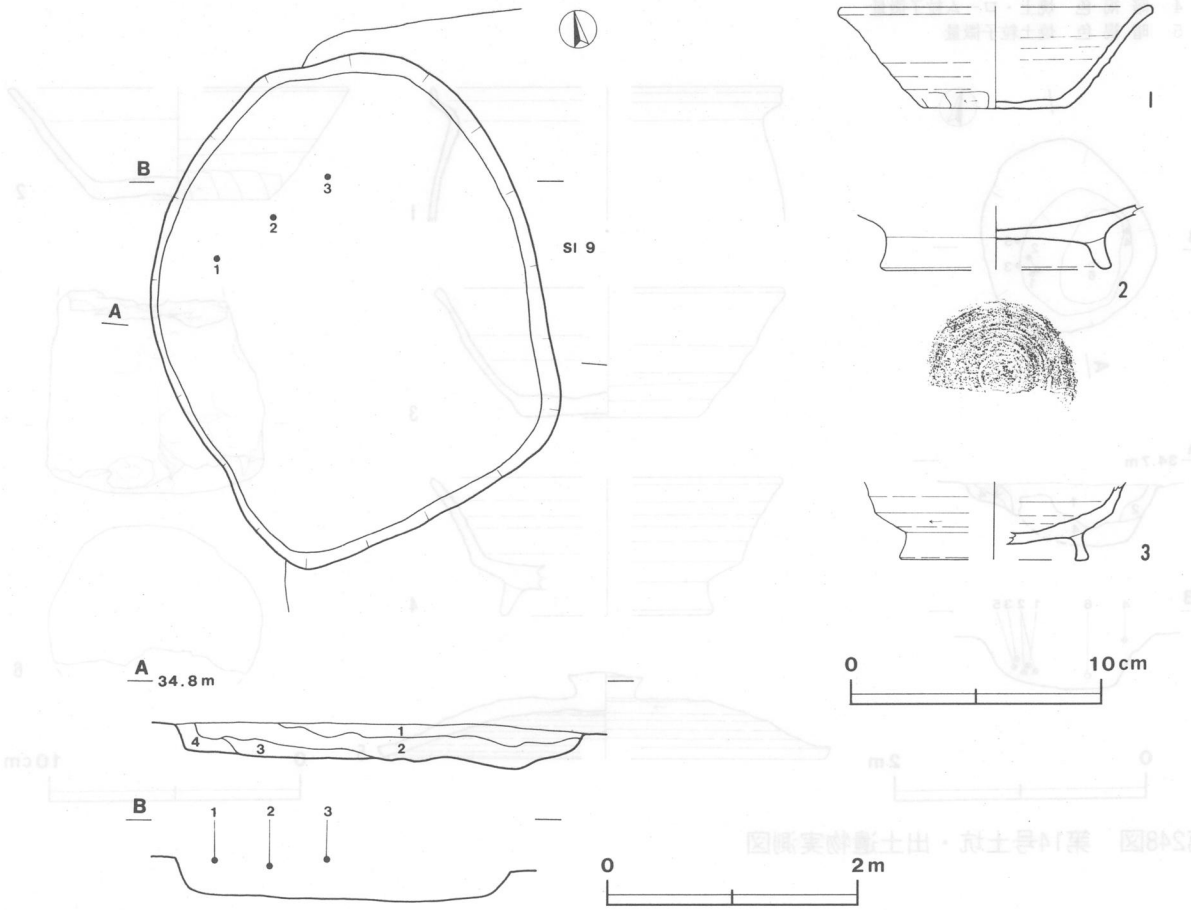
底面　平坦である。

覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片28点，須恵器片23点が出土している。第247図１の須恵器坏，２・３の須恵器高台付坏はともに北部の覆土上層から出土している。

所見　本跡は第９号住居跡（８世紀前葉）を掘り込んでおり，８世紀前葉以降のものである。



第247図　第12号土坑・出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第247図 1	坏 須恵器	A〔12.2〕 B　4.0 C　5.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 良好	P615 40% 覆土上層
2	高台付坏 須恵器	B（2.5） D〔9.0〕 E　1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・雲母 灰色 普通	P616 20% 覆土上層
3	高台付坏 須恵器	B（3.1） D〔7.4〕 E　1.1	高台部から体部片。体部は直線的に外傾する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P617 20% 覆土上層

第14号土坑（第248図）

位置　調査区の北西部，C4b8区。

規模と平面形　長径1.50m，短径1.35mの不整楕円形で，深さ41cmである。

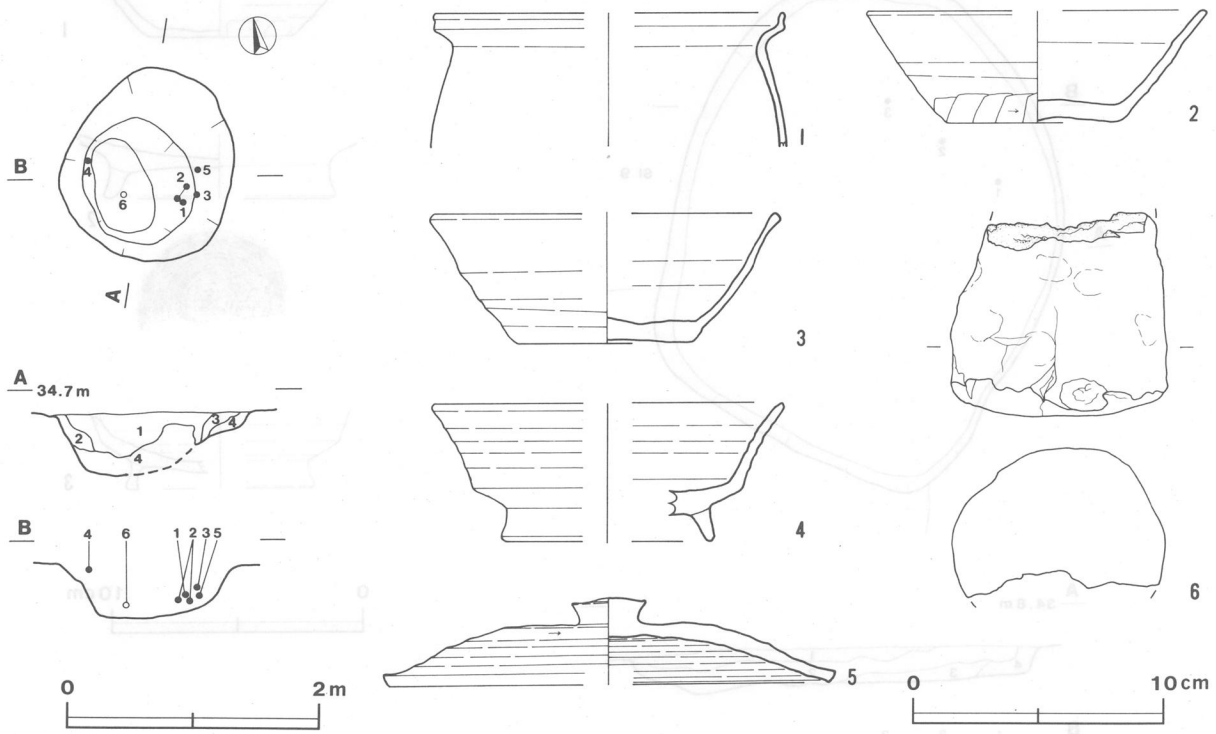
長径方向　N－41°－E

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　平坦である。

覆土　5層からなり，不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
2　黒褐色　焼土・炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土・ローム粒子微量
4　暗褐色　焼土・ローム粒子微量
5　暗褐色　焼土粒子微量



第248図　第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第248図 1	甕 土師器	A〔14.0〕 B（5.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P618 20% 覆土下層
2	坏 須恵器	A〔13.4〕 B 4.5 C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P619 60%　PL35 覆土下層
3	坏 須恵器	A〔13.7〕 B 5.1 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P620 40% 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A〔14.0〕 B 5.6 D〔8.4〕 E 0.8	高台部から口縁部片。高台部は短く「ハ」の字状に開く。体部は外反し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P621 30% 覆土下層
5	蓋 須恵器	A〔18.2〕 B 3.5 F 3.0 G 1.0	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P622 50%　PL34 覆土下層

図版番号	器　種	計測値			出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
6	土製支脚	8.8	(8.3)	(387.1)	覆土下層	DP135

遺物　土師器片70点，須恵器片59点が覆土下層を中心に出土している。第248図1の土師器甕，2・3の須恵器坏，5の須恵器蓋はいずれも東部の覆土下層から出土している。4の須恵器高台付坏は西部の覆土下層から出土している。6の土製支脚は中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第16号土坑（第249図）

位置　調査区の北西部，B4i8区。

規模と平面形　径0.85m前後の不整円形で，深さ30cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

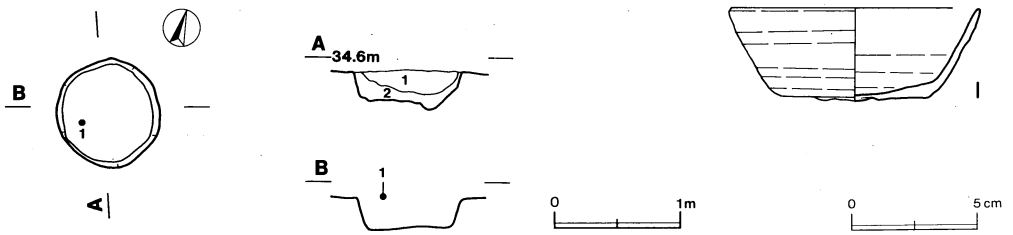
底面　平坦である。

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片2点，須恵器片1点が出土している。第249図1の須恵器坏は西部の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から8世紀末葉と思われる。



第249図　第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第249図 1	坏 須恵器	A 7.8 B 3.7 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 良好	P623 80% 覆土上層

第45号土坑（第250図）

位置　調査区の北西部，C6g3区。

規模と平面形　長径3.10m，短径2.44mの不整楕円形で，深さ66cmである。

長軸方向　N－45°－W

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

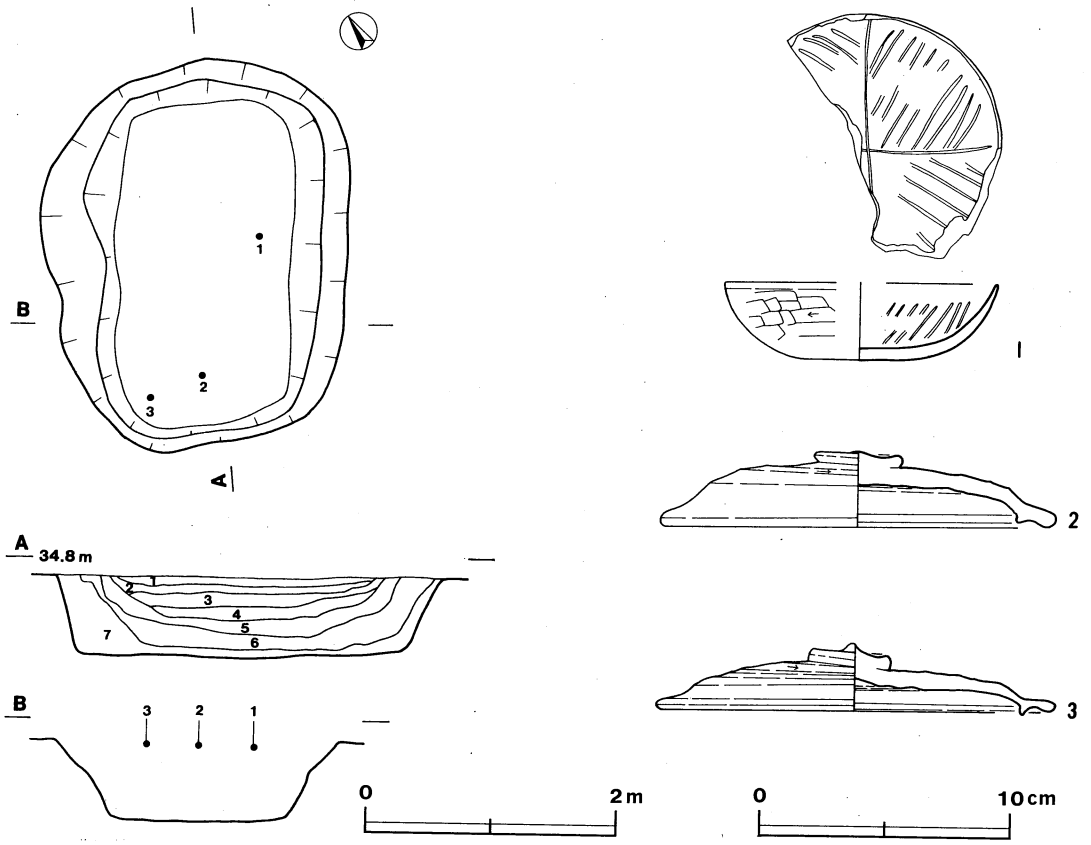
底面　平坦である。

覆土　7層からなり，水平堆積をしていることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　炭化・ローム粒子少量，炭化物・ローム小ブロック微量
2　黒褐色　炭化材・炭化物中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　色　炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量，炭化材微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
7　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片4点，須恵器片2点が出土している。第250図1の土師器坏は東部から，2・3の須恵器蓋は西部から，いずれも覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から7世紀末葉と思われる。



第250図　第45号土坑・出土遺物実測図

第45号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 1	坏 土師器	A〔11.0〕 B 3.1 C 4.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ,外面ヘラ削り。体部内面に暗文。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P625 50% 覆土上層
2	蓋 須恵器	A 15.5 B 3.0 F 3.5 G 0.6	天井部から口縁部片。天井部外面にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P626 90% 覆土上層 PL35
3	蓋 須恵器	A 16.0 B 2.7 F 3.4 G 1.1	天井部から口縁部片。天井部外面にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し，口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 ・スコリア にぶい黄橙色 普通	P627 80% 覆土上層 PL35

第48号土坑（第251図）

位置　調査区の西部，D6c5区。

重複関係　本跡は第34号住居跡を掘り込んでいることから，第34号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長径1.17m，短径（0.81）mの不整楕円形で，深さ40cmである。

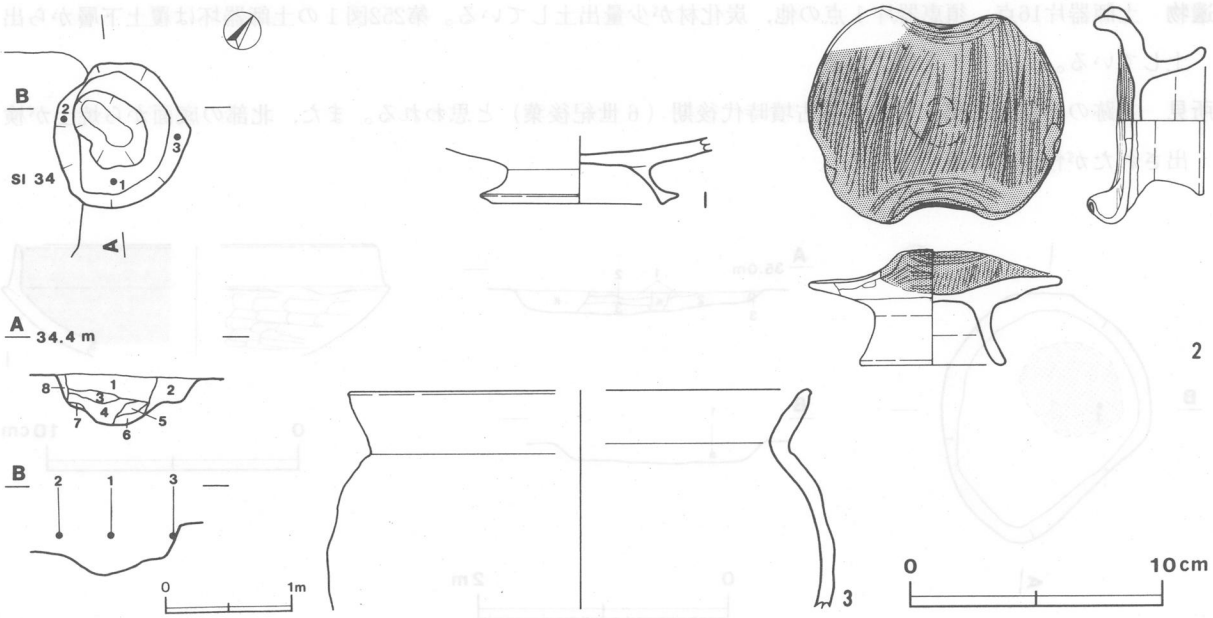
長径方向　N－31°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　皿状である。

覆土　8層からなり，不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　炭化・ローム粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗褐色　炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　炭化材・炭化物・炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　色　炭化・ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量



第251図　第48号土坑・出土遺物実測図

第48号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	高台付坏 土師器	B 2.7 D 8.0 E 1.5	高台部片。高台は「ハ」の字状に開き，端部は水平方向につまみ出されている。	底部切り離し後，高台貼り付け。	雲母 にぶい橙色 普通	P628 20% 覆土上層
2	耳皿 土師器	A 10.1 B 4.6 D 5.8 E 2.3	口縁部一部欠損。高台は高く「ハ」の字状に開く。口縁部は向かい合う2か所が内側に折り返されている。	体部内面ヘラ磨き後，黒色処理。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P629 95% 覆土上層 PL35
3	甕 土師器	A〔18.2〕 B(8.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P630 20% 覆土上層

遺物　土師器片4点，須恵器片1点が出土している。第251図1の土師器高台付坏は南壁際，2の土師器耳皿は西壁際，3の土師器甕は北東部の，いずれも覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀中葉と思われる。

第53号土坑（第252図）

位置　調査区の東部，C8j7区。

規模と平面形　長径2.0m，短径1.67mの不整楕円形で，深さ20cmである。

長径方向　N－6°－E

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

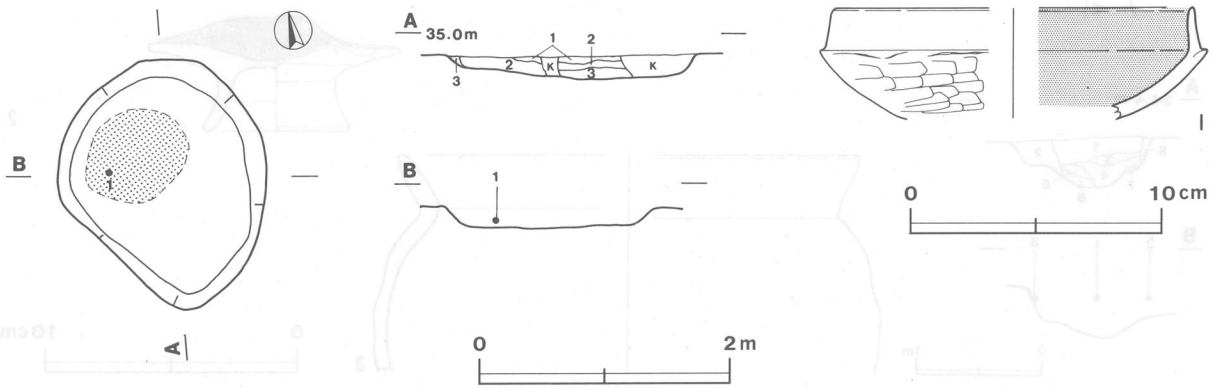
底面　平坦である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量
3　褐　色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片16点，須恵器片1点の他，炭化材が少量出土している。第252図1の土師器坏は覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（6世紀後葉）と思われる。また，北部の底面から焼土が検出されたが性格等は不明である。



第252図　第53号土坑・出土遺物実測図

第53号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第252図 1	坏 土師器	A〔14.2〕 B(4.4)	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア 橙色 普通	P632 30% 覆土下層

第54号土坑（第253図）

位置　調査区の東部，D9c1区。

重複関係　本跡は第9号溝を掘り込んでおり，第9号溝よりも新しい。

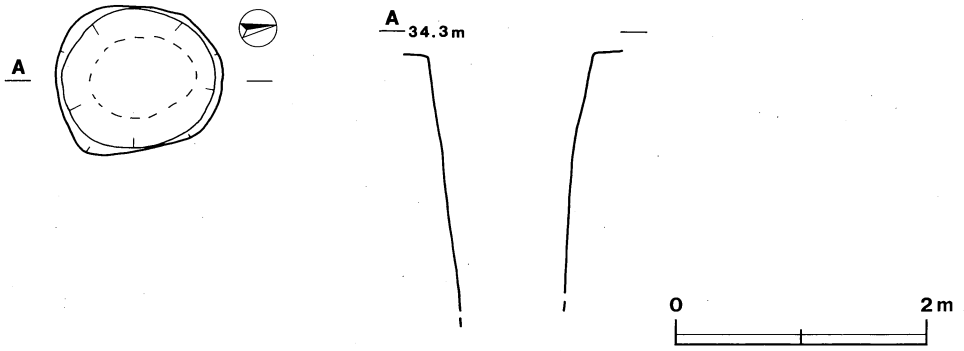
規模と平面形　長径1.36m，短径1.16mの不整楕円形である。なお，下位になるにしたがって径が小さくなり，掘り込みが不可能なため，確認面から2mまでしか調査できなかった。

長径方向　N－7°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

遺物　土師器片5点が出土したが，破片である。この他，馬歯が検出された。

所見　本跡の時期は，限定できる遺物がなく，不明である。また，本跡の覆土上層から馬歯が検出されたが，土坑の性格を示唆するものであるかどうか不明である。



第253図　第54号土坑実測図

第99号土坑（第254図）

位置　調査区の西部，D4f0区。

重複関係　本跡は第6号溝を掘り込んでおり，また第92号土坑に掘り込まれていることから，第6号溝よりも新しく，第92号土坑よりも古い。

規模と平面形　長径〔2.74〕m，短径1.38mの〔長方形〕で，深さ28cmである。

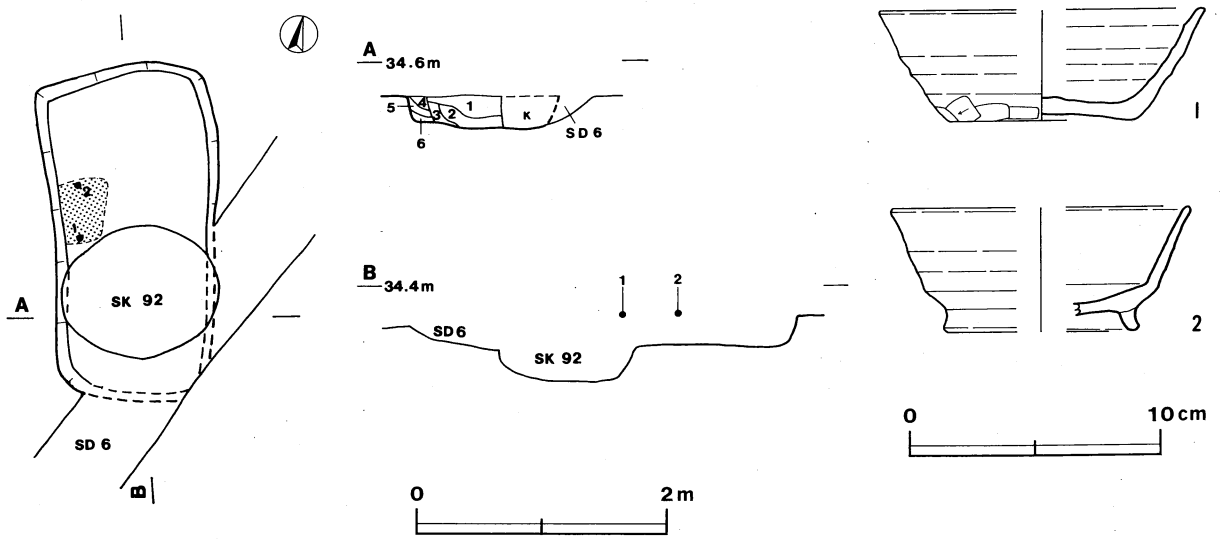
長径方向　N－12°－W

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　平坦である。

覆土　6層からなり，不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土少量，炭化物微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土・焼土小ブロック・灰少量，炭化物微量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック少量，炭化物微量
4　暗褐色　炭化物・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　極暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量



第254図　第99号土坑・出土遺物実測図

第99号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第254図 1	坏 須恵器	A〔12.8〕 B 4.5 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P633 50% 覆土上層
2	高台付坏 須恵器	A〔11.8〕 B 5.0 D〔7.5〕 E 1.0	高台部から口縁部片。高台は短めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，高台貼り付け。	長石・雲母 暗灰黄色 良好	P634 20% 覆土上層

遺物　土師器片130点，須恵器片51点の他，炭化材が少量出土している。第254図1の須恵器坏，2の須恵器高台付坏はともに覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。西部から焼土が検出されたが性格等は不明である。

第102号土坑（第255図）

位置　調査区の東部，E9io区。

重複関係　本跡は第54号住居跡を掘り込んでおり，第54号住居跡よりも新しい。

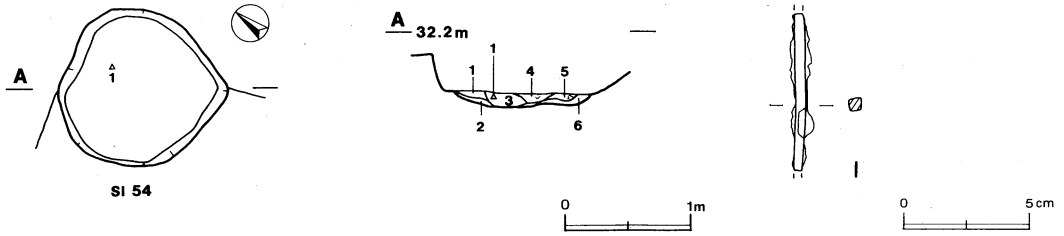
規模と平面形　径1.32m前後の不整円形で，深さ36cmである。

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　皿状である。

覆土　焼土・炭化粒子，ロームブロックを含んでおり，また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム大・小ブロック中量，炭化・ローム粒子少量
3　暗褐色　炭化材中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



第255図　第102号土坑・出土遺物実測図

第102号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第255図1	鉄　鏃	(6.3)	0.4	0.5	(11.0)	覆土下層	M79

遺物　土師器片４点，須恵器片１点の他，鉄製品が１点が出土している。第255図１の鉄鏃は北部の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，時期を限定できる遺物がなく不明である。

第132号土坑（第256図）

位置　調査区の東部，E8e6区。

規模と平面形　長径1.10m，短径0.90mの不整楕円形で，深さ10cmである。

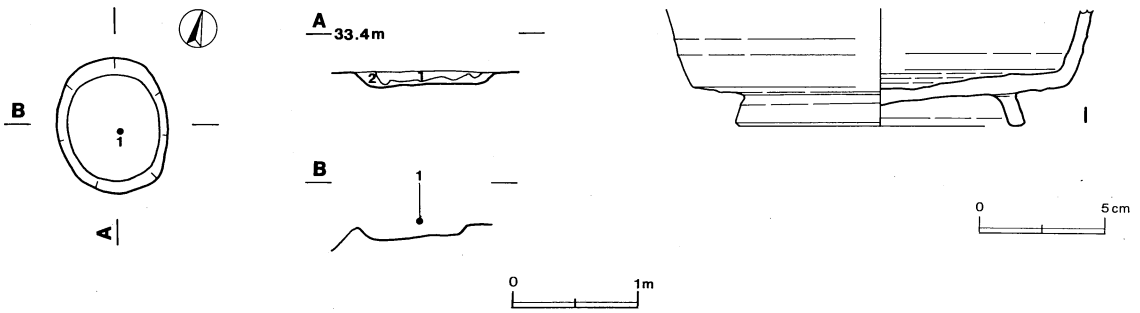
長径方向　N－21°－W

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　平坦である。

覆土　２層からなる自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　炭化物・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量



第256図　第132号土坑・出土遺物実測図

第132号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第256図1	高台付坏 須恵器	B(4.7) D 11.4 E 1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後，高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P636 40% 覆土上層

遺物　須恵器片１点が出土している。第256図１の須恵器高台付坏は中央部の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀前葉と思われる。

第134号土坑（第257図）

位置　調査区の北西部，E9d2区。

規模と平面形　長径1.84m，短径1.44mの不整楕円形で，深さ48cmである。

長径方向　N－3°－E

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

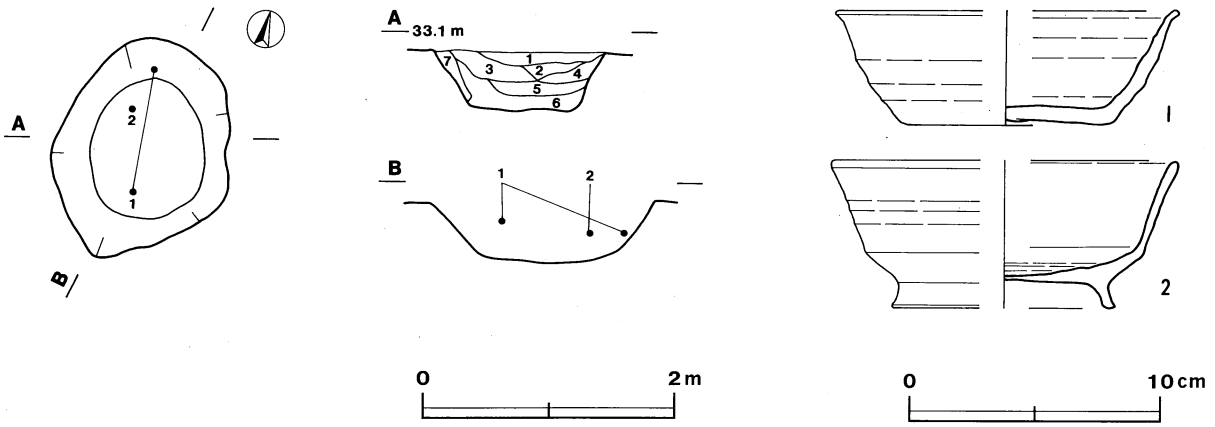
底面　平坦である。

覆土　焼土粒子・炭化物・ローム粒子等を含んでおり，また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
2　黒 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子微量
3　極暗褐色　焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土少量，ローム粒子微量
4　黒 褐 色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
5　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土少量，炭化物・ローム粒子微量
6　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化物微量
7　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　土師器片59点，須恵器片35点の他，鉄滓50ｇが出土している。第257図１の須恵器坏，２の須恵器高台付坏はともに覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。



第257図　第134号土坑・出土遺物実測図

第134号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第257図 1	坏 須恵器	A〔13.6〕 B 4.6 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。口縁端部は短く外反する。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P684 40% 覆土中層
2	高台付坏 須恵器	A〔13.8〕 B 5.9 D〔8.8〕 E 1.0	高台部から口縁部片。高台は短めで「ハ」の字状に開く。体部は外反する。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後，高台貼り付け。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P685 40% 覆土中層

第135号土坑（第258図）

位置　調査区の東部，E9e1区。

規模と平面形　径0.74mの不整円形で，深さ25cmである。

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

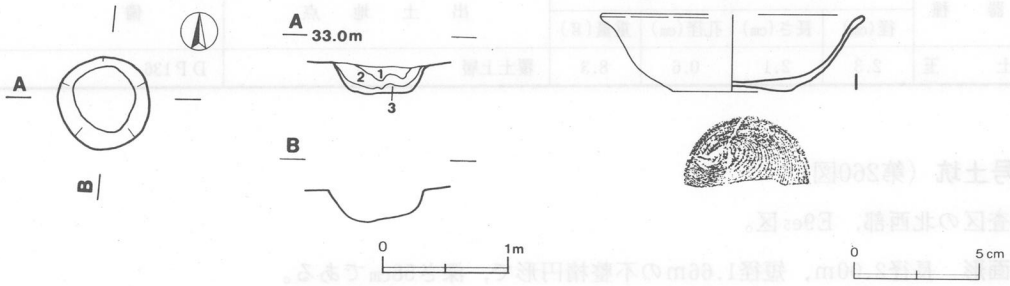
底面　平坦である。

覆土　3層からなり，焼土粒子・炭化物・ロームブロック等を含み，また不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子中量，炭化物少量
2　黒褐色　焼土粒子中量，炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物　土師器片61点が出土しているが，破片が多い。第258図1の土師器坏は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代（10世紀前葉）と思われる。



第258図　第135号土坑・出土遺物実測図

第135号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	坏 土師器	A〔10.4〕 B 3.0 C 4.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。口縁端部わずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P637 40% 覆土中

第137号土坑（第259図）

位置　調査区の北西部，E9e2区。

規模と平面形　長径0.80m，短径0.68mの不整楕円形で，深さ39cmである。

長径方向　N－2°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

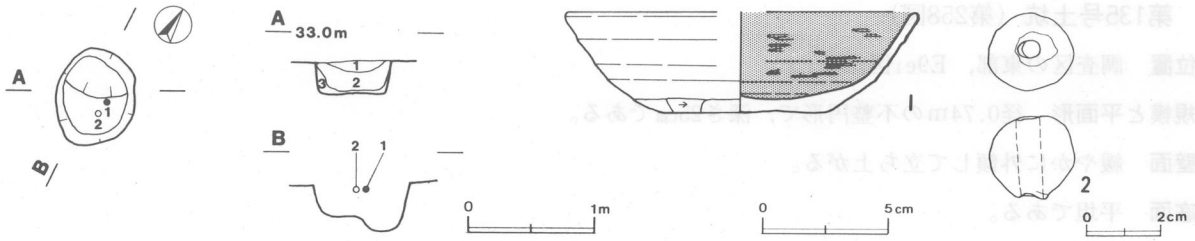
底面　凹凸がある。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　色　炭化物少量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量

遺物　土師器片1点が出土している。第259図1の土師器坏，2の土玉はともに覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第259図　第137号土坑・出土遺物実測図

第137号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第259図 1	坏 土師器	A〔14.0〕 B　4.1 C　6.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。体部内面ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P638 60% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	土　玉	2.3	2.1	0.6	8.3	覆土上層	DP136

第140号土坑（第260図）

位置　調査区の北西部，E9e5区。

規模と平面形　長径2.00m，短径1.66mの不整楕円形で，深さ58cmである。

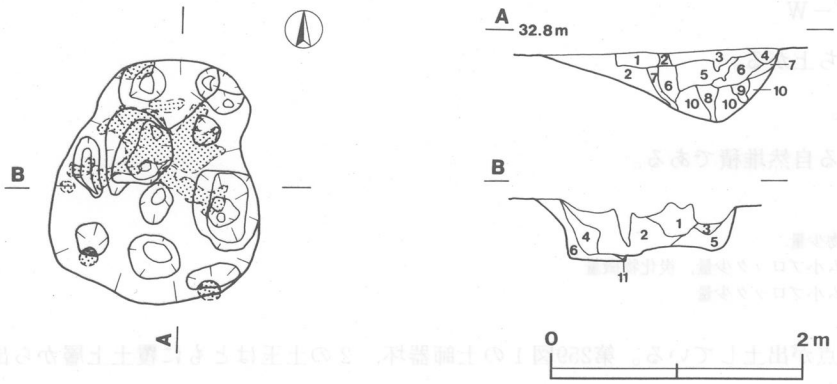
長径方向　N－14°－E

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　皿状である。

覆土　11層からなり，不規則な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　炭化物少量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
4　極暗褐色　焼土粒子少量，炭化物微量
5　赤褐色　ローム粒子少量
6　赤褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
8　褐　色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量
10　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　暗赤褐色　焼土・炭化・ローム粒子微量



第260図　第140号土坑実測図

遺物　出土していない。

所見　本跡内から焼土が多量に検出されたが，性格等は不明である。本跡は出土遺物がなく，時期不明である。

第165号土坑（第261図）

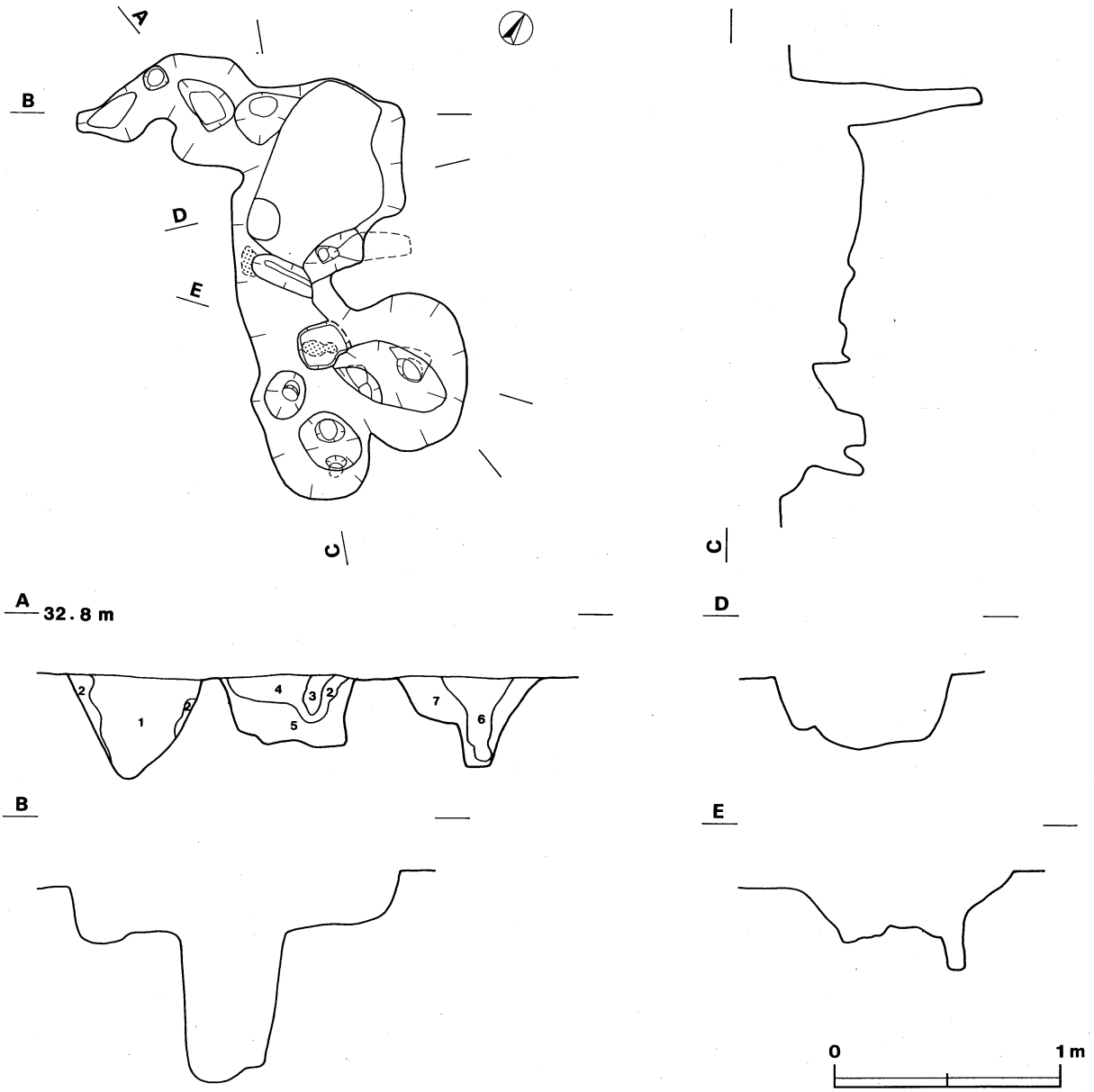
位置　調査区の東部，E9h2区。

規模と平面形　長径2.10m，短径0.44mの不定形，深さ90cmである。

長径方向　N－66°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　凹凸がある。



第261図　第165号土坑実測図

覆土　7層からなり，不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗赤褐色　炭化物中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　焼土粒子・炭化物中量，ローム小ブロック・砂質粘土少量
4　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7　褐　　色　ローム中ブロック多量，ローム粒子中量

遺物　土師器片1点の他，鉄滓3.5kgが出土している。

所見　本跡の時期は，限定できる遺物がなく不明である。

第166号土坑（第262図）

位置　調査区の東部，E9g_2区。

重複関係　本跡は第64号住居跡を掘り込んでおり，第64号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長径1.42m，短径〔0.98〕mの〔楕円形〕，深さ38cmである。

長径方向　N－14°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

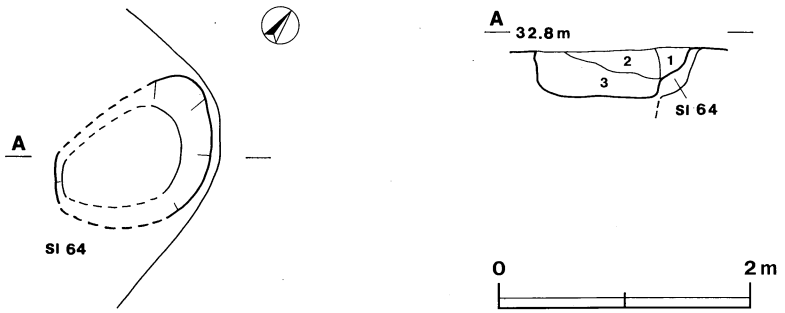
底面　平坦である。

覆土　3層からなり，不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒色　　砂質粘土中量，焼土粒子・炭化物少量
2　黒褐色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
3　黒色　　鉄滓多量，炭化物中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量

遺物　鉄滓9.7kgが出土している。

所見　本跡は覆土中から鉄滓が多量（9.7kg）に出土している。付近に鍛冶工房跡があり，それに関連する遺構の可能性もある。本跡の時期は，限定できる遺物がなく不明である。



第262図　第166号土坑実測図

第167号土坑（第263図）

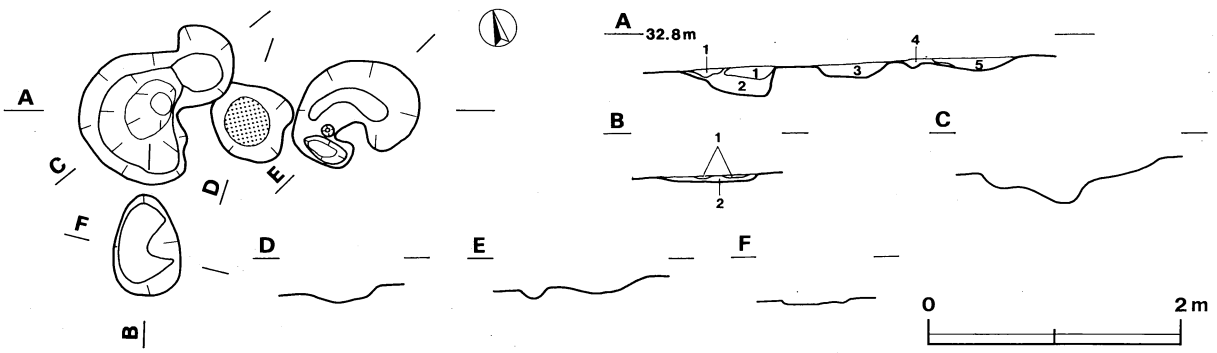
位置　調査区の南部，E7h_5区。

規模と平面形　長径2.72m，短径1.94mの不定形，深さ23cmである。

長径方向　N－74°－W

壁面　緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　凹凸がある。



第263図　第167号土坑実測図

覆土　5層からなり，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子等を含む不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　鉄滓中量，焼土・炭化・ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　赤 褐 色　焼土粒子多量・砂中量
4　明 褐 色　ローム粒子多量，焼土小ブロック少量
5　褐　　色　炭化・ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物　鉄滓4.5kgが出土している。

所見　本跡は平面形が不定形であり，また遺物も出土していないが，中央部から焼土が検出され，さらに遺構全体から鉄滓が4.5kg出土しているところから，第166号土坑と同じように鍛冶工房跡に関連する遺構の可能性がある。本跡の時期は，出土遺物がなく不明である。

第168号土坑（第264図）

位置　調査区の東部，E9h2区。

重複関係　本跡は第64号住居跡を掘り込んでおり，第64号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長径1.74m，短径1.24mの楕円形，深さ52cmである。

長径方向　N－52°－E

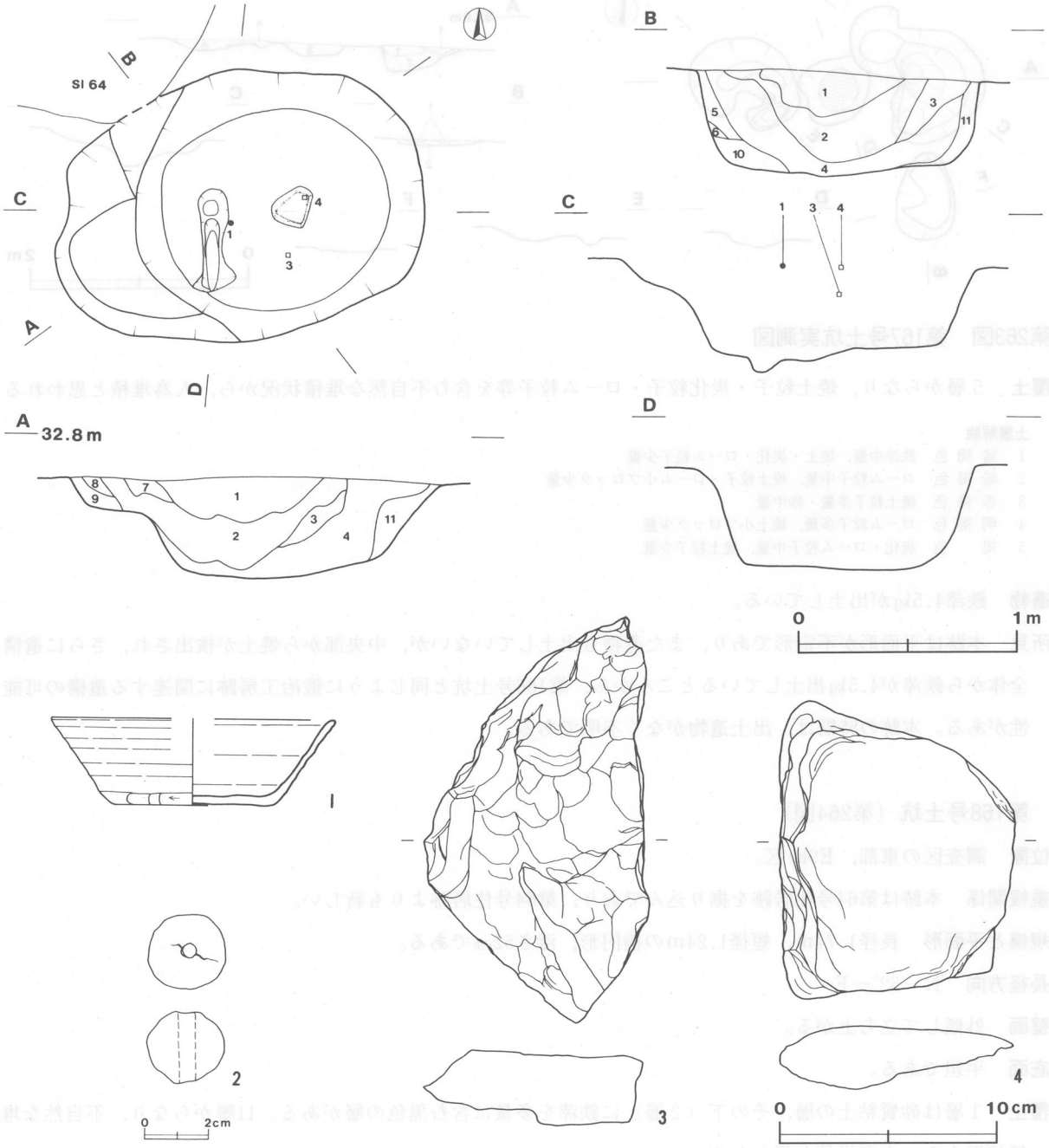
壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦である。

覆土　1層は砂質粘土の層，その下（2層）に鉄滓を多量に含む黒色の層がある。11層からなり，不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　灰 褐 色　砂質粘土多量，焼土粒子・炭化物微量
2　黒 褐 色　砂質粘土中量，焼土粒子少量，鉄滓を含む
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化物・ローム小ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　黒 褐 色　砂質粘土中量，炭化物微量
8　黒　　色　炭化物・ローム粒子少量
9　黒　　色　炭化物少量・焼土粒子微量
10　黒 褐 色　ローム小ブロック少量
11　褐　　色　ローム粒子中量

遺物　土師器片90点，須恵器片13点，雲母片岩等6点，鉄滓10.2kg，炭化材等が出土している。第264図1の須恵器坏は中央部の覆土上層から，2の土玉は覆土中から，3・4の石は中央部の覆土上層から出土している。



第264図　第168号土坑・出土遺物実測図

第168号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第264図 1	坏 須恵器	A〔13.0〕 B　4.0 C　7.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P648 50% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	土　玉	2.4	2.2	0.5	10.3	覆土中	DP140

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第264図3	石	(18.7)	(10.4)	3.2	(838.9)	雲母片岩	覆土上層	Q41
4	石	(13.8)	(10.9)	2.9	(506.4)	雲母片岩	覆土上層	Q42

所見　本跡は1層が砂質粘土の層，2層が鉄滓を含む黒色の層，3層以下も焼土や炭化物を含んでいる。また鉄滓も多量に出土していることから，鍛冶工房跡に関連する遺構の可能性が高い。本跡の時期は，出土遺物等から8世紀代のものと思われる。

表4　木工台遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	$B5_{a6}$	N-18°-E	楕円形	1.85×1.22	22	外傾	平坦	自然		
2	$C4_{b7}$	N-4°-E	〔楕円形〕	1.67×(1.07)	30	外傾	平坦	自然	須恵器片10	本跡→SK-13
3	$C4_{b8}$		円　形	1.04×1.02	30	外傾	平坦	自然	土師器片6，須恵器片19	
4	$C4_{a9}$	N-18°-E	楕円形	1.20×1.03	46	外傾	平坦	自然	土師器片52，須恵器片2，土製品1	
5	$A4_{j0}$	N-38°-E	楕円形	0.73×0.61	30	外傾	平坦	人為		
6	$B4_{g8}$	N-65°-W	楕円形	1.42×0.60	14	外傾	平坦	自然	土師器片1，須恵器片2	
7	$B4_{h6}$		円　形	0.93×0.92	26	外傾	平坦	自然	土師器片5，須恵器片1	
8	$B4_{h6}$		円　形	0.82×0.81	22	外傾	平坦	自然	土師器片6，須恵器片2	
9	$B4_{i4}$		円　形	1.19×1.08	33	外傾	平坦	自然	土師器片9	
10	$B4_{h8}$	N-78°-W	楕円形	2.08×1.32	28	外傾	平坦	自然	土師器片30，須恵器片8	
11	$B4_{j6}$	N-68°-W	楕円形	3.00×1.36	27	外傾	凹凸	人為	土師器片30，須恵器片22	
12	$C5_{a1}$	N-8°-E	楕円形	3.78×3.12	72	緩斜	平坦	自然	土師器片28，須恵器片23	SI-9→本跡
13	$C4_{a7}$	N-33°-W	楕円形	1.96×1.37	38	外傾	平坦	自然	土師器片111，須恵器片37，土製品1	SK-2→本跡
14	$C4_{b8}$	N-41°-E	楕円形	1.50×1.35	41	緩斜	平坦	人為	土師器片70，須恵器片59，土製支脚1	
15	$C4_{a8}$		円　形	1.04×0.97	50	外傾	凹凸	自然	土師器片9，須恵器片1	
16	$B4_{i8}$		円　形	0.87×0.80	30	外傾	平坦	自然	土師器片2，須恵器片1	
17	$B4_{j9}$		円　形	0.60×0.60	34	外傾	凹凸	自然		
18	$C4_{c9}$	N-49°-E	〔楕円形〕	1.27×〔1.10〕	42	外傾	皿状	自然	土師器片2	SI-10→本跡
19	$D6_{b0}$	N-8°-E	〔楕円形〕	(5.36)×1.60	8	外傾	平坦	自然		本跡→SD-4
20	$B4_{i9}$		円　形	0.93×0.85	30	外傾	平坦	自然		
21	$B4_{h9}$		円　形	0.95×0.86	27	外傾	平坦	自然		
22	$C5_{d2}$	N-16°-W	〔楕円形〕	(2.30)×1.05	18	外傾	平坦	自然	土師器片8	本跡→SI-16
23	$C5_{b5}$	N-56°-E	不定形	1.23×0.67	22	外傾	平坦	人為	土師器片3	
24	$C5_{c5}$		円　形	0.83×0.76	12	外傾	平坦	自然		
25	$C5_{c5}$	N-34°-E	楕円形	1.01×0.73	62	外傾	平坦	人為	土師器片10，須恵器片1	
26	$C5_{d6}$	N-77°-W	楕円形	2.12×1.20	18	外傾	平坦	自然		
27	$C5_{d7}$	N-69°-E	楕円形	1.29×1.08	20	外傾	平坦	自然	土師器片3，須恵器片1	
28	$C5_{f6}$		円　形	1.05×0.97	18	外傾	平坦	自然	土師器片7，須恵器片2	
29	$C5_{f5}$	N-49°-E	楕円形	1.33×1.08	20	外傾	皿状	自然	土師器片1，須恵器片1	
30	$C5_{f4}$	N-2°-W	楕円形	1.22×1.08	72	外傾	平坦	人為		
31	$C5_{f4}$	N-74°-W	楕円形	1.00×0.87	25	外傾	平坦	人為	土師器片4	
32	$C5_{f4}$	N-73°-E	楕円形	1.83×1.24	18	外傾	平坦	自然		
33	$D6_{b7}$	N-38°-W	楕円形	1.75×0.86	44	外傾	皿状	自然		
34	$E9_{a5}$		円　形	0.67×0.66	20	外傾	皿状	自然	土師器片1，須恵器片1	
35	$C5_{h8}$	N-62°-W	楕円形	1.07×0.53	13	外傾	皿状	自然	土師器片9	SD-7→本跡

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
38	C5 g0	N-64°-W	楕円形	1.07×0.86	24	外傾	平坦	自然	土師器片5，須恵器片11	
39	C5 g0		円　形	1.10×1.05	28	外傾	平坦	自然	土師器片13，須恵器片9	
40	C6 h1	N-77°-W	楕円形	1.41×0.99	40	外傾	平坦	自然		
41	C6 a1	N-22°-W	楕円形	0.89×0.79	23	外傾	皿状	自然		
42	C6 b2		円　形	0.98×0.98	52	外傾	平坦	自然		
43	B4 j7	N-32°-E	楕円形	1.08×0.98	44	外傾	皿状	自然	土師器片8，須恵器片3	
44	D6 b3	N-38°-W	楕円形	0.74×0.66	11	外傾	皿状	自然		
45	C6 g3	N-45°-W	楕円形	3.10×2.44	66	緩斜	平坦	人為	土師器片4，須恵器片2	
46	C6 h9	N-58°-E	楕円形	2.00×0.97	46	外傾	皿状	自然		
47	C7 h1	N-39°-W	楕円形	1.71×0.78	32	外傾	皿状	自然		
48	D6 c5	N-31°-W	〔楕円形〕	1.17×(0.81)	40	外傾	皿状	人為	土師器片4，須恵器片1	SI-34→本跡
49	C7 f1	N-40°-W	楕円形	1.71×0.78	32	外傾	皿状	自然		
50	E9 j0		円　形	0.88×0.88	36	外傾	平坦	自然	土師器片1	SI-55→SI-54→本跡
51	D9 a8		円　形	1.18×0.94	96	外傾	平坦	自然	土師器片6，須恵器片2	SI-22→本跡
53	C8 j7	N-6°-E	楕円形	2.00×1.67	20	緩斜	平坦	自然	土師器片16，須恵器片1	
54	D9 c1	N-7°-E	楕円形	1.36×1.16	(200)	外傾	不明	不明	土師器片5，馬歯	SD-9→本跡
55	D9 d3	N-76°-W	不定形	1.88×1.14	36	外傾	皿状	人為		
56	D8 h7	N-3°-W	楕円形	1.48×0.78	36	外傾	平坦	自然		
59	D6 i0	N-83°-W	楕円形	0.96×0.60	30	外傾	平坦	自然		
60	E6 a0	N-2°-E	楕円形	0.98×0.82	34	外傾	皿状	自然		
62	E6 a0		円　形	0.65×0.58	56	外傾	凹凸	自然		
63	E7 c9		円　形	0.84×0.74	17	外傾	凹凸	自然		
64	E7 c9		円　形	0.82×0.80	20	外傾	皿状	自然		
65	E8 e3	N-12°-E	楕円形	1.46×1.04	26	外傾	皿状	自然		
66	E8 e2		円　形	0.93×0.84	20	外傾	皿状	自然		
67	E8 c4		円　形	0.76×0.68	13	外傾	皿状	自然		
68	E8 c4		円　形	1.00×0.86	20	外傾	皿状	自然		
69	E8 c1	N-62°-W	楕円形	0.90×0.64	64	外傾	皿状	人為		
70	E8 e1		円　形	1.00×1.06	20	外傾	平坦	自然		
71	E8 e1	N-5°-E	楕円形	1.58×0.96	44	外傾	凹凸	自然		
72	E7 f0	N-37°-E	楕円形	0.94×0.73	30	外傾	皿状	自然		
73	E7 g0		円　形	0.74×0.73	20	外傾	皿状	自然		
74	E7 g9	N-6°-E	楕円形	0.68×0.57	89	外傾	平坦	人為		
75	E8 h1	N-22°-W	楕円形	1.60×1.04	60	外傾	平坦	人為	土師器片1	
76	E8 h2		円　形	1.33×1.27	33	外傾	皿状	人為		
78	E7 f4	N-68°-W	楕円形	1.60×0.39	25	外傾	平坦	人為		
79	E7 g6		円　形	0.76×0.69	25	外傾	皿状	自然		
80	E7 i5	N-3°-E	楕円形	1.22×0.91	20	外傾	皿状	自然		
81	F7 c9		円　形	0.49×0.49	40	外傾	平坦	自然		SI-101→SD-25→本跡
82	E7 g3	N-81°-E	楕円形	1.00×0.80	15	外傾	皿状	自然		
83	E7 g3	N-83°-W	楕円形	1.00×0.80	13	外傾	平坦	自然		
84	E6 b8	N-49°-E	〔楕円形〕	(2.93)×0.93	72	外傾	凹凸	人為		
85	E6 c8	N-25°-E	楕円形	3.34×0.55	34	外傾	皿状	自然		
86	E6 c9	N-63°-W	楕円形	0.91×0.66	12	外傾	皿状	自然		
87	E6 e0	N-19°-W	楕円形	0.80×0.64	22	外傾	平坦	自然		
90	D5 i1	N-16°-W	〔楕円形〕	(1.23)×(0.66)	60	外傾	凹凸	自然		本跡→SD-33
91	D4 d9	N-12°-W	楕円形	1.01×0.70	18	外傾	平坦	人為	土師器片1，須恵器片2	

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
92	D4 g0	N-75°-E	楕円形	1.26×1.06	26	外傾	皿状	自然	土師器片8，須恵器片3	SD-6→SK-99→本跡
93	E5 b9	N-80°-E	長方形	2.39×2.24	174	垂直	平坦	人為	土師器片13，須恵器片2	SD-17→本跡
94	D5 e7	N-26°-W	〔楕円形〕	(1.34)×(0.91)	52	外傾	凹凸	自然		
95	D5 g4	N-78°-E	楕円形	1.13×0.84	60	外傾	平坦	人為	土師器片1，須恵器片11	
96	D5 i1	N-9°-W	〔長方形〕	2.26×(1.16)	45	外傾	凹凸	自然	土師器片34，須恵器片2	本跡→SD-33
97	D5 e1		円形	1.58×1.42	39	外傾	皿状	人為	土師器片43，須恵器片8	SD-6→本跡
98	D4 e0		円形	1.09×1.03	18	外傾	皿状	自然		
99	D4 f0	N-12°-W	〔長方形〕	〔2.74〕×1.38	28	緩斜	平坦	人為	土師器片130，須恵器片51，炭化材	SD-6→本跡→SK-92
100	D4 f0		円形	0.85×0.85	25	外傾	皿状	自然		
101	F0 b1	N-38°-E	楕円形	1.44×1.07	31	外傾	平坦	人為	須恵器片4	
102	E9 i0		円形	1.37×1.27	36	緩斜	皿状	人為	土師器片4，須恵器片1，鉄鏃1	SI-54→本跡
103	E9 i9		円形	1.71×1.00	30	外傾	皿状	人為	土師器片3，須恵器片4	
104	E9 j9	N-9°-E	楕円形	1.29×1.11	43	外傾	平坦	自然	土師器片5，須恵器片1，鉄滓20g	
105	E9 j8	N-50°-E	楕円形	1.45×1.15	22	外傾	平坦	自然		
106	E9 j6		円形	1.15×1.09	25	外傾	平坦	自然		
107	E9 j5	N-35°-W	〔楕円形〕	〔1.38〕×0.85	76	外傾	平坦	人為	土師器片1	
108	E9 g9		円形	1.07×0.99	27	外傾	皿状	自然	土師器片3	
109	E9 g9		円形	1.50×1.30	48	垂直	平坦	人為	土師器片12，須恵器片6，鉄滓30g	
110	E9 h7		円形	1.31×1.31	45	外傾	皿状	人為	土師器片3	
111	E9 g6	N-75°-W	楕円形	1.55×1.34	48	外傾	皿状	人為		
112	E9 g6	N-47°-W	楕円形	1.23×1.10	43	外傾	皿状	自然	土師器片7	
113	E9 h6	N-58°-E	楕円形	1.50×1.40	20	外傾	平坦	自然	土師器片1	
114	E9 h5		円形	0.80×0.80	50	外傾	凹凸	自然		
115	E9 h5	N-28°-W	楕円形	1.18×1.05	45	外傾	皿状	自然	土師器片2，須恵器片6	
116	E9 g5	N-10°-E	楕円形	1.18×1.03	33	外傾	平坦	自然		
117	E9 h4	N-51°-W	楕円形	1.05×0.80	18	外傾	平坦	自然		
118	E9 f5	N-77°-W	楕円形	2.00×1.55	90	外傾	凹凸	自然	土師器片4，須恵器片1	
119	E9 g5	N-2°-E	楕円形	1.38×1.01	55	外傾	凹凸	自然		
120	E9 h4		円形	0.90×0.90	55	外傾	凹凸	自然		
121	E9 i4	N-12°-W	楕円形	1.80×1.06	30	外傾	平坦	自然	土師器片1	
122	E9 j3	N-67°-W	楕円形	1.72×0.98	26	外傾	皿状	自然		
123	E9 j2	N-87°-W	楕円形	1.36×0.71	86	外傾	皿状	自然		
124	E9 g3		円形	0.45×0.44	33	外傾	平坦	人為		
125	E8 j0	N-59°-W	楕円形	0.68×0.59	28	外傾	平坦	自然		
126	E8 i7		円形	1.05×0.97	26	外傾	皿状	人為		
127	E8 h7		円形	0.86×0.81	17	外傾	平坦	自然		
128	E8 h7	N-54°-E	楕円形	0.57×0.47	20	外傾	平坦	自然		
129	E8 g6	N-79°-E	楕円形	4.85×3.35	184	外傾	凹凸	自然	土師器片52，須恵器片27	
130	E8 i7		円形	1.19×0.96	17	外傾	平坦	自然	土師器片1	
131	E8 f8	N-76°-W	楕円形	1.52×1.35	32	外傾	平坦	自然		
132	E8 e6	N-21°-W	楕円形	1.10×0.90	10	緩斜	平坦	自然	須恵器片1	
133	E8 g7	N-26°-W	楕円形	0.95×0.86	28	外傾	凹凸	人為		
134	E9 d2	N-3°-E	楕円形	1.84×1.44	48	緩斜	平坦	人為	土師器片59，須恵器片35，鉄滓50g	
135	E9 e1		円形	0.74×0.74	25	緩斜	平坦	人為	土師器片61	
136	E9 f2	N-10°-E	楕円形	1.16×0.96	40	外傾	平坦	自然		
137	E9 e2	N-2°-W	楕円形	0.80×0.68	39	外傾	凹凸	自然	土師器片1，土玉1	

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
138	E9g3	N-68°-E	楕円形	1.08×0.62	55	外傾	凹凸	人為	土師器片3	
139	E9g3		円形	1.10×1.06	55	外傾	平坦	自然	土師器片4，鉄滓80g	
140	E9e5	N-14°-E	楕円形	2.00×1.66	58	緩斜	皿状	人為		
141	E9f5		円形	0.96×0.92	32	外傾	凹凸	自然		
142	E9f4	N-86°-E	楕円形	1.42×1.00	55	外傾	平坦	人為	土師器片16，須恵器片2，鉄滓10g	
143	E9f8	N-24°-E	楕円形	1.41×1.11	64	外傾	平坦	人為		
144	E9f9	N-79°-W	楕円形	0.94×0.76	16	外傾	平坦	人為	土師器片1	
145	E9h4		円形	0.70×0.69	20	外傾	平坦	自然		
146	E9h4		円形	0.58×0.53	32	外傾	皿状	自然	土師器片3	
147	E9g3		円形	0.57×0.55	20	外傾	皿状	自然	鉄滓30g	
148	E9e3	N-47°-W	楕円形	1.23×1.02	50	外傾	凹凸	自然		
149	E9f6	N-10°-E	楕円形	0.93×0.83	33	外傾	平坦	自然		
150	E9g5	N-17°-W	楕円形	1.25×1.10	40	外傾	平坦	自然		
152	E9f3	N-52°-W	楕円形	1.16×0.94	70	外傾	平坦	人為	土師器片14，須恵器片3，鉄滓20g	
153	E9f3		円形	0.38×0.38	56	外傾	皿状	人為		
154	E9f4	N-72°-W	楕円形	0.83×0.76	38	外傾	平坦	人為	土師器片3	
155	E9h4		円形	1.17×1.11	45	外傾	皿状	人為		
156	E9h3	N-81°-E	楕円形	1.12×0.95	73	外傾	平坦	人為	土師器片7	
157	E9h3	N-47°-E	楕円形	1.93×1.10	50	外傾	凹凸	人為		
158	E9h3	N-1°-W	〔楕円形〕	〔1.10〕×0.90	46	外傾	凹凸	自然		本跡→SK-159
159	E9h3	N-10°-W	〔楕円形〕	〔1.03〕×0.92	30	外傾	平坦	自然		SK-158→本跡
160	E9h2	N-78°-E	楕円形	0.99×0.82	55	外傾	平坦	人為	鉄滓60g	
161	E9i3	N-80°-W	楕円形	1.64×1.53	64	外傾	平坦	人為		
162	E9g1	N-50°-E	楕円形	1.04×0.94	58	外傾	平坦	自然		SI-64→本跡
163	E9h1	N-3°-W	楕円形	1.00×0.95	81	外傾	皿状	人為	土師器片14，須恵器片2	SI-26→本跡
164	E9h1	N-81°-E	長方形	1.82×0.82	18	外傾	凹凸	自然	土師器片3	SI-26→本跡
165	E9h2	N-66°-W	不定形	2.10×0.44	90	外傾	凹凸	人為	土師器片1，鉄滓3.5kg	
166	E9g2	N-14°-E	〔楕円形〕	1.42×〔0.98〕	38	外傾	平坦	人為	鉄滓9.7kg	SI-64→本跡
167	E7h5	N-74°-W	不定形	2.72×1.94	23	緩斜	凹凸	人為	鉄滓4.5kg	
168	E9h2	N-52°-E	楕円形	1.74×1.24	52	外傾	平坦	人為	土師器片90,須恵器片13,石6,鉄滓10.2kg,土玉1	SI-64→本跡

5　鍛冶工房跡

当遺跡からは調査区の東部，南部で2基の鍛冶工房跡が検出されている。

第1号鍛冶工房跡（第265図）

位置　調査区の東部，E9a4区。

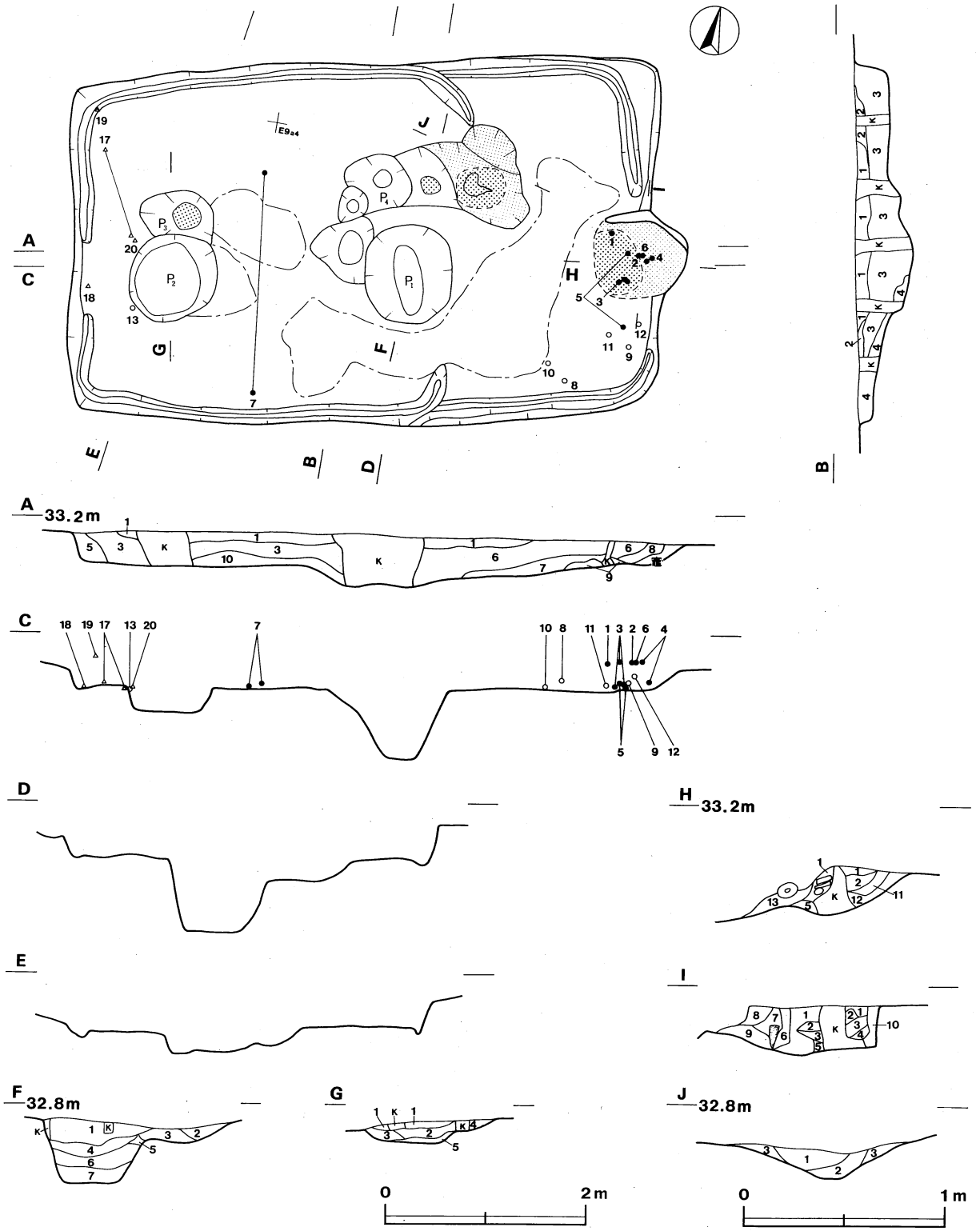
規模と平面形　長軸5.25m，短軸3.60mの長方形である。

主軸方向　N－79°－E

壁　壁高は12～30cmで，外傾して立ち上がる。

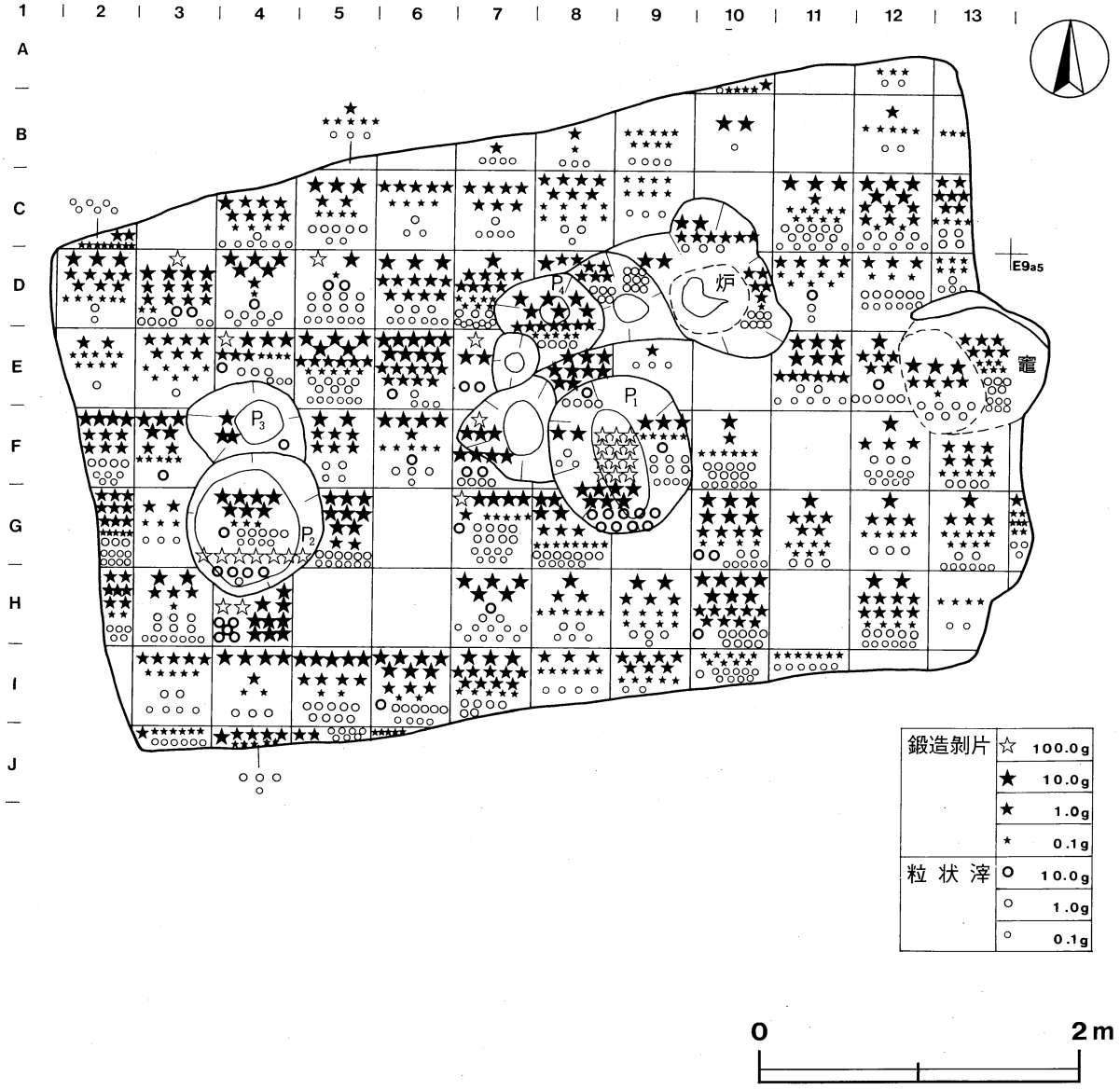
壁溝　確認された壁下には，西壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅14～24cm，下幅4～9cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，南部から竈前面にかけてと，P_2・P_3の東側が踏み固められている。また北壁，南壁から中央部に向かって，長さ40～60cm，上幅20cm，下幅5cm，深さ5cmの掘り込みが2か所検出された。



第265図　第１号鍛冶工房跡実測図

ピット　４か所（P_1 ～ P_4）。P_1 は長径100㎝，短径88㎝の不整楕円形，深さ75㎝，P_2 は長径95㎝，短径85㎝の不整楕円形，深さ23㎝，P_3 は長径76㎝，短径（45）㎝の不整楕円形，深さ18㎝，P_4 は長径〔70〕㎝，短径〔60〕㎝の不整楕円形，深さ28㎝で，いずれも本跡に関わるピットと思われる。



第266図　第１号鍛冶工房跡鍛造剥片・粒状滓出土分布図

表６　鍛造剥片・粒状滓出土状況　　単位(g)

区	鍛造剥片	粒状滓	区	鍛造剥片	粒状滓	区	鍛造剥片	粒状滓	区	鍛造剥片	粒状滓	区	鍛造剥片	粒状滓	区	鍛造剥片	粒状滓
A10	1.4	0.1	C 6	5.4	1.2	D12	3.3	6.6	F 5	26.0	2.2	G12	13.5	3.0	I 6	73.2	16.4
11	—	—	7	7.0	1.4	13	0.6	1.3	6	0.6	1.3	13	13.9	2.6	7	39.5	6.0
12	0.3	0.2	8	7.8	2.1	E 1	—	—	7	—	—	14	1.7	0.3	8	3.6	0.4
B 1	—	—	9	0.8	0.3	2	2.9	1.0	8	20.0	1.2	H 1	—	—	9	7.5	0.2
2	—	—	11	31.9	9.5	3	7.7	1.0	9	30.5	16.4	2	8.2	0.5	10	0.9	1.9
4	—	—	12	56.2	4.5	4	133.4	13.3	10	11.6	9.6	3	23.1	6.7	11	0.7	0.6
5	1.5	0.3	13	7.4	4.0	5	56.6	7.6	12	13.0	3.9	4	290.0	50.0	J 1	—	—
6	—	—	D 2	37.6	1.1	6	99.0	11.3	13	6.5	4.0	7	50.0	12.9	3	1.6	0.6
7	1.0	0.4	3	148.2	24.2	7	120.0	20.0	G 1	—	—	8	12.6	2.3	4	14.5	3.1
8	1.1	0.3	4	51.1	14.3	8	90.0	14.0	2	9.5	3.8	9	23.8	3.1	5	2.0	0.7
9	0.9	0.4	5	110.1	28.6	9	1.0	0.3	3	2.3	0.3	10	79.0	19.0	6	0.5	—
10	2.0	0.1	6	39.0	3.6	11	66.0	2.5	4	73.0	15.4	12	28.4	5.6	P 1	1,270	41.0
12	1.5	0.2	7	18.7	3.7	12	15.0	15.0	5	82.0	6.6	13	0.4	0.2	2	700	41.0
13	0.3	—	8	17.0	5.0	13	6.6	5.6	7	41.5	18.7	I 1	—	—	3	—	—
C 2	2.8	0.6	9	20.0	9.0	F 2	46.0	4.5	8	43.8	7.5	3	5.5	2.4	4	67.5	4.0
4	17.4	1.6	10	5.1	7.0	3	52.5	10.0	10	64.4	22.5	4	41.2	3.0	炉	26.0	3.0
5	32.4	5.2	11	4.7	11.1	4	30.0	10.0	11	15.7	3.0	5	54.2	9.0	竈	34.1	7.0

P1土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土・ローム粒子少量，焼土粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子極微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
7　暗赤褐色　焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量

P2土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子微量，焼土・炭化粒子極微量
2　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量，炭化粒子極微量
3　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量，炭化粒子極微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
5　極暗褐色　焼土・炭化粒子少量，ローム粒子微量

竈　東壁中央部からやや南寄りを壁外に25cmほど半円状に掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，袖部も左袖部の一部が残存するのみである。規模は，焚口部から煙道部までの長さ94cm，最大幅86cmである。火床部は床面とほぼ同じレベルの床面を使用し，赤変している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗 褐 色　焼土・炭化粒子・山砂少量
2　灰 褐 色　山砂多量，焼土・炭化粒子少量
3　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
4　褐　　色　山砂多量，焼土・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗 褐 色　山砂多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗 褐 色　山砂多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　黒 褐 色　山砂多量，焼土大・中・小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子少量
10　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
12　褐　　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　黒 褐 色　炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量

炉　中央から北東寄りに位置し，長径120cm，短径90cmの楕円形で，床面を30cm掘り窪めている。断面形は逆台形である。炉床は赤変硬化している。

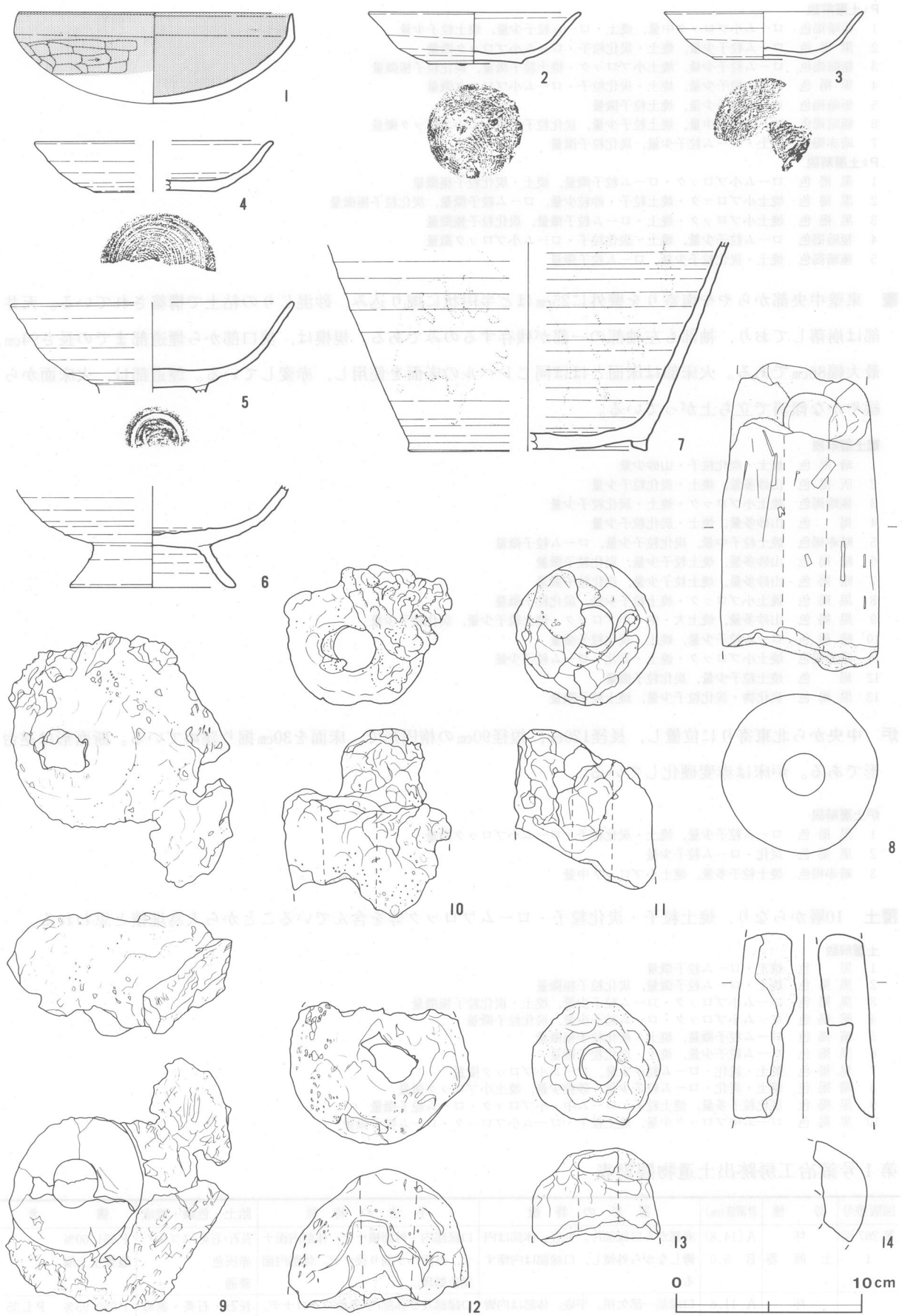
炉土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　黒 褐 色　炭化・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量

覆土　10層からなり，焼土粒子・炭化粒子・ロームブロック等を含んでいることから人為堆積と思われる。

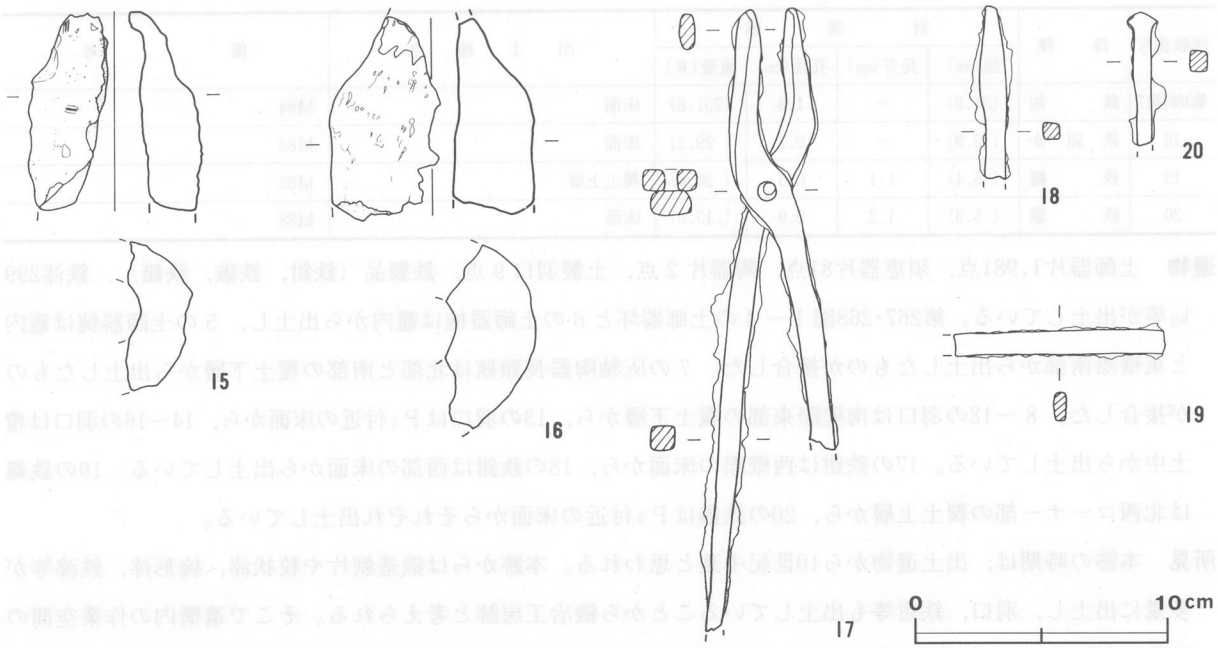
土層解説
1　黒　　色　焼土・ローム粒子微量
2　黒 褐 色　焼土・ローム粒子微量，炭化粒子極微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子極微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子微量，焼土・炭化粒子極微量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8　暗 褐 色　焼土・炭化・ローム粒子少量・砂粒少量，焼土小ブロック微量
9　黒 褐 色　炭化粒子多量，焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
10　黒 褐 色　ローム中ブロック少量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第267図 1	坏 土師器	A〔14.8〕 B　5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。体部内面黒色処理。	長石・石英・スコリア 赤灰色 普通	P651 60% 竈覆土上層
2	坏 土師器	A 11.6 B　2.8 C　5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P650 95%　PL35 竈覆土上層



第267図　第１号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第268図　第１号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第267図 3	坏 土師器	A 10.8 B 2.7 C 5.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P652 70%　PL35 竈覆土下層
4	坏 土師器	A〔12.8〕 B 2.8 C〔6.3〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英 橙色 普通	P653 20% 竈覆土上・下層
5	椀 土師器	A〔15.2〕 B（4.9） E（0.5）	高台部から口縁部片。高台部下端欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内･外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石・石英 橙色 普通	P654 60% 覆土下層
6	椀 土師器	B（5.5） D 8.8 E 2.1	高台部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P655 70% 竈覆土上層
7	長頸瓶 灰釉陶器	B（11.3） D〔12.8〕 E（0.5）	高台部から体部片。高台は短く真下に伸びる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。体部内・外面に施釉。	精良 灰黄色 普通	P656 20% 覆土下層 黒笹14号窯式

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	羽　口	8.4	(16.6)	2.5	(980.0)	覆土下層	DP141
9	羽　口	7.6	(6.6)	2.5	(545.0)	覆土下層	DP142　PL38
10	羽　口	9.1	(10.2)	3.0	(375.0)	覆土下層	DP143　PL38
11	羽　口	7.6	(8.6)	2.1	(330.0)	覆土下層	DP144　PL38
12	羽　口	9.7	(7.8)	3.0	(325.0)	覆土下層	DP145　PL38
13	羽　口	6.9	(5.3)	2.1	(146.3)	床面	DP146　PL38
14	羽　口	7.6	(10.1)	(1.8)	(218.0)	覆土中	DP147
第268図15	羽　口	〔7.0〕	(8.0)	〔2.2〕	(90.1)	覆土中	DP150
16	羽　口	8.2	(7.9)	〔2.2〕	(165.3)	覆土中	DP148

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第268図17	鉄　鉗	(24.9)	－	1.8	(201.8)	床面	M84
18	鉄鉗か	(6.9)	－	0.7	(29.2)	床面	M83
19	鉄　鋌	(8.4)	1.1	0.5	(20.4)	覆土上層	M85
20	鉄　鏃	(5.3)	1.2	0.9	(15.0)	床面	M88

遺物　土師器片1,981点，須恵器片81点，陶器片２点，土製羽口９点，鉄製品（鉄鉗，鉄鏃，鉄鋌），鉄滓299kg等が出土している。第267･268図１～４の土師器坏と６の土師器椀は竈内から出土し，５の土師器椀は竈内と東壁際南部から出土したものが接合した。７の灰釉陶器長頸瓶は北部と南部の覆土下層から出土したものが接合した。８～12の羽口は南壁際東部の覆土下層から，13の羽口はＰ2付近の床面から，14～16の羽口は覆土中から出土している。17の鉄鉗は西壁際の床面から，18の鉄鉗は西部の床面から出土している。19の鉄鋌は北西コーナー部の覆土上層から，20の鉄鏃はＰ3付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀中葉と思われる。本跡からは鍛造剝片や粒状滓，椀形滓，鉄滓等が多量に出土し，羽口，鉄鉗等も出土していることから鍛冶工房跡と考えられる。そこで遺構内の作業空間の配置を明らかにするために覆土を50cm方眼で分割して取り上げ，洗浄したのち鍛造剝片と粒状滓について重さを計測した（第266図）。その結果，鍛造剝片が多く出土しているのはＰ1，Ｐ2，Ｈ４区，Ｆ７区，Ｄ３区等であった。粒状滓が多く出土しているのはＰ1，Ｈ４区，Ｆ７区，Ｄ５区であった。これらから，Ｐ1とＰ2付近に金床があったと考えられる。Ｐ1・Ｐ2・Ｐ4内から鍛造剝片や粒状滓が多量に出土しているのは，投棄されたものと思われる。また，本跡内から金床石から検出されなかったのは，本工房を廃棄する際に持ち去ったものと思われる。さらに，本跡内の覆土中からは全体で299kgの鉄滓が出土している。これはやはり本工房を廃棄する際に投棄された可能性が高い。

第２号鍛冶工房跡（第269図）

位置　調査区の南部，E7j3区。

重複関係　本跡は，北東部を第65号住居跡に掘り込まれていることから，第65号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸7.21m，短軸4.47mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－19°－Ｗ

壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。

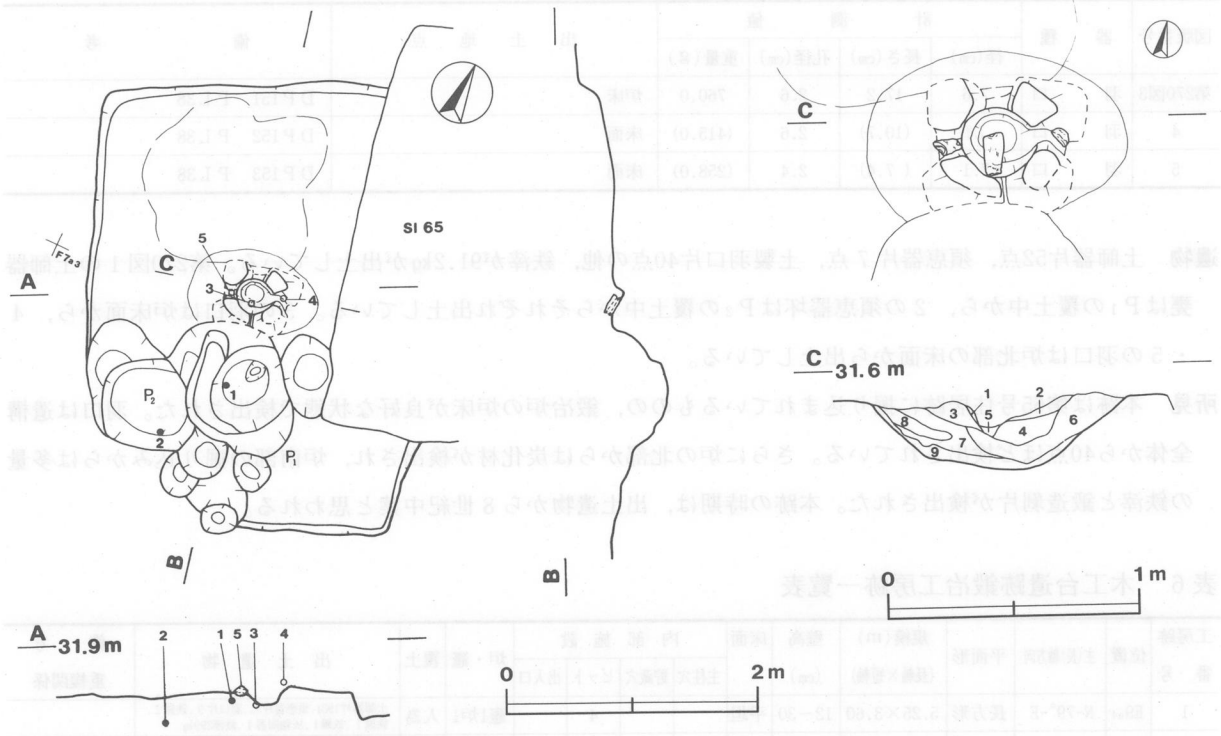
床　踏み固めた部分は見られない。

ピット　２か所（Ｐ1・Ｐ2）。Ｐ1は長径120cm，短径85cmの不整楕円形，深さ45cm，Ｐ2は径75cm前後の不整円形，深さ20cmでいずれも鍛冶工房に関わるピットと思われる。

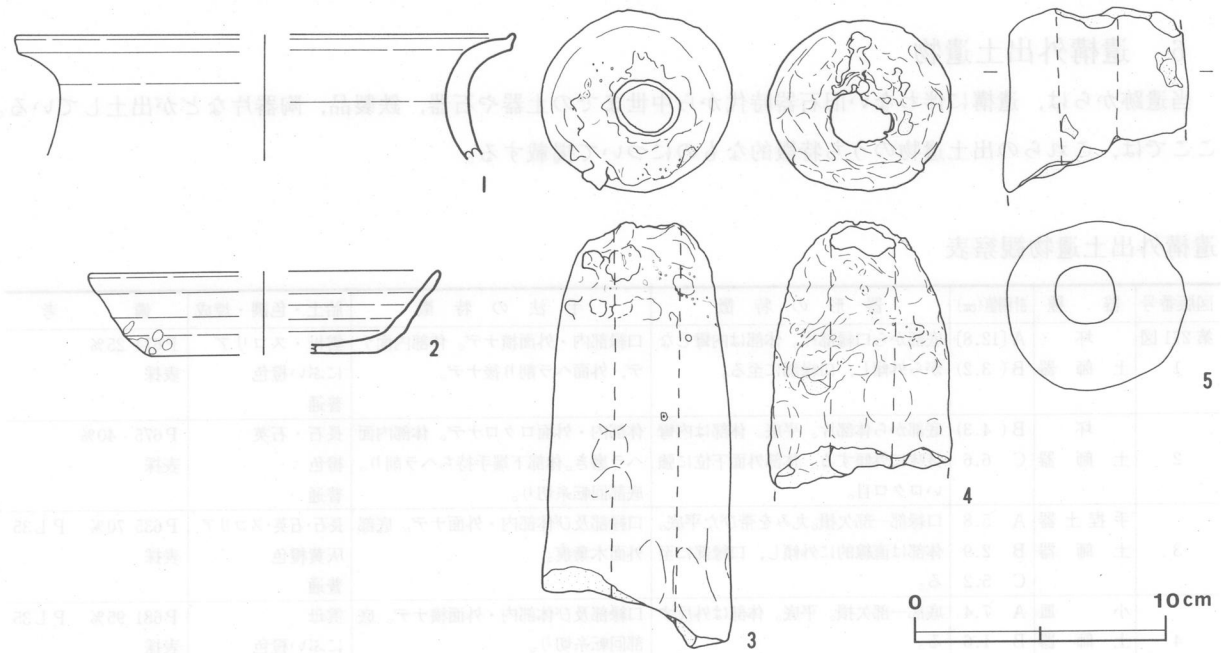
炉　ほぼ中央部に位置し，長径64cm，短径51cmの楕円形で，床面を23cm掘り窪めている。炉壁は砂混じり粘土で構築され，四方に窪みがあり，４点の羽口を差し込めるような構造であった。炉内や炉の周囲から羽口が５点ほど出土しているが，これ以外にも遺構全体から羽口の破片が多く出土している。検出された状況や鍛造剝片，鉄滓，羽口等が多量に出土していることから，鍛冶炉と思われる。

土層解説

1　褐灰色　火熱を受けた砂質粘土層
2　暗赤褐色　赤化した砂質粘土層
3　暗赤褐色　赤化した砂質粘土層
4　極暗赤褐色　赤化した砂質粘土層
5　暗赤褐色　赤化した砂質粘土層
6　灰褐色　ローム混じりの砂質粘土層
7　暗赤褐色　赤化した砂質粘土層
8　極暗赤褐色　弱赤化した砂質粘土層
9　明褐色　硬化したローム層



第269図　第２号鍛冶工房跡実測図



第270図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第２号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第270図 1	甕 土師器	A〔19.9〕 B（5.0）	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P657　5％ P_1覆土中
2	坏 須恵器	A〔14.0〕 B　3.3 C〔9.0〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 黄灰色 普通	P658　40％ P_2覆土中 体部内・外面に鉄錆

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第270図3	羽　口	7.6	17.2	2.6	760.0	炉床	DP151　PL38
4	羽　口	7.2	(10.7)	2.6	(415.0)	床面	DP152　PL38
5	羽　口	7.1	(7.4)	2.4	(258.0)	床面	DP153　PL38

遺物　土師器片52点，須恵器片７点，土製羽口片40点の他，鉄滓が91.2kgが出土している。第270図１の土師器甕はP_1の覆土中から，２の須恵器坏はP_2の覆土中からそれぞれ出土している。３の羽口は炉床面から，４・５の羽口は炉北部の床面から出土している。

所見　本跡は第65号住居跡に掘り込まれているものの，鍛冶炉の炉床が良好な状態で検出された。羽口は遺構全体から40点ほど検出されている。さらに炉の北部からは炭化材が検出され，炉南部の掘り込みからは多量の鉄滓と鍛造剝片が検出された。本跡の時期は，出土遺物から８世紀中葉と思われる。

表６　木工台遺跡鍛冶工房跡一覧表

工房跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設				炉・竈	覆土	出土遺物	備考 重複関係
							主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口				
1	$E9_{a4}$	N-79°-E	長方形	5.25×3.60	12～30	平坦			4		竈1炉1	人為	土師器片1981,須恵器片81,羽口片９,鉄鉗２,鉄鏃１,鉄鑿１,灰釉陶器１,鉄滓299kg	
2	$E7_{j3}$	N-19°-W	長方形	7.21×4.47	15	平坦			2		炉１	人為	土師器片52,須恵器片７,羽口片40,鉄滓91.2kg	本跡→SI-65

6　遺構外出土遺物

当遺跡からは，遺構に伴わない旧石器時代から中世までの土器や石器，鉄製品，陶器片などが出土している。ここでは，これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。

遺構外出土遺物観察表

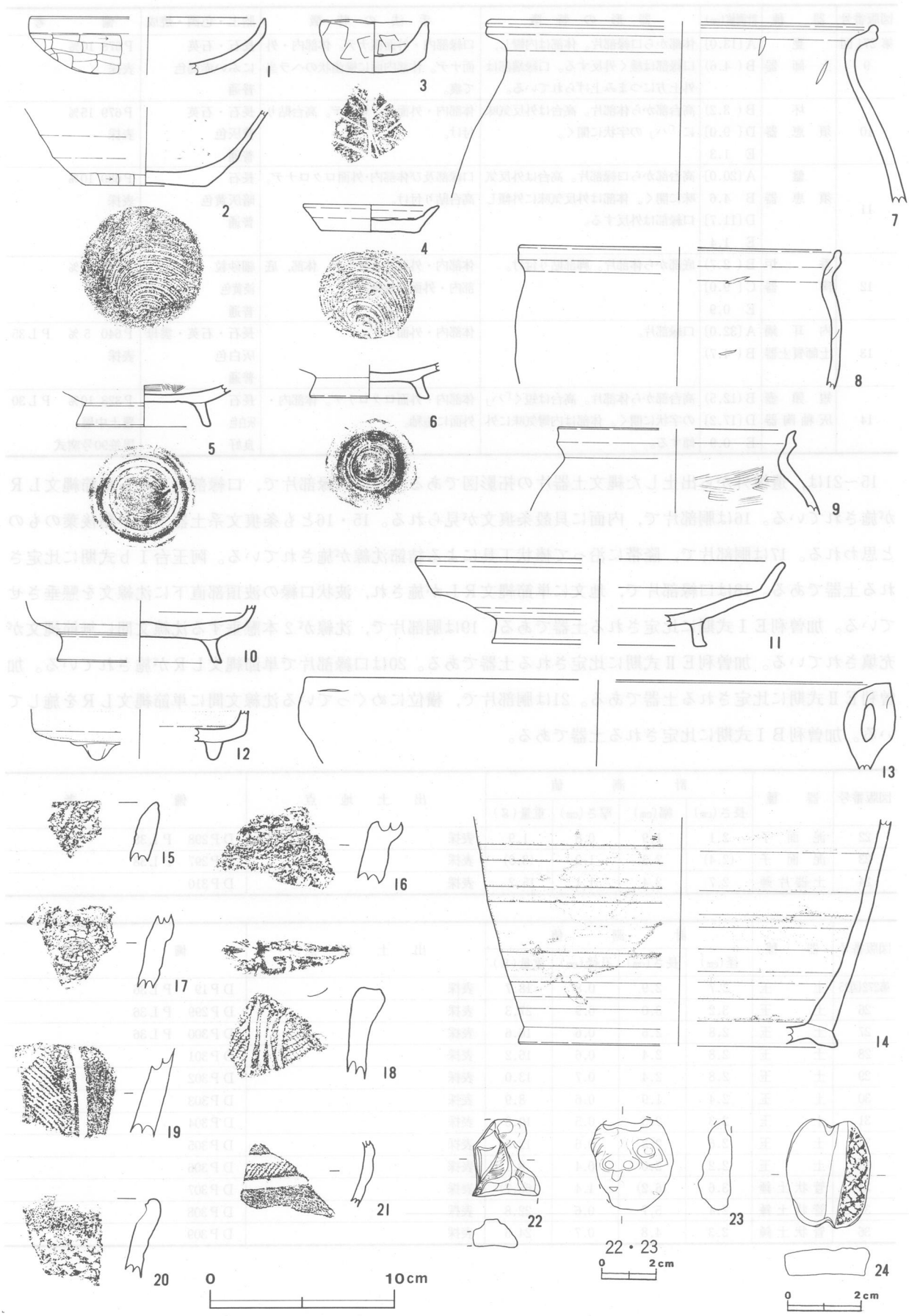
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図1	坏 土師器	A〔12.8〕 B(3.2)	底部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P674 25% 表採
2	坏 土師器	B(4.3) C　6.6	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。体部外面下位に強いロクロ目。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。	長石・石英 橙色 普通	P675　40% 表採
3	手捏土器 土師器	A　5.8 B　2.9 C　5.2	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底部外面木葉痕。	長石・石英・スコリア 灰黄橙色 普通	P635 70%　PL35 表採
4	小皿 土師器	A　7.4 B　1.6 C　5.4	底部一部欠損。平底。体部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	雲母 にぶい橙色 普通	P681 95%　PL35 表採
5	高台付坏 土師器	B(2.3) D　7.2 E　1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。体部内面ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P296 15% 表採
6	高台付坏 土師器	B(2.0) D　6.4 E　1.1	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。体部内面ヘラ磨き後。	石英・雲母・パミス 橙色 普通	P297 15% 表採
7	甕 土師器	A〔21.2〕 B(9.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P676 10% 表採
8	甕 土師器	A〔17.4〕 B(7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英 橙色 普通	P677 10% 表採

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第271図 9	甕 土師器	A〔13.0〕 B(4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し，口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に櫛歯状のヘラ当て痕。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P678 10% 表採
10	坏 須恵器	B(3.2) D〔 9.0〕 E 1.3	高台部から体部片。高台は外反気味に「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P679 15% 表採
11	盤 須恵器	A〔20.0〕 B 4.6 D〔11.7〕 E 1.4	高台部から口縁部片。高台は外反気味に開く。体部は外反気味に外傾し口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石 暗灰黄色 普通	P680 10% 表採
12	香炉 陶器	B(2.7) C〔 9.0〕 E 0.9	底部から体部片。脚部貼り付け。	体部内・外面ロクロナデ。体部，底部内・外面に施釉。	細砂粒 淡黄色 普通	P243 5% 表採
13	内耳鍋 土師質土器	A〔32.0〕 B(4.7)	口縁部片。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P640 5%　PL35 表採
14	短頸壺 灰釉陶器	B(12.5) D〔17.2〕 E 0.9	高台部から体部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に施釉。	長石 灰白色 良好	P328 10%　PL30 覆土中層 黒笹90号窯式

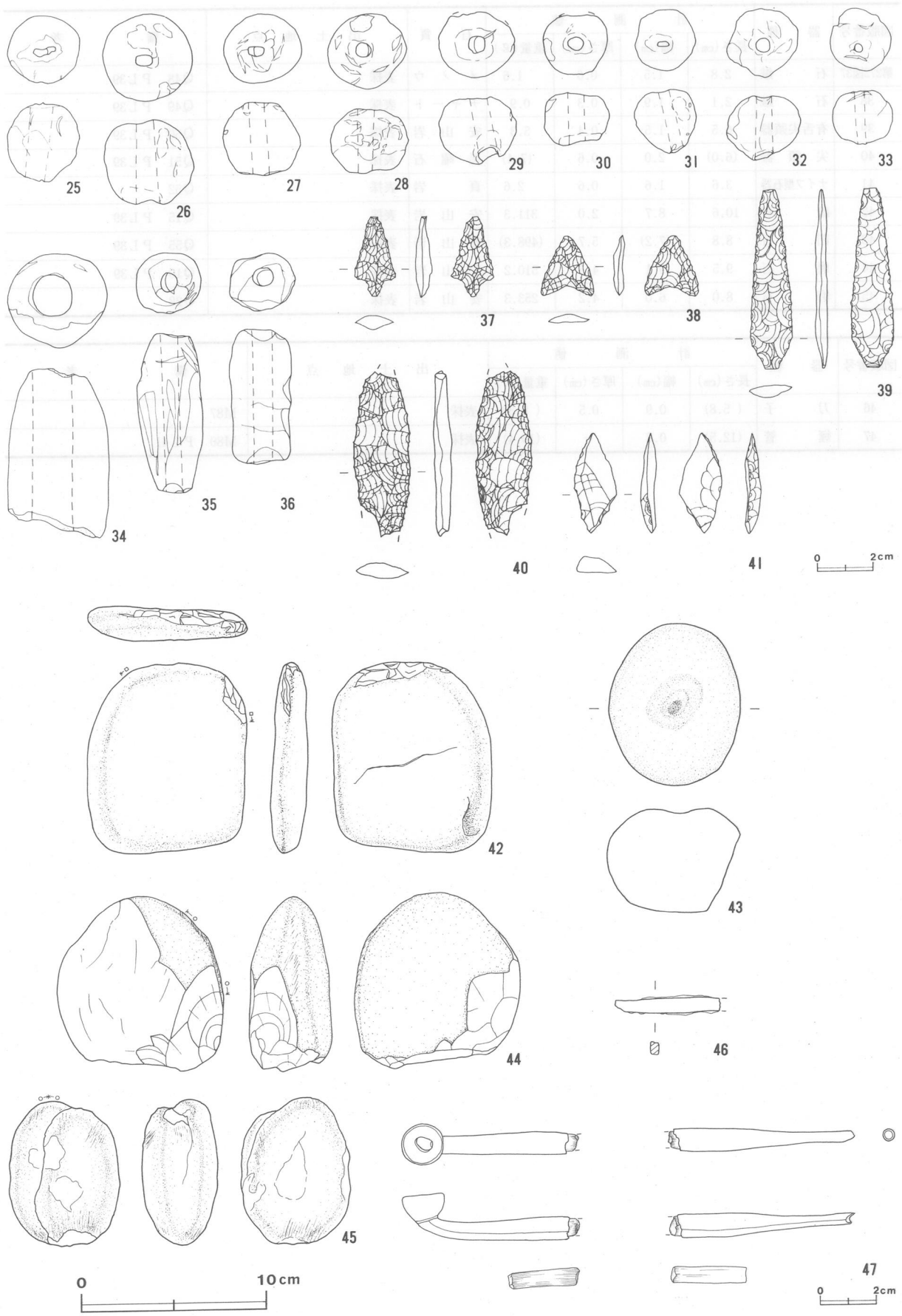
15～21は，遺構外から出土した縄文土器片の拓影図である。15は口縁部片で，口縁部直下から単節縄文ＬＲが施されている。16は胴部片で，内面に貝殻条痕文が見られる。15・16とも条痕文系土器で，早期後葉のものと思われる。17は胴部片で，隆帯に沿って棒状工具による結節沈線が施されている。阿玉台Ｉｂ式期に比定される土器である。18は口縁部片で，地文に単節縄文ＲＬが施され，波状口縁の波頂部直下に沈線文を懸垂させている。加曽利ＥＩ式期に比定される土器である。19は胴部片で，沈線が２本懸垂する沈線文間に無節縄文が充填されている。加曽利ＥⅡ式期に比定される土器である。20は口縁部片で単節縄文ＬＲが施されている。加曽利ＥⅡ式期に比定される土器である。21は胴部片で，横位にめぐっている沈線文間に単節縄文ＬＲを施している。加曽利ＢＩ式期に比定される土器である。

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
22	泥面子	2.1	1.9	0.8	1.9	表採	DP298　PL38
23	泥面子	(2.4)	2.3	1.0	(3.9)	表採	DP297　PL38
24	土器片錘	2.7	2.4	1.1	15.2	表採	DP310

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第272図25	土玉	2.7	2.9	0.8	18.7	表採	DP19　PL36
26	土玉	3.2	3.0	0.9	27.3	表採	DP299　PL36
27	土玉	2.8	2.6	0.6	16.6	表採	DP300　PL36
28	土玉	2.8	2.4	0.6	16.2	表採	DP301
29	土玉	2.8	2.4	0.7	13.0	表採	DP302
30	土玉	2.4	1.9	0.6	8.9	表採	DP303
31	土玉	2.3	2.3	0.5	10.3	表採	DP304
32	土玉	2.6	2.3	0.6	12.5	表採	DP305
33	土玉	2.2	2.0	0.4	8.1	表採	DP306
34	管状土錘	3.6	(6.2)	1.4	(65.7)	表採	DP307
35	管状土錘	2.4	5.7	0.6	22.8	表採	DP308
36	管状土錘	2.3	4.8	0.7	24.5	表採	DP309



第271図　遺構外出土遺物実測図(1)



第272図　遺構外出土遺物実測図(2)

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第272図37	石　鏃	2.8	1.5	0.6	1.6	メノウ	表採	Q48　PL39
38	石　鏃	2.1	1.9	0.3	0.9	チャート	表採	Q49　PL39
39	有舌尖頭器	6.5	1.5	0.4	5.3	安山岩	表採	Q50　PL39
40	尖頭器	(6.0)	2.0	0.6	(7.4)	黒曜石	表採	Q51　PL39
41	ナイフ型石器	3.6	1.6	0.6	2.6	頁岩	表採	Q52
42	敲　石	10.6	8.7	2.0	311.3	安山岩	表採	Q15　PL39
43	凹　石	8.8	(7.2)	5.7	(498.3)	安山岩	表採	Q55　PL39
44	磨　石	9.5	9.1	4.5	510.2	安山岩	表採	Q10　PL39
45	磨　石	8.0	6.0	4.2	253.3	安山岩	表採	Q28

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
46	刀　子	(5.8)	0.9	0.5	(8.3)	表採	M87
47	煙　管	(12.5)	0.8	—	(10.4)	表採	M80　PL41

第4節　まとめ

今回の調査で，古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡を106軒検出した。ここでは各時代ごとに住居跡や出土遺物について概要を述べ，まとめとしたい。また，当遺跡内からは鍛冶工房跡が2軒検出され，これ以外にも鍛冶に関連すると思われる遺構（土坑）が4基検出されている。これらについても若干の検討を加えたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構及び遺物集中地点は確認されなかったが，尖頭器，ナイフ型石器が数点表土中から出土している。

縄文時代

遺構は確認されなかったが，早期後葉の条痕文系土器，中期前葉の阿玉台Ⅰ式，中期中葉の加曽利EⅠ式，EⅡ式，後期中葉の加曽利BⅠ式に比定される土器片が採集されている。石器では石鏃，磨石，敲石，凹石等が出土している。こうしたことから当遺跡周辺を，当時の人々が生活の場として利用していたことが考えられる。

古墳時代

2期に分けることができる。

第1期（6世紀）

本期にあたる住居跡は，第15・98・104号住居跡で，6世紀後葉から末葉のものである。ただし第98号住居跡は，一部が調査区域外のため遺構全体の様子はつかめなかった。これらの住居跡はいずれも調査区南部で検出されている。平成9年度の調査結果からも，この時期の集落の中心は当遺跡の西部から南に伸びた舌状台地上にあるものと思われる。平面形は方形で，規模は第15号住居跡が一辺約6m，第104号住居跡が一辺約4mで，大きさに統一性はない。主軸方向はN－6°～22°－Wの範囲にあり，北方向を意識して構築されている。出土遺物は，土師器坏・甕・甑，須恵器坏・甕等である。土師器の坏に内面が黒色処理されたものがある。

第2期（7世紀）

本期にあたる住居跡は，第2・6・7・57・67・70・78・102号住居跡である。集落は，遺跡内の北西部と南東部の二つのグループに分けられる。主軸方向は，第2・57・70号住居跡を除いてN－10°～32°－Wの範囲にある。平面形は，方形または長方形である。規模は一辺が2.5mほどの第70号住居跡のような小形の住居跡から，一辺が8.5m前後の第7号住居跡のような大形住居跡までさまざまである。出土遺物は，土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・高台付坏・甕・蓋等である。第7号住居跡の竈内と竈右袖部付近から土師器の坏や甕が多量に出土している。第2号住居跡は，南西部が調査区域外のため全体は調査できなかったが，竈がなく中央部から炉が検出されている。住居以外の目的に使用された可能性も考えられるが，詳細は不明である。

奈良時代（8世紀）

当遺跡の中心となる時期で，この時期になると須恵器坏・高台付坏等の出土が多くなり，土師器が減少する。また，鉄製品や鉄鋌，鉄滓等が多く出土してくる。

本期にあたる住居跡は遺跡全体で45軒検出され，調査区全域から検出されているが，西部より東部に多く検出されている。また，南部から鍛冶工房跡が１基検出されている。住居跡の規模は，一辺が3.5m以下の小形住居跡と４～５ｍの中形の住居跡が中心であるが，第41号住居跡のように一辺が８ｍ以上の大形のものもあり，規模にばらつきがある。主軸方向は真北を中心にしてＮ－34°－ＷからＮ－40°－Ｅの範囲であるが，その中でもＮ－18°－ＷからＮ－15°－Ｅのものが多かった。出土遺物は，土師器坏・甕，須恵器坏・高台付坏・盤・蓋・甕・甑等である。土師器甕は大形で肩が張り，口縁部のつまみ上げと，底部外面に木葉痕のあるいわゆる常総型甕が多い。須恵器は８世紀の初めは少ないが，次第に量が増え中葉から後葉には多量になる。

当遺跡から出土する須恵器は，水戸市木葉下窯跡群と新治村新治窯跡群の製品が出土するのが特徴である。須恵器坏は底径が大きく，器高は低いものが多く，体部下端を削っているものもある。底部は回転ヘラ削りのもの，一方向の手持ちヘラ削りのものとさまざまである。蓋は口縁部内側に短いかえりをもつものと，口縁端部が短く折り返されているものとがある。第95号住居跡は竈がなく，中央部からやや北東寄りに炉が２基検出されている。また，四方の壁際に補助柱穴があり，壁は粘土で補強されている。出土遺物は土師器片，須恵器片，炭化材900ｇ，砥石５点，鉄製鋤先１点の他，土玉が130点以上出土している。第９号住居跡からは，銅製の帯金具（鉈尾）が出土している。

平安時代

奈良時代同様，当遺跡の中心となる時期で３期に分けた。

第１期（９世紀）

本期にあたる住居跡は遺跡全体で35軒検出され，調査区全域から検出されているが，調査区中央部には少なく，大きく東西二つの集落に分けられる。住居跡の規模は一辺が４ｍ以上の住居跡は少なく，3.5m前後のものが大部分である。８世紀代の住居跡よりも小形になる傾向にある。第52・56・63・99号住居跡のように３ｍに満たないものもある。また，本期は８世紀代より住居跡の規模にばらつきがなく，大部分が一辺３～４ｍであるのも特徴の一つである。主軸方向はＮ－68°－ＷからＮ－103°－Ｅの範囲であるが，その中でもＮ－18°－ＷからＮ－21°－Ｅのものが多い。また，８世紀代の住居跡で主軸方向がＮ－72°－Ｅよりも西に偏するものはないが，９世紀代になるとＮ－80°－Ｅよりも西に偏する住居跡が７軒存在する。出土遺物は，土師器坏・甕，須恵器坏・高台付坏・高坏・盤が出土している。須恵器坏は８世紀代より底径が小さくなり，器高が高くなる。後半になると須恵器が減少し，ロクロ成形の土師器が多く見られようになる。高台付坏は，高台が高くなる。また，鏃，鎌，刀子などの出土量も多い。第31号住居跡からは銅製の帯金具（鉸具）が出土し，第34号住居跡からは円面硯が出土している。

第２期（10世紀）

本期にあたる住居跡は，第22・26・42・59・62・76・79・103号住居跡である。また，鍛冶工房跡が１軒検出されている。鍛冶工房跡も含めて，第42・103号住居跡以外の住居跡はすべて調査区の東部から検出されている。また，住居跡の規模はほとんどが3.5m前後で方形である。主軸方向はＮ－58°～92°－Ｅの範囲内にあり，調査区内ではこの時期のすべての住居跡が東に竈を持っている。出土遺物としては，土師器が主体で須恵器はほとんど見られなくなる。土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものが多くなる。第59号住居跡からは折戸53号窯式の灰釉陶器が出土している。

第３期（11世紀）

本期にあたる住居跡は，第80号住居跡である。規模は一辺が3.5m前後で，方形である。竈が北壁と東壁に

2基検出された。出土遺物は，土師器坏・高台付坏・椀・高台付皿・甕のほか，流れ込みと思われる須恵器坏・高台付坏が出土している。土師器高台付皿と椀は，内面が黒色処理されている。

鍛冶工房跡

当遺跡においては，試掘の段階から鉄滓等が多く出土し，製鉄関係の遺構が多数検出されるものと予想された。実際の調査でも南東部を中心に鉄滓や焼土，炭化材，砂等が出土する遺構が多かった。しかし，製鉄関係と推定される遺構（鍛冶工房跡）は2基のみで，当初製鉄関係の遺構としていたものも，遺構の構造や遺物からだけでは推定できないものがあり土坑として扱った。第165・166・167・168号土坑が該当する。ただ，これらの遺構からは鉄滓が多量に出土し，第168号土坑からは椀形鍛冶滓（製錬鍛冶滓）が出土している。なお，当遺跡の住居跡からは量に差はあるものの鉄滓が出土することが多い。

第1号鍛冶工房跡からは，多量の鉄滓，鍛造剝片，粒状滓が出土している。これらの遺物から，本跡は鍛錬鍛冶段階のものと思われる。鉄滓は合計298㎏出土している。鉄滓の中には，椀形滓も多量に含まれている。鍛造剝片は，一辺が1㎜のものから5㎜の厚手のものまで多量に出土している。粒状滓も長径1㎜以下のものから7㎜程度のものまでさまざまである。鉄滓は投棄された可能性もあるが，299㎏と多量に出土している。また，金床石が出土しなかったのは本跡を廃棄した際，持ち去ったものと思われる。本跡の時期（10世紀）に存在したと思われる住居跡は，8軒だが，この時期の集落の中心は南東部であり，調査区域外に集落の範囲は広がるものと思われる。本跡は，この集落や周辺地域に鉄製品を供給した鍛冶工房と考えられる。さらに，多量の鍛造剝片や粒状滓が検出されていることから，長期にわたって鍛冶が行われた可能性がある。

第2号鍛冶工房跡は鍛冶炉の炉壁上部は消失しているものの，炉壁の下部と炉床が検出された。炉壁下部には4か所の羽口装着口があった。羽口は2点が装着口に差し込まれているような状態で出土しているが，本来の在り方とは逆向きであった。この他にも羽口は，炉の周囲から数点出土している。また，鍛冶炉の南側には掘り込みがあり，炉内から出た鉄滓等はここに投棄されたものと考えられる。本跡は炉の構築された状況をみるため，掘り方の土層断面を調査した。その結果，長径210㎝，短径150㎝，深さ80㎝ほど床を掘り込み，その中に砂質粘土（砂混じり粘土）を貼って突き固め，その上に炉を構築していた。砂質粘土は炉床に近いほど赤変硬化している。本跡の時期（8世紀）の住居跡は調査区全域から45軒検出され，刀子・鎌等が多数出土した。本跡は，これら生活に必要な鉄製品を供給するための，集落内の鍛冶工房であったと考えられる。

参考文献

- 栃木県教育委員会　『一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査　金山遺跡Ⅰ』「栃木県埋蔵文化財調査報告第135集」1993年3月
- 勝田市文化・スポーツ振興公社　『武田Ⅳ－1990年武田遺跡群発掘調査の成果』1991年3月
- 財団法人 鹿島町文化・スポーツ振興事業団『春内遺跡』1995年3月
- 穴澤義功『製鉄遺跡からみた古代・中世の鉄生産』1994年10月
- 茨城県教育財団『一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　三反田下高井遺跡』「茨城県教育財団文化財調査報告第128集」 1998年3月

付　　章

木工台遺跡出土鉄滓の成分分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

木工台遺跡は北浦にそそぐ武田川左岸の台地上に立地する。これまでの発掘調査により，古墳時代後期～平安時代にわたる集落跡が確認されている。その中でも８世紀代～９世紀代に構築された製鉄関連の遺構が数基検出され，鍛冶に伴う鉄滓が出土している。

今回の自然科学分析では，出土した鉄滓の金属学的調査を実施し，当時の製鉄の様態に関する資料を得ることを目的とする。なお，本分析調査については，大澤正己先生に分析および解析を依頼した経緯から，本報告では署名原稿として示す。

木工台遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査

大澤　正己

１．概　要

９世紀代に属する木工台遺跡の鍛冶関連遺構（SX-1）と住居跡（SI-1・SI-26・SI-59），土坑（SK-168）から出土した鉄滓10点を調査して，次の点が明らかになった。

＜１＞　出土鉄滓は，KBD-4の１点を除いて，塩基性砂鉄由来の荒鉄（製錬生成鉄で，表皮スラグや捲込みスラグ，更には炉材粘土などの不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物）を鍛冶原料として，成分調整の精錬鍛冶を行った鍛冶滓である。鍛冶工房の存在が推定される。

＜２＞　鍛冶工房内には，鍛冶原料となる含鉄炉底塊（製錬滓）も搬入されて粗・小割り選別後の鉄塊抽出作業を行った形跡を残す。この時の残滓がNo.3485 KBD SK-168 Ｂトレ試料 炉底塊破片である。

＜３＞　精錬鍛冶は，原料鉄に銑鉄を充当して脱炭下げ操業から一般荒鉄の成分調整まで想定された。また，鍛冶作業において赤熱鉄素材の酸化防止に粘土汁の塗布があって，ガラス質成分の多い鉄滓が生じている。

＜４＞　椀型鍛冶滓の表層に赤熱鉄素材の表面酸化膜が鍛打作業で剝離・飛散した際に派生した粒状滓や鍛造剝片が付着していた。本遺跡で鍛錬鍛冶作業があったことも間接的に確認できた。

＜５＞　木工台遺跡では，出土鉄滓から荒鉄の成分調整を行った精錬鍛冶主体の工房跡の存在が推定された。また，鍛打作業を行う製品製作の鍛錬鍛冶の可能性までが椀形鍛冶滓に付着する鍛造剝片から予測される。また，製錬滓の炉底塊が搬入されているところからみて，近くに製鉄炉の存在があったと推定される。なお，精錬鍛冶滓中の二酸化チタン（TiO_2）が4.34％～9.87％と高いので，鍛冶原料になる荒鉄は精選度の低いものが除滓目的で精錬鍛冶されたと考えられる。

以上が，木工台遺跡における鍛冶作業の実態となろう。

2．経　緯

木工台遺跡は，茨城県行方郡北浦町大字内宿1508他に所在する。本遺跡は，北浦に注ぐ武田川左岸の台地上に立地し，これまでの発掘調査により古墳時代後期～平安時代の集落跡（住居跡106軒）や製鉄関連遺構（2基）などが検出されている。分析試料とした鉄滓は，製鉄関連遺構（SX-1）と住居跡と考えられる遺構（SI-1・SI-26・SI-59），及び土坑SK-168から出土したものである。

SI-26・SK-168・SX-1は年代的に9世紀後半頃，住居跡SI-1は8世紀末～9世紀初頭，SI-59は9世紀中頃と考えられている。いずれも年代的には大きな時間差はないが，各年代で様態が異なるのであれば，本遺跡周辺の8世紀～9世紀における製鉄の様態を考える上で興味ある資料が得られるのではないかとの趣旨のもとに金属学的調査の運びとなった。

3．試　料

表1に示す。SI-26は2点，SK-168は3点，SX-1は各2点，SI-1は1点，SI-59は2点の合計10点の調査となる。

表1　供試料の履歴および調査項目

試料名	試料の様態	年代	計測値		調査項目		
			大きさ(mm)	重量(g)	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	化学組成
No.1603 KBD SI-26 E-6	含鉄椀形鍛冶滓	9世紀後半	90×90×28	410	○	○	○
No.1592 KBD SI-26 C-5	椀形鍛冶滓	9世紀後半	65×55×25	95	○	○	○
No.3493 KBD SK-168 Hトレ	鍛造剝片付着椀形鍛冶滓	9世紀後半	95×65×36	250	○	○	○
No.3485 KBD SK-168 Bトレ	含鉄炉底塊	9世紀後半	55×50×60	300	○	○	○
No.3490 KBD SK-168 Eトレ	椀形鍛冶滓	9世紀後半	50×60×30	95	○	○	○
KBD SX-1 下7	扁平椀形鍛冶滓	9世紀後半	50×35×18	60	○	○	○
KBD SX-1 C8	椀形鍛冶滓	9世紀後半	80×55×25	110	○	○	○
KBD SI-1 No.163	椀形鍛冶滓	8世紀末～9世紀初頭	70×47×35	190	○	○	○
KBD SI-59 No.12	炉壁	9世紀中頃	60×92×15	95	○	○	○
KBD SI-59 No.34	椀形鍛冶滓	9世紀中頃	100×65×50	460	○	○	○

4．調査項目

(1)　肉眼観察

表面の形状・付着物などの試料平面の観察を行った。

(2)　顕微鏡組織

供試材は水道水で充分に洗浄・乾燥後，中核部をベークライト樹脂に埋込みエメリー研磨紙の#150，#240，#320，#600，#1,000と順を追って研磨し，最後に被研面をダイヤモンドの3μと1μで仕上げ，光学顕微鏡観察を行った。

(3)　ビッカース断面硬度

鉄滓の鉱物組成の同定を目的として，ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて，硬さ

の測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136度の頂角をもったダイヤモンドを押し込み，その時に生じた窪みの面積をもってその荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡試料を併用した。

(4) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

・全鉄分（Total Fe），金属鉄（Metallic Fe），酸化第１鉄（FeO）：容量法。

・炭素（C），硫黄（S）：燃焼容量法，燃焼赤外吸収法。

・二酸化珪素（SiO_2），酸化アルミニウム（Al_2O_3），酸化カルシウム（CaO），酸化マグネシウム（MgO），酸化カリウム（K_2O），酸化ナトリウム（Na_2O），酸化マンガン（MnO），二酸化チタン（TiO_2），酸化クロム（Cr_2O_3），五酸化燐（P_2O_5），バナジウム（V），銅（Cu）：ＩＣＰ(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)法：誘導結合プラズマ発光分析。

５．結果および考察

(1) SI-26遺構出土鉄滓

1-1. No.1603 KBD SI-26 E-6：含鉄椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面は，ほぼ楕円形状で鍛冶炉の炉底に堆積形成された含鉄椀形鍛冶滓である。表面は黒赤色の滑らか肌で，含鉄のため亀裂が走り，既に４片に割れる。周縁は黄褐色のもらい銹を付着する。裏面は表と同色で全面がもらい銹に覆われる。僅かに炉底粘土との反応痕を留める。破面は黒色光沢質で気泡少なく緻密質。断面上層側に金属鉄を含み，発銹から赤黒色を呈す。含鉄鉄滓であり，重量感あり。

・顕微鏡組織

図版１の①～⑨に示す。鉱物組成の主体は，③にみられる白色粒状結晶のヴスタイト（Wustite：FeO）と，その粒内析出物の淡褐色微小結晶のウルボスピネル（Ulvospinel：$2FeO \cdot TiO_2$）及び②の局部的に晶出する淡茶褐色独立結晶のウルボスピネル，それらの粒間を埋める淡灰色盤状結晶のファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）と基地の暗黒色ガラス質スラグから構成される。なお，当椀形鍛冶滓の底部で粘土接触近傍では，①にみられる淡灰色木ずれ結晶のファイヤライトと，極く微量のウルボスピネルを晶出する箇所も多く存在する。

一方，該品で注目しておきたいのは，椀形鍛冶滓中に零れ落ちた銑鉄である。⑤～⑦にみられる様に片状黒鉛（Flak graphite）を晶出して，基地はパーライト（Pearlite：フェライトとセメンタイトが交互に重なり合って構成された層状組織）をもつ亜共晶組成のねずみ鋳鉄（Gray cast iron）である。この鍛冶作業は，銑鉄の脱炭で可鍛鉄（低炭素鋼）にする「下げ」作業で派生した滓と想定される。精錬鍛冶滓に分類される。

銑鉄中の炭素は，黒鉛として存在するものをねずみ鋳鉄，セメンタイト（Cementite：Fe_3C）析出するものを白鋳鉄（White cast iron）と呼ぶ。同じ炭素含有量であっても凝固冷却速度が速くなればセメンタイト，おそくなれば黒鉛を晶出する。該品は，鍛冶炉内で徐冷されているので片状黒鉛を晶出した訳である。

椀形鍛冶滓の含鉄部分からの銑鉄が発見される事例は数少なく，管見では熊本県所在頭地松本Ｂ遺跡の椀形鍛冶滓①が，想い浮かぶ程度である。

・ビッカース断面硬度

図１の⑧・⑨にパーライト基地の断面硬度測定の圧痕を示す。⑧はパーライトが白っぽく映る個所で硬度値268Hv，⑨は黒っぽいパーライトで208Hvであった。両者は共析鋼（C：0.77％）領域であり，妥当な値と考えられる。

・化学組成分析

表２に示す。顕微鏡組織は鉄塊存在個所を選んだが，分析試料は滓側となった。全鉄分（Totale Fe）は，51.03％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.59％，酸化第１鉄（FeO）50.34％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）16.17％の割合である。ガラス質成分（$SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$）は26.03％で，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）を2.51％と，やや高めに含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）4.34％，バナジウム（V）0.09％は製錬滓レベルの約1/6である。また，酸化マンガン（MnO）0.17％など脈石成分は，或る程度含有されて，荒鉄（製錬生成鉄で，表皮スラグや捲込みスラグ，更には炉材粘土などの不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物）の成分調整で排出された精練鍛冶滓に分類される。この場合の精錬鍛冶は，脱炭の下げ作業であった。

1-2. No.1592 KBD SI-26 C-5：椀形鍛冶滓破片（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面が正三角形状で，２面が破面である。表面は赤褐色～黄褐色の顆粒状酸化土砂被膜を付着させる。裏面は青灰色砂粒混じりの炉材粘土を固着。破面は灰褐色緻密質スラグで気泡はほとんどない。

・顕微鏡組織

図版２の①～③に示す。鉱物組成は，白色粒状ヴスタイトと，その粒状析出物，及び淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネルと，その粒間の淡灰色長柱状結晶のファイヤライト，暗黒色ガラス質スラグから構成される。これも荒鉄の成分調整の精錬鍛冶滓に分類される。

・ビッカース断面硬度

図版２の①にみられる淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は693Hvであった。ウルボスピネルに同定される[①]。

・化学組成分析

表２に示す。脈石成分を一定量含有した精錬鍛冶滓成分である。全鉄分（Total Fe）は48.12％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.18％，酸化第１鉄（FeO）38.69％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）25.55％の割合である。ガラス質成分（$SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$）は24.97％あり，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）2.67％を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）5.69％，バナジウム（V）0.17％は鍛冶滓レベルである。また，酸化マンガン（MnO）も 0.18％と若干含有される。銅（Cu）は0.005％留まりであった。精錬鍛冶滓に分類される。

1-3. No.3493 KBD SK-168 Hトレ：椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面は，楕円形状椀形鍛冶滓の半截品。表裏共に茶褐色を呈し，肌は凹凸はあるものの激しい粗鬆さはなく，側面寄りに15mm幅の木炭痕を深く刻む。青灰色微小鍛造剥片を多く付着する。裏面は，僅かに反応痕と木炭痕を残し，側面寄りにガラス質スラグの突起がみられる。羽口先端部溶融物の付着であろう。破面は微小気泡を散在させるが緻密質。比重の大きいスラグである。

・顕微鏡組織

図版３に表層付着の鍛造剥片のみを提示した。鍛造剥片は，鉄素材を大気中で加熱，鍛打すると，表層酸化膜が剥離，飛散したものを指す。俗に鉄肌（金肌）やスケールとも呼ばれる。鍛冶工程の進行により，表面が荒れ肌の厚手から平坦面をもち薄手へ，色調は黒褐色～青味を帯びた銀白色（光沢を発する）へ変化する。これも，粒状滓同様に，鍛打作業の実証と，鍛冶の段階を押さえる上で重要な遺物となる[③]。

表２－１　供試料の化学組成(1)

試料名	種別	年代	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
No.1603 KBD SI-26 E-6	精練鍛冶滓	9世紀後半	51.03	0.59	50.34	16.17	16.63	5.79	1.50
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.01	0.74	0.36	0.17	4.34	0.04	0.04
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.19	0.04	0.09	0.005	26.030	0.510	0.085
No.1592 KBD SI-26 C-5	精練鍛冶滓	9世紀後半	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			48.12	0.18	38.69	25.55	16.86	4.78	1.64
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.03	0.44	0.22	0.18	5.69	0.07	0.05
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.18	0.17	0.17	0.005	24.970	0.519	0.118
No.3493 KBD SK-168 Hトレ	精練鍛冶滓	9世紀後半	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			50.61	0.19	55.04	10.92	19.13	4.73	1.37
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.00	0.79	0.36	0.17	4.22	0.05	0.03
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.24	0.10	0.11	0.002	27.380	0.541	0.083
No.3485 KBD SI-26 Bトレ	砂鉄製練滓	9世紀後半	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			40.62	13.16	24.94	11.54	10.36	4.12	5.71
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			3.22	0.82	0.28	0.79	24.02	0.09	0.08
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.37	0.10	0.31	0.008	24.510	0.603	0.591
No.3490 KBD SK-168 Eトレ	精練鍛冶滓	9世紀後半	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			53.86	0.72	43.32	27.83	8.56	3.15	0.85
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.48	0.27	0.12	0.26	8.64	0.07	0.02
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.19	0.16	0.21	0.005	14.430	0.268	0.160

表２－２　供試料の化学組成(2)

試料名	種別	年代	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
KBD SX-1 下7	精練鍛冶滓	９世紀後半	58.38	0.58	59.22	16.83	9.13	2.87	1.05
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.05	0.26	0.13	0.22	6.18	0.04	0.03
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.37	0.11	0.12	0.002	14.490	0.248	0.106
KBD SX-1 C8	精練鍛冶滓	９世紀後半	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			49.38	0.68	43.46	21.33	12.68	3.93	1.96
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.59	0.32	0.21	0.33	8.79	0.06	0.04
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.36	0.17	0.16	0.002	20.690	0.419	0.178
KBD SI-1 No.163	精練鍛冶滓	８世紀末 ～９世紀初頭	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			18.04	0.21	7.24	17.45	48.78	11.24	1.91
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.42	1.72	1.16	0.23	5.94	0.06	0.02
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.31	0.12	0.10	0.002	65.930	3.655	0.329
KBD SI-59 No.12	炉壁溶融物	９世紀中頃	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			18.58	0.23	13.22	11.54	53.69	12.77	1.76
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			0.88	2.20	1.25	0.13	1.93	0.08	0.01
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.22	0.03	0.05	0.002	72.550	3.905	0.104
KBD SI-59 No.34	精練鍛冶滓	９世紀中頃	全鉄分＊A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第１鉄 (Feo)	酸化第２鉄 (Fe203)	二酸化硅素 (Si02)	酸化アルミニウム (Al203)	酸化カルシウム (Ca0)
			55.78	0.21	53.62	19.86	8.68	3.02	0.87
			酸化マグネシウム (Mg0)	酸化カリウム (K20)	酸化ナトリウム (Na20)	酸化マンガン (Mn0)	二酸化チタン＊B (Ti02)	酸化クロム (Cr203)	硫黄 (S)
			1.39	0.17	0.10	0.28	9.87	0.07	0.02
			五酸化リン (P205)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分＊C	C／A	B／A
			0.17	0.08	0.23	0.005	14.230	0.255	0.177

鍛造剝片は極めて微細で鍛冶派生物（３㎜平方前後で厚みは0.01～0.03㎜程度のものが今回の付着剝片）であり，発掘調査中に土中～肉眼で識別するのは難しい。通常は鍛冶址の床面の土砂を水洗することにより検出される。鍛冶工房の調査に当たっては，鍛冶炉を中心にメッシュを切って土砂を取り上げ，水洗・乾燥・選別・秤量により分布状況を把握できれば，工房内の作業空間配置の手掛かりとなりうる重要な遺物でもある[④]。

前置きが長くなったが，図版３の①～⑨が鍛造剝片の断面である。次に鍛造剝片の酸化物相としての組織を述べる。鉄素材を鍛冶炉内で高熱で加熱すると，速やかに酸化され，表層に硬い黒皺を生じる。このものは，通常微厚の外層ヘマタイト（Hematite：Fe_2O_3），中間層にマグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4），大部分は内層のヴスタイト（Wustite：FeO）の３層から構成される。このうちのヘマタイト層は1.450℃を越えると存在しなく，ヴスタイト層は570℃以上で生成される事は，Fe-O系平衡状態図で説明されている[⑤]。

図版３の③に示す剝片は，内層のヴスタイトが結晶質で先発剝片，⑤・⑦・⑧らの内層は非晶質で後発剝片である。なお，この鍛造剝片はno etchの研磨のままでは３層の分離状況が不鮮明であるが，王水（塩酸３：硝酸１）で腐食（Etching）すると，外層ヘマタイトは腐食液に侵されず白色微厚層として残り，中間層のマグネタイトは黄変し，内層ヴスタイトの大部分は黒変する。ともかくも，鍛造剝片の存在する場所は，鍛冶工房での鍛打作業のあったことを実証する有力な遺物となる。

次に鉄滓の鉱物組成を述べる。図版４の①～⑨が精錬鍛冶滓を表す鉱物相である。鉱物組成は，白色粒状ヴスタイトと，その粒内微小Fe-Ti化合物，淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネルを中心に，淡灰色盤状結晶のファイヤライト，基地の暗黒色ガラス質スラグなどから構成されている。なお，⑥・⑧は参考のためにこの精錬鍛冶滓の鉱物相を王水で腐食した場合の組織を示しておく。淡茶褐色ウルボスピネルは王水に侵されず，白色粒状結晶は黒く侵される個所とそうではない個所が混在する。形状近似してヴスタイトとマグネタイトの２結晶の存在を知らせるのであろう。

・ビッカース断面硬度

図版４の⑧に白色粒状結晶，⑨に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は前者で533Hvであるのでマグネタイト，後者は682Hvでウルボスピネルが同定される。

＜小結＞

SI-26遺構から出土した３点の鉄滓を調査したところ，いずれも鍛冶炉の炉底堆積で形成された椀形鍛冶滓であり，組成は塩基性砂鉄由来の荒鉄（製錬生成鉄で，表皮スラグや捲込みスラグ，更には炉材粘土などの不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物）の成分調整を行った精錬鍛冶滓に分類された。この時の鍛冶原料となる荒鉄は，一部は銑鉄が充当されており，脱炭下げから，赤熱鉄素材の鍛打作業で派生した鍛造剝片が付着するので鍛錬鍛冶までの工程があったと推定される。SI-26は，鍛冶工房関連遺構もしくは，鍛冶作業廃棄物のゴミ捨て場的な土坑の可能性をもつが，発掘調査所見をあわせて考慮する必要がある。

(2) SK-168遺構出土鉄滓

2-1. No.3485 KBD SK-168 Bトレ：砂鉄製錬滓（含鉄炉底塊）

・肉眼観察

製鉄炉のコーナー部で形成された炉底塊ブロックで，金属鉄抽出のために小割り選別された残滓である。隅丸２面は生きていて他の２面が破面となる。全面に黄褐色もらい銹を付け，１～２㎜の気泡を散在させるも比重は大きい。底部側に亀裂を走らせ金属鉄の残存を表す。厚みが6.0㎝を測るので，製鉄炉の炉底部の想定がつく。箱形製鉄炉であろう。

・顕微鏡組織

図版５の①～⑨に示す。①～③は暗黒色ガラス質スラグ中に遺存した砂鉄粒子残骸である。金属鉄粒の大部分は晶出し，チタン鉄鉱（Ilmenite：FeO・TiO_2）の原形から徐々にスラグ結晶化を始める核が読みとれる。④・⑤は砂鉄粒子から金属鉄が晶出し始めて，まだ凝集しきれずにいる状況を示す。⑥・⑦は，砂鉄粒子の旧形は消滅した海綿状鉄であり，吸炭反応は起っておらず，フェライト粒界に極く微量の紐状セメンタイトを析出する程度の極低炭素鋼である。鉄素材とはなりきれない低級含鉄炉底塊で廃棄物である。SK-168周辺で鍛冶原料鉄の小割り選別作業があった可能性を物語る残滓である。製鉄炉も近くあったと推定される。

・ビッカース断面硬度

図版５の⑧はフェライト結晶粒の硬度測定の圧痕である。硬度値は148Hvでフェライトの硬度値としては若干高め傾向にある。また，⑨は不定形形状の茶褐色結晶と淡灰褐色結晶では，前者が683Hvでウルボスピネル，後者は526Hvでマグネタイトが同定された。

・化学組成分析

表２に示す。脈石成分が多くて製錬滓成分である。全鉄分（Totale Fe）は40.62％に対して金属鉄（Metallic Fe）13.16％と少量含み，酸化第１鉄（FeO）24.94％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）11.54％の割合である。ガラス質成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は精錬鍛冶滓と大差ないレベルの24.51％で，このうちの塩基性成分（CaO＋MgO）は製錬滓なので，多くて8.93％を占める。また，砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）は24.02％と高く，バナジウム（V）0.31％も最高に多い。更に酸化マンガン（MnO）も0.79％も精錬鍛冶滓の４～５倍に達する。製錬滓の成分系であった。

2-2. No.3490 KBD SK-168 Eトレ：不定形椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面が不整台形の椀形鍛冶滓。表面は中央へ三角堆状に突起し，木炭痕による凹凸はあるものの，肌荒れはない。裏面は木炭痕と反応痕が区別つかぬ程度に小波状に発生し，表裏全体に黄褐色酸化土砂被膜が覆う。波面をもたぬ滓で緻密質である。比重は大きい。

・顕微鏡組織

図版６の①～⑨に示す。表層の酸化土砂被膜の中に３層分離型（内層ヴスタイト非晶質）の鍛造剥片を付着する。剥片の組織を②～⑤に提示した。鉄滓の鉱物組成は，⑥～⑨にみられるように，白色粒状結晶のヴスタイトと，淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル，それらの粒間を淡灰色盤状結晶のファイアライト，基地の暗黒色ガラス質スラグが埋める。精錬鍛冶滓の晶癖である。

・ビッカース断面硬度

図版６の①に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は655Hvであった。鉱物相はウルボスピネルに同定される。

・化学組成分析

表２に示す。全鉄分（Total Fe）は53.86％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.72％，酸化第１鉄（FeO）43.32％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）27.83％の割合である。ガラス質成分（SiOE＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は14.43％で，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）2.33％を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）は8.64％，バナジウム（V）0.21％など，再成分はやや高めであった。また，酸化マンガン（MnO）0.26％は製錬滓より低めとなる。銅（Cu）は0.005％で，脈石成分を若干含むので精錬鍛冶滓に分類される。

＜小結＞

SK-168出土鉄滓の調査は２点である。そのうちの１点は，箱形製鉄炉の炉底塊ブロックが想定される外観で，鉱物組成は砂鉄粒子残骸や，砂鉄粒子からの純鉄晶出状況を留め，化学組成は二酸化チタン（TiO_2）24.02％と多く，バナジウム（V）0.31％，酸化マンガン（MnO）0.79％，塩基性成分（CaO＋MgO）8.93％など全般的に脈石成分が高め傾向を呈する滓であった。該品は，恐らく炉底塊もぐり込み鉄塊抽出後の小割選別残滓であろう。この炉底塊にも凝集しきれずに散存した海綿鉄が内蔵されていた。本遺構近傍で，鉄塊や含鉄炉底塊の小割り，選別といった鍛冶原料鉄調達の作業配置空間があったと推定される。

なお，残る１点の椀形鍛冶滓は組成的にはSI-26出土鉄滓に近似した精錬鍛冶滓であって，これの表層からも付着鍛造剥片が確認された。SI-26，SK-168は近接する遺構である。両遺構の近くで，精練鍛冶滓→鍛錬鍛冶の作業工程があったことを傍証する鉄滓群の存在は貴重な存在である。

(3) SX-1遺構出土鉄滓

3-1. KBD SX-1 下７：偏平椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面は不整台形状を呈する椀形鍛冶滓の一部欠損品である。表面は黒褐色滑らか肌に赤褐色酸化土砂被膜を付着する。裏面は偏平で木炭痕と反応痕が認められ，色調は表面に準ずる。破面は，茶褐色で大気泡が散在するが緻密質であった。

・顕微鏡組織

図版２の④～⑧に示す。鉱物組成は，白色粒状ヴスタイトとマグネタイトで，その粒内に微小淡茶褐色鉄（Fe）-チタン（Ti）化合物を析出する結晶と，淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル，淡灰色盤状結晶のファイヤライト，基地の暗黒色ガラス質スラグなどから構成される。この晶癖は精錬鍛冶滓に分類される。

・ビッカース断面硬度

図版２の⑦に示した微小析出物含みの白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度地は526Hvでマグネタイト，⑧の淡茶褐色多角形結晶は664Hvで，ウルボスピネルが同定された。

・化学組成分析

表２に示す。鉄分が多くて脈石成分をある程度含有した精錬鍛冶滓成分を有する。全鉄分（Total Fe）は58.38％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.58％，酸化第１鉄（FeO）59.22％，酸化第２鉄（Fe203）＋16.83％の割合であった。ガラス質成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は少なくて14.49％，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）は2.10％留まりである。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）6.18％，バナジウム（V）0.12％を含有し，酸化マンガン（MnO）は0.22％であった。精錬鍛冶滓に分類される。

3-2. KBD SX-1 C8：椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面は不整形楕円形状椀形鍛冶滓で一部を欠損。表面は多孔質状肌に黄褐色酸化土砂が付着する。側面は大部分が生きた旧面であり，ここにも酸化土砂がきつく付着して鉄滓本来の特徴が読みとれない。

・顕微鏡組織

図版７の①～⑤に示す。①には表層部に粒状滓を付着する。粒状滓は鍛冶作業において，凹凸をもつ鉄素材が鍛冶炉の中で，赤熱状態に加熱されて突起部が溶融酸化して溶け出すと，表面張力の関係から球状化する。

また，赤熱鉄塊に酸化防止を目的に塗布された粘土汁が酸化膜と反応して，これが鍛打の折りに飛散する球状化の微細遺物である。精錬鍛冶の末期から鍛錬鍛冶の前半段階までに派生する。その極く微細粒（0.12mm径）の粒状滓が検出された。また，別視野では②・③にみられる３層分離型の鍛造剥片も共存する。鉄滓の鉱物組成は，白色粒状結晶のヴスタイトと淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネルが淡灰色盤状結晶と晶出して，精錬鍛冶滓に分類される。

・化学組成分析

表２に示す。脈石成分を一定量内蔵した精錬鍛冶滓の成分系である。すなわち，全鉄分（Total Fe）は，49.38％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.68％，酸化第１鉄（FeO）43.46％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）21.33％の割合である。ガラス質成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は20.69％あり，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）を3.55％を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）は8.79％，バナジウム（V）0.16％高めで，酸化マンガン（MnO）0.33％と高め傾向にある。

＜小結＞

SX-1出土の２点の椀形鍛冶滓の調査を行った。２点の鉄滓は，鉱物組成にヴスタイトとウルボスピネルを晶出し，化学組成は二酸化チタン（TiO_2）6.18％～8.79％，バナジウム（V）0.12％～0.16％，酸化マンガン（MnO）0.22％～0.33％を含有する精錬鍛冶滓であった。SI-26とSK-168出土の椀形鍛冶滓の組成と近似する成分系であった。なお，KBD SX-1 C8試料の椀形鍛冶滓は，表層部に粒状滓と鍛造剥片を付着しており，SX-1近傍においても精錬鍛冶と共に，鍛打作業を行う鍛錬鍛冶のあったことを示唆した。

(4) SI-１遺構出土鉄滓

4-1. KBD SI-1 No.163：椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面が不整楕円形を呈する椀形鍛冶滓で一部を欠損して完形品ではない。表裏ともに黄褐色から赤褐色の酸化土砂の覆われて鉄滓の肌を充分に観察できない状態であった。破面は黒色光沢質で気泡なく緻密な個所とガラス質の多い個所が混在していた。

・顕微鏡組織

図版７の⑥～⑧に示す。鉱物組成は，白色粒状結晶のヴスタイトと，淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル，この両者の粒間を淡灰色盤状結晶のファイヤライトと少量の暗黒色ガラス質スラグが埋める。精錬鍛冶滓の晶癖である。

・ビッカース断面硬度

図版７の⑥に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は674Hvであった。当結晶はウルボスピネルに同定される。

・化学組成分析

表２に示す。該品は外観が多孔質で偏析のある滓であり，分析試料側はガラス質の多い個所からの情報となる。全鉄分（Total Fe）は18.04％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.21％，酸化第１鉄（FeO）7.24％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）17.45％の割合で鉄分は少ない。これに対してガラス質成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は多くて65.93％あり，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）は3.33％を含む。しかし，砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）は前述してきた滓と大差なく5.94％，バナジウム（V）0.10％，更に酸化マンガン（MnO）も0.23％であった。

＜小結＞

SI-1出土の１点の椀形鍛冶滓の調査を行った。該品もSI-26・SK-168・SX-1と同様の精錬鍛冶滓に分類される。鉱物組成はヴスタイト＋ウルボスピネルで構成され，化学組成は二酸化チタン（TiO_2）5.94％，バナジウム（V）0.10％，酸化マンガン（MnO）0.23％など脈石成分をある一定量含有する。ただし，該品は鉄分が少なく，ガラス質成分が66％台と多いのは，赤熱鉄素材に酸化防止のために粘土汁を塗布した作業が加わった可能性が窺えた。

(5) SI-59遺構出土鉄滓

5-1. KBD SI-59 No.12：炉壁溶融物

・肉眼観察

平面が不整台形状の薄手（15mm）ガラス質溶融物である。一見砂鉄焼結塊らしき剝片であるが，砂鉄粒子ではなく，酸化土砂の被膜の付着のみである。断面は僅かに弧を描く。

・顕微鏡組織

写真図版８の①～③に示す。炉壁胎土の粘土鉱物は残存せず，総て加熱変化を経てガラス化し，微細なマグネタイトを晶出する部分と，マグネタイトと木ずれ状ファイヤライトの組み合わせで晶出する部分が認められた。該品の表層には砂鉄の付着がなく，製鉄炉壁ではなくて，高温操業の精錬鍛冶炉の可能性を考えておくべきであろう。

・化学組成分析

表２に示す。鉄分は少なくガラス質の多い成分系である。全鉄分（Totale Fe）は18.58％に対して金属鉄（Metallic Fe）0.23％，酸化第１鉄（FeO）13.22％ 酸化第２鉄（Fe_2O_3）11.54％の割合である。ガラス質成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は72.55％で，このうちに塩基性成分（CaO＋MgO）を2.64％とこれも高めである。二酸化チタン（TiO_2）は1.93％，バナジウム（V）0.05％ など砂鉄特有成分は少なく，酸化マンガン（MnO）も0.13％と低い。精錬鍛冶滓の成分系とは異なる数値であった。

5-2. KBD SI-59 No.34：椀形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面が不整楕円形状の椀形鍛冶滓である。表層に2.0mm～3.0mm幅の木炭痕を深く刻み，表裏共に赤褐色から灰褐色を呈する酸化土砂に覆われる。表層に砂鉄粒子を付着するのは天然産であろう。

・顕微鏡組織

図版８の④～⑧に示す。鉱物組成は⑦・⑧でみられる白色粒状結晶のヴスタイト及びその粒状微小鉄（Fe）ーチタン（Ti）化合物と，淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル，それらの粒間を埋める淡灰色盤状結晶のファイヤライトで構成される。精錬鍛冶滓の晶癖である。なお，外観に現れた砂鉄粒子は ⑤の左側の４粒がそれである。白色粒子の磁鉄鉱（Magnetite：Fe_2O_3・FeO）で被熱の痕跡はまったく認められない。また，これに隣接して鍛造剝片も付着する。こちらは３層分離型の剝片で，拡大組織を⑥に提示した。

・ビッカース断面硬度

図８の④に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は702Hvであり，ウルボスピネルに同定される。

・化学組成分析

表２に示す。鉄分が多くて，全鉄分（Total Fe）は55.78％に対して，金属鉄（Metallic Fe）0.21％，酸化第１鉄（FeO）53.62％，酸化第２鉄（Fe_2O_3）19.86％の割合である。ガラス質成分（SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O）はさほど多くなく14.23％留りで，このうちに塩基性成分（CaO+MgO）が2.26％含まれる。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）9.87％，バナジウム（V）0.23％と高め傾向である。酸化マンガン（MnO）0.28％などから精錬鍛冶滓に分類される。

＜小結＞

SI-59からの出土品２点を調査した。１点は炉壁溶融物で，ガラス質成分（76％台）を主体にして砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）が1.93％と低めの組成である。また，鉱物組成は砂鉄付着の痕跡はなく，暗黒色ガラス質スラグと少量のマグネタイトやファイヤライトを晶出する。鍛冶炉の炉壁溶融物に想定される。

残る１点は，椀形鍛冶滓でヴスタイト＋ウルボスピネル晶出，二酸化チタン（TiO_2）9.87％の精錬鍛冶滓であり，表層には３層分離型（内層のヴスタイトは非晶出）の鍛冶剝片を付着する。ここでも精錬鍛冶→鍛錬鍛冶の工程が想定された。

６．まとめ

木工台遺跡出土品の10点の調査結果を基に，９世紀代の鉄生産の様相を推定すると次のようになる。

製鉄原料砂鉄は二酸化チタン（TiO_2）が10％前後の塩基性砂鉄が木炭でもって還元されると，No.3485 KBD SK-168 Bトレ試料炉底塊レベルの脈石成分の多い製錬滓が排出される。その時の製鉄炉は，No.3485 KBD SK-168 Bトレ試料炉底塊の形状からみて箱形製鉄炉であろう。ここで生成された鉄塊は，No.3485 KBD SK-168 Bトレ試料に鉄滓中にみられる極低炭素鋼からNo.1603 KBD SI-26 E-6試料椀形鍛冶滓中に遺存した銑鉄までがある。これらは炭素含有量が異なり，表皮スラグや捲込みスラグをもつ鉄塊が鍛冶炉に装入されて木炭でもって酸化精錬を受ける。純度の上がった鉄塊は，鉄床石の上で鍛打を受けて粒状滓や鍛造剝片を派生させ，延板状や鉄製品へと仕上げられる。以上の作業中に排出される鉄滓は，砂鉄のもつ脈石成分は除々に低下していく。表３には脈石成分の変動を作業順に想定して並べてみた。

表３　製錬滓から精練鍛冶滓への成分変動

種　別	試　料　名	鉱物組成	化学組成					作業進行
			Total Fe	CaO+Mgo	TiO_2	V	Mno	
製練滓	No.3485 KBD SK-168 Bトレ	砂鉄残骸 U(大量)＋W(少量)	40.62	8.93	24.02	0.31	0.79	↓ ↓
精練鍛冶滓	KBD SI-59 No.34	鍛造剝片付着 W（粒内析出物）＋U	55.78	2.26	9.87	0.23	0.28	↓ ↓
精練鍛冶滓	KBD SX-1 C8	粒状滓・鍛造剝片付着 W（粒内析出物）＋U	49.38	3.55	8.79	0.16	0.33	↓ ↓
精練鍛冶滓	No.3490 KBD SK-168 Eトレ	鍛造剝片付着 W＋U	53.86	2.33	8.64	0.21	0.26	↓ ↓
精練鍛冶滓	KBD SX-1 下7	W（粒内析出物）＋U	58.38	2.10	6.18	0.12	0.22	↓
精練鍛冶滓	KBD SI-1 No.163	W（粒内析出物）＋U	18.04	3.33	5.94	0.10	0.23	↓
精練鍛冶滓	No.1592 KBD SI-26 C-5	W（粒内析出物）＋U	48.12	2.67	5.69	0.17	0.18	↓
精練鍛冶滓	No.1603 KBD SI-26 E-6	W（粒内析出物）＋U	51.03	2.51	4.34	0.09	0.17	↓
精練鍛冶滓	No.3493 KBD SK-168 Hトレ	鍛造剝片付着 W（粒内析出物）＋U	50.61	2.37	4.22	0.11	0.17	↓ ↓
炉壁	BKD SI-59 No.12	ガラス＋M	18.58	2.64	1.93	0.05	0.13	

U:Ulvospinel（$2FeO \cdot TiO_2$）W:Wustite(FeO) M:Magnetite(Fe_3O_4)

(注)

① 熊本県教育委員会「頭地・松本Ｂ遺跡」（報告書準備中）．球磨郡五木村甲字松本．中・近世の建物跡・墓地から銑鉄含みの椀形鍛冶滓と鍛冶原料鉄となる白鋳鉄の鉄塊系遺物が出土．

② 日刊工業新聞社（1968）「焼結鉱組成写真および識別法」．当刊行物にはヴスタイトの硬度値は450～600Hv，マグネタイトで500～600Hv，ファイヤライトが600～700Hvとある。鉄(Fe)とチタン(Ti)化合物のウルボスピネルは，マグネタイトより硬度で600～700Hv程度の結晶はウルボスピネルと同定している。

③ 大澤正己（1992）房総風土記の丘実験試料と発掘試料．「千葉県立房総風土記の丘年報15」～シンポジウム　古代製鉄研究の現状〈記録集〉．

④ 大澤正己（1991）奈良尾遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査．福岡県教育委員会「奈良尾遺跡」（今宿バイパス関連埋蔵文化財調査報告書第13集）

⑤ 森岡ら（1972）「鉄鋼腐食科学」『鉄鋼工学講座』11．朝倉書店．